トラクタ

取扱説明書

GV 800H・900H 1000H・1050H



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作および保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

- 注意マーク
- エンジン異常警告
- 火気厳禁
- ディーゼル軽油
- 燃料残量
- 燃料計
- アワーメータ（積算時間計）
- エンジン予熱
- バッテリチャージランプ
- エンジンオイル圧力
- 水温計
- ホーン
- 方向指示器表示
- ハザード
- 作業灯
- ヘッドライト上向き照射
- ヘッドライト下向き照射
- ライトスイッチ
- 駐車ブレーキ
- 高速又は高
- 低速又は低
- ウォータセパレータ
- エアクリーナエレメント
- エンジン回転
- エンジン回転上限設定
- 4WD
- オート4WD
- 旋回2WD
- 倍速ターン
- ADブレーキ
- 後輪デフロック
- 前輪デフロック
- ブレーキ連結ロック（解除）
- 固定（ロック）
- ワンタッチ作業モード設定
- パワーアシスト
- シフトアップ
- シフトダウン
- 3点リンク（上げ）
- 3点リンク（下げ）
- クイックアップ
- 耕深制御
- Sモード
- ドラフト
- レーザ
- スリップ制御
- 傾き自動
- 旋回アップ
- バックアップ
- 油圧補助コンシリンダ（縮み）
- 油圧補助コンシリンダ（伸び）
- PTO（切）
- PTO（入）
- ワイパ
- 間欠ワイパ
- ウインドウオッシャ
- デフォッガ
- 再生状態
- 再生禁止
- 駐車再生
- 駐車再生要求
- エンジン回転上げ要求
- システム異常警告
- e-アシスト旋回
- 尿素水（AdBlue）残量 / 品質警告
- 尿素水（AdBlue）残量警告
- 尿素水（AdBlue）品質不良警告
- SCRシステム警告
- 尿素水（AdBlue）解凍
- エンジン回転メモリA
- エンジン回転メモリB
- エンジン回転メモリ設定
- クルーズ車速A
- クルーズ車速B
- 上昇PTO停止モード
- ブレーキ
- クラッチ

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

キーナンバー

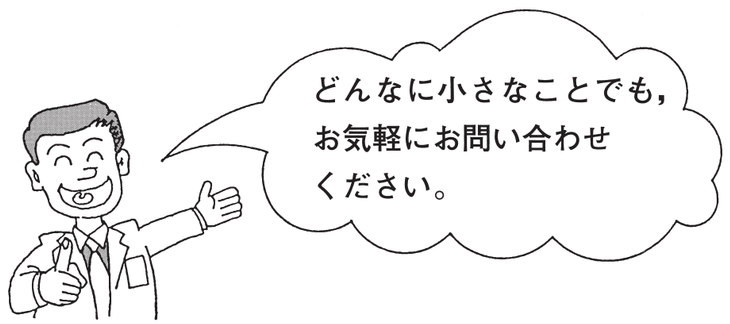
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）

GV800H/900H/1000H/1050H
AY. G. 2-2. 0. K

はじめに

このたびは三菱マヒンドラ農機製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され、お買上げの製品が優れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになった後必ず大切に保存し、分からないことがあったときには取出してお読みください。なお、製品の仕様変更などにより、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、⚠表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

⚠ **危険**	注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要：	注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足：	その他、使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確めのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、説明は GV1000H を基本とし、GV1000H と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- エンジン出力（PS）によって……GV800H 仕様、GV900H 仕様、GV1000H 仕様、GV1050H 仕様
- 逆転 PTO 付き……標準仕様
- グランド PTO 付き……G 仕様
- 低回転 PTO 付き……D 仕様
- クローラ……ハーフクローラ

本書の見方

この取扱説明書には必要な情報が容易に検索できるよう、一般目次以外に下記３つの目次を掲載しています。
目的に応じ使い分けの上、必要な情報の検索にご活用ください。

１．目的目次　困った事、知りたい事などから関連する項目の説明ページが検索できます。
困ったときの参照頁一覧（目的別、場面別）（11 ページ）を参照。

２．絵目次　レバーやスイッチの名称が分からなくても、イラストから確認したいレバーやスイッチの説明ページが検索できます。
トラクタ装置の名称（37 ページ）を参照。

３．索引（巻末）　調べたい名称から掲載ページが検索できます。
例えば[エンジンオイルの交換のしかた]のページを調べたい場合、「あ行」の［エンジンオイルの交換］で説明ページが検索できます。

その他について

商標について

商　標	商標権者について
AdBlue®	AdBlue はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。

本書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。本文中では、それらの名称には必ずしも商標表示（™、®）を付記していません。

目次

困ったときには 11
困ったときの参照頁一覧（目的別、場面別） 11
安全に作業をするために 13
サービスと保証 31
ご相談窓口 31
補修用部品の供給年限について 32
農機型式名一覧表 33
小型特殊自動車としての取扱い 34
小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け 34
低速車（SMV）マーク 34
運転免許 34
損害賠償保険について 34
公道走行時の注意 34
輪距 35
装置の名称と取扱い 37
トラクタ装置の名称 37
1. トラクタの外観 37
2. メータパネル部 40
3. ハンドル部 41
4. 運転席部 42
5. 油圧操作パネル 44
6. 安全キャブ部 45
排ガス後処理装置 46
1. ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ(DPF)マフラ 46
2. DPF マフラの取扱いポイント 46
3. DPF マフラの再生方式 47
3.1 自動再生モードの操作手順 48
3.2 自動再生モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置 49
3.3 再生禁止モードの操作手順 50
3.4 再生禁止モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置 51
3.5 駐車再生の操作 52
4. DPF の再生に関する豆知識 52
5. 尿素 SCR システム 53
5.1 尿素 SCR システムの概要 53
5.2 尿素水(AdBlue)について 54
5.3 尿素水(AdBlue)の取扱い 54
5.4 尿素水(AdBlue)の品質について 54
5.5 SCR の警告表示 54
5.5.1 尿素水(AdBlue)残量低下時の警告表示 54
5.5.2 SCR 警告情報 55
5.6 故障診断コード（DTC：Diagnostic Trouble Code） 55
5.7 SCR の警告情報一覧と対応 56
5.8 尿素水(AdBlue)の補給 58
5.9 尿素水(AdBlue)の排出 58
5.10 購入した尿素水(AdBlue)の保管 58
5.11 尿素水タンク内での尿素水(AdBlue)の保管 59
5.12 尿素水(AdBlue)の廃棄 59
5.13 エンジン停止後の取扱注意点 59
5.14 寒冷地での使用時の注意点 59
5.15 尿素 SCR システムの関連部品のメンテナンス 60
トラクタ装置各部の取扱い 60

1. 運転席周りの調節 60
1.1 シート 60
1.2 安全キャブとシートベルト 61
1.3 インストラクタシート（オプション） 61
1.3.1 インストラクタシート使用時の注意と手順 61
1.4 チルトステアリングハンドル 63
1.5 バックミラー 63
1.6 テレスコミラー（オプション） 63
1.7 ワイドサイドミラー（オプション） 64
2. 灯火類の操作 64
2.1 ヘッドライトスイッチ 64
2.2 ウインカスイッチ 64
2.3 ハザードスイッチ 64
2.4 ホーンボタン 65
2.5 バックランプ 65
2.6 ブレーキランプ 65
2.7 車幅灯・尾灯 65
3. キースイッチ 65
4. ブレーキペダル 65
4.1 ブレーキ連結ロック解除警告灯 66
5. クラッチペダル 66
6. アクセルレバー 67
7. アクセルペダル 67
8. トランスミッションシフトレバー 67
8.1 主変速レバー・副変速レバー 67
8.1.1 アクセル連動 68
8.2 シャトルレバー 69
9. 走行モード切替スイッチ 69
9.1 走行モードスイッチ 70
9.1.1 4 輪駆動の使い方 70
9.1.2 倍速ターンの使い方 70
9.2 AD スイッチ 71
9.2.1 AD の使い方 71
9.2.2 AD の強弱設定 71
9.3 旋回 2WD 72
9.3.1 旋回 2WD の使い方 72
9.4 旋回角度の調整 72
10. オート 4WD スイッチ 72
11. デフロック 73
11.1 後輪デフロックペダル 73
11.2 前輪デフロックスイッチ 73
12. 電子メータ 75
12.1 電子メータ 75
12.1.1 液晶画面の通常画面とアームレスト操作部 76
12.1.2 メニュー画面と設定画面 76
12.1.2.1 メニュー画面の操作 76
12.1.2.2 ミッション関連の設定項目の表示条件 78
12.1.2.3 ミッション関連の設定項目の設定可能範囲 78
12.1.2.4 エンジン関連の設定項目の設定可能範囲 78
12.1.2.5 旋回関連の設定項目の表示条件 79
12.1.2.6 旋回関連の設定項目の選択可能範囲 79
12.1.2.7 3P 関連の設定項目の表示条件 79
12.1.2.8 3P 関連の設定項目の選択可能範囲 79
12.1.2.9 PTO 関連の設定項目の表示条件 79
12.1.2.10 PTO 関連の設定項目の選択可能範囲 79
12.1.2.11 傾き自動関連の設定項目の表示条件 80
12.1.2.12 傾き自動関連の設定項目の設定可能範囲 80
12.1.3 各種設定選択画面 80

12.1.3.1 ユーザー設定画面の操作 80
12.1.3.2 時計設定 82
12.1.3.3 時計 ON / OFF 設定 83
12.1.3.4 タイヤ周長設定 84
12.1.3.5 作業機幅設定 85
12.1.3.6 単位設定 86
12.1.3.7 メンテナンス設定 87
12.1.3.8 盗難防止設定 88
12.1.4 パフォーマンスモニタ 88
12.1.4.1 パフォーマンス項目の選択 89
12.1.4.2 パフォーマンス項目の一覧 91
12.1.4.3 パフォーマンス項目のデータリセット 93
12.1.4.4 パフォーマンス項目「距離測定機能」の操作 93
12.1.4.5 表示項目の重複抑止 93
12.1.5 アワメータ/トリップ/時計表示 93
12.1.6 エンジン回転上限設定・エンジン回転メモリ設定の一時解除 94
12.1.7 故障・メンテナンス情報表示の一時解除 94
12.1.7.1 故障メッセージの一時解除 95
12.1.7.2 メンテナンス表示メッセージの一時解除 95
12.1.8 燃費計の上手な使い方 95
12.2 車速係数の入力について 95
12.3 イージーチェッカ 96
12.4 燃料計 97
12.5 尿素水(AdBlue)ゲージ 97
12.6 エンジン回転計 97
12.7 水温計 97
12.8 モニタランプ 99
13. エンジン始動セキュリティ機能 100
13.1 暗証番号の入力方法 100
13.2 エンジン始動セキュリティの設定 102
13.3 エンジン始動セキュリティの入/切設定（ON / OFF） 103
13.4 エンジン始動セキュリティの暗証番号設定 103
14. 電子エンジン制御 104
14.1 エンジン回転上限設定 104
14.2 エンジン回転メモリ設定 104
14.3 パワーアシスト制御 105
14.4 e-アシスト旋回 106
14.4.1 e-アシスト旋回の回転数設定 106
14.4.2 e-アシスト旋回の応答時間設定 107
14.4.3 e-アシスト旋回のクルーズ車速設定 107
15. 作業機昇降装置 109
15.1 作業機昇降装置の各部の名称 109
15.2 3P 制御モード 111
15.3 ドラフトストッパピン 111
15.4 ポジションレバー 111
15.5 下限規制 112
15.6 高さ規制調整ダイヤル 112
15.7 作業機落下速度調整ダイヤル 113
15.8 耕深調節ダイヤル 113
15.9 感度調整ダイヤル 114
15.10 クイックアップレバー（スイッチ） 114
15.11 旋回アップの使い方 115
15.12 バックアップの使い方 116
15.13 3P 動作切替スイッチ 116
15.13.1 3 点リンクキープモード 117
15.13.2 3 点リンクリターンモード 117
15.13.3 ポジションモード 117
15.13.4 作業機の各作業モード 117

15.14 油圧ロックレバー 117
15.15 ワンタッチ作業モード設定スイッチ 118
15.15.1 ワンタッチ作業モードの任意変更 118
15.15.2 ワンタッチ作業モードの設定変更方法 118
16. 傾き自動 119
16.1 傾き自動の各部の名称 119
16.2 傾き自動モード切替 120
16.2.1 傾き自動モード［水平］ 120
16.2.2 傾き自動モード［傾斜］ 121
16.2.2.1 傾斜地傾き自動の微調整設定 122
16.2.3 傾き自動モード［位置］（手動） 123
16.3 傾き自動角度調節ダイヤル 123
16.4 傾き手動スイッチ 123
16.5 傾き自動の安全ロック機能 124
16.5.1 傾き自動安全ロックの解除方法 124
16.6 平行復帰制御 124
17. 外部油圧取出し 124
17.1 油圧補助コントロールレバー 124
17.2 補助コントロールバルブ単複切換えつまみ 125
18. 外部電源取出端子 125
18.1 電源取出し 125
18.2 トレーラ用カプラ（オプション） 126
運転のしかた 127
運転前の点検 127
トラクタへの乗降 127
エンジンの始動と停止 127
1. 始動のしかた 127
1.1 尿素水(AdBlue)凍結警告 131
2. 停止のしかた 132
トラクタの発進と走行 132
1. 最高車速設定 134
1.1 最高車速の設定方法 134
2. クルーズ車速設定 134
2.1 クルーズ車速の設定方法（設定車速の変更） 135
2.2 クルーズ車速の設定方法（現在車速の記憶） 135
2.3 車速／PTO 設定 136
2.4 パワー/エコ設定 136
3. 負荷変速設定 136
3.1 負荷変速の ON/OFF 設定 136
3.2 負荷変速感度の設定 137
トラクタの停止と駐車 137
寒冷時の暖機運転 138
トランスミッション低温規制 139
バッテリあがりの処置 139
ならし運転（最初の約 50 時間） 140
運転中の作動確認 140
状況に応じた操作 140
1. 片側の車輪がスリップするとき 140
2. 旋回のしかた 140
3. 坂道での運転 141
4. ほ場への出入り時の注意 141
5. 道路走行中の注意 141
6. トラックへの積み・降ろし 142
7. パワーステアリングの取扱い 142
8. ハーフクローラ仕様の運転のしかた 143
9. ロータ作業を安全に行うための注意事項 143

作業のしかた 145
3 点リンクの安全ロック機能 145
作業モードの切替 145
クイックアップ・傾き自動・3 点リンク制御の表示 146
3 点リンク 147
1. 3 点リンクの各部の名称 147
2. 作業機の取付け 148
2.1 作業機取付け前の準備 149
2.1.1 耕深ワイヤ 149
2.1.1.1 耕深ワイヤの取付け方 149
2.1.1.2 耕深ワイヤの格納方法 149
2.1.2 ロアーリンク取付け穴の選択 149
2.2 作業機の着脱 149
2.2.1 3 点リンク外部操作スイッチ 150
2.2.2 傾き手動外部操作スイッチ 150
2.2.3 トップリンクの取付け 150
2.2.4 ボールジョイントの組付け 151
2.2.5 ロアーリンク幅の調整 151
2.2.6 リフトロッド（右）の調整 151
2.2.7 チェックチェーンの調整 152
2.2.8 作業機を取付けないときの注意 152
けん引ヒッチ（ドローバ） 152
すき込み開始高さの調整 152
1. すき込み開始高さの設定変更 153
PTO 153
1. PTO の種類と PTO スイッチの操作 153
1.1 PTO スイッチ 153
1.2 独立 PTO 154
1.3 クラッチペダル連動 PTO 154
1.4 上昇 PTO 停止モード 154
2. PTO 変速レバー 155
3. PTO 軸カバー、PTO 軸キャップ 156
タイヤ 156
1. タイヤの空気圧 156
輪距の調整 157
1. 前輪輪距一覧表 159
1.1 前輪輪距一覧表［ホイール仕様］ 159
1.2 前輪輪距一覧表［前輪 RC タイヤ仕様］ 160
1.3 前輪輪距一覧表［ハーフクローラ仕様の前輪タイヤ］ 166
2. 後輪輪距一覧表 167
2.1 後輪輪距一覧表［ホイール仕様］ 167
2.2 後輪輪距一覧表［後輪 270/95R38 タイヤ仕様］ 171
2.3 後輪輪距一覧表［後輪 RC タイヤ仕様］ 173
2.4 後輪輪距一覧表［クローラ輪距］ 177
前輪切れ角の調整 177
1. ストッパ交換要領 177
2. ストッパボルトの調整 178
ウエイト（オプション） 181
1. 前部ウエイト（オプション） 181
2. 後輪ウエイト（オプション） 181
安全キャブ装備品の取扱い 182
ドア・窓の開閉とロック 182
1. ドア 182
2. リヤウインド 182
3. クォータウインド 183
フットライト 183
ルームランプ 183

夜間照明 183
ワイパ 184
1. フロントワイパ・ウォッシャスイッチ 184
2. リヤワイパ・ウォッシャスイッチ 184
3. 寒冷時のワイパの使用 184
作業灯 184
1. 作業灯スイッチ 185
2. 作業灯（前） 185
3. 作業灯（後） 185
その他のアクセサリ 185
1. サンバイザ 185
2. ルーフパネル 186
3. ルームミラー 186
オートエアコン 186
1. 空気の流れ 186
2. コントロールパネル 187
2.1 内外気切換えスイッチ 187
2.2 温度コントロールつまみ 187
2.3 吹出し口切換えスイッチ 187
2.4 ファンスイッチ 188
2.5 エアコンスイッチ 188
2.6 暖房・冷房・除湿暖房の調節 188
2.7 デフロストの手順 188
3. ヒータ使用上の注意 188
オーディオ機器の取扱いについて 188
1. お問合せについて 189
2. オーディオ機器の電源が入らない時の対応 189
3. 本機で利用できない機能について 189
アンテナ 189
作業機の装着 189
1. 作業機用操作ボックスの取付け 189
トラクタの点検・整備のしかた 190
廃棄物の処理について 190
洗車時の注意 190
定期点検箇所一覧表 191
1. 早見表 193
給油（水）一覧表 194
1. トラクタの給油（水） 194
推奨オイル・尿素水・グリース一覧表 195
ボンネットの開閉およびサイドカバーの外し方 196
1. ボンネットの開閉 196
1.1 ボンネットの開け方 196
1.2 ボンネットの閉め方 196
2. サイドカバーの取り外し 196
日常点検 196
1. 前日の異常箇所の点検 197
2. トラクタの周囲の点検 197
3. エンジンオイル量の点検および補給 197
4. ミッションオイル量の点検および補給 197
5. 冷却水量の点検および補給 197
6. セパレータの水の排出 198
7. バキュエータバルブの清掃 198
8. ワイヤハーネス、バッテリ（+）コードの点検・交換 199
9. タイヤの空気圧および摩耗、傷の点検 199
10. ラジエータ用防虫網とエアコンコンデンサ用防虫網およびオイルクーラの清掃 200
10.1 パネルの開閉 200
10.2 パネルの着脱 200

10.3 エアコンコンデンサの引出し 200
10.4 エンジン前周りの清掃 201
11. DPF と SCR の点検 201
12. ブレーキペダルの遊びの点検 201
13. 駐車ブレーキの作動点検 202
14. メータ・ランプ類の作動点検 202
15. 燃料の補給時の注意点 203
16. 尿素水(AdBlue)の点検と補給 203
日常点検［ハーフクローラ仕様］ 204
1. 日常点検箇所一覧［ハーフクローラ仕様］ 205
50 時間ごとの点検・整備 205
1. グリースの注入 205
2. エンジン始動システムの点検 207
3. タイヤ取付けボルトの点検 207
4. クラッチハウジングの水抜き 207
5. パワーステアリングホースの点検・交換 208
6. 燃料ホースの点検・交換 208
100 時間ごとの点検・整備 208
1. バッテリ電解液の点検 208
1.1 バッテリの取付け・取外し時の注意点 209
1.1.1 エンジン停止時の尿素 SCR システムの注意 209
1.2 バッテリの補充電のしかた 209
2. ダブルエアクリーナエレメントの清掃 209
2.1 アウターエレメントの清掃・交換 210
2.2 バキュエータバルブの清掃 210
3. ファンベルトの点検・調整 210
4. ブレーキペダルの点検・調整 211
4.1 ブレーキペダルの調整方法 211
5. クラッチペダルの点検・調整 211
5.1 クラッチペダルの調整方法 212
6. エンジンの始動確認 212
7. エンジンの排気状態の確認 212
8. エキゾーストパイプおよびマフラの状態の確認 212
200 時間ごとの点検・整備 212
1. ラジエータホースの点検・交換 212
2. 吸気ホースの点検・交換 213
3. オイルクーラホースの点検・交換 214
4. 油圧オイルフィルタカートリッジの交換 214
5. トーインおよびタイロッドの点検・タイロッドのトーイン調整 216
5.1 タイロッドのトーイン調整手順 216
6. 燃料タンクの水抜き 216
7. 室内エアフィルタの清掃 216
8. 外気フィルタの清掃 217
9. エアコンコンデンサの清掃 217
10. エアコンベルトの張りの点検・調整 218
400 時間ごとの点検・整備 218
1. エンジンオイルの交換 218
2. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 219
3. 燃料フィルタカートリッジの交換 219
4. セパレータの清掃 219
600 時間ごとの点検・整備 220
1. ミッションオイルの交換 220
2. 前部デフケースのオイル交換 220
3. 前輪ケース左・右のオイル交換 221
4. 前部デフケースの前後遊びの点検・調整 221
800 時間ごとの点検・整備 221
1. エンジンバルブクリアランスの点検 221
1500 時間ごとの点検・整備 221

1. 燃料インジェクタの点検 221
2. 尿素水インジェクタの清掃 221
3. 尿素水ホースの点検 221
4. オイルセパレータエレメントの交換 222
5. PCV バルブの点検 222
6. EGR クーラの点検・清掃 222
3000 時間ごとの点検・整備 222
1. ターボチャージャの点検 222
2. サプライポンプの点検 222
3. インテークエアヒータの点検 222
4. EGR システムの点検・清掃 222
5. DPF マフラの清掃 222
6. 尿素水インジェクタの点検 223
7. 尿素水ポンプエレメントの交換 223
8000 時間ごとの点検・整備 223
1. 尿素水タンクサクションフィルタの交換 223
3 か月ごとの点検・整備 223
1. エアコン機器の簡易点検 223
2. 尿素水(AdBlue)の品質の点検 223
1 年ごとの点検・整備 224
1. ダブルエアクリーナエレメントの交換時期 224
2. エアコン配管、ホースの点検 224
3. キャブマウントゴムの点検 224
4. エキゾーストマニフォールドの点検 224
5. DPF 差圧センサパイプの点検 224
6. EGR パイプの点検 224
2 年ごとの点検・整備 224
1. 冷却水の交換 224
1.1 不凍液 225
2. ラジエータ洗浄剤 225
3. ラジエータホースの交換 226
4. パワーステアリングホースの交換 226
5. 吸気ホースの交換 226
6. 燃料ホースの交換 226
7. 傾き自動シリンダホースの交換 226
8. メインシリンダホースの交換 226
9. デフロックホースの交換 226
10. オイルクーラホースの交換 226
11. PCV バルブホースの交換 226
12. DPF 差圧センサホースの交換 226
13. ブーストセンサホースの交換 226
ハーフクローラ仕様の点検・整備 226
1. ゴムクローラの張り調整 226
2. グリースの注入 227
3. クローラのローラ・アイドラのオイル交換とオイルシール点検 227
4. クローラガイドの点検 227
5. ローラ・アイドラのオイル交換 227
6. スプロケットの交換 228
7. ゴムクローラの交換 228
必要に応じた点検・整備 228
1. 燃料の空気抜きのしかた 228
2. ヒューズの交換 229
3. スローブローヒューズの交換 231
4. ヘッドランプの交換 232
5. ランプ一覧 232
6. ドアヒンジ部とリヤウインドヒンジ部の注油 232
7. ウォッシャ液の補充 233
8. 冷媒（ガス）量の点検・充てん 233

格納 233
1. 長期格納時の手入れ 233
2. 長期格納後の運転 234
不調と処置 235
1. エンジンの不調と処置 235
2. 傾き自動・耕深制御・ドラフト・レーザ・AD・倍速・トランスミッションの故障と処置 236
付表 241
主要諸元 241
1. トラクタの主要諸元 241
2. 走行速度表 247
3. 標準付属品 248
アタッチメント一覧表（純正部品を使いましょう） 249
補助コントロールバルブ一覧表 251
作業ごとの一般的な調整要領 252
索引 254

困ったときには

困ったときの参照頁一覧（目的別、場面別）

目的・場面		項目	参照頁
エンジン始動時に	尿素水（AdBlue）の取扱い方法を知りたい	尿素水（AdBlue）	54
		警告表示と対応	54
		尿素水（AdBlue）の保管と取扱い	58
	寒冷時の始動方法について知りたい	オートグロー	127
	寒冷時暖機運転時間がどの程度必要か	寒冷時の暖機運転	138
	エンジンの回転数が上がらない	エンジン回転上限設定	104
	エンジンの調子が悪い	エンジンの不調と処置	235
道路走行時に	2WD、4WD、倍速、AD を切換えたい	走行モード切替スイッチ	69
	作業機の落下防止を施したい	油圧ロック	117
	トレーラ用電源コンセントを接続したい	トレーラ用カプラ	126
作業時に	旋回時、自動的に作業機を上げたい	旋回アップスイッチ	115
	後進時、自動的に作業機を上げたい	バックアップスイッチ	116
	ほ場作業時の設定を簡単に行ないたい	ワンタッチ作業モード設定スイッチ	118
	エンジンの最高回転数を規制したい	エンジン回転上限設定	104
	作業時のエンジン回転数を記憶させたい	エンジン回転メモリ設定	104
	車速や PTO 回転をできるだけ一定に保ちたい	パワーアシスト制御	105
	ブザーが鳴り走行できない	クラッチペダル	66
		シャトルレバー	69
		副変速レバー	67
	ドラフトコントロールを使いたい	作業機昇降装置	109
	傾き自動の調整要領を知りたい	傾き自動	119
	作業機を装着したい	ロアーリンクの取付け穴の選択	149
	油圧取出しを使いたい	外部油圧取出し	124
	作業機に電源を接続したい	外部電源取出端子	125
	作業機用操作ボックスを取付けたい	作業機用操作ボックスの取付	189
	作業機の上げ高さを規制したい	高さ規制調整ダイヤル	112
	作業機がロックされ下降できない	3 点リンクの安全ロック機能	145
	タイヤがスリップする	デフロックの使い方	73
	電子メータや液晶表示部の見方を知りたい	電子メータパネル	75
	電子メータ内のランプが点灯（点滅）している	ランプ表示一覧	146
	電子メータ内の赤色ランプが点灯（点滅）した	イージーチェッカ	140
	走行速度が知りたい	パフォーマンス項目の選択	89
	PTO 軸回転数が知りたい	パフォーマンス項目の選択	89
	PTO 回転数を変更したい	PTO 変速レバー	155

（次へ続く）

目的・場面		項目	参照頁
メンテナンス時に	ボンネットの開け方を知りたい	ボンネットの開閉	196
	日常点検ですべきことは	日常点検	196
	オイル、冷却水量を知りたい	給油（水）一覧表	194
	適切なオイルの種類を知りたい	推奨オイル・尿素水・グリース一覧表	195
	燃料切れでエンジンが止まった	燃料の空気抜きのしかた	228
	ハーフクローラメンテナンス項目	日常点検［ハーフクローラ仕様］	204
		ハーフクローラ仕様の点検・整備	226

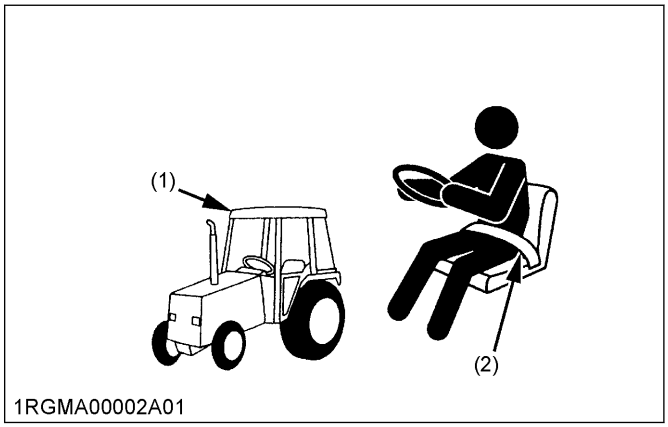
安全に作業をするために

本機をご使用になる前に、必ず本書をよく読み理解したうえで、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で危険・警告・注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

安全キャブについての注意事項

1. 安全キャブの目的

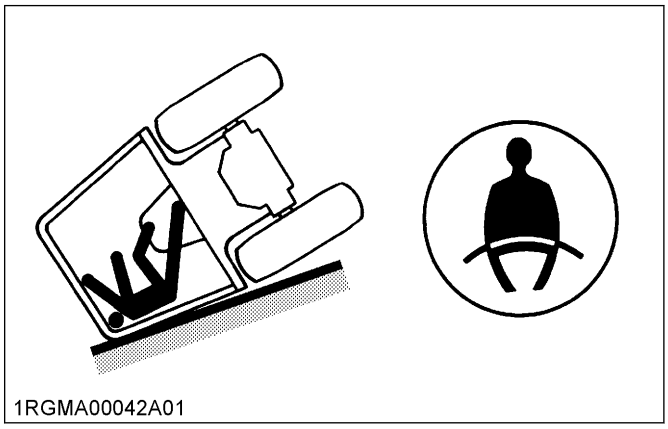
安全キャブは、万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって、転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って、安全運転を心がけてください。



(1) 安全キャブ
(2) シートベルト

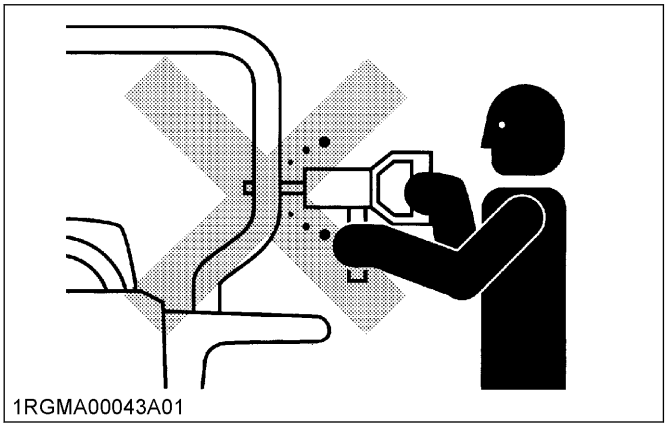
2. シートベルトを併用すること

- 運転時は安全キャブとシートベルトを常に使用するようにしてください。



3. 安全キャブの改造禁止

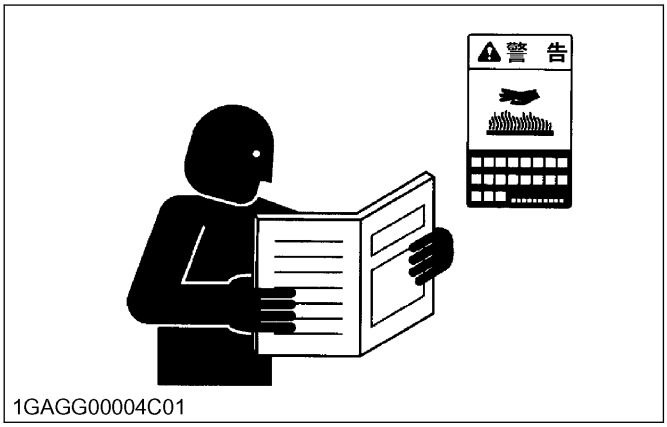
- 安全キャブを改造しないでください。また、強度に影響する破損、曲がりなどが発生した場合、交換してください。



運転前の注意事項

1. 正しい運転方法、運転してはいけない人

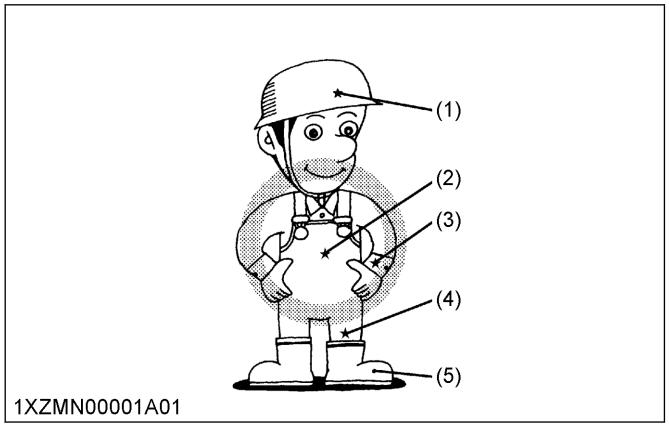
- トラクタを動かす前に、トラクタおよび装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある安全ラベルをよく読み、理解したうえで運転してください。
- トラクタ、作業機を他人に貸すとき、また、運転させるときは、事前に運転のしかたを教え、本書を読ませてください。
- 本書およびラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
- 飲酒時や体調が悪いとき、病気や妊娠しているときは、トラクタを運転しないでください。



2. 作業に適した服装

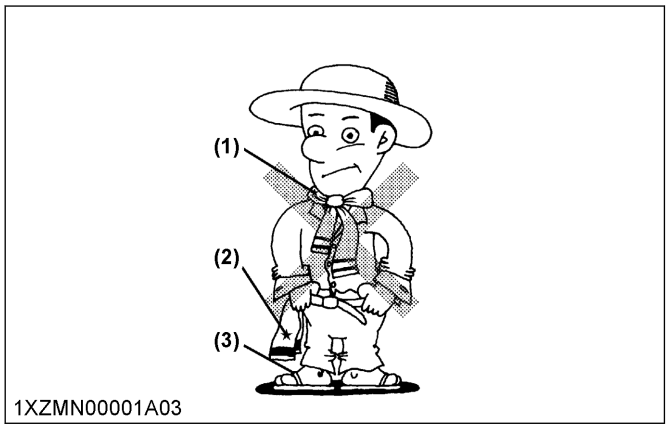
- ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
  回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
  安全のため、ヘルメット、滑りにくい靴を着用し、必要に応じて安全靴、保護めがねや手袋などを使ってください。

作業時の服装［良い例］



(1) ヘルメット
(2) 活動的な服装
(3) 袖口きっちり
(4) スソきっちり
(5) 滑りにくい靴

作業時の服装［悪い例］



(1) 巻きタオル
(2) 腰タオル
(3) サンダル

3. トラクタの改造禁止

- トラクタを改造しないでください。改造すると、トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。

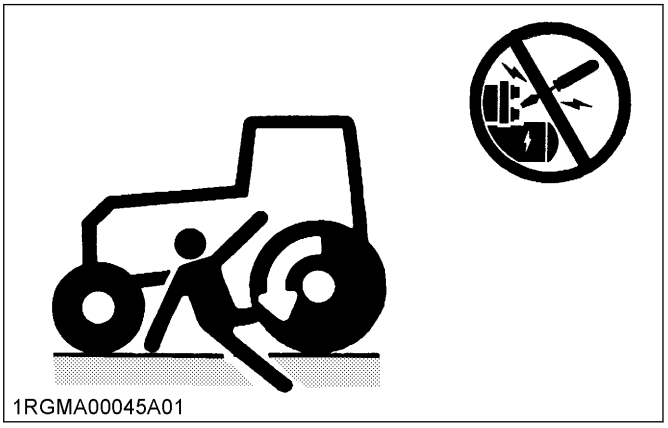
4. 作業前の点検・確認

- 安全カバー類を外した状態でトラクタ、作業機を使用しないでください。
  紛失したり損傷した部品は交換してください。
  ブレーキ、クラッチ、ステアリングや安全装置などの日常点検を行い摩耗や損傷している部品があれば、交換してください。
  また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
  詳細はトラクタの点検・整備のしかた（190 ページ）を参照してください。
- トラクタは常に清掃しておいてください。
  バッテリ、配線、マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

始動時の注意事項

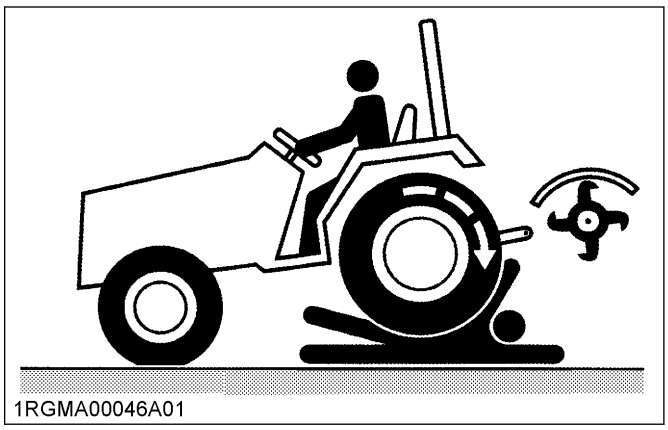
1. レバー、スイッチやブレーキの確認

- エンジンを始動する前に、必ずシートに座り、シャトルレバー・PTO 変速レバーが中立かどうか、PTO スイッチが**[切]**かどうか、また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
- 地上に立ってエンジンを始動したり、スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
  トラクタが突然動き出すおそれがあります。



2. 周囲の安全確認

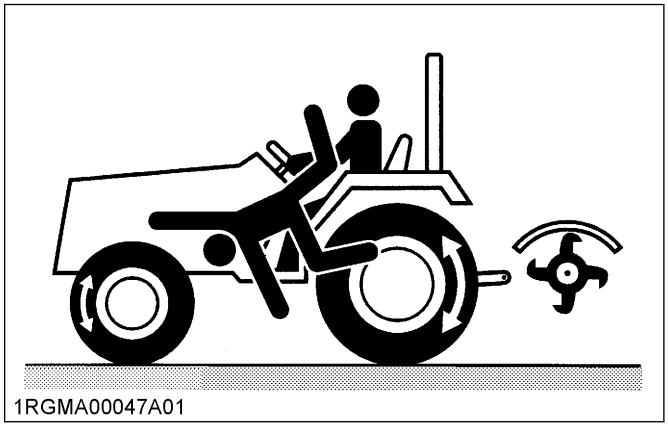
- トラクタを始動、運転するときは前後左右をよく確認し、付近に人（特に子供）を近づけないでください。
  もし変速ギヤが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になるおそれがあります。
  また、安全キャブに当たる障害物が無いかも確認してください。


1RGMA00046A01

運転時の注意事項

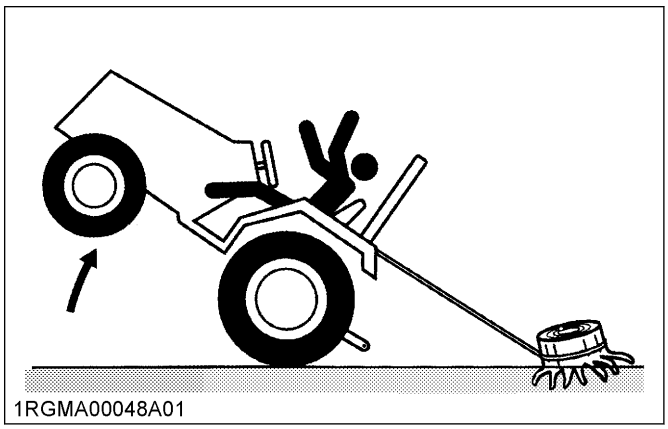
1. 同乗禁止

- 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
  また、必ずシートに座って運転してください。


1RGMA00047A01

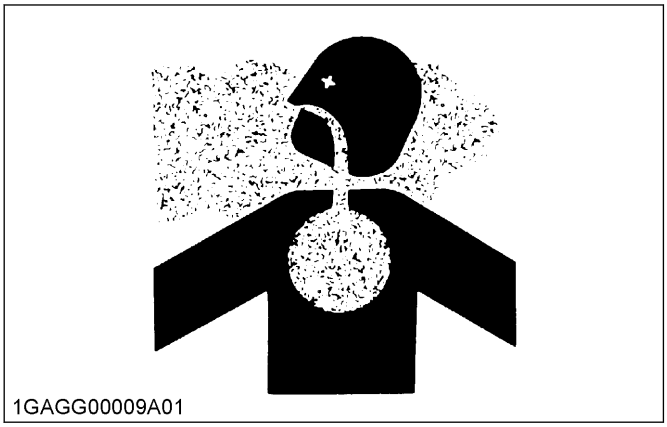
2. けん引作業時の注意

- けん引作業には、けん引ヒッチ（別売）を用い、絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
  トラクタの破損や転覆の原因となります。


1RGMA00048A01

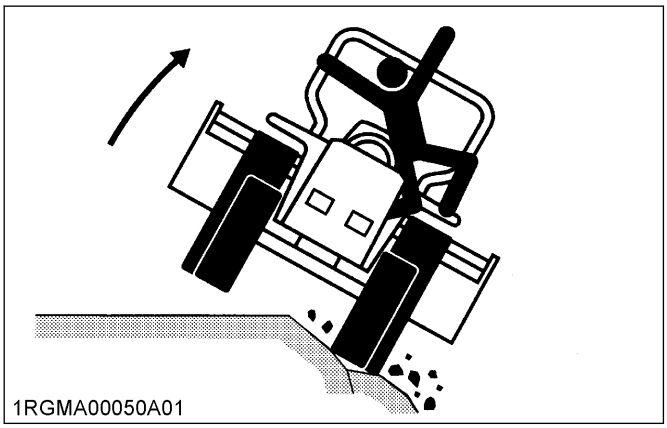
3. 屋内で運転するとき

- 換気が不十分な所では、暖機運転や作業はしないでください。
  排ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。


1GAGG00009A01

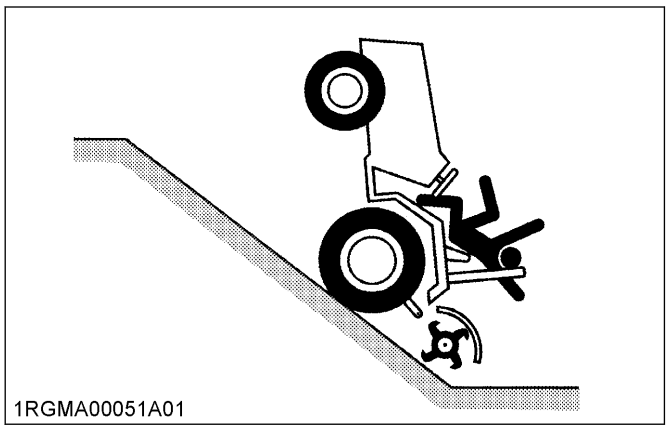
4. 運転に不適切な場所

- 溝や穴の近く、路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
  また、草の繁ったところや水たまりなどには、隠れて見えない窪地がある場合があり、トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。


1RGMA00050A01

5. 後方転覆の危険、共同作業時の注意

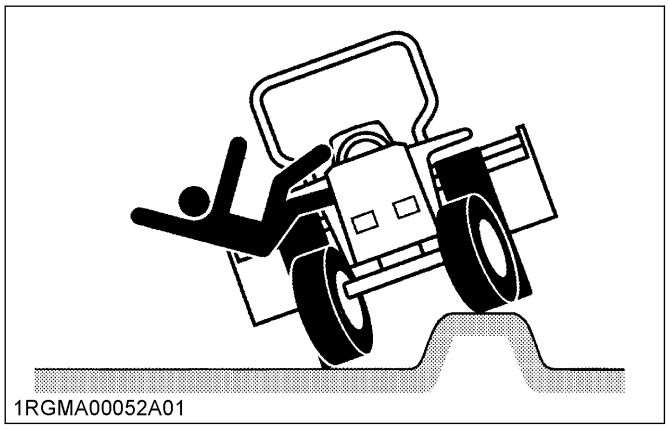
- 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり、急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では、バックで運転してください。



- 共同で作業をするときは、声をかけあって、お互いにしようとしている事を知らせてください。

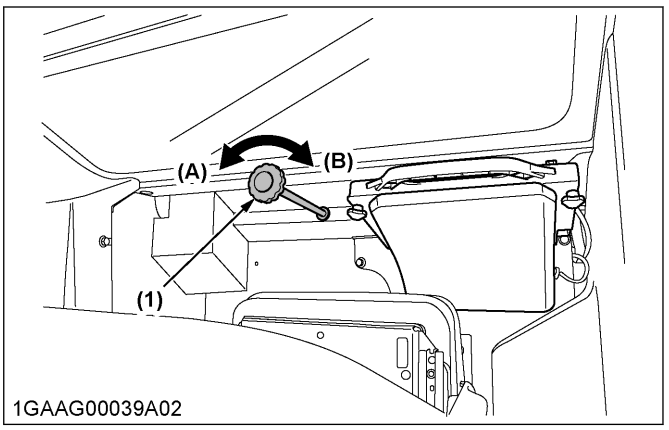
6. ほ場の出入り

- ほ場の出入りなどで、急傾斜の上り降りや溝越えは、低速にして直角に進行してください。その際、必ず連結解除ペダルロックレバーを**ロック**位置にするとともに、デフロックの解除を確認してください。



7. ほ場外での作業機落下防止

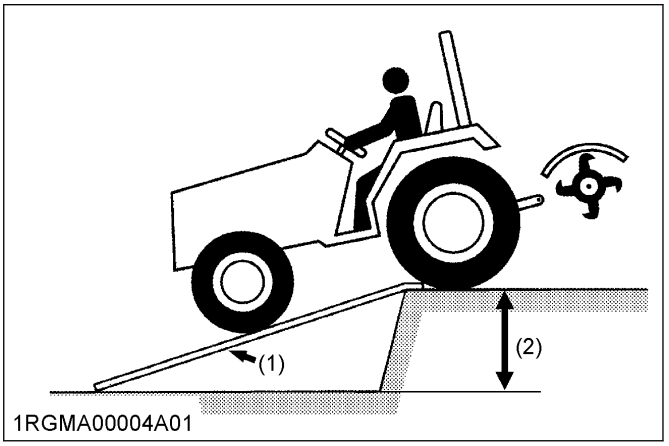
- ほ場外では、油圧ロックレバーで油圧ロック（停止）をして作業機の落下を防止してください。



(1) 油圧ロックレバー
(A) 解除（速）
(B) 油圧ロック（遅・停）

8. あゆみ板の使用、途中変速の危険

- ほ場の出入りなどで、高低差の大きい急傾斜の登り降りや、溝越えが必要な場合、あゆみ板を使用し、確実に固定してから低速で行ってください。
あゆみ板は段差の 4 倍以上の長さのものを使用してください。

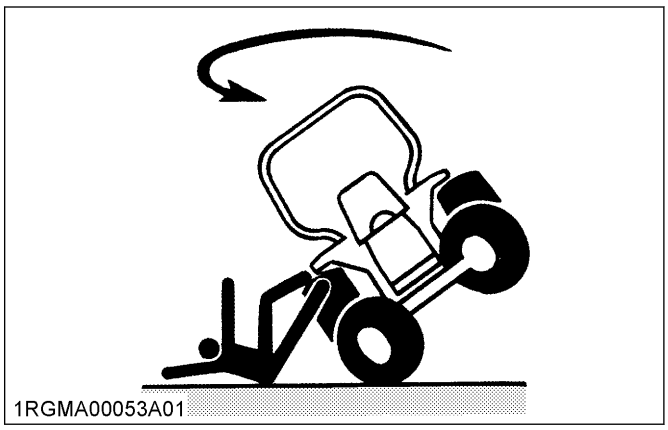


(1) あゆみ板
(2) 段差

- 急な坂道・車両への積込み積降ろし・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので、あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

9. 急旋回禁止

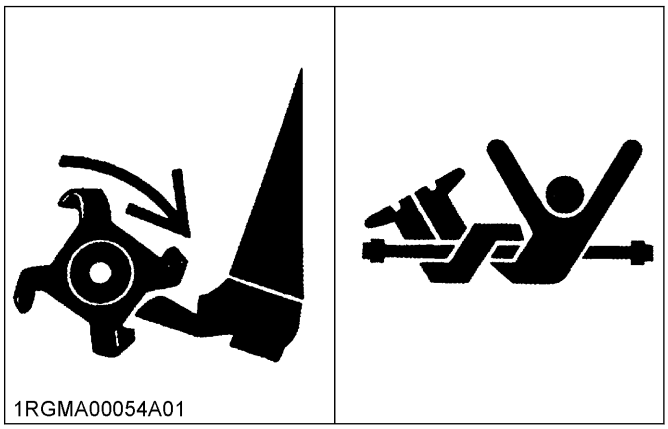
- ほ場以外や高速走行時、倍速ターンおよび AD 倍速ターンを使用すると、旋回時急に回り事故を引き起こすおそれがあります。
必ず走行モード切替スイッチを**[2WD]**に切り換えてください。


1RGMA00053A01

作業機使用時の注意事項

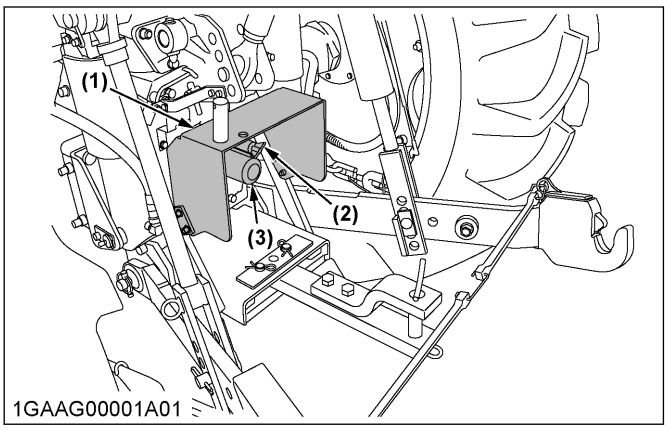
1. 作業機の着脱

- 作業機の着脱は、平たんで安全な場所で行ってください。
- トラクタから降りるときや、ロータリなど PTO 作業機の装着・取外し・調整・掃除または修理をするときは、作業機が完全に止まるまで待ってください。


1RGMA00054A01

2. PTO 軸の保護と回転数

- PTO を使用しないときは、PTO 軸キャップを装着しておいてください。
- PTO 軸カバーは常に取り付けておいてください。
- PTO 作業機は、その作業機で定められた PTO 回転以上で使用しないでください。
  機械の破損や人身事故のおそれがあります。

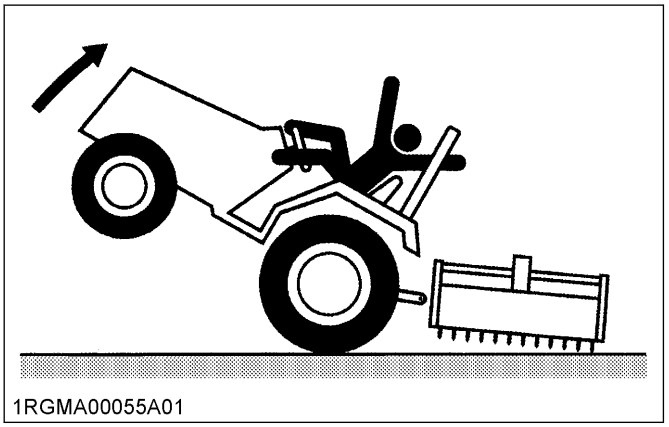


1GAAG00001A01

(1) PTO 軸カバー
(2) 蝶ボルト
(3) PTO 軸キャップ

3. 転倒防止のための重量バランス

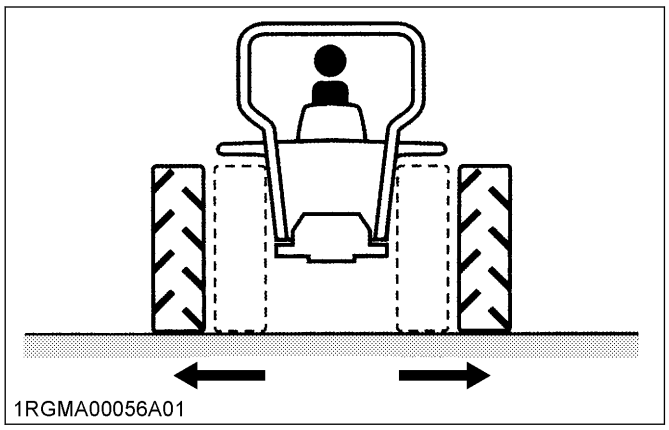
- トラクタ後部用作業機を装着したとき、かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装備し、使用してください。
  前部が軽くなりすぎると、操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。


1RGMA00055A01

- 作業機はトラクタに推奨されている物を使用してください。
  大きすぎたり、小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
  詳細は購入先にご相談ください。

4. 傾斜地作業、フロントローダ作業時の注意

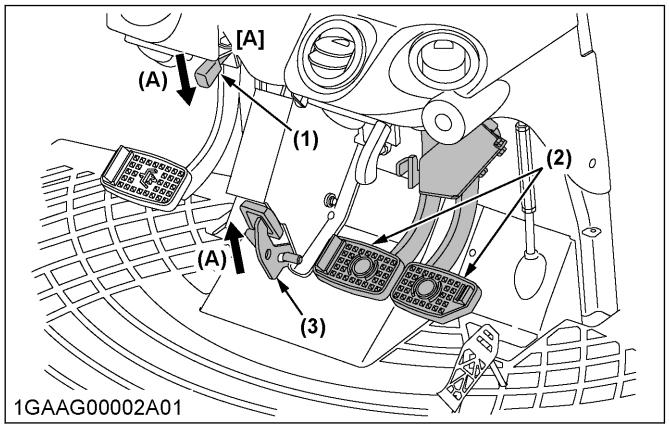
- 傾斜地作業、フロントローダ作業などでは、安定を良くするために、支障の無い範囲で輪距（タイヤ中心間の距離）を大きくしてください。


1RGMA00056A01

道路走行時の注意事項

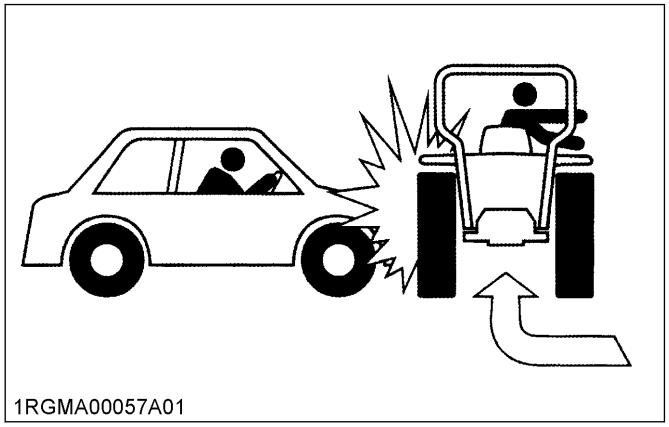
1. ブレーキペダルの使い方

- 道路走行時は、連結解除ペダルロックレバーを**下げ**、連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。
  高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ、転倒や交通事故のおそれがあります。



1GAAG00002A01

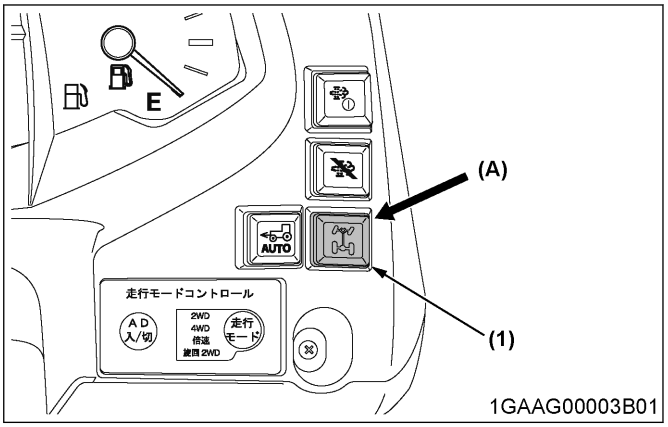
(1) 連結解除ペダルロックレバー
(2) ブレーキペダル
(3) 連結解除ペダル
(A) ロック（格納）
[A] 道路走行時は必ず下げる


1RGMA00057A01

- 信号待ちなどの一時停止時はブレーキペダルを踏んだままにしてください。

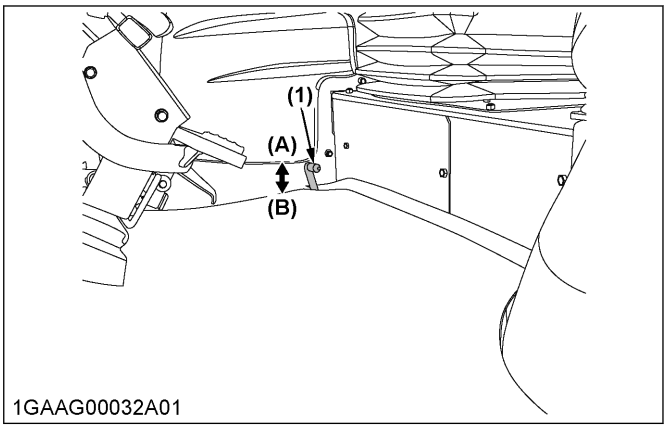
2. デフロックの禁止、旋回速度注意

- 道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
  ハンドル操作ができなくなります。



1GAAG00003B01

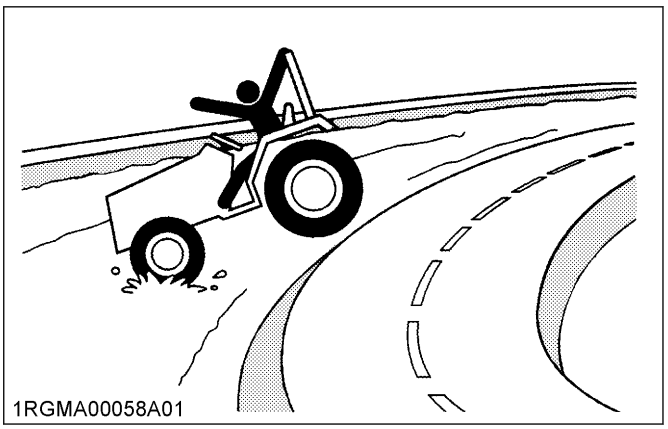
(1) 前輪デフロックスイッチ
(A) 押す：ランプが点灯［ロック］
再度押す：ランプが消灯［解除］



1GAAG00032A01

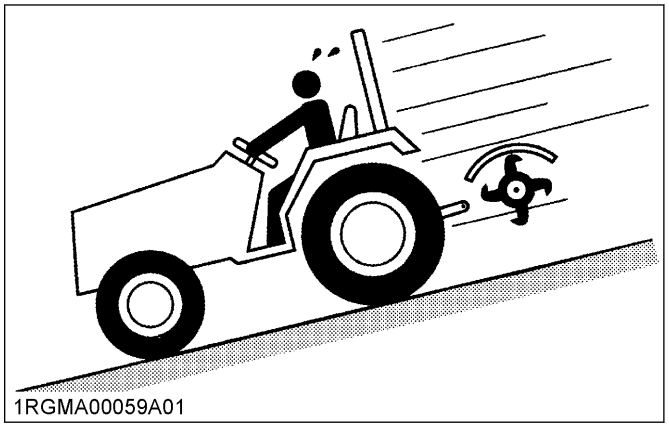
(1) 後輪デフロックペダル
(A) 離す（解除）
(B) 踏む（ロック）

- 旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
  高速で旋回するとトラクタが転倒するおそれがあります。


1RGMA00058A01

3. 坂道走行、交通法規遵守

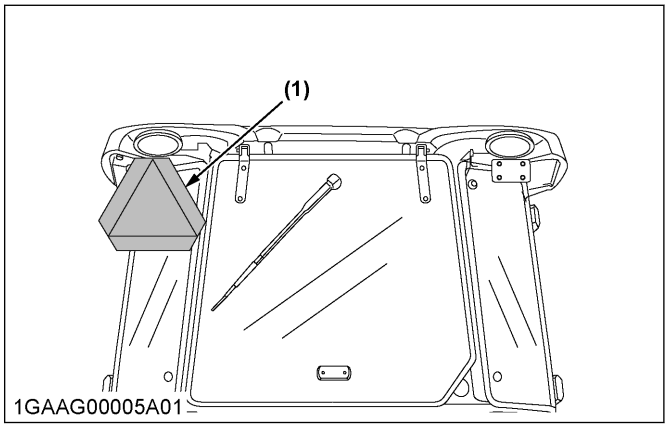
- 坂を降りるとき、クラッチを切ったり、変速を**中立**にして惰性で走行しないでください。
  操縦ができなくなるおそれがあります。


1RGMA00059A01

- インプルメントやアタッチメントを装着した状態では、［道路運送車両法の保安基準］を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと、トラクタとの組み合わせごとに、［保安基準］を満たしていることの確認が必要です。
- 交通や安全規則を守ってください。
  運転免許証（大型特殊自動車）は、必ず携行してください。
- 作業灯は点灯しないでください。

4. 低速車（SMV）マークの表示

- 公道走行時は後続車に低速農耕車が走行している事を知らせる低速車（SMV）マークを取付けてください。
  また、夜間ヘッドライトに低速車（SMV）マークがよく反射するように、マークは常に清掃しておいてください。



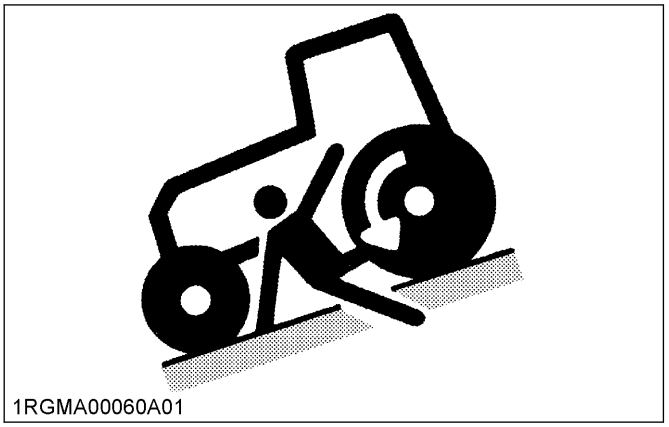
1GAAG00005A01

(1) 低速車（*SMV*）マーク

駐車、格納時の注意事項

1. 駐車場所、レバーの状態、シートのかけかた

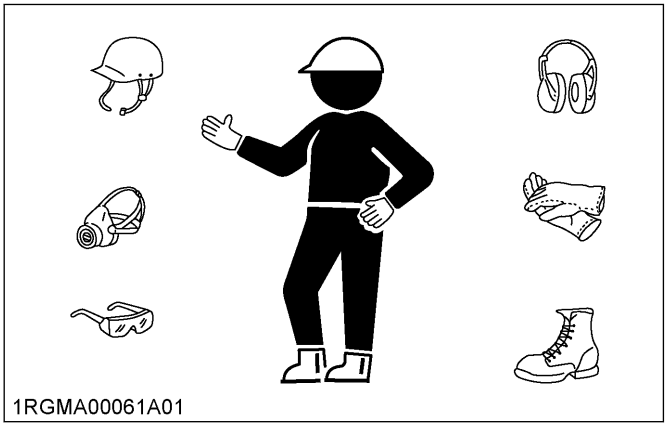
- 駐車するときは、平たんでトラクタが安定する場所を選び、PTO を“切”、作業機を“下げ”、各変速レバーを“中立”、駐車ブレーキを“掛け”、エンジンを“停止”してキーを“抜いて”ください。
  やむをえず坂道で駐車する場合は、タイヤに車止めをしてください。
- 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には、駐車しないでください。
- 格納などでトラクタにシートをかける場合は、マフラやエンジンがじゅうぶん冷えてから行ってください。


1RGMA00060A01

点検・給油・整備時の注意事項

1. 適した服装、安全確認

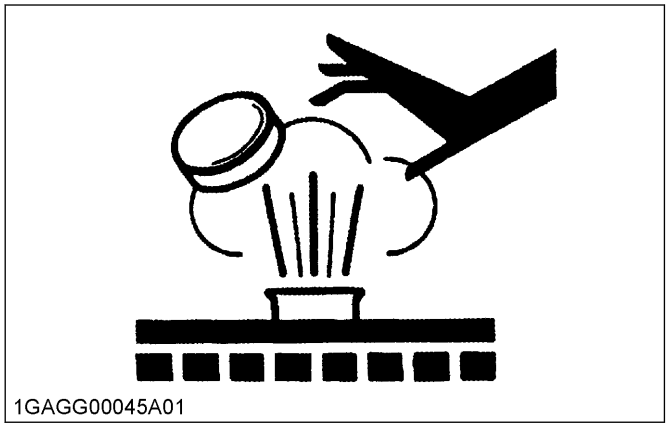
- 点検・整備には帽子と安全な服装を着用してください。
  作業内容によってはヘルメット、安全靴、保護めがね、防塵マスク、防音具、保護手袋などの保護具を着用してください。
  各保護具は使用前に機能を確認してください。


1RGMA00061A01

- エンジンを停止し、キーを抜き安全を確認してから作業を行ってください。

2. エンジン停止時の注意

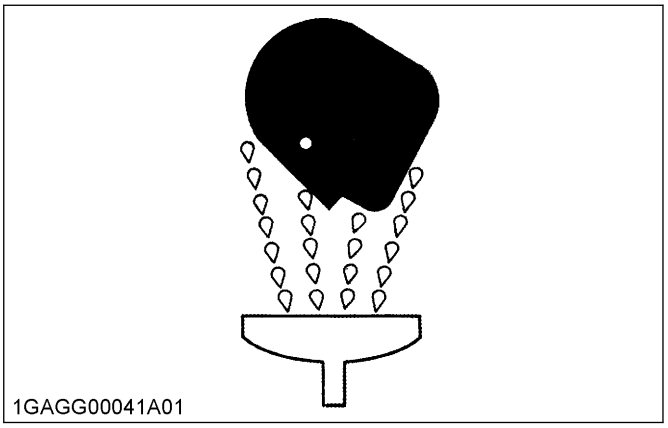
- 平たんな場所に駐車し、作業機を**下げ**、駐車ブレーキを**掛け**、各変速レバーを**中立**にし、そしてエンジンを**停止**してください。
- エンジン・マフラ・ラジエータなどがじゅうぶん冷えてから点検・整備してください。ヤケドのおそれがあります。


1GAGG00045A01

3. バッテリの取扱い

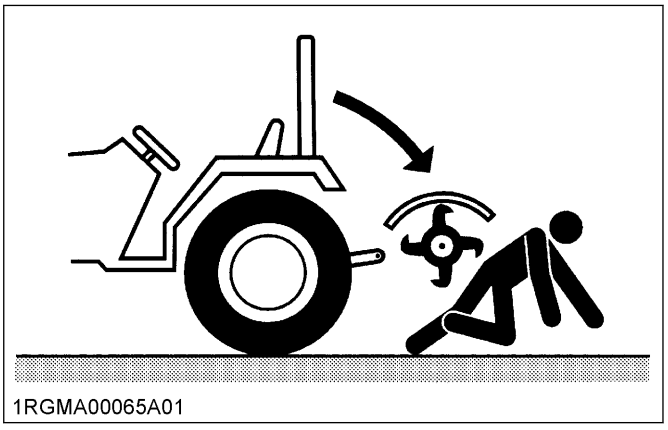
- バッテリを充電しているときは、タバコを吸ったり、火を近づけないでください。
  バッテリは充電中可燃性ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは、取扱方法をよく読みそれに従ってください。
  （詳細はバッテリあがりの処置（139 ページ）を参照）
- バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
  LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。
  すぐに UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。（補水可能なバッテリ）
- バッテリを外すときは、短絡事故を防ぐため、最初にバッテリのマイナスコードを外し、接続するときは最後に接続してください。
- バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し、体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って、速やかに医師の診療を受けてください。


1GAGG00030A01


1GAGG00041A01

4. 3 点リンク作業機の注意

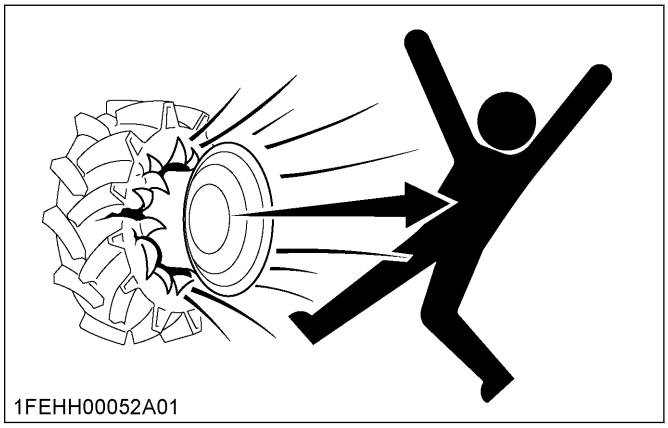
- 3 点リンク作業機を上げた状態で点検・整備を行う場合、必ず油圧ロックレバーで作業機が落下しないようにロック（停止）してください。ロック（停止）するとともに適切なジャッキまたはブロックで歯止めをし、落下防止を行ってください。


1RGMA00065A01

5. タイヤの確認

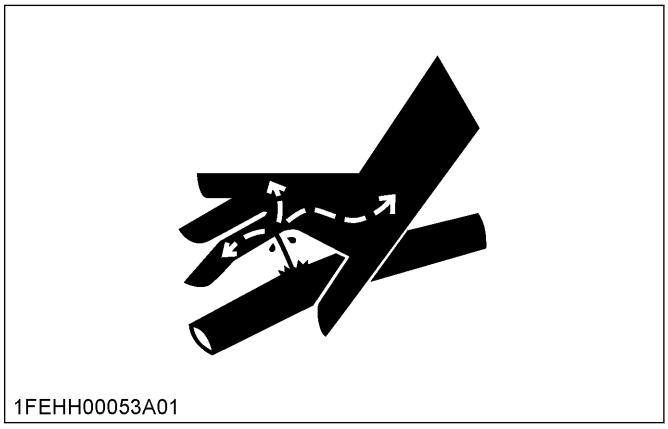
- タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
  （タイヤの空気圧および摩耗、傷の点検（199 ページ）参照）

空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
- タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。
  タイヤ破裂のおそれがあります。
- タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は、必ず購入先にご相談ください。
  （特別教育を受けた人が行うように、法で決められています。）


1FEHH00052A01

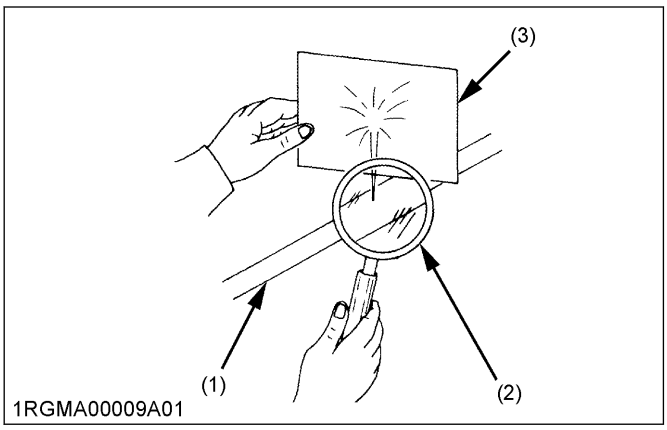
6. 油圧部品を外すときの注意

- 圧力が掛かり噴出した油は、皮膚を貫通するほどの力があり、傷害の原因になります。油圧部品を外すときは、必ず残圧を抜いてください。


1FEHH00053A01

7. 油漏れの点検

- 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは、保護めがねをかけ、ボール紙などを利用してください。万一、油が皮膚を貫通したときは、強度のアレルギーを起こすおそれがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。



(1) 高圧ホース
(2) 虫めがね
(3) ボール紙

8. 後輪を浮かせての始動禁止

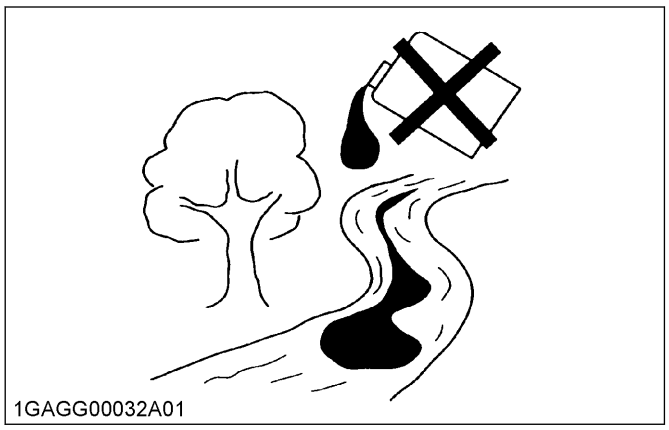
- 点検・整備時に、後輪だけを地面から浮かせた状態にしてエンジンを始動させないでください。ブレーキを踏むと前後輪を連結状態にする機構になっていますので前輪が回転し、トラクタが動き出すおそれがあります。

9. 作業後・高圧洗浄後の注意事項

- 枯草・小枝などがボンネット内に入り込んだり、触媒や排気管に触れて発火するおそれがあります。
  作業後・高圧洗浄後などは、排気管周辺に燃えやすいものがないかじゅうぶん注意してください。

10. 廃棄物の処理

- 廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
  - 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
  - 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
  - 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水(AdBlue)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。


1GAGG00032A01

11. コモンレール仕様の注意事項

- コモンレール仕様エンジンには高電圧や高圧力の燃料が通る部分があります。
  次の注意事項を守らないと、感電事故や高圧燃料のもれによるケガをするおそれがあります。
  - 掃除などでエンジンを制御する電子部品や、そのコネクタ、ハーネスを触る場合は、キースイッチを**[切]**位置にしてください。
  - エンジンの高圧燃料が通る部品は、分解や修理を行わないでください。
    付近のボルト・ナット類もゆるめないでください。
    高圧燃料が通るのは、燃料噴射ポンプからインジェクタの間です。
  - エンジンの不調時は、購入先にご相談ください。

12. ディーゼルパーティキュレートフィルタについての注意事項

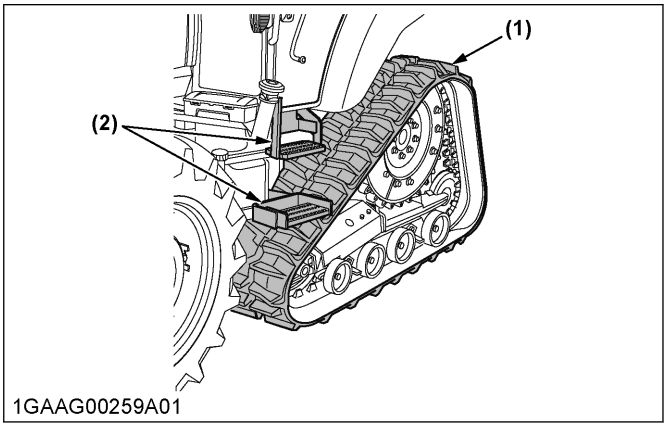
- ディーゼルパーティキュレートフィルタ（以下本文中では DPF と表記します）再生中は排ガスや DPF が高温になります。やけどや周囲のわらくず、異物等の発火、溶解に注意してください。
- 高温の排ガスがあたらないようにトラクタの周囲に人や可燃物を近づけないようにしてください。
- 火災防止のため、DPF マフラと尿素 SCR マフラの周囲は可燃物を取除き常にきれいにしておいてください。
  尿素選択触媒還元（Selective Catalytic Reduction）は、以下本文では尿素 SCR と表記します。
- DPF 再生中は白煙が発生する場合がありますので、換気の悪い場所では再生を行わないでください。
- DPF 再生中はトラクタから離れないでください。

ハーフクローラ仕様についての注意事項

本項の内容はハーフクローラ仕様の場合の特別な注意事項を記載しています。他項の注意事項と合わせてよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。

1. 乗り降り時の注意[ハーフクローラ仕様]

- 乗り降りは補助ステップを使ってください。クローラに足をかけるとすべって転倒するおそれがあります。

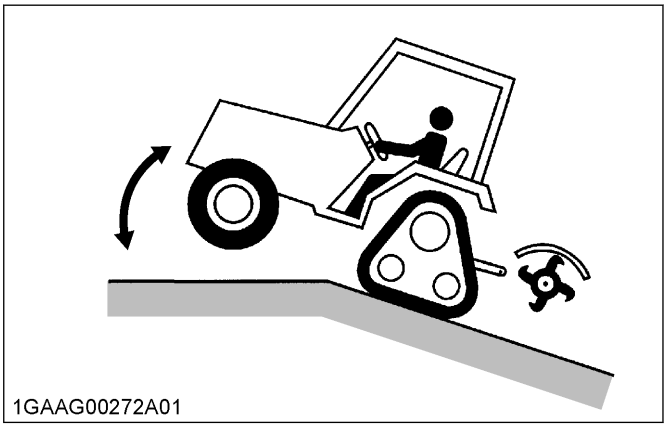


1GAAG00259A01

(1) クローラ
(2) 補助ステップ

2. 運転時の注意［ハーフクローラ仕様］

- 凹凸やカーブの多い所では絶対に高速走行をしないでください。ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。


1GAAG00272A01

- クローラ部が凸部を乗越えるときは、急に姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。

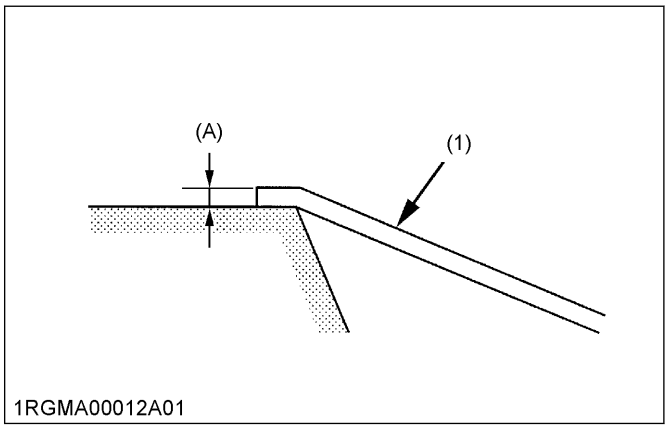
3. あゆみ板使用時の注意[ハーフクローラ仕様]

- あゆみ板は左右の先端をそろえ、前後にずれないように確実に固定してください。
- あゆみ板とあゆみ板をかけた面との段差が大きい場合、運転には特に注意してください。
- 途中で変速すると危険ですので、あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて低速で運転してください。
- あゆみ板は、じゅうぶんな強度・幅・長さ（傾斜が 15 度以下になる長さ：トラックの荷台高さ、あるいはほ場乗入れ部高さの 4 倍以上）のあるすべり止め

および爪付きのものを使用し、ハーフクローラの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

ほ場への出入り

- クローラの片側だけが段差に引っかかり乗りあがらない状態になった場合、いったん車両を元に戻し、あゆみ板をかけ直してはじめからやり直してください。



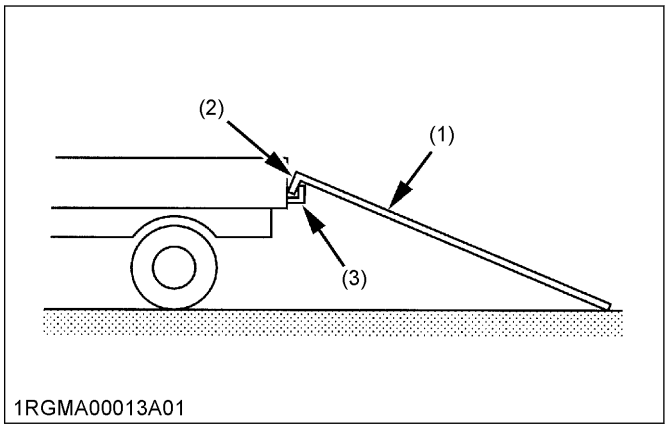
(1) あゆみ板　　*(A)* 段差

作業時

- クローラの構造上、左右に大きな段差のある状態で作業を行うと、クローラが外れる場合があります。プラウ作業などで片側のクローラを溝に落としての作業は行わないでください。

トラックへの積み・降ろし

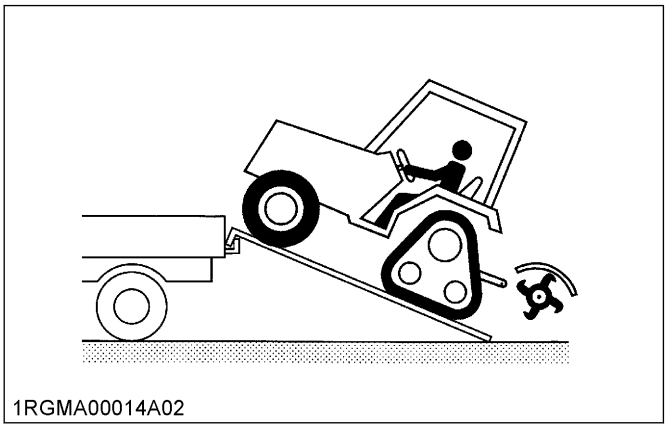
- トラックは荷台後部にあゆみ板の爪をかけるフックが付いた物を使用してください。



(1) あゆみ板
(2) 爪
(3) フック

- トラックへの積み・降ろしは、必ず左右のブレーキペダルを**連結**し、**前進で積み込み、後進で降ろして**ください。前進で降りると、クローラがあゆみ板の段差ですべり、前輪が浮いて車体が旋回し、転倒事故につながるおそれがあります。

ハーフクローラ仕様のみ



安全ラベル

1. 安全ラベルと貼り付け位置

(1) 品番　99870005910



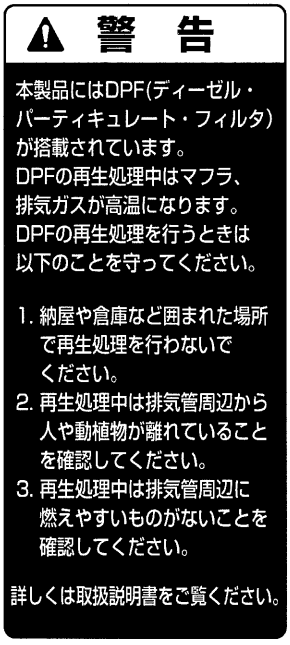
1AGADAUAP014A

(2) 品番　99900006260



1AGAYAAAP095A

(3) 品番　99900007450



1AGADAUAP024A

(4) 品番　99900007440



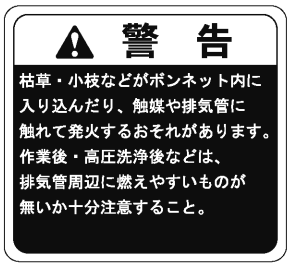
1AGAYAAAP093A

(5) 品番　99900006250

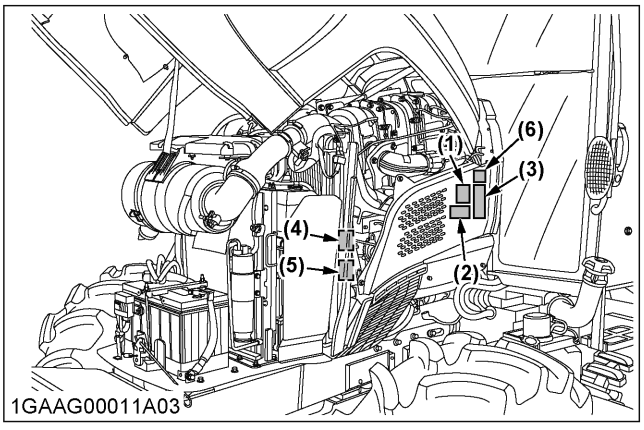


1AGAYAAAP096A

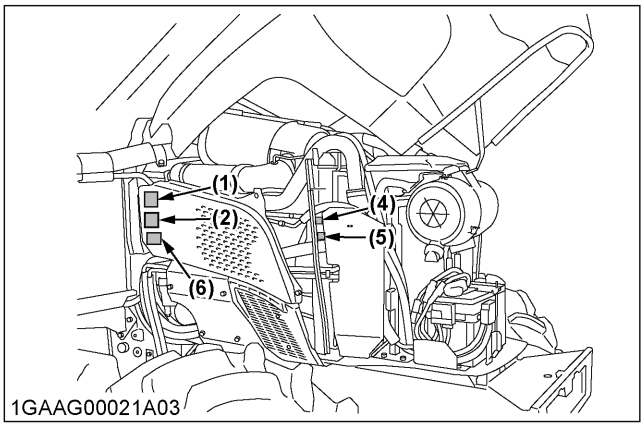
(6) 品番　95270000250



1GAAG00030A01



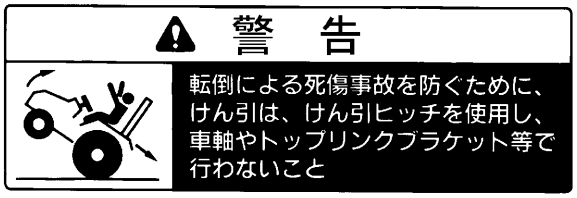
1GAAG00011A03



1GAAG00021A03

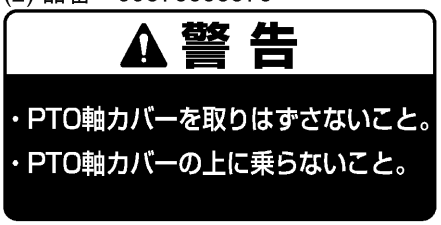
1ZCHH00016A01jaJP

(1) 品番　99660028630



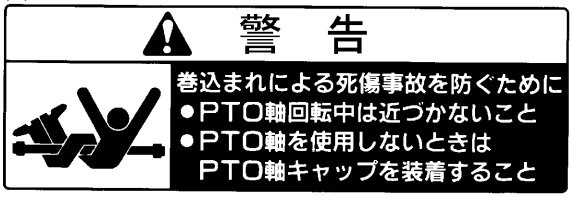
1AGALBAAP129J

(2) 品番　99870005870



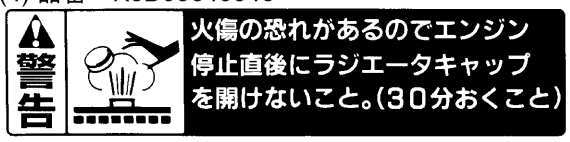
1AGADAUAP100A

(3) 品番　99660028670



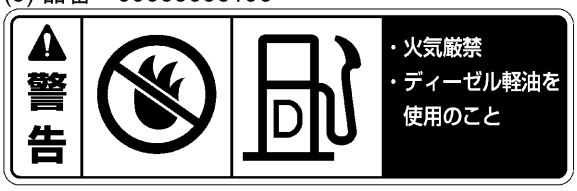
1AGALBAAP128J

(4) 品番　K3D95049540

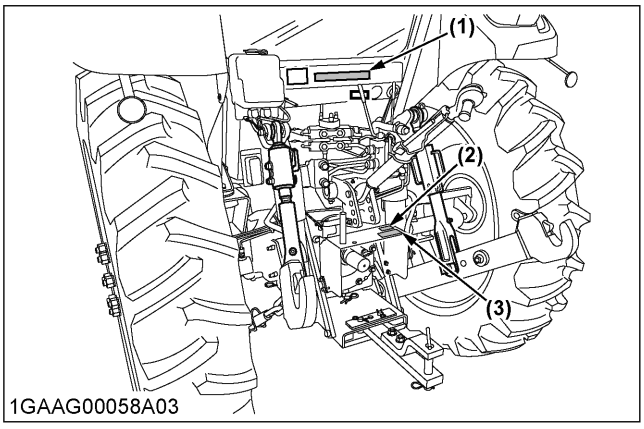


1AGADAUAP070A

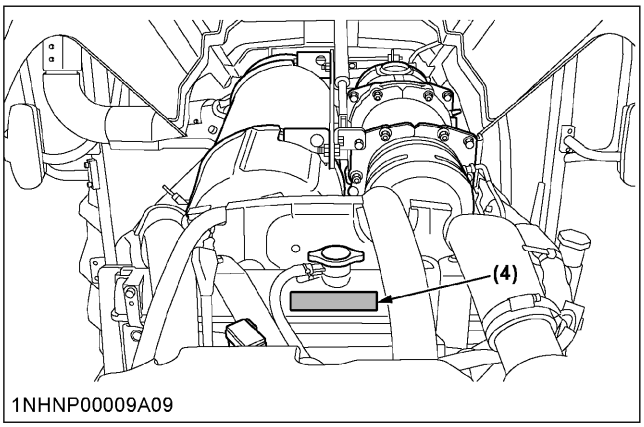
(5) 品番　99900006190



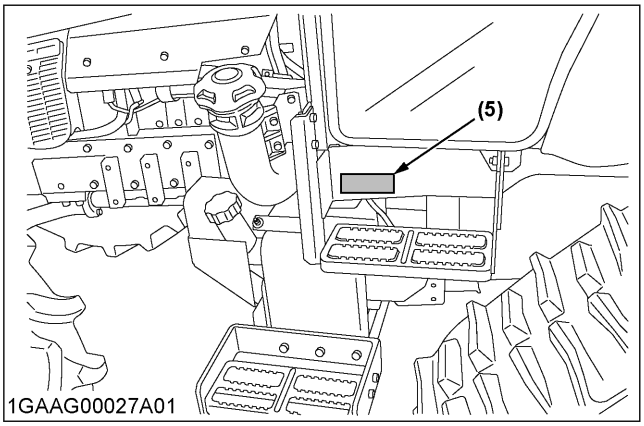
1AGAYAAAP100A



1GAAG00058A03



1NHNP00009A09



1GAAG00027A01

1ZCHH00017A01jaJP

⚠ 安全に作業をするために

(1) 品番　95210001440

⚠ 注　意

尿素水が少なくなるとエンジン出力規制がかかり、その後、エンジン回転数が上がらなくなります。
指定の尿素水を速やかに補給して下さい。
詳しくは取扱説明書をご覧ください。

(2) 品番　99660027950



⚠ 警 告

トラクタが突然動きだす恐れがあるため：
- 地上に立って、エンジンを始動しないこと
- 安全スイッチ回路を直結しないこと
- スタータを直結してエンジンを始動しないこと

(7) 品番　K3D95049220

⚠ 警 告

主変速レバーを🚜の位置にしても車体は微速で動きます。
停車させる時は、シャトルレバーを〔N〕にして必ず駐車ブレーキを掛けること。

(4) 品番　95270000260

⚠ 警　告

クイックアップは、ほ場内作業にのみ使用すること。
作業時以外は、作業機上げ下げを油圧レバーで行うこと。

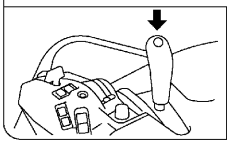
(3) 品番　95210006370
（インストラクタシート装着時のみ）

⚠ 警　告

インストラクタシート使用時は以下を守ること
- 必ずシートベルトを締め，安全キャブ内の手すりを持つこと
- どのような理由があっても子供や大人の移動手段として使用しないこと
- シートに着座時は常に安全キャブの左ドアを施錠すること
- シートに着座した人以外は乗せないこと
- 運転者の視界をさえぎったり運転操作の妨げにならないよう注意すること
- 急発進や急停止，急旋回は行わないこと
- シートベルトやドアロックが破損している時は，使用しないこと
- このシートを運搬用に使用しないこと
- シートに座ってのドアの開閉は，ゆっくりと静かに行い，手や身体をドアにはさまないこと

(5) 品番　K3D95098320

⚠ 警　告



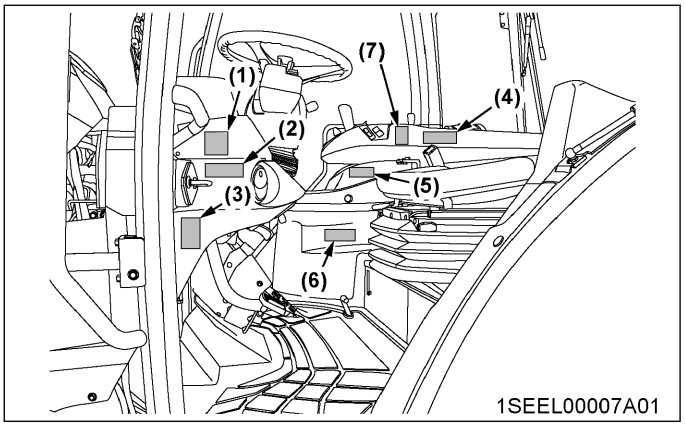
クラッチボタンを押している間はクラッチが切れた状態になっています。クラッチボタンを戻すとトラクタが動き出します。

(6) 品番　99900006170

⚠ 警　告

低温始動時の発進遅れ
- 異常ではないので変速を入れたまま降りないこと遅れて動き出し危険です

傾斜面での変速操作
- 急斜面で変速操作を行うと、滑走する恐れがあるので、低速で走行し、途中変速しないこと



1FEED00007A01jaJP

(1) 品番　99870006630

⚠ 警　告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- シートにすわり、PTO及び各変速レバーを中立にすること
- 前後左右に人がいないことを確認すること

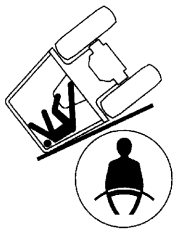
運転時
- 道路走行時は運転者以外に人を乗せないこと
- 排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- 溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
- 道路走行時はデフロックを使用しないこと
- 道路走行時はSMVマークを装着すること
- 道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- PTO及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛け、エンジンをとめること

点検、整備時
- エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- 3点リンクで作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

(2) 品番　99900007650

⚠ 警告



転倒、転落による死傷事故軽減のために、運転時は必ずシートベルトを着用すること。

(3) 品番　99660021930

⚠ 警　告

点検・整備時に、後輪だけを地面から浮かせた状態にしてエンジンを始動させないで下さい。
　ブレーキを踏むと前後輪を連結状態にする機構になっている為、前輪が回転しトラクタが動き出す恐れがあります。

(4) 品番　99900006180

⚠ 警告



転倒による死傷事故を防ぐため
圃場以外では倍速、ＡＤ倍速を使用しないこと。

⚠ 警告

転倒や衝突による死傷事故を防ぐため、道路・傾斜地走行では旋回２ＷＤを使用しないこと。

(5) 品番　99900007770

⚠ 警告

転倒や衝突による死傷事故を防ぐために、道路走行時は連結解除ペダルロックレバーをロックすること。

(6) 品番　99100012240

⚠ 警告

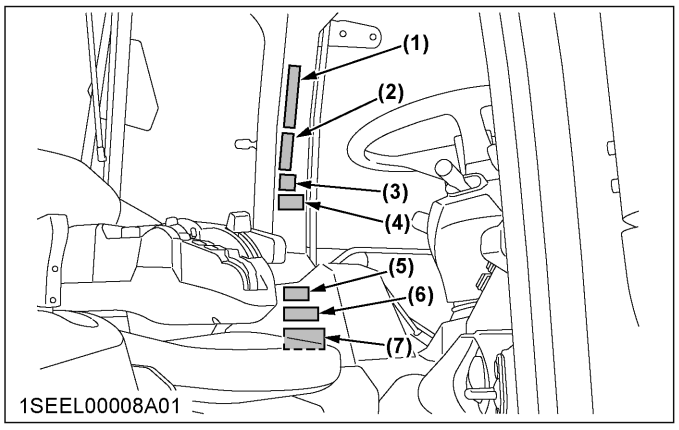
傾斜地での前、後進切替時、一時的に中立になることにより、トラクタの自重による自走を防止するため、ブレーキ及びクラッチを使用し切替完了後クラッチで発進すること。

(7) 品番　99900004610



⚠ 警　告

駐車後にトラクタが動く恐れがあるため
必ず駐車ブレーキをかけること
本機は変速ギヤを入れていてもエンジンをとめるとエンジンブレーキはききません

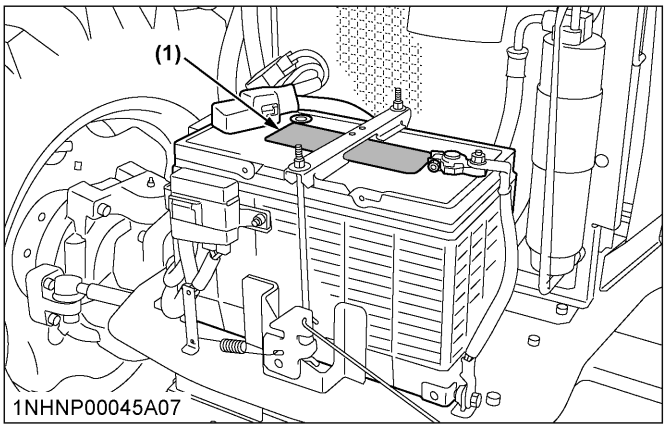


1FEED00008A01jaJP

(1) 品番　99900007190



1AGADATAP075J



1ZCHH00020A01

2. 安全ラベルの取扱い

- ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
  もしラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布で拭いてください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は、貼り付け面の汚れを完全に拭き取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
- ラベルが貼り付けられている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証

この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

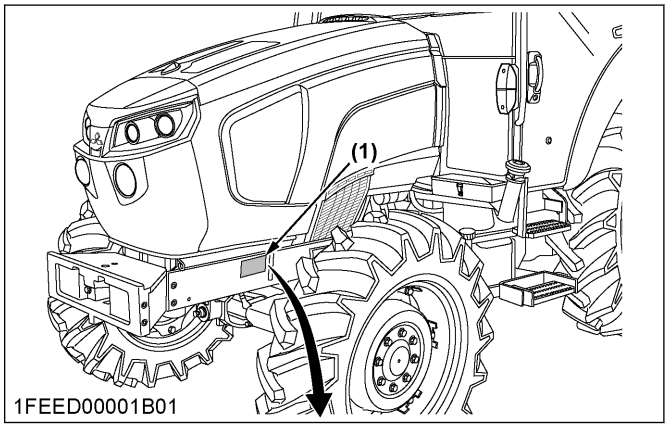
ご相談窓口

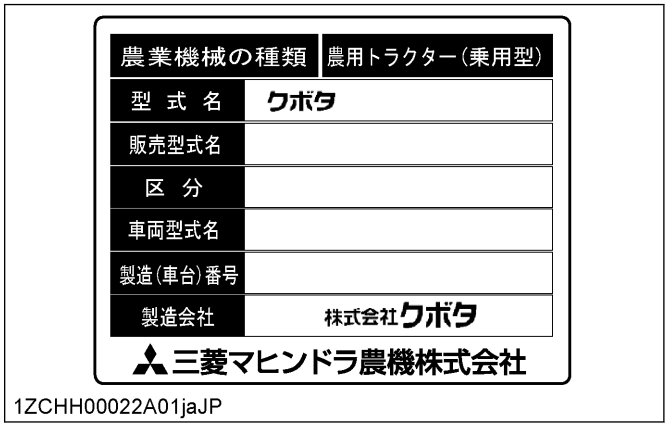
⚠ 警告

- **機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。**

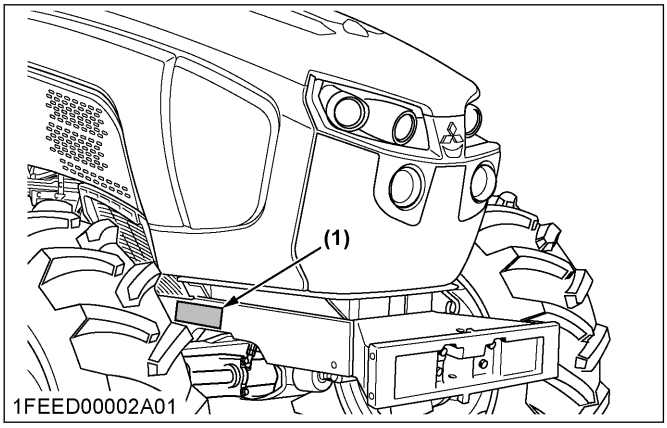
ご使用中の故障やご不審な点およびサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれご相談窓口を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している
- 型式名
- 製造（車台）番号

を併せてご連絡ください。
なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。

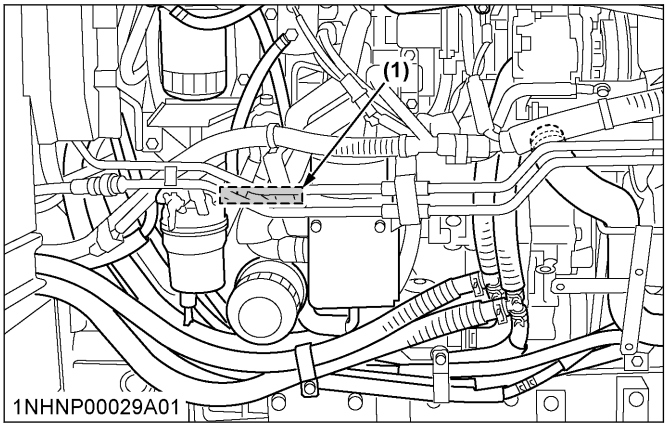




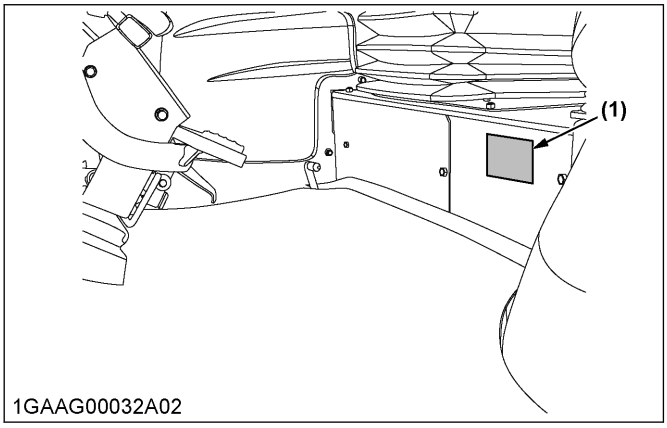
(1) 銘板



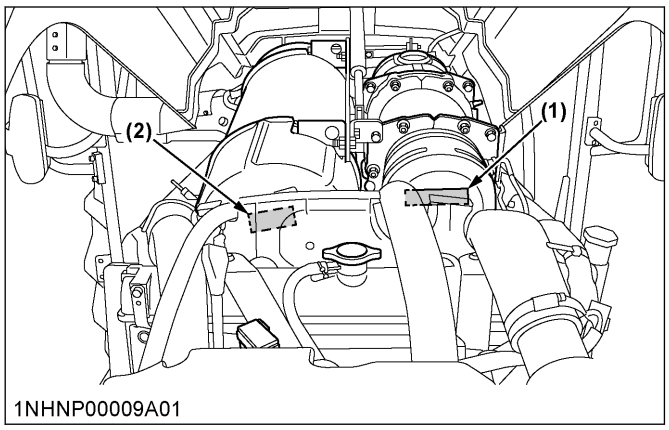
(1) 製造（車台）番号



(1) エンジン番号



(1) 安全キャブ銘板



(1) DPF 番号
(2) SCR 番号

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後 12 年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

農機型式名一覧表

型式名	農機型式名	安全性検査合格番号	安全キャブ・フレーム検査合格型式名	小型特殊自動車車両型式名	型式認定番号
GV800H	クボタ MR800H	–	クボタ IC1000HMR	クボタ YDP-MRD	–
GV900H	クボタ MR900H	–	クボタ IC1000HMR	クボタ YDP-MRD	農3539
GV1000H	クボタ MR1000H	–	クボタ IC1000HMR	クボタ YDR-MRC	–
GV1050H	クボタ MR1050H	–	クボタ IC1000HMR	クボタ YDR-MRC	農3538
GVK800H	クボタ MR800H-PC	–	クボタ IC1000HMR	クボタ YDP-MRD	–
GVK900H	クボタ MR900H-PC	–	クボタ IC1000HMR	クボタ YDP-MRD	–
GVK1000H	クボタ MR1000H-PC	–	クボタ IC1000HMR	クボタ YDR-MRC	–
GVK1050H	クボタ MR1050H-PC	–	クボタ IC1000HMR	クボタ YDR-MRC	–

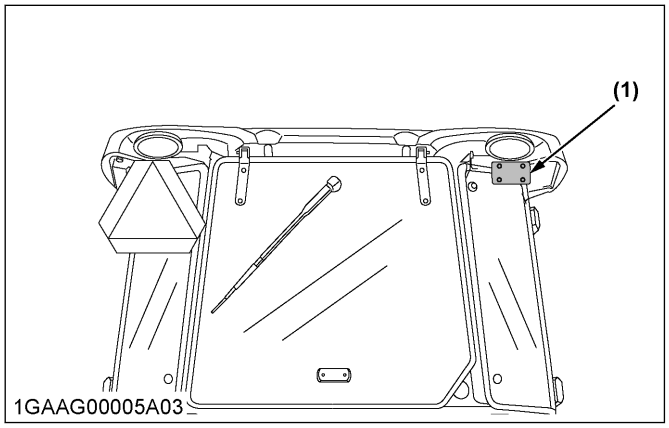
小型特殊自動車としての取扱い

本機は、道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は、市町村条例により、その取得したことを市町村役所に届けて、標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により異なりますので、詳細は購入先にご相談ください。

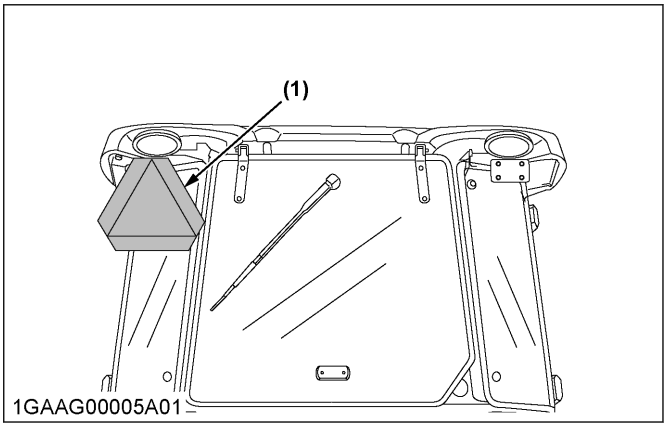
1. 小型特殊自動車を購入したときは、販売証明書など（購入先で発行）に、軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバープレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバープレート）は、車体の取付け位置に取付けてください。



(1) 標識（ナンバープレート）取付け位置

低速車（SMV）マーク

公道走行時は後続車に低速農耕車が走行している事を知らせる低速車（SMV）マークを取付けてください。



(1) 低速車（*SMV*）マーク

運転免許

重要：

- **本機は道路運送車両法上の小型特殊自動車に該当しますが、道路交通法では、大型特殊自動車に該当します。従って公道を走行する場合は、大型特殊自動車の運転免許証が必要です。**

公道を走行する場合は、大型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

損害賠償保険について

重要：

- **エンジンで封印されている所はさわらないでください（封印が外されたと認められる場合は、一切の保証は致しません）。**

万一の交通事故補償に備え、任意保険に加入されることをお勧めします。

公道走行時の注意

- インプルメントやアタッチメントを装着した状態では、[道路運送車両法の保安基準] を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと、トラクタとの組み合わせごとに、[保安基準] を満たしていることの確認が必要です。
- 作業灯は [道路運送車両法の保安基準] 第 42 条（灯火の色等の制限）において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから、道路走行中の点灯は禁止されております。

輪距

公道走行は、必ず指定の輪距で走行してください。指定輪距は次表のとおりです。この輪距どおりでない場合は道路運送車両法の保安基準違反になり、道路を走行することができません。

前後輪タイヤ組合せ表［ホイール仕様］

型式		前輪		後輪		
		タイヤサイズ	輪距(mm)	タイヤサイズ	輪距(mm)	
GV800H（G・D 仕様）	A	9.5 - 24	1400	13.9 - 36	1400	*1
	K	9.5 - 24RC		12.4 - 38RC	1440	
	WA	9.5 - 24		16.9 - 30	1400	
	R	250/85R24		340/85R36		*2
	KR	9.5R24RC		12.4R38RC	1430	*3
	WR	9.5R24RC		16.9R30	1400	
	NR	9.5R24RC		270/95R38	1400	
GV800H（標準仕様）	A	9.5 - 24	1520	13.9 - 36	1500	*1
	K	9.5 - 24RC		12.4 - 38RC		
	WA	9.5 - 24		16.9 - 30		
	LH	11.2 - 24		13.6 - 38H		
	R	250/85R24		340/85R36		*2
	KR	9.5R24RC		12.4R38RC		*3
	WR	9.5R24RC		16.9R30		
GV900H（G・D 仕様） GV1000H（G・D 仕様） GV1050H（G・D 仕様）	K	9.5 - 24RC	1400	12.4 - 38RC	1440	*1
	LA	11.2 - 24		16.9 - 34	1380	
	LK	11.2 - 24RC		13.6 - 38RC	1440	
	KR	9.5R24RC		12.4R38RC	1430	*3
	LR	11.2R24RC		420/85R34	1400	
	LKR	11.2R24RC		13.6R38RC	1430	
	NR	9.5R24RC		270/95R38	1400	
GV900H（標準仕様） GV1000H（標準仕様） GV1050H（標準仕様）	K	9.5 - 24RC	1520	12.4 - 38RC	1500	*1
	LA	11.2 - 24		16.9 - 34	1510	
	LK	11.2 - 24RC		13.6 - 38RC	1500	
	LH	11.2 - 24		13.6 - 38H		
	KR	9.5R24RC		12.4R38RC		*3
	LR	11.2R24RC		420/85R34	1500	
	LKR	11.2R24RC		13.6R38RC	1500	

補足：

- **表中のタイヤは標準出荷を表記しています。**

*1　ブリヂストン製タイヤです。
*2　ラジアルタイヤ（ファイヤストーン製）です。
*3　ラジアルタイヤ（ミシュラン製）です。

前後輪タイヤ組合せ表［ハーフクローラ仕様］

型式		前輪		クローラ	
		タイヤサイズ	輪距(mm)	クローラサイズ*1	輪距(mm)
GVK800H GVK900H GVK1000H GVK1050H	標準	9.5 - 24	1430	450 × 50 × 90	1440
	N			280 × 50 × 90	
	NN		1330		1320
	W	320/60-26	1530	450 × 50 × 90	1440
	WR	360/70R20	1520		

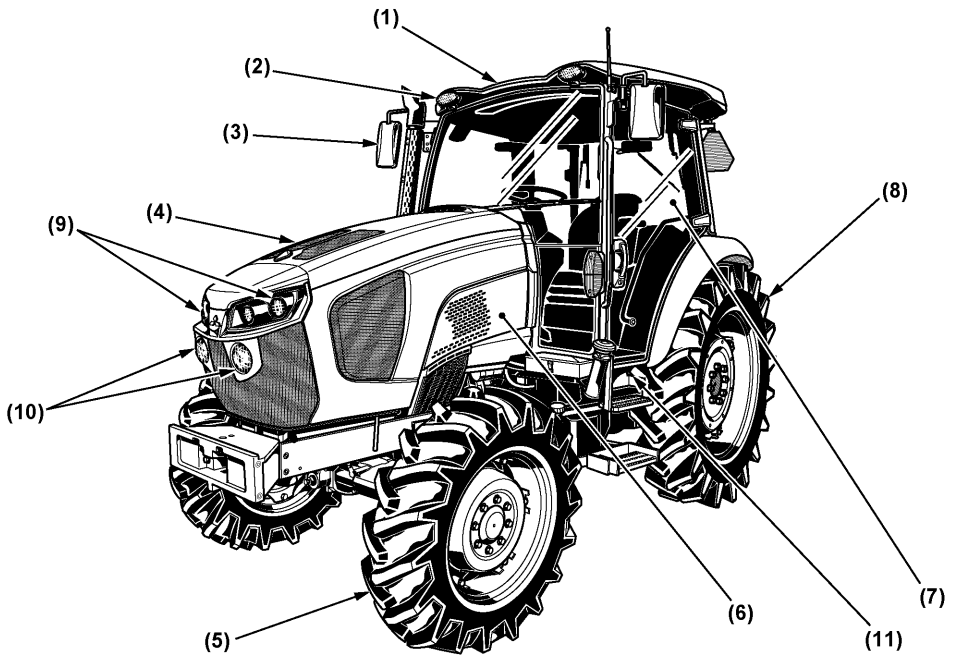
*1　クローラサイズの数値は次のとおりです。幅×リンク数×ピッチ(mm)

装置の名称と取扱い

トラクタ装置の名称

1. トラクタの外観

外観［ホイール仕様］



1FEED00003A01

(1) 安全キャブ *182*
(2) 作業灯 *184*
(3) バックミラー *63*
(4) ボンネット *196*
(5) 前輪タイヤ *199*
(6) サイドカバー *196*
(7) ドア *182*
(8) 後輪タイヤ *199*
(9) 作業灯 *185*
(10) ヘッドライト *64*
(11) フットライト *183*

外観［ハーフクローラ仕様］



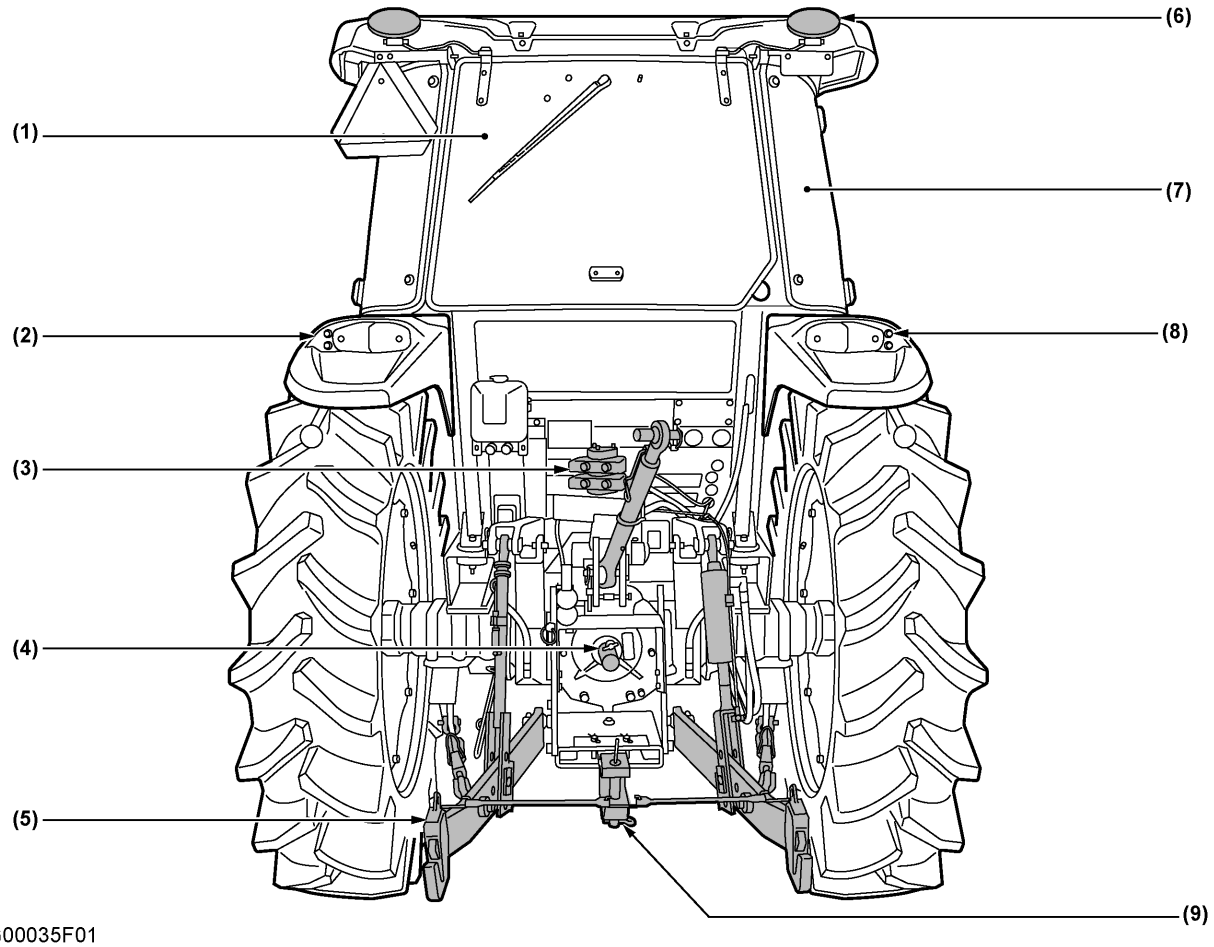
1FEED00004A01

(1) パワークローラ

ハーフクローラ仕様に関する参照頁一覧

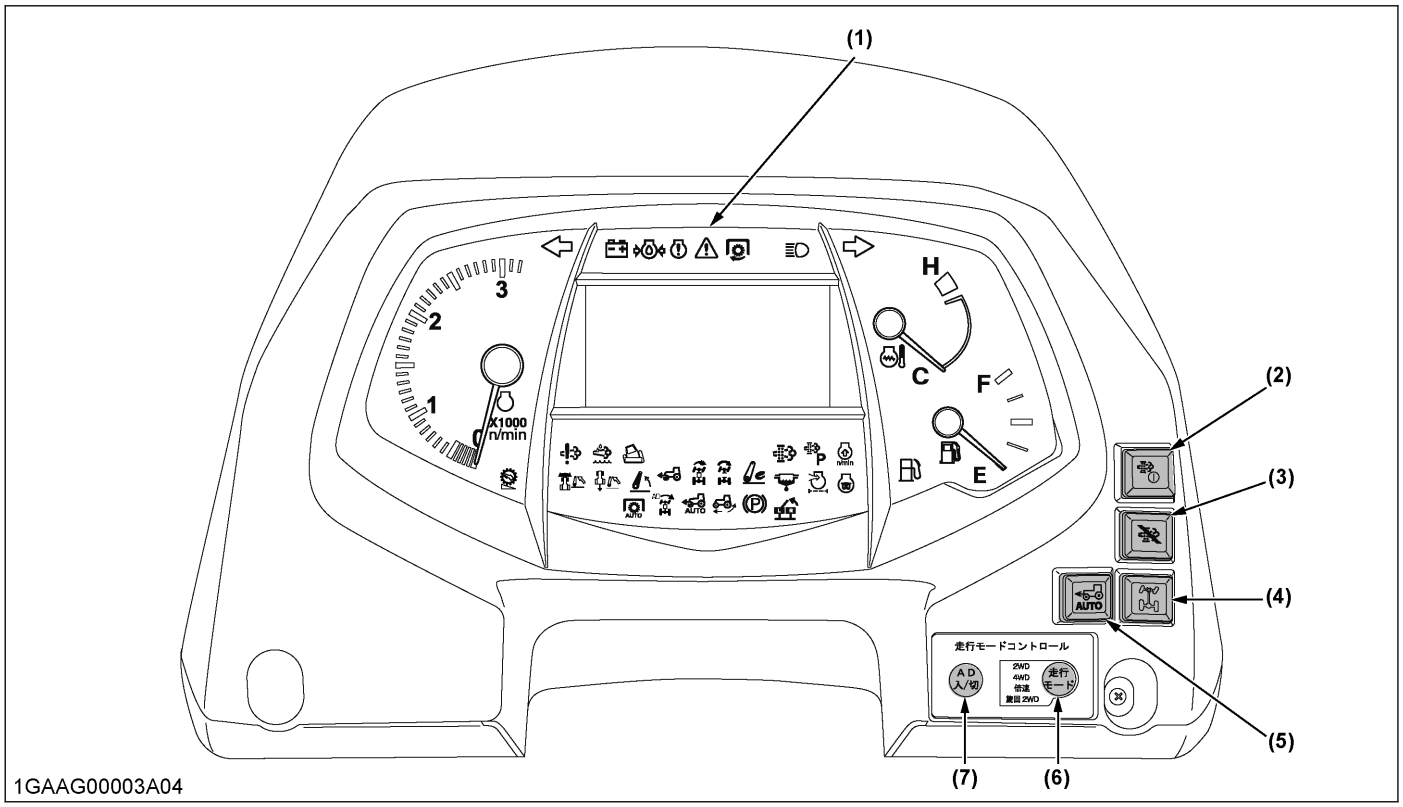
内容	参照頁	内容	参照頁
前後輪タイヤ組合わせ表	35 頁	日常点検箇所一覧	205 頁
トラックの積み・降ろし	142 頁	点検・整備	190 頁
運転のしかた	127 頁	主要諸元	241 頁
前輪タイヤ・クローラ輪距	159、177 頁	走行速度表	247 頁

外観（共通）



(1) リヤウインド *182*
(2) *3* 点リンク外部操作スイッチ *150*
(3) 外部油圧取出し *124*
(4) *PTO* *153*
(5) *3* 点リンク *147*
(6) 作業灯 *184*
(7) クォータウィンド *183*
(8) 傾き手動外部操作スイッチ *150*
(9) ドローバ *152*

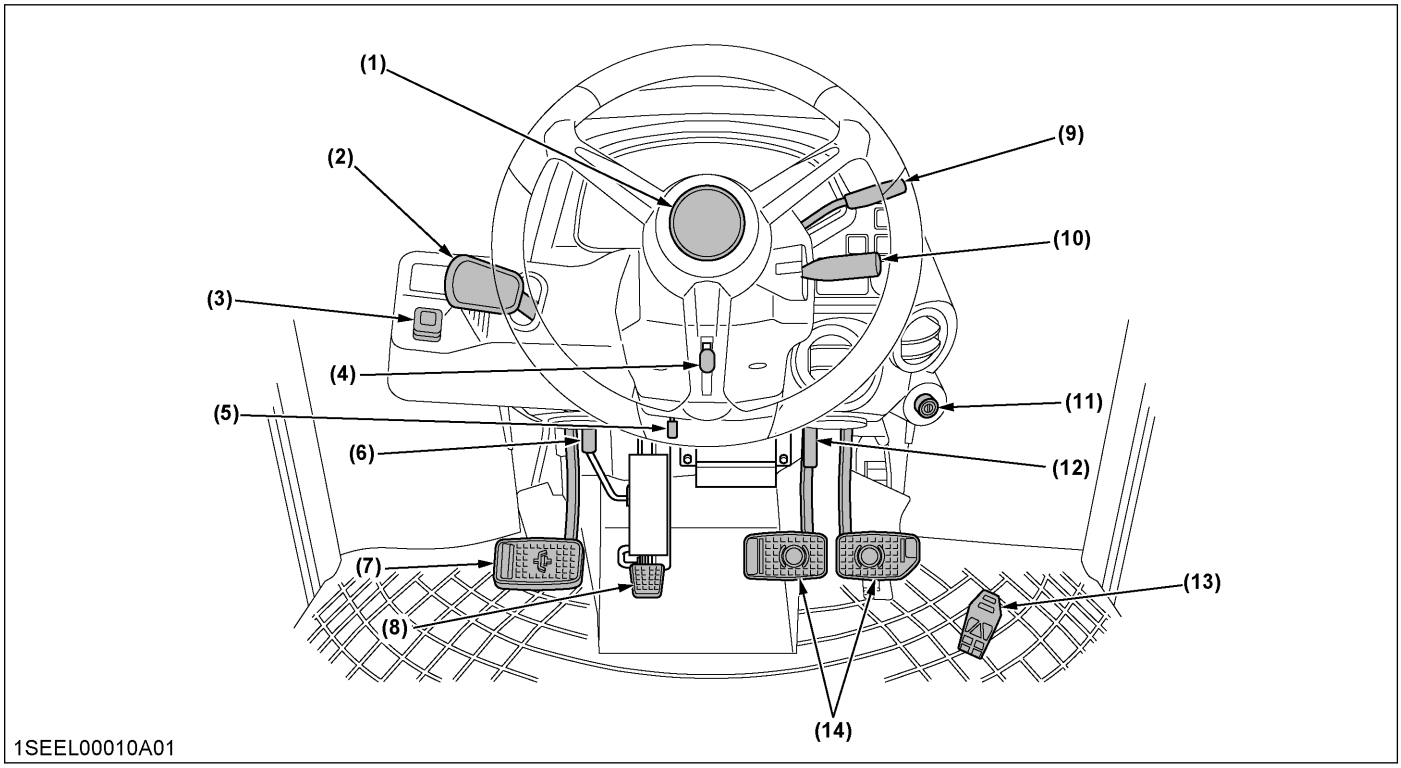
2. メータパネル部



1GAAG00003A04

(1) 電子メータ *75*
(2) 駐車再生スイッチ *48*
(3) 再生禁止スイッチ *50*
(4) 前輪デフロックスイッチ *73*
(5) オート *4WD* スイッチ *72*
(6) 走行モード切替スイッチ *69*
(7) *AD* スイッチ *69*

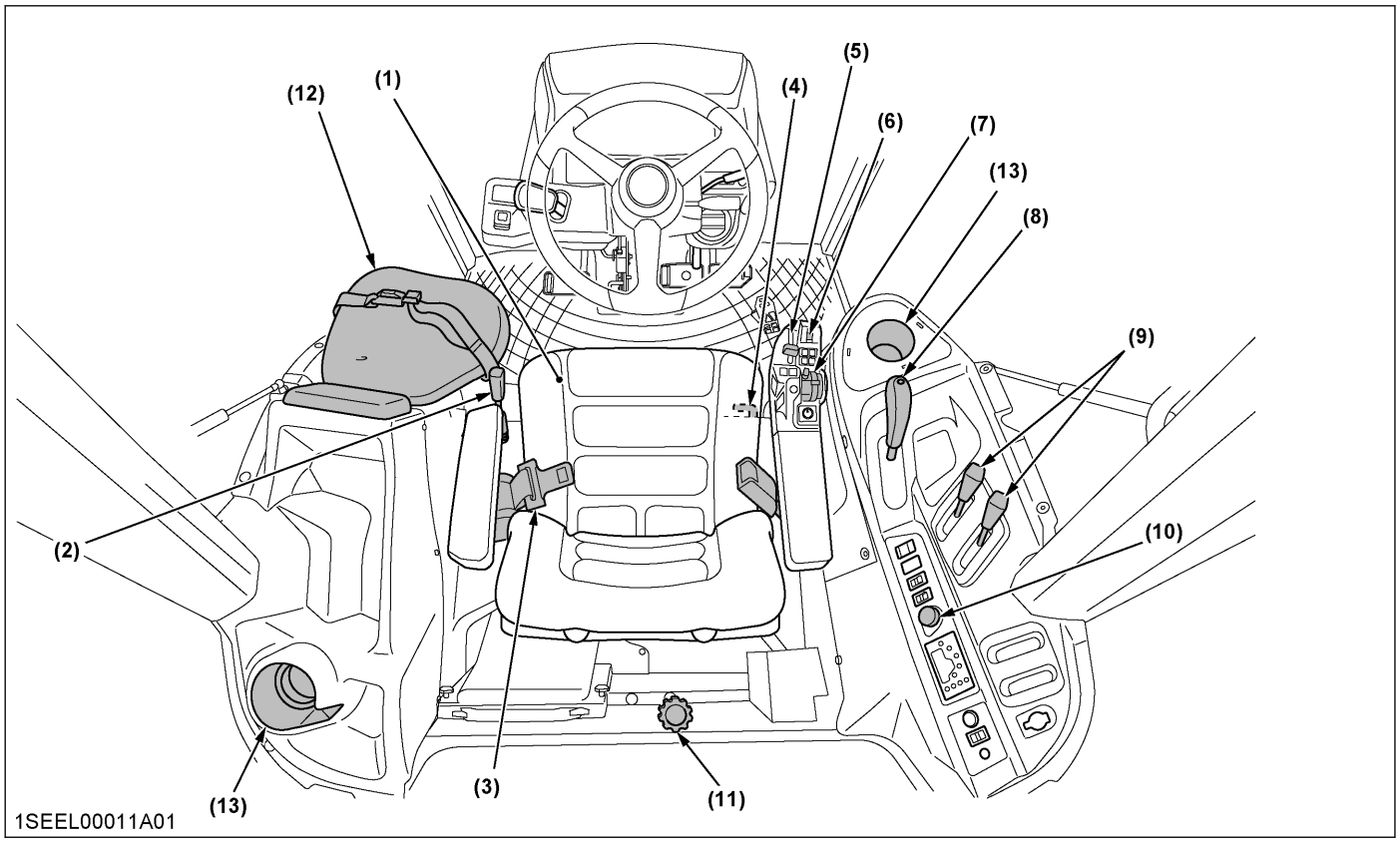
3. ハンドル部



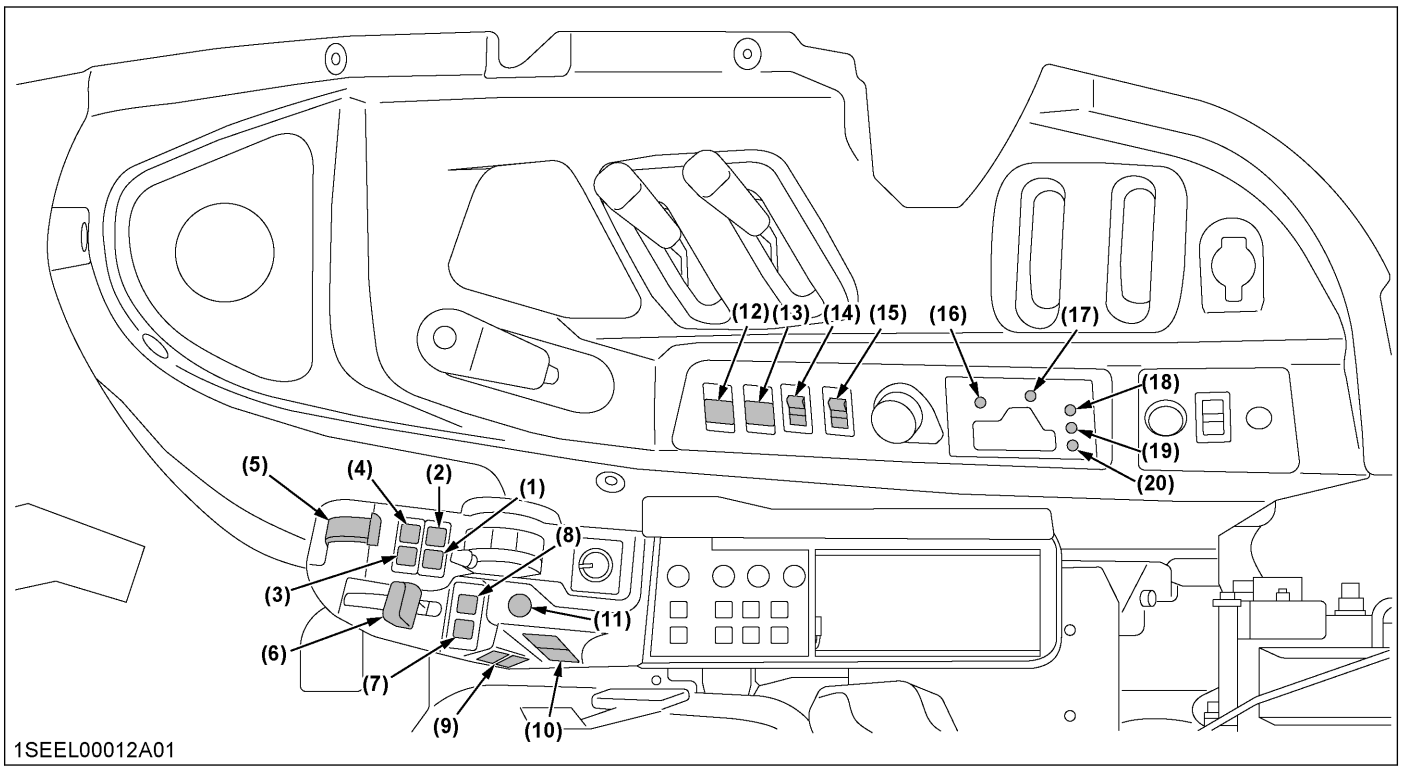
1SEEL00010A01

(1) ホーンボタン *65*
(2) シャトルレバー *69*
(3) ハザードスイッチ *64*
(4) テレスコレバー *63*
(5) チルトレバー *63*
(6) 連結解除ペダルロックレバー *65*
(7) クラッチペダル *66*
(8) 連結解除ペダル *65*
(9) クイックアップレバー *114*
(10) ヘッドライトスイッチ *64*
(11) キースイッチ *65*
(12) 駐車ブレーキレバー *127*
(13) アクセルペダル *67*
(14) ブレーキペダル *65*

4. 運転席部



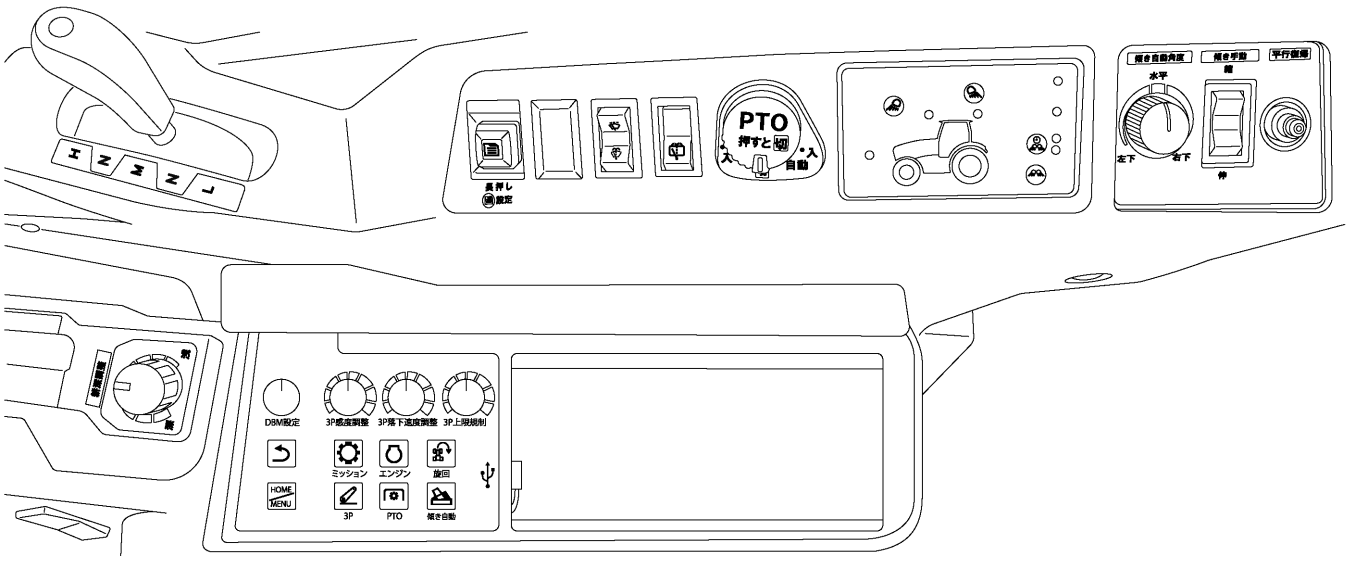
(1) シート *60*
(2) *PTO* 変速レバー *155*
(3) シートベルト *61*
(4) 後輪デフロックペダル *73*
(5) 主変速レバー *67*
(6) アクセルレバー *67*
(7) ポジションレバー *111*
(8) 副変速レバー *67*
(9) 油圧補助コントロールレバー *124*
(10) *PTO* スイッチ *153*
(11) 油圧ロックレバー *117*
(12) インストラクタシート（オプション） *61*
(13) カップホルダ



(1) *e*-アシスト旋回スイッチ *106*
(2) パワーアシストスイッチ *105*
(3) エンジン回転メモリスイッチ *A* *104*
(4) エンジン回転メモリスイッチ *B* *104*
(5) アクセルレバー *67*
(6) 主変速レバー *67*
(7) クルーズ車速スイッチ *A* *134*
(8) クルーズ車速スイッチ *B* *134*
(9) *3P* 内部操作スイッチ *117*
(10) クイックアップスイッチ *114*
(11) *3P* 動作切替スイッチ *116*
(12) ワンタッチ作業モード設定スイッチ *118*
(13) スリップ制御スイッチ（オプション）
(14) フロントワイパ・ウォッシャスイッチ *184*
(15) リヤワイパ・ウォッシャスイッチ *184*
(16) 作業灯（前）スイッチ *185*
(17) 作業灯（後）スイッチ *185*
(18) デフォッガ（オプション）
(19) ディレイオフ機能スイッチ *185*
(20) 全作業灯火／消灯スイッチ *185*

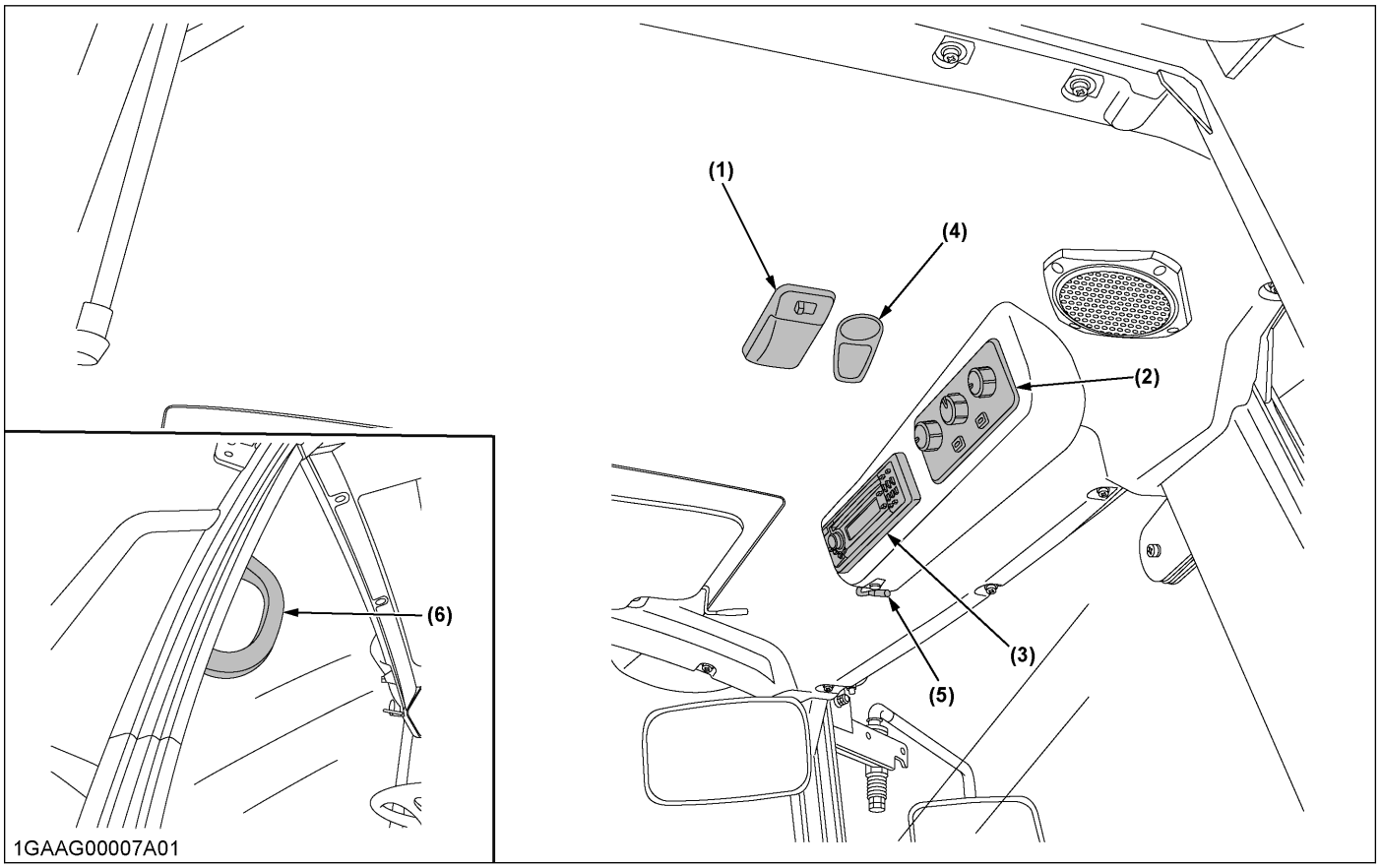
5. 油圧操作パネル

詳細は作業機昇降装置（109 ページ）の項、傾き自動（119 ページ）の項参照。



1FEED00005A01

6. 安全キャブ部



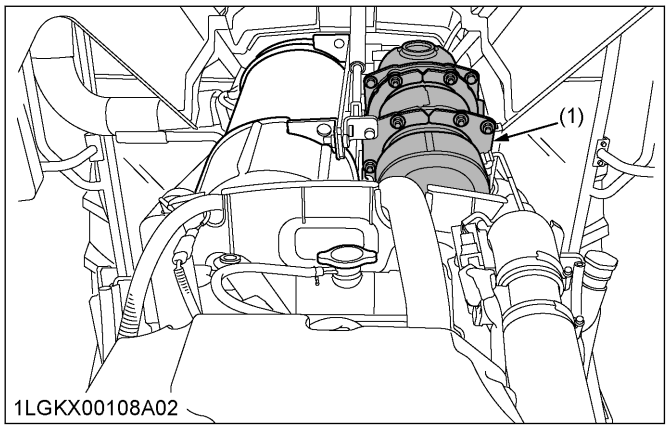
(1) ルームランプ *183*
(2) エアコンコントロールパネル *187*
(3) オーディオ *188*
(4) 夜間照明 *183*
(5) マイク（*Bluetooth* 対応）
(6) アシストグリップ

排ガス後処理装置

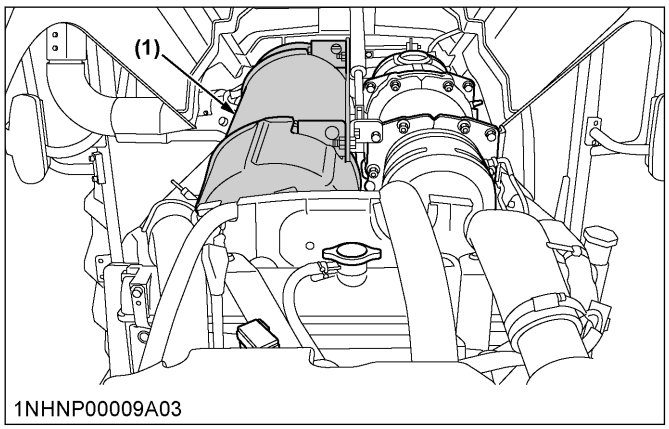
⚠ 警告

- **DPF 再生中は排ガスや DPF が高温になります。火傷、可燃物への発火や溶解に注意してください。**
- **高温の排ガスがあたらないように、トラクタを人や動物などから離してください。**
- **再生中は白煙が発生する場合があります。換気の悪い納屋等での再生は行わないでください。**
- **再生中はトラクタから離れないでください。**

デュアル排ガス後処理装置
排ガス中に含まれる粒子状物質(PM)や黒煙は、DPF マフラで捕集・除去します。
そして、残る有害な窒素酸化物(NOx)も、尿素 SCR システムで無害な窒素(N_2)と水(H_2O)に分解・浄化します。
このデュアル排ガス後処理装置により、クリーンな排ガスを実現しています。



(1) DPF マフラ



(1) 尿素 SCR マフラ

1. ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ(DPF)マフラ

本機には、ディーゼルエンジン排ガス中の炭化水素、一酸化炭素や他の有毒ガスを無害な二酸化炭素や水に酸化すると同時に、PM（粒子状物質）をフィルタで捕集する DPF（ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ）マフラ付きエンジンを搭載しています。
排ガス後処理装置を正しく取り扱い、環境保全にも努めてください。

2. DPF マフラの取扱いポイント

DPF マフラ内に捕集した PM（粒子状物質）が一定量堆積すると、PM を DPF マフラ内で燃焼させ DPF マフラをリフレッシュさせる必要があります。この燃焼作業を再生と呼びます。
この再生に到達するまでの運転時間を延ばし、DPF マフラの故障を防ぐため、必ず以下の取扱い事項を守ってください。

- **燃料**
  燃料は必ず低硫黄ディーゼル軽油(S10)を使用してください。

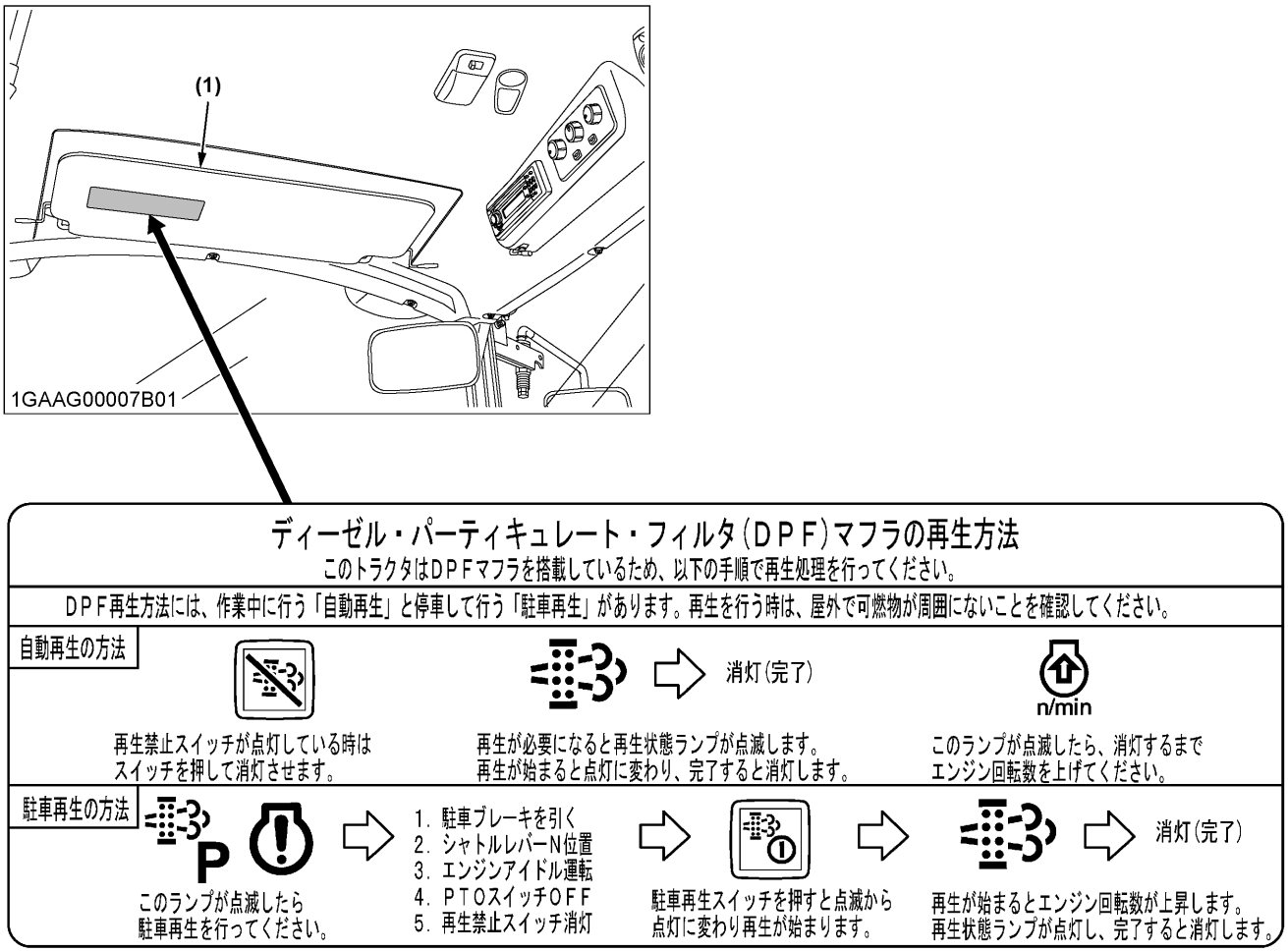
  重要：
  - **低硫黄ディーゼル軽油以外の軽油を使用した場合、エンジンや排ガス後処理装置などに悪影響を与え、故障の原因となります。また、排ガスの浄化基準に適合しなくなるおそれがあります。**
- **エンジンオイル**
  DPF 搭載用ディーゼルエンジンオイル**指定オイル D10W-30 DH-2** をご使用ください。

  重要：
  - **指定のエンジンオイル以外を使用すると DPF の早期目詰まりや燃費の悪化を招くおそれがあります。**
- **不必要なアイドリング運転の禁止**
  一般にエンジン回転が低いほど排ガス温度も低く、排ガス中の PM（粒子状物質）も燃焼されず堆積しやすくなります。従って、不必要なアイドリング運転はしないでください。
- **再生**
  ランプやブザーで再生の指示サインが出たときは、速やかに再生を行ってください。

  重要：
  - **再生の中断や警告を無視して運転を続行すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。**

3. DPF マフラの再生方式

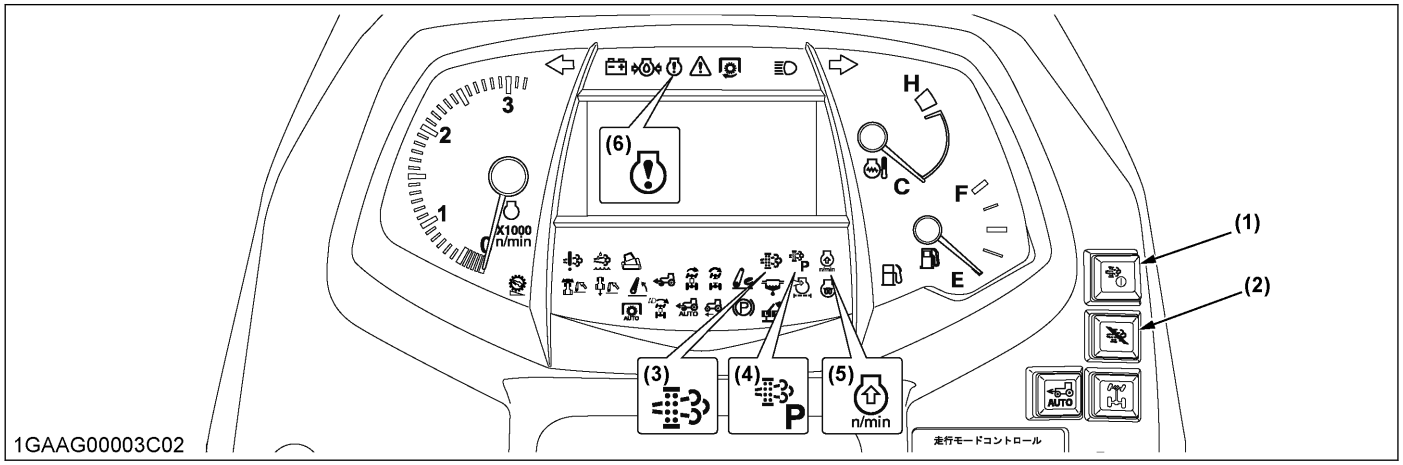
DPF マフラの再生方式は、作業に応じ**自動再生**または**再生禁止**のいずれかが選択できます。
再生に伴う排ガスの高温が作業に適さない場合を除き、**自動再生**の使用を推奨します。



(1) サンバイザ

3.1 自動再生モードの操作手順

エンジンを始動すると（スイッチ類の操作不要）自動再生モードが自動的に選択されます。
自動再生モードでは PM が一定量堆積し、再生に必要な条件（DPF の再生に関する豆知識（52 ページ）を参照）が整うと、トラクタの走行や停車に関係なく自動的に再生処理されるため、作業効率が向上します。



(1) 駐車再生スイッチ
(2) 再生禁止スイッチ
(3) 再生状態ランプ
(4) 駐車再生要求ランプ
(5) エンジン回転上げ要求ランプ
(6) エンジン異常警告灯

1. エンジンを始動します。

   （再生禁止スイッチランプ  が消灯していることを確認する）

   再生禁止スイッチランプ消灯
   自動再生モード選択時

   再生禁止スイッチランプ点灯
   再生禁止モード選択時

   補足：
   - **エンジンを始動すると自動的に自動再生モードが選択されます。**
   - **再生禁止スイッチランプはエンジン始動後、スイッチを押すごとに切り替わります。**

2. 再生状態ランプ  が点滅表示した場合、そのまま運転を続行してください。

   DPF マフラに一定量の PM が堆積しています。
   再生に必要な条件が整うと自動的に再生が開始されます。
   DPF や排ガスの温度が上昇しますので安全な場所で作業してください。

3. エンジン回転上げ要求ランプ  が点滅した場合、消灯するまでエンジン回転を上げてください。

補足：
- **自動再生モードでも、トラクタの運転状態によっては、再生に必要な条件が整わず再生されない場合もあります。**
- **エンジン負荷が大きい場合、エンジン回転上げ要求ランプが点滅していても再生条件を満たすこともあります。詳細は DPF の再生に関する豆知識（52 ページ）を参照してください。**

3.2 自動再生モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置

自動再生モードで運転時、PM が一定量堆積すると自動で再生処理されますが、再生を中断したり再生条件が整わなかった場合、PM の堆積レベルに応じブザー音やランプの表示を変化させ、オペレータに再生を促します。

重要：

- **再生が必要なレベルに達したときは、速やかに再生を行ってください。再生を中断したり警告を無視して運転を続行すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。**

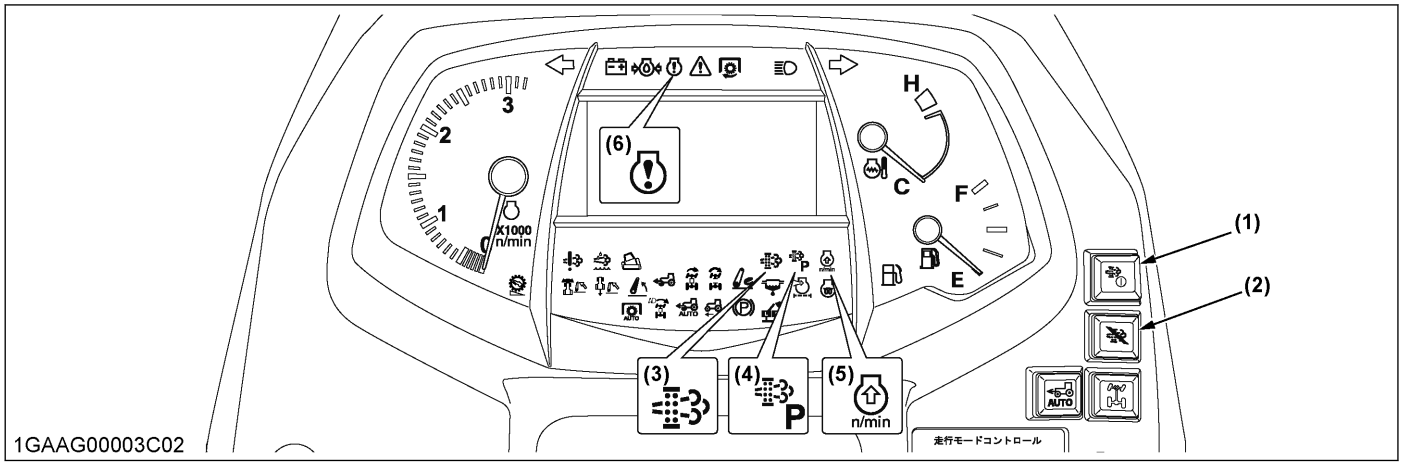
自動再生モード		
状態		**処置**
警告レベル：1 ブザー音：無し	 再生状態ランプが点滅する。	DPF マフラに一定量の PM が堆積しています。そのまま運転を続行してください。
	 エンジン回転数が低いとき、エンジン回転上げ要求ランプが点滅する。	消灯するまでエンジン回転を上げてください。
	 再生状態ランプは点滅から点灯に切替わる。	再生が開始され、完了すると消灯します。
警告レベル：2-1 ブザー音：5 秒に 1 回鳴る	再生の中断や再生条件が整わないと警告レベル 2 になります。	
	 再生状態ランプが点滅する。	警告レベル 1 を参照し**再生**を行ってください。
警告レベル：2-2 ブザー音：3 秒に 1 回鳴る	 エンジン回転数が低いとき、エンジン回転上げ要求ランプが点滅する。	駐車再生要求ランプが点滅時、駐車再生も可能です。 再生条件が整わない場合は**駐車再生**を行ってください。 • 駐車再生操作は駐車再生の操作（52 ページ）を参照してください。
	 駐車再生要求ランプも点滅する。	
警告レベル：3 ブザー音：1 秒に 1 回鳴る エンジン出力：50%	警告レベル 2 での再生ができなかった場合	
	 エンジン異常警告灯が点滅する。	DPF マフラに多量の PM が堆積しています。直ちに作業を中断し**駐車再生**を行ってください。 • 駐車再生操作は駐車再生の操作（52 ページ）を参照してください。 この段階では**自動再生モード**は作動しません。 これ以上運転を続けると再生操作ができなくなります。
	 駐車再生要求ランプも点滅する。	
警告レベル：4 ブザー音：1 秒に 1 回鳴る エンジン出力：50%	警告レベル 3 での駐車再生を中断、または無視をして運転を続行した場合	
	 エンジン異常警告灯が点灯する。	直ちにトラクタを安全な場所に移動させ運転を中断し購入先へ連絡してください。 これ以上運転を続行すると、DPF やエンジンに致命的なトラブルが生じますので絶対に運転しないでください。

3.3 再生禁止モードの操作手順

エンジン始動後、再生禁止スイッチを押しスイッチランプを点灯させると、再生禁止モードに切替わります。このモードに切替えると、PM は DPF 内に堆積され、オペレータの意思で再生操作を行わないかぎり再生されません。換気の悪いビニールハウス内作業や牛舎内作業に有効です。

補足：

- **いったんエンジンを停止すると自動再生モードに切替わります。**



(1) 駐車再生スイッチ
(2) 再生禁止スイッチ
(3) 再生状態ランプ
(4) 駐車再生要求ランプ
(5) エンジン回転上げ要求ランプ
(6) エンジン異常警告灯

1. エンジンを始動します。
2. 再生禁止スイッチを押し、スイッチランプ  を点灯させます。

   再生禁止スイッチランプ点灯
   再生禁止モード選択時

   再生禁止スイッチランプ消灯
   自動再生モード選択時

3. 運転中、駐車再生要求ランプ  が点滅表示した場合、DPF マフラに一定量の PM が堆積しています。

   トラクタを安全な場所に移動させ、駐車再生の操作（52 ページ）に従い DPF マフラの再生を行ってください。

3.4 再生禁止モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置

再生禁止モードで運転時、PM の堆積レベルに応じブザー音やランプの表示を変化させ、オペレータに再生を促します。

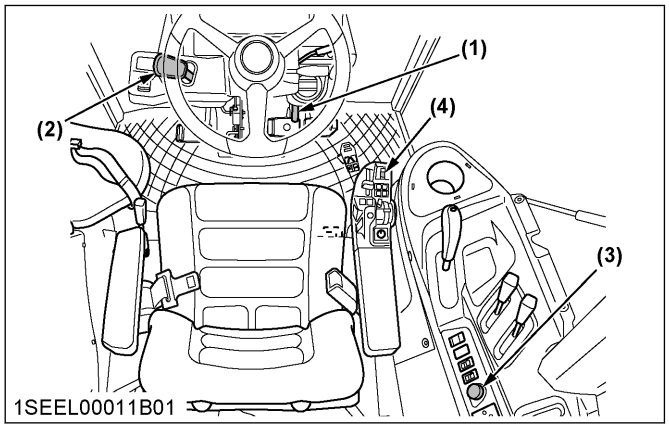
重要：

- **再生が必要なレベルに達したときは、速やかに再生を行ってください。再生を中断したり警告を無視して運転を続行すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。**

<table>
<tr><th colspan="3">自動再生モード</th></tr>
<tr><th colspan="2">状態</th><th>処置</th></tr>
<tr><td rowspan="2">警告レベル：1
ブザー音：無し</td><td></td><td>再生状態ランプが点滅する。</td><td>DPF マフラに一定量の PM が堆積しています。そのまま運転を続行してください。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">警告レベルが［1～2-2］の範囲内であれば、再生禁止スイッチ を自動再生モードに切替え、自動再生を行うことも可能です。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">警告レベル：2-1
ブザー音：5 秒に 1 回鳴る

警告レベル：2-2
ブザー音：3 秒に 1 回鳴る</td><td colspan="3">再生の中断や再生条件が整わないと警告レベル 2 になります。</td></tr>
<tr><td></td><td>再生状態ランプが点滅する。</td><td rowspan="2">トラクタを安全な場所に移動し、駐車再生を行ってください。
• 駐車再生操作は駐車再生の操作（52 ページ）を参照してください。</td></tr>
<tr><td></td><td>駐車再生要求ランプも点滅する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">警告レベル：3
ブザー音：1 秒に 1 回鳴る
エンジン出力：50%</td><td colspan="3">警告レベル 2 での再生ができなかった場合</td></tr>
<tr><td></td><td>エンジン異常警告灯が点滅する。</td><td rowspan="2">DPF マフラに多量の PM が堆積しています。直ちに作業を中断し駐車再生を行ってください。
• 駐車再生操作は駐車再生の操作（52 ページ）を参照してください。
これ以上運転を続けると再生操作ができなくなります。</td></tr>
<tr><td></td><td>駐車再生要求ランプも点滅する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">警告レベル：4
ブザー音：1 秒に 1 回鳴る
エンジン出力：50%</td><td colspan="3">警告レベル 3 での駐車再生を中断、または無視をして運転を続行した場合</td></tr>
<tr><td></td><td>エンジン異常警告灯が点灯する。</td><td>直ちにトラクタを安全な場所に移動させ運転を中断し購入先へ連絡してください。
これ以上運転を続行すると、DPF やエンジンに致命的なトラブルが生じますので絶対に運転しないでください。</td></tr>
</table>

3.5 駐車再生の操作



(1) 駐車ブレーキ
(2) シャトルレバー
(3) *PTO* スイッチ
(4) アクセルレバー

1. トラクタを建物、人や動物から離れた安全な場所に停車させます。
2. 駐車ブレーキを掛けます。
3. シャトルレバーを中立位置にします。
4. PTO スイッチを**[切]**にします。
5. エンジン回転をアイドリングにします。
6. 作業機を下げます。
7. 再生禁止スイッチ を押し消灯させます。

   駐車再生手順（上記 2.～5.と 7.）が整うと駐車再生スイッチランプ が点滅します。
8. 駐車再生スイッチ を押し、再生を開始します（スイッチランプは点灯に変わる）。
   エンジン回転が自動的に上昇し、再生が開始されます。

   再生中はランプ 、 が点灯し、再生が終了すると消灯します。
9. ランプが消灯後、作業を開始してください。
   なお、再生禁止モードで運転する場合、再生禁止スイッチを押しスイッチランプを点灯させてください。

補足：

- **緊急時以外、再生中は上記のレバーやスイッチ（手順 2.、3.、4.）、エンジン回転数を操作しないでください。もし操作すると、再生が中断されます。**
- **駐車再生中はトラクタから離れないでください。**
- **駐車再生を中断させた場合、約 30 秒間エンジン回転がアイドリングで固定されます。この 30 秒間はアクセルレバーやアクセルペダルをアイドリング位置で保持し操作しないでください。30 秒経過後は正常に作動します。**

4. DPF の再生に関する豆知識

- **運転**
  エンジンは高速、高負荷運転するほど、排ガス温度は高温となるため、排ガス中の PM（粒子状物質）は DPF マフラ内で燃焼します。その結果、DPF マフラは再生に到達するまでの運転時間が長くなります。
  逆にエンジン回転が低く負荷も低いほど、排ガス温度も低くなるため、排ガス中の PM（粒子状物質）は、DPF マフラ内で燃焼されず堆積しやすくなります。その結果、DPF マフラは再生に到達するまでの運転時間が短くなるので、不必要なアイドリング運転等は推奨しません。
- **再生に必要な条件**
  下記条件がすべて整うと再生が始まります。再生途中に 1 つでも条件から外れると中断します。
  - エンジン冷却水温がじゅうぶん暖まっているとき
  - DPF 温度が高温になっているとき
  - エンジン回転数が約 1200 rpm 以上のとき
- 再生は通常 15～20 分で終了します（再生時間は外気温度、排ガス温度やエンジン回転数により異なります）。
- 再生は、エンジンがじゅうぶんに暖まっているときに行うことを推奨します。
- 不必要な再生・中断操作を繰り返し行わないでください。エンジンオイルに微量の燃料が混ざり、オイルの質を低下させます。
- DPF 再生時は、エンジンの空気流入量を自動的に制限し、排気温度が高くなるように制御されています。このとき、エンジン音が変化しますが異状ではありません。
- 再生終了直後は、DPF マフラが高温になっていますので、約 5 分程度エンジンを継続して運転することを推奨します。

5. 尿素 SCR システム

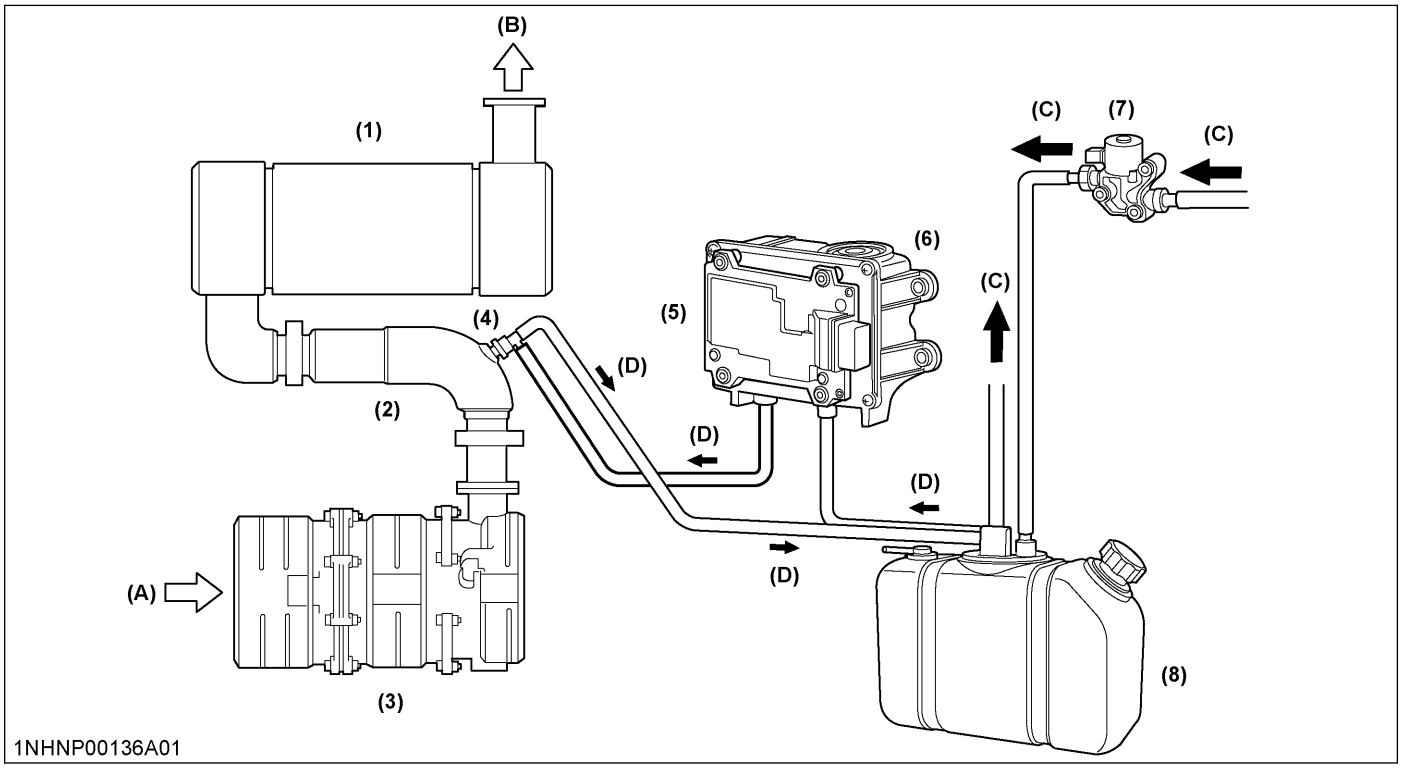
5.1 尿素 SCR システムの概要

重要：

- **尿素 SCR システムを改造することは違法です。絶対に改造しないでください。**
- **尿素水タンクが空の状態でエンジンを運転しないでください。**
- **尿素水(AdBlue)の残量不足や品質不良、または尿素 SCR システムに異常が生じた場合、DPF マフラの自動再生機能や駐車再生機能が正常に作動しない場合があります。**

- 尿素 SCR システムは、排ガス中の窒素酸化物(NOx)を浄化するシステムです。
  尿素水(AdBlue)を還元剤として排ガスの熱で加水分解し、アンモニア(NH_3)を生成します。
  生成したアンモニアが窒素酸化物(NOx)を還元して、窒素と水に分解し浄化します。
  この排ガス浄化機能により、尿素 SCR マフラから排出される排ガスの臭いは従来のディーゼルエンジンと異なります。
- 尿素水(AdBlue)は、-11 ℃で凍結しますが、エンジンの始動には影響しません。
  凍結した尿素水(AdBlue)は、エンジンの冷却水の熱により運転中に融解されます。

構造図



(1) *SCR*（選択還元触媒）マフラ
(2) ミキサーパイプ
(3) ディーゼルパティキュレートフィルタ *(DPF)*
(4) 尿素水インジェクタ
(5) *ACU*（後処理制御装置）
(6) 尿素水ポンプ
(7) 冷却水バルブ
(8) 尿素水タンク
(A) 浄化前の排ガス
(B) 浄化後の排ガス
(C) 冷却水の流れ
(D) 尿素水*(AdBlue)*の流れ

5.2 尿素水(AdBlue)について

- 尿素 SCR システムの還元剤として用いる尿素水(AdBlue)は、32.5%の尿素水溶液です。
- 尿素水(AdBlue)の取扱資格は不要です。また、危険物としての指定もありません。
- ISO22241、または JIS K2247-1 に適合した尿素水(AdBlue)を使用してください。

補足：

- **NOx 還元剤の高品位尿素水は、日本市場ではアドブルー(AdBlue)の商品名で販売されています。**

5.3 尿素水(AdBlue)の取扱い

⚠ 注意

尿素水(AdBlue)の取扱いに関して、次の点にご注意ください。

- **目に入ったときは、すぐに大量の水で 15 分以上洗い流し、医師の診断を受けてください。**
- **絶対に飲まないでください。**
  誤って飲んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。
- **皮膚に付着したときは、すぐに水で洗い流してください。**
  まれに皮膚を刺激する場合があります。
- **衣服や靴に掛かったときは、すぐに洗い流してください。**
  そのまま拭き取ったり、乾かしたりすると、白い残留物が残ります。

詳細については、尿素水(AdBlue)の購入先から安全データシート(SDS)を入手してご確認ください。

尿素水(AdBlue)をこぼした場合は、すぐに水道水で洗い流してください。そのまま放置すると、金属部が錆びたり、塗装面が腐食する可能性があります。また、樹脂部分やゴム部品が変形する可能性があります。

5.4 尿素水(AdBlue)の品質について

重要：

- **尿素水(AdBlue)から強いアンモニア臭がする場合は、品質が低下している可能性があります。尿素水(AdBlue)の品質を確認するため、3 か月に 1 度は尿素水タンクに入っている尿素水(AdBlue)の臭いを確認してください。**
- **尿素水タンク内の尿素水(AdBlue)から強いアンモニア臭がする場合は、尿素水タンクから尿素水(AdBlue)をすべて容器に排出してください。**
  （尿素水(AdBlue)の排出については、尿素水(AdBlue)の排出（58 ページ）を参照）
  その後、尿素水タンク内を蒸留水で洗い流し、新しいまたは良好な尿素水(AdBlue)を補給してください。
- **3 か月以上機械を使用しない場合は、尿素水(AdBlue)を尿素水タンクから全て排出して下さい。**
- 尿素水(AdBlue)を購入する場合は、ガソリンスタンド、トラックステーション、専門店で入手できますが、必ず ISO 22241、または JIS K2247-1 の適合品を使用してください。適合品以外のものを使用すると、エンジンが故障する原因となります。
- 尿素水(AdBlue)を保管する環境は、-5 ℃～30 ℃が適切です。次の表をご参考ください。30 ℃を超える環境では保管有効期間が短くなるため避けてください。
  （尿素水(AdBlue)の保管方法については、購入した尿素水(AdBlue)の保管（58 ページ）、または尿素水タンク内での尿素水(AdBlue)の保管（59 ページ）を参照）

周囲温度	保管有効期間
≦10 ℃	36 か月
≦25 ℃	18 か月
≦30 ℃	12 か月
≦35 ℃	6 か月
≦40 ℃	3 か月

- 尿素水(AdBlue)を希釈しないでください。
- 尿素水(AdBlue)の品質が低下した場合、エンジン出力の低下や故障が生じる可能性があります。

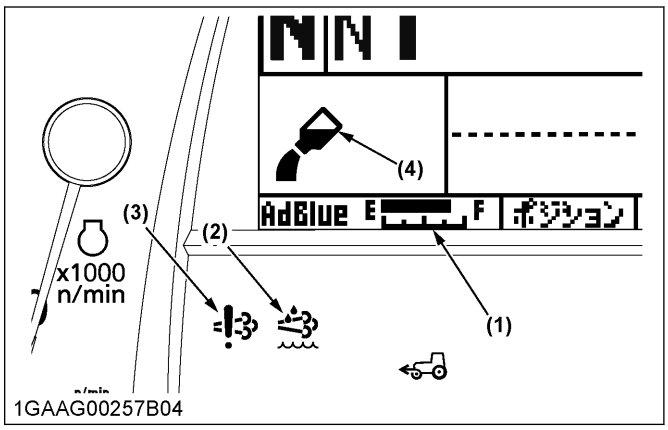
補足：

- **尿素水(AdBlue)を交換する際に、蒸留水を利用できない場合は、水道水ですすいだ後、再度、尿素水(AdBlue)でじゅうぶんに洗い流し、新しい、または良好な尿素水(AdBlue)を補給してください。**
- **尿素水(AdBlue)を交換する際は、必ずキースイッチを切ってから行ってください。**

5.5 SCR の警告表示

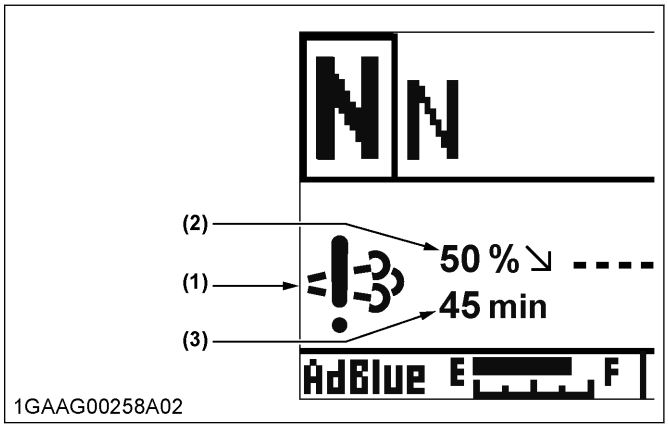
5.5.1 尿素水(AdBlue)残量低下時の警告表示

排ガス規制に対応するため、本機は尿素水(AdBlue)の残量によるエンジン出力制御を行っています。
エンジン始動後、電子メータの尿素水(AdBlue)ゲージで尿素水(AdBlue)の残量を確認してください。
尿素水(AdBlue)の残量が少なくなると残量警告アイコンが点灯し、ブザーが鳴ります。そのまま運転を続けるとエンジン出力が約 50%に制限されます。さらに運転を続けるとエンジンがアイドリング状態になります。
なお、このような制限は、日本国内の排ガス規制に沿って行っています。



(1) 尿素水*(AdBlue)*ゲージ
(2) 尿素水*(AdBlue)*インジケータ
(3) *SCR* システム警告灯
(4) 尿素水*(AdBlue)*残量警告

5.5.2 SCR 警告情報



(1) *SCR* システムアイコン
(2) エンジン出力レベル
(3) 次の規制が作動するまでの時間

表示される SCR システムアイコンの種類

	尿素水(AdBlue)残量警告		SCR システム警告
	尿素水(AdBlue)品質不良警告		尿素水(AdBlue)解凍

5.6 故障診断コード（DTC：Diagnostic Trouble Code）



(1) 故障診断コード

補足：

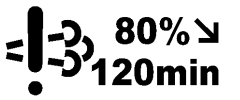
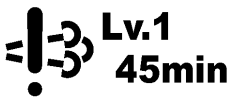
- **DTC は、エンジンや尿素 SCR マフラの故障診断に使われるコードです。**
  例："5435-12"

5.7 SCR の警告情報一覧と対応

尿素 SCR システムは、尿素水(AdBlue)の残量、品質や機械のトラブルを見張っています。もし、運転中に不具合が生じると下表の警告を発します。警告内容に従って正しく処置してください。

表示アイコン	インジケータ	現象と処置
		尿素水(AdBlue)の残量が 40%になった場合、左記警告表示が点灯します。 尿素水(AdBlue)を補充すると警告表示が消えます。*1 トラクタの性能を維持するため、点灯後できるだけ早く、尿素水(AdBlue)を補充してください。 もし補充を行わず運転を続けるとエンジン出力が制限されます。
		尿素水(AdBlue)の残量が 5%になった場合、左記警告表示が点灯し、エンジン出力が 50%に制限されます（エンジン出力制限レベル：1）
		もし補充を行わず運転を続けると、エンジン出力制限レベル 1 から 2 へのカウントダウンが開始され、ディスプレイにも表示されます。 （エンジン出力制限レベル 2 までの移行時間は最低 30 分間確保していますが、作業条件により 30 分より延びる場合もあります）
		左記警告表示が点灯すると、エンジンがアイドリング状態となります（エンジン出力制限レベル：2）。 トラクタを安全な場所に止め、尿素水(AdBlue)を補充してください。*1
		ディーゼル軽油や粗悪な尿素水(AdBlue)を補充すると、左記警告表示が点灯します。 直ぐ良質な尿素水(AdBlue)と交換してください。 もし交換せずに運転を続けると、エンジン出力制限レベル 1 へのカウントダウン(195 分)が開始され、ディスプレイにも表示されます。
		カウントダウンが終了すると、左記警告表示が点灯し、エンジン出力が 50%に制限されます（エンジン出力制限レベル：1） もし交換せずに運転を続けると、エンジン出力制限レベル 1 から 2 へのカウントダウン(45 分)が開始され、ディスプレイにも表示されます。
		左記警告表示が点灯すると、エンジンがアイドリング状態となります（エンジン出力制限レベル：2） トラクタを安全な場所に止め、尿素水(AdBlue)を補充してください。

*1　尿素水(AdBlue)の補充や良質な尿素水(AdBlue)と交換した場合、警告表示が消灯し、エンジンの出力制限も解除されます。

表示アイコン	インジケータ	現象と処置
		SCR システムに異常が生じると、左記警告表示が点灯します。ディスプレイに表示される DTC を確認のうえ、購入先へ連絡してください。 エンジン出力は制限されません。 もし処置を行わずに運転を続けると、エンジン出力制限レベル 1 へのカウントダウン(195 分)が開始され、ディスプレイにも表示されます。
		重要な排ガス制御部品に故障が生じると、エンジン出力制限レベル 1 に達するまでのカウントダウン中でも、エンジン出力が制限されます。 左記警告例では、エンジン出力が 80%に制限中です（故障内容により制限値(%)は異なります）。 そして、120 分後にはエンジン出力が 50%に制限されます（エンジン出力制限レベル：1）。
		カウントダウンが終了すると、左記警告表示が点灯し、エンジン出力が 50%に制限されます（エンジン出力制限レベル：1）。 もし処置を行わずに運転を続けると、エンジン出力制限レベル 1 から 2 へのカウントダウン(45 分)が開始され、ディスプレイにも表示されます。
		左記警告表示が点灯すると、エンジンがアイドリング状態となります（エンジン出力制限レベル：2）。 トラクタを安全な場所に止め、ディスプレイに表示される DTC を確認のうえ、購入先へ連絡してください。
	---	極低温のため尿素水(AdBlue)が凍結すると、左記表示が点灯します。 トラクタを停止したまま暖機運転を行ってください。
	---	尿素水(AdBlue)が凍結のため、エンジン出力が 80%に制限されています（凍結状態により制限値(%)は異なります）。 作業に支障がなければ運転可能です。

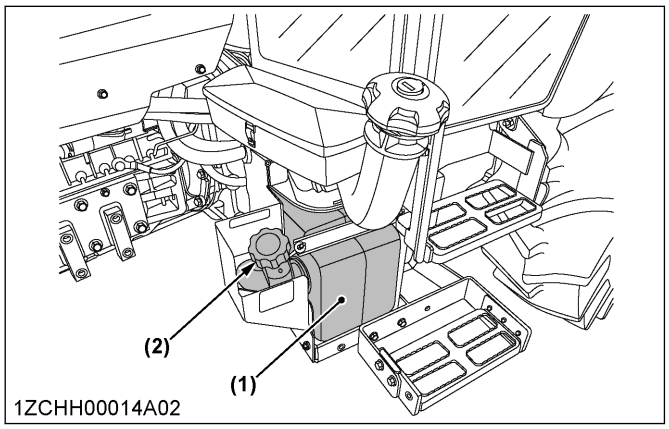
補足：

- **エンジンの出力規制について：**
  表示アイコンの[Lv.1]と[Lv.2]は、エンジン出力制限レベルを表しています。
  [Lv.1](レベル 1)：最大トルクが 50%、エンジン回転数も 60%に制限される。
  [Lv.2](レベル 2)：エンジン回転数がアイドリング状態に規制される。
- **故障が生じると、エンジン出力を[Lv.2](レベル 2)に制限する場合もあります。**
  故障箇所とその内容によって、インジケータでの警告やエンジン出力の制限値等が異なる場合があります。
  SCR システム警告は警告順にエンジン出力も下がります。
  SCR システムに異常が生じると、エラーコードが表示されエンジン出力をアイドリング状態（[Lv.2]：レベル 2）に制限する場合もあります。
  例：エラーコード[1761-1]が表示されると、エンジン出力は[Lv.2]に制限がかかります。
- **処置後のポイント：**
  タンクの尿素水(AdBlue)を交換した場合、補充量が排水量より少なかったときは、SCR システム異常が表示されます。（[4350-15]エラーコードが表示される）エラーコードが表示されたときは、キースイッチを切にし数分間待ちます。再度キースイッチを入にするとエラーコードが消えます。
- **尿素水(AdBlue)の残量不足、品質不良品の補充または、SCR システムに異常が生じた場合、DPF マフラの自動再生や駐車再生が作動しない場合があります。**
- **表示アイコンの右下の時間は規制がかかるまでの最短の時間を表しています。**
- **SCR システム警告（40 時間内の警告記録）について：**
  - **基本的に、故障箇所が修復されると警告や制限された運転は解消します。**
  - **ただし、修復から 40 時間内に同じ故障を検出した場合は、前回警告が検出された状態を呼び戻し、カウントダウンが再スタートします。**
  - **40 時間内の警告記録は、修復から 40 時間以上経過すると初期状態に戻ります。**

5.8 尿素水(AdBlue)の補給

重要：

- **尿素水タンクのキャップは青色です。燃料タンクに尿素水(AdBlue)を入れないでください。また、尿素水タンクに軽油を入れないでください。**
- **尿素水タンク内に軽油など、尿素水(AdBlue)以外のものを微量でも混入してエンジンを始動すると、尿素 SCR システムが故障します。エンジンを始動させず、すぐに購入先に連絡してください。**
- **尿素水タンク内に軽油など、尿素水(AdBlue)以外のものを混入した場合、保証対象外となります。修理、メンテナンスに掛かる費用はお客様負担となりますのでご注意ください。**



(1) 尿素水タンク
(2) 尿素水タンクキャップ（青色）

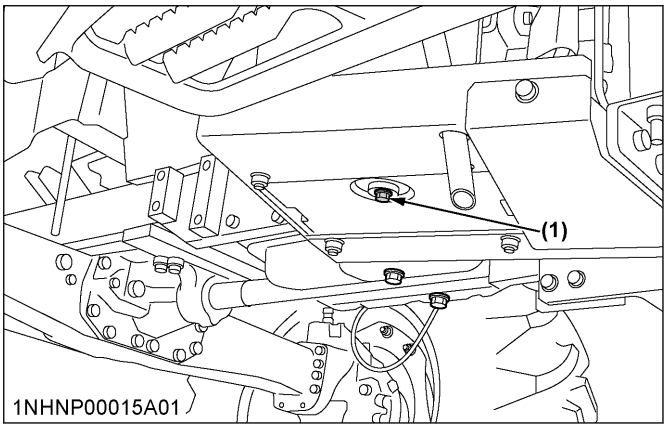
- 尿素水(AdBlue)を尿素水タンクへ補給する前に、土やホコリなどの異物が混入しないよう、ノズルや補給口周辺を清掃してください。
- 尿素水(AdBlue)の補給は、必ずキースイッチを切ってから行ってください。
  エンジン停止後、最大約 15 分間尿素 SCR システムが作動します。
  尿素 SCR システムが停止する前に補給すると、尿素水タンクのブレザーホースから尿素水(AdBlue)が溢れる可能性があります。
- 尿素水(AdBlue)の保管容器や補給容器は清潔にしてください。容器が汚れている場合、蒸留水で洗浄してください。尿素水(AdBlue)を交換する際に、蒸留水を利用できない場合は、水道水ですすいだ後、再度、尿素水(AdBlue)でじゅうぶんに洗い流してください。
- 尿素 SCR システムの性能を維持するために、燃料タンクに燃料を補給するたびに尿素水タンクに尿素水(AdBlue)を補給することをお勧めします。

5.9 尿素水(AdBlue)の排出

重要：

- **尿素水タンクが空の状態でエンジンを運転しないでください。**
- 尿素水(AdBlue)を排出するときは、図のドレーンプラグを外して容器に排出してください。
- ドレーンプラグのゴム製 O リングに油が付着しないよう注意してください。
- ドレーンプラグを取り付ける際、破損する恐れがあるので、絶対に締めすぎないでください。また、締付けに電動工具を使用しないでください。

ドレーンプラグ締付トルク	4.0 N·m～6.0 N·m (0.41 kgf·m～0.61 kgf·m)



(1) ドレーンプラグ

- 尿素水(AdBlue)を排出する際は、必ずキースイッチを切ってから行ってください。
- 尿素水タンク内の尿素水(AdBlue)を排出して交換する際、補給量が排出量より少ない場合は、電子メータに尿素 SCR システム異常"4350-15"が表示されます。エラーコード"4350-15"が表示された場合は、10 分間エンジンを運転させるとエラーコードが消えます。10 分以上エンジンを運転させてもエラーコードが消えないときは購入先に連絡してください。このエラーを回避するために、尿素水(AdBlue)を交換する場合、毎回満タンにすることをお勧めします。
- 排出した尿素水(AdBlue)を廃棄する場合は、尿素水(AdBlue)の廃棄（59 ページ）を参照してください。

5.10 購入した尿素水(AdBlue)の保管

- 尿素水(AdBlue)を保管する場合、次の点に注意してください。
  - 容器をしっかりと密閉する。
  - 直射日光を避ける。
  - 風通しの良い屋内に保管する。
  - 温度変化の少ない場所に保管する。
- 次に該当する尿素水(AdBlue)は、未使用であっても使用しないでください。尿素水(AdBlue)が劣化しており、尿素 SCR システムが故障する可能性があります。
  - 保管期間が不明な場合
  - 保管していた環境が不明な場合（特に高温環境下）
  - 強いアンモニア臭がする場合

- 尿素水(AdBlue)を保管、携帯する場合は、購入時の容器を使用してください。また、他の容器を使用する場合は専用容器を準備して下さい。専用容器は、水やゴミなどの異物が付着していないきれいなポリエチレン樹脂タンク(PE)、またはステンレス鋼の容器をご使用ください。
- 尿素水(AdBlue)の保管や補給に使用する容器は、汚れやほこりがないようにしてください。汚れを洗浄する際は、蒸留水を用いて洗浄して下さい。尿素水(AdBlue)を交換する際に、蒸留水を利用できない場合は、きれいな水ですすいだ後、再度、尿素水(AdBlue)でじゅうぶんに洗い流してください。
- 尿素水(AdBlue)を保管する環境は、-5 ℃～30 ℃が適切です。次の表をご参考ください。30 ℃を超える環境では保管有効期間が短くなるため避けてください。

周囲温度	保管有効期間
≦10 ℃	36 か月
≦25 ℃	18 か月
≦30 ℃	12 か月
≦35 ℃	6 か月
≦40 ℃	3 か月

補足：
- **保管有効期間は目安です。尿素水(AdBlue)の保管状態によっては、目安より保菅有効期間が短くなることがあります。**

- 尿素水(AdBlue)は–11 ℃以下になると凍結します。尿素水(AdBlue)は凍結しても品質に問題はありません。融解後、そのまま使用してください。

5.11 尿素水タンク内での尿素水(AdBlue)の保管

重要：
- **尿素水(AdBlue)から強いアンモニア臭がする場合は、品質が低下している可能性があります。尿素水(AdBlue)の品質を確認するため、3 か月に 1 度は尿素水タンクに入っている尿素水(AdBlue)の臭いを確認してください。**
- **尿素水タンク内の尿素水(AdBlue)から強いアンモニア臭がする場合は、尿素水タンクから尿素水(AdBlue)をすべて容器に排出してください。（尿素水(AdBlue)の排出については、尿素水(AdBlue)の排出（58 ページ）を参照）その後、尿素水タンク内を蒸留水で洗い流し、新しいまたは良好な尿素水(AdBlue)を補給してください。**
- **3 か月以上機械を使用しない場合は、尿素水(AdBlue)を尿素水タンクからすべて排出して下さい。その後、機械を使用する際は新しいまたは良好な尿素水(AdBlue)を満タンまで補給して下さい。**

補足：
- **尿素水(AdBlue)の品質が低下した場合、エンジン出力の低下や故障が生じる可能性があります。**
- **尿素水(AdBlue)を交換する際に、蒸留水を利用できない場合は、水道水ですすいだ後、再度、尿素水(AdBlue)でじゅうぶんに洗い流し、新しいまたは良好な尿素水(AdBlue)を補給してください。**
- **尿素水(AdBlue)を交換する際は、必ずキースイッチを切ってから行ってください。**
- **尿素水タンク内の尿素水(AdBlue)を排出して交換する際、補給量が排出量より少ない場合は電子メータに尿素 SCR システム異常"4350-15"が表示されますが故障ではありません。（詳細は、尿素水(AdBlue)の排出（58 ページ）を参照）**

5.12 尿素水(AdBlue)の廃棄

環境汚染につながる可能性があるため、使用済みの尿素水(AdBlue)は適切に処分してください。廃棄方法については、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談してください。

5.13 エンジン停止後の取扱注意点

エンジン停止後最大約 15 分間、尿素 SCR システムが自動で作動し、凍結や詰まりを防止するために配管の中の尿素水(AdBlue)を尿素水タンクに戻します。
エンジン停止後も尿素 SCR システムから作動音が聞こえる場合がありますが、異常ではありません。エンジン停止後は次の点に注意してください。
- 尿素 SCR システムが停止するまで、バッテリ端子を外さないでください。システム機器が故障するおそれがあります。
- 尿素 SCR システムが停止してから尿素水(AdBlue)を補給してください。尿素 SCR システムが停止する前に補給すると、尿素水タンクのブレザーホースから尿素水(AdBlue)が溢れる可能性があります。

5.14 寒冷地での使用時の注意点

- 寒冷時、尿素水(AdBlue)は-11 ℃以下で凍結しますが、エンジンの始動には影響しません。
- 凍結した尿素水(AdBlue)は運転中に自動で融解されます。
- 融解中は尿素 SCR システム保護のため、出力制限が掛かる場合があります。
- -30 ℃以下では完全に融解されない場合があり、その際故障診断コード"5435-12"が電子メータに表示されます。
  故障コード"5435-12"が表示されたときは、エンジンを停止し、10 秒後に再始動してください。
  エンジンを再始動すると故障診断コード"5435-12"の表示が消え、尿素水(AdBlue)を再度融解します。

エンジンの再始動を数回繰り返しても故障診断コード"5435-12"の表示が消えないときは購入先に連絡してください。



1GAAG00372A01

(1) 故障診断コード

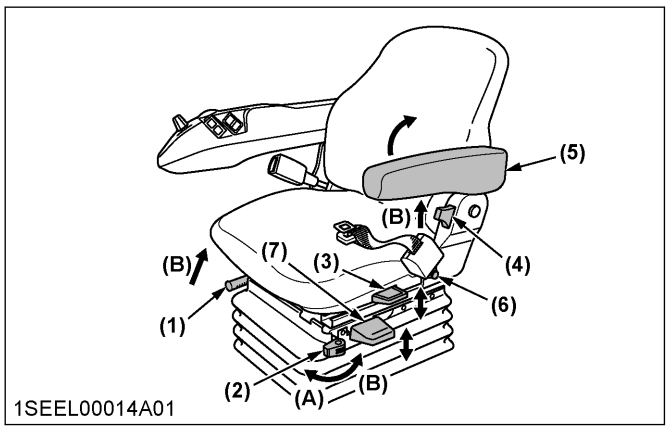
5.15 尿素 SCR システムの関連部品のメンテナンス

尿素 SCR システムの関連部品を定期的に点検、清掃、および交換してください。
メンテナンスの詳細については、トラクタの点検・整備のしかた（190 ページ）でご確認ください。

トラクタ装置各部の取扱い

1. 運転席周りの調節

1.1 シート



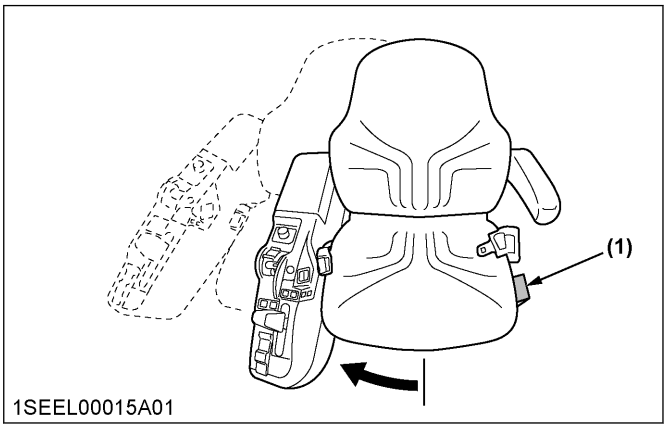
1SEEL00014A01

(1) 前後調節レバー
(2) 前後サスペンションレバー
(3) スイベル調節レバー
(4) リクライニング調節レバー
(5) 左アームレスト
(6) シートベルト巻取りボタン
(7) シート高さ / 体重調整レバー
(A) 固定
(B) 解除

前後調節レバー
前後調節レバーを引くと、シートが前後に調節できます。

前後サスペンションレバー
前後サスペンションレバーを解除位置にすると、シートが少し前後にスライドできます。固定位置にすると、シートが固定されます。

スイベル調節レバー
スイベル調節レバーを上げると、シートが右に回転します。
- 常に後方を見ながらの作業時に使用します。



1SEEL00015A01

(1) スイベル調節レバー

リクライニング調節レバー
リクライニング調節レバーを上げると、背もたれの角度が調節できます。

左アームレスト
左アームレストは、後方へ向けられます。

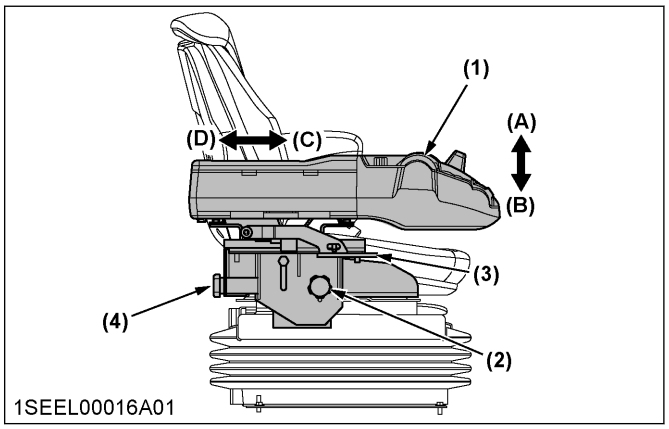
シートベルト巻き取りボタン
シートベルト巻き取りボタンを押し、シートベルトを引出して装着します。
シートベルトを外した後、シートベルト巻取りボタンを押して巻取ります。

シート高さ / 体重調整レバー
シートに座った状態で、キースイッチ**[入]**位置にした後、シート高さ / 体重調整レバーを上げ側に操作すると、エアコンプレッサが作動し、シート高さとクッションがオペレータの体重に応じ調整範囲の最下位置に自動調整されます。
微調整が必要な場合は、レバーを上または下に操作し調整してください。

補足：
- **シート高さ / 体重調整レバーでシート高さを調節範囲以下に下げた場合には、レバーから手を離すと自動的に調節範囲の下限位置までシートが上がります。**
- **シート高さが調節範囲内より下に位置している場合、キースイッチを[入]位置にすると、エアコンプレッサーが作動し、シートが調節範囲の下限位置まで自動的に上がります。**

重要：
- **エアコンプレッサは 1 分以上連続作動させないでください。**

右アームレスト
右アームレストの位置は工具を使用せずに前後および上下に調節できます。上下調節はノブボルトを取外しノブナットを緩め、アームレストを上下にスライドさせ、レバーやスイッチ類が操作しやすい位置でノブボルトを取付けてノブボルト、ノブナットをそれぞれ固定してください。前後調節はレバーを上に持ち上げてアームレストを前後にスライドさせて行います。
上下調節は 5 段階となります。



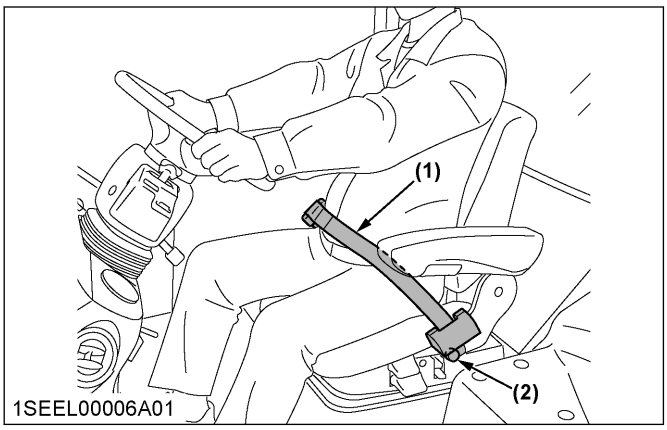
(1) 右アームレスト
(2) ノブナット
(3) レバー
(4) ノブボルト
(A) 高い
(B) 低い
(C) 前側
(D) 後側

1.2 安全キャブとシートベルト

安全キャブは、万一トラクタが転倒したときに事故の被害を軽減するものです。シートベルトは、作業者をシートに固定するためのベルトです。

⚠ 警告
転倒・転落による死傷事故防止のため、下記のことを守ってください。
- **トラクタを使用するときは、必ずシートベルトを着用してください。**
- **安全キャブの改造を絶対にしないでください。また、強度に影響する破損、曲がりなどが発生した場合、交換してください。**
- **シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。**

補足：
- **安全キャブは、万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって、すべての傷害を防げるものではありません。**



(1) シートベルト
(2) 巻取りボタン

1.3 インストラクタシート（オプション）

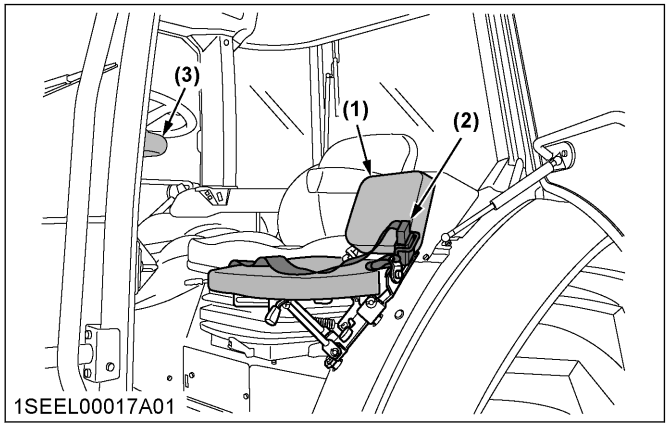
インストラクタシートは、機械の操作を教える人、教わる人、またはサービスを行う人が、ほ場内での教習を目的に供給されているものです。転倒する可能性がまったくない平たんで安全な場所で使用してください。公道で走行するときは使用しないでください。

主な禁止事例
- 教える人、教わる人、またはサービスを行う人以外の人間や動物は乗せないでください。
  - 子供は絶対に乗せないでください。
  - 物を運搬する用途に使用しないでください。
- 人を運搬するなど教習以外の目的では使用しないでください。
- 転倒のおそれがある場所や使い方は絶対に行わないでください。
  - 傾斜地、凸凹の多い場所、ハイスピード、急旋回、牽引、急発進や急停車など。
- 悪天候（雨・霧など）や夕方など周囲の視界が悪い場合は使用しないでください。

1.3.1 インストラクタシート使用時の注意と手順

⚠ 警告
インストラクタシート使用時は下記のことを守ってください。
- **必ずシートベルトを締め、安全キャブ内の手すりを持ってください。**
- **どのような理由があっても子供や大人の移動手段として使用しないでください。**
- **シートに着座時は常に安全キャブの左ドアは施錠してください。**
- **シートに着座した人以外は乗せないでください。**
- **運転者の視界をさえぎったり運転操作の妨げにならないよう注意してください。**
- **急発進、急停止や急旋回は行わないでください。**
- **シートベルトやドアロックが破損時は、使用しないでください。**
- **このシートを運搬用に使用しないでください。**

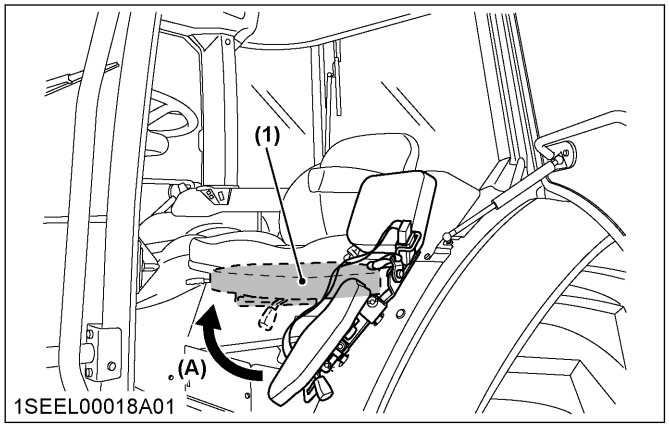
- **シートを使用しないときは、乗降時の障害にならないように折りたたんでください。**
- **シートに座ってのドアの開閉は、ゆっくりと静かに行い、手や身体をドアに挟まないようにしてください。**



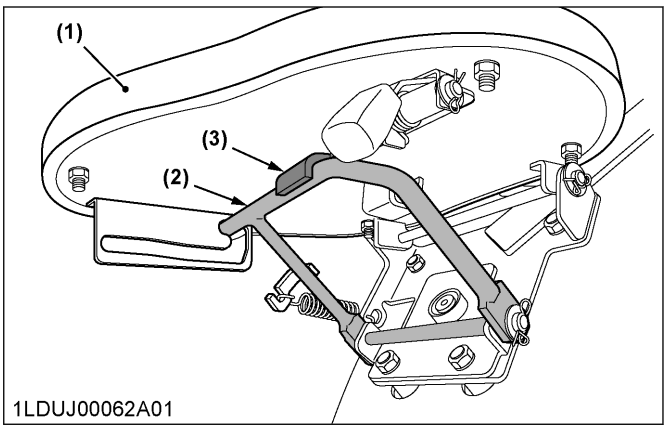
(1) インストラクタシート
(2) シートベルト
(3) 手すり

組立て手順

1. シート裏面のロッドがブラケットで固定される位置までシートを持ち上げます。
2. シート上面を押し、シートが確実に固定されていることを確認してください。



(1) シート　　*(A)* 持ち上げる



(1) シート
(2) ロッド
(3) ブラケット

乗車時の手順

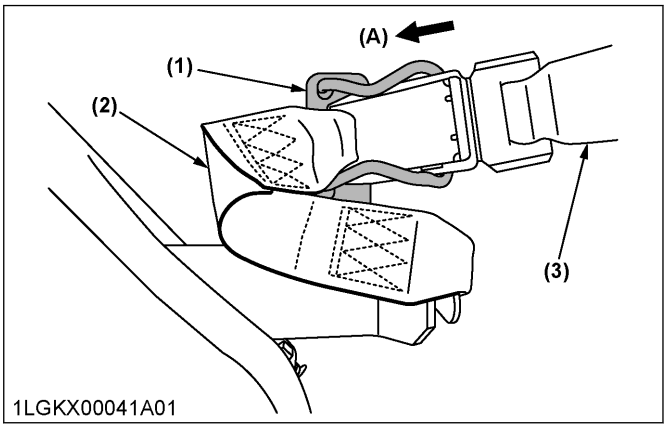
1. 平たんな場所で駐車ブレーキを掛けトラクタを確実に停車させてから、乗車してください。
2. 乗車前にシートが確実に固定されていることを確認してください。また、乗車時操作レバー類に体が触れないようにしてください。
3. シートベルトを装着してからドアを閉め、ドアロックを施してください。

運転中の注意事項

- オペレータの運転の妨げにならないように配慮し、シートに座って教習を進めてください。
- 教習中は、シートベルトを装着し、常時手すりをつかみ、身体の揺れを防いでください。
- トラクタは低速で運転してください。

降車時の手順

1. 平たんな場所で駐車ブレーキを掛けトラクタを確実に停車させてから、降りてください。
2. ドアにシートベルトが挟まれないように、左右のシートベルトはつなぎ、ホルダに収納してください。

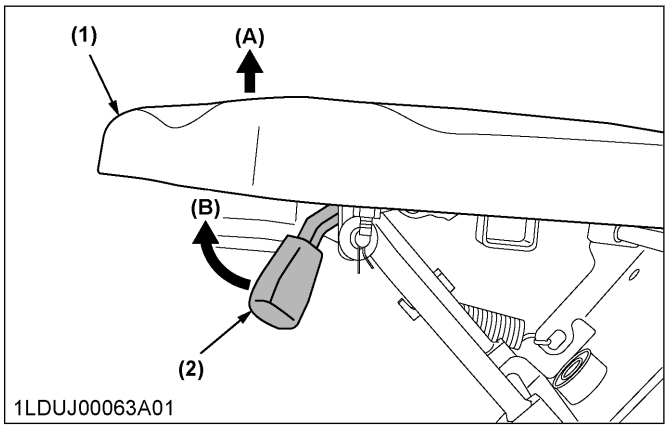


(1) シートベルトホルダ　　*(A)* 差し込む
(2) シートベルト（左）
(3) シートベルト（右）

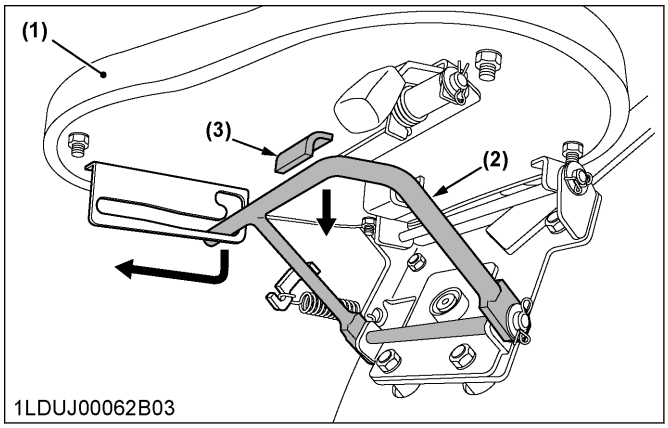
収納手順

シートを折りたたみ時, 手や指を挟まないように注意してください。

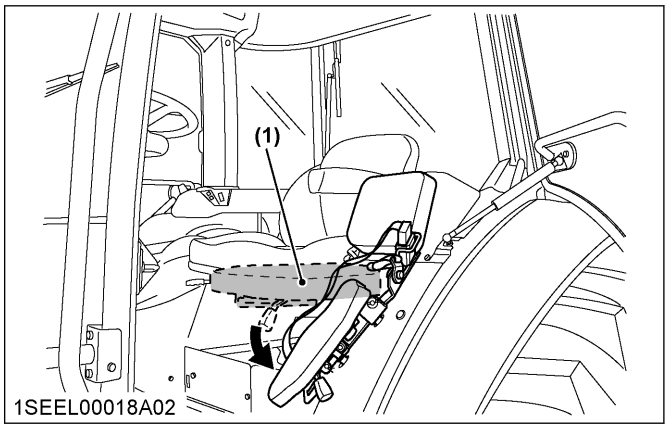
1. シートの前部とレバーを同時に上方へ引き上げます。
2. シート下部のロッドをブラケット部より解放し,そのままシートを下方へ折りたたみます。



(1) シート
(2) レバー
(A) 持ち上げる
(B) レバーを上げる



(1) シート
(2) ロッド
(3) ブラケット



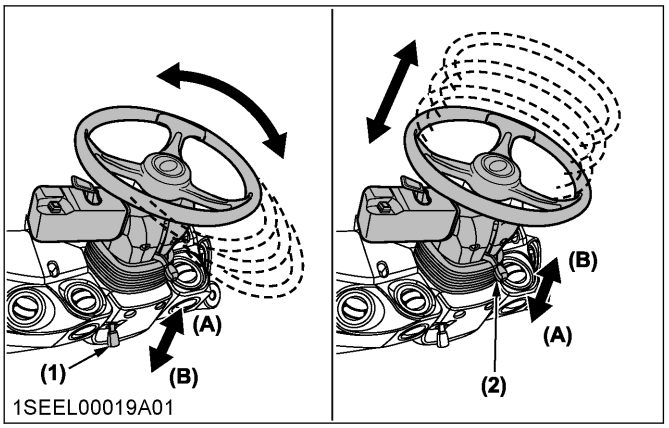
(1) シート

1.4 チルトステアリングハンドル

作業者の体格や運転姿勢に合わせて、ハンドルの角度を変える機能です。

⚠ 注意
- **走行中の調節はしないでください。**
- **調節後、ハンドルがロックされていることを確認してください**

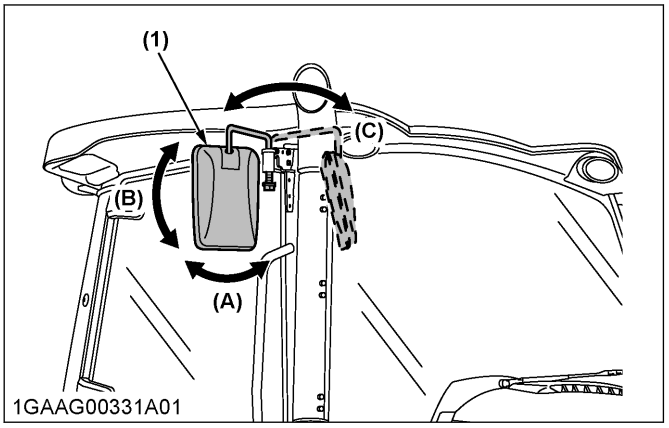
チルトステアリングハンドルの調整はチルトレバーまたはテレスコレバーを解除して行い、適切な位置でレバーを固定してください。



(1) チルトレバー
(2) テレスコレバー
(A) 解除
(B) 固定

1.5 バックミラー

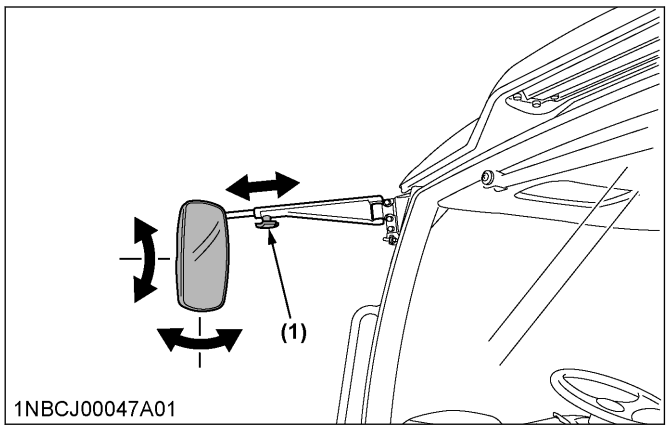
後方の状況を確認するための鏡です。
- バックミラーは、上下・左右に角度調節できます。運転席に座って見やすい位置に調節してください。
- 狭い場所へ格納時は折りたたんでください。



(1) バックミラー
(A) 左右
(B) 上下
(C) 格納位置

1.6 テレスコミラー（オプション）

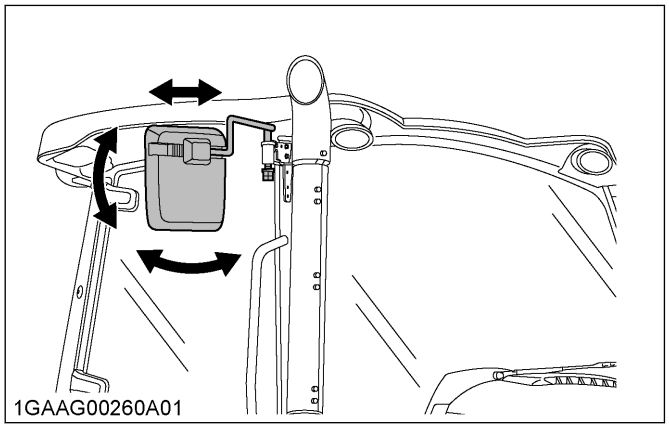
バックミラーの位置を伸ばすことができます。ノブボルトをゆるめて見やすい位置に調節してください。



(1) ノブボルト

1.7 ワイドサイドミラー（オプション）

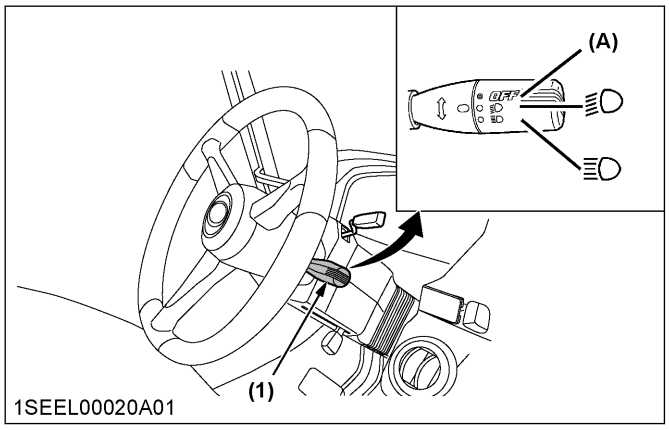
後方の状況を確認するための鏡です。
- バックミラーは、上下・左右に角度調節できます。運転席に座って見やすい位置に調節してください。
- 狭い場所へ格納時は折りたたんでください。



2. 灯火類の操作

2.1 ヘッドライトスイッチ

ヘッドライトを点灯するためのスイッチです。
ノブを回すとスイッチが入り、位置によって次のランプが点灯します。



(1) ヘッドライトスイッチ　　*(A)* *OFF*

[OFF]
　ヘッドライト消灯位置


　ヘッドライト下向き照射位置

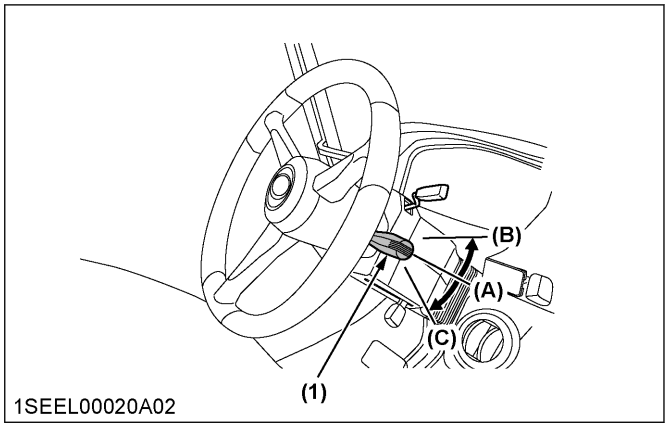

　ヘッドライト上向き照射位置

補足：
- **ヘッドライトが上向き照射時、電子メータ内の  ランプが点灯します。**
- **キースイッチが[切]位置でも点灯します。**

重要：
- **ヘッドライトスイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため、必ずスイッチを[OFF]位置にしてください。**

2.2 ウインカスイッチ

ウインカランプを点滅するためのスイッチです。
- スイッチを操作すると、ウインカランプおよび電子メータ内のパイロットランプが点滅します。
- スイッチはハンドルを戻すと、自動的に中立に戻る、オートリターン機構になっています。

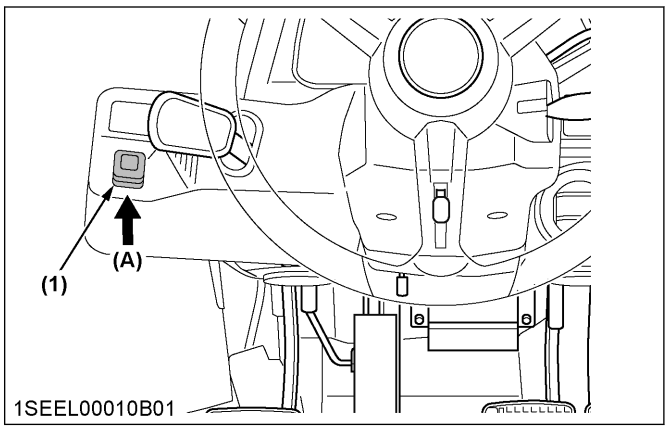


(1) ウインカスイッチ　　*(A)* 中立　*(B)* 左折　*(C)* 右折

補足：
- **ハンドルを切る角度が小さいとスイッチが中立に戻らない場合があります。戻らないときはスイッチを手で戻してください。**

2.3 ハザードスイッチ

故障などで停止した場合、事故を防止するため、非常停止中を知らせるときに使用します。
スイッチを押すとウインカ前後および電子メータ内のウインカ作動パイロットランプが点滅します。
再度スイッチを押すと消灯します。

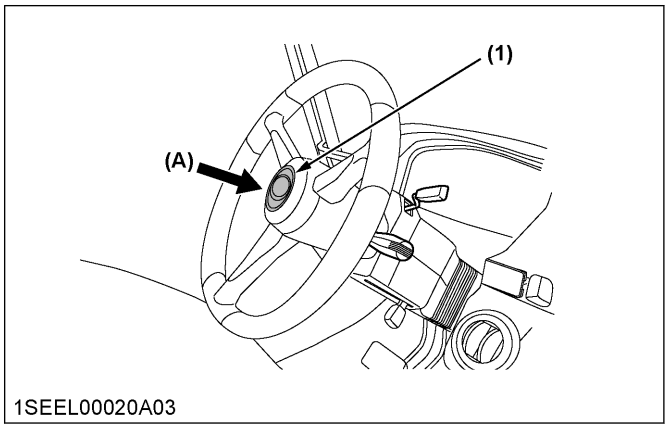


(1) ハザードスイッチ　　*(A)* 押す

補足：
- **ハザードランプはキースイッチが[切]位置でも作動します。**

2.4 ホーンボタン

警笛を鳴らすためのボタンです。
ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。



(1) ホーンボタン　　*(A)* 押す

補足：
- **ホーンはキースイッチが[切]位置でも作動します。**

2.5 バックランプ

後進を知らせるためのランプです。
シャトルレバーを後進の位置に入れると、バックランプが点灯します。

2.6 ブレーキランプ

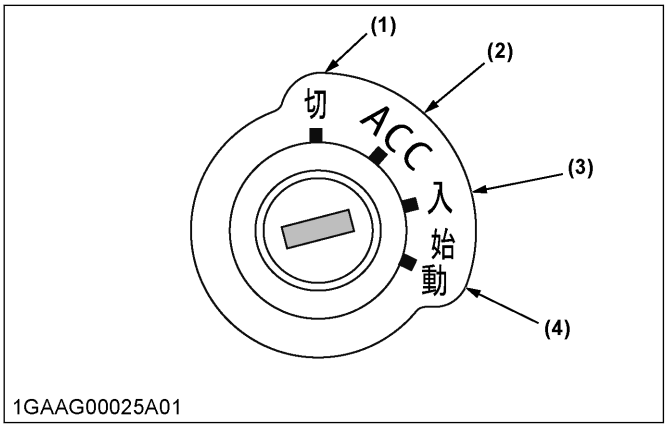
ブレーキ踏み込み時に点灯するランプです。
ブレーキペダル左右を連結金具で連結し、ブレーキペダルを踏むと、ブレーキランプが点灯します。

補足：
- **駐車ブレーキをかけるとブレーキランプは消灯します。**

2.7 車幅灯・尾灯

車幅灯は、夜間などの視界が悪い状況で周囲にトラクタの大きさを知らせるためのランプです。尾灯は、後方にトラクタの存在を知らせるためのランプです。
ヘッドライトに連動して点灯します。

3. キースイッチ



(1) ***[切]***
(2) ***[ACC]***
(3) ***[入]***
(4) ***[始動]***

[切]
エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置です。

[ACC]
エンジン停止中、オーディオや作業灯などのアクセサリが使えます。
この位置で長時間使用しないでください。バッテリあがりの原因になります。

[入]
燃焼室内を予熱する位置です。
エンジン回転中の位置、すべての電気装置が使えます。

[始動]
エンジンを始動する位置です。手を離せば自動的に**[入]**位置に戻ります。

4. ブレーキペダル

ブレーキは、強制的に機体を停止させる装置です。

⚠ 警告
- **道路走行中・登り坂・下り坂およびあぜ越え中は、連結解除ペダルロックレバーを下げ、連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。**
  道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ、転倒や交通事故のおそれがあります。

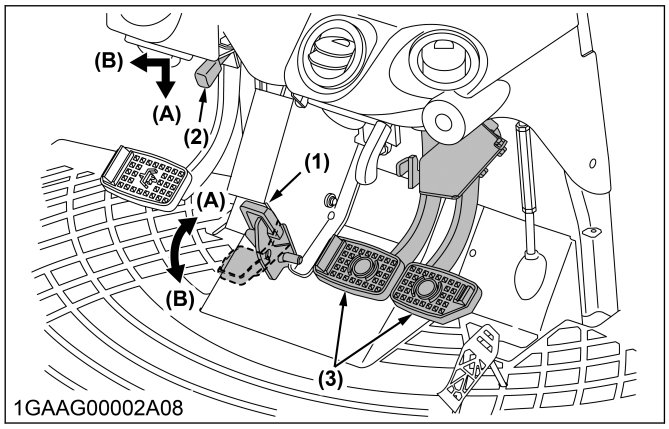
本機の場合、一般車両と異なり、ブレーキペダルは左右それぞれ独立しています。連結解除ペダルを踏み込ま

ないときは、左右のブレーキペダルは連結されており、左右両輪のブレーキが同時に働きます。
連結解除ペダルロックレバーを上げて、連結解除ペダルを解除位置まで踏込んだときのみ、後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。

ブレーキ連結時（両ブレーキ）
- 道路走行時、片ブレーキ操作が不要な農作業時。
- 左右両輪のブレーキが同時に働きます。

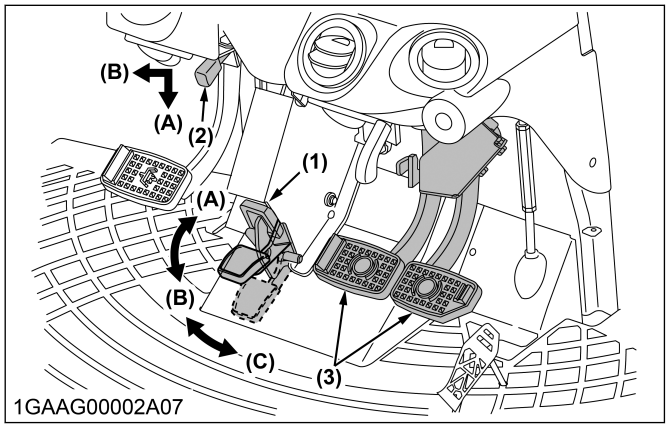
ブレーキ非連結時（片ブレーキ）
- 片ブレーキ操作が必要な農作業時。
- 連結解除ペダルロックレバーを上げて連結解除ペダルを引出し、連結解除ペダルを踏込むと、片ブレーキ操作が可能です。

左右両輪のブレーキが同時に働く



(1) 連結解除ペダル
(2) 連結解除ペダルロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) ロック（格納）
(B) 連結

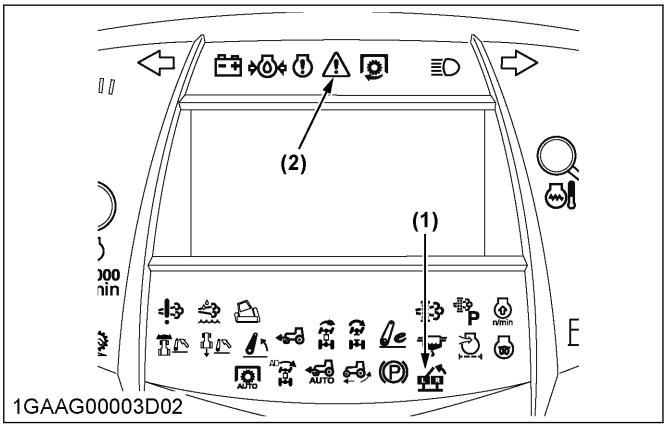
連結解除ペダルを踏込めば、片ブレーキ操作が可能



(1) 連結解除ペダル
(2) 連結解除ペダルロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) ロック（格納）
(B) 連結
(C) 解除（踏込む）

4.1 ブレーキ連結ロック解除警告灯

連結解除ペダルロックレバーを上げるとブレーキ連結ロック解除警告灯が点灯します。
道路走行時などでは連結解除ペダルロックレバーを下げて、ブレーキ連結ロック解除警告灯の消灯を確認してから、走行してください。



(1) ブレーキ連結ロック解除警告灯
(2) システム異常警告灯

電子メータメッセージ
- 連結解除ペダルロックレバーを上げたまま、車速が 10 km/h を超えるとブザーが 1 回鳴ります。同時に ⚠ システム異常警告灯が点灯し、下記メッセージも表示されます。

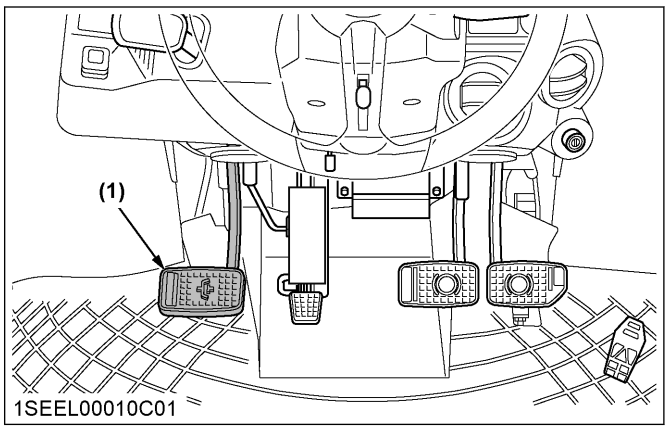


5. クラッチペダル

クラッチは、エンジンの動力を走行部（車輪）に断続する装置です。

ペダルを踏み込む
クラッチが切れる。

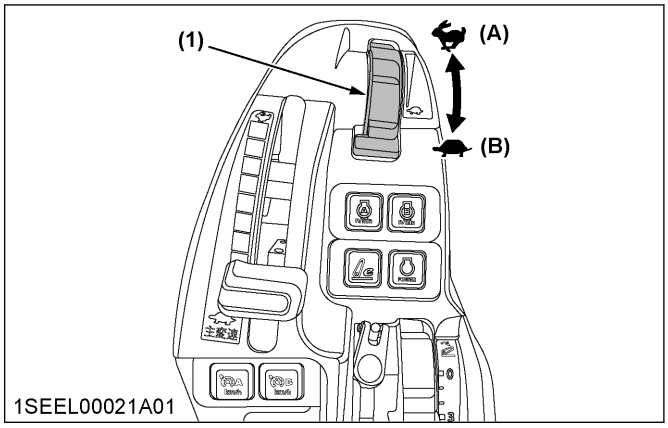
ペダルから足を離す
クラッチがつながる。



(1) クラッチペダル

6. アクセルレバー

アクセルレバーはエンジン回転を調整するためのレバーです。主に農作業時に使用します。



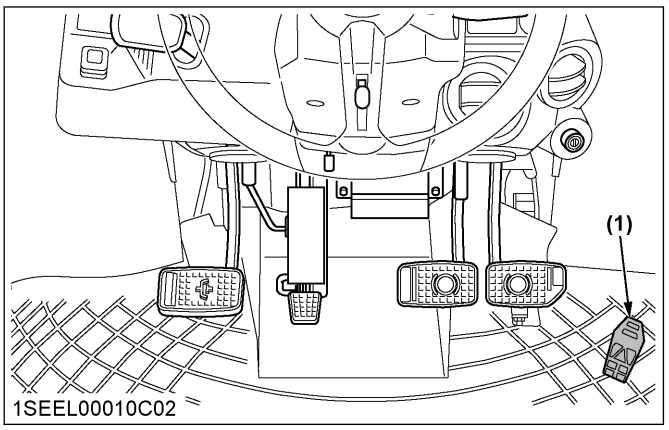
(1) アクセルレバー
(A) 高速
(B) 低速

レバーを前側に押す
エンジン回転が上がる。

レバーを手前に引く
エンジン回転が下がる。

7. アクセルペダル

アクセルペダルはエンジン回転を調整するためのペダルです。主に走行時に使用します。



(1) アクセルペダル

ペダルを踏込む
エンジン回転が上がる。

ペダルから足を離す
アイドリング状態。

8. トランスミッションシフトレバー

8.1 主変速レバー・副変速レバー

主変速レバーと副変速レバーは主変速と副変速を操作するレバーです。

⚠ 警告

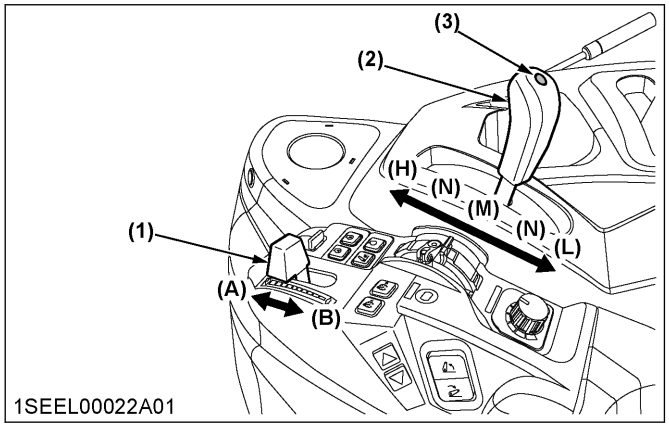
- **急発進はしないでください。**
- **安全のため、急激な変速は避けてください。変速はゆっくり行ってください。**
- **緊急停止時や、作業機の取り付け・取り外しなど狭い場所での作業時には、クラッチペダルの操作で行ってください。**
- **主変速レバーを手前にいっぱい引いても、トラクタは微速で動きます。**
  トラクタを停車させるときは、シャトルレバーを中立（[N]）にして必ず駐車ブレーキを掛けてください。
- **シャトルレバーを前進や後進に入れたまま、ブレーキ停車状態（駐車ブレーキでトラクタの動きを止めること）でトラクタより降りないでください。**
- **走行中は、主変速レバー・副変速レバーに手を置いたままにしないでください。**
- **急な坂道、車両への積み・降ろし、ほ場への出入り、あぜの乗り越えなどでは、途中で変速すると危険ですので、あらかじめ安全な遅い変速位置に入れておいてください。**
- **クラッチボタンを押している間は、クラッチが切れた状態となっています。クラッチボタンを戻すとトラクタが動き出します。**
- **急傾斜地で副変速の切り換えをクラッチボタンの操作のみで行うと、クラッチボタンを押したときトラクタの自重で自走し、危険な場合が予測されま**

す。必ずクラッチペダルとブレーキペダルを踏み込んでから、切り換えを行ってください。
- **低温始動時、ミッションオイルが暖まるまでは、発進までに時間がかかる場合があります。（発進遅れ）**
- **じゅうぶんに暖機運転をしてください。**
- **低温時の発進遅れは異常ではないので、主変速レバーを変速に入れたままトラクタから降りないでください。遅れて動き出すおそれがあります。**

重要：
- **油圧クラッチの寿命を保つため、次の点に注意してください。**
  - **作業に合った車速とエンジン回転を選んでください。**
  - **トラクタの使い始めの変速時に、油圧クラッチのつながり音がする場合がありますが、油温が上がってくると正常になります。**
- **副変速レバーの変速は必ずクラッチペダルとブレーキペダルを踏み、トラクタが完全に停止してから行ってください。走行中の副変速レバーの変速操作やクラッチボタンを押さずに変速すると、ミッションの損傷につながります。**

主変速レバーはクラッチ操作なしで車速を無段階に変えることができ、あらゆる作業機を最適の速度で運転できます。副変速レバーで副変速レンジを**[H]**位置、**[M]**位置または**[L]**位置に切替えた後、主変速レバーを前方に倒すと増速され、手前に引くと減速されます。

補足：
- **電子メータパネルに表示される車速を参考に、主変速レバー位置を決めてください。常に一定車速が得られます。**
  （電子メータパネルの表示については液晶画面の通常画面とアームレスト操作部（76 ページ）を参照してください。）



(1) 主変速レバー
(2) 副変速レバー
(3) クラッチボタン
(A) 増速（+）
(B) 減速（−）
(H) 高速
(N) 中立
(M) 中速
(L) 低速

1. クラッチペダルとブレーキペダルを踏み、トラクタを完全に停止させてください。
2. クラッチボタンを指で押しながら、副変速レバーを**[H]**位置、**[M]**位置または**[L]**位置へ動かした後、クラッチボタンから指を離します。
   副変速レバーが**[L]**位置で低速、**[M]**位置で中速、**[H]**位置で高速が得られます。

補足：
- **走行中にクラッチボタンを押すと、押している間クラッチが切れます。**
  ボタンを解放するとクラッチがつながり発進します。
- **クラッチがつながっているときに、シャトルレバーが前進・後進に入った状態で、クラッチボタンを押さずに副変速レバーを[H]位置、[M]位置または[L]位置に変速すると、警告ブザーが鳴り発進しません。この場合、ブザーを止め再発進するには次の手順で行ってください。**
  1. **副変速レバーを中立（[N]位置）に戻します。**
  2. **副変速レバーのクラッチボタンを押しながら[H]位置、[M]位置または[L]位置に変速します。**
  3. **クラッチボタンを離すと発進します。**

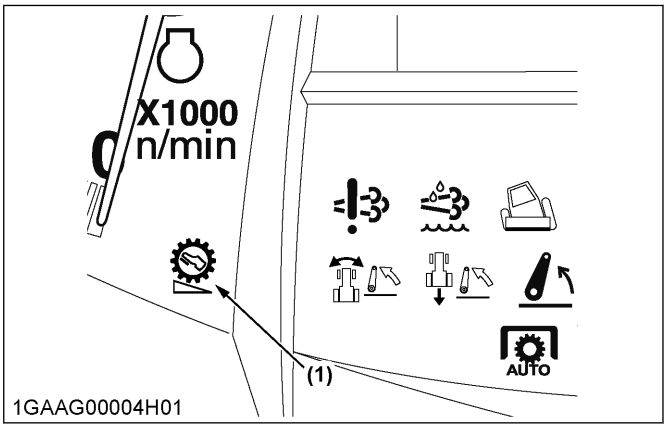
  （別法）
  1. **クラッチペダルを踏込後、クラッチペダルを離しても発進します。**

8.1.1 アクセル連動

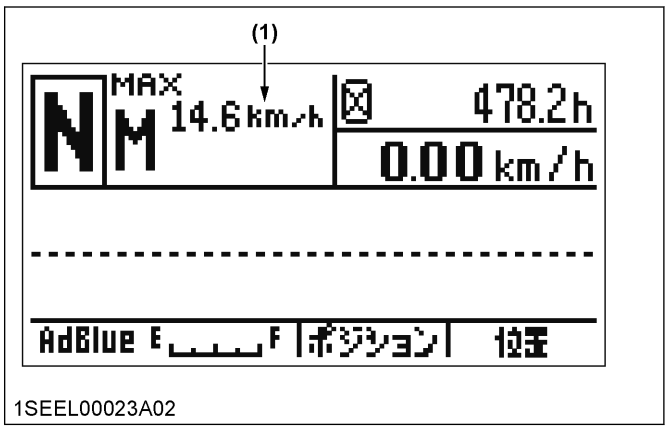
本機は副変速レバーが**[H]**位置または、副変速レバーが**[M]**位置あるいは**[L]**位置でなおかつアクセルレバーがアイドリング位置のとき、アクセルペダルの踏み込み加減に応じてエンジン回転数と車速を同時に制御できます（アクセル連動）。

ペダルを踏み込む	エンジン回転数の上昇に応じて車速も速くなる。
ペダルを離す	エンジン回転数の減少に応じて車速も遅くなる。

アクセル連動中はアクセル連動灯が点灯し、最高車速表示のみになります。

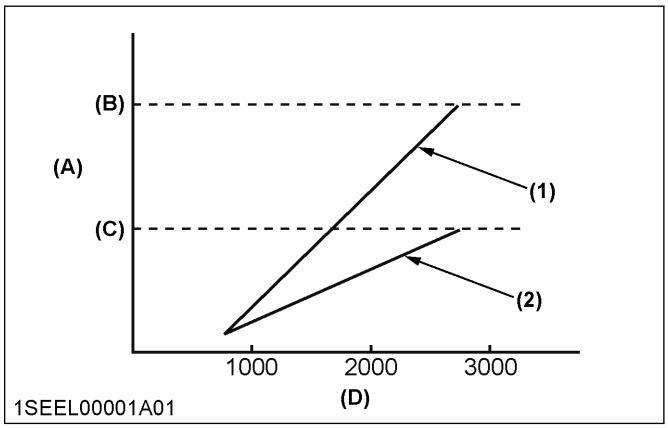


(1) アクセル連動灯



(1) 最高車速表示

なお、希望最高速度は主変速レバー、最高車速設定、エンジン上限回転設定により決まります。



(1) 主変速レバーを最高速位置にセット時の速度
(2) 主変速レバーを中間位置にセット時の速度
(A) 車速
(B) 最高速
(C) *1/2* 速
(D) エンジン回転数*(rpm)*

補足：

- **走行中はアクセルレバーを動かしても、アクセル連動へ切り替わりません。**
  切り替えは次の手順で行ってください。
  1. シャトルレバーを中立（[N]位置）に戻す。
  2. アクセルレバーを動かす。

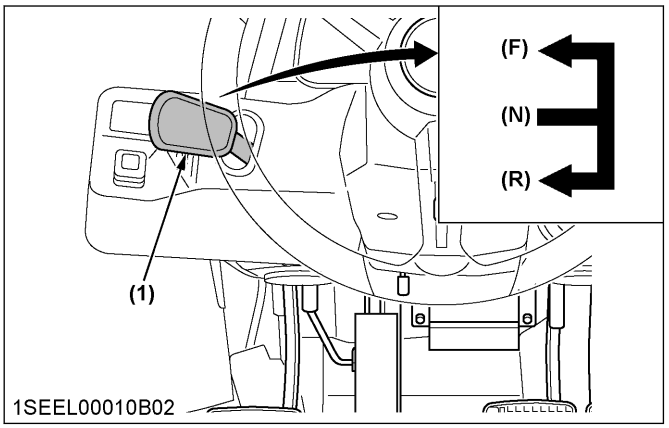
8.2 シャトルレバー

トラクタの進行方向を選択するレバーです。

⚠ 警告

- **高速（11 km/h 以上）で前進・後進の切り換えを行うとクラッチが切れ、警告ブザーが鳴る装置を設けていますが 10 km/h 前後のスピードでもたいへん危険です。必ずエンジン回転を低速にしてから切り換えるようにしてください。**
- **急傾斜地で前進・後進の切り換えをシャトルレバーのみの操作で行うと、前進・後進が切り換わるときトラクタの自重で自走し、危険な場合が予想されます。必ずクラッチペダル・ブレーキペダルを踏み込んで切り換えを行い、クラッチペダルで発進してください。**

- シャトルレバーを持上げて、前進（後進）から後進（前進）に操作すると、マイコンコントロールでスムーズな切換えを行い前進（後進）と同じスピードで後進（前進）します（切換え時のショックが少なく、タイヤがスリップしないので草地作業にも適しています）。
- クラッチペダルを踏まなくてもシャトルレバーの操作で前進・後進の切換えができます。
- 坂道で前進・後進の切換えを行うときは、必ずブレーキペダルを踏み込んでトラクタが停止してから行ってください。ブレーキを使用しないで前進・後進の切換えを行うとシャトルクラッチの寿命の低下や損傷の原因になります。



(1) シャトルレバー
(F) 前進
(N) 中立
(R) 後進

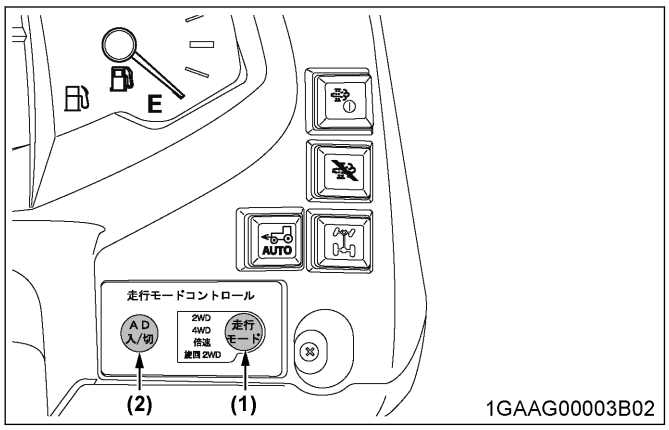
補足：

- **トラクタの速度が 11 km/h 以上の状態で、シャトルレバー前進・後進の切換えを行うと、自動的にクラッチが切れ、警告ブザーが鳴ります。**
- **もしブザーが鳴ったときには、シャトルレバーを元の位置に戻してください。ブザーが止まりクラッチもつながります。警報ブザーが鳴ったままの状態で放置しないでください。**

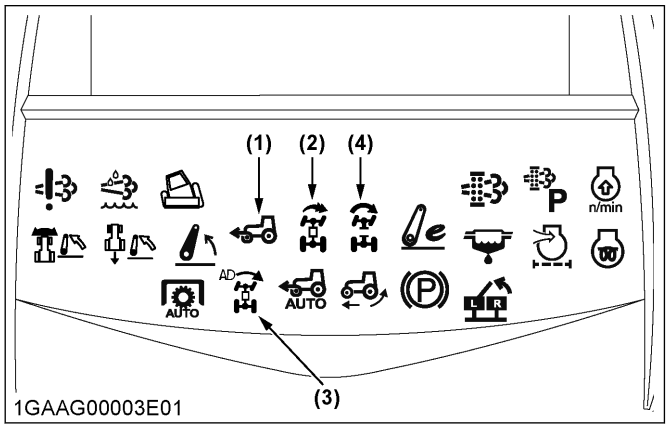
9. 走行モード切替スイッチ

AD スイッチと走行モードスイッチによる選択

- AD スイッチと走行モードスイッチの組合せにより、8 種類の走行モードから作業に適した状態を選択してください。
  （一般ロータリ耕うんは AD**[入]**・倍速が最も効果があります）
- 各スイッチはトラクタの走行・停止に関係なく操作できます。



(1) 走行モードスイッチ
(2) *AD* スイッチ



(1) *4WD* ランプ
(2) 倍速ランプ
(3) *AD* ランプ
(4) 旋回 *2WD* ランプ

		走行モードスイッチ			
		[2WD]	**[4WD]**	**[倍速]**	**[旋回 2WD]**
AD スイッチ	**[入]**	○	○	○	○
	[切]	○	○	○	○

9.1 走行モードスイッチ

スイッチを押すごとに、2WD→4WD→倍速→旋回 2WD→2WD の順に切り換わり、スイッチでの選択状態を電子メータ内のモニタランプで表示します。

	電子メータ
2WD 選択時 （2 輪駆動）	4WD、倍速、AD ランプ消灯
4WD 選択時 （4 輪駆動）	4WD ランプ点灯
倍速ターン選択時	倍速ランプ点灯 4WD ランプ点灯
旋回 2WD 選択時	旋回 2WD ランプ点灯 4WD ランプ点灯（直進時） 4WD ランプ消灯（旋回時）

9.1.1 4 輪駆動の使い方

4 輪駆動は、次のような場合に威力を発揮します。
- 傾斜地、湿田、トレーラの運搬・フロントローダ作業時で、けん引力が必要な場合。
- 砂地で作業をする場合。
- 固いほ場で、ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。
- ほ場への出入りおよび、あぜ越えを行う場合。

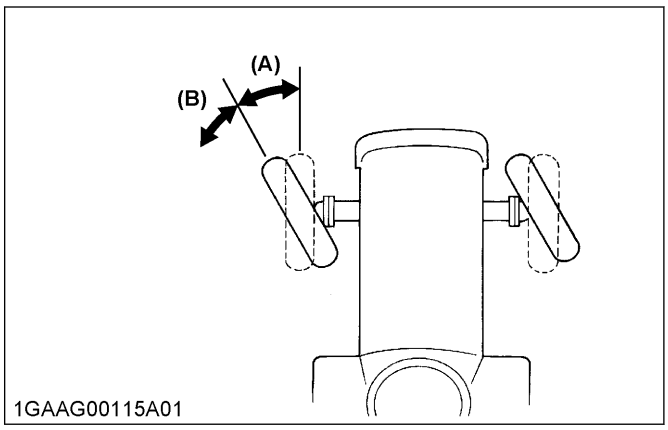
補足：
- **舗装道路や高速走行時の 4 輪駆動は避けてください。思わぬ事故の原因にもなります。走行モードスイッチを[2WD]、AD スイッチを[切]に切り換え全モニタランプが消えていることを確認してから走行してください。**
  また、タイヤの摩耗を早める原因にもなります。ただし、走行時ブレーキ性能向上のため、左右ブレーキペダルを連結した状態でブレーキを踏むと自動的に 4 輪駆動が入ります。

9.1.2 倍速ターンの使い方

警告
- **倍速ターンに入れたままでは、ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に走行モードスイッチを[2WD]または[4WD]、AD スイッチを[切]に切り換えてください。**
- **倍速ターンは、畑、水田などのロータリ耕作業に役立ちますが、使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。**

重要：
- **トレーラけん引作業などの速度の速い作業には、使用しないでください。**
- **フロントローダを装着した場合は、使用しないでください。**

倍速ターンの作動は次図のようになっています。
倍速モードで旋回動作に入り、ステアリングハンドルを切っていくと、前輪の切れ角が、直進状態からある一定の角度になるまでは、通常の 4 輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。さらにステアリングハンドルを切ると、倍速ターンが作動し、前輪の回転数がそれまでの約 2 倍の回転数で駆動され、小さくスムーズな旋回が行えます。



(A) 通常の *4* 輪駆動
(B) 倍速ターン作動

補足：
- **倍速は、危険防止のため、旋回開始時の車速段数が副変速[M]または[L]で車速が約 12 km/h 以下のときのみ作動します。**

9.2 AD スイッチ

スイッチを押すごとに AD**[入]・[切]**が切り換わり、スイッチでの選択状態を電子メータ内のモニタランプで表示します。

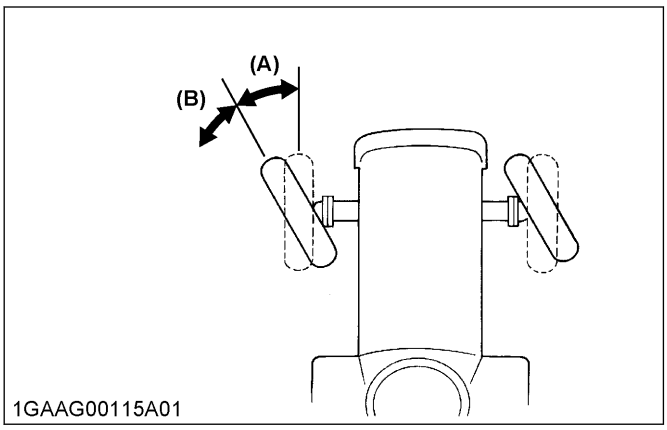
	電子メータ
AD**[入]**時 （オートブレーキ）	AD ランプ点灯
AD**[切]**時	AD ランプ消灯

9.2.1 AD の使い方

隣接耕うん作業をする場合に、枕地で軽く片ブレーキを踏み、旋回を小さくする操作が行われますが、AD はこの操作を自動的に行うものです。

⚠ 警告
- **AD[入]のままでほ場以外を走行すると、旋回時急に回り事故の原因になります。ほ場から出る前に AD スイッチを[切]に切り換えてください。**

AD の作動は下図のようになっています。
AD**[入]**で旋回動作に入り、ステアリングハンドルを直進状態からある一定の角度以上に切ると、AD が作動し、内側後輪に軽くブレーキがかかり小さくスムーズな旋回が行えます。



(A) *AD* が作動しない範囲
(B) *AD* が作動する範囲

補足：
- **AD は危険防止のため、車速段数は副変速[M]または[L]で旋回開始時の車速が約 0.2～5 km/h の範囲のときのみ作動します。**

9.2.2 AD の強弱設定

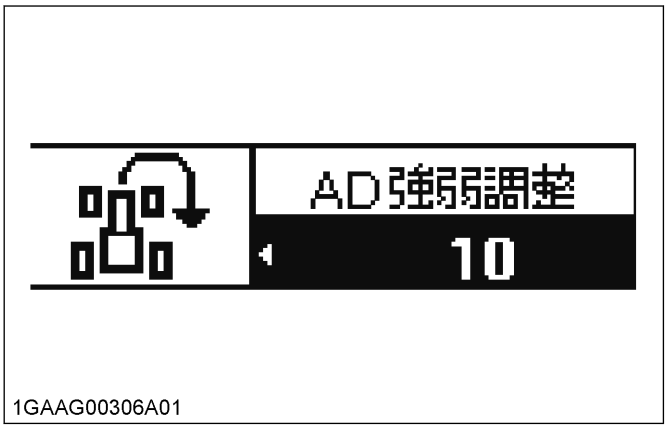
AD の強弱を 101 段階（100（強）→0（弱））設定することができます。ほ場条件や作業の内容に合わせて変更してください。

⚠ 警告
- **設定する場合はトラクタを停止して行ってください。走行しながら設定をすると傷害事故を引き起すおそれがあります。**

補足：
- **エンジン回転上限設定やエンジン回転メモリ設定が[入]の場合、設定を[切]に切換えてください。**
  電子エンジン制御（104 ページ）の項を参照。

AD の強弱設定手順
例：AD 強弱を 5 に変更する

1. HOME/MENU スイッチを押し、メニュー画面を表示します。
2. メニュー画面より**[旋回]**→**[AD 強弱調整]**の設定項目を開きます。



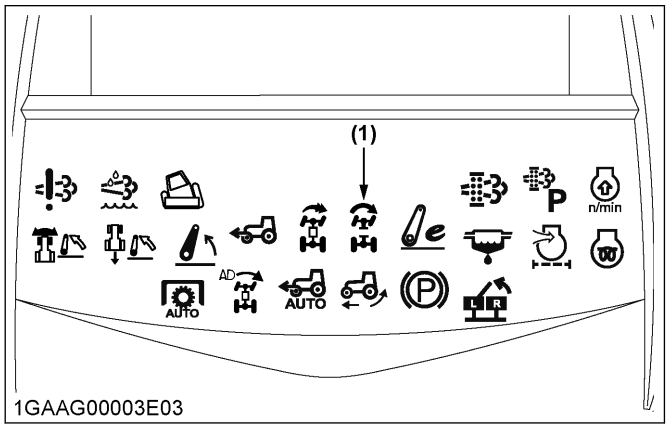
3. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを回し、**[5]**を選択します。
4. HOME/MENU スイッチを押し、通常画面に戻ります。

補足：
- **工場出荷時の AD 強弱の設定は 100 です。**

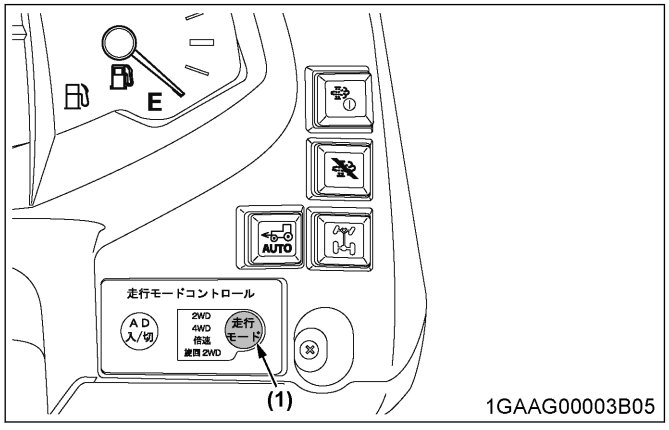
9.3 旋回 2WD

旋回 2WD は、畑作管理作業などの枕地旋回時に、作物やほ場をいためたくない場合に威力を発揮します。

⚠ 警告
- **転倒や衝突による死傷事故を防ぐため、道路・傾斜地走行では旋回 2WD を使用しないでください。**



(1) 旋回 *2WD* ランプ

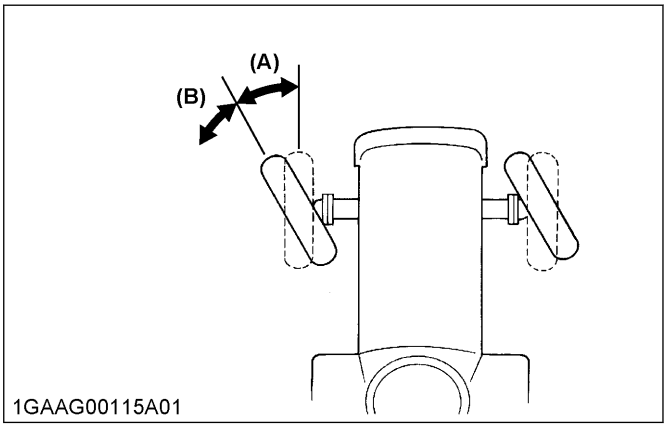


(1) 走行モードスイッチ

9.3.1 旋回 2WD の使い方

重要：
- **トレーラけん引作業などの速度の速い作業には、使用しないでください。**
- **フロントローダを装着した場合は、使用しないでください。**

旋回 2WD の作動は下図のようになっています。
旋回 2WD モードで旋回動作に入り、ステアリングハンドルを切っていくと、前輪切れ角が直進状態からある角度になるまでは 4WD で走行します。このとき電子メータの 4WD ランプが点灯します。
ステアリングハンドルをさらに切ると、旋回 2WD が作動し 2WD 状態となります（4WD ランプは消灯）。
ステアリングハンドルを戻していくと、4WD に戻ります（4WD ランプは点灯）。



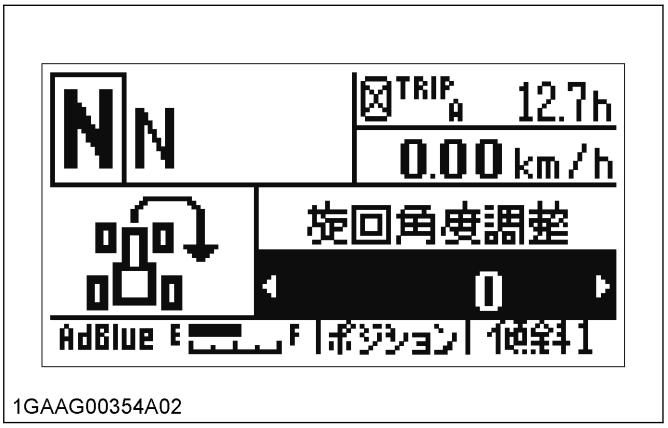
(A) 4WD
(B) 2WD

9.4 旋回角度の調整

倍速ターン、旋回 2WD の作動角度を任意に調整します。
ほ場条件等にあわせて作動タイミングを遅く、もしくは早くしたい場合に値を調整します。

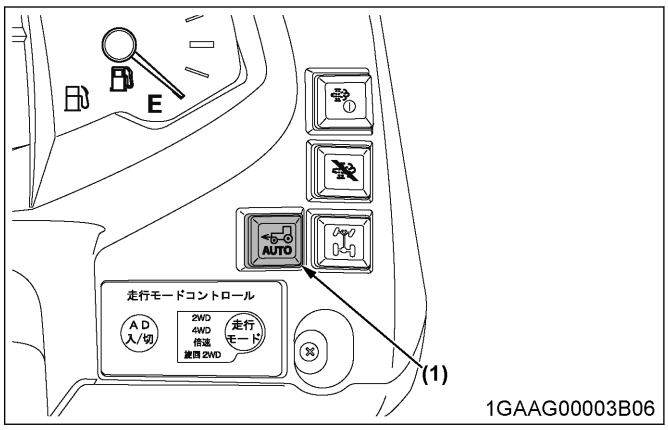
設定方法

1. トラクタを停車します。
2. **[メニュー画面]→[旋回]→[旋回角度調整]**を開き、調整値を設定します。



10. オート 4WD スイッチ

オート 4WD スイッチを押すと、4 輪駆動中 20 km/h 以上になると自動で 2 輪駆動に切り替わるよう設定できます。



(1) オート *4WD* スイッチ

11. デフロック

⚠ 警告
- **デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。**
- **道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。**

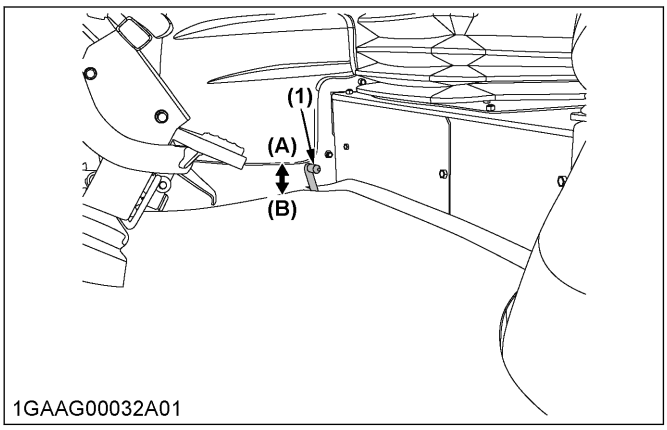
11.1 後輪デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で、スリップ防止に効果があります。

重要：
- **デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてから行ってください。**
- **デフロックが抜けにくいときは、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。**
- **使用しないときは、足をペダルにのせないでください。**
- **片ブレーキを効かせるときは、後輪デフロックを必ず解除してください。**

ペダルを踏込む
ロックされる。

ペダルから足を離す
ロックが解除される。



(1) デフロックペダル　*(A)* 離す（解除）　*(B)* 踏む（ロック）

デフロックは、下記のような場合に役立ちます。
- ほ場への出入りやフロントローダ作業時など、片車輪がスリップして直進できないとき。
- ほ場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み、スリップして走行がしにくくなったとき。
- プラウ作業などけん引力を必要とする作業で、片側車輪がスリップしたとき。

11.2 前輪デフロックスイッチ

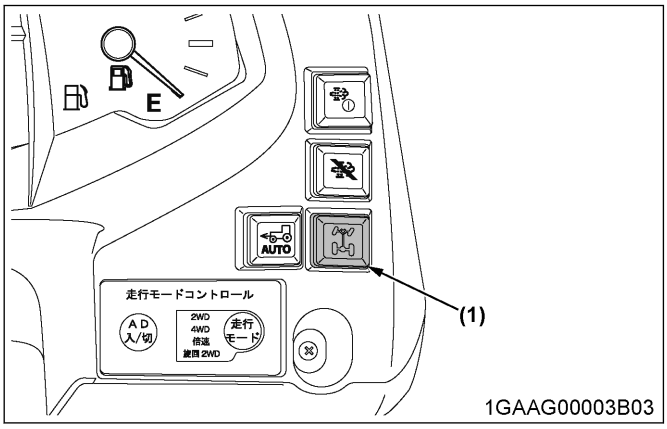
左右の前輪が同じ回転速度で駆動される装置で、スリップ防止に効果があります。

重要：
- **デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてから行ってください。**

2WD または倍速ターン**[入]**の状態で、

スイッチを押す
スイッチランプが点灯し、前輪がロックされる。

スイッチを再度押す
スイッチランプが消灯し、前輪デフロックが解除される。



(1) 前輪デフロックスイッチ

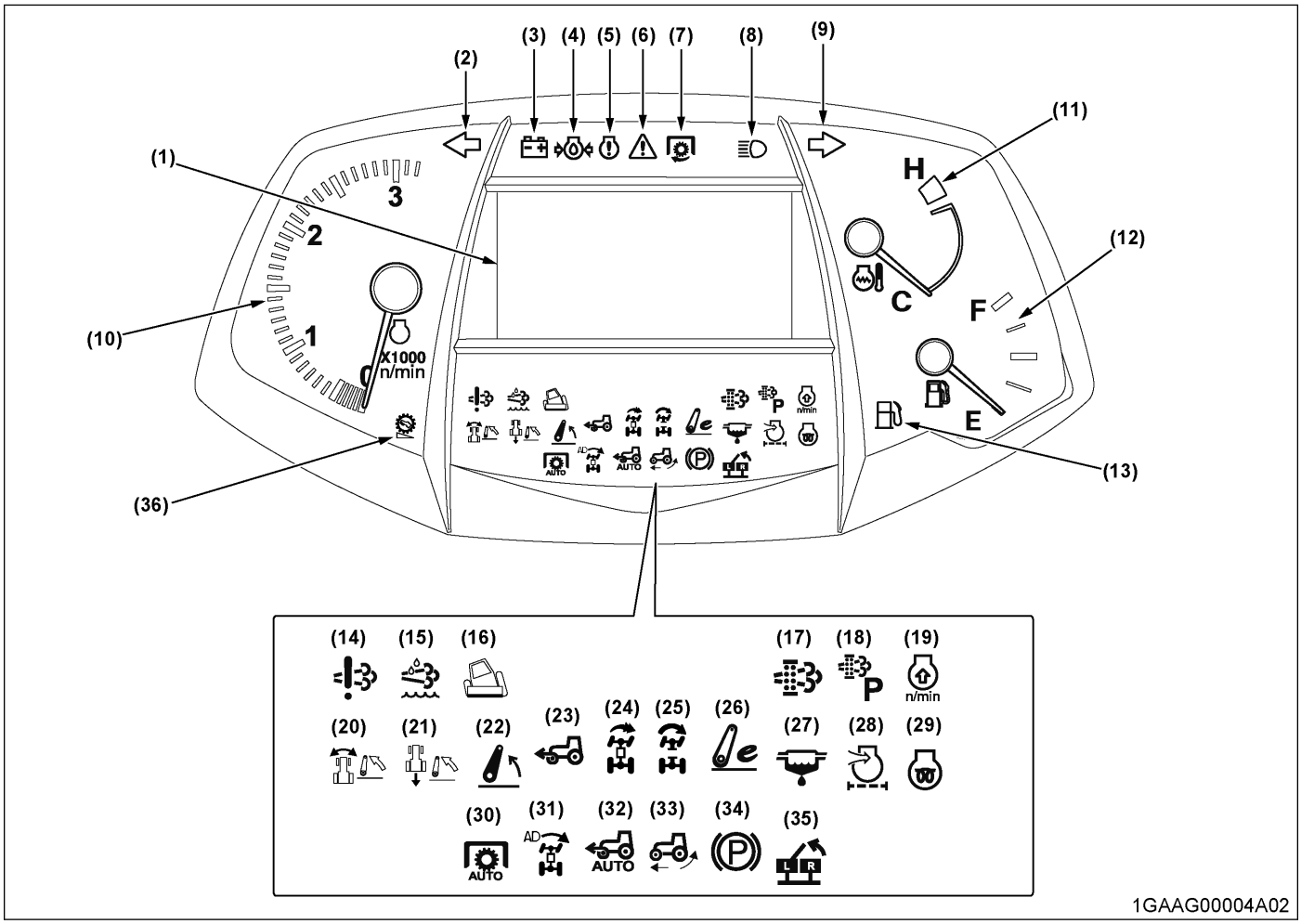
デフロックは、下記のような場合に役立ちます。
- 農場への出入りやフロントローダ作業時など、片車輪がスリップして直進できないとき。

- 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み、スリップして走行がしにくくなったとき。
- プラウ作業などけん引力を必要とする作業で、片側車輪がスリップしたとき。
- 軟弱な農場内で旋回するときに、前輪がスリップして旋回が困難になったとき。

12. 電子メータ

12.1 電子メータ

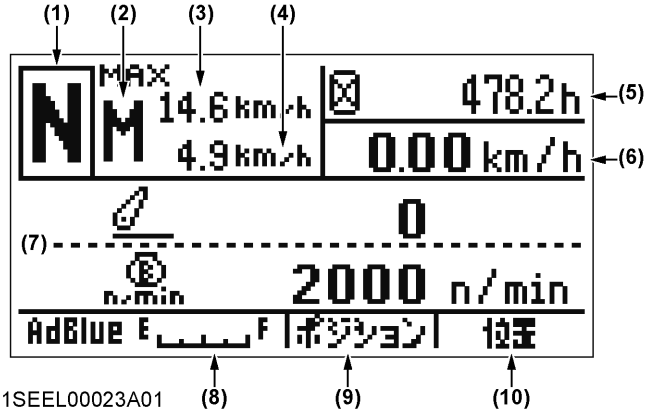
電子メータは、トラクタの運転に必要な各種情報を的確なタイミングでオペレータに提供するとともに、各種警報や万一故障した場合にも故障箇所を表示しますので、表示に従って正しく取扱ってください。
なお、次表のメッセージ以外が表示された場合は、不調と処置（235 ページ）を参照してください。



(1) 液晶表示部（メッセージ）
(2) ウインカパイロットランプ（左） *64*
(3) バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯） *96*
(4) エンジンオイル油圧警告灯 *96*
(5) エンジン異常警告灯 *96*
(6) システム異常警告灯 *64*
システム異常警告灯 *96*
(7) *PTO* ランプ *153*
(8) 上向き照射ランプ *64*
(9) ウインカパイロットランプ（右） *64*
(10) エンジン回転計 *97*
(11) 水温計 *97*
(12) 燃料計 *97*
(13) 燃料残量警告灯 *96*
(14) *SCR* システム警告灯 *54*
(15) 尿素水（*AdBlue*）インジケータ *54*
(16) 傾き自動ランプ *120*
(17) 再生状態ランプ *46*
(18) 駐車再生要求ランプ *46*
(19) エンジン回転上げ要求ランプ *46*
(20) 旋回アップランプ *115*
(21) バックアップランプ *116*
(22) クイックアップランプ *114*
(23) *4WD*（*4* 輪駆動）ランプ *69*
(24) 倍速ターンランプ *69*
(25) 旋回 *2WD* ランプ *72*
(26) ｅ-アシスト旋回ランプ *106*
(27) ウォータセパレータ警告灯 *198*
(28) エアクリーナ目詰まり警告灯 *96*
(29) エンジン予熱ランプ *127*
(30) 上昇 *PTO* 停止 ランプ *154*
(31) *AD* ランプ *69*
(32) オート *4WD* ランプ *69*
(33) スリップ制御ランプ
(34) 駐車ブレーキ警告灯 *96*
(35) ブレーキ連結ロック解除警告灯 *65*
ブレーキ連結ロック解除警告灯 *96*
(36) アクセル連動灯 *68*

12.1.1 液晶画面の通常画面とアームレスト操作部

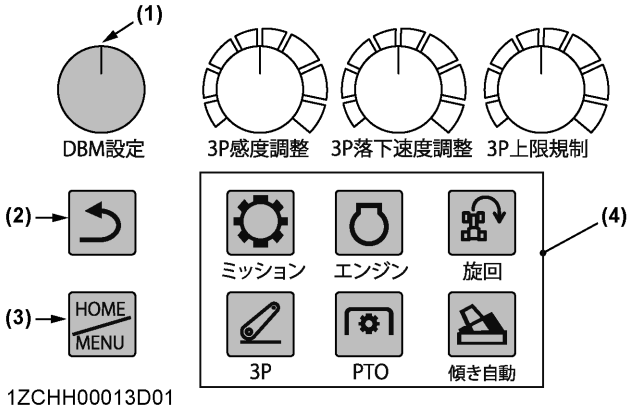
液晶表示部 通常画面



1SEEL00023A01

(1) シャトルレバー位置
(2) 副変速レバー位置
(3) 指示車速表示
(4) 車速表示
(5) アワーメータ
(6) 走行車速
(7) パフォーマンスモニタ
(8) 尿素水*(AdBlue)*ゲージ
(9) 作業選択状態
(10) 傾き自動モード

アームレスト操作部



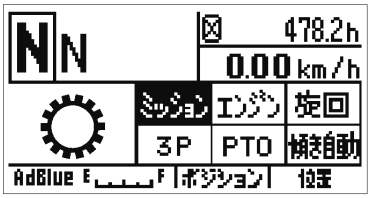
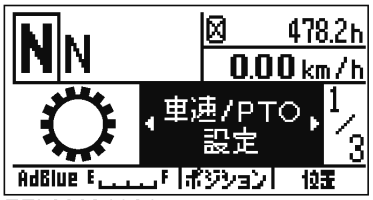
1ZCHH00013D01

(1) 電子メータ*(DBM)*設定ジョグダイヤル
(2) 戻るスイッチ
(3) *HOME / MENU* スイッチ
(4) メータパネルショートカットスイッチ

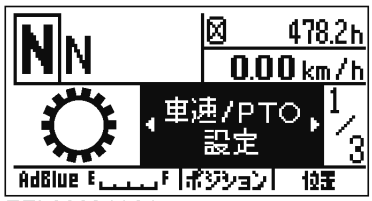
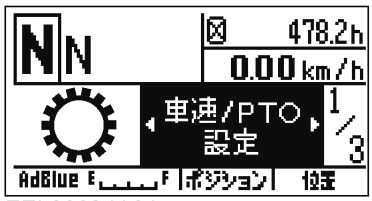
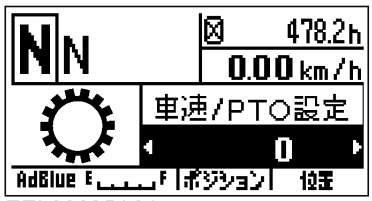
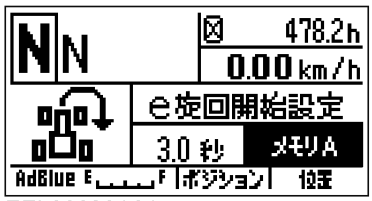
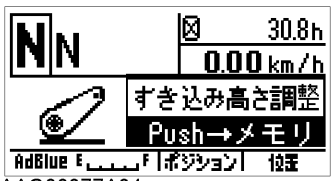
12.1.2 メニュー画面と設定画面

エンジン回転メモリ設定などの各種設定を電子メータ(DBM)の液晶表示部で操作します。

12.1.2.1 メニュー画面の操作

No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
1	 1ZCHH00007A02	• メニュー画面を開く 1. 通常画面表示中、HOME / MENU スイッチを押すと左記画面が開かれます。	–
2		• メニュー画面の操作 1. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル右回転で、カーソル(文字の反転表示)が**[ミッション]**→**[エンジン]**→**[旋回]**…のように移動し、**[傾き自動]**の次は**[ミッション]**へカーソルが移動します。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル左回転で、カーソル（文字の反転表示）が右回転の逆順に移動し、**[ミッション]**の次は**[傾き自動]**へカーソルが移動します。 3. 通常画面へ戻る場合は戻るスイッチ、または HOME / MENU スイッチを押します。	–
3	 1SEEL00024A01	• 項目選択画面への移動 （例：**[ミッション]**設定の項目選択画面を表示させる） 1. 通常画面時に HOME / MENU スイッチを押してメニュー画面を開きます。 2. **[ミッション]**にカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押します。 3. **[ミッション]**設定の項目選択画面が表示されます。	–

（次へ続く）

No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
4	 1SEEL00024A01	• ショートカット機能を使用した項目選択画面への移動 1. 通常画面またはメニュー画面表示時に、メータパネルショートカットスイッチを押すと、スイッチに対応した項目選択画面が表示されます。 （左記は**[ミッション]**のメータパネルショートカットスイッチを押した状態の画面。）	–
5	 1SEEL00024A01	• 項目選択画面の操作 （例：**[ミッション]**の項目選択画面） 1. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル右回転で表示中の項目名と番号が順次切り替わります（3 項目表示されている場合は**[1/3]**→**[2/3]**→**[3/3]**→**[1/3]**と切り替わります）。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル左回転で項目が右回転の逆順で切り替わります。 3. 設定したい項目が表示されている状態で電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと設定画面が開きます。	–
6	 1SEEL00024A01  1SEEL00025A01	• 設定画面の操作（1 項目の設定変更を行う画面） （例：**[ミッション]**の**[車速 / PTO 設定]**） 1. **[車速 / PTO 設定]**にカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと**[車速 / PTO 設定]**の設定画面が開きます。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル右回転で設定が**[-5]**から 1 刻みで**[5]**まで切り替わり、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル左回転で設定が右回転の逆順に切り替わります。この電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル操作による設定の切り替えは即時反映されます。 3. 項目選択画面へ戻る場合は電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルまたは戻るスイッチを押します。	–
7	 1SEEL00026A01  1SEEL00026A02	• 設定画面の操作（2 項目以上の設定変更を行う画面） （例：**[旋回]**の**[e 旋回開始設定]**） 1. **[e 旋回開始設定]**にカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと**[e 旋回開始設定]**の設定画面が開きます。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル左右回転でカーソル（反転表示位置）が切り替わります。 3. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと反転表示部の端に矢印が表示され任意の値に設定できます。値を選択するには、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを回転します。 4. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルか戻るスイッチを押すと値を確定します。 5. 項目選択画面へ戻る場合は、値を確定した状態で戻るスイッチを押します。	–
8	 1GAAG00077A04	• すき込み高さ調整画面の操作 1. メニュー画面を開き**[3P]**にカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押します。 2. **[すき込み高さ調整]**を選択し電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押します。 3. すき込み高さ調整の設定画面が開いた後、3 点リンクを任意の高さに動かし電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押します。 4. 項目選択画面に戻り、すき込み高さが更新されます。 5. 設定を中断したい場合は戻るスイッチを押すとすき込み高さが更新されず、項目選択画面に戻ります。	153

12.1.2.2 ミッション関連の設定項目の表示条件

ミッション関連の設定項目は以下の表の並びの通りに画面に表示されます。副変速の状態、GPS の有無、ミッション設定の有効化で表示される項目がそれぞれ存在し、表示条件を満たさない場合は項目選択画面に表示されません。表示条件が変化した際の項目の表示・非表示は即座に画面に反映されます。

No.	設定項目名	表示条件
1	最高車速設定	副変速の位置が**[H]**、**[M]**、**[L]**のいずれかの場合に表示されます。
2	クルーズ車速 A 設定	副変速の位置が**[M]**、**[L]**のいずれかの場合に表示されます。
3	クルーズ車速 B 設定	副変速の位置が**[M]**、**[L]**のいずれかの場合に表示されます。
4	車速/PTO 設定	常時表示されます。
5	パワー/エコ設定	常時表示されます。
6	負荷変速設定	常時表示されます。
7	スリップ感度設定	GPS が有りの場合に表示されます。

12.1.2.3 ミッション関連の設定項目の設定可能範囲

ミッション関連の設定項目について設定可能な値の範囲は以下の表の通りです。項目 2 は設定画面上で左右 2 項目が表示される項目のみ参照ください。

No.	設定項目名	項目 1 数値範囲または選択肢	単位	項目 2 数値範囲または選択肢	単位	参照ページ
1	最高車速設定	H 0.6～（0.1 刻み）*1 M 0.3～（0.1 刻み）*1 L 0.2～（0.1 刻み）*1	km/h	–	–	134
2	クルーズ車速 A 設定	M 0.3～（0.1 刻み）*1 L 0.2～（0.1 刻み）*1	km/h	–	–	135 135
3	クルーズ車速 B 設定	M 0.3～（0.1 刻み）*1 L 0.2～（0.1 刻み）*1	km/h	–	–	135 135
4	車速/PTO 設定	-5～+5	–	–	–	136
5	パワー/エコ設定	-5～+5	–	–	–	136
6	負荷変速設定	0～100	–	OFF/ON	–	136 137
7	スリップ感度設定	0～100	%	–	–	–

*1　最大値は機械ごとに異なります。

12.1.2.4 エンジン関連の設定項目の設定可能範囲

エンジン関連の設定項目について設定可能な値の範囲は以下の表の通りです。

No.	設定項目	数値範囲または選択肢	単位	参照ページ
1	エンジン回転上限	830～（10 刻み）*1	n/min	104
2	回転メモリ A 設定	830～（10 刻み）*2	n/min	104
3	回転メモリ B 設定	830～（10 刻み）*2	n/min	104

*1　最大値は機械ごとに異なります。

*2　最大値は機械ごとに異なります。回転上限と同値、または回転上限から-10 した値となります。

12.1.2.5 旋回関連の設定項目の表示条件

全項目が常に表示されます。

12.1.2.6 旋回関連の設定項目の選択可能範囲

旋回関連の設定項目について設定可能な値の範囲は以下の表の通りです。項目 2 および項目 3 は設定画面上で左右 3 項目が表示される項目のみ参照ください。

No.	設定項目名	項目 1 数値範囲または選択肢	単位	項目 2 数値範囲または選択肢	単位	項目 3 数値範囲または選択肢	単位	参照ページ
1	旋回アップ入切	OFF/ON	–	–	–	–	–	115
2	バックアップ入切	OFF/ON	–	–	–	–	–	116
3	旋回角度調整	-5～+5	–	–	–	–	–	-
4	AD 強弱調整	0～100	–	–	–	–	–	71
5	e 旋回開始設定	0.0～6.0（0.5 刻み）	秒	メモリ切/メモリ A/メモリ B	–	クルーズ切/クルーズ A/クルーズ B	–	106
6	e 旋回終了設定	0.0～6.0（0.5 刻み）	秒	メモリ切/メモリ A/メモリ B	–	クルーズ切/クルーズ A/クルーズ B	–	106

12.1.2.7 3P 関連の設定項目の表示条件

全項目が常に表示されます。

12.1.2.8 3P 関連の設定項目の選択可能範囲

3P 関連の設定項目について設定可能な値の範囲は以下の表の通りです。

No.	設定項目	数値範囲または選択肢	単位	参照ページ
1	3P 制御モード	ポジション 耕深制御 *1 S モード ドラフト レーザ *2	–	111
2	すき込み高さ調整	*3	–	152

*1 カバーセンサ接続時のみ表示されます。

*2 レーザレベラ接続時のみ表示されます。

*3 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル左右回転による調整値編集は行わず、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押した時点の 3 点リンクの高さに従い記憶します。

12.1.2.9 PTO 関連の設定項目の表示条件

全項目が常に表示されます。

12.1.2.10 PTO 関連の設定項目の選択可能範囲

PTO 関連の設定項目について設定可能な値の範囲は以下の表の通りです。

No.	設定項目	数値範囲または選択肢	単位	参照ページ
1	PTO モード	クラッチ独立/クラッチ連動	–	153

12.1.2.11 傾き自動関連の設定項目の表示条件

傾き自動関連の設定項目は次の表の通りです。表示条件を満たさない場合は項目選択画面に表示されません。

No.	設定項目名	表示条件
1	傾き自動モード	常時表示されます。
2	傾き自動穴位置	常時表示されます。
3	傾斜補正調整	傾き自動モードを**[傾斜]**に設定している場合のみ表示

12.1.2.12 傾き自動関連の設定項目の設定可能範囲

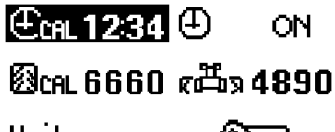
傾き自動関連の設定項目について設定可能な値の範囲は以下の表の通りです。

No.	設定項目	数値範囲または選択肢	単位	参照ページ
1	傾き自動モード	位置/水平/傾斜	–	120 121
2	傾き自動穴位置	前穴・上穴/後穴・上穴/前穴・中穴	–	120 121
3	傾斜補正調整	0～300	–	122

12.1.3 各種設定選択画面

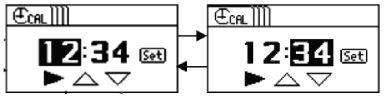
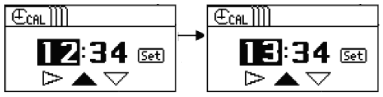
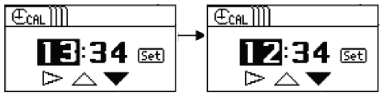
時計の時刻設定やタイヤ径など、ユーザー設定が可能な項目を操作する画面です。

12.1.3.1 ユーザー設定画面の操作

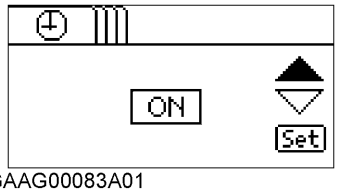
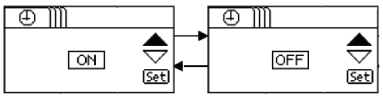
No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
1	 1GAAG00078A01	• ユーザー設定画面を開く 1. 駐車ブレーキを入れ副変速を**[N]**位置、シャトルレバーを中立位置にしてキーを**[切]**にします。 2. HOME / MENU スイッチを押したままキーを**[入]**にした状態を 2 秒間継続します。 3. 画面が切り替わり左記のような設定画面が表示されます。	–
2		• ユーザー設定画面の操作 1. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル右回転で、カーソル（文字の反転表示）が下記表の番号順に移動し、最終項目(No.7)の次は先頭項目(No.1)へカーソルが移動します。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル左回転で、カーソル（文字の反転表示）が右回転の逆順に移動し、先頭項目(No.1)の次は最終項目(No.7)へカーソルが移動します。	–

No.	表示画像	項目名	No.	表示画像	項目名
1		時計設定	2		時計 ON/OFF 設定
3		タイヤ周長設定	4		作業機幅設定
5		単位設定	6		メンテナンス
7		盗難防止設定			

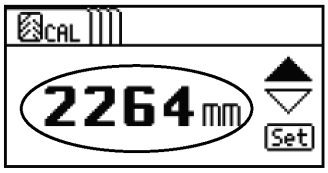
12.1.3.2 時計設定

No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
1	 1GAAG00079A01  1GAAG00080A01  1GAAG00081A01  1GAAG00082A01  1GAAG00078A01	• 時計設定の操作 1. ユーザー設定画面から時計設定にカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押し、設定画面を表示します。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル右回転でカーソル(文字の反転表示)が**[右矢印]**→**[上矢印]**→**[下矢印]**→**[set]**→**[右矢印]**と移動します。 3. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル左回転でカーソルが右回転と逆順に移動します。 4. 右矢印を選択中、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと反転表示の数字（時/分）が切替わります。 5. 上矢印を選択中、**[時]**または**[分]**の数値が反転表示されているとき、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと時間が+1されます。電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを長押しすると時間が繰り返し+1 されます。 6. 下矢印を選択中、**[時]**または**[分]**の数値が反転表示されているとき、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと時間が-1されます。電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを長押しすると時間が繰り返し-1 されます。 7. 入力が完了したら**[set]**にカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押します。 8. ユーザー設定画面上の時刻表示が更新されていれば設定完了です。	–
2	 1GAAG00078A01	• 時計設定のキャンセル 戻るスイッチを押すと時計設定を中断しユーザー設定画面へ戻ります。	–

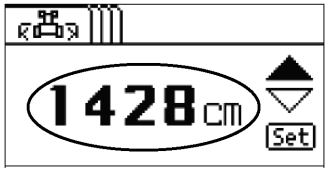
12.1.3.3 時計 ON / OFF 設定

No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
1	 1GAAG00083A01  1GAAG00084A01  1GAAG00078A02  1GAAG00078A03	• 時計 ON / OFF 設定の操作 1. ユーザー設定画面から時計 ON / OFF 設定にカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押し、設定画面を表示します。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル右回転でカーソルが**[上矢印]**→**[下矢印]**→**[set]**→**[上矢印]**と移動します。電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル左回転で電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル右回転の逆順にカーソルが移動します。 3. 矢印を選択中、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと画面中央の**[ON/OFF]**が切り替わります。 4. **[OFF]**に切り替えて**[set]**にカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと、ユーザー設定画面上の表示も**[OFF]**になります。 5. **[ON]**に切り替えて**[set]**にカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと、ユーザー設定画面上の表示も**[ON]**になります。	–
2	 1GAAG00078A03	• 時計 ON / OFF 設定のキャンセル 戻るスイッチを押すと時計 ON / OFF 設定を中断しユーザー設定画面へ戻ります。	–

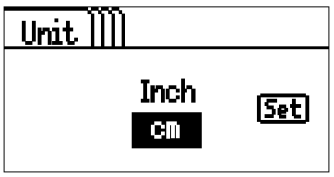
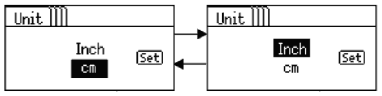
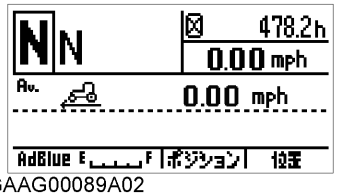
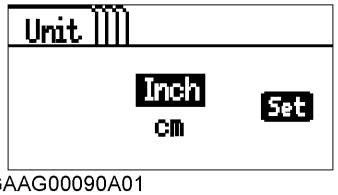
12.1.3.4 タイヤ周長設定

No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
1	 1GAAG00085A01  1GAAG00078A04	• タイヤ周長設定画面の操作 1. ユーザー設定画面からタイヤ周長設定にカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押し、設定画面を表示します。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル右回転でカーソルが**[上矢印]→[下矢印]→[set]→[上矢印]**と移動します。電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル左回転で電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル右回転の逆順にカーソルが移動します。 3. 上矢印を選択中、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すとタイヤ周長が+1 mm され、長押しをするとタイヤ周長が繰り返し+10 mm されます。 4. 下矢印を選択中、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すとタイヤ周長が-1 mm され、長押しをするとタイヤ周長が繰り返し-10 mm されます。 5. 任意の数値を入力後、**[set]**にカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すとユーザー設定画面上のタイヤ周長が更新されます。	95
2	 1GAAG00078A04	• タイヤ周長設定のキャンセル 戻るスイッチを押すとタイヤ周長設定を中断しユーザー設定画面へ戻ります。	–
3	 1GAAG00085A02	• タイヤ周長のメータ表示範囲について 表示されているタイヤ周長が 8000 mm を超えると 0 mm となり、0 mm を超えると 8000 mm になります。	–
4	 1GAAG00078A05  1GAAG00078A06	• タイヤ周長の設定可能範囲について タイヤ周長の設定限界は下限が 2000 mm で上限が 6000 mm です。設定限界を超えて入力し**[set]**を押した場合は下限・上限の値で設定が更新されます。	–

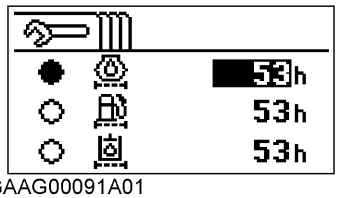
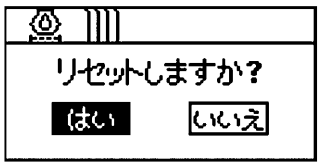
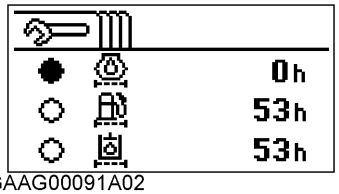
12.1.3.5 作業機幅設定

No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
1	 1GAAG00086A01  1GAAG00078A07	• 作業機幅設定画面の操作 1. ユーザー設定画面から作業機幅設定にカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押し、設定画面を表示します。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル右回転でカーソルが**[上矢印]→[下矢印]→[set]→[上矢印]**と移動します。電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル左回転で電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル右回転の逆順にカーソルが移動します。 3. 上矢印を選択中、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すとタイヤ周長が+1 cm され、長押しをするとタイヤ周長が繰り返し+10 cm されます。長押しを継続すると+100 cm されます。 4. 下矢印を選択中、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すとタイヤ周長が-1 cm され、長押しをするとタイヤ周長が繰り返し-10 cm されます。長押しを継続すると-100 cm されます。 5. 任意の数値を入力後、**[set]**にカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すとユーザー設定画面上の作業機幅が更新されます。	–
2	 1GAAG00078A07	• 作業機幅設定のキャンセル 戻るスイッチを押すと作業機幅設定を中断しユーザー設定画面へ戻ります。	–
3	 1GAAG00086A02	• 作業機幅のメーター表示範囲について 表示されている作業機幅が 4999 mm を超えると 0 mm となり、0 mm を超えると 4999 mm になります。	–
4	 1GAAG00078A08  1GAAG00078A09	• 作業機幅の設定可能範囲について 作業機幅の設定限界は下限が 0 cm で上限が 4999 mm です。	–

12.1.3.6 単位設定

No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
1	 1GAAG00087A01  1GAAG00088A01  1GAAG00078A10  1GAAG00089A02	• 単位設定の操作 1. ユーザー設定画面から単位設定にカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押し、設定画面を表示します。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを回転すると表示中の単位が切り替わります。 3. **[Inch]**に切り替えて**[set]**にカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと、ユーザー設定画面上の単位表示も**[Inch]**になります。 4. キーを**[切]**にしてから**[入]**にして通常画面に戻ると車速表示の単位が**[mph]**になっています。 5. 元の表示に変更するには単位設定画面で**[cm]**に切り替えて**[set]**にカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押します。	–
2	 1GAAG00090A01	• 単位設定のキャンセル 戻るスイッチを押すと単位設定を中断しユーザー設定画面へ戻ります。	–

12.1.3.7 メンテナンス設定

No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
1	 1GAAG00091A01	• メンテナンス画面の操作 1. ユーザー設定画面からメンテナンスにカーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押し、設定画面を表示します。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル右回転で選択行（●表示）が下に移動します。最終の項目を選択しているときに電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを右回転すると最初の項目に戻ります。 3. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル左回転で選択行（●表示）が上に移動します。最初の項目を選択しているときに電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを左回転すると最後の項目に戻ります。	–
2	 1GAAG00092A01  1GAAG00091A02	• メンテナンス時間をリセットする 1. 項目を選択中に電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すとリセット実行確認が表示されます。 2. **[いいえ]**を選択状態（反転表示）、あるいは戻るスイッチを押すとリセットせずに元のメンテナンス画面に戻ります。 3. **[はい]**を選択状態で電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すとメンテナンス画面に戻りリセットを実行した項目の時間が**[0h]**になります。 4. メンテナンス画面で戻るスイッチを押すとユーザー設定画面に戻ります。	–

各メンテナンス項目とアイコンの対応は以下の表の通りです。

No.	アイコン	項目名称	初回時間(h)	インターバル時間(h)	参照ページ
1		エンジンオイルフィルタ	50	400	219
2		燃料フィルタ	–	400	219
3		油圧オイルフィルタ	50	200	214
4		ミッションオイル	50	600	220
5		前部デフケースオイル	50	600	220
6		前輪ケースオイル	50	600	221
7		タイヤ取付ボルトの締付	–	50	207

（次へ続く）

No.	アイコン	項目名称	初回時間(h)	インターバル時間(h)	参照ページ
8		オイルセパレータエレメント	–	1500	222
9		エンジンオイル	50	400	218

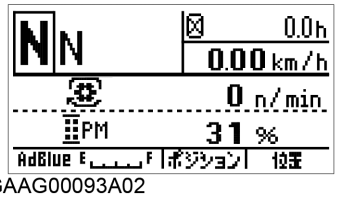
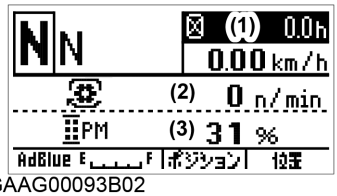
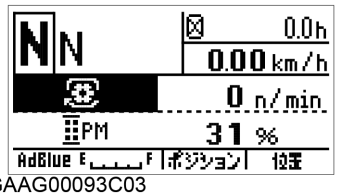
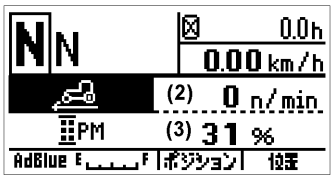
12.1.3.8 盗難防止設定

盗難防止の設定については、エンジン始動セキュリティ機能（100 ページ）を参照ください。

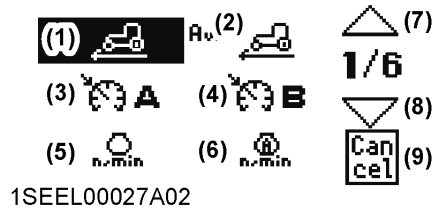
12.1.4 パフォーマンスモニタ

パフォーマンスモニタは各種パフォーマンス値を任意に選択して通常画面に表示する機能です。

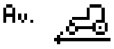
12.1.4.1 パフォーマンス項目の選択

No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
1	 1GAAG00093A02  1GAAG00093B02	• 通常画面の操作 1. キーを**[切]**にし駐車ブレーキをかけます。副変速を**[N]**位置、シャトルレバーを中立位置にします。HOME / MENU スイッチや戻るスイッチを押さずにキーを**[入]**にし起動します。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと画面にカーソル（反転表示）が表示されます。 3. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル右回転でカーソルが(1)→(2)→(3)→(1)と移動し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル左回転で右回転の逆順でカーソルが移動します。 4. カーソルは戻るスイッチを押すか約 1 分間無操作状態を維持すると解除されます。	–
2	 1GAAG00093C03	• パフォーマンス選択画面への移動の不可条件 駐車ブレーキが**[切]**かシャトルレバーを**[F]**位置に動かして上記操作を行うと、ブザーが 2 回鳴りパフォーマンス選択の画面へ移動しません。	–
3	 1GAAG00093C04  1SEEL00027A01	• パフォーマンス選択画面への移動 1. カーソルを(2)または(3)の位置に動かします。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押します。 3. パフォーマンス選択の画面に移動します。 4. 駐車ブレーキを**[切]**にするか、シャトルレバーを**[F]**位置に動かすとブザーが 2 回鳴り通常画面へ移行します。	–

（次へ続く）

No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
4	 1SEEL00027A02	• パフォーマンス画面の操作 1. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル右回転によりカーソル位置が(1)→(2)→(3)→…→(9)→(1)のように移動します（(1)～(6)のうち、アイコン非表示箇所はスキップします）。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル左回転で右回転の逆順にカーソルが移動します。 3. カーソルを(7)の位置に動かします。 4. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すとアイコンの一覧とページ番号が切り替わります（ページは**[6/6]**→**[5/6]**→…**[1/6]**→**[6/6]**のように移動します）。 5. カーソルを(8)の位置に動かします。 6. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すとアイコンの一覧とページ番号が切り替わります（ページは**[1/6]**→**[2/6]**→…**[6/6]**→**[1/6]**のように移動します）。 7. それぞれのページで、下表の No.順にパフォーマンス項目のアイコンが表示されています。 8. カーソルを(9)の位置(**[cancel]**)に動かして電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと通常画面に戻ります。	–

12.1.4.2 パフォーマンス項目の一覧

ページ	No.	アイコン	項目名称	備考
1	1		車速	• 平均車速は前回リセット時からの平均車速です。 **補足：** • **車輪スリップ時の表示車速は実際の車速とは異なります。**
	2		平均車速	
	3		クルーズ車速 A 設定	
	4		クルーズ車速 B 設定	
	5		エンジン回転数	
	6		回転メモリ A 設定	
2	7		回転メモリ B 設定	
	8		上限設定回転数	
	9		瞬間負荷率	• 平均負荷率は前回リセット時からの負荷率の平均値です。 • 瞬間負荷率グラフは瞬間負荷率をリアルタイムにグラフィック表示します（グラフは右に伸びるほど高負荷です）。
	10		瞬間負荷率グラフ	
	11		平均負荷率	
	12		PTO 回転数	
3	13		燃費	燃費は 1 時間当りの燃料消費量です。 • 平均燃費は前回リセット時からの 1 時間当りの燃料消費量の平均値です。 • 燃費グラフは燃費をリアルタイムにグラフィック表示します（グラフは右に伸びるほど燃費が悪くなります）。
	14		燃費グラフ	
	15		平均燃費	
	16		総燃料消費量	• 総燃料消費量は前回リセット時からの総燃料消費量を表示します。 • 表示できる最大値は 999 L です。
	17		瞬間作業面積燃費	• 平均作業面積燃費は前回リセット時からの作業面積当りの平均燃費です。 • 各種設定モードで作業機幅をセットしておいてください。未設定の場合、正しく表示されません。

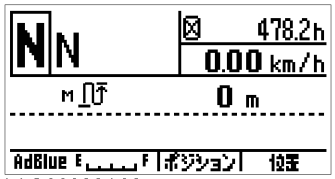
（次へ続く）

ページ	No.	アイコン	項目名称	備考
3	18		平均作業面積燃費	• 平均作業面積燃費は前回リセット時からの作業面積当りの平均燃費です。 • 各種設定モードで作業機幅をセットしておいてください。未設定の場合、正しく表示されません。
4	19		瞬間作業距離燃費	• 平均作業距離燃費は前回リセット時からの使用燃料当りの平均作業距離です。
	20		平均作業距離燃費	
	21		瞬間作業面積効率	• 平均作業面積効率は前回リセット時からの時間当りの平均作業面積です。 • 各種設定モードで作業機幅をセットしておいてください。未設定の場合、正しく表示されません。
	22		平均作業面積効率	
	23		作業面積	• 前回リセット時からの作業面積を表示します。 • 各種設定モードで作業機幅をセットしておいてください。未設定の場合、正しく表示されません。
	24		DPF 温度	• DPF マフラの温度を表示します。
5	25		PM 堆積量	• DPF マフラ内の PM 堆積量を表示します。 • 100%に達すると再生が必要です。 • グラフは右に伸びるほど PM が堆積しています。
	26		PM 堆積量グラフ	
	27		移動距離	• 前回リセット時からの移動距離を表示します。
	28		積算距離計（オドメータ）	
	29		距離測定	• パフォーマンス項目「距離測定機能」の操作（93 ページ）を参照してください。
	30		3P 高さ	
6	31		充電電圧	
	32		車速(GPS)	
	33		スリップ率	• 平均スリップ率は前回リセット時からの平均スリップ率を表示します。
	34		平均スリップ率	
	35		ブランク	• パフォーマンス項目を非表示にしたい場合選択します。

12.1.4.3 パフォーマンス項目のデータリセット

No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
1	 1GAAG00078Q01  1GAAG00078J01	• パフォーマンス項目のデータリセットについて 1. データリセット可能な項目の場合は行全体が点滅表示されます。 2. データリセット不可能な項目の場合はアイコン部分のみ点滅表示されます。 3. カーソルを合わせて電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと、データリセット可能な項目の場合はブザー音とともに表示データがリセットされカーソル表示が解除されます。 4. データリセット不可能な項目の場合は長押ししてもデータリセットされません。	–

12.1.4.4 パフォーマンス項目「距離測定機能」の操作

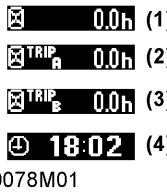
No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
1	 1GAAG00099A02  1GAAG00078K01	• 距離測定機能を表示する 1. 通常画面を表示しパフォーマンス表示で電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押します。 2. 項目 No.27**[距離測定]**をカーソル選択し電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押します。 3. 通常画面に移動し距離測定アイコンが表示されます。 4. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル右回転で距離測定機能を行全体が点滅表示します。 5. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを右回転すると距離測定機能が反転表示固定になります。この状態では無操作状態が 1 分以上経っても反転表示が解除されません。 6. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを右回転すると別の項目へカーソルが移動します。	–
2	 1GAAG00078K01  1GAAG00078L01	• 距離測定のスタート/ストップ 1. カーソルを動かして距離測定の行を反転表示に固定します。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと距離測定機能の表示が変化しアイコンのみ反転表示固定になります。 3. トラクタを走行させると測定距離がカウントされます。 4. カウントを止める場合は電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押します。距離測定の行全体が反転表示固定となり、走行してもカウントされません。 5. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを左回転しても距離測定を止めることができます。その場合は距離測定の行全体が点滅表示になります。	–
3	 1GAAG00078K01  1GAAG00078L01	• 測定値のリセット 1. カーソルを表示・移動させ距離測定機能の行を点滅表示させます。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを長押すとブザー音が鳴り表示データがリセットされます。 3. 距離測定機能の行が反転表示で固定になっている場合も同様の操作で表示データをリセットできます。反転表示状態はそのまま維持されます。	–

12.1.4.5 表示項目の重複抑止

パフォーマンス項目は上下段で同じ項目を選択できません。

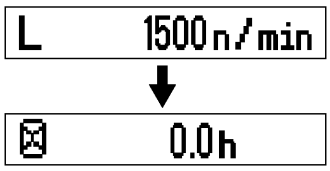
12.1.5 アワメータ/トリップ/時計表示

通常画面の右上はアワメータ、トリップ A、トリップ B、時計表示の切り替えが可能です。

No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
1	 1GAAG00078M01 *(1)* アワメータ *(2)* トリップ *A* *(3)* トリップ *B* *(4)* 時計	• 表示の切り替え 1. 通常画面表示時に電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと(1)にカーソルが表示（点滅表示）されます。 2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと反転表示で固定されます。 3. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル右回転で**[アワメータ]**→**[トリップ A]**→**[トリップ B]**→**[時計]**→**[アワメータ]**の順に変化します。 4. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル左回転で右回転の逆順で表示が変化します。 5. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押すと表示を決定します。	–
2		• トリップのリセット操作 1. 上記手順で**[トリップ A]**を表示させ電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを押します。 2. **[トリップ A]**が点滅している状態で電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを長押します。 3. カーソル選択が解除され**[トリップ A]**の数値がリセットされます。 4. **[トリップ B]**も同様の手順で数値をリセットできます。	–

12.1.6 エンジン回転上限設定・エンジン回転メモリ設定の一時解除

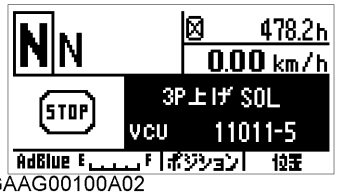
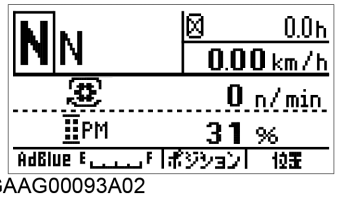
上限設定中やメモリ回転の動作中にアワメータを表示することができます。

No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
1	 1GAAG00078P01	（例：エンジン回転上限設定を 1500 n/min に設定） 1. エンジンアイドル状態にし通常画面を表示させてください。 2. メニュー画面でエンジン回転上限設定を 1500n/min に設定します。 3. 戻るスイッチを押します。 4. 回転数表示が解除されて通常のアワメータ部表示に戻ります。 5. 戻るスイッチを押すか 5 秒待機状態を維持すると再度回転数が表示されます。	–

12.1.7 故障・メンテナンス情報表示の一時解除

故障情報(SPN/ FMI)や警告メッセージがある場合に、パフォーマンスモニタの代わりに表示されます。
故障情報は戻るスイッチを押すことで一時的に表示を解除して、通常のパフォーマンスモニタやメニュー画面の表示を行えます。

12.1.7.1 故障メッセージの一時解除

No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
1	 1GAAG00100A02  1GAAG00093A02	1. いずれかの故障が発生しているとき、SPN / FMI 表示がされます。 2. 戻るスイッチを押します。 3. SPN / FMI 表示が一時解除され通常画面が表示されます。	236

12.1.7.2 メンテナンス表示メッセージの一時解除

No.	液晶表示メッセージ	操作手順・状態説明	参照ページ
1		1. アワメータがエンジンオイルのメンテナンス時間に到達している場合、キーを**[入]**直後にメンテナンス情報のメッセージが表示されます。 2. 5 秒経過するか戻るスイッチを押すことでメッセージが消えます。 3. 表示されていたメッセージはキーを**[入]**時に再度表示されます。	218

12.1.8 燃費計の上手な使い方

- 瞬間燃費
  - 作業条件（アクセル回転数・速度段・PTO 速度段など）を変更し、瞬間的な燃費を確認することで、より省燃費な作業条件を選択できます。
  - アクセルワークなどによる燃費の差を確認することで、より省燃費な運転のしかたを把握できます。
- 平均燃費
  - 1 シーズン、1 日、1 つのほ場、給油時などの決めた間隔で平均的な燃費を把握できます。
- 総燃料消費量
  - 1 シーズン、1 日、1 つのほ場で使用した燃料消費量を把握できます。

12.2 車速係数の入力について

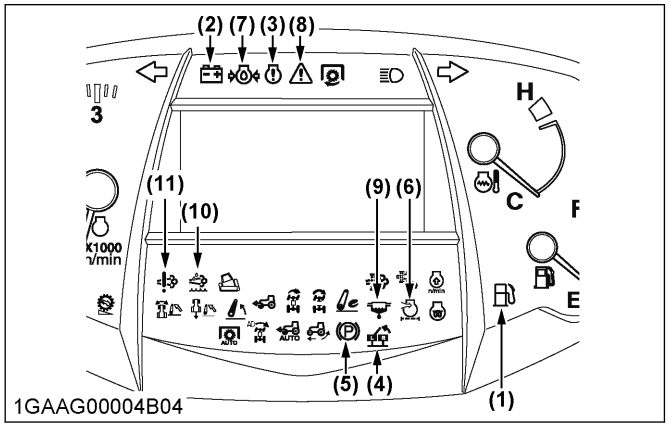
サイズの異なるオプション採用のタイヤに交換した場合、スピードが正しく表示されません。次表を参考にタイヤ外周長を入力してください。

タイヤ外周長一覧表

型式		後輪タイヤサイズ	入力値（周長）mm
GV800H	A	13.9-36	4411
	K	12.4-38RC	4504
	WA	16.9-30	4432
	LH	13.6-38H	4709
	R	340/85R36	4453
	KR	12.4R38RC	4477
	WR	16.9R30	4417
	NR	270/95R38	4355
GV900H GV1000H GV1050H	K	12.4-38RC	4504
	LA	16.9-34	4736
	LK	13.6-38RC	4670
	LH	13.6-38H	4709
	KR	12.4R38RC	4477
	LR	420/85R34	4716
	LKR	13.6R38RC	4671
	NR	270/95R38	4355

12.3 イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき、速やかにエンジンを止め、点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは、購入先にご相談ください。



(1) 燃料残量警告灯
(2) バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）
(3) エンジン異常警告灯
(4) ブレーキ連結ロック解除警告灯
(5) 駐車ブレーキ警告灯
(6) エアクリーナ目詰まり警告灯
(7) エンジンオイル油圧警告灯
(8) システム異常警告灯
(9) ウォータセパレータ警告灯
(10) 尿素水（*AdBlue*）インジケータ
(11) *SCR* システム警告灯

燃料残量警告灯

燃料の残量が約 13 L 以下になったとき点灯して警告します。
点灯したままのときは燃料を補給してください。

尿素水 (AdBlue) インジケータ

尿素水 (AdBlue) の残量が少なくなったとき、ディーゼル軽油や粗悪な尿素水 (AdBlue) を補充した場合、点灯して警告します。
点灯したままのときは尿素水 (AdBlue) の補充や良品と交換を行ってください。

SCR システム警告灯

SCR システムに異常が生じると、点灯して警告します。インジケータが消灯しない場合、購入先へご相談ください。

バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）

充電系統に異常があれば、エンジン回転中にランプが点灯して警告します。

エンジン異常警告灯

この警告灯は下記 2 つの機能を持っています。もし警告灯が点灯した場合、原因がどちらにあるかを調べ、適切な処置を行ってください。

エンジン・コントロールシステムの異常
運転中、水温計の指針が常温範囲内を示しているが、エンジン異常警告灯が点灯した場合、いったんエンジンを止め、再始動を行ってください。警告灯が消灯しない場合、購入先へご相談ください。

重要 :
警告灯が点灯時、エンジンの故障箇所により下記現象が現れます。
- **エンジンが突然止まった。**
- **エンジンが再始動できない。または始動してもすぐ止まる。**
- **エンジン出力がじゅうぶんでない。**
- **エンジン出力はじゅうぶんあるが、警告灯が点灯する。**

エンジン出力がじゅうぶんでない場合、ただちに作業を中断し、安全な場所にトラクタを移動させ、エンジンを止めてください。

エンジンのオーバーヒート
水温計の指針がレッドゾーンを示し、警告灯が点灯した場合、エンジンのオーバーヒートが予測されます。
エンジンの不調と処置（235 ページ）の項を参照し、トラクタを点検してください。

ブレーキ連結ロック解除警告灯

連結解除ペダルロックレバーが解除位置の場合、警告灯が点灯します。
道路走行時などは連結解除ペダルロックレバーをロック位置にして、警告灯の消灯を確認してから走行してください。

電子メータメッセージ
- 連結解除ペダルロックレバーを上げたまま、車速が 10 km/h を超えるとブザーが 1 回鳴ります。同時に ⚠ システム異常警告灯が点灯し、下記メッセージも表示されます。



駐車ブレーキ警告灯

駐車ブレーキが掛かっているとき、点灯して警告します。
点灯したままのときは、駐車ブレーキが掛かった状態になっていないか確認してください。

エアクリーナ目詰まり警告灯

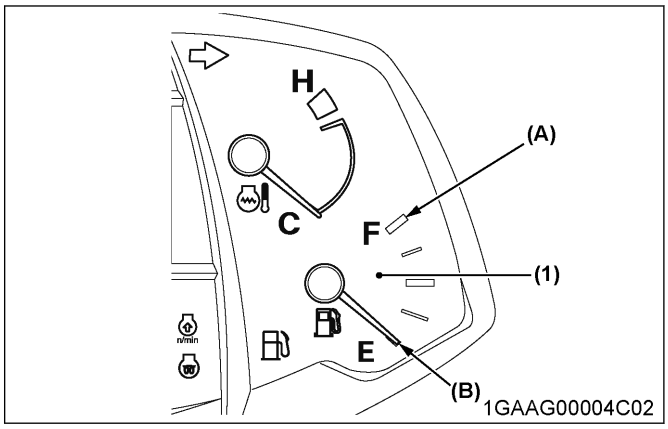
フィルタの目詰まりが多くなったとき点灯して警告します。
点灯したままのときは、フィルタの点検・清掃をしてください。
（充電系統に異常があるときも点灯します。）

エンジンオイル油圧警告灯
エンジン回転中、潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。
点灯したままのときは、直ちにエンジンを止めてエンジンオイル量および潤滑油系統を点検してください。

⚠ システム異常警告灯
エンジン、ミッション、油圧などの制御部品関係に異常が生じるとランプが点滅して警告します。
再始動を行っても回復しない場合、購入先にご相談ください。

12.4 燃料計

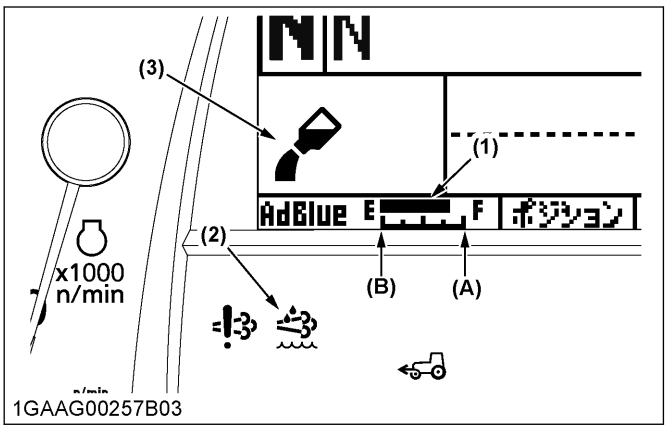
燃料タンクの残量を表示します。
指針が下方向に近づいたら早めに燃料を補給してください。
燃料タンクを空にすると燃料系統に空気が入るので、空気抜きが必要です。
空気抜きは燃料の空気抜きのしかた（228 ページ）を参照してください。



(1) 燃料計
(A) 満タン
(B) 空

12.5 尿素水(AdBlue)ゲージ

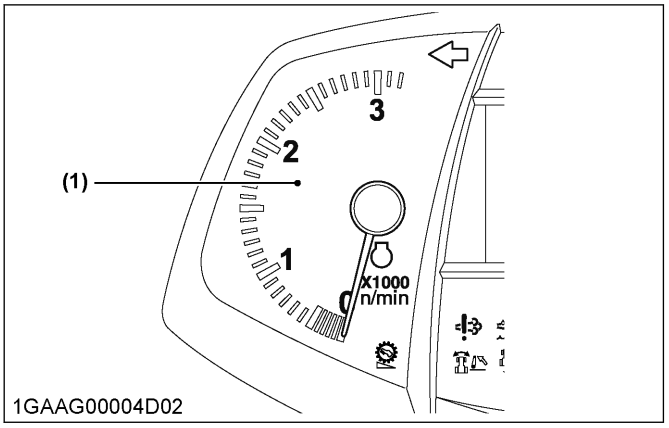
尿素水タンクの残量を液晶ゲージで表示します。
尿素水(AdBlue)が少なくなるとエンジン出力制限がかかりますので、タンクが空にならないように注意してください。
タンクの残量が 40%未満になると、電子メータの尿素水(AdBlue)インジケータと残量警告アイコンが点灯し、ブザーが鳴ります。トラクタの性能を維持するため、点灯後できるだけ早く、尿素水(AdBlue)を補給してください。



(1) 尿素水 *(AdBlue)* ゲージ
(2) 尿素水 *(AdBlue)* インジケータ
(3) 尿素水 *(AdBlue)* 残量警告アイコン
(A) 満タン
(B) 空

12.6 エンジン回転計

1 分間のエンジン回転数を示します。



(1) エンジン回転計

補足：
- **PTO 回転数は、液晶表示部に表示させることができます。**
  パフォーマンス項目の選択（89 ページ）の項を参照。

12.7 水温計

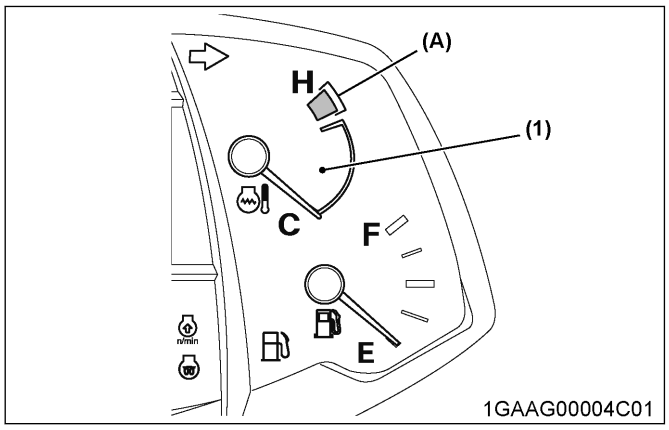
冷却水の水温を表示します。

⚠ 警告
- **ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けると、熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後 30 分以上たって、冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し、余圧を抜いてからキャップを外してください。**

重要：

- **ラジエータのオーバーフローパイプから蒸気が噴き出たら、オーバーヒートしたときの処置を行ってください。**

指針がレッドゾーンを示すときは、オーバーヒート状態であるため下記に従って点検してください。



(1) 水温計　　*(A)* レッドゾーン

オーバーヒートしたときの処置

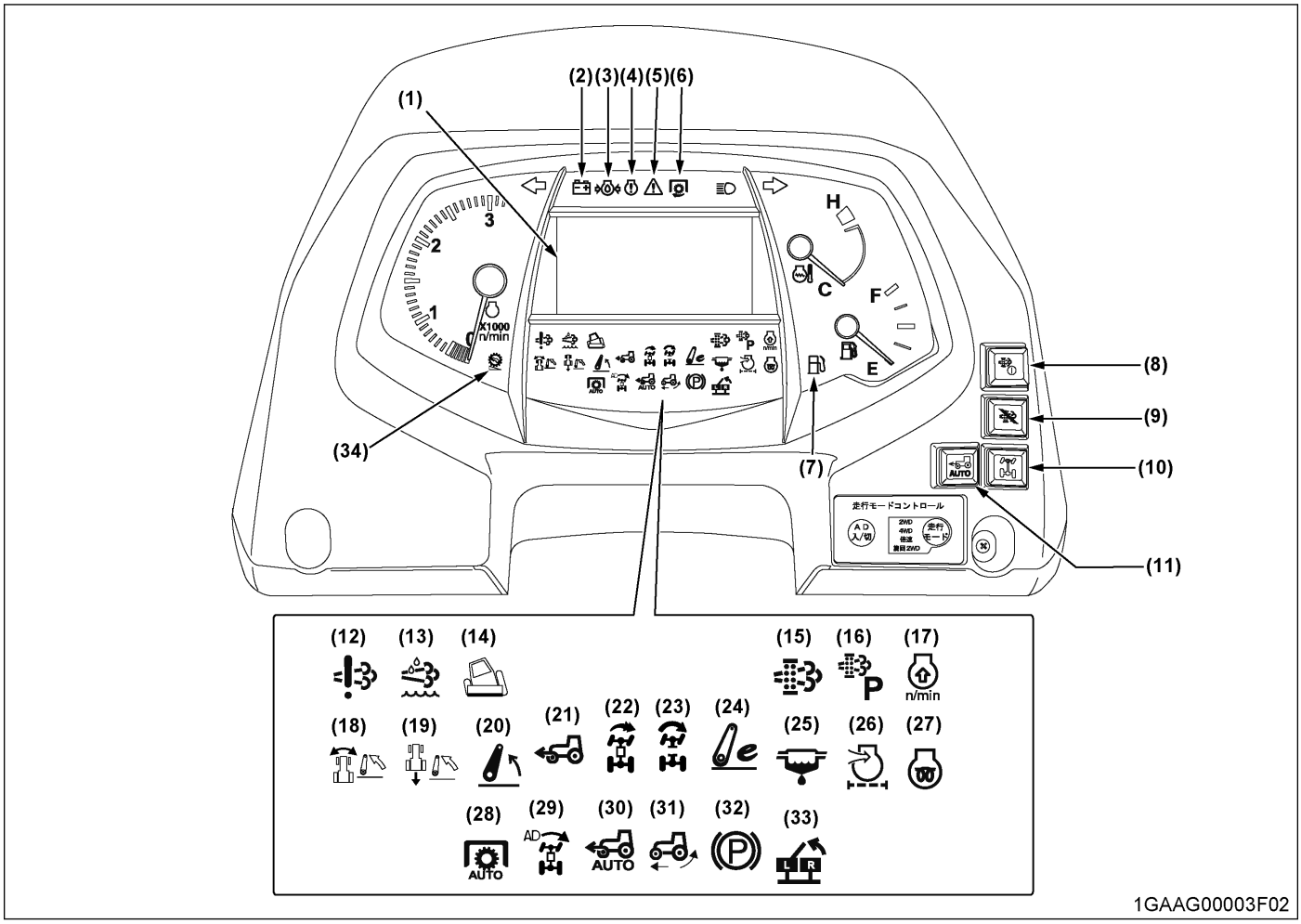
水温計の針がレッドゾーンを示したときは、作業を中止し、エンジンを約 5 分間アイドリング回転にしてからエンジンを停止します。停止後 30 分以上たって冷えてから、次の点検・整備をしてください。

- リザーブタンク、ラジエータの冷却水の量（不足）、および水もれがないか。
- フロントグリル、防虫網およびラジエータフィンとチューブの間に、泥やごみが付着していないか。
- ファンベルトのゆるみがないか。

12.8 モニタランプ

重要：
- **ランプに異常があるときは、購入先に点検・整備を依頼してください。**

キースイッチを**[入]**位置にすると、ランプ切れチェックのため下記の消灯ランプが約 1 秒間点灯します。
- (6)ランプが点灯し続けているときは、PTO スイッチを**[切]**にしてください。
- (33)ランプが点灯し続けているときは、ブレーキペダル連結金具を掛けてください。



(1) 液晶（メッセージ）表示部
(2) バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）
(3) エンジンオイル油圧警告灯
(4) エンジン異常警告灯
(5) システム異常警告灯
(6) *PTO* ランプ
(7) 燃料残量警告灯
(8) 駐車再生スイッチランプ
(9) 再生禁止スイッチランプ
(10) 前輪デフロックスイッチランプ
(11) オート *4WD* スイッチランプ
(12) *SCR* システム警告灯
(13) 尿素水（*AdBlue*）インジケータ
(14) 傾き自動ランプ
(15) 再生状態ランプ
(16) 駐車再生要求ランプ
(17) エンジン回転上げ要求ランプ
(18) 旋回アップランプ
(19) バックアップランプ
(20) クイックアップランプ
(21) *4WD*（*4* 輪駆動）ランプ
(22) 倍速ターンランプ
(23) 旋回 *2WD* ランプ
(24) e -アシスト旋回ランプ
(25) ウォータセパレータ警告灯
(26) エアクリーナ目詰まり警告灯
(27) エンジン予熱ランプ
(28) 上昇 *PTO* 停止ランプ
(29) *AD* ランプ
(30) オート *4WD* ランプ
(31) スリップ制御ランプ
(32) 駐車ブレーキ警告灯
(33) ブレーキ連結ロック解除警告灯
(34) アクセル連動灯

補足：
- **各スイッチの状態によりランプ切れチェック後、消灯や点灯のままのランプもあります。**
- **(14)のランプは機種、仕様により点灯しない場合があります。**

13. エンジン始動セキュリティ機能

本機能はお客様があらかじめ設定した暗証番号を入力しないとエンジンが始動しないシステムです。トラクタの自走による盗難を抑制する効果があります。

重要：

- **本機能はトラクタ盗難そのものを防止するものではありません。本機能が作動しているにもかかわらず、トラクタ盗難が発生したとしても当社では責任を一切負いかねますのでご了承ください。**
- **本機能は入 / 切の切替えが可能です。[切]状態ではトラクタの自走による盗難を抑制する効果はありません。**
- **暗証番号を連続して 10 回誤入力すると、暗証番号入力を拒否しエンジンを始動することができなくなります。この状態になったり、暗証番号を忘れた場合は、お客様では対応できませんので、購入先に連絡してください。**
- **暗証番号入力によってエンジン始動セキュリティを解除したあとは、キースイッチを[切]位置にしても 10 分間は本機能が解除状態になり、暗証番号を入力しなくても再始動が可能です。ただし、バッテリを取外した場合は 10 分以内でも暗証番号の入力が必要です。**
- **本機能の入 / 切を確認する場合は、エンジン始動セキュリティの入/切設定（ON / OFF）（103 ページ）を参照してください。**
- **暗証番号は定期的に変更し、他人から類推されやすい番号（連番など）を避けるなどしていただくと、盗難を抑制するのに効果的です。また暗証番号そのものや、簡単に推測できるものをトラクタに貼り付けるなどの表示をしないように注意してください。**

操作や設定は電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルで行い、暗証番号やメッセージは電子メータのモニタに表示されます。

13.1 暗証番号の入力方法

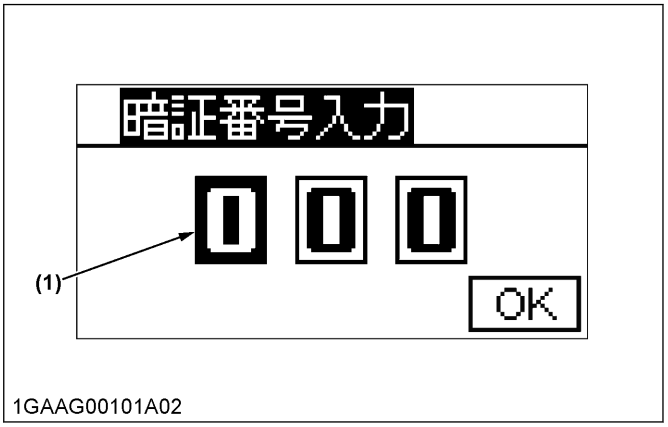
1. キースイッチを**[入]**にすると暗証番号入力画面が液晶モニタに表示されます。



(1) 暗証番号入力画面

2. 暗証番号を 100 の位から順番に入力します。
なお、暗証番号は 3 桁の数字になります。

電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル回転
数字の入力、位の送りで使います。数字が点滅表示中にダイヤルを右に回すとカーソルが右に移り、左に回すとカーソルが左に移ります。



(1) 点滅

数字が反転表示中にダイヤルを右に回すと数字が 1 繰り上がり、左に回すと 1 繰り下がります。



1 の位が点滅表示中に右回転、または 100 の位が点滅表示中に左回転すると**[OK]**へカーソルが移ります。



電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル短押し

数字の入力、位の送りを切り替えます。また、**[OK]**を選択中の短押しで暗証番号入力を確定します。
例：暗証番号を「234」に設定している場合。

a. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを短押しして 100 の位を点灯表示にします。
b. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを回して 100 の位に「2」を入力します。



1GAAG00101A05

c. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを短押しして 100 の位を点滅表示に戻します。
d. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを回して 10 の位を点滅表示にします。
e. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを短押しして 10 の位を点灯表示にします。
f. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを回して 10 の位に「3」を入力します。



1GAAG00101A06

g. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを短押しして 10 の位を点滅表示に戻します。
h. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを回して 1 の位を点滅表示にします。
i. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを短押しして 1 の位を点灯表示にします。
j. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを回して 1 の位に「4」を入力します。



1GAAG00101A07

k. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを短押しして 1 の位を点滅表示に戻します。

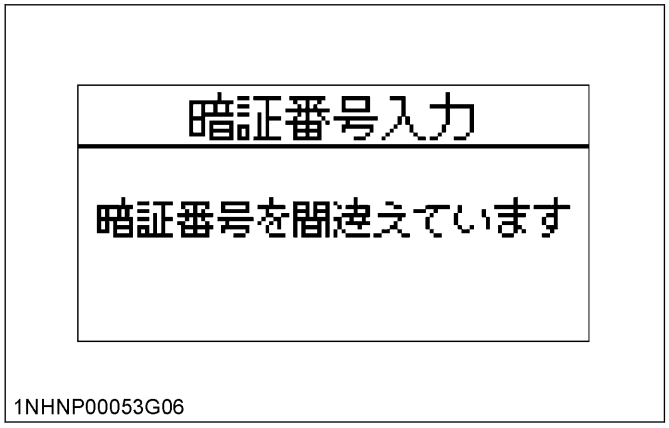
3. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを回して**[OK]**を選択し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを短押しして、暗証番号を確定します。



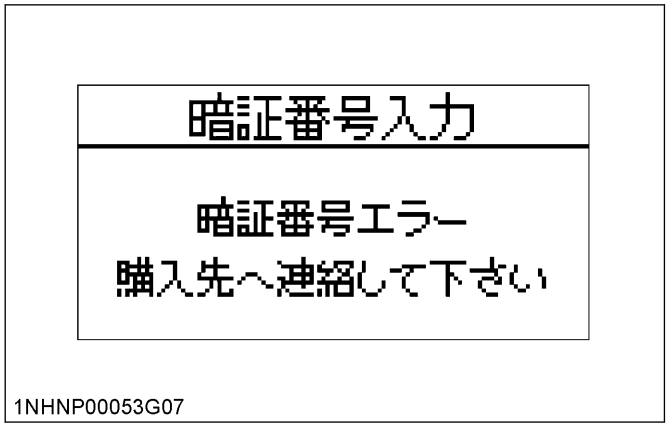
1GAAG00101A08

暗証番号が一致すると、「ピピッ」と音が鳴り、約 2 秒後通常の電子メータ表示となり、エンジンを始動することができます。
暗証番号が一致しないと、**[暗証番号を間違えています]**と表示され、その後、手順 1.の表示に戻ります（数字は誤入力した数字）ので、暗証番号が一致するまで手順 2.以降の操作を繰返してください。
なお、暗証番号の入力は連続して 10 回間違えると、暗証番号入力を拒否しエンジンを始動することができなくなり、液晶モニタは**[暗証番号エラー 購入先へ連絡して下さい]**と表示されます。この場合お客様では対応できませんので、購入先に連絡してください。

暗証番号が正しくない場合



暗証番号を連続して 10 回間違った場合



13.2 エンジン始動セキュリティの設定

エンジン始動セキュリティ機能の入と切は下記の状態となります。

入の場合：

暗証番号を入力しないとエンジンは始動しません。ただし、キースイッチを**[切]**にしてから 10 分以内であれば暗証番号を入力しなくても再始動が可能です。ただし、バッテリを取外した場合はキースイッチを**[切]**にしてから 10 分以内でも暗証番号の入力が必要です。

切の場合：

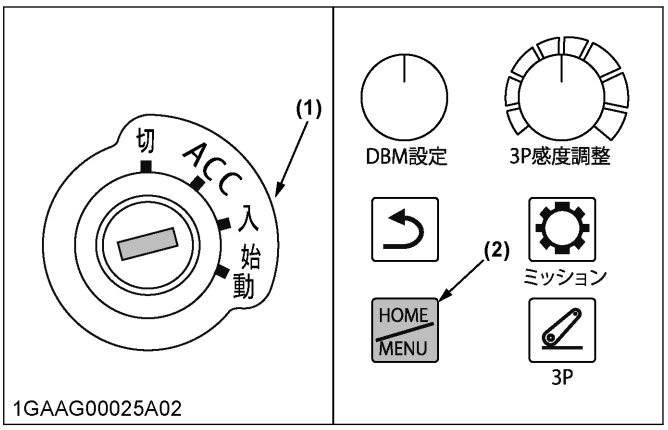
暗証番号入力を必要とせず、キースイッチを**[入]**にしてからすぐにエンジンの始動が可能です。

補足：

- **工場出荷時、エンジンセキュリティ機能は[切]に設定しています。**

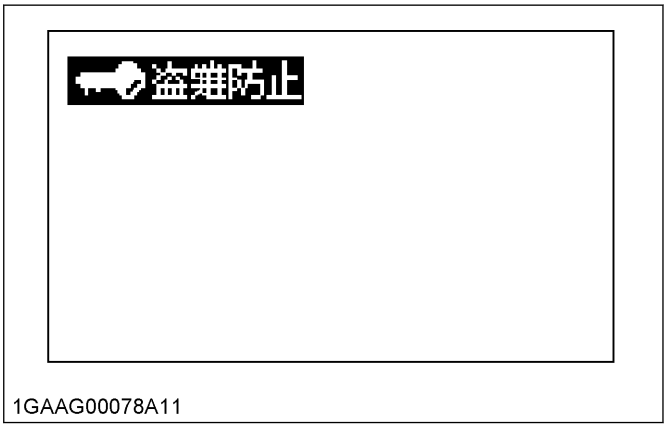
エンジン始動セキュリティの入 / 切設定と暗証番号設定は、次の手順で行ってください。

1. HOME / MENU スイッチを押しながらキースイッチ**[入]**位置にし、各種設定選択画面を表示させます。



(1) 入
(2) *HOME/MENU* スイッチ

2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤル回転で盗難防止機能を選択し、ダイヤルを短押しします。



3. 液晶モニタにエンジン始動セキュリティの入/切設定とエンジン始動セキュリティの暗証番号設定が表示されますので、それぞれ設定してください。



(1) エンジン始動セキュリティの入 / 切設定
(2) エンジン始動セキュリティの暗証番号設定

4. キースイッチを**[切]**位置に戻すと終了します。

13.3 エンジン始動セキュリティの入/切設定（ON / OFF）

1. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを回転させ、エンジン始動セキュリティの入/切設定を反転表示させてから、ダイヤルを長押しすると、暗証番号の入力画面が表示されます。



(1) エンジン始動セキュリティの入 / 切

2. 暗証番号を入力します。
（詳細は暗証番号の入力方法（100 ページ）を参照）

補足：
- **出荷時の暗証番号は「000」です。**



(1) 暗証番号の入力画面

3. 暗証番号が一致すると、約 2 秒後に〝エンジン始動セキュリティの入 / 切設定画面〟が表示されます。



(1) エンジン始動セキュリティの入 / 切設定画面

4. ダイヤル回転で**[ON]**または**[OFF]**を反転表示させます。
5. ダイヤルを長押しすると約 2 秒後に、エンジン始動セキュリティの画面に戻ります。

13.4 エンジン始動セキュリティの暗証番号設定

1. 選択スイッチでエンジン始動セキュリティの暗証番号設定を反転表示させてから、ダイヤルを長押しすると、旧暗証番号の入力画面が表示されます。



(1) エンジン始動セキュリティの暗証番号設定



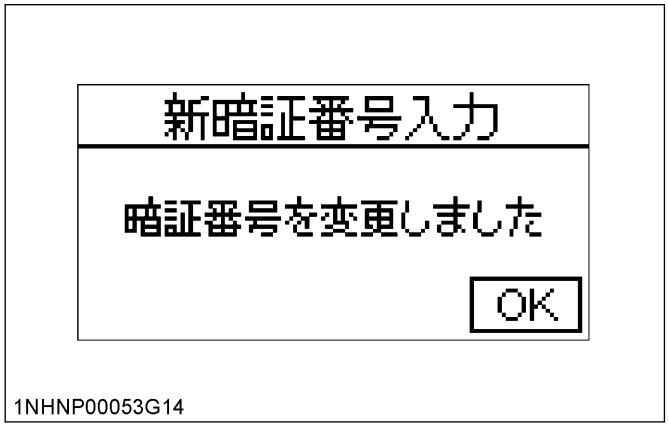
(1) 旧暗証番号の入力画面

2. 旧暗証番号を入力します。
（詳細は暗証番号の入力方法（100 ページ）を参照）
3. 暗証番号が一致すると、約 2 秒後に新暗証番号の入力画面が表示されます。



(1) 新暗証番号の入力画面

4. 新暗証番号を入力します。
（詳細は暗証番号の入力方法（100 ページ）を参照）
5. 新暗証番号は 2 回入力が必要ですので、手順 2.と同じ要領で、再度新暗証番号を入力・確定します。
6. 1 回目と 2 回目に入力した暗証番号が一致しない場合は設定が完了できませんので、手順 2.以降の操作を再度行ってください。
2 回入力した新暗証番号が一致すると、約 2 秒後に **[暗証番号を変更しました]**と液晶モニタに表示され、さらに約 2 秒後にエンジン各種設定選択画面に戻ります。



14. 電子エンジン制御

このトラクタに搭載している電子制御式エンジンは下記 3 つの制御を行っています。
必要に応じ正しく設定の上ご使用ください。
- エンジン回転上限設定
- エンジン回転メモリ設定
- パワーアシスト制御

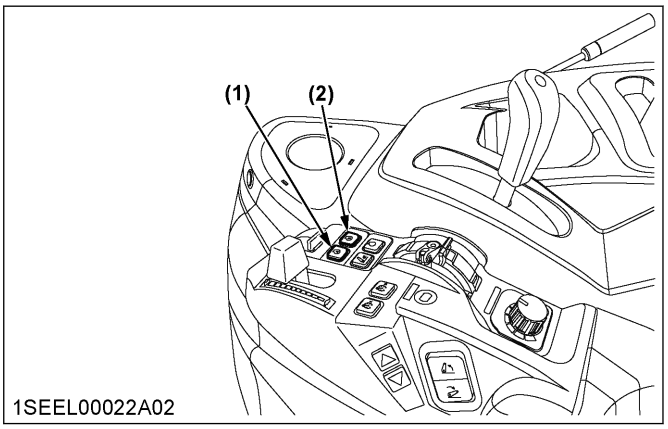
14.1 エンジン回転上限設定

上限回転数を規制しておくと、アクセルレバーやアクセルペダルを操作しても設定回転数以上には上昇せず、誤操作による作業機のトラブルなどが防止できます。
回転数の設定方法
設定はエンジン回転中または停止中のどちらでも行えます。

1. **[メニュー画面]→[エンジン]→[エンジン回転上限]**を選択します。
2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを左右に回し回転数を設定します。
3. 設定回転数を最大にすると上限規制回転数が非表示になります。

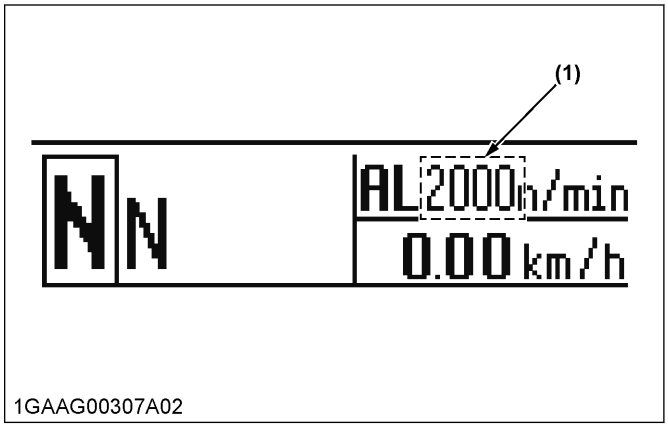
14.2 エンジン回転メモリ設定

エンジン回転メモリスイッチ A/B を用いると、エンジン回転数をワンタッチで設定することができ、面倒なアクセル操作が不要となります。



(1) エンジン回転メモリスイッチ *A*
(2) エンジン回転メモリスイッチ *B*

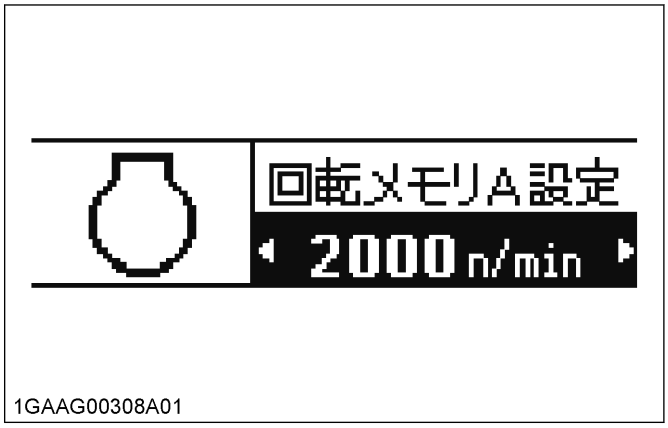
補足：
- **エンジン回転上限の設定値より、メモリ設定回転数の値を高く設定した場合、メモリ設定回転数まで上昇しません（上限設定が優先する）。**
- **たとえばエンジン上限設定を 1230 rpm、メモリ設定回転数を 2000 rpm に設定した場合、液晶表示部に次図のように表示され、エンジン回転は 1230 rpm までしか上昇しません。**



1GAAG00307A02

(1) 点滅表示

エンジン回転メモリの設定方法（設定回転数の変更）
設定はエンジン回転中/停止中のどちらでもできます。
1. HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]**→**[エンジン]**→**[回転メモリ A 設定]**または**[回転メモリ B 設定]**を選択します。
2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを左右に回し回転数を設定します。

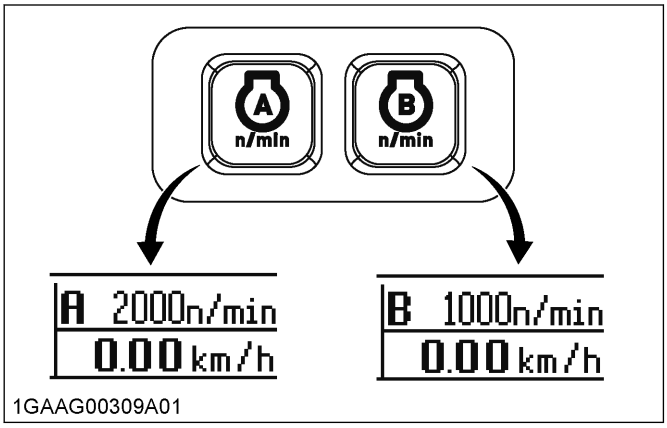


1GAAG00308A01

エンジン回転メモリの設定方法（現在回転数の記憶）
現在指示しているエンジン回転数を、**[回転メモリ A 設定]**または**[回転メモリ B 設定]**に記憶できます。
1. アクセルレバーを操作して、記憶したいエンジン回転数まで回転数を上昇させます。
2. エンジン回転メモリスイッチ A またはエンジン回転メモリスイッチ B を長押しします。
3. 「ピピッ」と音が鳴り、エンジン回転数が**[回転メモリ A 設定]**または**[回転メモリ B 設定]**に記憶されます。

補足：
- **キースイッチを[切]位置にしても、設定回転数を記憶しています。**

使用例
たとえば回転メモリ A 設定に 2000 回転、回転メモリ B 設定に 1000 回転をセットしたとします。



1GAAG00309A01

作業時
エンジン回転メモリスイッチ A を押すことで自動的に 2000 回転にセットされます。

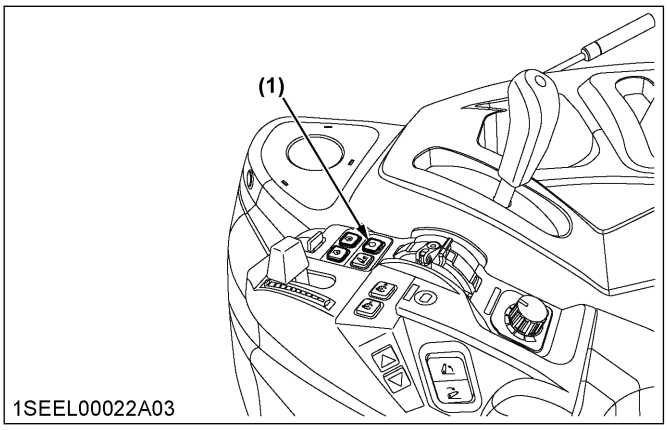
旋回時
旋回時、エンジン回転メモリスイッチ B を押すことで 1000 回転に下がり、低速で旋回が行えます。旋回後に再度スイッチ B を押すと 2000 回転となります。

補足：
- **アクセルレバーはアイドリングより少し高くしてください。アイドリングではスイッチは作動しません。**
- **アクセルペダルを踏込んで、設定回転数以上に回転を上げることもできます。**
- **工場出荷時の設定は回転メモリ A 設定が 2000 回転、回転メモリ B 設定が 1500 回転です。**

解除方法
下記のいずれかでエンジン回転メモリ設定を解除してください。
- 作動中のエンジン回転メモリスイッチを再度押す。
- アクセルレバーをアイドリング位置に戻す。
- キースイッチを**[切]**位置にする。

14.3 パワーアシスト制御

パワーアシストスイッチを押すとパワーアシスト制御の**[入]**／**[切]**が切替わります。



1SEEL00022A03

(1) パワーアシストスイッチ

補足：
- **機械式制御エンジンでは、負荷の増減によりエンジン回転数が変化します。**
  たとえば丘陵地での作業時、丘を登る場合負荷が増加しエンジン回転がドロップします。逆に丘を下るときは負荷が減ります。このエンジン回転数の増減が車速や PTO 駆動作業機に影響を及ぼします。この影響を最小限に留めるためオペレータは車速やアクセルレバーの微調整が必要でした。
  この電子制御エンジン付トラクタに採用したパワーアシストスイッチを[入]にすると、ある一定レベルの負荷変動にはエンジン回転をほぼ一定に保つ事ができ、車速やアクセルレバーの煩わしい操作をすることなく作業精度の向上が図れます。
- **一定回転が保てる範囲には限界があります。エンジン性能以上の負荷が加わった場合、エンジン回転がドロップします。**
- **パワーアシストによりエンジン出力が増加するものではありません。**
- **S モードを併用する場合は次のようになります。**
  （詳細は 3P 制御モード（111 ページ）を参照）
  パワーアシスト[切]で作業したほうが、仕上がりの精度は向上します。どうしてもパワーアシスト[入]で作業するときは、感度調整ダイヤルを敏感にしてください。
  また、作業中にパワーアシストスイッチの[入]、[切]を切換えると、仕上がりが変わる場合があります。

パワーアシスト[入]時
負荷変動によるエンジン回転数の変動を抑え、車速や PTO 回転をほぼ一定に保つため、安定した作業が行えます。
パワーアシストが**[入]**の場合、スイッチランプが点灯します。

パワーアシスト[切]時
従来のエンジン同様、負荷の増減に応じエンジン回転も増減します。
オペレータはエンジンの回転数やエンジン音などから負荷の大きさを判断し、作業機への過負荷防止のため車速や耕深調整を行う事ができます。

14.4 e-アシスト旋回

e-アシスト旋回は、クイックアップ操作と連動し、エンジン回転数および車速をエンジン回転メモリ設定の値、クルーズ車速設定の値に自動的に変更する機能です。クイックアップで作業機を下降させると、エンジン回転数および車速がメモリ設定回転数、クルーズ設定車速まで上がります。クイックアップで作業機を上昇させると、エンジン回転数および車速がメモリ設定回転数、クルーズ設定車速まで下がり、低速で旋回が行えます。

設定方法
1. メモリ回転を使用する場合は、エンジン回転メモリスイッチ A または B を押し、エンジン回転メモリ設定を有効にします。クルーズ車速を使用する場合は、クルーズ車速スイッチ A または B を押し、クルーズ車速設定を有効にします。
2. e-アシスト旋回スイッチを押して、e-アシスト旋回の作動状態を有効にします。（e-アシスト旋回ランプが点灯し、スイッチランプがオレンジ色で表示されます）

解除方法
1. e-アシスト旋回スイッチを押して、e-アシスト旋回の作動状態を解除します。（e-アシスト旋回ランプが消灯し、スイッチランプが白色で表示されます）

補足：
- **アクセルレバーをアイドリング状態より少し高くしないと、メモリ回転になりません。**
- **主変速レバーを最低速位置より少し高くしないと、クルーズ車速になりません。**
- **最高車速設定のほうが、クルーズ設定車速よりも小さい場合は、クルーズ設定車速になりません（最高車速設定に規制されます）。**
- **エンジン回転上限設定回転数のほうが、エンジン回転メモリ設定回転数よりも小さい場合は、エンジン回転メモリ設定回転数になりません（エンジン回転上限設定回転数に規制されます）。**
- **e-アシスト旋回ランプが点滅時、3 点リンクの安全ロックを解除してください。安全ロックを解除すると、e-アシスト旋回ランプが点灯に変わり、e-アシスト旋回モードになります。**

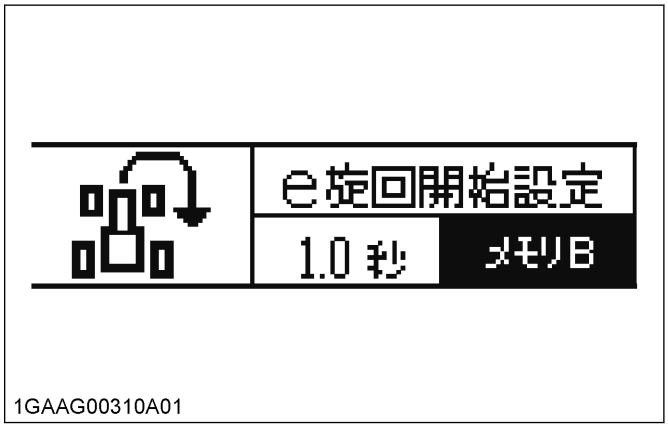
14.4.1 e-アシスト旋回の回転数設定

回転数には回転メモリ A 設定、回転メモリ B 設定、回転メモリ設定切のいずれかの状態をセットできます。出荷時設定では開始（クイックアップ上昇）時にメモリ B、終了（クイックアップ下降）時にメモリ A がセットされています。

設定方法
例 作業時は 2600 回転、旋回時は 1500 回転に設定したい場合

1. キースイッチを**[入]**位置にして、回転メモリ A 設定に 2600 回転、回転メモリ B 設定に 1500 回転をセットします。
   （詳細はエンジン回転メモリ設定（104 ページ）を参照）
2. HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]→[旋回]→[ｅ旋回開始設定]**を選択します。

3. 右側のエンジン回転メモリ部に**[メモリ B]**を指定します。



1GAAG00310A01

4. **[メニュー画面]**→**[旋回]**→**[ｅ旋回終了設定]**を選択します。
5. 右側のエンジン回転メモリ部に**[メモリ A]**を指定します。



1GAAG00311A01

14.4.2 e-アシスト旋回の応答時間設定

作業や好みによって、クイックアップ操作からエンジン回転数切替までの応答時間を変更することができます。上昇、下降とも応答時間を 0.0～6.0 秒の範囲、0.5 秒間隔で設定可能です。

設定方法
クイックアップ上昇時の応答時間を 1.5 秒、下降時の応答時間を 2.0 秒に設定したい場合

1. キースイッチを**[入]**位置にして、HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]**→**[旋回]**→**[ｅ旋回開始設定]**を選択します。
2. 左側の応答時間設定部に**[1.5 秒]**を指定します。



1GAAG00312A01

3. **[メニュー画面]**→**[旋回]**→**[ｅ旋回終了設定]**を選択します。
4. 左側の応答時間設定部に**[2.0 秒]**を指定します。



1GAAG00313A01

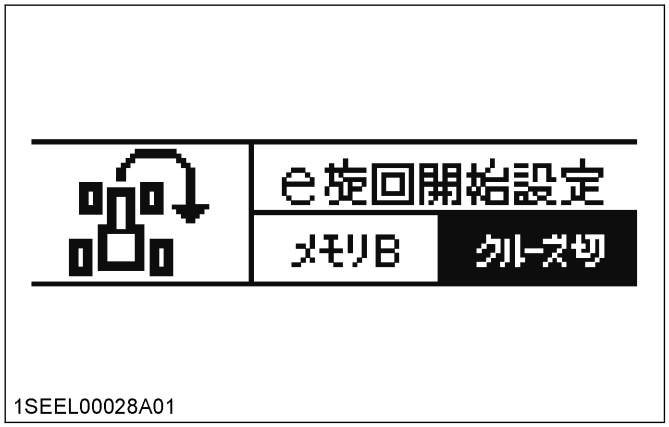
14.4.3 e-アシスト旋回のクルーズ車速設定

クルーズ車速にはクルーズ車速 A 設定、クルーズ車速 B 設定、クルーズ車速設定切のいずれかの状態をセットできます。

設定方法
作業時はクルーズ車速 1.0 km/h、旋回時はクルーズコントロール切に設定したい場合

1. キースイッチを**[入]**位置にして、クルーズ車速 A 設定に 1.0 km/h をセットします。
（詳細はクルーズ車速の設定方法（設定車速の変更）（135 ページ）を参照）
2. HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]**→**[旋回]**→**[e 旋回開始設定]**を選択します。
3. カーソルを右に 2 度回してクルーズ車速設定部を選択し、**[クルーズ切]**を指定します。
4. **[メニュー画面]**→**[旋回]**→**[e 旋回終了設定]**を選択します。

5. カーソルを右に 2 度回してクルーズ車速設定部を選択し、**[クルーズ A]**を指定します。



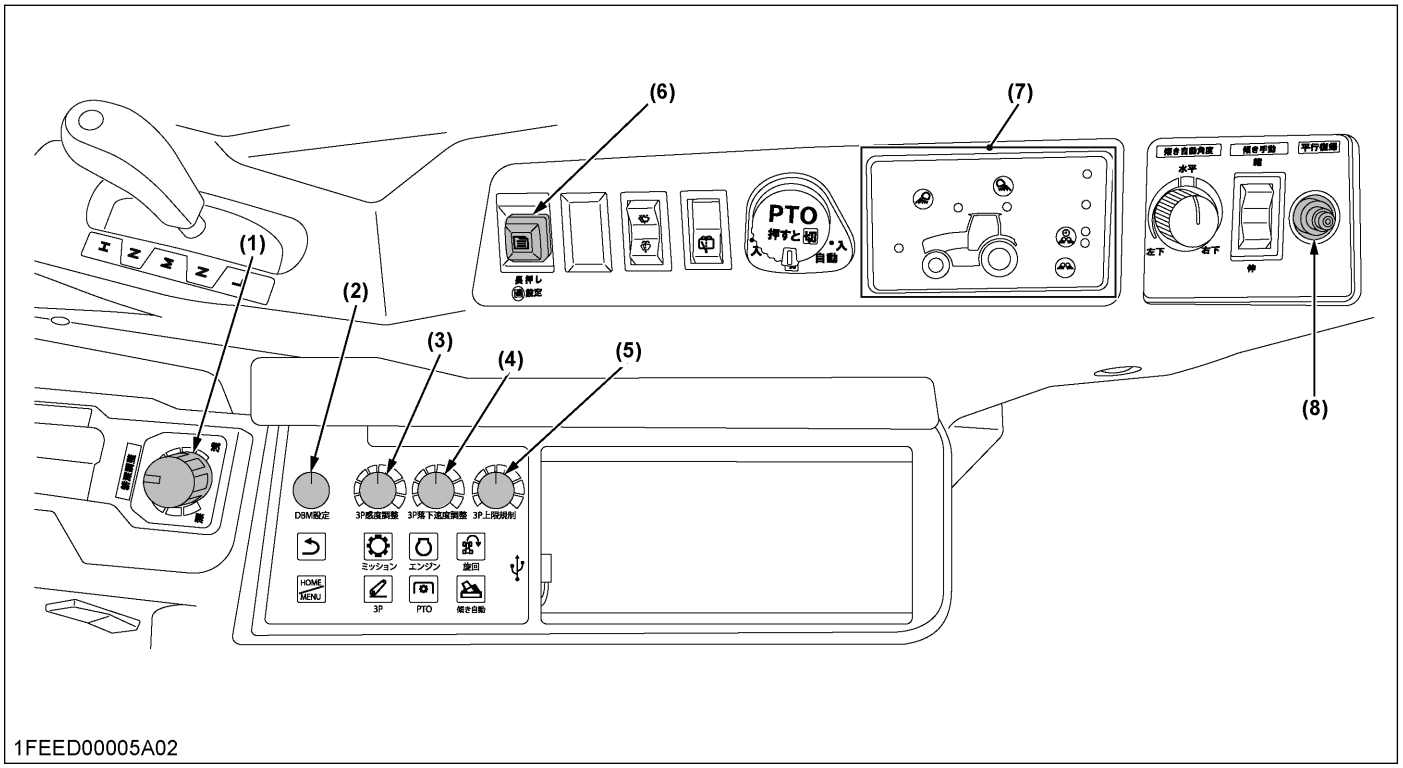
1SEEL00028A01



1SEEL00028B01

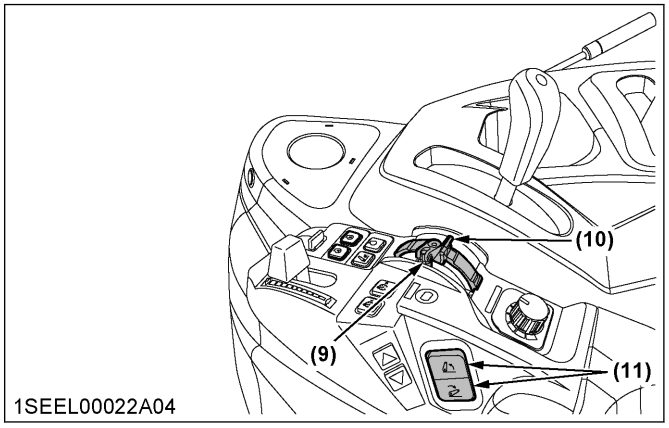
15. 作業機昇降装置

15.1 作業機昇降装置の各部の名称



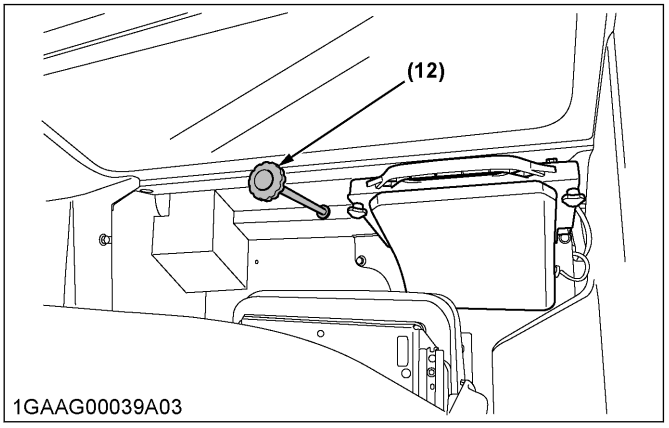
1FEED00005A02

(1) 耕深調節ダイヤル
(2) 電子メータ*(DBM)*設定ジョグダイヤル
(3) 感度調整ダイヤル
(4) 作業機落下速度調整ダイヤル
(5) 高さ規制調整ダイヤル
(6) ワンタッチ作業モード設定スイッチ
(7) ワークランプ集中操作スイッチ
(8) 平行復帰スイッチ



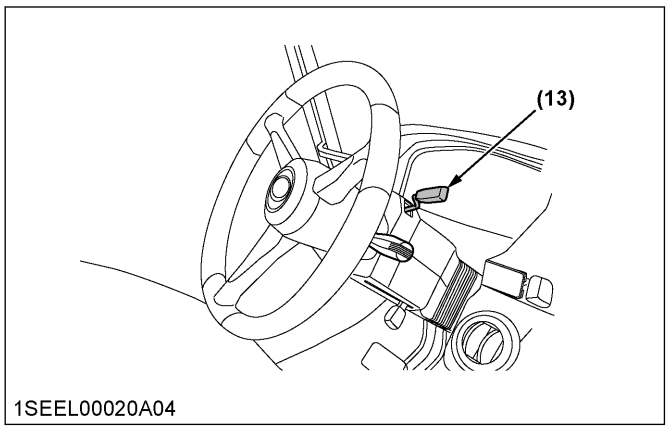
1SEEL00022A04

(9) 下限ストッパ
(10) ポジションレバー
(11) クイックアップスイッチ



1GAAG00039A03

(12) 油圧ロックレバー

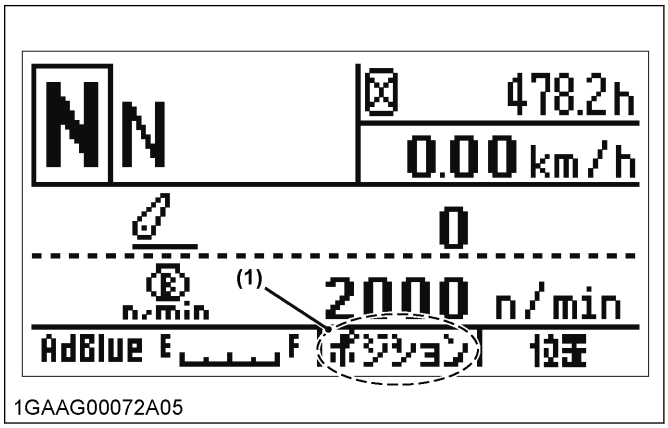


1SEEL00020A04

(13) クイックアップレバー

15.2 3P 制御モード

作業に応じた 3 点リンク制御に切替えます。作業の選択状態は画面下部に表示されます。

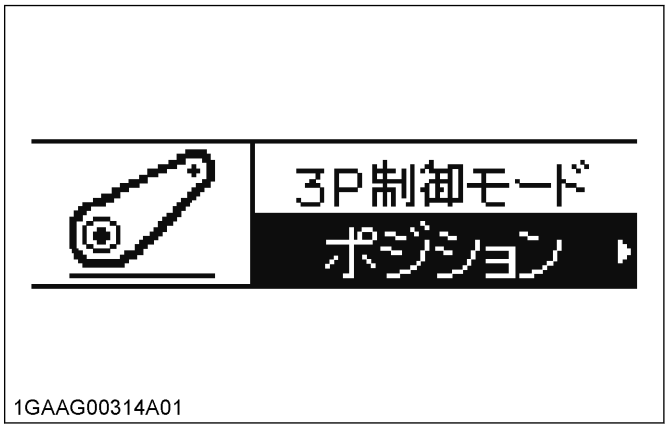


1GAAG00072A05

(1) 作業選択状態

設定方法

1. HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]**→**[3P]**→**[3P 制御モード]**を選択します。



1GAAG00314A01

2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを回し、**[ポジション]**⇔**[耕深制御]**⇔**[S モード]**⇔**[ドラフト]**⇔**[レーザ]**から使用する制御モードを選択します。

補足：

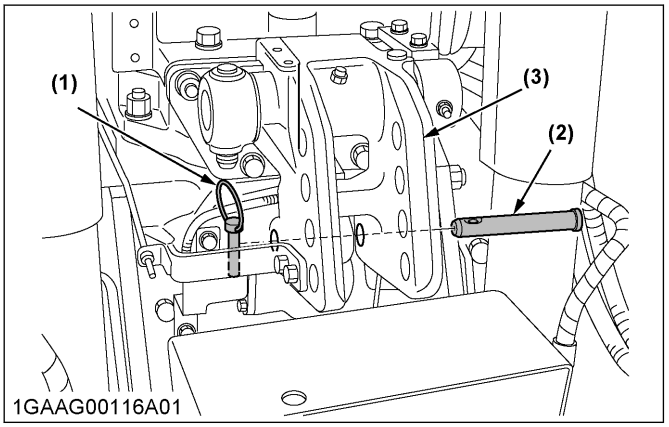
- **耕深制御用作業機（ロータリ）やレーザ用信号が接続されていない場合、[耕深制御]や[レーザ]は選択できません（設定項目から除外されます）。**

モード別作業例

制御モード	作業例
[耕深制御]	耕深制御耕うんが可能なロータリを装着しての、一般耕うん、代かき作業に使用します。
[S モード]	ロータリカバーを上げたままで行う、耕深制御作業に使用します。 （耕深制御未対応の一般ロータリも使用可）
[ドラフト]	プラウ、サブソイラなどのけん引作業に使用します。
[レーザ]	オプションのレーザ作業機を装着しての均平作業に使用します。
[ポジション]	**[耕深制御]**、**[S モード]**、**[ドラフト]**、**[レーザ]**の**自動**が解除されポジションコントロールになります。 耕深制御耕うん **切**での一般ロータリ耕作業などに使用します。

15.3 ドラフトストッパピン

プラウ作業などドラフトコントロールを使用する場合は、トップリンクブラケットのストッパピンを抜いてください。
ドラフトコントロールを使用しない場合は、ストッパピンを入れてください。



1GAAG00116A01

(1) ロックピン
(2) ストッパピン
(3) トップリンクブラケット

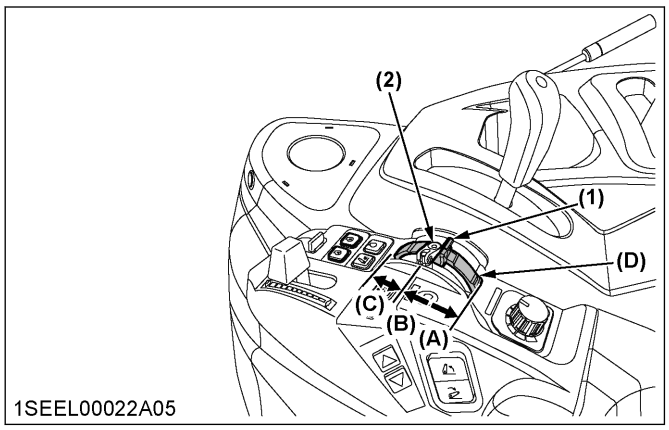
補足：

- **ストッパピンを外したまま、ロータリ耕うんを行うと、耕深制御が正常に作動しない場合があります。**

15.4 ポジションレバー

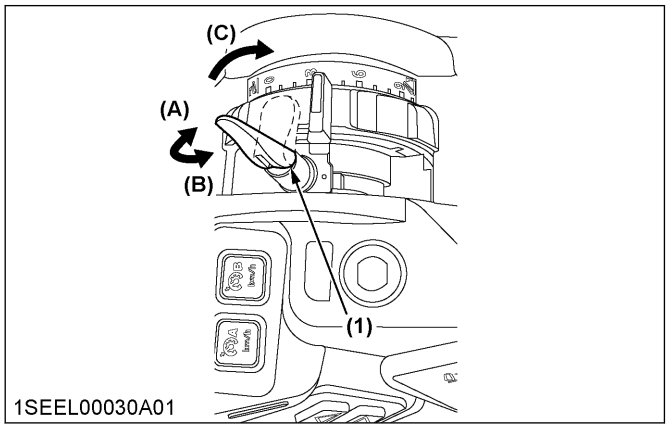
ポジションコントロールとして使用の場合

- (A)、(B)ポジション範囲では、作業機が任意の位置に保たれます。
- (C)フローティング範囲では、作業機はいっぱいに下がります。



(1) ポジションレバー
(2) ストッパ
(A) 上がる
(B) 下がる
(C) フローティング
(D) 走行ロック位置

補足：
- **走行時はポジションレバーを(D)走行ロック位置にして、ストッパをロックしてください。不意の操作による急落下を防いでください。**



(1) ストッパつまみ
(A) 締まる
(B) 緩む
(C) 倒す

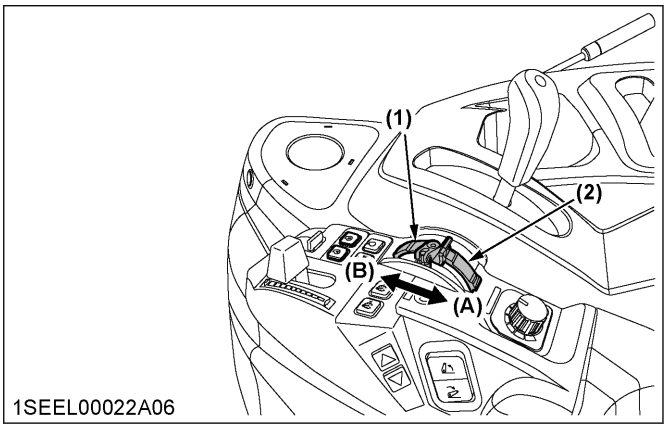
ストッパ先端のつまみを回転させることでストッパを緩めたり締めたりできます。
任意の向きにつまみを数回回転させたら、つまみを倒してください。

ポジションレバーの取扱い特性
- エンジン停止後、キースイッチを**[入]**位置にしてポジションレバーを前方に倒すと、作業機は下降します。
- 高さ規制調整ダイヤルで上昇高さを制限しているときは、制限位置までしか上昇しません。
- 詳細は高さ規制調整ダイヤル（112 ページ）の項を参照。

各作業モード（[耕深制御]、[S モード]、[ドラフト]、[レーザ]）を使用の場合
- ポジションレバーを(C)フローティング範囲に下げても、作業機は耕深調節ダイヤルで設定した位置以下には下がりません。
（レーザモードは受光位置）
- 耕深ダイヤルで設定した位置よりも、ポジションレバー位置が浅側にあるときは、ポジションレバー位置まで下降します。

15.5 下限規制

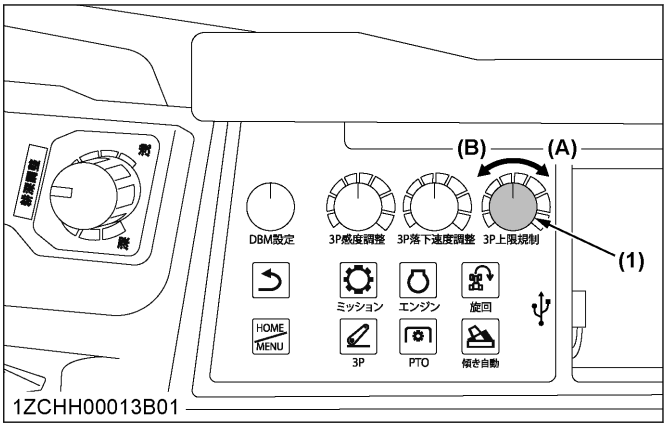
3 点リンクの下降下限位置を変えるときに使用します。
- ストッパを**[UP]**側に倒すと、ポジションレバーの下限高さが高くなります。
- ストッパを**[DOWN]**側に倒すと、ポジションレバーの下限高さが低くなります。



(1) ストッパ
(2) ポジションレバー
(A) 高くなる***[UP]***
(B) 低くなる***[DOWN]***

15.6 高さ規制調整ダイヤル

3 点リンクの上昇上限位置を変えるときに使用します。
- ダイヤルを(A)方向に回すと、3 点リンクの上昇規制高さが高くなります。
- ダイヤルを(B)方向に回すと、3 点リンクの上昇規制高さが低くなります。

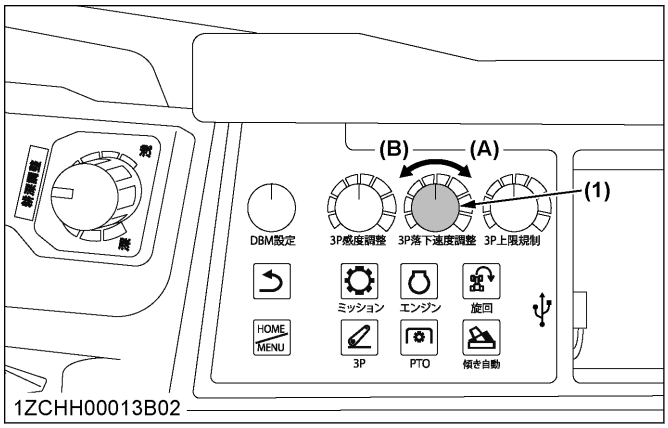


(1) 高さ規制調整ダイヤル
(A) 高くなる
(B) 低くなる

補足：
- **高さ規制調整ダイヤルにより、クイックアップレバーおよびポジションレバーでの上げ位置を任意の高さに規制できます。**

15.7 作業機落下速度調整ダイヤル

3 点リンクの落下速度を変えるときに使用します。
- ダイヤルを(A)方向に回すと、3 点リンクの落下速度が速くなります。
- ダイヤルを(B)方向に回すと、3 点リンクの落下速度が遅くなります。

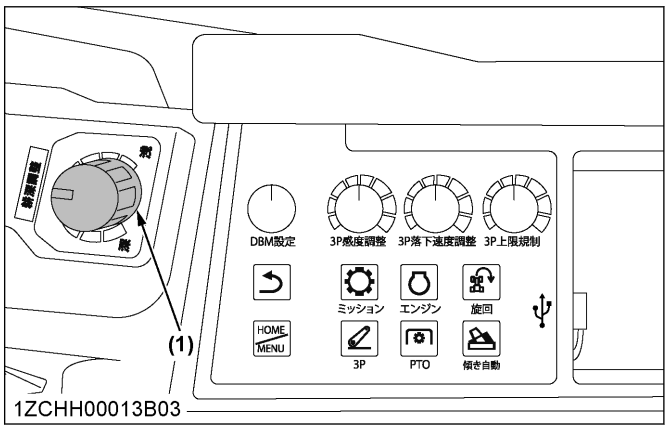


(1) 作業機落下速度調整ダイヤル
(A) 速くなる
(B) 遅くなる

補足：
- **このダイヤルでは、油圧ロックはできません。**
- **走行時やロータリなどの作業機を点検する場合は、必ずシート後ろの油圧ロックレバーでロックしてください。**

15.8 耕深調節ダイヤル

各作業モード（**[耕深制御]**、**[S モード]**、**[ドラフト]**、**[レーザ]**）を使用の場合、このダイヤルで作業機の耕深を設定してください。



(1) 耕深調節ダイヤル

- ダイヤルを**[浅]**方向へ回すと、プラウ・ロータリなどの耕深が浅く保持されます。
- ダイヤルを**[深]**方向へ回すと、プラウ・ロータリなどの耕深が深く保持されます。

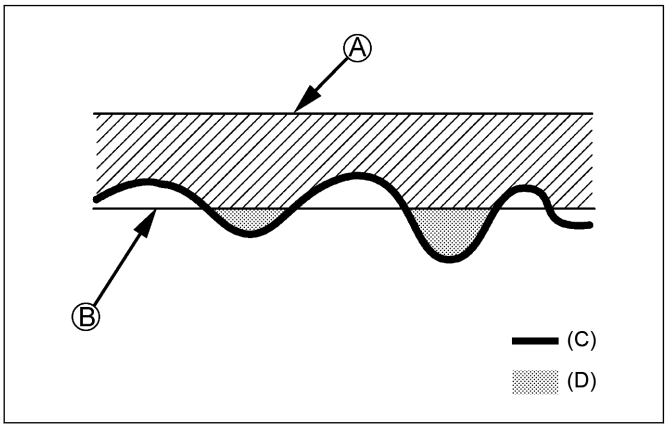
補足：
- **ダイヤルを[深]方向へいっぱい回すと、フローティング範囲になります。また[浅]方向へいっぱい回すと作業機が上端近くまで上昇します。**
- **ポジションモードでは、耕深調節ダイヤルは作動しません。**

ドラフト耕深調節ダイヤルとして使用する場合
- ポジションレバーを下げ、ダイヤルを**[浅]**方向へ回すと、プラウの耕深が浅く保持され、**[深]**方向へ回すと、プラウの耕深が深く保持されます。
- 旋回時など作業機を上げるときは、ポジションレバーまたは、クイックアップレバーで行なってください。

ワンタッチフローティング機能
クイックアップレバーを下げ続けている間はフローティング状態となり、プラウ作業のスキ込み時などに使用すると有効です。
またクイックアップレバーから手を離すと、ドラフト制御位置まで戻ります。

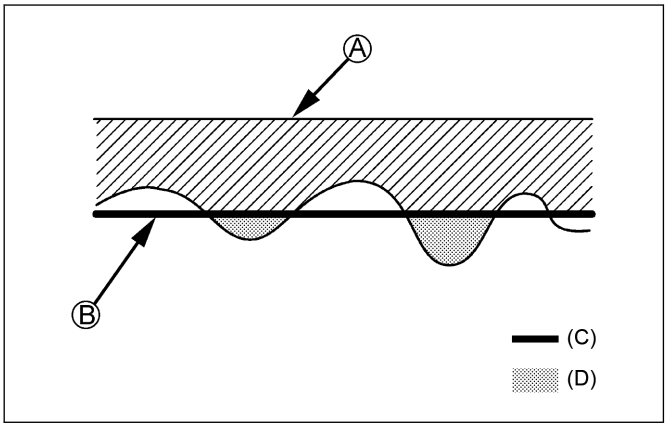
ミックスコントロール（ドラフト+ポジション）
ポジションレバーで作業機の降下位置を規制し、耕深調節ダイヤルでけん引抵抗に応じた制御をするという 2 つのコントロールをします。軟弱な土質でのプラウ・サブソイラなどの作業に適しています。

ドラフト



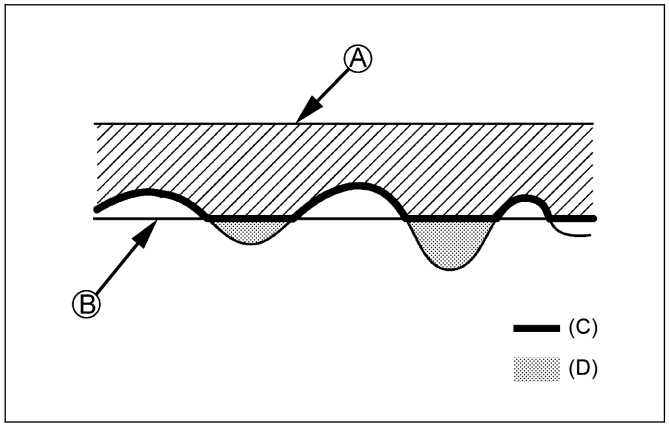
(A) 地表面
(B) ポジションレバー位置
(C) 作業機の耕深
(D) 軟弱な地質

ポジション



(A) 地表面
(B) ポジションレバー位置
(C) 作業機の耕深
(D) 軟弱な地質

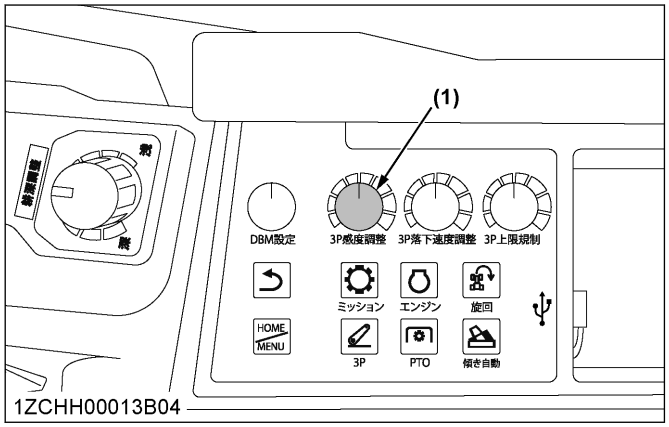
ミックス



(A) 地表面
(B) ポジションレバー位置
(C) 作業機の耕深
(D) 軟弱な地質

15.9 感度調整ダイヤル

各作業モード（**[耕深制御]**、**[S モード]**、**[ドラフト]**、**[レーザ]**）を使用の場合、感度調整ダイヤルにより、負荷の変化量に対する作業機の動き量を調整することができます。



(1) 感度調整ダイヤル

- **[耕深制御]**や**[S モード]**選択時、一般耕起作業では下記を目安に調整してください。

感度調整ダイヤル	左回し	右回し
3 点リンクの動き	鈍感←——→敏感	

  - 敏感で作業をしてうねりが生じる場合、感度を鈍感側に調節してください。
- ドラフト選択時、一般けん引耕起作業では下記を目安に調整してください。

感度調整ダイヤル	左回し	右回し
耕深	浅く起こす←——→深く起こす	
土質	軽い←——→重い	
ほ場の起伏	小←——→大	
（感度の目安）	（鈍）←——→（敏）	

補足：
- **感度調整ダイヤルを調整すると、耕深が多少変化します。**
  調整後は、耕深調節ダイヤルで耕深を再設定してください。

15.10 クイックアップレバー（スイッチ）

クイックアップレバー（スイッチ）のワンタッチ操作で作業機を上下させる装置です。ほ場内での旋回操作が便利になります。

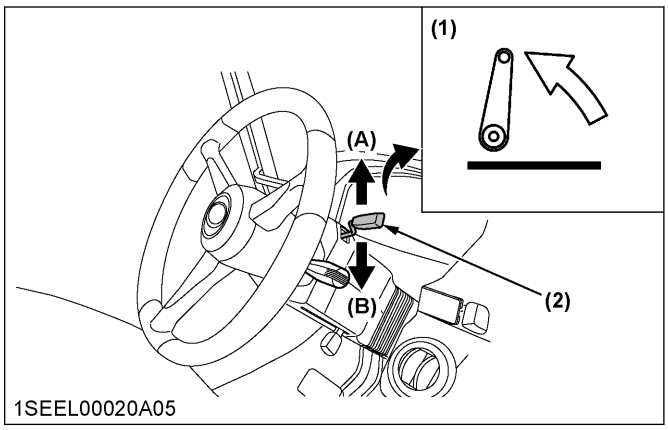
⚠ 警告
- **走行中は必ずポジションレバーを走行ロック位置にして、油圧ロックレバーを油圧ロック位置にしてください。**
- **ほ場内作業以外では、クイックアップを使用しないでください。**

GV800H・GV900H・GV1000H・GV1050H のハーフクローラ仕様は、クイックアップレバー、クイックアップスイッチ共に標準装備。
GV800H・GV900H・GV1000H・GV1050H の G 仕様は、クイックアップスイッチのみ標準装備、クイックアップレバーはオプション。

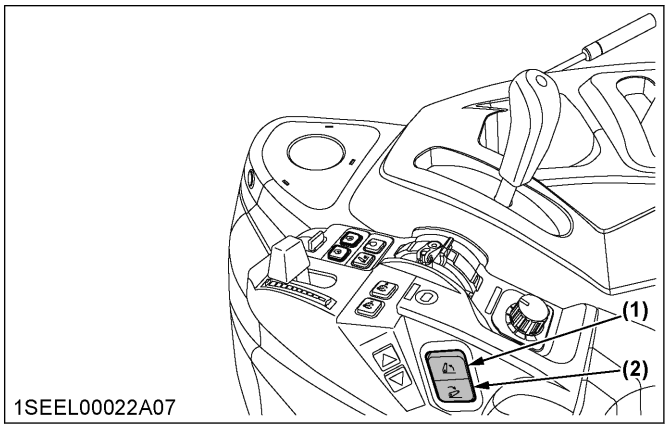
クイックアップレバーとスイッチは同じ作動をします。また、この機能は併用できます。

作業機上昇
レバー上げるまたはスイッチの**[上げ]**を押す（クイックアップランプ点灯）

作業機下降
レバー下げるまたはスイッチの**[下げ]**を押す（クイックアップランプ消灯）



(1) クイックアップランプ　*(A)* 上げる
(2) クイックアップレバー　*(B)* 下げる



(1) クイックアップスイッチ**上げ**
(2) クイックアップスイッチ**下げ**

補足：

- **クイックアップレバー（スイッチ）はスイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。**
- **新しい作業機を装着したときは、クイックアップレバー（スイッチ）ではなく、ポジションレバーを使って作業機を上げて、作業機がトラクタに当たらないことを確認してください。**
- **クイックアップレバー（スイッチ）操作時、ブザー音が 1 回鳴ります。**
- **クイックアップランプが点滅している場合、ポジションレバーまたはクイックアップレバー（スイッチ）を操作し、クイックアップランプの点滅を解除してから使用してください。**
  クイックアップレバー（スイッチ）で解除時、ブザーが 2 回鳴ります。

クイックアップの上手な使い方

- **3 点リンク作動範囲の規制**
  ポジションレバーで下限位置、高さ規制調整ダイヤルで上限位置を設定しておくと、クイックアップ制御はその設定した範囲内で上昇・下降します。
- **ワンタッチフローティング機能**
  作業切替スイッチで**[ドラフト]**選択時、クイックアップレバー（スイッチ）を下げ側に押している間はフローティング状態となり、プラウ作業のスキ込み時などに使用すると有効です。
  またレバー（スイッチ）から手を離すと、ドラフト制御位置まで戻ります。
- **クイックアップレバー（スイッチ）による上昇および下降途中でのクイックアップレバー（スイッチ）の操作**
  - クイックアップによる上昇途中、クイックアップレバー（スイッチ）を**[下げ]**側に操作すると、その位置で停止します。（クイックアップランプ点灯）その後再度レバー（スイッチ）を操作すると昇降します。
  - クイックアップによる上昇途中に 3 点リンクを下げたいときは、クイックアップレバー（スイッチ）を下降側に 1 秒間押し続けるか、続けて 2 度押します。
  - クイックアップによる下降途中にクイックアップレバー（スイッチ）を**[上げ]**側に操作すると上昇します。

15.11 旋回アップの使い方

⚠ 警告

- **危険防止のため、旋回アップの使用は、ほ場内作業のみにしてください。**
- **旋回アップで作業する場合は、ランプが点灯していることを確認してください。ランプが消灯しているときは、作業機は自動で上昇しません。この状態で旋回すると、作業機を引きずり、障害事故を引き起すおそれがあります。**
- **旋回アップ入切の操作はエンジンを始動したあとに行なってください。エンジン始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので、操作が無効になる場合があります。**

補足：

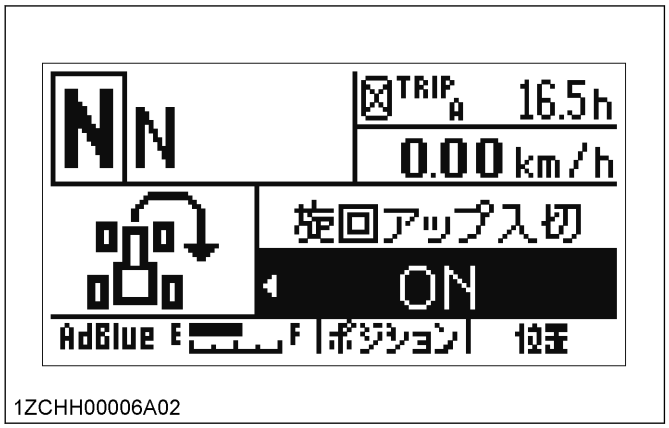
- **隣接耕うん作業以外では、旋回アップを[切]にしてください。**
- **3 点リンクが安全ロック状態では作動しません。**

旋回アップの作動条件

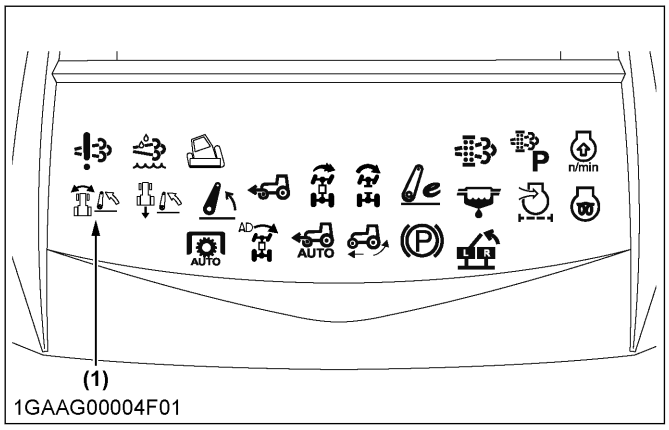
作業切替スイッチ	シャトルレバー	PTO スイッチ
[耕深制御] **[S モード]**	前進	**[入]** または **[入 自動]**
[ドラフト] **[レーザ]** **[ポジション]**	前進	–

1. HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]**→**[旋回]**→**[旋回アップ入切]**の選択項目を開き、**[ON]**を選択します。
   旋回アップ**[ON]**のとき、電子メータの旋回アップランプが点灯します。

2. 隣接耕うん作業での旋回時、ステアリングハンドルを回し、作業機を自動で上昇させます。
   ほ場内での旋回操作が簡単にできます。
   （上昇時ブザー音が 1 回鳴ります。）
3. 作業機を下げるときは、クイックアップレバーまたはポジションレバーで行なってください。
4. 旋回アップを解除するときは **[旋回アップ入切]**を開き、**[OFF]**を選択します。
   （旋回アップランプ消灯）



1ZCHH00006A02



1GAAG00004F01

(1) 旋回アップランプ

15.12 バックアップの使い方

バックアップを**[ON]**にしておくと、後進時作業機が自動的に上昇し、うっかりバックからの作業機の損傷を防ぎます。

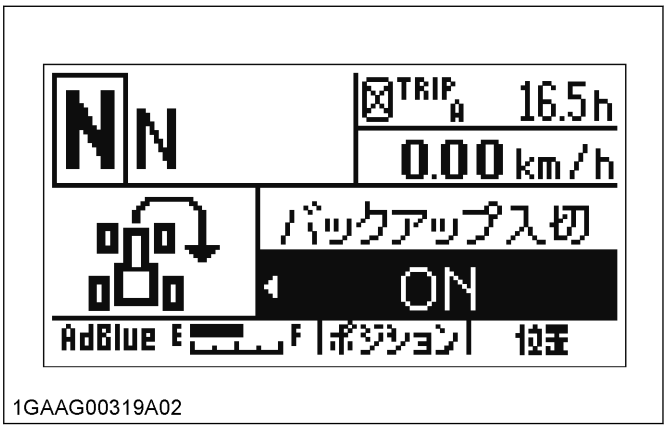
⚠ 警告

- **バックアップ入切の操作はエンジンを始動した後に行ってください。エンジン始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので、操作が無効になる場合があります。**

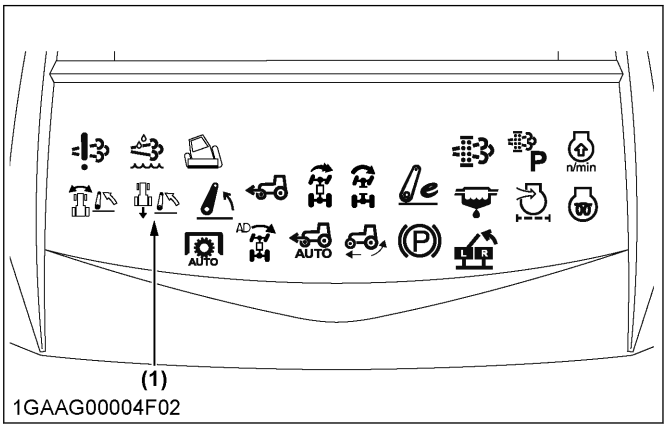
補足：

- **3 点リンクが安全ロック状態ではバックアップは作動しません。**

1. HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]→[旋回]→[バックアップ入切]**の選択項目を開き、**[ON]**を選択します。
   バックアップ**[ON]**のとき、電子メータのバックアップランプが点灯します。
2. シャトルレバーを後進に入れると、作業機が自動で上昇します。
3. 作業機を下げるときは、クイックアップレバーまたはポジションレバーで行ってください。
4. バックアップを解除するときは **[バックアップ入切]**を開き、**[OFF]**を選択します。
   （バックアップランプ消灯）



1GAAG00319A02

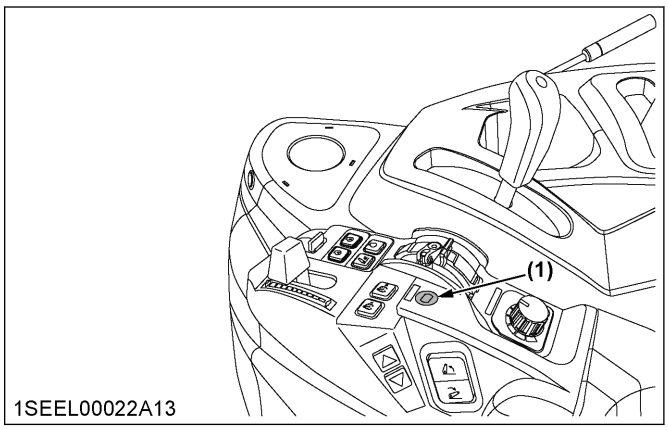


1GAAG00004F02

(1) バックアップランプ

15.13 3P 動作切替スイッチ

ロアーリンク高さを変えるときに使用します。
3P 動作切替スイッチのインジケータが消灯のときは 3 点リンクキープモード、点灯または点滅のときは 3 点リンクリターンモードになります。
3P 動作切替スイッチを押すたびに消灯、点灯、点滅と切り替わります。

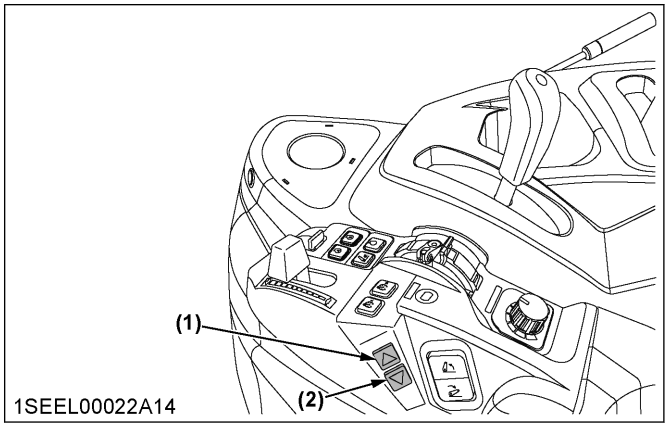


(1) 3P 動作切替スイッチ

15.13.1 3 点リンクキープモード

3P 内部操作スイッチ上昇側または下降側を押してる間、ロアーリンクは昇降し、スイッチを離した位置でロアーリンクが停止し安全ロックが働きます。電子メータ内のクイックアップランプが点滅し、その位置をキープします。
（解除方法の詳細は 3 点リンクの安全ロック機能（145 ページ）を参照ください。）

- ロアーリンクの作動範囲は全ストロークです。

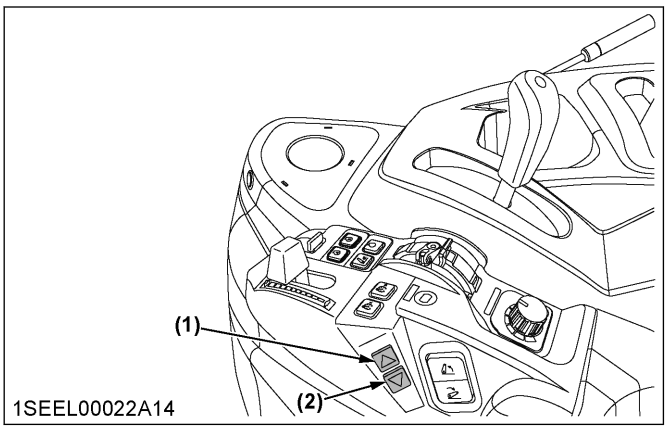


(1) 3P 内部操作スイッチ（上昇側）
(2) 3P 内部操作スイッチ（下降側）

15.13.2 3 点リンクリターンモード

3P 内部操作スイッチ上昇側または下降側を押してる間、ロアーリンクは昇降し、スイッチを離すと耕深調整ダイヤルまたはポジションレバーで設定されている位置に復帰します。

- 作業中での耕深調整が不要です。
- 安全ロックはかかりません。
- スイッチを押している間に、作動範囲の上限または下限に達するとその位置をキープします。



(1) 3P 内部操作スイッチ（上昇側）
(2) 3P 内部操作スイッチ（下降側）

15.13.3 ポジションモード

走行を開始し、安全ロックを解除してください。インジケータが点滅から点灯にかわり、スイッチ操作により、動作が可能となります。

- ロアーリンクの作動範囲はポジションレバーでの作動範囲です。
- 高さ規制調整ダイヤルで上限を制限しているとき、高さ規制調整ダイヤル位置が上限となります。

15.13.4 作業機の各作業モード

作業モードは“耕深制御”、“*S* モード”、“ドラフト”、“レーザ”があります。
走行を開始し、安全ロックを解除し、液晶画面の 3P 状態を点灯（耕深制御が作動可能な状態）にしてください。インジケータが点滅から点灯にかわり、スイッチ操作により、動作が可能となります。

- ロアーリンクの作動範囲は耕深調整ダイヤルでの作動範囲です。
- 高さ規制調整ダイヤルで上限を制限しているとき、高さ規制調整ダイヤル位置が上限となります。
- ポジションレバーで下限を制限しているとき、ポジションレバー位置が下限となります。

15.14 油圧ロックレバー

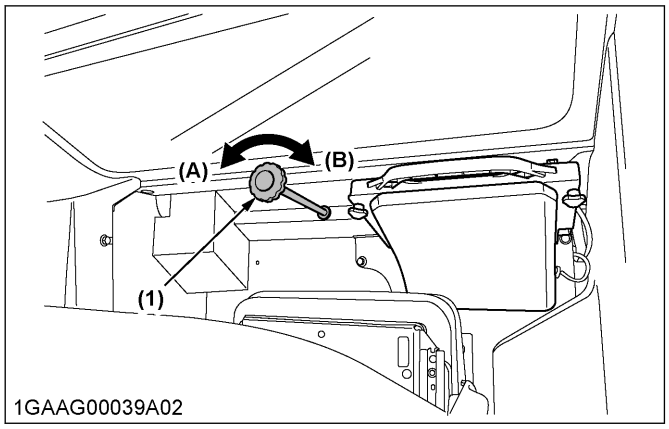
3 点リンクの下降ロックと解除を切り換えるときに使用します。

⚠ 警告

- **ロータリなど作業機を点検する場合は、必ず油圧ロックレバーで、作業機が落下しないようにロック（停止）してください。**
- **油圧ロックレバーでロックした後、ポジションレバーを前方に倒して、作業機が落下しないことを必ず確認してください。**
- **ロックするとともに適切なジャッキまたはブロックで歯止めをし、落下防止を行ってください。**

作業時
[速]位置にします。

走行時や作業機を上げて点検するとき
[遅]・[停]位置にします。

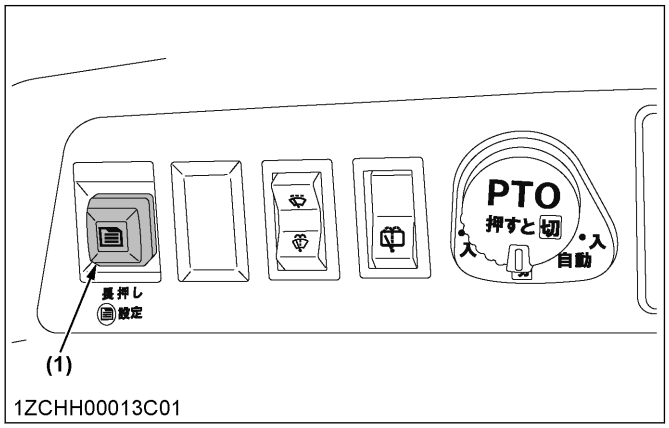


(1) 油圧ロックレバー　　*(A)* 解除（速）
(B) 油圧ロック（遅・停）

補足：
- **作業機落下速度の調節は、油圧操作パネルの作業機落下速度調整ダイヤルで行います。**

15.15 ワンタッチ作業モード設定スイッチ

作業と移動を繰り返すことが多い場合は、ワンタッチ作業モードを使用すると便利です。
一般的なほ場で耕うん作業を行う場合には、ワンタッチ作業モード設定スイッチを 1 回押すだけで、トラクタの自動装置はすべて標準的な設定（※）耕深制御、傾き自動水平 1、旋回アップ（入）、バックアップ（入）、倍速（入）、AD（入）になり、ワンタッチ作業モード設定スイッチのランプが点灯します。
※ワンタッチ作業モードの設定変更方法（118 ページ）により変更できます。
作業終了後、再度ワンタッチ作業モード設定スイッチを押して、ワンタッチ作業モード設定スイッチのランプを消灯させると自動装置はすべて**[切]**、2WD の状態になり、道路走行に適した設定になります。



(1) ワンタッチ作業モード設定スイッチ

15.15.1 ワンタッチ作業モードの任意変更

ワンタッチ作業モードで作業中に自動装置の設定を変更したい場合、アームレスト操作部の電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルにより自動装置の設定を変更できます。
再びワンタッチ作業モードを**[入]**にすると、作業中に変更した設定ではなく、あらかじめ設定された状態になります。

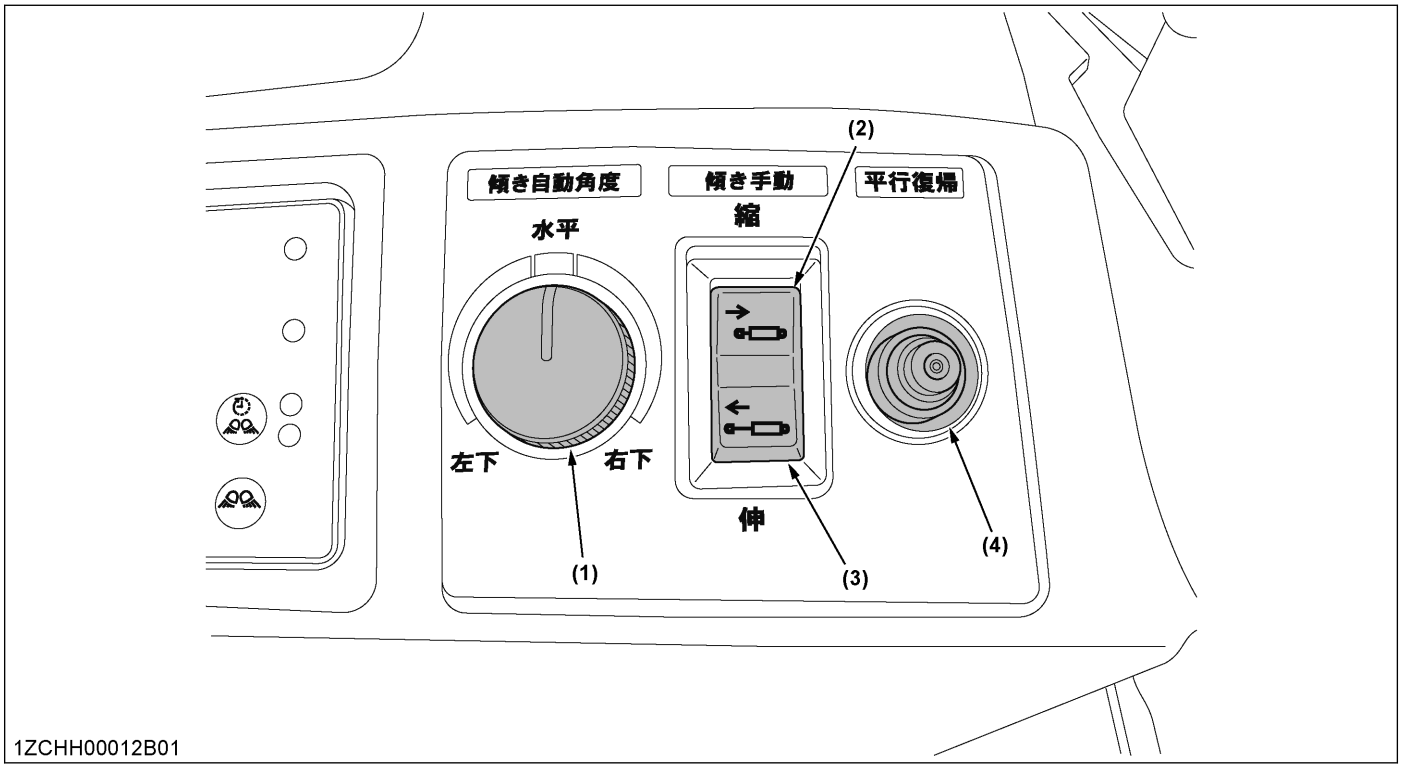
補足：
- **ワンタッチ作業モード状態でエンジンを停止（キーオフやエンスト）させた場合、再びキーオンするとエンジン停止直前の自動装置の設定になります。**
- **キーオフ状態で、ワンタッチ作業モード設定スイッチを[入]にした場合、あらかじめワンタッチ作業モードで設定された自動状態になります。**
- **キーオフ状態で、ワンタッチ作業モード設定スイッチを[切]にした場合、自動装置はすべて[切]、2WD の状態になります。**

15.15.2 ワンタッチ作業モードの設定変更方法

よく使用する設定をワンタッチ作業モードとして記憶させることができます。
1. ワンタッチ作業モード設定スイッチを押し、ワンタッチ作業モード設定スイッチのランプを点灯させます。
2. 自動装置の設定を変更します。
（たとえばバックアップが不要な場合、メニューよりバックアップ入切を**[OFF]**にします。）
3. ワンタッチ作業モード設定スイッチを 2 秒間長押しし、2 秒後電子メータから「ピ」音がすれば設定が記憶されます。

16. 傾き自動

16.1 傾き自動の各部の名称



(1) 傾き自動角度調節ダイヤル
(2) 傾き手動スイッチ***[縮]***
(3) 傾き手動スイッチ***[伸]***
(4) 平行復帰スイッチ

16.2 傾き自動モード切替

16.2.1 傾き自動モード［水平］

トラクタ本体の傾きに関わらず作業機を常に水平、または地面に対し一定の角度に保ちたいときに使用します。

重要：

- **傾き自動が不要の場合（フロントローダ作業などの場合）や走行時には、[位置]で作業してください。**
- **チェックチェーンを張りすぎると、傾き自動作業時に 3 点リンクに無理な力が加わるので、チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。**

- 傾き自動角度調節ダイヤルが**[水平]**の場合、作業機は常に水平に保たれます。
- 傾き自動角度調節ダイヤルが**[水平]**以外の場合、作業機は水平面に対して常に一定の角度に保たれます。

作業機によって定まる 3 点リンクの取付け状態（ロアーリンク幅、ロアーリンク穴、およびリフトロッド穴）に応じて、次表を参考に傾き自動穴位置を切換えてください。
選択状態は液晶画面右下に表示されます。

設定方法

1. HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]**→**[傾き自動]**→**[傾き自動モード]**を開き、**[水平]**を選択します。



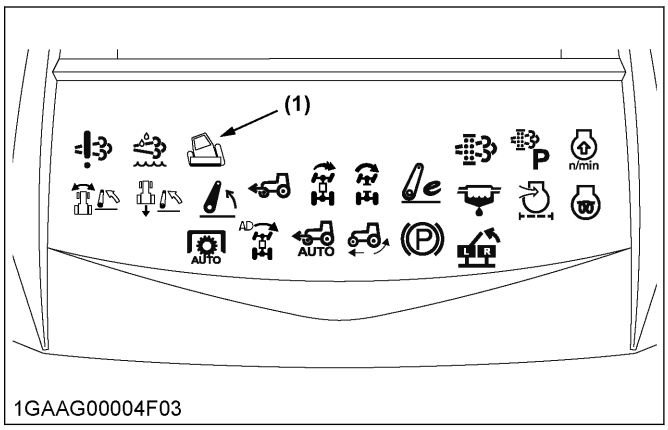
1ZCHH00010A02

2. **[メニュー画面]**→**[傾き自動]**→**[傾き自動穴位置]**を開き、**[前穴・上穴][後穴・上穴][前穴・中穴]**より 3 点リンクの取付け状態に対応する設定を選択します。

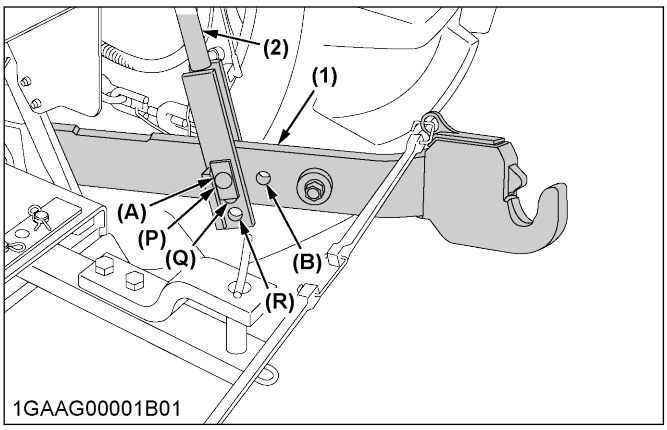


1ZCHH00011A02

No.	液晶表示	ロアーリンク穴位置	リフトロッド穴位置	傾き自動ランプ	傾き自動動作	3 点リンク	ロアーリンク内側寸法
1	**[水平 1]**	前穴	上穴	点灯	水平制御	JIS 2 型	825 mm
2	**[水平 2]**	後穴					
3	**[水平 3]**	前穴	中穴				



(1) 傾き自動ランプ



(1) ロアーリンク
(2) リフトロッド（リフトシリンダ）
(A) ロアーリンク前穴
(B) ロアーリンク後穴
(P) 上穴
(Q) 中穴
(R) 下穴

補足：
- **傾き自動ランプが点滅しているときは、クイックアップ・傾き自動・3 点リンク制御の表示（146 ページ）を参照してください。**
- **位置制御の取扱いは傾き自動モード［位置］（手動）（123 ページ）の取扱いの項を参照してください。**

16.2.2 傾き自動モード［傾斜］

傾斜のあるほ場で作業機を常にほ場面と平行に保ちたいときに使用します。

設定方法

1. HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]**→**[傾き自動]**→**[傾き自動モード]**を開き、**[傾斜]**を選択します。



2. **[メニュー画面]**→**[傾き自動]**→**[傾き自動穴位置]**を開き、**[前穴・上穴][後穴・上穴][前穴・中穴]**より 3 点リンクの取付状態に対応する設定を選択します。



1ZCHH00011A02

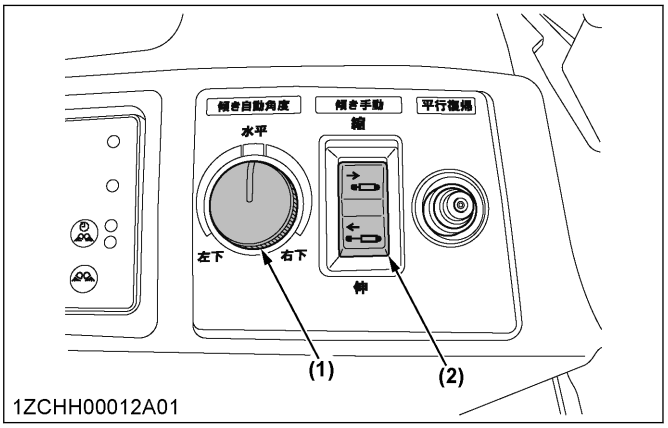
傾き自動モードを**[傾斜]**、傾き自動角度調節ダイヤルを**[水平]**にすればほとんどの場合きれいに仕上げられますが、やわらかいほ場やかたいほ場では作業機と斜面の傾きが合わない場合があります。そのときは、傾斜地傾き自動の微調整設定を行なってください。
設定手順は傾斜地傾き自動の微調整設定（122 ページ）参照。

No.	液晶表示	ロアーリンク穴位置	リフトロッド穴位置	傾き自動ランプ	傾き自動動作	3 点リンク	ロアーリンク内側寸法
1	**[傾斜 1]**	前穴	上穴	点灯	水平制御	JIS 2 型	825 mm
2	**[傾斜 2]**	後穴					
3	**[傾斜 3]**	前穴	中穴				

16.2.2.1 傾斜地傾き自動の微調整設定

補足：
- **凹凸が激しいほ場で、じゅうぶんな精度が得られない場合は[位置]（手動）で使用してください。**
- **調整幅いっぱい動かしても傾きの差が大きいときは、[位置]（手動）で使用してください。**
- **左右のオフセット量が大きく、左右の重量バランスが悪い作業機の場合は[位置]（手動）で使用してください。**

1. トラクタを停車します。
2. **[メニュー画面]→[傾き自動]→[傾き自動モード]**を開き、**[傾斜]**を選択します。
3. 傾き手動スイッチを押すことで傾き量が変化しますので、斜面と作業機の傾きを合わせてください。
   または**[メニュー画面]→[傾き自動]→[傾斜補正調整]**を開き、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを回して補正値を調整します。
   調整値は、値の変更時に液晶画面右下に 2 秒間点滅表示されます。



1ZCHH00012A01

(1) 傾き自動角度調節ダイヤル
(2) 傾き手動スイッチ



1GAAG00324A02

(1) 補正値

補足：
- **傾斜地では作業機を上端から下ろしたときの車体角度が基準となるため、作業する進行方向を向いた状態で作業機を上端から下ろしてください。**
- **トラクタが水平状態にあるときは、補正値は変わりますが作業機は動きません。**
- **キースイッチを[切]位置にしても補正値を記憶しています。**
- **傾き自動モードを切替えると補正値は標準値(100)に戻ります。**

16.2.3 傾き自動モード［位置］（手動）

重要：
- **手動で作業機を傾斜させるとき作業機を上端に上げると、ジョイントの騒音が高くなる場合がありますので注意してください。**

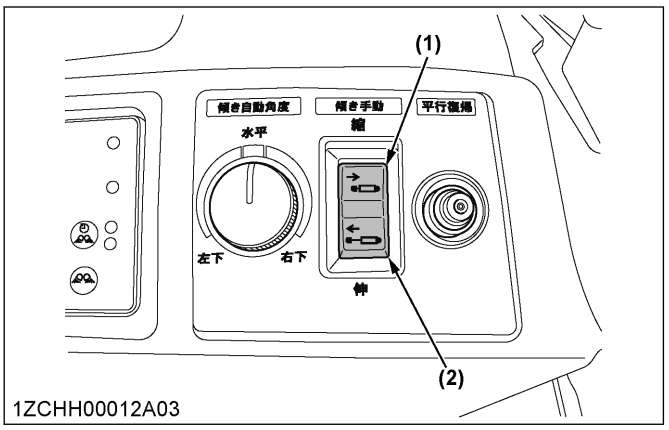
傾き自動モード**[位置]**選択時、傾き自動の自動制御が解除されます。
プラウ作業などで常に傾き自動リフトシリンダ長さを一定に保ちたい場合に位置制御を使用します。

設定方法
1. HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]**→**[傾き自動]**→**[傾き自動モード]**を開き、**[位置]**を選択します。



1ZCHH00008A02

2. **[傾き手動スイッチ]**または傾き手動外部操作スイッチを操作し、リフトシリンダ長さを調整します。



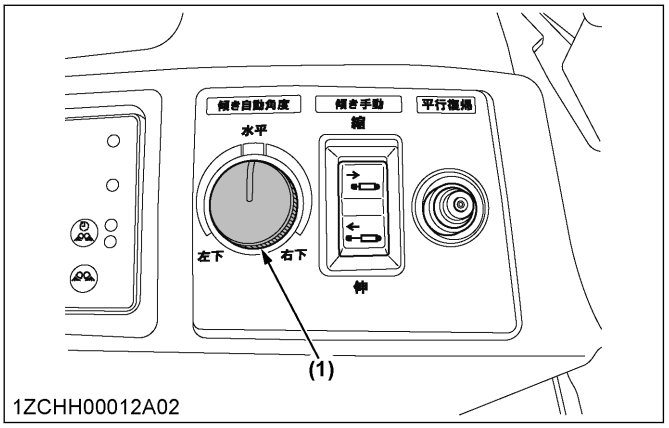
1ZCHH00012A03

(1) 傾き手動スイッチ***[縮]***
(2) 傾き手動スイッチ***[伸]***

16.3 傾き自動角度調節ダイヤル

傾き自動モードが**[水平]**、**[傾斜]**の場合、作業機の姿勢を調節するときに使用します。
- ダイヤルを中央の位置にすると、作業機は**[水平]**に保持されます。
- ダイヤルを**[左下]**方向に回すと、作業機が左下りに保持されます。
- ダイヤルを**[右下]**方向に回すと、作業機が右下りに保持されます。

なお、傾き自動モードが**[水平]**、**[傾斜]**の場合、作業機を高さ規制調整ダイヤルでの設定高さ付近まで上げたときは、作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。



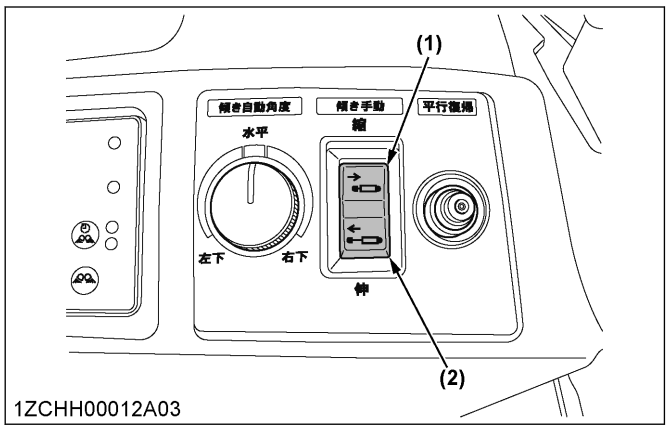
1ZCHH00012A02

(1) 傾き自動角度調節ダイヤル

16.4 傾き手動スイッチ

作業機を左右に傾斜させるときに使用します。

重要：
- **スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。**



1ZCHH00012A03

(1) 傾き手動スイッチ***[縮]***
(2) 傾き手動スイッチ***[伸]***

- **[縮]**方向へスイッチを押すと、作業機の右側が上がります。
- **[伸]**方向へスイッチを押すと、作業機の右側が下がります。

補足：
- **傾き自動モード[水平]で運転中、傾き手動スイッチまたは傾き手動外部操作スイッチを操作すると、自動水平制御が停止し保持制御となり、傾き自動ランプが点滅します。**
- **傾き自動モード[傾斜]の場合、キースイッチを[切]位置にして、再度キースイッチを[入]位置にしたとき、作業機の傾きが変わっていると保持制御となり、傾き自動ランプが点滅します。**
- **再度自動水平制御に戻すには、傾き自動安全ロックの解除方法（124 ページ）の項を参照してください。**

16.5 傾き自動の安全ロック機能

傾き自動安全ロック
傾き自動モードが**[水平]**、**[傾斜]**のとき、傾き自動角度調節ダイヤル位置と傾き自動リフトシリンダ位置が異なる状態で、以下の操作を行なったときには、傾き自動安全ロックが働き、自動制御が停止し、傾き自動ランプが点滅（0.6 秒周期）します。
- エンジン始動時
- 傾き手動外部操作スイッチ操作時
- 傾き手動スイッチ操作時

安全ロック機能の解除方法は、傾き自動安全ロックの解除方法（124 ページ）参照。

16.5.1 傾き自動安全ロックの解除方法

傾き自動安全ロックが働いたときには、以下のいずれかの操作で安全ロックを解除してください。

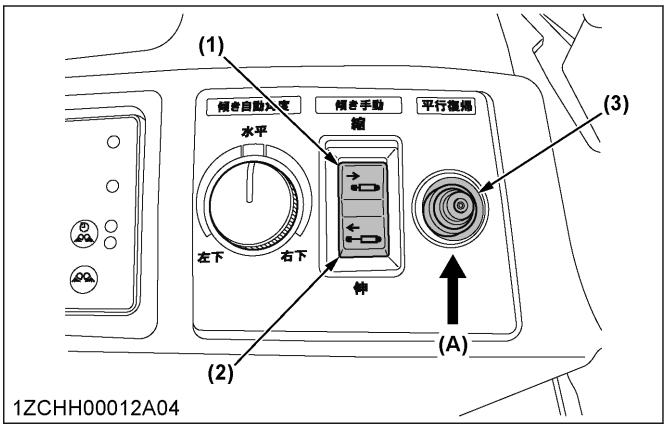
- 平行復帰スイッチを押す。
- 傾き自動モードをいったん**[位置]**にセットし、傾き自動ランプ消灯状態にしたのち、再度**[水平]**、**[傾斜]**に入れる。

補足：
- **傾き自動安全ロックの解除をしたときは、傾き自動角度調節ダイヤルで設定した位置までシリンダが動きます。**

解除後傾き自動ランプの点灯を確認してください。

16.6 平行復帰制御

傾き自動モード［位置］（手動）（123 ページ）のとき、**[傾き手動]**スイッチでリフトシリンダを適切な長さに合わせ、リバーシブルプラウなどでの口開け作業を行った後通常に耕起する場合、**[平行復帰]**スイッチを押すだけで常にプラウはトラクタと平行状態（微調整記憶値）に保たれます。



1ZCHH00012A04

(1) 傾き手動スイッチ***[縮]***
(2) 傾き手動スイッチ***[伸]***
(3) 平行復帰スイッチ
(A) 押す

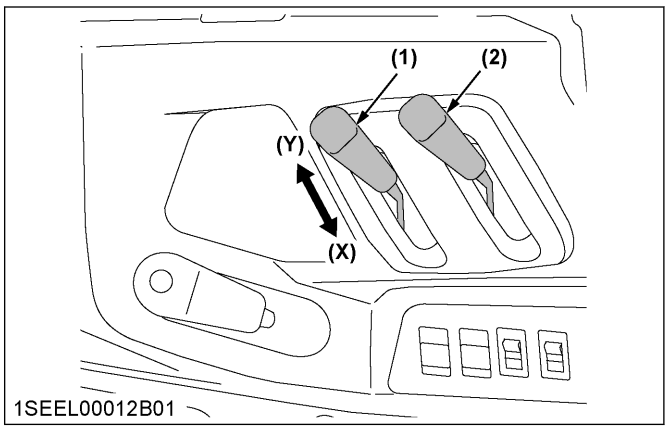
17. 外部油圧取出し

補助コントロールバルブ
- 1 連目：複動バルブ
  2 連目：単/複切り換え式バルブ
- オプションで最大 4 連まで装着可能

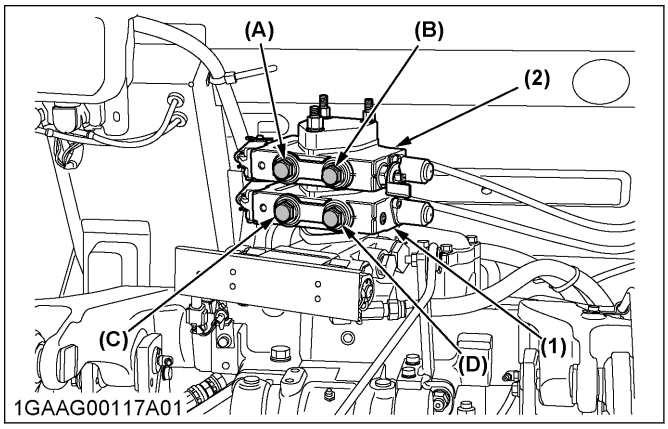
17.1 油圧補助コントロールレバー

重要：
- **補助コントロールバルブを使用するときは、切替えバルブレバーをトレッド固定位置にしてください。**

レバーの操作方向と油の流れは下記のようになっています。
作業機側油圧ホース（吐出、戻り）の方向を確認し、接続してください。



(1) 油圧補助コントロールレバー（*1* 連目）
(2) 油圧補助コントロールレバー（*2* 連目）



(1) 補助コントロールバルブ（*1* 連目）
(2) 補助コントロールバルブ（*2* 連目）
(A) ポート*(A)*
(B) ポート*(B)*
(C) ポート*(C)*
(D) ポート*(D)*

補足：

- **作業機の油圧シリンダが複動の場合、油圧シリンダの圧力側（負荷がかかったとき高圧となる側または、漏れを発生させたくない側）をポート(A)、(C)に接続してください（ポート(A)、(C)のみにチェックバルブが入っています）。**

油圧補助コントロールレバー		複動	
		ポート(C)	ポート(D)
1 連目	(X)方向	➡ 吐出	⇦ 戻り
	(Y)方向	⇦ 戻り	➡ 吐出

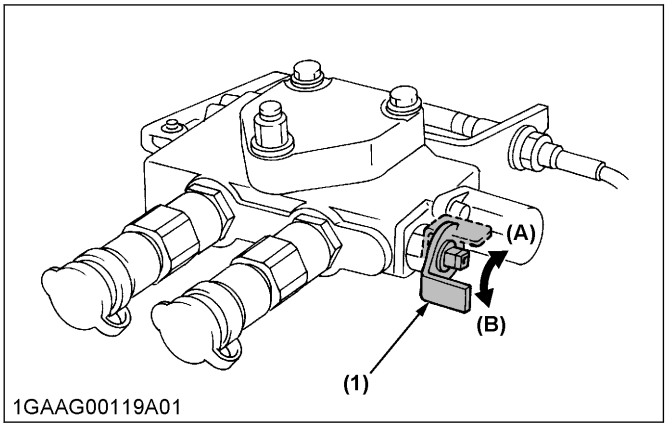
油圧補助コントロールレバー		複動		単動	
		ポート(A)	ポート(B)	ポート(A)	ポート(B)
2 連目	(X)方向	➡ 吐出	⇦ 戻り	➡ 吐出	—
	(Y)方向	⇦ 戻り	➡ 吐出	⇦ 戻り	—

	ネジサイズ
ポート(A)、(B)、(C)、(D)	G3/8

17.2 補助コントロールバルブ単複切換えつまみ

重要：

- **単動の作業機を複動の位置で使用するとトラクタの故障の原因になります。**
  ご使用になる作業機に合わせて、切換えてください。

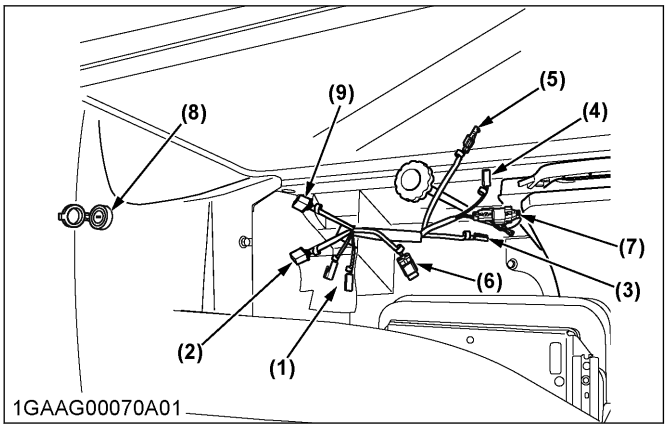


(1) 単複切換えつまみ
(A) 単動
(B) 複動

18. 外部電源取出端子

18.1 電源取出し

シート後部に電源取出しコネクタとカプラおよび作業機に車速信号を伝達する車速信号カプラがあります。

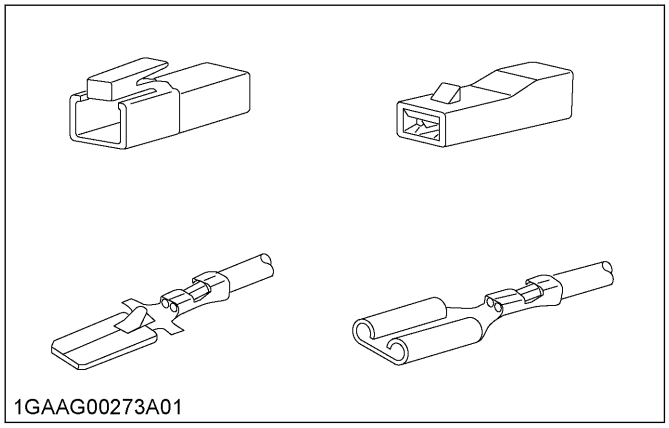


(1) 予備電源カプラ*(30 A)*
(2) トレーラカプラ
(3) 電源取出しコネクタ①*(15 A)*（白）
(4) 車速信号カプラ
(5) *GPS* 信号カプラ
(6) *AG-PORT* コネクタ
(7) レーザレベル
(8) 電源取出しソケット（*(9)*と合わせて *10 A*）
(9) 電源取出しコネクタ②（*(8)*と合わせて *10 A*）（黒）

補足：

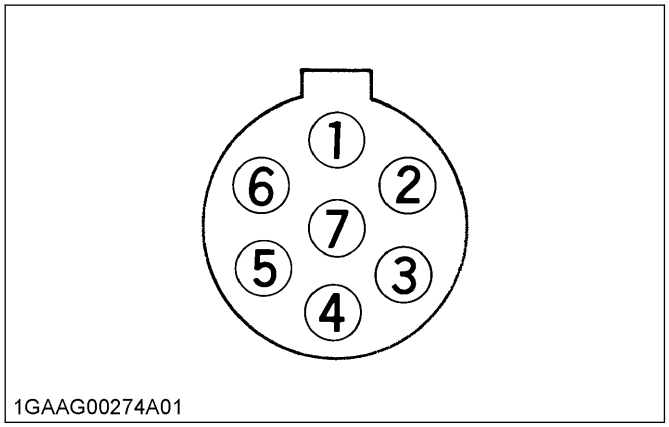
- **車速信号カプラおよび AG-PORT（アグ・ポート）は接続を必要とする専用作業機にのみ使用してください。出荷時にはキャップがしてありますので、作業機を使用しないときは必ずキャップを装着してください。故障の原因になります。**

コネクタ
電源カプラ(15 A)用コネクタが必要な場合は、下記品番でお買い求めください。
キット、コネクタ：99100014500
（下図部品が 1 個ずつ入っています）


1GAAG00273A01

18.2 トレーラ用カプラ（オプション）

- トレーラと連結時に用いる電源カプラは別途購入してください。
  （オプション）
- 電源は図のとおりです。



1GAAG00274A01

(1) 穴*(1)*
(2) 穴*(2)*
(3) 穴*(3)*
(4) 穴*(4)*
(5) 穴*(5)*
(6) 穴*(6)*
(7) 穴*(7)*

穴	トレーラハーネス	トレーラハーネス（ヨーロッパタイプ）
(1)	アース	方向指示器左(23 W)
(2)	尾灯(8 W) 車幅灯(8 W) 駐車灯(8 W)	後退灯(10 W)
(3)	方向指示器左(23 W)	アース
(4)	制動灯（23 W×2）	方向指示器右(23 W)
(5)	方向指示器右(23 W)	尾灯(8 W) 車幅灯(8 W) 駐車灯(8 W)
(6)	予備	制動灯（23 W×2）
(7)	後退灯(10 W)	予備

運転のしかた

運転前の点検

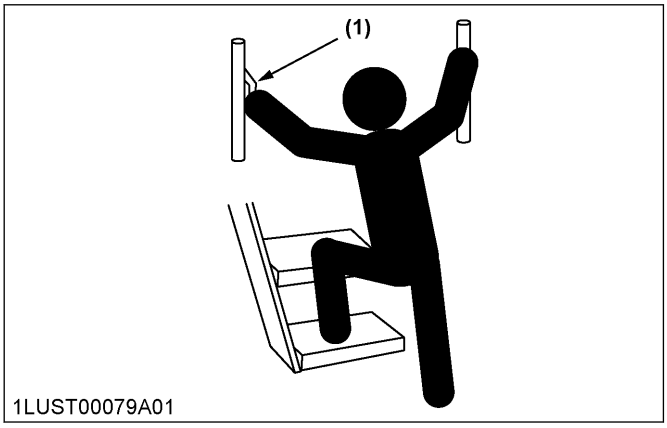
警告
- **運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。**
- **点検をするときは、必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。**
- **燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明はしないでください。**
- **燃料・オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。**
- **運転中および停止直後は、ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをするおそれがあります。**
- **エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは、次の手順に従ってください。**
  1. **エンジン停止後 30 分経過してから開ける。**
  2. **点検・整備で内部に触れるときは、ヤケドのおそれがないことを確認する。**

重要：
各部への給油と交換
- **点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。**
- **使用するエンジンオイル、ミッションオイルは、必ず指定オイルを使用してください。**

故障を未然に防ぐためには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は 1 日 1 回、運転前に欠かさず行なってください。
点検方法の詳細は、トラクタの点検・整備のしかた（190 ページ）を参照してください。

トラクタへの乗降

1. トラクタへの飛び乗りや飛び降りは行わないでください。
2. 乗降はトラクタ側に顔を向けて、アシストグリップを掴んで行ってください。トラクタの不意の動きを防ぐため、変速操作レバー類をつかまないでください。
3. スリップ事故を防ぐため、ステップやフロアマットは常に清掃してください。



(1) アシストグリップ

エンジンの始動と停止

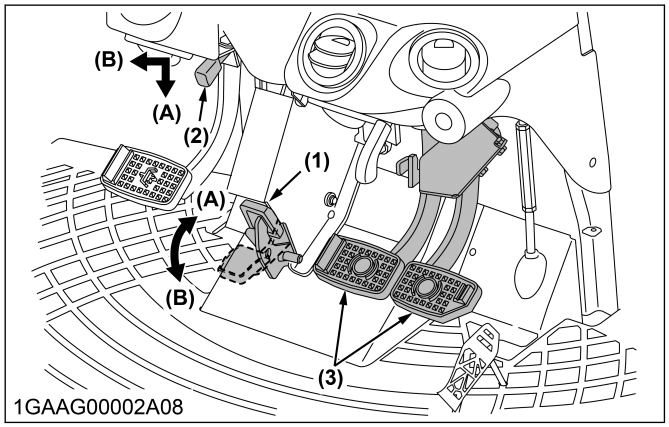
警告
- **本書前編の黄色のページの“安全に作業をするために”の内容を必ずお読みください。**
- **トラクタに貼ってある安全ラベルの内容を必ずお読みください。**
- **エンジンを始動する前に、必ずシートに座り、副変速レバー、シャトルレバーや PTO 変速レバーが中立（[N]位置）かどうか、また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。**
- **PTO スイッチも[切]にしてください。**
- **トラクタが突然動き出すおそれがあるため、地上に立ってエンジンを始動したり、スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。**
- **室内やビニールハウス内などで運転する場合は、換気をじゅうぶんに行ってください。**
  換気が不十分であると排ガスにより、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

“安全に作業をするために”の詳細は、安全に作業をするために（13 ページ）の章を参照してください。

1. 始動のしかた

補足：
- **シャトルレバーを中立（[N]位置）、PTO スイッチを[切]にしないと、安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。**

1. 連結解除ペダルロックレバーを下げ、連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。

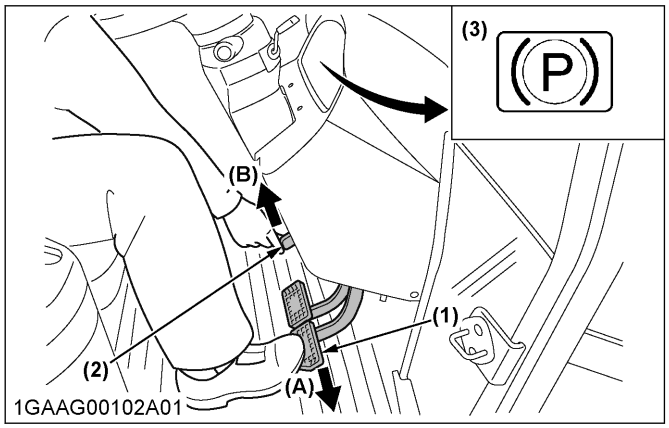


(1) 連結解除ペダル
(2) 連結解除ペダルロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) ロック（格納）
(B) 連結

重要：
- **道路走行時は、必ず連結解除ペダルロックレバーを下げてください。**

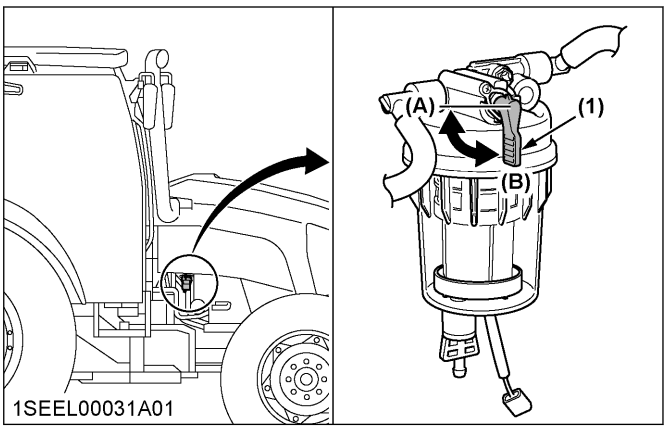
2. 駐車ブレーキをかけます。
   a. 左右を連結したブレーキペダルを踏込みます。
   b. レバーを引いたまま足をはなすと駐車ブレーキが掛かります。

   キースイッチ**[入]**位置のとき、駐車ブレーキを掛けるとメータパネル内の (Ⓟ) ランプが点灯します。



(1) ブレーキペダル
(2) 駐車ブレーキレバー
(3) 駐車ブレーキ警告灯
(A) 踏込む
(B) 引く

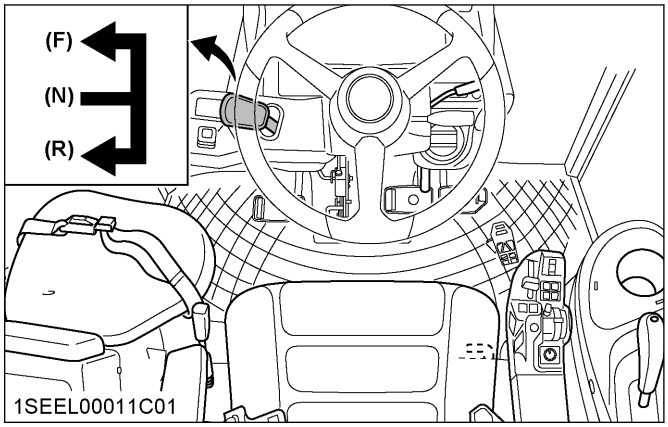
3. 燃料コックを開にします。



(1) 燃料コック
(A) 閉
(B) 開

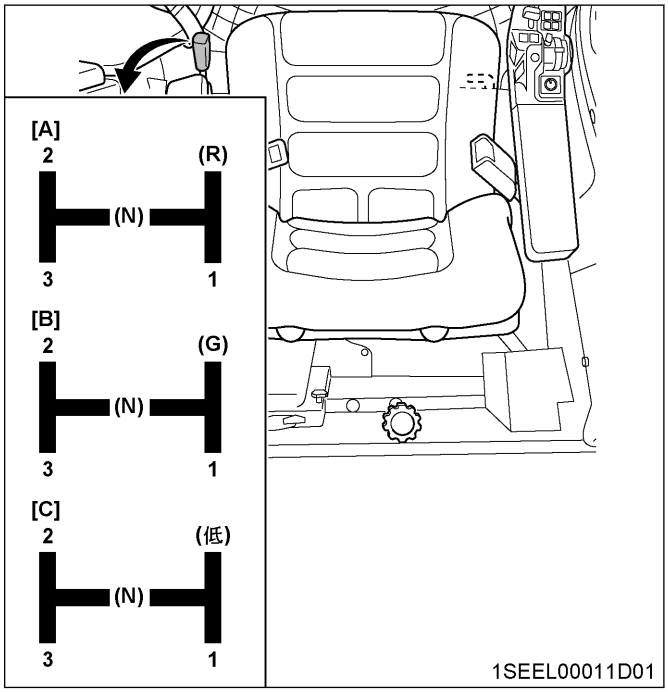
4. シャトルレバー、PTO 変速レバーを中立（**[N]**）にします。

[シャトルレバー]



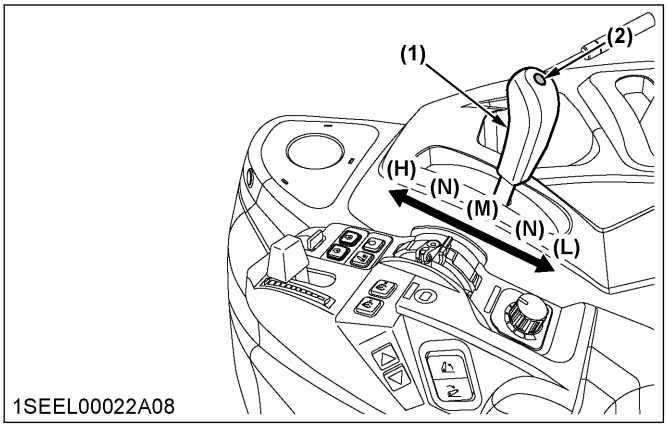
(F) 前進
(N) 中立
(R) 後進

[PTO 変速レバー]



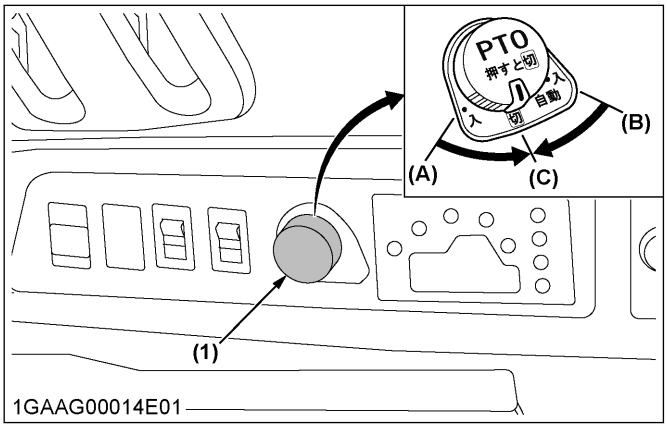
[A] 逆転 *PTO* 仕様
[B] グランド *PTO* 仕様
[C] 低回転 *PTO* 仕様
(N) 中立
(R) 逆転 *PTO*
(G) グランド *PTO*
(低) 低回転 *PTO*

5. 副変速レバーを中立（**[N]**）にします。



(1) 副変速レバー
(2) クラッチボタン
(H) 高速
(N) 中立
(M) 中速
(L) 低速

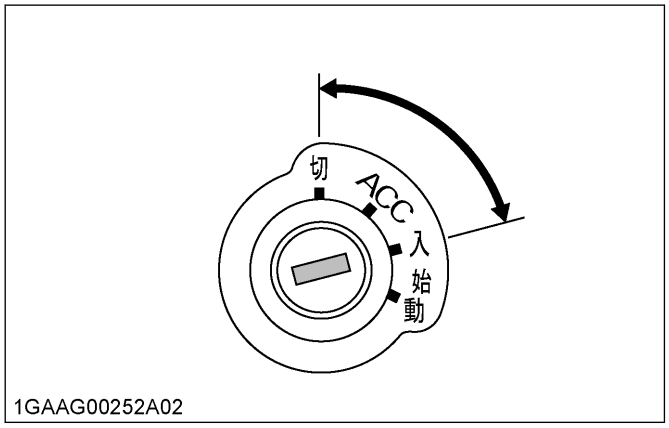
6. PTO スイッチを**[切]**にします。



(1) *PTO* スイッチ
(A) *PTO* ***[入]***
(B) 上昇 *PTO* 停止モード ***[入 自動]***
(C) ***[切]***

補足：
- **出荷時は独立 PTO が設定されています。**
- **連動 PTO に設定したときは、[入 自動]でも連動します。**

7. キースイッチにキーを差し込み**[入]**位置にします。



1GAAG00252A02

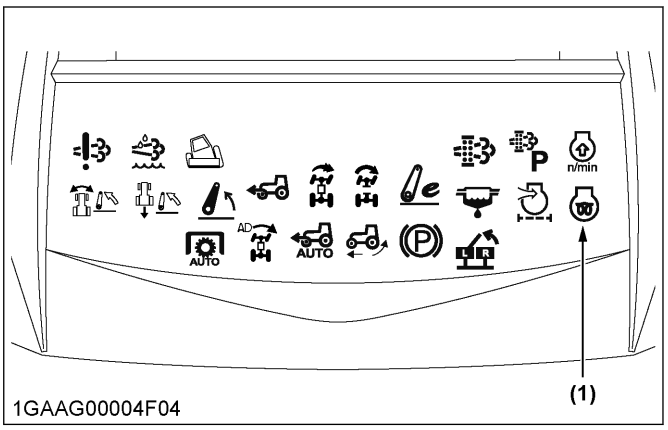
補足：
- **キースイッチをいきなり[始動]位置にして、アクセルレバーを急激に高速にしたり、アクセルペダルを急激に踏み込むと青白煙を排出することがありますが、異常ではありません。**
  青白煙が気にかかる場合は、燃料をじゅうぶんに行き渡らせるため、キースイッチを[入]位置で 5 秒程度保持し、[始動]位置にしてください。
- **キースイッチを[入]位置にすると、ランプ切れチェックのため約 1 秒間点灯するランプがあります。**
  各ランプの詳細については、モニタランプ（99 ページ）の項を参照してください。

8. 液晶（メッセージ）表示部に暗証番号入力画面が表示された場合は、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルで 3 桁の暗証番号を入力してください。
   セキュリティ機能の**[入]**と**[切]**の切替えや暗証番号入力方法や変更についての詳細は、エンジン始動セキュリティ機能（100 ページ）の項を参照してください。

補足：
- **工場出荷時は、セキュリティ機能は[切]になっています。**
- **暗証番号を連続して 10 回誤入力すると、液晶（メッセージ）表示部に[暗証番号エラー 購入先へ連絡して下さい]と表示され、エンジン始動が不可能となります。この場合は購入先に連絡してください。**
- **エンジン停止後、10 分以内であれば、エンジン再始動が可能です。**

オートグロー

9. 冷却水温が低い寒冷時の場合は、エンジン予熱ランプが消灯したことを確認し、セルモータを回してください。

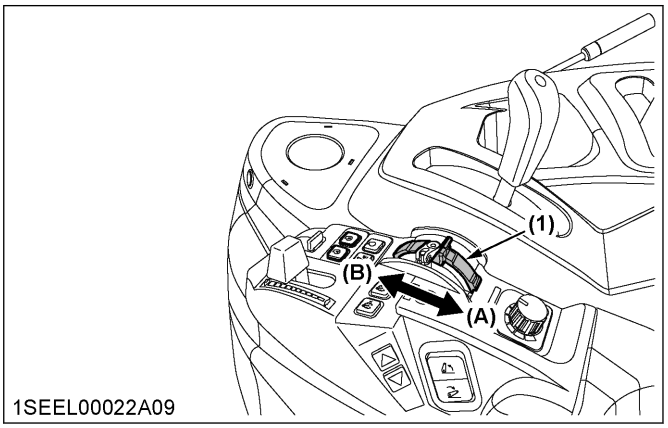


1GAAG00004F04

(1) エンジン予熱ランプ

補足：
冷却水温が低いとき、キースイッチを[入]位置にすると、エンジン予熱ランプが点灯し、予熱が完了すると、自動的に消灯します。

10. 作業機を下げます。
    a. ポジションレバーをいったん最上昇位置まで上げた後、前方に倒すと作業機が下がります。

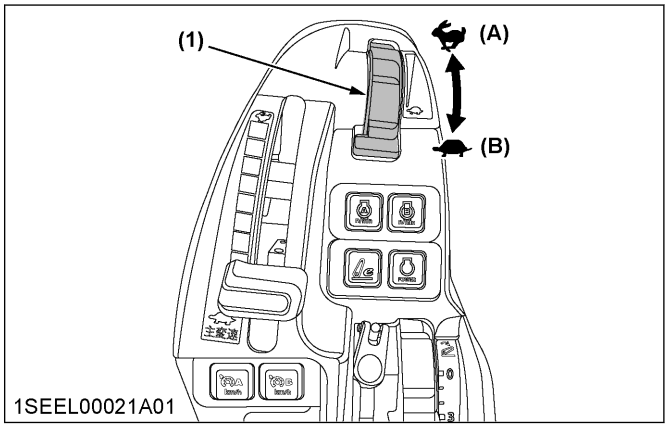


1SEEL00022A09

(1) ポジションレバー
(A) 上げ
(B) 下げ

補足：
- **油圧ロックされている場合は下がりません。**
  作業機昇降装置（109 ページ）の項を参照。
- **クイックアップランプが点滅している場合は、ポジションレバーを後方に引き点滅を解除してください。**

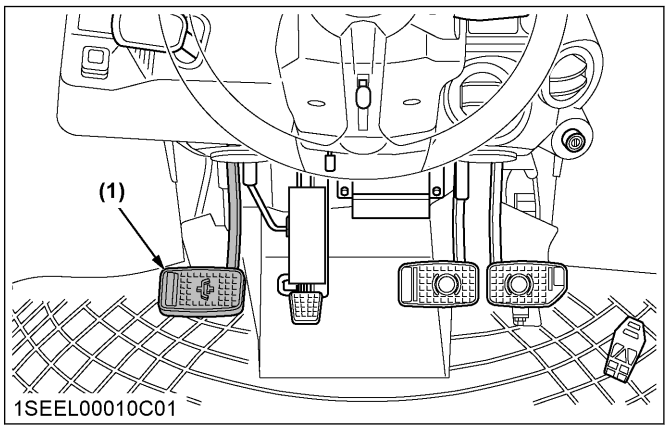
11. アクセルレバーを低速(B)に合わせます。
エンジン回転上限設定ダイヤルを 方向にセットしている場合、アクセルレバーを操作しても規定値以上には回転が上がりません。ダイヤルを右方向 位置までいっぱいに回してください。



(1) アクセルレバー
(A) 高速
(B) 低速

12. クラッチペダルを踏み込みます。

補足：
- **エンジンはクラッチペダルを踏込まなくても始動できますが、安全確保のため踏み込んでください。**



(1) クラッチペダル

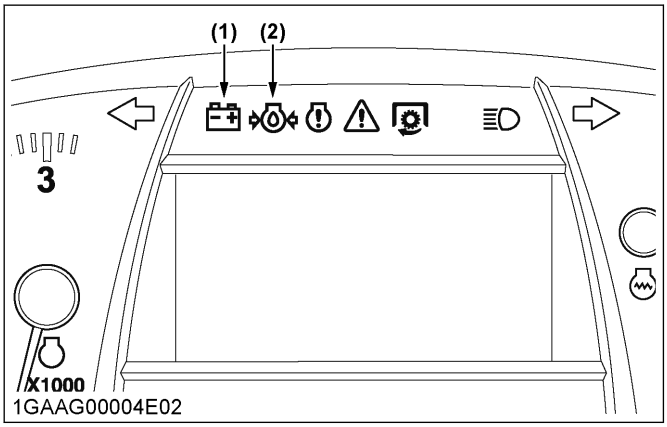
13. キーを**[始動]**位置に回します。

重要：
- **セルモータは、大電流を消費しますので、10 秒以上の連続使用は避けてください。**
10 秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って、30 秒以上休止した後、手順 7. からの操作をくり返してください。

14. エンジンが始動したら、キーから手をはなしてください。
[入]にもどります。

重要：
- **エンジン回転中は、キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障原因になります。**

15. バッテリチャージランプ、エンジンオイル油圧警告灯が消灯したか確認します。



(1) バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）
(2) エンジンオイル油圧警告灯

16. エンジン回転を下げ、クラッチペダルからゆっくり足を離し、そのまま 5 分程度暖機運転しましょう。寒冷時は、寒冷時の暖機運転（138 ページ）の項を参照。

補足：
- **寒冷時の始動直後約 1 分程度、青白煙を排出することがありますが、異常ではありません。また、それ以上に青白煙を排出し続ける場合でも、エンジンがじゅうぶんに加熱されれば、インジェクタのつまりなどの故障でないかぎり青白煙は消えます。**

1.1 尿素水(AdBlue)凍結警告

寒冷時、凍結した尿素水(AdBlue)は運転中に自動で融解されます。しかし-30 ℃以下では完全には融解されない場合があり、その際故障診断コード（〝5435-12〞）が液晶モニタに表示されます。この故障診断コード（〝5435-12〞）が表示されたときは、エンジンを停止し、10 秒後に再始動してください。エンジンを再始動すると故障診断コード（〝5435-12〞）の表示が消え、尿素水(AdBlue)が再度融解されます。
エンジン再始動を数回繰り返しても故障診断コード（〝5435-12〞）の表示が消えないときは購入先に連絡してください。

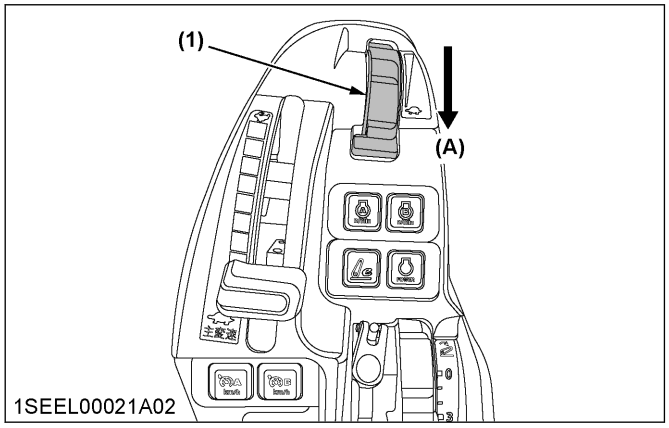


1GAAG00372A01

(1) 故障診断コード

2. 停止のしかた

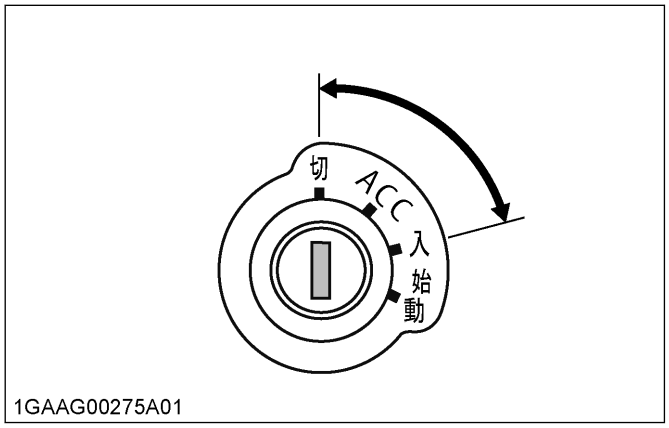
1. アクセルレバーをいっぱい後へ引き、アイドリング状態にします。



1SEEL00021A02

(1) アクセルレバー　　*(A)* アイドリング

2. キースイッチのキーを**[切]**位置にすると、エンジンは停止します。

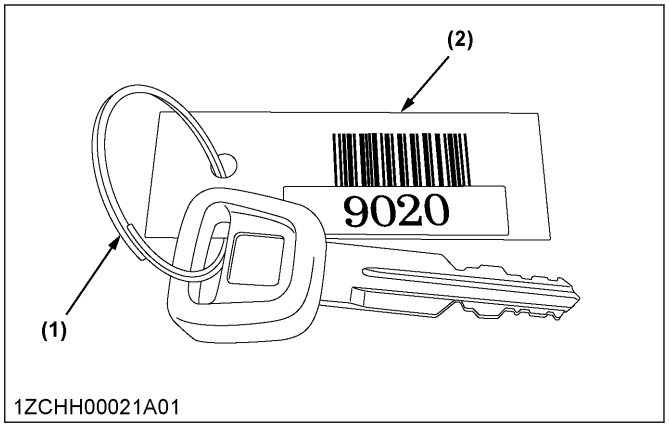


1GAAG00275A01

重要：

- **エンジンの停止は、5 分間アイドリング運転してからにしてください。**
  高速負荷運転後、急にエンジンを停止するとターボチャージャに悪い影響を与えます。

3. キーを必ず抜きます。



1ZCHH00021A01

(1) キーリング
(2) キーナンバー票

重要：

- **キースイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため、必ずキーは抜いてください。**
- **キーリングに付属しているキーナンバー票は、キーを紛失した際必要となります。キーナンバーを裏表紙のおぼえに記入し控えておくか、キーナンバー票を大切に保管してください。**

補足：

- **エンジン停止後最大約 15 分間、尿素 SCR システムが自動で作動し、凍結や詰まりを防止するために配管の中の尿素水(AdBlue)を尿素水タンクに戻します。**
- **エンジン停止後も尿素 SCR システムから作動音が聞こえる場合がありますが、異常ではありません。エンジン停止後は次の点に注意してください。**
  - **尿素 SCR システムが停止するまで、バッテリ端子を外さないでください。システム機器が故障するおそれがあります。**
  - **尿素 SCR システムが停止してから尿素水(AdBlue)を補給してください。尿素 SCR システムが停止する前に補給すると、尿素水タンクのブレザーホースから尿素水(AdBlue)が溢れる可能性があります。**

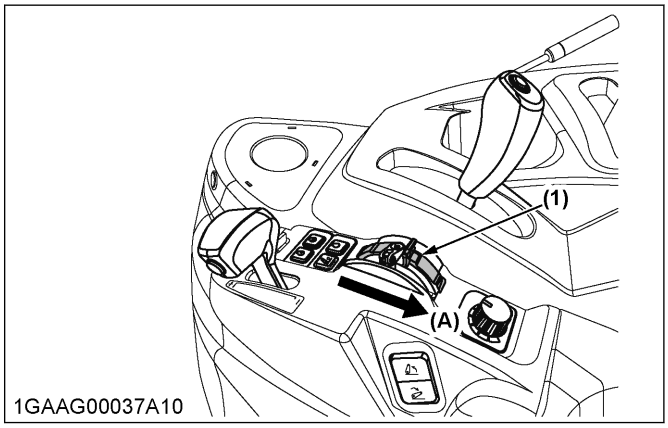
トラクタの発進と走行

⚠ 警告

- **トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し、付近に人（特に子供）を近づけないでください。また、安全キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。**
- **子供はもちろん、運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また、必ずシートに座って運転してください。**
- **溝や穴の近く、路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。転落事故のおそれがあります。**

- **急な坂道の登坂はバックで行うか、作業機をできるだけ下げ、転倒防止に心がけてください。**
- **下り坂は、エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。**
- **負荷の高いけん引をする場合や湿田脱出の場合には、徐々に発進し、トラクタが後へ転倒しないように注意してください。**
- **高速で旋回すると、横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して、必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。**
- **後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。周囲の状況をよくみて、安全であることを確認してからシャトルレバーを後進位置に入れて、安全な速度で後進してください。また後進中は、特に周囲の状況によく注意して運転してください。**
- **運転席足元に空缶、部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり、ブレーキ操作、クラッチ操作ができなくなり危険です。**

1. 運転席の位置を調節してください。
   運転席周りの調節（60 ページ）の項を参照。
2. 灯火類のスイッチの位置を確認してください。
   灯火類の操作（64 ページ）の項を参照。
3. エンジンを始動してください。
   始動のしかた（127 ページ）の項を参照。
4. ポジションレバーを後方に引き作業機を上げます。
   詳細は作業機昇降装置（109 ページ）の項を参照。

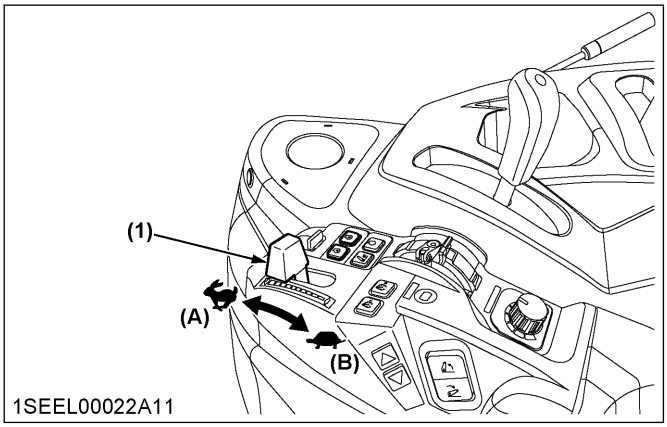


(1) ポジションレバー　　*(A)* 上げる

5. クラッチペダルを踏込みます。

⚠ 警告
- **急にクラッチを離すと、急に飛出すおそれがあります。**
  ゆっくり行ってください。

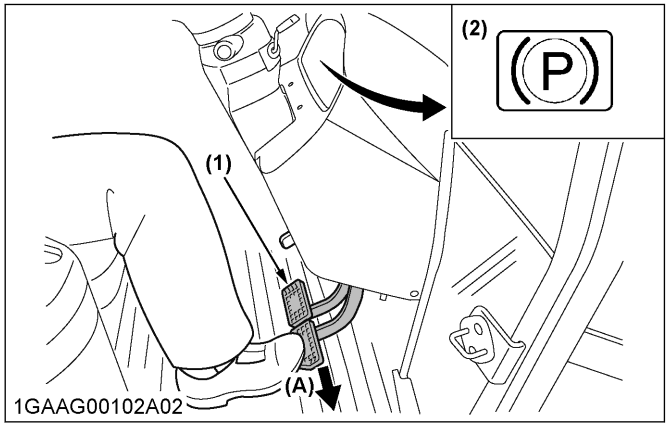
   クラッチペダル（66 ページ）の項を参照。
6. 走行モード（2WD、4WD、倍速、AD、旋回 2WD）を選択します。
   走行モード選択スイッチ（69 ページ）の項を参照。
7. 主変速レバーを前方方向に倒すと、トラクタが動き始めます。
   電子メータパネルで車速を確認しながら希望車速まで増速してください。
   アクセルレバー（67 ページ）、アクセルペダル（67 ページ）の項を参照。



(1) 主変速レバー　　*(A)* 高速
(B) 低速

補足：
- **副変速レンジが[L]（低速）時のみクリープ速度（クリープ入）が得られます。**
- **発進時より希望車速（高速）で走行したい場合、主変速レバー位置を電子メータパネルに表示 される車速に合わせてから、クラッチペダルで発進してください。**
- **ブレーキペダル操作のみで発進・停車が行えます。ブレーキペダルより足を離すと、主変速レバーで設定した車速まで スムーズな増速を行います。**
- **ブレーキペダル連結状態でペダルを踏み込むと、ペダルの踏込み量に応じ減速や停車を行うことができ、 坂道発進もトラクタがバックすることなくスムーズに行えます。**
- **ブレーキ停止を行う際、トランスミッション部の前側からの音が大きくなる場合があります。**

8. 駐車ブレーキを解除します。
   a. 連結解除ペダルを踏込まないで、ブレーキペダルを踏み込むと駐車ブレーキが解除され、電子メータ内の (Ⓟ) ランプが消灯します。



(1) ブレーキペダル　　*(A)* 踏込む
(2) 駐車ブレーキ警告灯

補足：
- **駐車ブレーキを掛けたまま、発進しようとすると警告ブザーが鳴ります。**
- **もしブザーが鳴ったときには、次のいずれかの操作を行うとブザーが止まります。**
  - **駐車ブレーキを解除する。**
  - **シャトルレバーを中立（[N]）に戻す。**
  - **副変速レバーを中立（[N]）に戻す。**

9. クラッチペダルをゆっくり離し発進します。

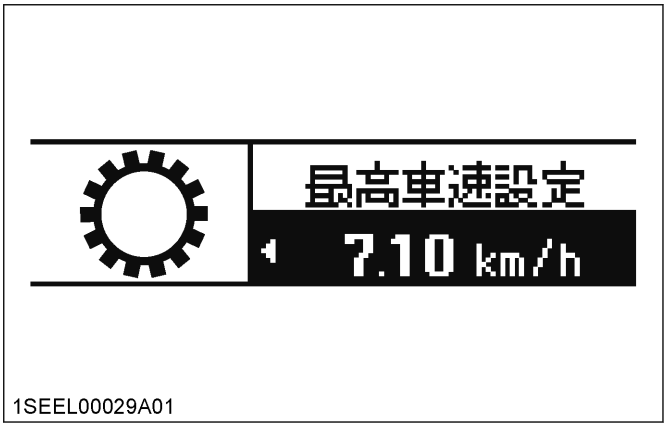
重要：
- **クラッチの寿命を伸ばすため、半クラッチの使用時間・回数を少なくするように、次の点にご注意ください。**
  - **速度調節はクラッチで行わないようにしてください。**
  - **作業に応じた車速およびエンジン回転を選択してください。**
  - **クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。**
    知らないうちに半クラッチを使用していることになります。
- **トレーラけん引作業時などの発進は、低速度段で行い、次に必要な車速段に入れて走行してください。**
  (クラッチの寿命が長くなります。)
- **通常作業で頻繁に警告ブザーが鳴る場合は、トラクタの再設定が必要です。**
  購入先で点検をしてもらってください。
- **運転中、メータ類に異常がないか、またイージーチェッカランプが点灯していないかを、たえず注意してください。**
  イージーチェッカ（96 ページ）の項参照。

1. 最高車速設定

不用意に車速を上げ過ぎないよう最高車速を制限できます。

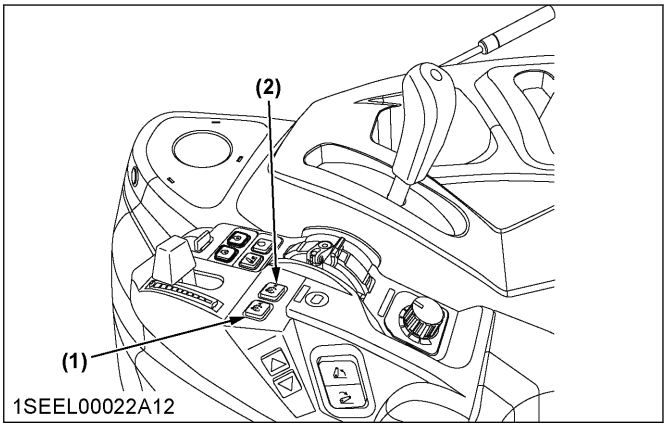
1.1 最高車速の設定方法

1. 副変速を**[H]**位置、**[M]**位置または**[L]**位置のいずれかに設定します。
2. HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]**→**[ミッション]**→**[最高車速設定]**を選択します。
3. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを左右に回し最高車速を設定します。



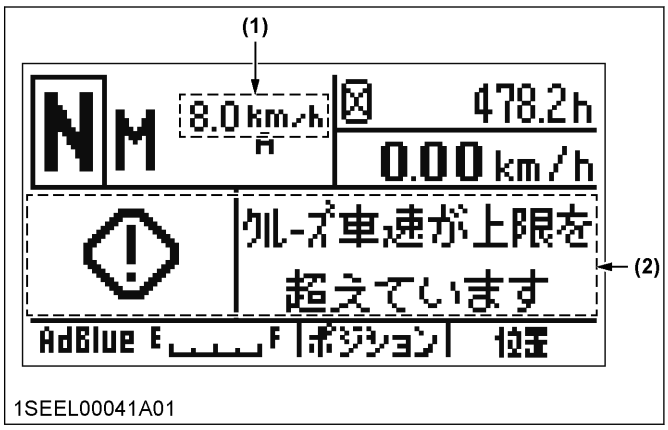
2. クルーズ車速設定

クルーズ車速スイッチ A または B を使用すると、車速をワンタッチで設定することができ、面倒な主変速レバー操作が不要となります。



(1) クルーズ車速スイッチ *A*
(2) クルーズ車速スイッチ *B*

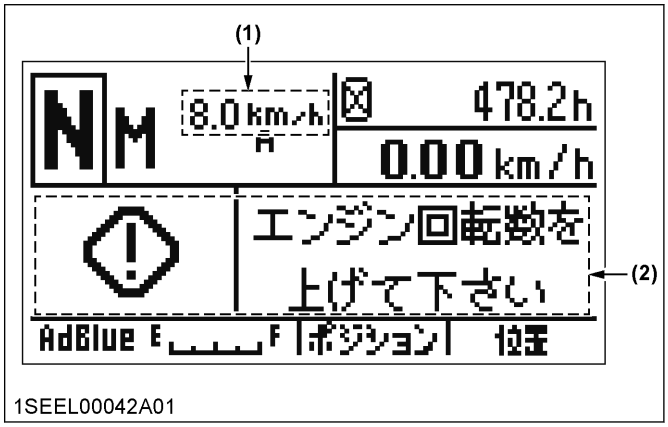
補足：
- **副変速レバーが[H]位置のときは使用できません。**
- **アクセル連動中は使用できません。**
- **最高車速設定値よりクルーズ車速の値を高く設定した場合、クルーズ車速まで上昇しません（最高車速設定が優先されます）。この場合、液晶表示部に次図のように表示されます。**



1SEEL00041A01

(1) 点滅
(2) 2 秒間表示

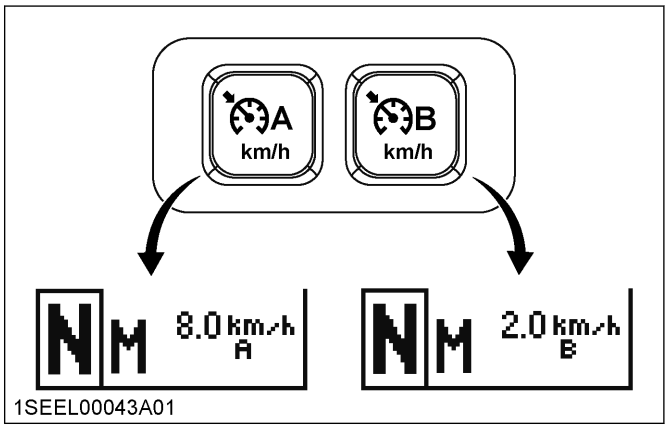
- **エンジン回転数が低い場合、クルーズ車速まで上昇しない場合があります。この場合、液晶表示部に次図のように表示されます。**



1SEEL00042A01

(1) 点滅
(2) 2 秒間表示

使用例
たとえばクルーズ車速 A 設定に 8 km/h、クルーズ車速 B 設定に 2 km/h をセットしたとします。



1SEEL00043A01

作業時
クルーズ車速スイッチ A を押すことで自動的に 8.0 km/h にセットされます。

旋回時
旋回時、クルーズ車速スイッチ B を押すことで、2.0 km/h に下がり、低速で旋回が行えます。旋回後に再度スイッチ A を押すと 8.0 km/h となります。

補足：
- **主変速レバーは最低速位置より少し高くしてください。最低速位置ではスイッチは作動しません。**
- **工場出荷時の設定は、次表のとおりです。**

副変速レバー位置	クルーズ車速 A 設定	クルーズ車速 B 設定
[M]位置	8.0 km/h	5.0 km/h
[L]位置	4.0 km/h	2.0 km/h

解除方法
下記のいずれかでクルーズ車速設定を解除してください。
- 作動中のクルーズ車速スイッチを押す。
- 主変速レバーを最低速位置に戻す。
- キースイッチを**[切]**位置にする。

2.1 クルーズ車速の設定方法（設定車速の変更）

1. HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]**→**[ミッション]**→**[クルーズ車速 A 設定]**または**[クルーズ車速 B 設定]**を選択します。
2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを左右に回し車速を設定します。



1SEEL00029B01

2.2 クルーズ車速の設定方法（現在車速の記憶）

主変速レバーやアクセルによって現在指示している車速を**[クルーズ車速 A 設定]**または**[クルーズ車速 B 設定]**に記憶できます。

1. 主変速レバーやアクセルを操作して、記憶したいクルーズ車速にします。
2. クルーズ車速スイッチ A またはクルーズ車速スイッチ B を長押しします。

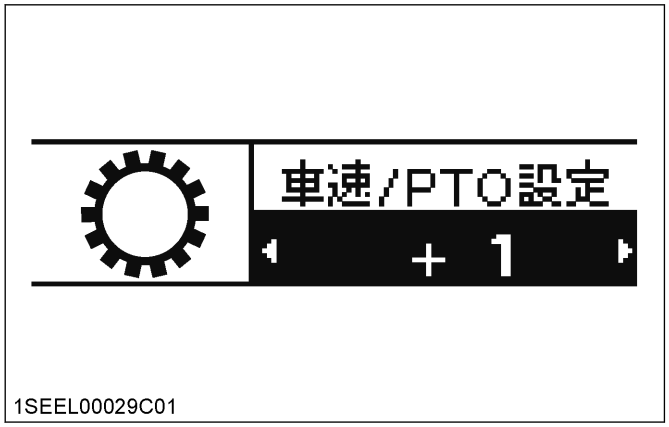
3. 「ピピッ」と音が鳴り、車速が**[クルーズ車速 A 設定]**または**[クルーズ車速 B 設定]**に記憶されます。

2.3 車速／PTO 設定

クルーズ使用時のエンジン回転変動による車速変動に対して、変速を自動制御し、車速を一定にすることを優先するか、PTO 回転を一定にすることを優先するかを設定します。

設定方法

1. HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]**→**[ミッション]**→**[車速/PTO 設定]**を選択します。
2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを左右に回し設定値を選択します。車速を優先したい場合はプラス側に、PTO 回転数を優先したい場合はマイナス側に設定します。

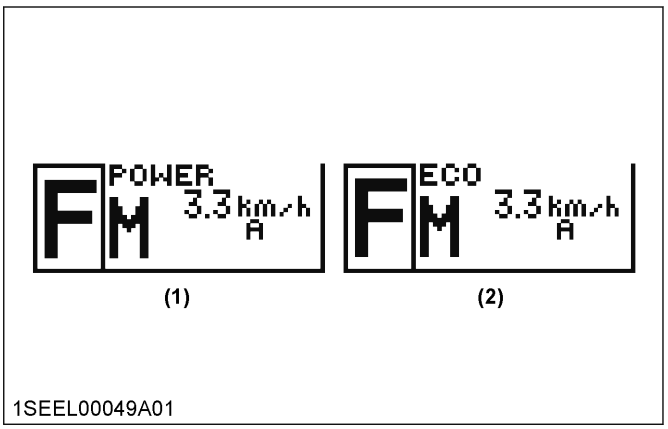


1SEEL00029C01

補足：
- **PTO 優先（マイナス側）を設定する場合は、パワーアシストモードを推奨します。**
- **工場出荷時の設定は-5 です。**

2.4 パワー/エコ設定

クルーズ使用時に作業負荷に応じて、エンジン回転数と変速を自動制御します。
- パワー（プラス）側に設定すると作業負荷が大きい場合に、車速が一定のままエンジン回転数が上がり牽引力がアップします。
- エコ（マイナス）側に設定すると作業負荷が小さい場合に、車速が一定のままエンジン回転数が下がり省エネで作業が行えます。

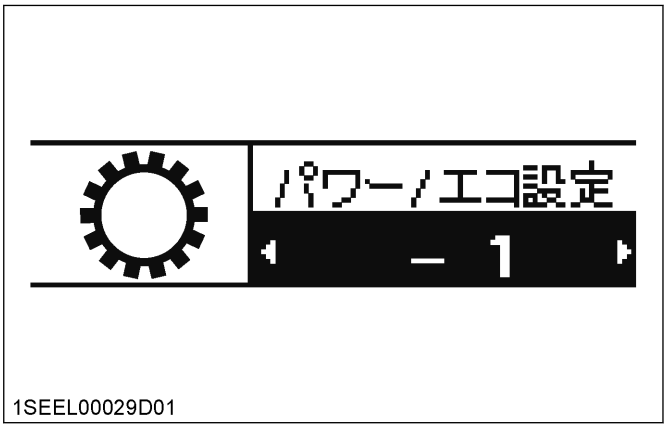


1SEEL00049A01

(1) パワー動作時表示
(2) エコ動作時表示

設定方法

1. HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]**→**[ミッション]**→**[パワー/エコ設定]**を選択します。
2. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを左右に回し設定値を選択します。負荷が大きい作業を行うときはプラス側に設定し、負荷が小さい作業を行うときはマイナス側に設定します。



1SEEL00029D01

補足：
- **PTO 回転の変動が作業精度に影響を与える PTO 回転数指定作業機（収穫機や播種機など）では 0 設定を推奨します。**
- **工場出荷時の設定は 0 です。**

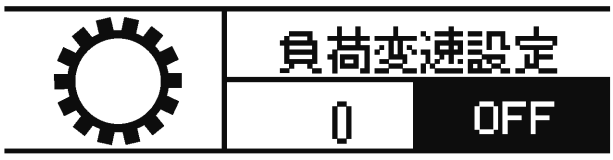
3. 負荷変速設定

ほ場の起伏や土質の変化などにより負荷が大きい場合に車速を自動で減速し、負荷が軽減すると自動で元の車速まで復帰します。

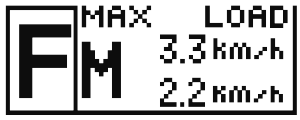
3.1 負荷変速の ON/OFF 設定

1. HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]**→**[ミッション]**→**[負荷変速設定]**を選択します。
2. 設定項目右側の ON/OFF 設定を選択します。

3. 負荷変速を ON または OFF に切り替えます。



1SEEL00029E01



(1)

1SEEL00050A01

(1) 負荷変速減速動作時表示

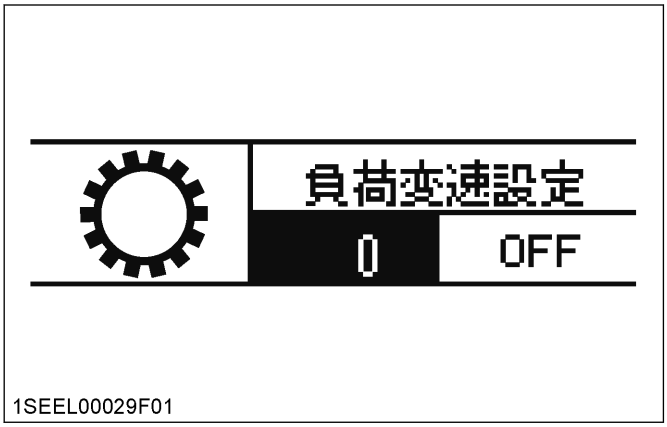
補足：
- **工場出荷時の設定は OFF です。**

3.2 負荷変速感度の設定

負荷に対する減速動作の感度を設定します。

1. HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]→[ミッション]→[負荷変速設定]**を選択します。
2. 設定項目左側の負荷変速感度設定を選択します。
3. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを左右に回し負荷変速感度の値を選択します。値が大きいほど負荷に対して車速が変わりやすく、値が小さいほど負荷に対して車速が変わりにくいです。

補足：
- **工場出荷時の設定は 50 です。**

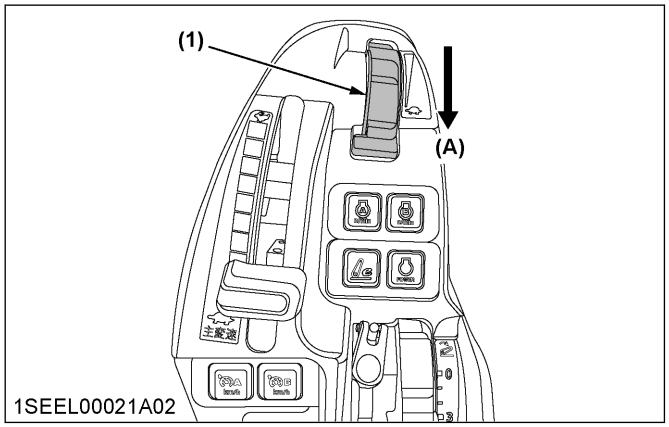


1SEEL00029F01

トラクタの停止と駐車

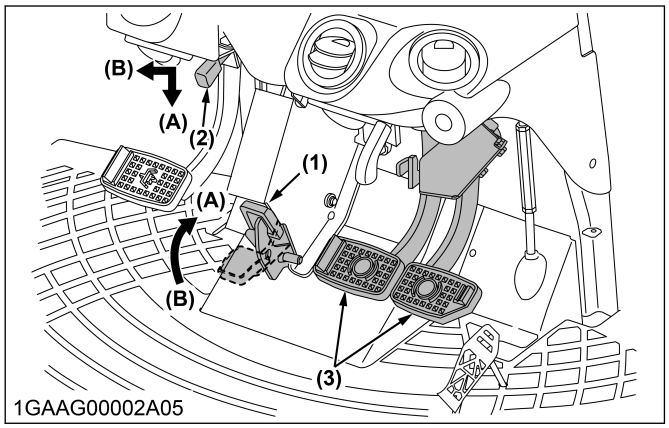
⚠ 警告
- **本機はブレーキ操作のみで発進や停車が行えますが､駐車するときは必ずシャトルレバーを中立([N])にし、確実に駐車ブレーキを掛けてください。駐車ブレーキのみで駐車するとトラクタが動き危険です。**
- **急ブレーキ時はブレーキペダルとクラッチペダルを踏み込んでください。**
- **本機は油圧ミッションのため、変速ギヤを入れてエンジンを止めても、エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さないよう、必ず駐車ブレーキを掛けてください。**
- **駐車するときは、平たんでトラクタが安定する場所を選び、変速レバーを中立（[N]位置)、PTO スイッチを[切]、作業機を下げ、駐車ブレーキを引き、エンジンを停止してキーを抜いてください。**
  やむをえず坂道で駐車する場合は、タイヤに車止めをしてください。
- **乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には、駐車しないでください。**
- **格納などでトラクタにシートをかける場合は、マフラやエンジンがじゅうぶん冷えてから行ってください。**
- **トラクタから降りるときは、ロータリなどの PTO 作業機が完全に止まるまで待ってください。**

1. アクセルレバーをいっぱい後へ引き、アイドリング状態にします。



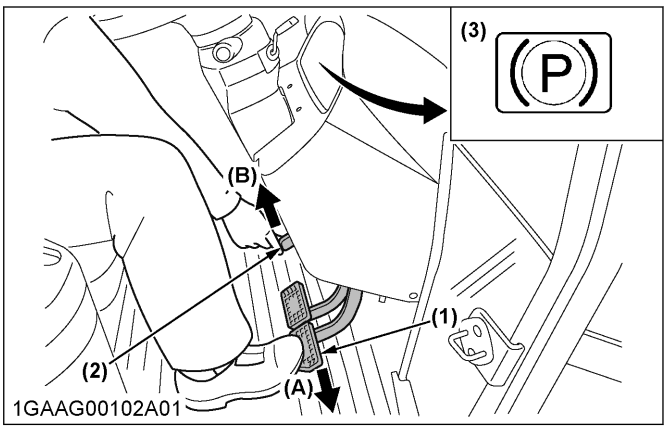
(1) アクセルレバー　*(A)* アイドリング

2. クラッチおよびブレーキペダルを踏込みます。
3. 完全に停止してから、シャトルレバー、副変速レバーを中立（**[N]**）にします。
4. PTO を使用している場合は、PTO スイッチを**[切]**にして、PTO を停止させます。
5. 作業機を取付けている場合は、ポジションレバーをゆっくり前方に倒し作業機を下げます。
6. 連結解除ペダルロックレバーを下げて、左右のブレーキペダルを確実に連結します（連結解除ペダルをロックします）。



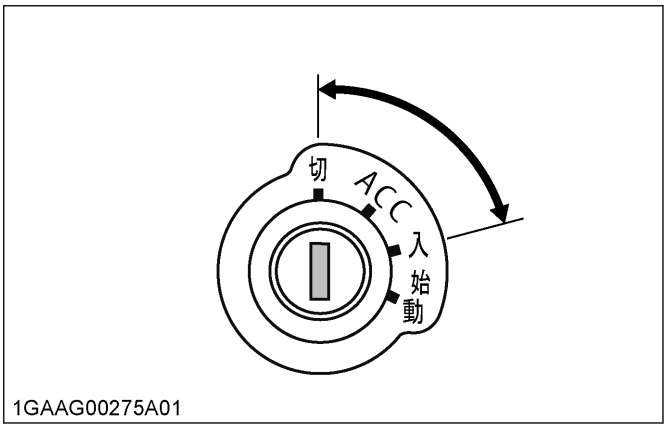
(1) 連結解除ペダル　*(A)* ロック（格納）
(2) 連結解除ペダルロックレバー　*(B)* 連結
(3) ブレーキペダル

7. 駐車ブレーキを確実に掛けてください。



(1) ブレーキペダル　*(A)* 踏込む
(2) 駐車ブレーキレバー　*(B)* 引く
(3) 駐車ブレーキ警告灯

8. キースイッチのキーを**[切]**位置にすると、エンジンは停止します。



寒冷時の暖機運転

⚠ 警告

- **換気が不十分な所では、暖機運転はしないでください。**
  換気が不十分であると排ガスにより、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- **暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。**

重要：

- **始動後、約 10 分間は負荷をかけずにアイドリングで暖機運転をしてください。オイルを各メタルにじゅうぶんゆきわたらせるためで、始動してからすぐ負荷をかけると、焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。**
- **本機には油圧クラッチが採用されており、油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのためアイドリングでの暖機運転終了後は、アクセルレバーを低速にして必ず下記の要領で暖機運転を行い、トランスミッションオイルを暖めてください。暖機運転を行わないと、満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。**

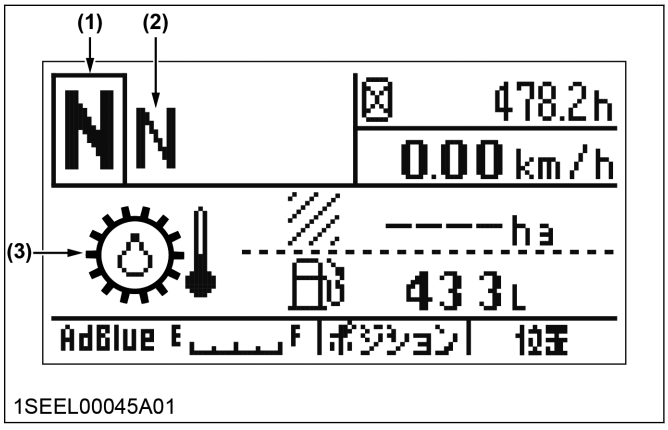
気温	暖機運転時間
0 ℃～10 ℃	0～10 分間
-10 ℃～0 ℃	10～20 分間
-20 ℃～-10 ℃	20～30 分間
-20 ℃以下	30 分間以上

補足：
- **エンジン始動後、エンジン回転を安定させるため、自動的に回転数が上がることがあります。**
- **寒冷時の暖機運転では、マフラパイプ内で結露した水分が、水滴となって飛散することがあります。アイドリング以外で暖機運転をすると、水滴の飛散量が多くなります。**

トランスミッション低温規制

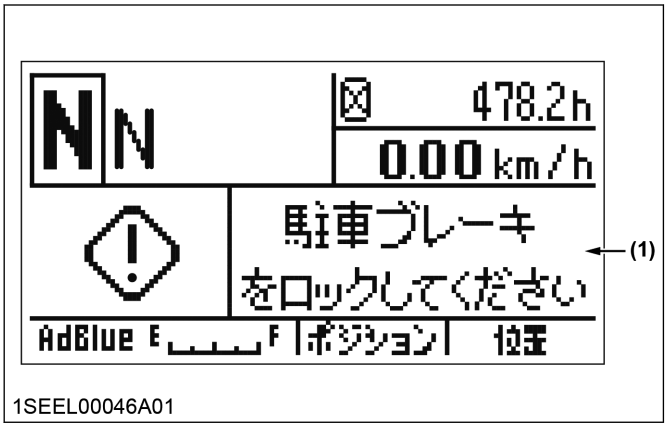
潤滑不良などによるトランスミッションの損傷を防ぐため、トランスミッション油温が約-10 ℃以下のとき、油温に応じ下表の規制が作動し、規制中はインジケータでオペレータに知らせます。
規制中は副変速レバーとシャトルレバーを**[N]**位置にし駐車ブレーキを掛けて暖機運転を行ってください。下表の規制時間を超えるとインジケータが消灯し、変速操作が行えます。なお、規制中においても緊急時の移動などのため、副変速レバー**[L]**位置で MAX 約 1 km/h、**[M]**位置で MAX 約 2 km/h で走行可能となります。

油温	規制時間	規制
-10 ℃～-15 ℃	約 1～3 分間	• 暖機中はエンジン回転 2000 rpm に保持。 • 暖気中においても副変速が**[L]**速、**[M]**速でのみ発進可。ただし、エンジン回転はアイドリング回転に保持。
-16 ℃～-20 ℃	約 3～6 分 30 秒間	
-21 ℃～-25 ℃	約 6 分 30 秒～8 分間	
-26 ℃以下	約 8 分間	



1SEEL00045A01

(1) シャトルレバー位置
(2) 副変速レバー位置
(3) トランスミッション低温規制インジケータ



1SEEL00046A01

(1) メッセージ

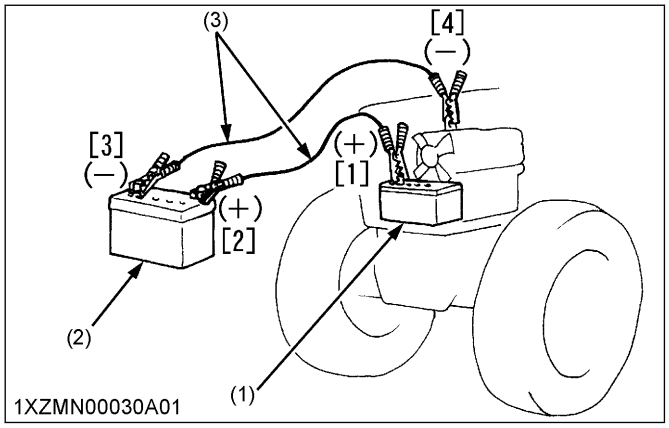
補足：
- **低温規制中はトランスミッション低温規制インジケータが表示され、シャトルレバー位置と副変速レバー位置が点滅します。**
- **低温規制中に緊急時の移動などで走行する場合、副変速レバーやシャトルレバーのニュートラル状態を解除したり、駐車ブレーキを解除することでメッセージが表示され暖機運転は中断されます。副変速レバーを[L]位置または[M]位置にすることで走行可能となり、停車した際にはメッセージに従い操作することで再度暖機運転が行われます。**

バッテリあがりの処置

ブースタケーブル（別売）があれば、他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

重要：
- **救援車は必ず 12 V バッテリ車を使用してください。**
- **ケーブル接続の際には、（＋）と（－）端子を絶対に接触させないでください。**
- **ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。**
- **ケーブル接続の際には、（＋）と（－）をよく確認し、絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると、トラクタや救援車の電子機器類が破損する場合があります。**
- **救援車に本機を使用する場合は、必ず作業機を降してください。**

1. ブースタケーブルを図の番号順で接続します。
   a. トラクタのキースイッチを**[切]**位置にします。
   b. バッテリの（+）端子同士を接続します。
   c. マイナスケーブルの他端[4]の接続位置は、バッテリから離れたエンジン本体または車体に接続します。
   （マイナスケーブルの他端[4]を直接バッテリの（−）端子に接続すると、バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがありますので接続しないでください。）



(1) 放電したトラクタバッテリ
(2) 救援車バッテリ
(3) ブースタケーブル
[1] プラスケーブルの他端*[1]*
[2] プラスケーブルの他端*[2]*
[3] マイナスケーブルの他端*[3]*
[4] マイナスケーブルの他端*[4]*

2. 救援側の車を始動し、少しエンジン回転を高めに保ちます。
3. トラクタのエンジンを始動します。
   始動手順は始動のしかた（127 ページ）を参照してください。
4. ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

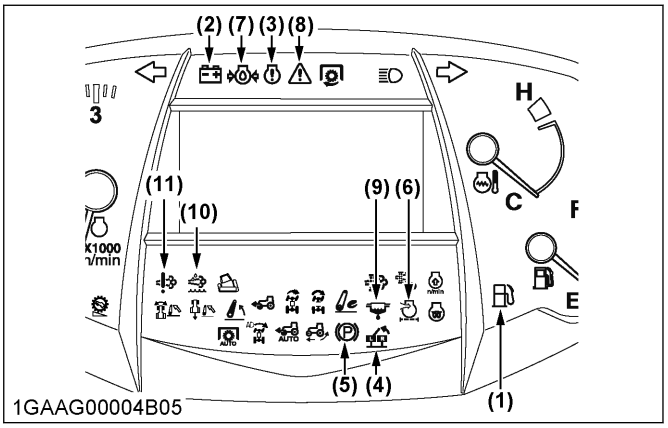
ならし運転（最初の約 50 時間）

この期間中は、特に次のことを厳守してください。
- 急なスタート、急ブレーキは慎んでください。
- 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
- 運転は、エンジンがじゅうぶん暖まってから行うようにしましょう。
- 悪路や傾斜地では、速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
- 50 時間使用後、定期点検一覧表に従い各部の点検、オイル交換などを行ってください。
  （詳細は定期点検箇所一覧表（191 ページ）を参照）

運転中の作動確認

トラクタの運転中は、各部が円滑に作動しているかどうかを、たえず注意してください。

重要：
- **運転中、メータ類に異常がないか、またイージーチェッカランプが点灯していないかを、たえず注意してください。**
  （詳細はイージーチェッカ（96 ページ）を参照）



(1) 燃料残量警告灯
(2) 充電異常警告灯
（チャージランプ）
(3) エンジン異常警告灯
(4) 連結解除ペダルロックレバー解除警告灯
(5) 駐車ブレーキ警告灯
(6) エアクリーナ目詰まり警告灯
(7) エンジンオイル油圧警告灯
(8) システム異常警告灯
(9) ウォータセパレータ警告灯
(10) 尿素水（*AdBlue*）インジケータ
(11) *SCR* システム警告灯

次の場合は、直ちにエンジンを止めてください。
- 回転が急に下降したり上昇したりする。
- 突然、異常な音がした。
- 排気色が急に黒くなった。

状況に応じた操作

1. 片側の車輪がスリップするとき

前輪デフロック、後輪デフロックを使用してください。
（詳細はデフロック（73 ページ）を参照）

2. 旋回のしかた

⚠ 警告
- **高速で旋回すると、横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して、できるだけエンジン回転を落とし、ゆっくりと旋回してください。**

3. 坂道での運転

警告
- **必ず連結解除ペダルロックレバーをロック位置にするとともに、デフロックの解除を確認してください。**
- **坂道では変速を中立にしたり、クラッチを切ったりして惰性で走行（惰性運転）しないでください。惰性運転をすると、スピードが出すぎて制動不能や、転倒事故を引き起こすおそれがあります。**
- **急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。**

- 坂道状況に応じた安全なスピードで、エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
- 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
- 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

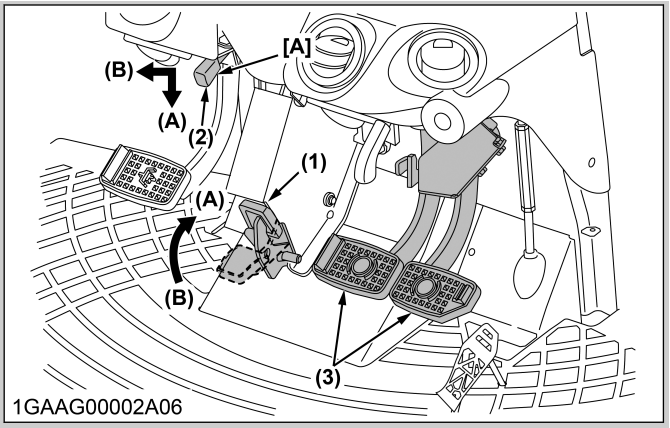
4. ほ場への出入り時の注意

警告
- **必ず連結解除ペダルロックレバーをロック位置にするとともに、デフロックの解除を確認してください。**
- **ほ場への出入りは、高低差が大きいと危険です。あゆみ板などを利用してください。**
- **ほ場への出入りは、トラクタをあぜと直角にして行ってください。**
- **ほ場への出入りの際は、あらかじめ遅い車速で運転し、途中で変速しないでください。**
- **走行モード切替スイッチは[2WD]または[4WD]にしてください。**
- **AD スイッチは[切]にしてください。**

- 作業機を下げて進むと、前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
- あぜを上がるとき、4 輪駆動の特色を生かして、バックで上がってください。
  格段に上がる能力が増します。

5. 道路走行中の注意

警告
- **道路を走行するときは、連結解除ペダルロックレバーをロック位置にし、連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。**
  連結を解除してブレーキを踏むと、ブレーキが片ぎきになり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。



(1) 連結解除ペダル
(2) 連結解除ペダルロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) ロック（格納）
(B) 連結
[A] 道路走行時は必ず下げる

警告
- **道路を走行するときは、関係法規を守り安全運転をしてください。**
- **急ブレーキ時はブレーキペダルとクラッチペダルを踏み込んでください。**
- **運転者のほかは乗せないようにしてください。転落事故の原因になります。**
- **溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは、特に路肩に注意してください。**
- **インプルメントやアタッチメントを装着した状態では、[道路運送車両法の保安基準] を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと、トラクタとの組み合わせごとに、[保安基準] を満たしていることの確認が必要です。**
- **作業機を装着して道路走行する場合には、他の車・電柱またはガードレールなどに作業機を引掛けて、事故の原因になるので、注意してください。**
- **道路走行時には傾き自動切替スイッチを必ず切（位置制御）にして走行してください。**
- **ポジションレバーを走行ロック位置にして、油圧ロックレバーを油圧ロック位置にしてください。**
- **クイックアップランプの消灯を確認してください。**
- **作業切替スイッチをポジション位置にしてください。**

補足：
- **作業灯は道路運送車両法の保安基準第 42 条（灯火の色等の制限）において、走行中に使用しない灯火とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。**
- **PTO スイッチを[入]または[入 自動]にしたとき、走行中に、電子メータの液晶表示部に[PTO 切にして下さい]と表示されたときは、速やかにトラクタを止め、PTO スイッチを[切]にしてください。この表示は車速が 15 km/h を超えたときに表示されます。**
- **ブレーキ停止を行う際、トランスミッション部の前側からの音が大きくなる場合があります。**

- 公道走行中進路方向を変えるときは、方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
- 夜間走行中、対向車とすれちがうときは、ヘッドライトを下向き照射にし、対向車の妨害にならないように注意してください。
- 踏切では、必ずいったん停止し、左右の確認をしてから、速やかに渡ってください。
- 公道走行時は後続車に低速農耕車が走行している事を知らせる低速車[SMV]マークを取付けてください。

6. トラックへの積み・降ろし

⚠ 警告
- **あゆみ板は、じゅうぶんな強度・幅・長さ（傾斜が 15 度以下になる長さ：トラック荷台高さの 4 倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し、トラクタの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。**
- **積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し、途中での変速はしないでください。**
- **道路交通法規定により、トラック運搬時は地上高 3.8 m 以下で運行してください。**

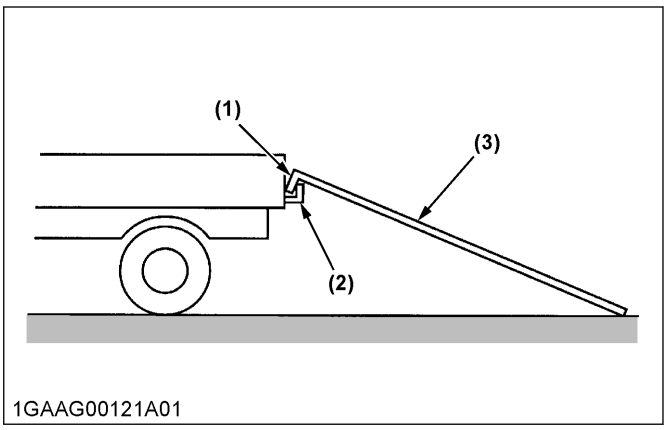
［タイヤ仕様］の場合

1. トラックへの積込みは、必ず左右のブレーキペダルを連結しバックで行ってください。
2. 万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行ってください。

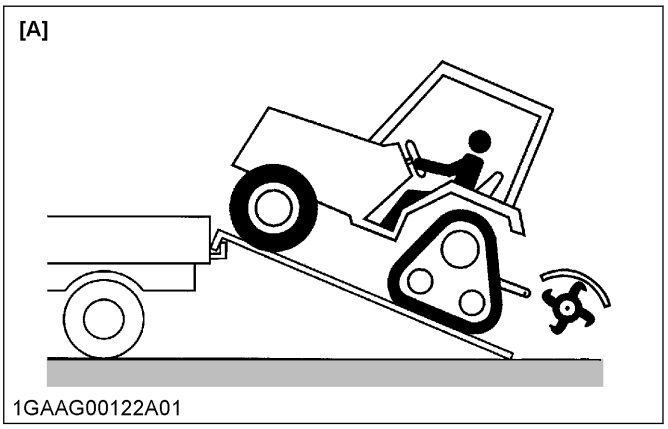
［ハーフクローラ仕様］の場合

⚠ 警告
- **トラックは荷台後部にあゆみ板の爪を掛けるフックが付いたものを使用してください。**
- **トラックへの積み・降ろしは、必ず左右のブレーキペダルを連結し、前進で積み込み、後進で降ろしてください。前進で降りると、クローラがあゆみ板の段差ですべり、前輪が浮いて車体が旋回し、転倒事故につながるおそれがあります。**

1. トラックへの積込みは、前進で積み込み、後進で降ろしてください。



(1) 爪
(2) フック
(3) あゆみ板



[A] 前進で積み込み、後進で降ろす［ハーフクローラ仕様］

2. 万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行ってください。

7. パワーステアリングの取扱い

⚠ 注意
- **パワーステアリングはエンジン運転中、ハンドル操作がたいへん軽くなりますので、走行は慎重に行ってください。**

重要：
- **パワーステアリングは、エンジン運転中だけ作動します。ただし、エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。なお、エンジン停止時は、ハンドルの遊びが大きくなりますが、機能上問題はありません。**
- **ローダなどの前部装着作業機を使用し、トラクタを止めたままハンドルを操作すると、途中重くなることがあります。このときは、低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。**
- **ハンドルをいっぱい切ると、安全弁の作動音（リリーフ音）が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。（短い時間ではかまいません。）また、**

ハンドルのフル回転状態での連続使用は、できるだけ避けてください。
- **不必要なハンドルのスエ切り（走行しないでハンドルを切る）は、タイヤおよびリムなどの損耗を早めるので避けてください。**
- **冬期は暖機運転をじゅうぶん行ってから使用してください。**

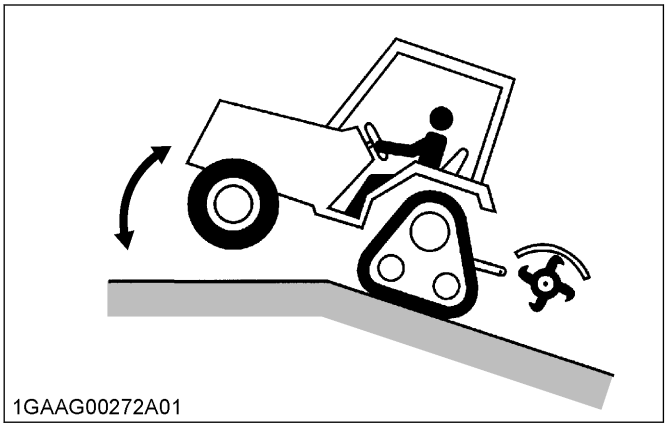
8. ハーフクローラ仕様の運転のしかた

ハーフクローラ仕様の特別な運転のしかたを記載しています。これ以外の取扱い操作はタイヤ仕様のトラクタと同じです。

⚠ 警告
- **凹凸やカーブの多い所では絶対に高速走行をしないでください。ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。**
- **クローラ部が凸部を乗越えるときは、急に姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。**

重要：
- **溝引きプラウ作業を行うと、ゴムクローラが外れたり、足回り（ゴムクローラ、ローラ、アイドラ、ガイド）の早期破損のおそれがありますので、溝引きプラウは使用しないでください。**
- **あぜごえはあぜに対して垂直方向に走行し、途中で旋回しないでください。ゴムクローラが外れるおそれがあります。**
- **道路走行でカーブを曲がったり、右左折する場合は速度を落してください。**
  クローラは直進性が優れるために、曲がりきれなくなる場合があります。

補足：
- **長距離の移動の際には、前輪タイヤおよびゴムクローラの早期摩耗防止のためにトラックやトレーラに積んで輸送することをお奨めします。**
- **道路交通法規定により、トラック運搬時は地上高 3.8m 以下で運行してください。**
- **クローラ部分に土がたまらないよう、定期的に清掃してください。**
  固まった土がアイドラ、ローラのシールをいためる可能性があります。


1GAAG00272A01

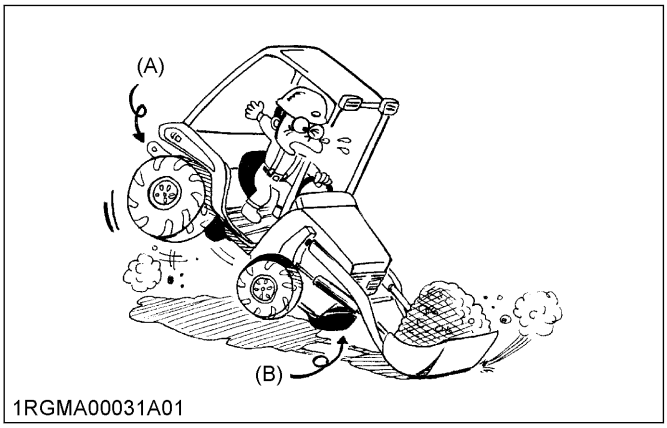
- 走行速度は、タイヤ仕様とは異なります。
  （詳細は走行速度表（247 ページ）を参照）
- ほ場で旋回する場合は、速度を下げてください。
- 片側クローラをロックして急旋回すると、ほ場を荒らします。状況に応じて、切返しで方向転換してください。

補足：
- **ハーフクローラは直進性に優れる分、旋回半径は大きくなります。ほ場での作業中は、必要に応じ旋回する側のブレーキを操作すれば、小さい旋回半径で旋回できます。**

9. ローダ作業を安全に行うための注意事項

ローダ作業時の転倒事故を防止するために、次のことがらを必ず守ってください。
- **トラクタ後部にカウンタウエイトを取付ける！**
  トラクタ後部に、3 点リンクを利用して適性量のカウンタウエイトを取付け、前・後のバランスを保つようにしてください。

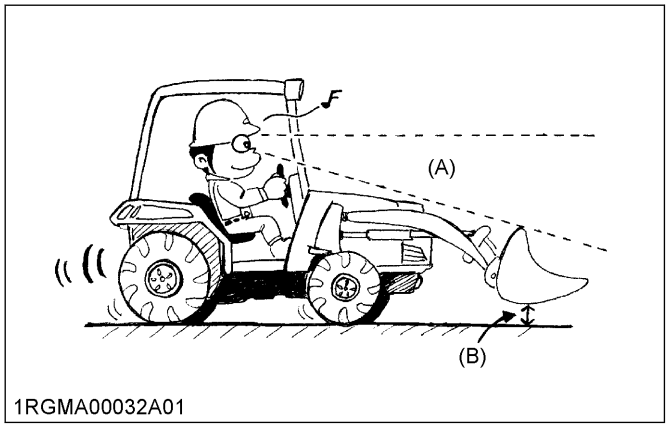
適正カウンタウエイト量（ロアーリンク先端）
800 kg
※純正フロントローダ装着時



1RGMA00031A01

(A) カウンタウエイトを取り付ける　*(B)* ウエイトを外す

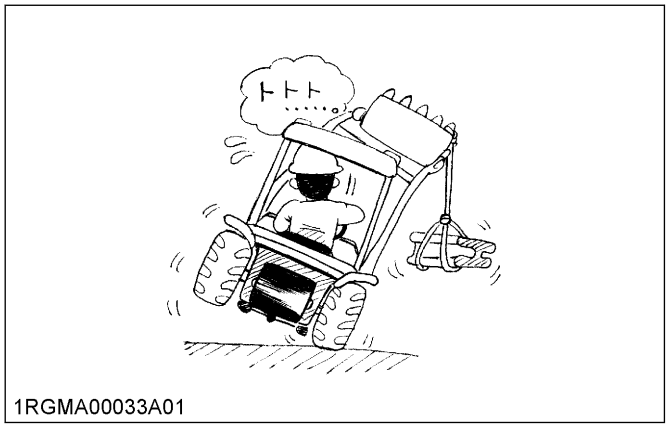
- **運搬はローダを低く下げてゆっくり走行する！**
  運搬・走行するときは、積荷の高さを地上から 30～50 cm にし、速度も 5 km/時以下で走行してください。
  特に傾斜地・悪路では、速度をひかえめに慎重に走行してください。



1RGMA00032A01

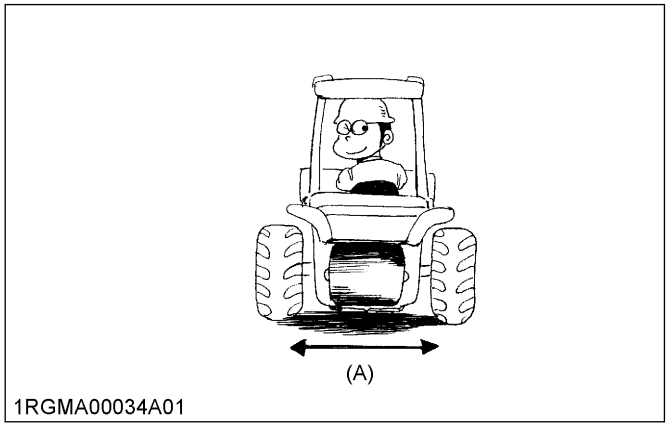
(A) 視界良好　　*(B)* *30～50 cm*

- **片持ち作業をしない！**
  片持ち作業はトラクタ横転の原因になりますので、荷物は左・右片寄らないようにバランスよく載せてください。



1RGMA00033A01

- **後輪トレッドはできるだけ広げる！**
  作業時はトラクタの安全性を増すため、後輪トレッドはできるだけ広げてください。



1RGMA00034A01

(A) できるだけ広げる

- **フロントローダ作業中は AD や倍速ターンを絶対に使用しないでください。**

以上、ローダ作業での転倒事故を未然に防いでいただくために、主だった注意事項を挙げました。これ以外にもローダの取扱説明書をよく読んで安全に作業をしてください。

作業のしかた

3 点リンクの安全ロック機能

安全ロック
ポジションレバー位置とロアーリンク位置が異なる状態で以下の操作を行ったときには、安全ロックが働き、自動制御が停止し、クイックアップランプが点滅（1 秒間に約 1 回点灯）します。

1. エンジン始動時
2. 3 点リンク外部操作スイッチ操作時
3. 作業切替スイッチ切換え時
4. 3P 内部操作スイッチ（3 点リンクキープモード時のみ）

安全ロックの解除
安全ロック状態のときには、ポジションレバーをロアーリンク高さに一致する位置まで動かし解除してください（クイックアップランプ消灯）。
解除後は、クイックアップランプの消灯または、点灯を確認してください。

補足：

- **ポジションレバーで解除する場合は、解除と同時に 3 点リンクが上昇または下降するため、じゅうぶんに注意してください。**
- **クイックアップレバー（スイッチ）[上げ]操作でも解除できますが、状態により解除できない場合があります。**
  なお、クイックアップレバー（スイッチ）[上げ]で解除する場合は、高さ規制調整ダイヤルで設定した位置まで上昇するため、じゅうぶん注意してください。
- **耕深調節ダイヤルが[浅]く、高さ規制調整ダイヤルが[低]く設定されていると、上記の 1.、2.で解除できない場合があります。そのときはエンジンを停止（キースイッチを[切]位置にする）させ、耕深調節ダイヤルを[深]、高さ規制調整ダイヤルを[高]に設定してからエンジンを始動して、上記の安全ロックの解除法で解除してください。**

作業モードの切替

作業機を交換した場合、スイッチやダイヤルの切換えと調整を行ってください。
（レーザ使用時は、レーザ取扱説明書で確認してください。）

1. 3P 制御モードをポジションモードに切り換え、作業機を装着する。
2. ポジションレバーで作業機を下げる。
3. 耕深調節ダイヤルを**[深]**、高さ規制調整ダイヤルを**[高]**位置に回す。
4. 3P 制御モードを作業機に合わせ切り換える。（**[耕深制御]→[S モード]→[ドラフト]**）
5. ポジションレバーで作業機を持ち上げ、必要に応じ高さ規制調整ダイヤルで作業機の上限高さを設定する。
6. 再度ポジションレバーで作業機を下げる。
7. 耕深調節ダイヤルを**[浅]**方向に回し、作業機の耕深設定を行う。

クイックアップ・傾き自動・3 点リンク制御の表示

クイックアップ制御、ドラフトコントロール、傾き自動コントロールなどの作動状態を、電子メータの傾き自動ランプ、クイックアップランプ、液晶画面下部の 3P 状態表示で表します。
下表の各表示に基づき、適切な取扱いを行ってください。

液晶画面	ランプ			状態	備考
3 P 状態	傾き自動	クイックアップ	システム異常		
耕深制御*1	–	–	–	耕深制御モード状態	3P 制御モード（111 ページ）の項を参照
S モード*1	–	–	–	S モード状態	
ドラフト*1	–	–	–	ドラフトモード状態	
レーザ*1	–	–	–	レーザモード状態	
ポジション*1	–	–	–	ポジションモード状態	
–	○	–	–	傾き自動モード状態	傾き自動モード切替（120 ページ）の項を参照
–	–	○	–	クイックアップアップ状態	クイックアップレバー（スイッチ）（114 ページ）の項を参照
耕深制御*2	–	◎	–	耕深制御モードで耕深制御が作動しない状態 3 点リンク安全ロック状態*3	3P 制御モード（111 ページ）の項を参照 3 点リンクの安全ロック機能（145 ページ）の項を参照
S モード*2	–	◎	–	S モードで S モードが作動しない状態 3 点リンク安全ロック状態*3	
ドラフト*2	–	◎	–	ドラフトモードでドラフトが作動しない状態 3 点リンク安全ロック状態*4	
レーザ*2	–	◎	–	レーザモードでレーザが作動しない状態 3 点リンク安全ロック状態*5	
–	◎	–	–	傾き自動の安全ロック状態	傾き自動の安全ロック機能（124 ページ）の項を参照
ポジション*1	–	◎	–	ポジションモードの 3 点リンク安全ロック状態	3 点リンクの安全ロック機能（145 ページ）の項を参照
耕深制御*2	–	–	●	異常検出時 • 購入先に点検・整備を依頼してください。	3 点リンク外部操作スイッチで作業機を昇降させてください。
S モード*2	–	–	●		
ドラフト*2	–	–	●		
レーザ*2	–	–	●		
–	●	–	●		位置制御または手動スイッチで操作してください。
–	–	●	●		–

- ○は点灯、◎は遅い点滅（0.3 秒 ON-0.3 秒 OFF）、●は早い点滅（0.1 秒 ON-0.1 秒 OFF）を示します。
- 早い点滅時には警告ランプも点灯し、液晶画面にはエラーコードが表示されます。

*1 点灯状態で表示されます。

*2 液晶表示が点滅します（0.5 秒 ON-0.5 秒 OFF）。

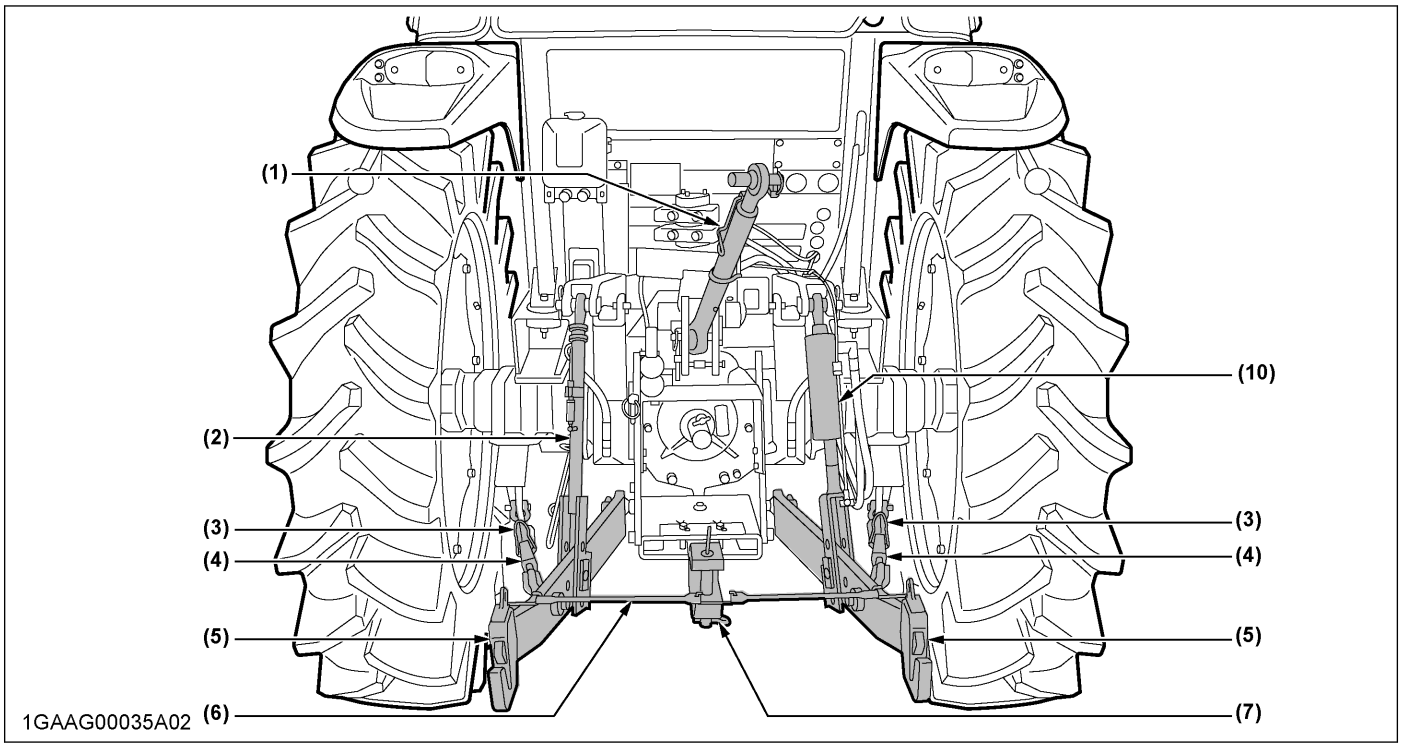
*3 ポジションレバーを操作し、まず 3 点リンク安全状態を解除してください（クイックアップランプが消灯する）。その後、ポジションレバーを手前方向（作業機が最大上昇する位置）に操作して耕深制御と S モードランプが点灯状態になり作業が行えるようになります。また、クイックアップレバーを上げる操作で 3 点リンク安全状態を解除と耕深制御と S モードランプ点灯状態になり作業が行えるようになります。

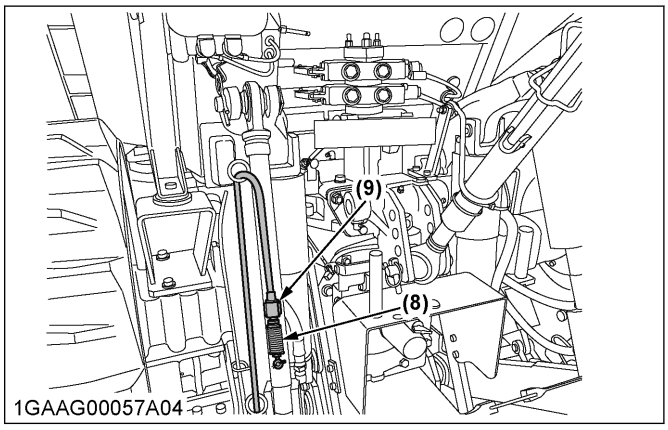
*4 ポジションレバーを操作して 3 点リンク安全状態を解除してください（クイックアップランプが消灯する）。ドラフトコントロール作業を行えるようになります。また、クイックアップレバーを上げる操作で 3 点リンク安全状態を解除でドラフトコントロール作業が行えるようになります。

*5 レーザ装置の取扱説明書を参照してください。

3 点リンク

1. 3 点リンクの各部の名称





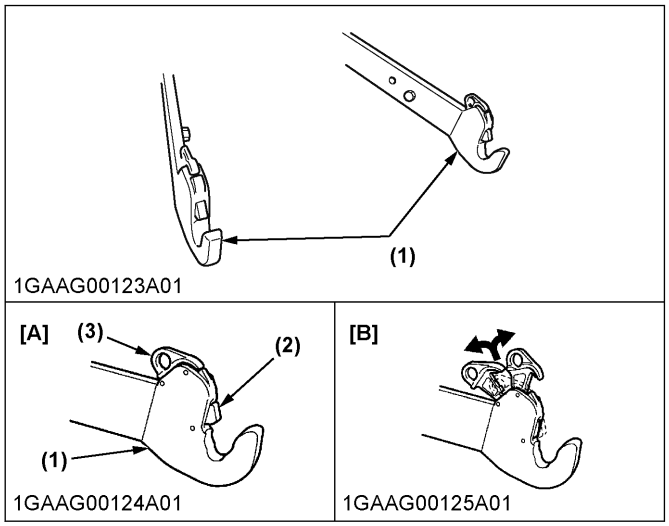
(1) トップリンク
(2) リフトロッド左
(3) チェックチェーン
(4) ターンバックル
(5) ロアーリンク
(6) 振止めゴム
(7) ドローバ（ロータリ付き仕様はオプション）
(8) 耕深ワイヤ
(9) ホルダ
(10) リフトシリンダ

2. 作業機の取付け

⚠ 警告
- **作業機を着脱する前、必ずエンジンを止めてください。また、ロータリなどの PTO 作業機は完全に止まるまで待ってください。**
- **駐車ブレーキがかかっていないときは、トラクタと作業機の間に入らないでください。**
- **作業機の着脱は、固い平たんな場所で行なってください。**
- **作業機を取り付けたとき、油圧で作業機を上下させ、トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。**
- **ポジションモードで着脱を行なってください。**

作業機取付け前の準備
- 耕深ワイヤを取付けます。
  耕深ワイヤの取付け方（149 ページ）参照。
- ロアーリンク取付け穴を選択します。
  ロアーリンク取付け穴の選択（149 ページ）参照。

クイックヒッチ（フック式）による作業機の取付け（例）
1. 3 点リンク外部操作スイッチ、および傾き手動外部操作スイッチを操作してロアーリンク高さを調整します。
   3 点リンク外部操作スイッチは 3 点リンク外部操作スイッチ（150 ページ）を参照。
   傾き手動外部操作スイッチは傾き手動外部操作スイッチ（150 ページ）を参照。
2. 装着する作業機にボールジョイントを組み付けます。
   ボールジョイントの組付け（151 ページ）参照。
3. ロアーリンク幅を調整します。
   ロアーリンク幅の調整（151 ページ）参照。
4. 各フックのレリーズレバーを操作して解除位置に保持します。



(1) ロアーリンク
(2) ラッチ
(3) レリーズレバー
[A] ロック状態
[B] 解除位置

5. ロアーリンクを下げトラクタを後退します。
6. ゆっくりロアーリンクを上げ、作業機側ボールジョイントとロアーリンクのクイックヒッチ部を接続します。
7. 各フックのレリーズレバーを操作してロック状態にします。
8. トップリンクを装着します。
   トップリンクの取付け（150 ページ）参照。
9. リフトロッド（右）を調整します。
   傾き手動スイッチ（123 ページ）、傾き手動外部操作スイッチ（150 ページ）参照。
10. チェックチェーンを調整します。
    チェックチェーンの調整（152 ページ）参照。

補足：
- **作業機を取り付けないときは、振止めゴムを取り付けます。**
  作業機を取付けないときの注意（152 ページ）参照。

作業機の取外し（例）

補足：
- **トラクタから降りて作業機を外す場合、レリーズレバーを解除位置に保持してください。**

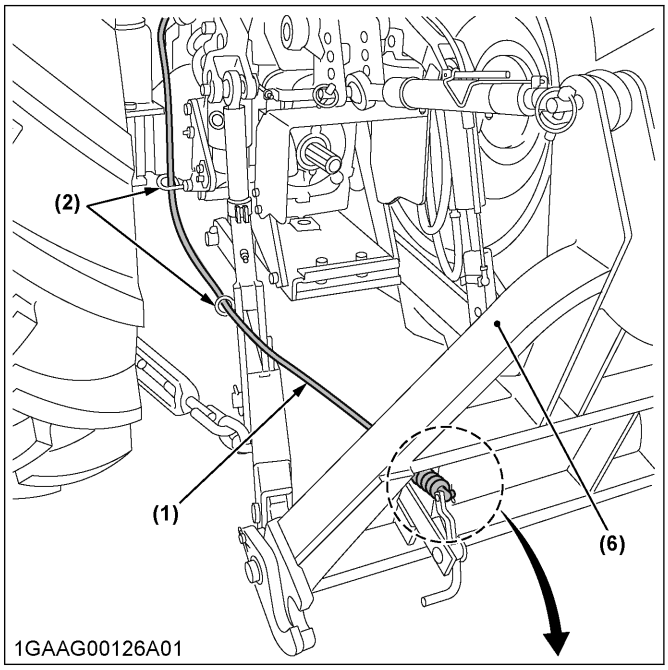
1. 作業機を下げ、トップリンクおよびリフトロッドを調整し、作業機を安定させます。
2. トップリンクを外します。
3. ロアーリンクのレリーズを解除し、ロアーリンクを下げます。

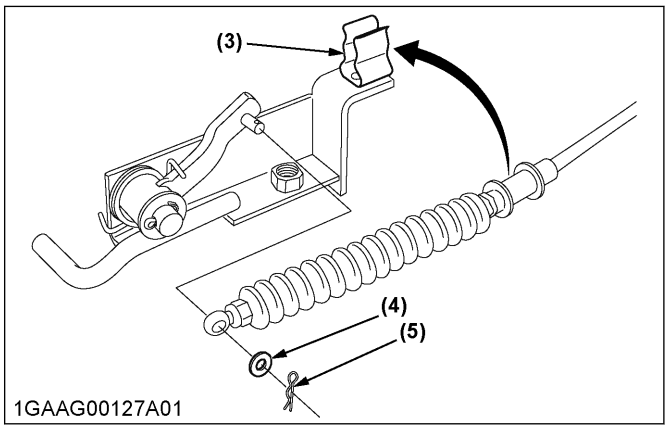
2.1 作業機取付け前の準備

2.1.1 耕深ワイヤ

2.1.1.1 耕深ワイヤの取付け方

1. オートヒッチフレームに耕深ワイヤを取り付ける場合、ワイヤを 2 カ所のガイドに通し正しく取り付けてください。

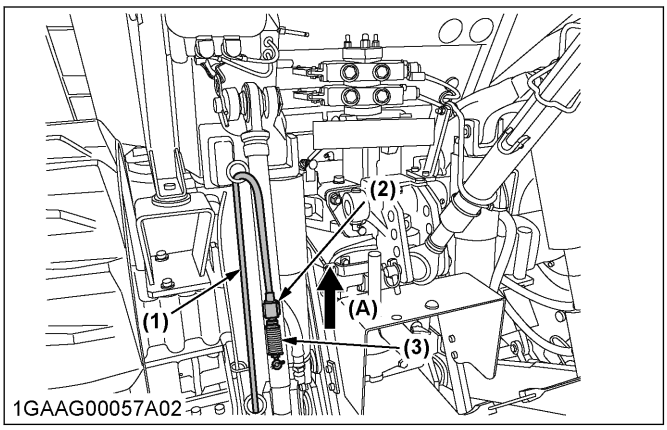




(1) 耕深ワイヤ
(2) ガイド
(3) ワイヤ受け部
(4) 平座金
(5) スナップピン
(6) オートヒッチフレーム

2.1.1.2 耕深ワイヤの格納方法

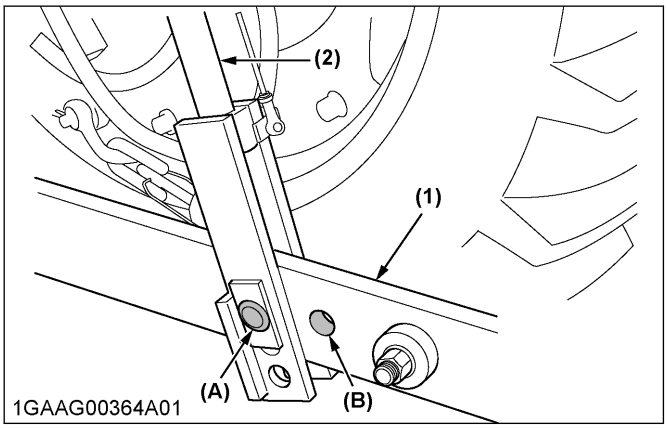
1. オートヒッチフレームを外した場合、耕深ワイヤをホルダに掛け、スナップピンで挟み込むように格納してください。



(1) 耕深ワイヤ
(2) ホルダ
(3) スナップピン
(A) ワイヤを挟み込む

2.1.2 ロアーリンク取付け穴の選択

一般作業機を使うときは、ロアーリンクの前穴を使ってください。特別な作業（重作業機）のみ後穴を使ってください。



(1) ロアーリンク
(2) リフトシリンダ
(A) 前穴
(B) 後穴

2.2 作業機の着脱

⚠ 警告

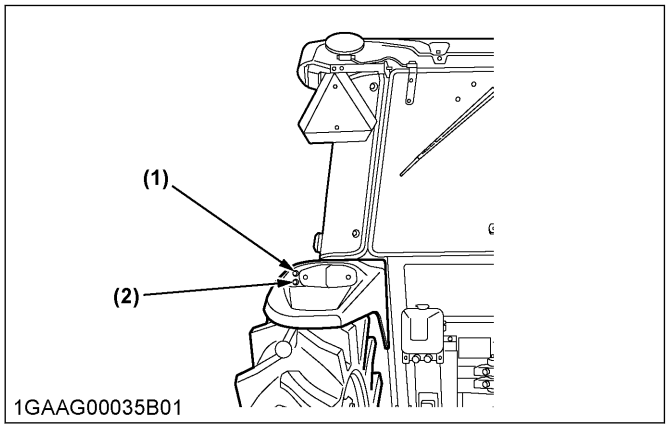
- **作業機を着脱する前、必ずエンジンを止めてください。また、ロータリなどの PTO 作業機は完全に止まるまで待ってください。**
- **駐車ブレーキがかかっていないときは、トラクタと作業機の間に入らないでください。**
- **作業機の着脱は、かたい平たんな場所で行ってください。**
- **作業機を取り付けたとき、油圧で作業機を上下させ、トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。**
- **ポジションモードで着脱を行ってください。**

2.2.1 3 点リンク外部操作スイッチ

ロアーリンク高さを変えるときに使用します。

⚠ 警告

- **作業機を装着しているときは、特に機械に巻き込まれるおそれがありますので、操作しないでください。**



(1) *3* 点リンク外部操作スイッチ（上昇側）
(2) *3* 点リンク外部操作スイッチ（下降側）

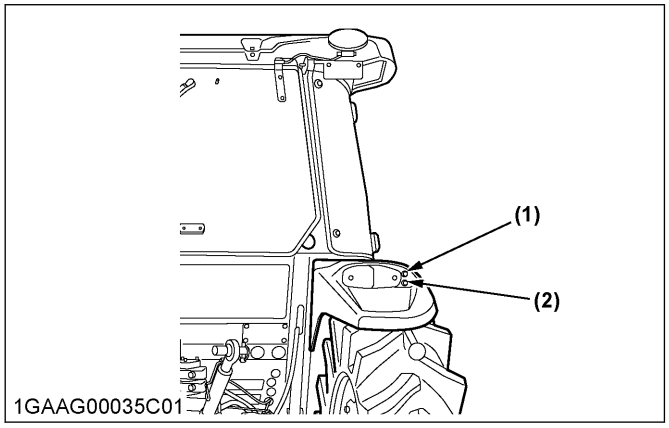
3 点リンク外部操作スイッチ上昇側または下降側を押すと、3 点リンクが昇降します。
このスイッチを操作すると、電子メータ内のクイックアップランプが点滅します。解除方法は 3 点リンクの安全ロック機能（145 ページ）を参照。

2.2.2 傾き手動外部操作スイッチ

傾き自動用リフトシリンダを伸縮するときに使用します。

⚠ 警告

- **作業機を装着しているときは、特に機械に巻き込まれるおそれがありますので、操作しないでください。**



(1) 傾き手動外部操作スイッチ（上昇側）
(2) 傾き手動外部操作スイッチ（下降側）

傾き手動外部操作スイッチ“上昇側”または“下降側”を押すと、傾き自動用リフトシリンダが伸縮します。

傾き自動自動水平制御のときにこのスイッチを操作すると、電子メータ内の傾き自動ランプが点滅します。解除方法は傾き自動の安全ロック機能（124 ページ）の項を参照。

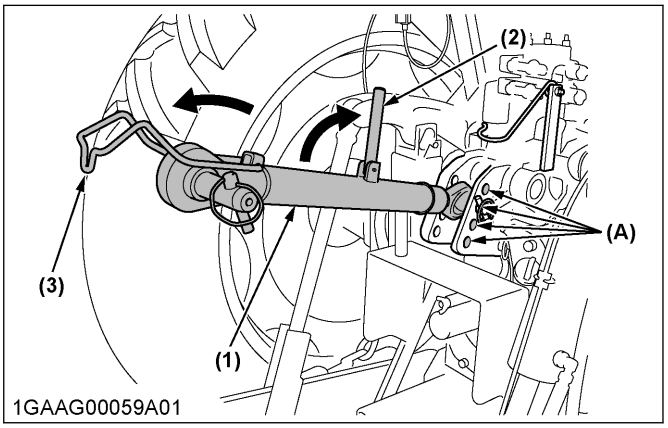
2.2.3 トップリンクの取付け

補足：

- **トップリンクの取付け穴および長さは、取り付ける作業機の取扱説明書をご覧ください。**
- **ドラフトを使用するときは、一番下の穴を使用しないでください。**

取付け穴の選択

1. トップリンクの取付け穴を選択します。
2. 選択した取付け穴(A)に取り付けます。

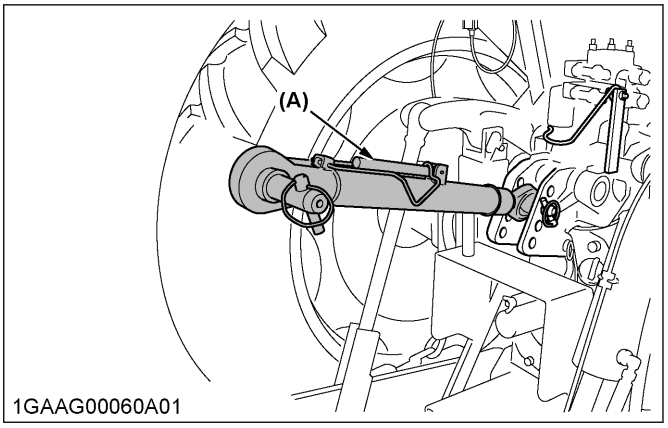


(1) トップリンク　　*(A)* 取付け穴
(2) ハンドル
(3) ロックスプリング

3. ロックスプリングを外し、ハンドルを回します。

トップリンク長さの調整

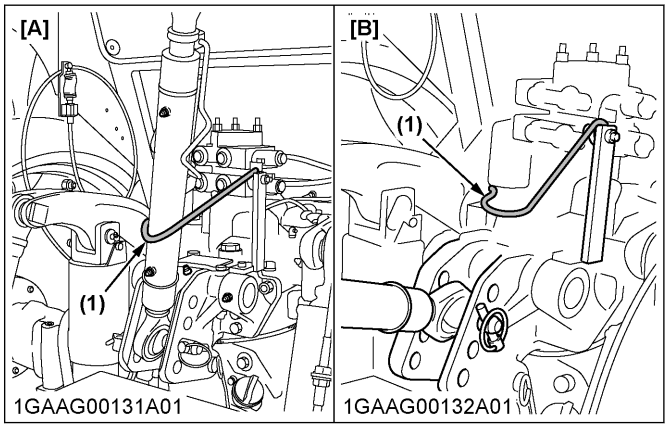
4. トップリンクを伸縮させて、作業機の傾きを調整してください。
5. 調整後はロックスプリングでハンドル部を確実に固定してください。



(A) 固定状態

トップリンクホルダの向きの変更

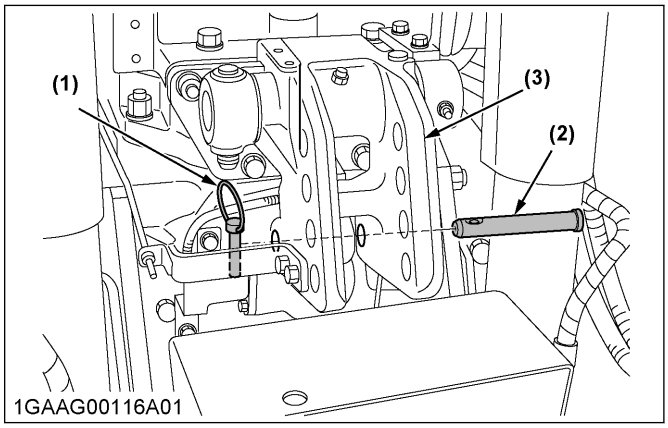
6. トップリンクを使用するときは、トップリンクホルダを下向きにしてください。
   トップリンクを使用しないときは、トップリンクをトップリンクホルダで格納してください。



(1) トップリンクホルダ
[A] トップリンク格納時
[B] トップリンク使用時

ドラフトストッパピンの着脱

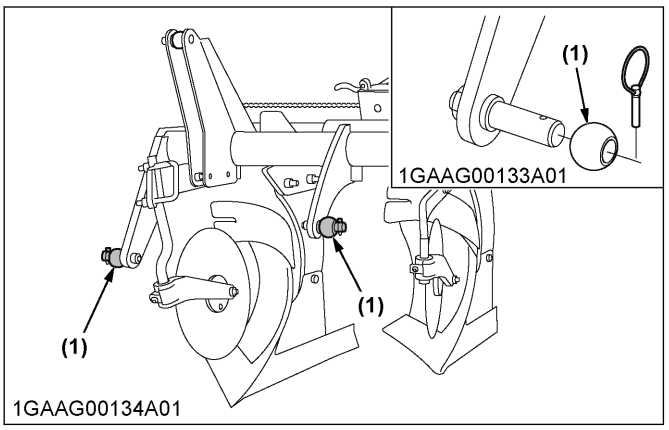
7. プラウ作業などドラフトコントロールを使用する場合は、トップリンクブラケットのストッパピンを抜いてください。また、ロータリ作業などポジションコントロールを使用する場合は、ストッパピンを入れてください。



(1) ロックピン
(2) ストッパピン
(3) トップリンクブラケット

2.2.4 ボールジョイントの組付け

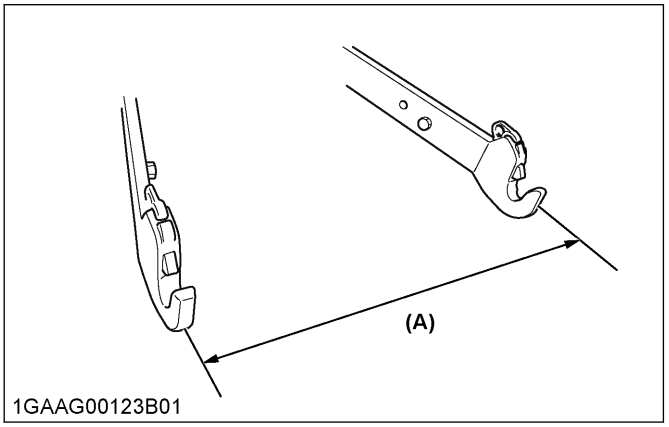
1. 装着する作業機に、ボールジョイントを組み付けます。

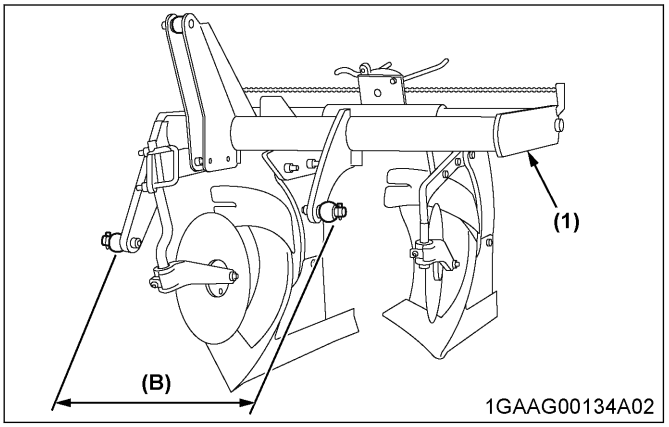


(1) ボールジョイント

2.2.5 ロアーリンク幅の調整

1. ロアーリンク幅を作業機取付け幅に調整します。





(1) 作業機
(A) ロアーリンク幅
(B) 作業機取付け幅

2.2.6 リフトロッド（右）の調整

- リフトロッド（右）は傾き手動スイッチまたは傾き手動外部操作スイッチで調整します。
  （詳細は傾き手動スイッチ（123 ページ）または傾き手動外部操作スイッチ（150 ページ）を参照）

2.2.7 チェックチェーンの調整

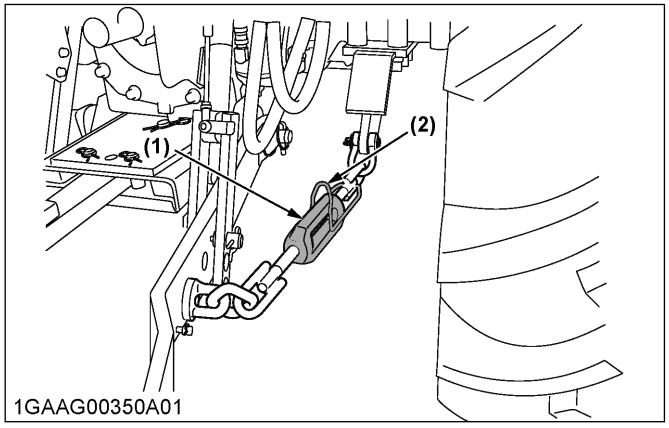
重要：
- **チェックチェーンを張りすぎると、傾き自動作業時に 3 点リンクに無理な力が加わりますので、チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。**

作業機の種類によってチェックチェーンの張り具合を調整してください。

作業機	チェーンの張り具合
プラウ、ハロー、サブソイラ、ディガー	ゆるめる 作業機が横方向に 5 cm～6 cm 動く程度
モーア、ヘイレーキ、テッダ、リッジャ、カルチベータ	軽く締める
ロータリ	作業機が横方向に 1 cm～2 cm 動く程度

1. ターンバックルを回して、作業機の横振れを制限してください。
2. 調整後はロックスプリングでターンバックルを固定してください。

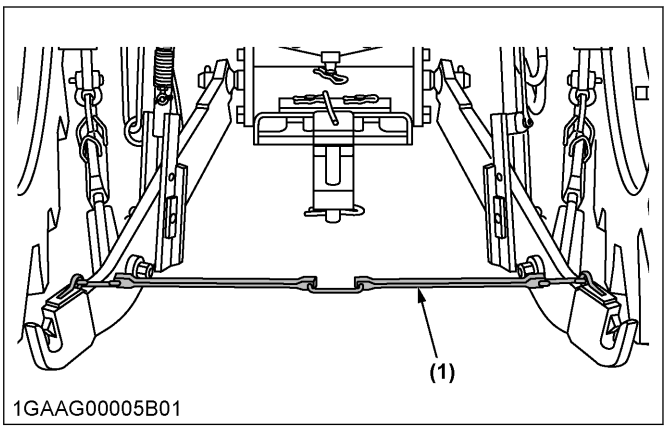
重要：
- **ターンバックルを次図のようにしてからロックスプリングで固定してください。逆向きにするとロックスプリングが変形します。**



(1) ターンバックル
(2) ロックスプリング

2.2.8 作業機を取付けないときの注意

作業機を取付けないときは、ロアーリンクが後輪に当らないように、左右振止めゴムをしてください。

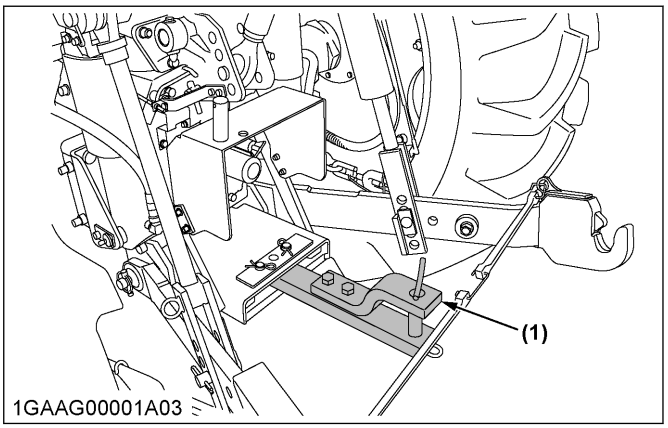


(1) 振止めゴム

けん引ヒッチ（ドローバ）

⚠ 警告
- **けん引作業をするときは、必ずけん引ヒッチ（ドローバ）を使用し、トップリンクブラケットや車軸などで引っ張らないようにしてください。転倒事故を引き起こすおそれがあります。**
- **3 点リンクに取り付け、PTO 軸からユニバーサルジョイントで動力を取出す作業機（ロータリ、ブロードキャスタなど）を使用するときは、けん引ヒッチ（ドローバ）を外してください。そうしないと、ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチ（ドローバ）に当って破損し、事故を起こすおそれがあります。**

けん引は、このトラクタ用に採用している作業機のみにしてください。
他の物をけん引する場合は、必ず購入先にご相談ください。



(1) けん引ヒッチ（ドローバ）

すき込み開始高さの調整

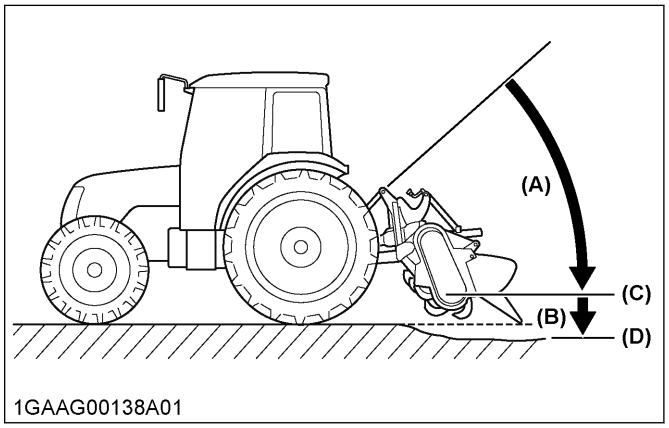
耕深制御や S モードを用いてロータリ耕うん作業時、すき込み時の仕上がり向上や代かき時の泥水飛散を防ぐため、耕うん爪が地面や水面に接する直前から希望耕深に達するまでロータリがゆっくり下降するすき込み制御が作動します。

なお、この機能は工場出荷時、純正ロータリでの乾田一般耕うん用に調整されています。
従ってタイヤが沈む湿田や代かき時では、すき込み開始高さの設定変更（153 ページ）ですき込み開始高さの設定変更をお奨めします。

1. すき込み開始高さの設定変更

補足：
- **途中でキースイッチを[切]位置にするとキャンセルされます。**
- **スイッチ操作が 5 秒間以上途切れると初期状態に戻ります。**

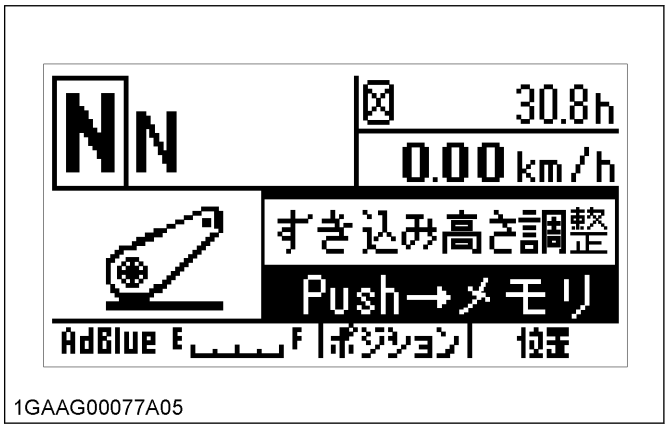
1. トラクタを平たん面に停め、希望すき込み開始位置に作業機（ロータリ）の高さを合せます。



1GAAG00138A01

(A) 速く下降
(B) ゆっくり下降
(C) すき込み開始高さ設定位置
(D) 耕深設定位置

2. HOME/MENU スイッチを押し、電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]**→**[3P]**→**[すき込み高さ調整]**を開きます。



1GAAG00077A05

3. 電子メータ(DBM)設定ジョグダイヤルを短押しすることで、現在の位置がすき込み開始高さ位置に設定されます。

PTO

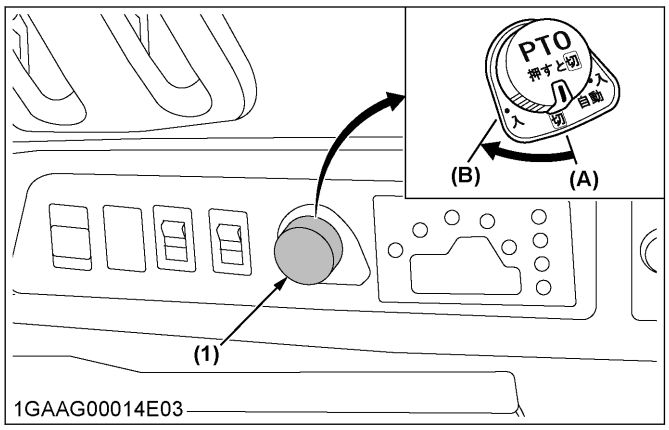
1. PTO の種類と PTO スイッチの操作

⚠ 警告
- **巻き込まれによる死傷事故を防ぐため、PTO スイッチが[入]のときは作業機に近づかないでください。**
- **独立 PTO 設定時、走行クラッチを踏んだだけでは PTO は止まりません。PTO を止めるには、PTO スイッチを[切]にしてください。**
- **上昇 PTO 停止モードは、ほ場作業以外のときは[切]にしてください。**
- **上昇 PTO 停止モードは、ロータリ、ハロー作業のみで使用してください。**
- **上昇 PTO 停止モードをロータリ、ハロー以外の作業に使うと作業機の破損、思わぬトラブルが起こるおそれがあるので使わないでください。（ハーベスタの草わらつまり、バイブロサブソイラの地中でのロックなど。）**
- **PTO スイッチが[入]のときは、PTO 軸には触れないでください。レバー操作などで PTO 軸が回転し巻込まれによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。**
- **上昇 PTO 停止モードが[入]のときは、作業機の昇降操作（クイックアップ含む）で PTO が回転します。周囲の確認をじゅうぶんに行なって作業をしてください。**

補足：
- **PTO スイッチが[切]の位置でないとエンジンは始動できません。**
- **クラッチペダル連動 PTO 設定時は、走行クラッチを踏むと PTO は停止します。PTO を止めずに走行を停止したい場合は、クラッチを踏まずにシャトルレバーを操作してください。**
- **出荷時は独立 PTO が設定されています。**

1.1 PTO スイッチ

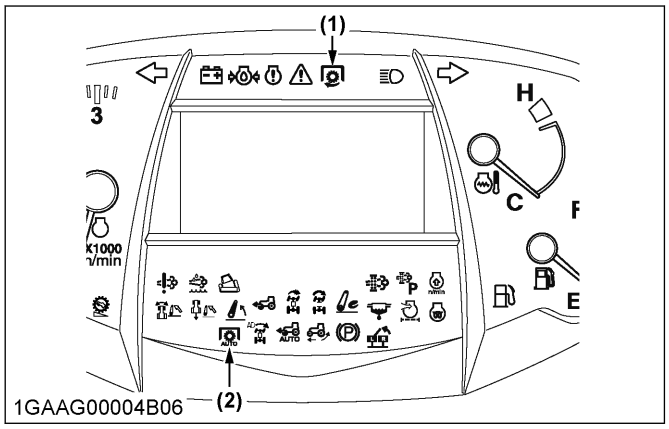
[[PTO]-[入]]
1. スイッチを押しながら**[入]**方向に回すと**[PTO]**が**[入]**になります。
2. スイッチを押すと**[切]**に戻ります。



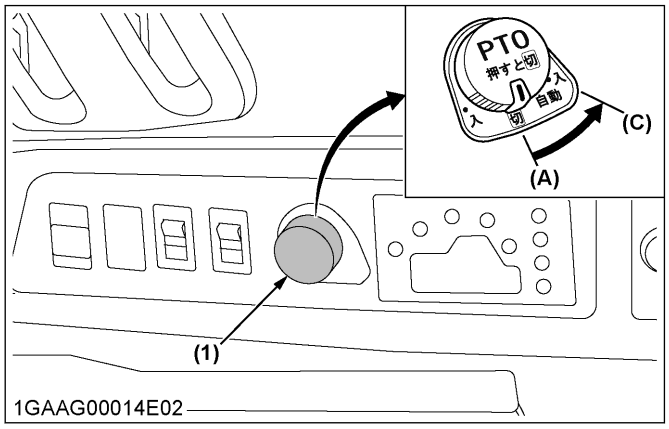
(1) ***[PTO]***スイッチ
(A) ***[切]***
(B) ***[PTO] [入]***

[上昇 PTO 停止モード-[入]]

1. スイッチを押しながら**[入 自動]**方向に回すと上昇 PTO 停止モードが**[入]**になります。
   電子メータ内の PTO ランプと電子メータ右横の上昇 PTO 停止ランプが点灯します。
2. スイッチを押すと**[切]**に戻ります。



(1) *PTO* ランプ
(2) 上昇 *PTO* 停止ランプ



(1) ***[PTO]***スイッチ
(A) ***[切]***
(C) 上昇 *PTO* 停止モード ***[入 自動]***

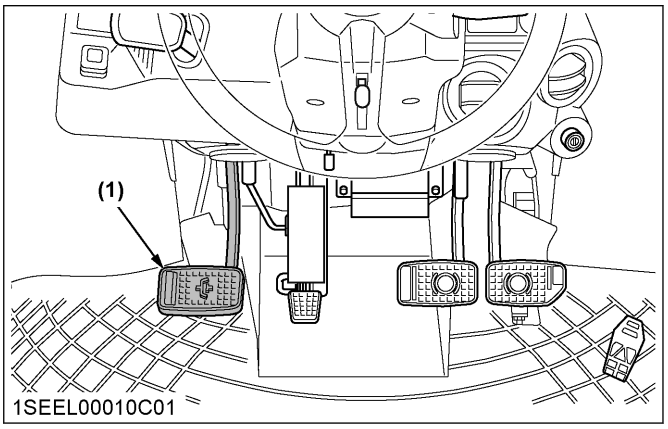
1.2 独立 PTO

走行に関係なく PTO を回転させることができます。

通常の作業は独立 PTO を使用してください。

1.3 クラッチペダル連動 PTO

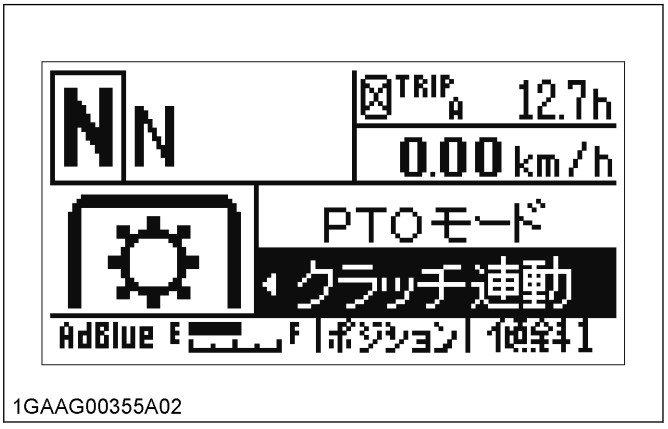
クラッチペダルを踏込むと PTO 軸は停止し、クラッチペダルを放すと PTO 軸は回転します。かたいほ場でロータリ耕うんする際にダッシングが気になる場合にご使用ください。



(1) クラッチペダル

設定方法

1. トラクタを停車します。
2. **[メニュー画面]**→**[PTO]**→**[PTO モード]**を開き、**[クラッチ連動]**を選択します。



3. 独立 PTO に戻すときは、**[メニュー画面]**→**[PTO]**→**[PTO モード]**を開き、**[クラッチ独立]**を選択します。

1.4 上昇 PTO 停止モード

クイックアップレバー（スイッチ）またはポジションレバーの**[上げ]**操作により PTO 回転が自動停止し、ロータリ、ハロー作業での旋回時における泥、ほこりの飛散、うっかりミスによる障害物の破損を軽減させることができます。また、クイックアップレバー（スイッチ）またはポジションレバーの**[下げ]**操作により PTO 回転が始まります。

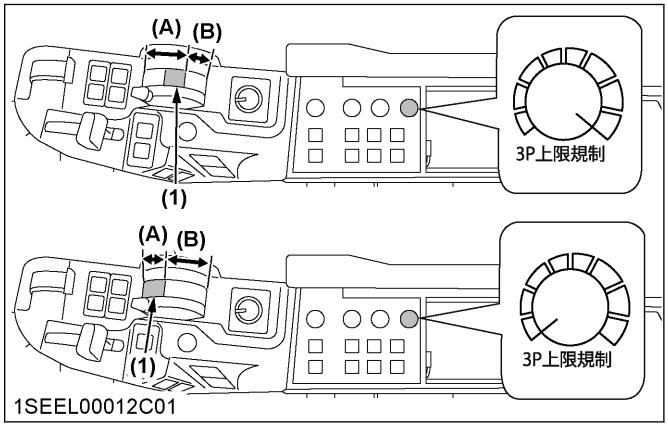
重要：

- **上昇 PTO 停止モードが[入]で油圧ロックをしている場合、クイックアップレバー（スイッチ）または**

ポジションレバーの[下げ]操作により作業機が下がらなくても、PTO は回転します。
油圧ロックレバー（117 ページ）の項を参照。
- **上昇 PTO 停止の動作タイミングは、高さ規制ダイヤルにより下記のように変化します。**

補足：
- **上昇 PTO 停止機能により PTO 回転が停止している間は、ブザーが鳴り続けるとともに、PTO ランプが点滅します。**
- **上昇 PTO 停止モードが[入]のときも、独立 PTO とクラッチペダル連動 PTO は設定どおりに PTO が回転します。**
- **上昇 PTO 停止モードが[入]のとき、3 点リンク外部操作スイッチを押すと、電子メータのメッセージ表示部に[PTO N]と表示され、PTO ランプが消灯し、PTO は回転しません。PTO を回転させるためには、再度、上昇 PTO 停止モードを[入]にしてください。**
- **ポジションレバーの位置によってはクイックアップレバー（スイッチ）による PTO の停止・回転が行なえない場合があります。**

ポジションレバーが図のように PTO 回転位置にあるときのみクイックアップレバーの**[上げ]**操作により PTO 回転が停止し、**[下げ]**操作により PTO 回転が始まります。
エンジン始動後、上昇 PTO 停止モードを**[入]**にしたときに PTO が回転するか停止するかは、エンジン始動時の 3 点リンクの高さで決まります。
（高さ規制ダイヤルを**[低]**にすると、PTO 回転が始まるポジションレバー高さも低くなります。）

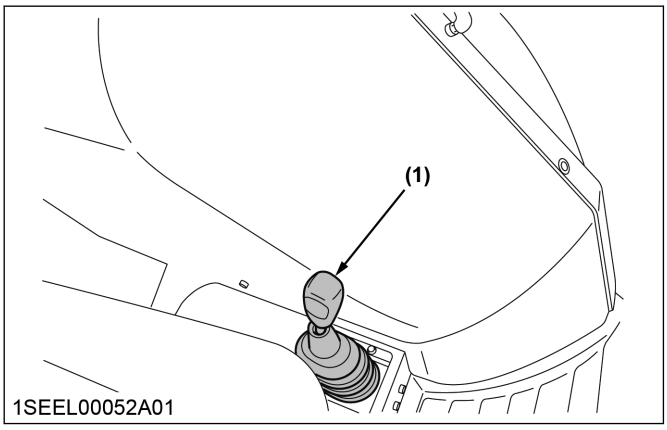


(1) ポジションレバー
(A) *PTO* 回転
(B) *PTO* 停止

2. PTO 変速レバー

警告
- **作業機に指定された PTO 回転速度を厳守してください。低速回転で使用すべき作業機を、高速回転で使用しないでください。**

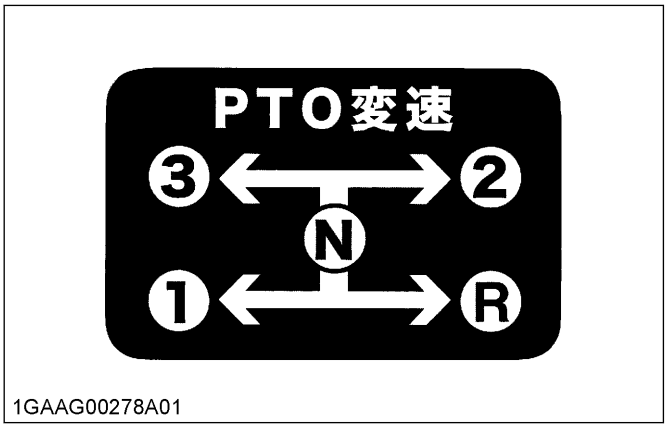
重要：
- **変速が入りにくいときは、PTO スイッチを[入]、[切]し、スムーズに入る位置を探してください。**
  無理に変速を入れようとすると故障の原因になります。
- **PTO 変速レバー操作時に変速が抜けにくい場合は、作業機を上昇させて PTO スイッチを[入]、[切]し、ゆっくり変速操作をしてください。**
  無理に変速レバーを操作すると故障の原因になります。



(1) *PTO* 変速レバー

PTO 変速は、仕様により次の 3 種類あります。製品仕様をよく確認のうえ、正しく取り扱ってください。なお、どちらの仕様も変速操作時は、必ず PTO スイッチを切ってから行ってください。

逆転 PTO 付（標準仕様）



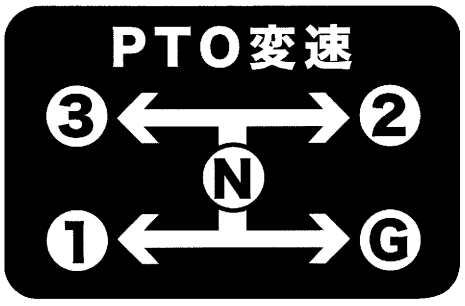
- 使用できる作業機
  - メーカ指定のロータリに限ります。

  重要：
  - **メーカ指定以外のロータリを使用すると、作業機の故障の原因になります。**
- 使用できる作業
  - 土寄せ作業
  - 草やわらなどの巻付きをほぐすとき
- 使用できない作業
  - 未耕地での耕うん作業
  - ロータリの爪を逆に取付けて行う耕うん作業

グランド PTO 付（G 仕様）

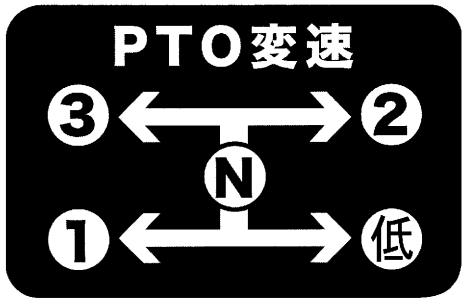
重要 :
- **グランド PTO は、ロータリ耕うん、フォーレージハーベスタなど負荷の大きい作業には使用しないでください。**

クラッチペダルを踏込みトラクタを停止し、PTO 変速レバーを**[G]**の位置にするとグランド PTO が使えます。



1GAAG00279A01

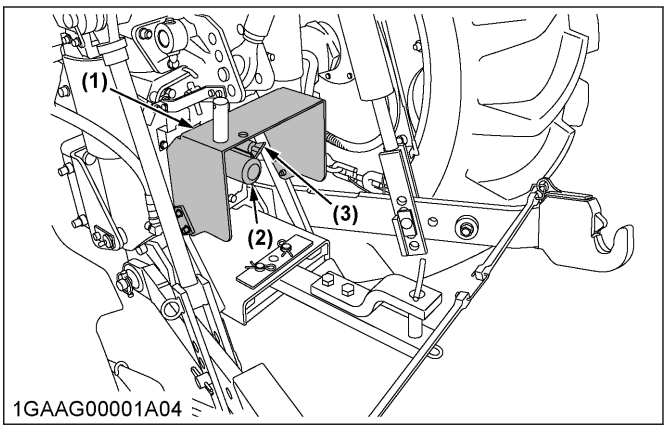
低回転 PTO 付（D 仕様）
PTO 回転数を低速（230 - 300 rpm 程度）で行うポテトハーベスタやスプレイヤ作業でも DPF が自動再生可能なエンジン回転数に上げられます。



1GAAG00279A02

3. PTO 軸カバー、PTO 軸キャップ

⚠ 警告
- **PTO 軸を使わないときは、PTO 軸にグリースを塗布した後、PTO 軸キャップを取り付けておいてください。そうしないと、巻込まれによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。**
- **PTO 軸キャップを使用しないときは、PTO 軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。**
- **PTO 軸カバーは常に取り付けておいてください。**
- **PTO 軸カバーの上に乗らないでください。**



1GAAG00001A04

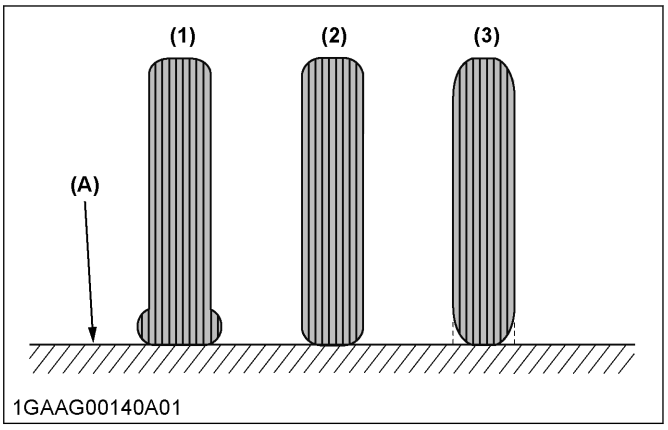
(1) *PTO* 軸カバー
(2) *PTO* 軸キャップ
(3) 蝶ボルト

タイヤ

⚠ 警告
- **タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。**
- **タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。**
- **タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。**
  （特別教育を受けた人が行うように、法で決められています。）

1. タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安は次のとおりです。



1GAAG00140A01

(1) 空気が不足
(2) 標準
(3) 空気が多い
(A) 接地面

標準空気圧
- バイアスタイヤ（ブリヂストン製）

前輪	kPa (kgf/cm²)	後輪	kPa (kgf/cm²)
9.5-24	220 [240] (2.2 [2.4])	12.4-38	140 (1.4)
		13.9-36	
		16.9-30	120 (1.2)
11.2-20	180 [200] (1.8 [2.0])	16.9-30	120 (1.2)
11.2-24		13.6-38	140 (1.4)
		13.6-38H	
		16.9-34	120 (1.2)
320/60-26	80 (0.8) [ローダ不可]	–	–

補足：
- **[ ]内はローダ装着時の値です。**
- **H はハイラグタイヤを示します。**

• ラジアルタイヤ（ファイヤストーン製）

前輪	kPa (kgf/cm²)	後輪	kPa (kgf/cm²)
250/85R24	160 [160] (1.6 [1.6])	340/85R36	160 [160] (1.6 [1.6])
360/70R20	160 [240] (1.6 [2.4])	–	–

補足：
- **[ ]内はローダ装着時の値です。**

• ラジアルタイヤ（ミシュラン製）

前輪	kPa (kgf/cm²)	後輪	kPa (kgf/cm²)
9.5R24	160 [160] (1.6 [1.6])	12.4R38	160 [160] (1.6 [1.6])
		16.9R30	
11.2R24		13.6R38	
		420/85R34	
		270/95R38	

補足：
- **[ ]内はローダ装着時の値です。**

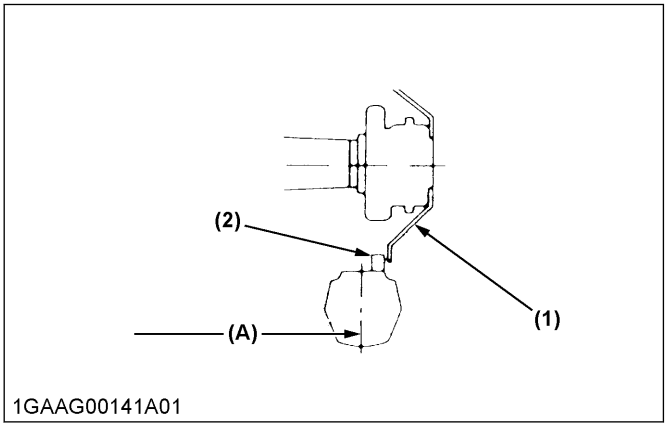
輪距の調整

⚠ 警告
- **けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は、左右の安定を良くするため、支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。**
- **輪距を前輪 1200 mm、1210 mm、後輪 1210 mm、1260 mm にした場合は、安定性確保のため作業時以外の移動では必ず輪距を広くして使用してください。**

重要：
- **決められた輪距以外では使用しないでください。**

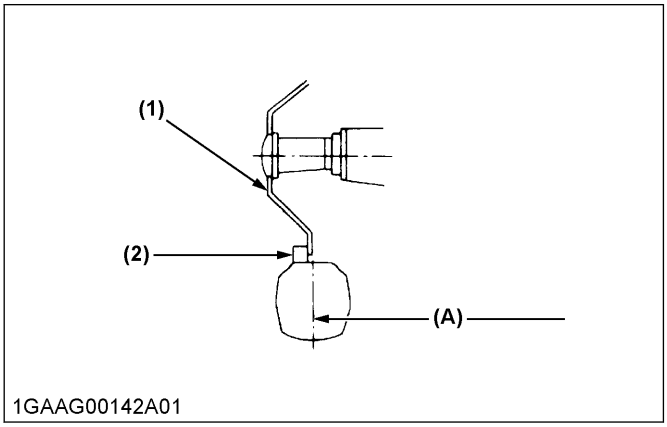
補足：
- **タイヤは、両側の矢印が前進時の回転方向に合うように取り付けてください。**
- **後輪ウエイトは、すべての輪距で取り付けられます。**

前輪
可変タイヤ仕様の場合、リムとディスクの取り付け位置変更により、輪距の調整が行えます（固定タイヤ仕様の場合、変更できません）。



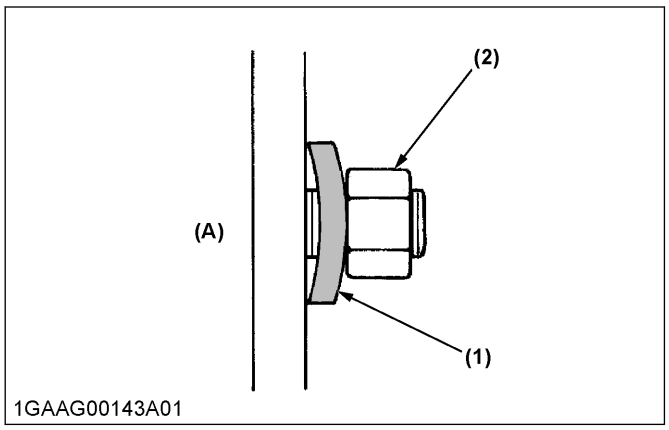
(1) 前輪ディスク　　*(A)* 輪距
(2) 前輪リムブラケット

後輪
リムとディスクの取付け位置変更により、輪距の調整が行えます（タイヤの仕様により異なります）。



(1) 後輪ディスク　　*(A)* 輪距
(2) 後輪リムブラケット

• 皿バネの取り付け方向にはじゅうぶん注意し、図のようにしてください。

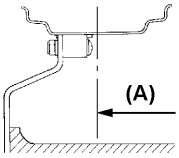
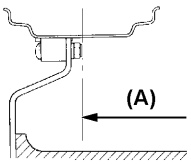
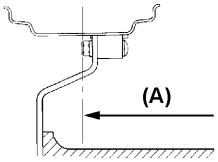
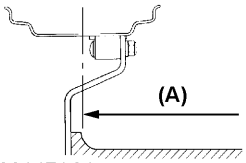


(1) 皿バネ
(2) ナット
(A) ディスク側

- フロントローダ作業など重作業時、タイヤのボルト、ナットは規定トルクでじゅうぶん締め付け、締め忘れのないよう注意してください。また、しばらく作業した後、再度トルクチェックを行い、増し締めを行ってください。
- ボルト、ナット、スタッド、皿バネやリム、ディスクの締め付け面に油やグリースが付着していると、規定トルクまで締め付けられませんので、シンナーなどで油分をふきとってください。

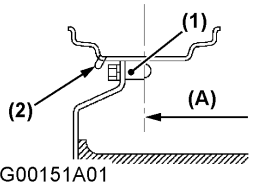
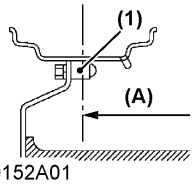
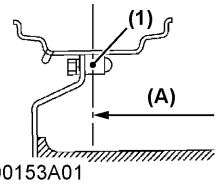
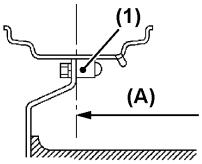
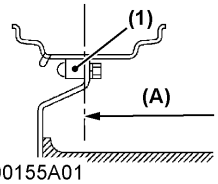
1. 前輪輪距一覧表

1.1 前輪輪距一覧表［ホイール仕様］

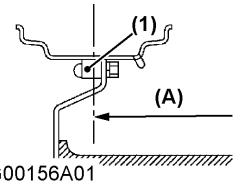
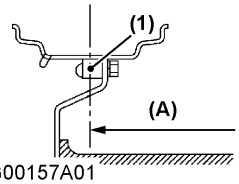
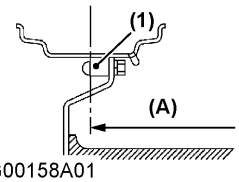
型式		GV800H G 仕様 D 仕様	GV800H 標準仕様	GV900H GV1000H GV1050H G 仕様 D 仕様	GV900 GV1000 GV1050H 標準仕様
タイヤサイズ 輪距(A)		9.5-24 250/85R24 （可変）	9.5-24 11.2-24 250/85R24 （可変）	11.2-24	11.2-24
[1]	 1GAAG00144A01	–	1,330 mm	–	1,330 mm
[2]	 1GAAG00145A01	1,310 mm	1,430 mm	1,310 mm	1,430 mm
[3]	 1GAAG00146A01	1,300 mm	1,420 mm	1,300 mm	1,420 mm
[4]	 1GAAG00147A01	1,400 mm ［出荷時］	1,520 mm ［出荷時］	1,400 mm ［出荷時］	1,520 mm ［出荷時］

補足：
- **輪距の図は左前輪タイヤを示します**
- **タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。**

1.2 前輪輪距一覧表［前輪 RC タイヤ仕様］

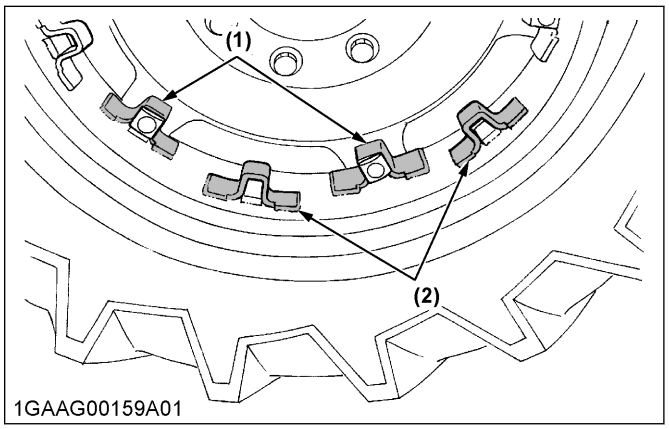
型式		GV800H GV900H GV1000H GV1050H G 仕様 D 仕様	GV900H GV1000H GV1050H G 仕様 D 仕様	GV800H GV900H GV1000H GV1050H 標準仕様
タイヤサイズ 輪距(A)		9.5-24	11.2-24	9.5-24 11.2-24*1
[1]	 1GAAG00151A01 *(1)* 外側リブ *(2)* バルブの向き	1,210 mm	–	1,330 mm
[2]	 1GAAG00152A01 *(1)* 内側リブ	1,300 mm	1,300 mm	1,420 mm
[3]	 1GAAG00153A01 *(1)* 内側リブ	1,260 mm	–	1,380 mm
[4]	 1GAAG00154A01 *(1)* 外側リブ	1,250 mm	–	1,370 mm
[5]	 1GAAG00155A01 *(1)* 外側リブ	1,310 mm	1,310 mm	1,430 mm

（次へ続く）

型式		GV800H GV900H GV1000H GV1050H G 仕様 D 仕様	GV900H GV1000H GV1050H G 仕様 D 仕様	GV800H GV900H GV1000H GV1050H 標準仕様
タイヤサイズ		9.5-24	11.2-24	9.5-24 11.2-24*1
輪距(A)				
[6]	 1GAAG00156A01 *(1)* 内側リブ	1,400 mm ［出荷時］	1,400 mm ［出荷時］	1,520 mm ［出荷時］
[7]	 1GAAG00157A01 *(1)* 内側リブ	1,360 mm	1,360 mm	1,480 mm
[8]	 1GAAG00158A01 *(1)* 外側リブ	1,350 mm	1,350 mm	1,470 mm

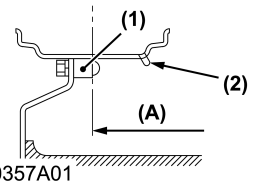
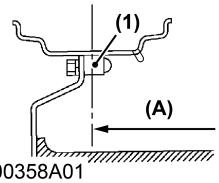
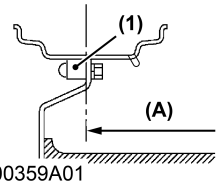
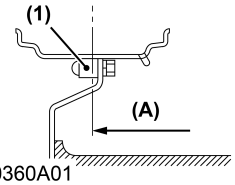
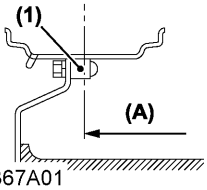
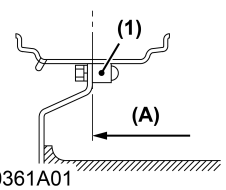
補足：
- **輪距の図は左前輪タイヤを示します。**
- **タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。**

*1　GV800H 標準仕様には採用していません。

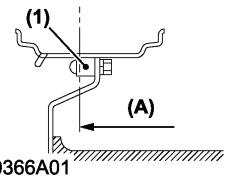
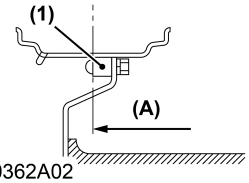


1GAAG00159A01

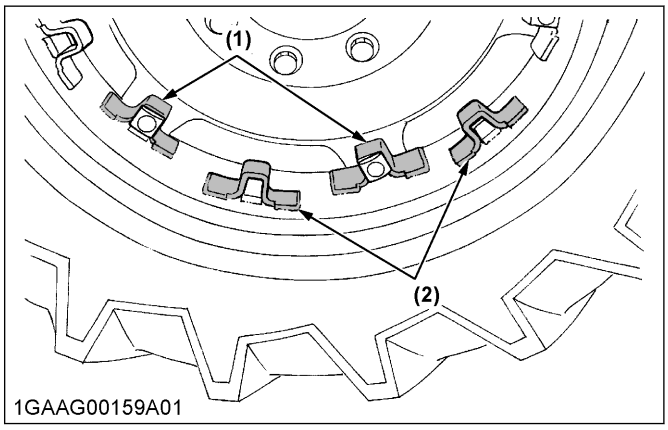
(1) 内側リブ
(2) 外側リブ

型式		GV800H GV900H GV1000H GV1050H G 仕様 D 仕様	
タイヤサイズ 輪距(A)		9.5R24	11.2R24
[1]	 1GAAG00357A01 *(1)* 外側リブ *(2)* バルブの向き	1,210 mm	–
[2]	 1GAAG00358A01 *(1)* 内側リブ	1,260 mm	–
[3]	 1GAAG00359A01 *(1)* 外側リブ	1,310 mm	1,340 mm
[4]	 1GAAG00360A01 *(1)* 内側リブ	1,360 mm	1,370 mm
[5]	 1GAAG00367A01 *(1)* 内側リブ	1,250 mm	1,400 mm ［出荷時］
[6]	 1GAAG00361A01 *(1)* 外側リブ	1,300 mm	1,440 mm

（次へ続く）

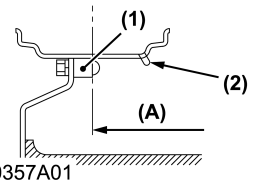
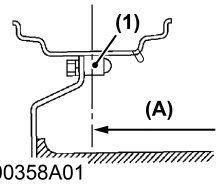
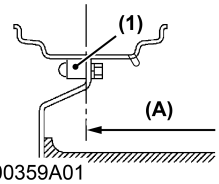
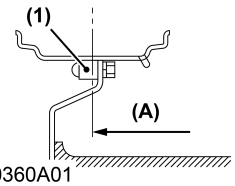
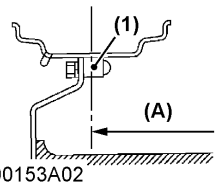
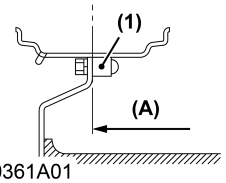
型式		GV800H GV900H GV1000H GV1050H G 仕様 D 仕様	
タイヤサイズ 輪距(A)		9.5R24	11.2R24
[7]	 1GAAG00366A01 *(1)* 内側リブ	1,350 mm	1,500 mm
[8]	 1GAAG00362A02 *(1)* 外側リブ	1,400 mm [出荷時]	1,540 mm

補足：
- **輪距の図は左前輪タイヤを示します。**
- **タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。**

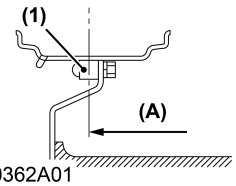
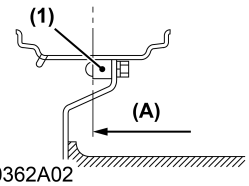


1GAAG00159A01

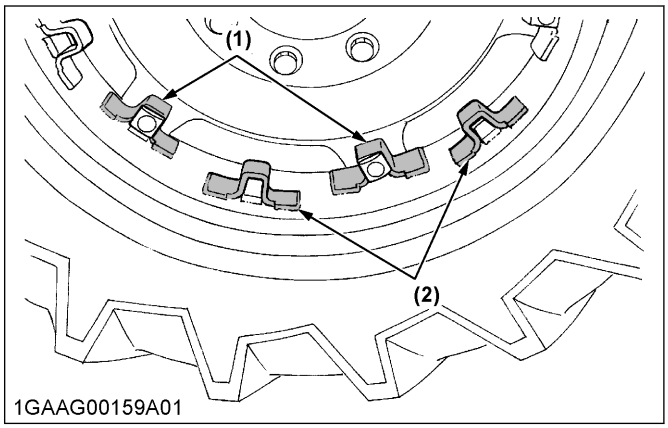
(1) 内側リブ
(2) 外側リブ

型式		GV800H GV900H GV1000H GV1050H 標準仕様	
タイヤサイズ 輪距(A)		9.5R24	11.2R24
[1]	 1GAAG00357A01 *(1)* 外側リブ *(2)* バルブの向き	1,330 mm	1,360 mm
[2]	 1GAAG00358A01 *(1)* 内側リブ	1,380 mm	1,400 mm
[3]	 1GAAG00359A01 *(1)* 外側リブ	1,430 mm	1,460 mm
[4]	 1GAAG00360A01 *(1)* 内側リブ	1,480 mm	1,500 mm
[5]	 1GAAG00153A02 *(1)* 内側リブ	1,370 mm	1,520 mm ［出荷時］
[6]	 1GAAG00361A01 *(1)* 外側リブ	1,420 mm	–

（次へ続く）

型式		GV800H GV900H GV1000H GV1050H 標準仕様	
タイヤサイズ 輪距(A)		9.5R24	11.2R24
[7]	 1GAAG00362A01 *(1)* 内側リブ	1,470 mm	–
[8]	 1GAAG00362A02 *(1)* 外側リブ	1,520 mm ［出荷時］	–

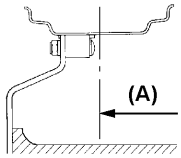
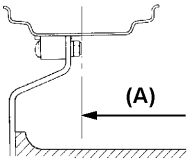
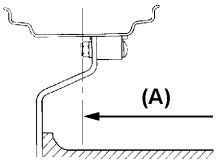
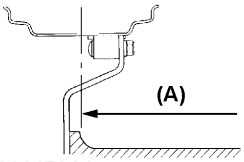
補足：
- **輪距の図は左前輪タイヤを示します。**
- **タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。**



1GAAG00159A01

(1) 内側リブ
(2) 外側リブ

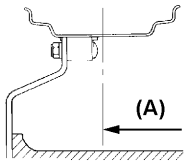
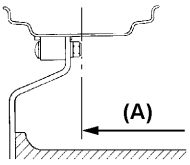
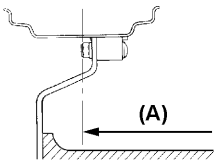
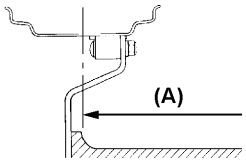
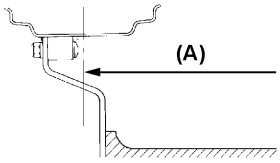
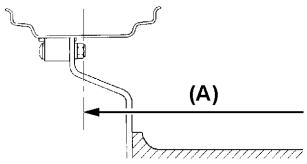
1.3 前輪輪距一覧表［ハーフクローラ仕様の前輪タイヤ］

型式		GVK800H GVK900H GVK1000H GVK1050H		
タイヤサイズ 輪距(A)		9.5-24 （可変） 標準 -N -NN	320/60-26 -W	360/70R20 -WR
[1]	 1GAAG00144A01	1,330 mm ［-NN 出荷時］	–	–
[2]	 1GAAG00145A01	1,430 mm ［標準、-N 出荷時］	1,530 mm ［出荷時］	1,520 mm ［出荷時］
[3]	 1GAAG00146A01	1,420 mm	–	–
[4]	 1GAAG00147A01	1,520 mm	–	–

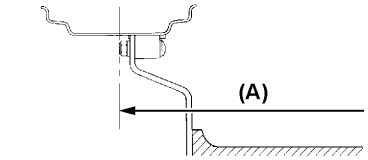
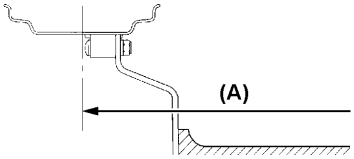
補足：
- **輪距の図は左前輪タイヤを示します。**
- **タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。**

2. 後輪輪距一覧表

2.1 後輪輪距一覧表［ホイール仕様］

型式		GV800H（標準仕様）		GV900H（標準仕様） GV1000H（標準仕様） GV1050H（標準仕様）	
タイヤサイズ 輪距(A)		13.6-38H 13.9-36	16.9-30	13.6-38H	16.9-34*1
[1]	1GAAG00163A01	–	–	–	–
[2]	1GAAG00164A01	1,300 mm	–	1,300 mm	–
[3]	1GAAG00165A01	1,400 mm ［出荷時］	1,400 mm ［出荷時］	1,400 mm ［出荷時］	1,380 mm ［出荷時］
[4]	1GAAG00166A01	1,500 mm*2 ［出荷時］	1,500 mm*2 ［出荷時］	1,500 mm*2 ［出荷時］	1,510 mm*2 ［出荷時］
[5]	1GAAG00167A01	1,600 mm	1,600 mm	1,600 mm	1,660 mm
[6]	1GAAG00168A01	1,700 mm	1,700 mm	1,700 mm	1,790 mm

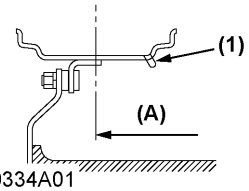
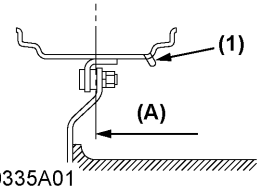
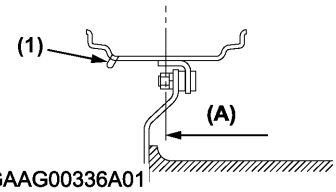
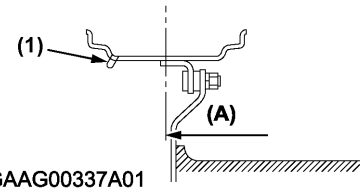
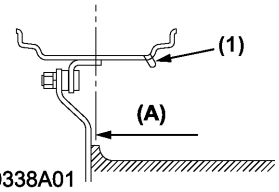
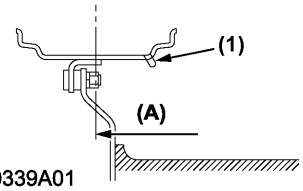
（次へ続く）

型式		GV800H（標準仕様）		GV900H（標準仕様） GV1000H（標準仕様） GV1050H（標準仕様）	
タイヤサイズ 輪距(A)		13.6-38H 13.9-36	16.9-30	13.6-38H	16.9-34*1
[7]	 1GAAG00169A01	1,800 mm	1,800 mm	1,800 mm	1,860 mm
[8]	 1GAAG00170A01	1,900 mm	1,900 mm	1,900 mm	1,990 mm

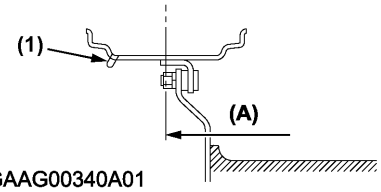
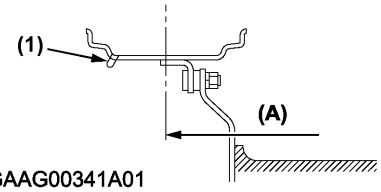
補足：
- **輪距の図は左後輪タイヤを示します。**
- **タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。**

*1　ディスクは鋳物製です。

*2　標準仕様の出荷時トレッドです。

型式		GV800H（標準仕様）		GV900H（標準仕様） GV1000H（標準仕様） GV1050H（標準仕様）
タイヤサイズ 輪距(A)		340/85R36	16.9R30	420/85R34
[1]	 1GAAG00334A01 *(1)* バルブの向き	–	–	–
[2]	 1GAAG00335A01 *(1)* バルブの向き	1,300 mm	–	–
[3]	 1GAAG00336A01 *(1)* バルブの向き	1,400 mm ［出荷時］	1,400 mm ［出荷時］	1,400 mm ［出荷時］
[4]	 1GAAG00337A01 *(1)* バルブの向き	1,500 mm*1 ［出荷時］	1,500 mm*1 ［出荷時］	1,500 mm*1 ［出荷時］
[5]	 1GAAG00338A01 *(1)* バルブの向き	1,600 mm	1,600 mm	1,610 mm
[6]	 1GAAG00339A01 *(1)* バルブの向き	1,700 mm	1,700 mm	1,710 mm

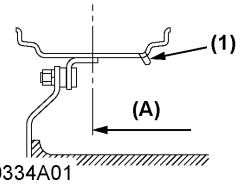
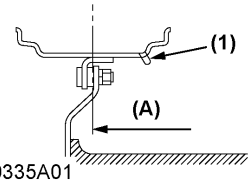
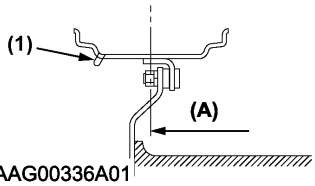
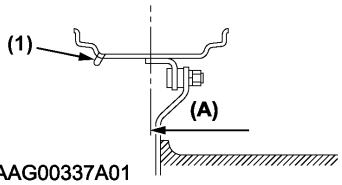
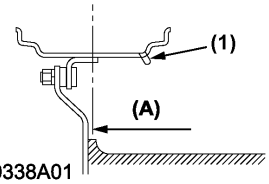
（次へ続く）

型式		GV800H（標準仕様）		GV900H（標準仕様） GV1000H（標準仕様） GV1050H（標準仕様）
タイヤサイズ 輪距(A)		340/85R36	16.9R30	420/85R34
[7]	 1GAAG00340A01 *(1)* バルブの向き	1,800 mm	1,800 mm	1,800 mm
[8]	 1GAAG00341A01 *(1)* バルブの向き	1,900 mm	1,900 mm	1,900 mm

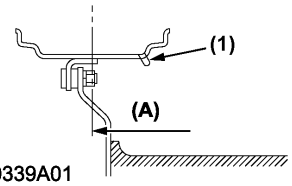
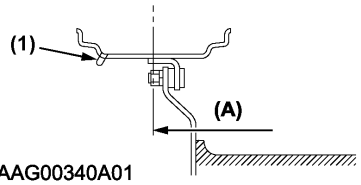
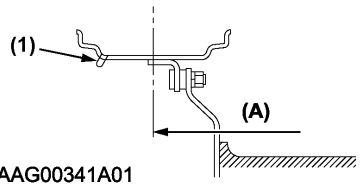
補足：
- **輪距の図は左後輪タイヤを示します。**
- **タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。**

*1　標準仕様の出荷時トレッドです。

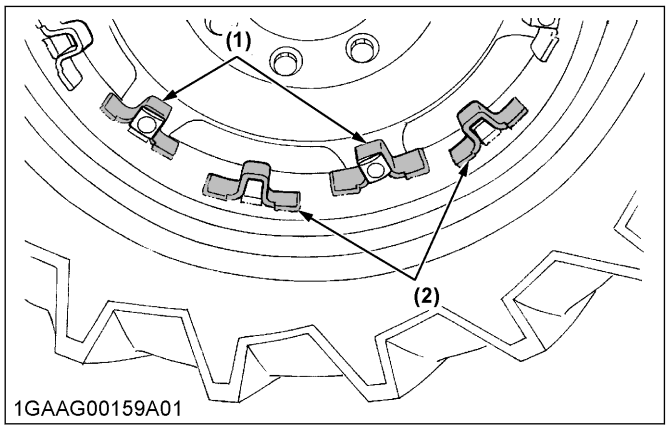
2.2 後輪輪距一覧表［後輪 270/95R38 タイヤ仕様］

型式		GV800H GV900H GV1000H GV1050H G 仕様 D 仕様
タイヤサイズ		270/95R38
輪距(A)		
[1]	 1GAAG00334A01 *(1)* バルブの向き	1,210 mm
[2]	 1GAAG00335A01 *(1)* バルブの向き	1,310 mm
[3]	 1GAAG00336A01 *(1)* バルブの向き	1,400 mm ［出荷時］
[4]	 1GAAG00337A01 *(1)* バルブの向き	1,500 mm
[5]	 1GAAG00338A01 *(1)* バルブの向き	1,610 mm

（次へ続く）

型式		GV800H GV900H GV1000H GV1050H G 仕様 D 仕様
タイヤサイズ		270/95R38
輪距(A)		
[6]	 1GAAG00339A01 *(1)* バルブの向き	1,710 mm
[7]	 1GAAG00340A01 *(1)* バルブの向き	1,800 mm
[8]	 1GAAG00341A01 *(1)* バルブの向き	1,900 mm

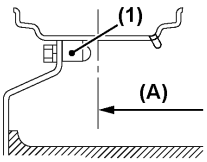
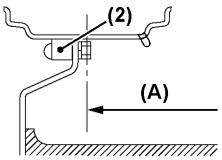
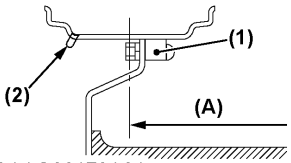
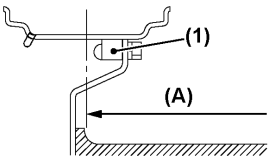
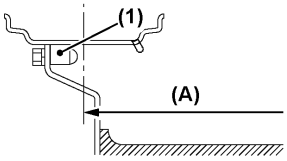
補足：
- **輪距の図は左後輪タイヤを示します。**
- **タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。**



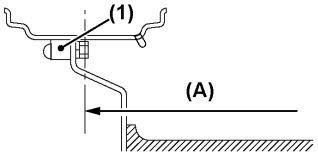
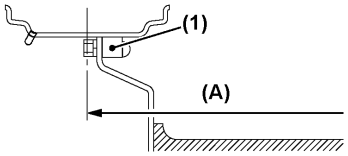
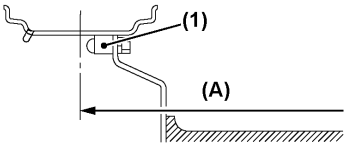
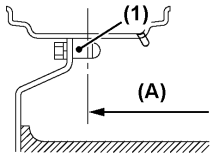
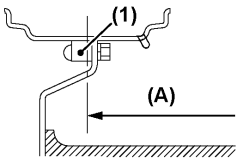
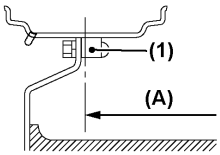
1GAAG00159A01

(1) 内側リブ
(2) 外側リブ

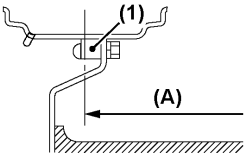
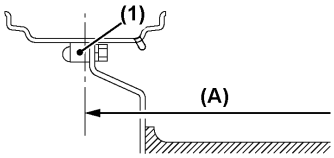
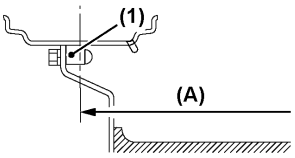
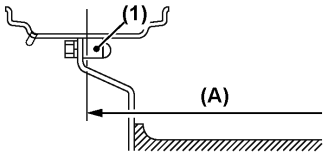
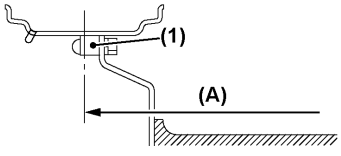
2.3 後輪輪距一覧表［後輪 RC タイヤ仕様］

型式		GV800H（標準仕様） GV900H（標準仕様） GV1000H（標準仕様） GV1050H（標準仕様）	GV900H（標準仕様） GV1000H（標準仕様） GV1050H（標準仕様）
タイヤサイズ		12.4-38 12.4R38	13.6-38 13.6R38
輪距(A)			
[1]	 1GAAG00171A01 *(1)* 外側リブ	–	–
[2]	 1GAAG00172A01 *(1)* 外側リブ	1,320 mm[*1] 1,310 mm[*3]	1,320 mm[*2] 1,310 mm[*4]
[3]	 1GAAG00173A01 *(1)* 外側リブ *(2)* バルブの向き	1,380 mm	1,380 mm
[4]	 1GAAG00174A01 *(1)* 外側リブ	1,500 mm[*5] ［出荷時］	1,500 mm[*2] ［出荷時］
[5]	 1GAAG00175A01 *(1)* 外側リブ	1,600 mm	1,600 mm

（次へ続く）

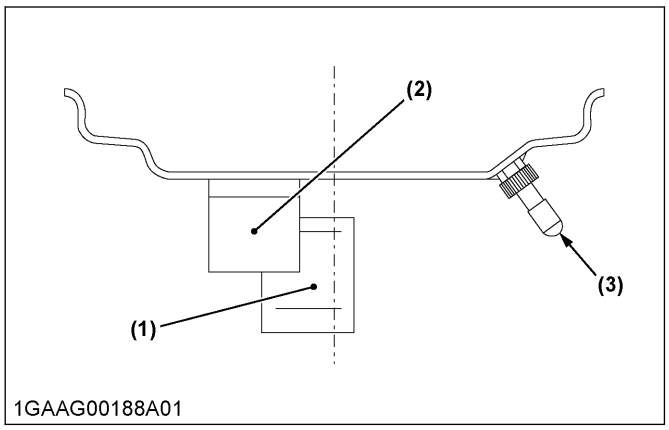
型式		GV800H（標準仕様） GV900H（標準仕様） GV1000H（標準仕様） GV1050H（標準仕様）	GV900H（標準仕様） GV1000H（標準仕様） GV1050H（標準仕様）
タイヤサイズ		12.4-38 12.4R38	13.6-38 13.6R38
輪距(A)			
[6]	 1GAAG00176A01 *(1)* 外側リブ	1,720 mm*1	1,720 mm*2
		1,710 mm*3	1,710 mm*4
[7]	 1GAAG00177A01 *(1)* 外側リブ	1,780 mm*1	1,780 mm*2
		1,790 mm*3	1,790 mm*4
[8]	 1GAAG00178A01 *(1)* 外側リブ	1,900 mm	1,900 mm
[9]	 1GAAG00179A01 *(1)* 内側リブ	1,260 mm*1	–
		1,270 mm*3	
[10]	 1GAAG00180A01 *(1)* 内側リブ	1,380 mm	1,380 mm
[11]	 1GAAG00181A01 *(1)* 内側リブ	1,320 mm	1,320 mm

（次へ続く）

型式		GV800H（標準仕様） GV900H（標準仕様） GV1000H（標準仕様） GV1050H（標準仕様）	GV900H（標準仕様） GV1000H（標準仕様） GV1050H（標準仕様）
タイヤサイズ		12.4-38 12.4R38	13.6-38 13.6R38
輪距(A)			
[12]	 1GAAG00182A01 *(1)* 内側リブ	1,440 mm*1 ［出荷時］	1,440 mm*2 ［出荷時］
		1,430 mm*3 ［出荷時］	1,430 mm*4 ［出荷時］
[13]	 1GAAG00184A01 *(1)* 内側リブ	1,780 mm	1,780 mm
[14]	 1GAAG00183A01 *(1)* 内側リブ	1,660 mm*1	1,660 mm*2
		1,670 mm*3	1,670 mm*4
[15]	 1GAAG00185A01 *(1)* 内側リブ	1,720 mm	1,720 mm
[16]	 1GAAG00186A01 *(1)* 内側リブ	1,840 mm*1	1,840 mm*2
		1,830 mm*3	1,830 mm*4

補足：
- **輪距の図は左後輪タイヤを示します。**
- **タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。**

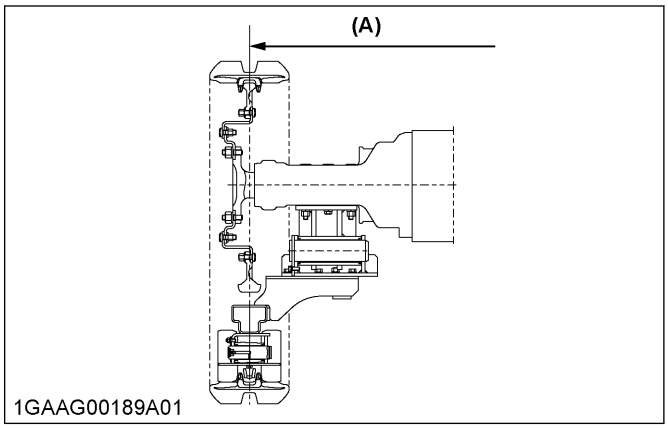
*1　12.4-38 タイヤのトレッドです。
*2　13.6-38 タイヤのトレッドです。
*3　12.4R38 タイヤのトレッドです。
*4　13.6R38 タイヤのトレッドです。
*5　標準仕様の出荷時トレッドです。



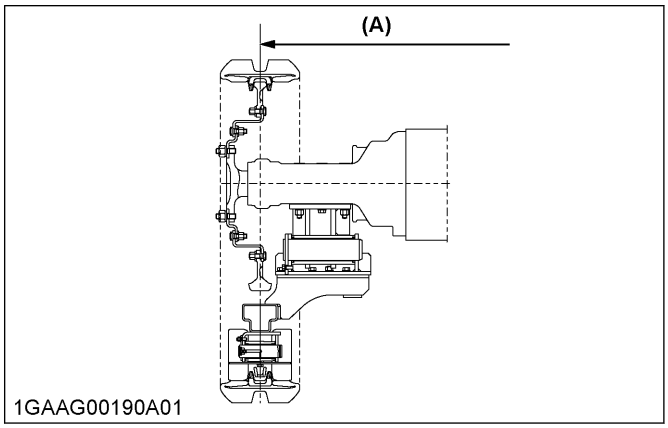
(1) 内側リブ
(2) 外側リブ
(3) バルブ

2.4 後輪輪距一覧表［クローラ輪距］

型式		輪距(A)
GVK800H GVK900H GVK1000H GVK1050H	標準	1,440 mm
	-W	
	-WR	
	-N -NN	



型式		輪距(A)
GVK800H GVK900H GVK1000H GVK1050H	-N -NN	1,320 mm



補足：
- **輪距の変更については購入先にご相談ください。**

前輪切れ角の調整

1. ストッパ交換要領

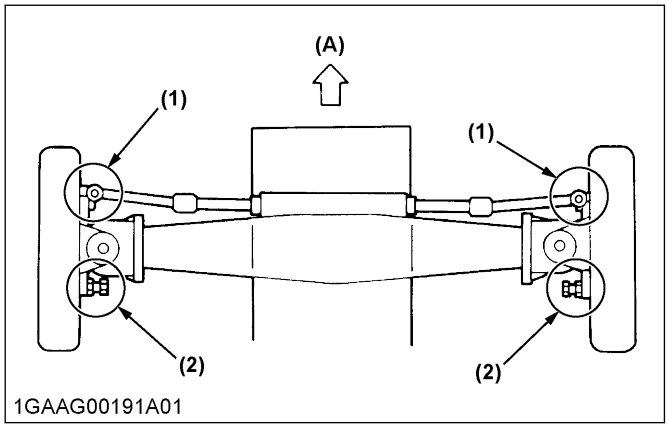
1. 従来のストッパボルトとカラーを取り外し、ストッパまたは、カラーを取り付け、ストッパボルトを軽く締めてください。
2. エンジンを回転させステアリングハンドルを回してストッパを 2 回～3 回ベベルギヤケースに接触させてください。
   （ストッパの接触面の位置決めをするため。）
3. その後、ストッパボルトを締め込みますが、ストッパの位置がずれないようにするため、モンキーレンチでストッパの回り止めをしてからストッパボルトを強く締め込んでください。

2. ストッパボルトの調整

前輪輪距を変更した場合、前輪切れ角の調整が必要となります。
必ず下表に基づき、前輪切れ角の調整を行ってください。

重要：

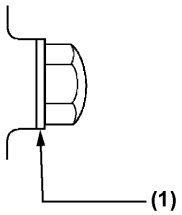
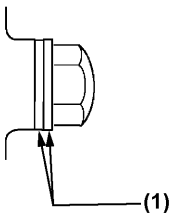
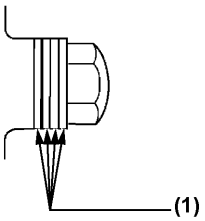
- **前側ストッパボルトは輪距変更による調整は不要ですが、購入時のタイヤからサイズを変更した場合には前側ストッパボルトの調整を行ってください。**



1GAAG00191A01

(1) 前側ストッパボルト　　*(A)* トラクタ前方
(2) 後側ストッパボルト

前側ストッパボルトの調整要領

前側ストッパボルトの調整番号と調整要領		
1	2	3
 1GAAG00192A01	 1GAAG00193A01	 1GAAG00194A01
(1) ヒラザガネ *1* 枚	*(1)* ヒラザガネ *2* 枚	*(1)* ヒラザガネ *4* 枚

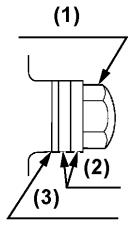
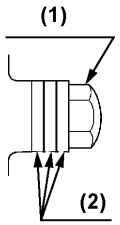
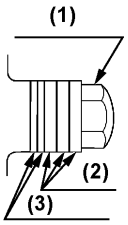
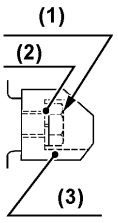
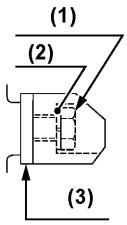
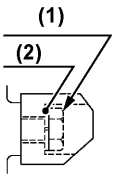
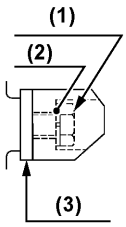
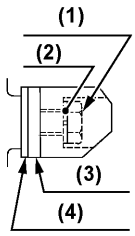
型式	タイヤサイズ	対応する調整番号
GV800H	9.5-24 11.2-24 9.5R24 250/85R24	1 [1]
GV900H GV1000H GV1050H	9.5-24 9.5R24	1 [1]
	11.2-24	2 [1]
	11.2R24	3 [1]

[ ]内は標準仕様

[ハーフクローラ仕様]

型式	タイヤサイズ	対応する調整番号
GV800H GV900H GV1000H GV1050H	9.5-24 320/60-26 360/70R20	1

後側ストッパボルトの調整要領

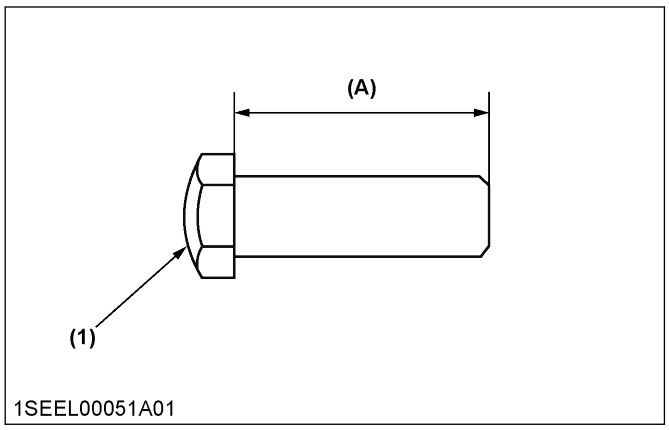
後側ストッパボルトの調整番号と調整要領							
A	B	C	D	E	F	G	H
 1GAAG00195A01 *(1)* ストッパボルト *(2)* カラー *2* 枚 *(3)* ヒラザガネ *1* 枚	 1GAAG00196A01 *(1)* ストッパボルト *(2)* カラー *3* 枚	 1GAAG00197A01 *(1)* ストッパボルト *(2)* カラー *3* 枚 *(3)* ヒラザガネ *2* 枚	 1GAAG00198A01 *(1)* ストッパボルト *(2)* バネザガネ *(3)* ストッパ * 左側に取り付けた状態	 1GAAG00199A01 *(1)* ストッパボルト *(2)* バネザガネ *(3)* カラー *1* 枚 * 左側に取り付けた状態	 1GAAG00200A01 *(1)* ストッパボルト *(2)* バネザガネ * 左側に取り付けた状態	 1GAAG00201A01 *(1)* ストッパボルト *(2)* バネザガネ *(3)* カラー *1* 枚 * 左側に取り付けた状態	 1GAAG00202A01 *(1)* ストッパボルト *(2)* バネザガネ *(3)* カラー *1* 枚 *(4)* ヒラザガネ *1* 枚 * 左側に取り付けた状態

型式	タイヤサイズ	輪距と対応する調整番号				
		1210 mm	1250 mm 1260 mm	1300 mm 1310 mm	1350 mm 1360 mm	1400 mm
GV800H G 仕様 D 仕様	9.5-24 9.5R24 250/85R24	F	E	D	C	A
GV900H GV1000H GV1050H G 仕様 D 仕様	9.5-24 9.5R24	F	E	D	C	A
	11.2-24	G	F	E	D	B
	11.2R24	H	G	F	E	C

型式	タイヤサイズ	輪距と対応する調整番号				
		1330 mm 1340 mm	1370 mm 1380 mm	1420 mm 1430 mm	1470 mm 1480 mm	1520 mm
GV800H 標準仕様	9.5-24 9.5R24 250/85R24	D	C	A	A	A
	11.2-24	D	–	B	–	A
GV900H GV1000H GV1050H 標準仕様	9.5-24 9.5R24	D	C	A	A	A
	11.2-24	D	D	B	A	A
	11.2R24	E	D	B	B	A

補足：

- **C～H に輪距変更するときは(A)が 45 mm のストッパボルト（付属品）を使用してください。出荷時は(A)が 40 mm のストッパボルトとなっています。**



(1) ストッパボルト

ウエイト（オプション）

⚠ 警告

- **トラクタ後部用作業機を装備したとき、かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装備し、使用してください。**
- **装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。前部が軽くなりすぎると、操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。**
- **フロントローダを使用するときは、安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください（詳細は購入先にご相談ください）。**

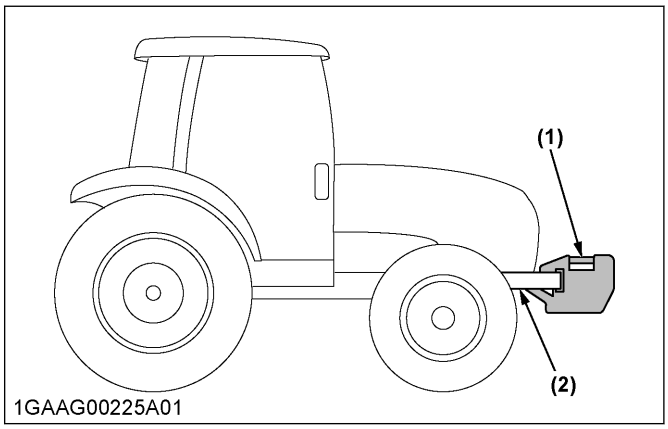
1. 前部ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用する作業機の取扱説明書や購入先にご相談ください。

重要：

- **タイヤに過負荷を加えないでください。**
- **次表に示した以上にウエイトを追加しないでください。**

最大ウエイト
45 kg×12 枚



(1) 前部ウエイト
(2) フロントウエイト取付台

補足：

- **次表のキットを装着することで最大 14 枚の装着が可能になります。**

品名	品番
サイドプレートキット	95270000281
ボルトキット（ウエイト 14 枚用）	95270000321
前部ウエイト単体(45kg)	99660014360

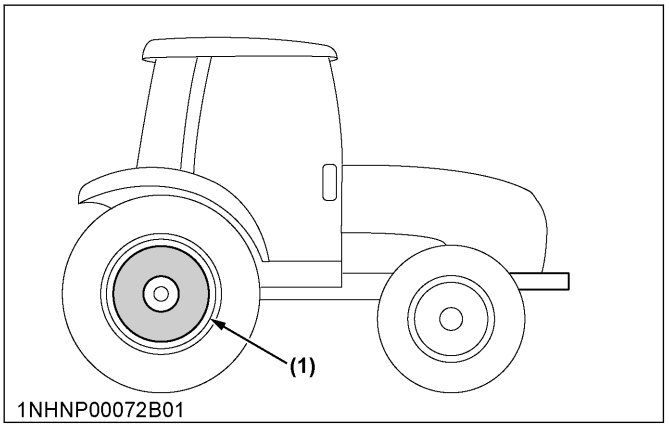
2. 後輪ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用する作業機の取扱説明書や購入先にご相談ください。

重要：

- **タイヤに過負荷を加えないでください。**
- **下表に示した以上にウエイトを追加しないでください。**

最大ウエイト	50 kg×3 枚/片側タイヤ



(1) 後輪ウエイト

補足：

- **ウエイトの着脱は、オプションキット内の要領書を参照してください。**

安全キャブ装備品の取扱い

ドア・窓の開閉とロック

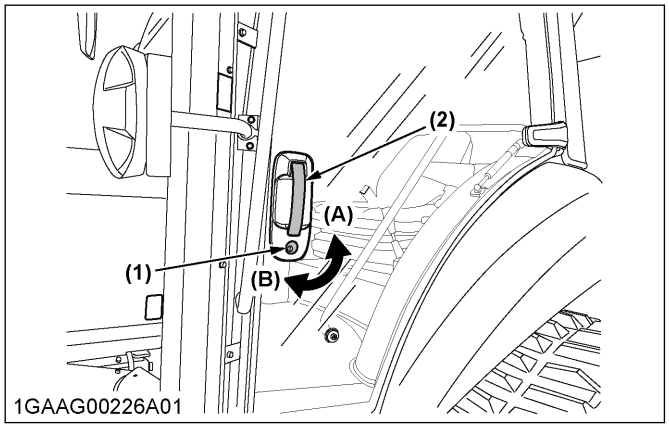
⚠ 注意
- **リヤウインド後方で作業機を着脱・調整する場合は、リヤウインドの開閉に注意してください（開放時頭などを打つおそれがあります）。**
- **ガラスを破損させるおそれがありますので安全キャブ内には物を載せないでください。**
- **ガラスの取扱いはていねいに行ってください。**

1. ドア

ドアの開閉とロックのしかた

車外から

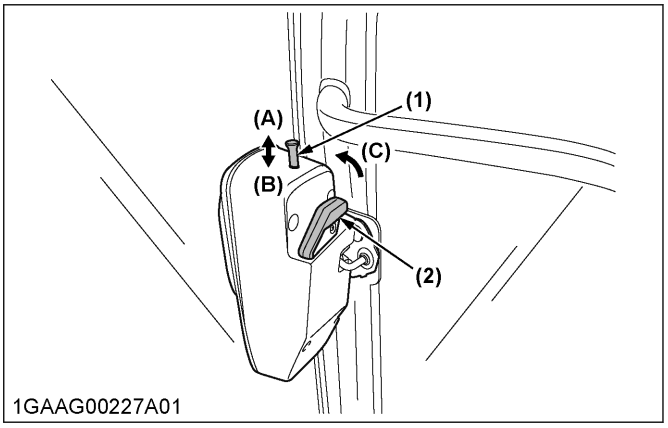
キーを回すと施錠、解錠されます。ドアアウタハンドルを引き、開けます。



(1) ドアキー
(2) ドアアウタハンドル
(A) 施錠
(B) 解錠

車内から

ロックノブを下げると施錠、上げると解錠されます。インナハンドルを引き、開けます。



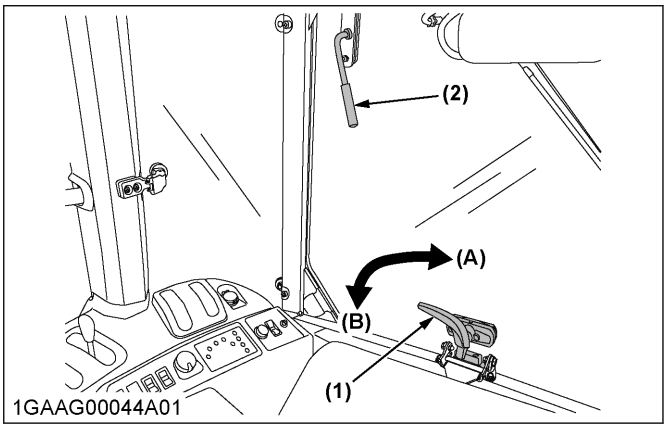
(1) ロックノブ
(2) インナハンドル
(A) 解錠
(B) 施錠
(C) 開く

補足：
- **ドアにぶらさがったり、作動範囲以上に無理に押し開かないでください。**

2. リヤウインド

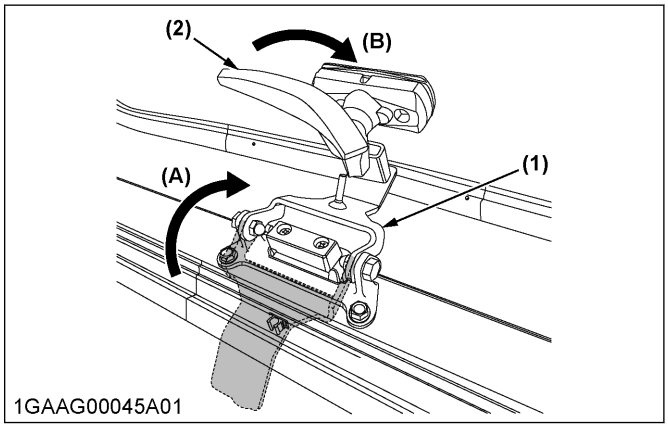
重要：
- **作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので、開閉するときにはじゅうぶん確認して行ってください。**
- **リヤウインドを開放したままで、作業機を上げるとリヤウインドを破損するおそれがありますので、作業機を上げるときには安全をじゅうぶん確認してください。**
- **リヤウインドを開放したままで、高速走行や悪路走行をしないでください。**

リヤウインドハンドルを時計方向に回し、そのまま押すと、ダンパの作用で容易に開くことができます。



(1) リヤウインドハンドル
(2) ハンドル
(A) 開
(B) 閉

また、リヤウインド半開き機構を使用することでリヤウインドを半開きのままにしておくことができます。

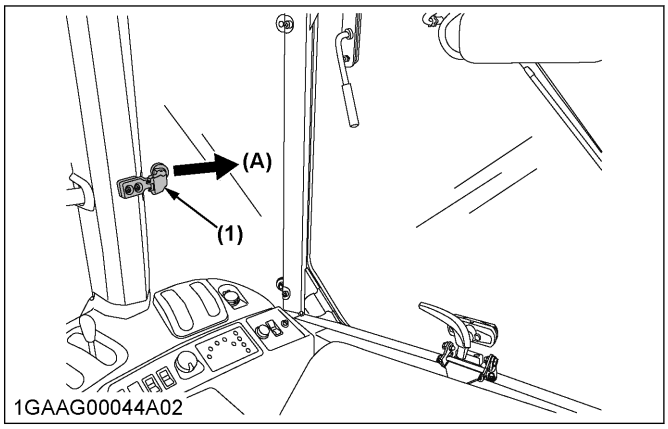


(1) リヤウインド半開き機構
(2) ハンドル
(A) 上げる
(B) 閉める

3. クォータウインド

重要：
- **クォータウインドを開放したままで、悪路走行をしないでください。**

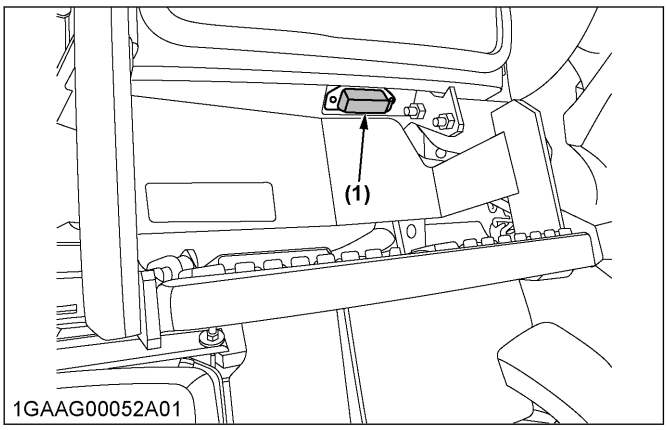
止め金具を手前に引き、ガラスと共に外側へ押すと開きます。



(1) 止め金具
(A) 引く

フットライト

夜間の作業時に足元を確認しながら昇降できるよう、ドア開閉と連動して左側昇降ステップを照らすフットライトを装備しています。また、ドアの締め忘れでのフットライトの消し忘れを防止する為、フットライトは 3 分で自動消灯します。



(1) フットライト

ルームランプ

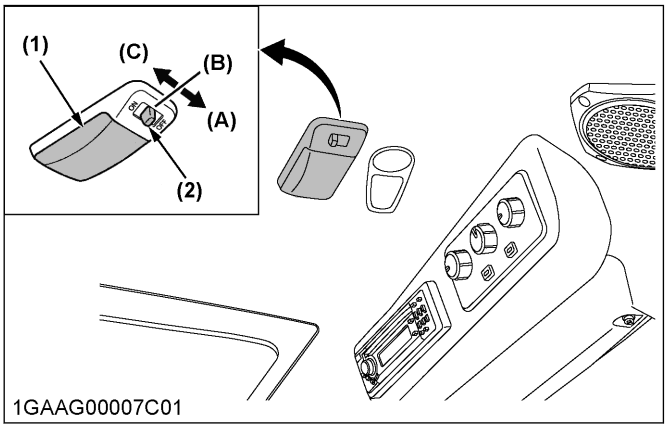
必要に応じてスイッチを切替えてください。

重要：
- **ルームランプの点灯によるバッテリ上がり防止のため、左ドアは必ず閉めてください。**

[OFF]
常時消灯。ドアを開けてもランプは点灯しません。

[•]
左ドアを開けるとランプが点灯し、閉めるとランプは消灯します。

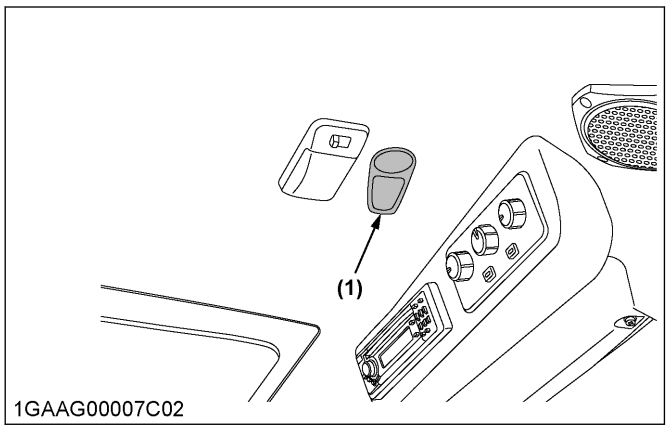
[ON]
ドアの開閉に関係なく、ランプが点灯します。



(1) ルームランプ
(2) スイッチ
(A) ***[OFF]***
(B) ***[•]***
(C) ***[ON]***

夜間照明

夜間、右側のスイッチ・レバー類を照らすライトです。



(1) 夜間照明

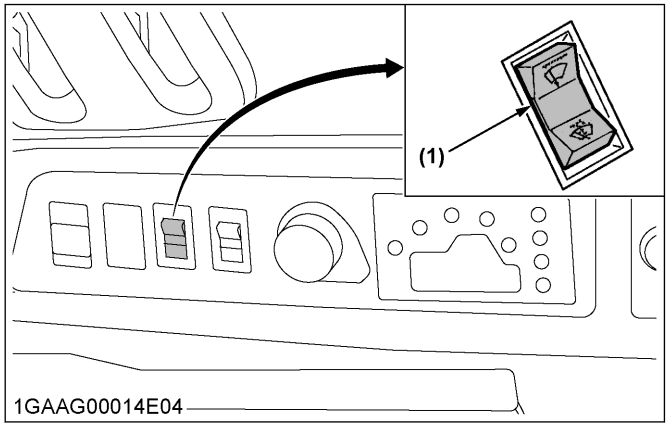
ワイパ

1. フロントワイパ･ウォッシャスイッチ

重要：

- **からぶきはガラスを傷つけることがあります。必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。**

- スイッチの下側を 1 段押すとワイパが作動します。さらに 2 段目を押すと、押している間のみ、ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
- スイッチの上側を 1 段押すと、間欠ワイパが作動します（少雨時使用）。
  さらに 2 段目を押すと、押している間のみワイパが作動したまま、ウォッシャ液が噴射します。



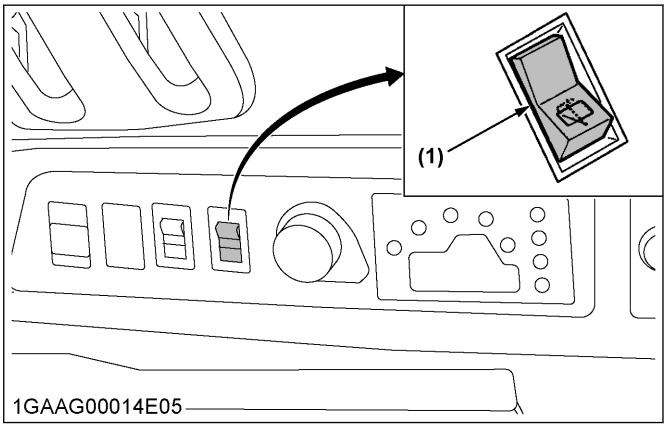
(1) フロントワイパ・ウォッシャスイッチ

2. リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

重要：

- **からぶきはガラスを傷つけることがあります。必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。**

- スイッチの下側を 1 段押すとワイパが作動します。さらに 2 段目を押すと、押している間のみ、ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
- スイッチの上側を押込むと、ウォッシャ液が噴射します。



(1) リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

3. 寒冷時のワイパの使用

重要：

- **寒冷時には、ワイパブレードおよびワイパモータに過大な負担がかかることがあります。そのため、ワイパブレードおよびワイパモータの故障につながるおそれがあります。このようなことをなくすため、下記のことを必ず守ってください。**

- 寒冷時には、ワイパブレードを立ててガラスとの氷着をさけてください。
- ガラスに雪が積もっているときには、雪を取除いてからワイパを使用してください。
- ワイパブレードがガラスに氷着して作動しなかったときは、必ずキースイッチを**[切]**位置にしてブレード部の氷を取除いてから再度起動させてください。
- 市販の寒冷地用ワイパブレードを使用する際は、標準装着品と同サイズか、それ以下のサイズのものを使用してください。

作業灯

⚠ 警告

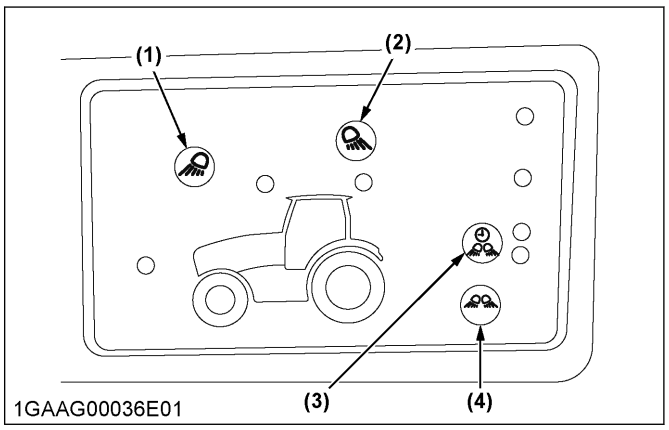
- **作業灯は道路運送車両法の保安基準第 42 条（灯火の色などの制限）において、走行中に使用しない灯火とされています。点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となるので道路走行中は点灯しないでください。**

重要：

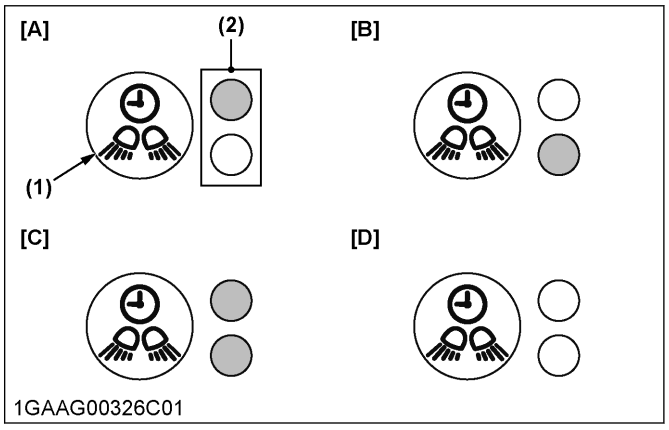
- **バッテリがあがりますので、ヒータ・作業灯・ヘッドライトなど電装品を使用する場合は、エンジン回転を 1800 rpm 以上にしてください。**

1. 作業灯スイッチ

作業灯スイッチを押すと作業灯が点灯し、もう一度スイッチを押すと消灯します。作業灯の点灯状態を示すLED ランプがスイッチの近くに内蔵されています。全作業灯スイッチで前後の作業灯の点灯・消灯を操作できます。
また、納屋等の暗所で移動しやすくする為、キーオフ後の一定時間、作業灯とフットライトを点灯するように設定できます（ディレイオフ機能）。設定時間は 3 種類（1 分、3 分、5 分）あり、ディレイオフ機能スイッチで設定できます（工場出荷時は OFF 状態）。

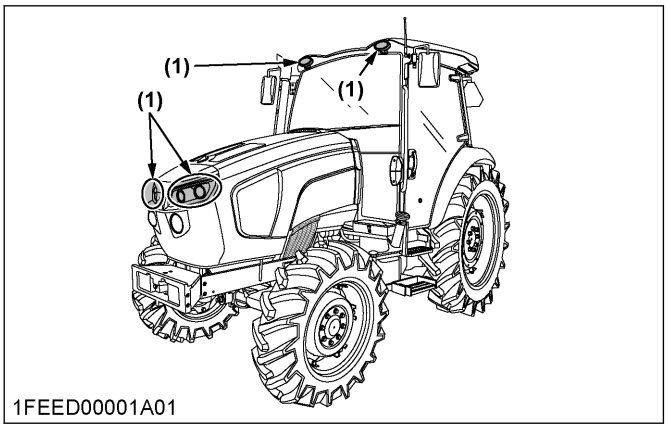


(1) 作業灯（前）スイッチ
(2) 作業灯（後）スイッチ
(3) ディレイオフ機能スイッチ
(4) 全作業灯スイッチ



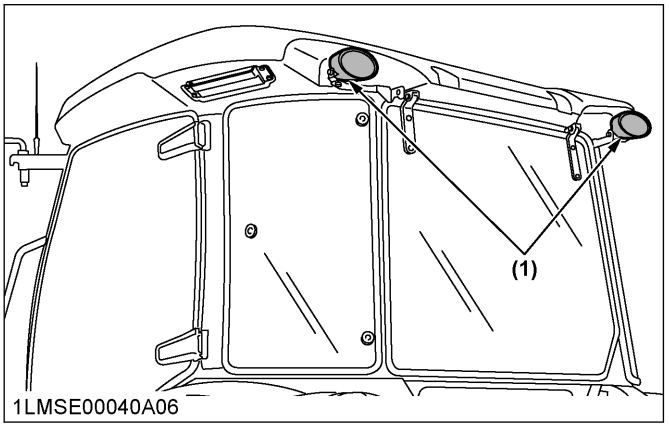
(1) ディレイオフ機能スイッチ
(2) インジケータ *LED*
[A] 上 *LED* 点灯：*1* 分
[B] 下 *LED* 点灯：*3* 分
[C] 上下 *LED* 点灯：*5* 分
[D] 上下 *LED* 消灯：*OFF*

2. 作業灯（前）



(1) 作業灯（前）

3. 作業灯（後）



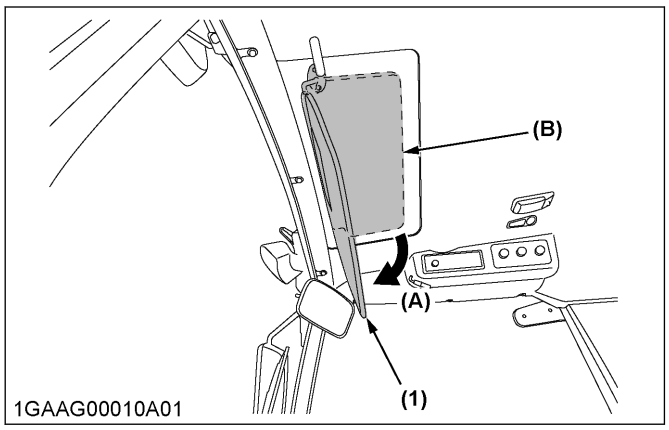
(1) 作業灯（後）

その他のアクセサリ

1. サンバイザ

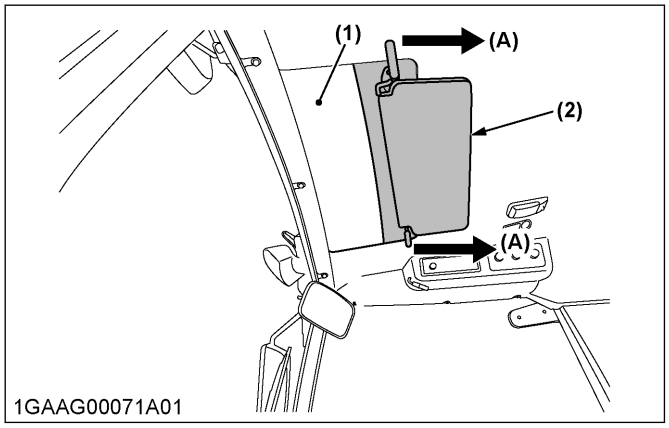
⚠ 注意
- **サンバイザを適切な位置で使用しないと、前方視界がさえぎられたり、頭にあたったりするおそれがあります。**
- **サンバイザと天井の間に物をはさまないでください。発進・停止時に物が落ちるおそれがあります。**

直射日光などでまぶしいときに使用します。
サンバイザは、収納位置より下げて使用してください。



(1) サンバイザ
(A) 使用位置
(B) 収納位置

2. ルーフパネル

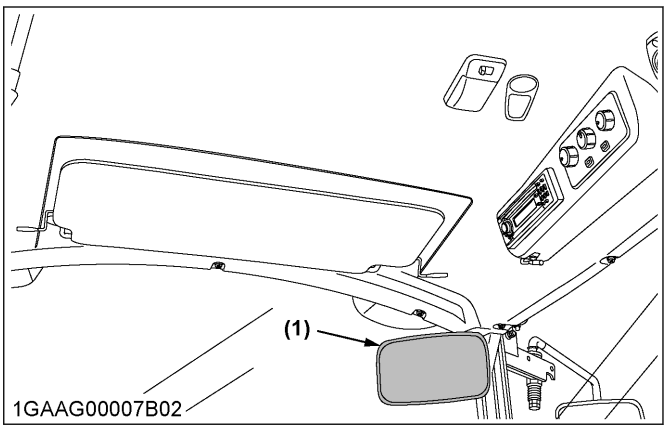


(1) 天窓
(2) サンシェード
(A) 引く

フロントローダ持上げ時、先端アタッチメント（バケット、フォークなど）の位置や角度が運転席より目視確認できます。
サンシェードを開けるときは、レバー部を持ち、後方へスライドさせてください。

3. ルームミラー

ルームミラー全体を動かして、後方視界を確認しながら調節してください。
ルームミラーの調節は、必ずトラクタを運転する前に行い、走行中には行わないでください。



(1) ルームミラー

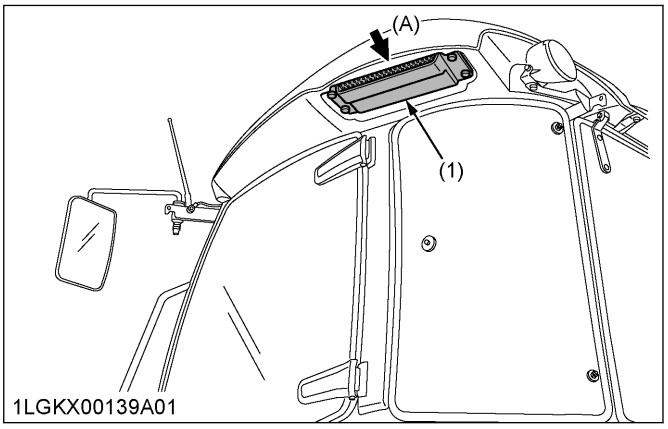
オートエアコン

このエアコンは、フロン排出抑制法に定める第一種特定製品です。
- フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
- この製品を廃棄・整備する場合には、フロン類の回収が必要となります。
- 冷媒の種類および数量

種類	冷媒番号	GWP 値	数量(kg)
HFC	R134a	1430	1.0±0.05

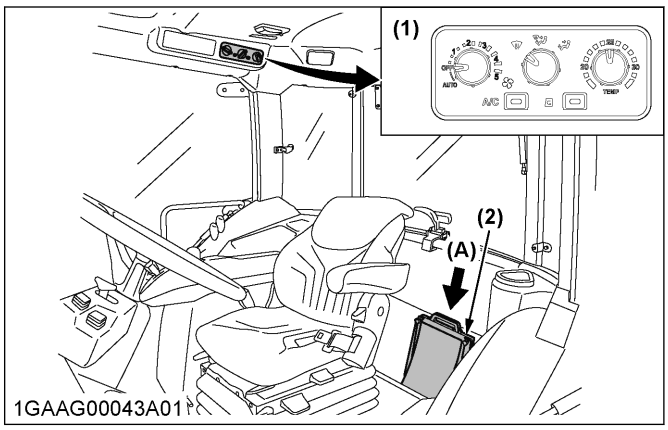
1. 空気の流れ

このエアコンは、マイコン制御により風量調整、吹出口温度調整を自動的に行います。
エアコンコントロールパネルの風量ダイヤルを**[AUTO]**位置にするだけの操作でオールシーズン車内を快適に保ちます。

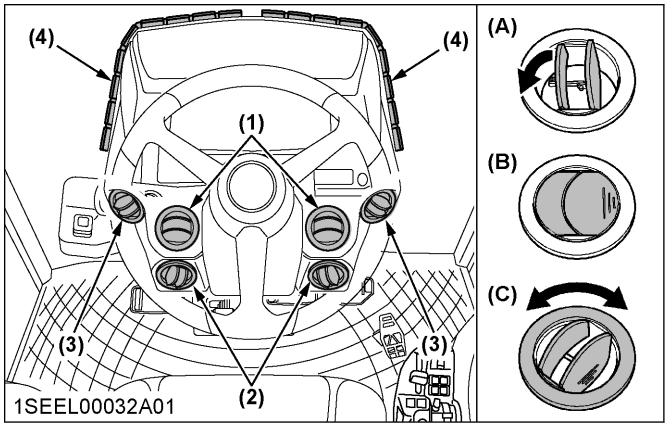


(1) 外気フィルタ
(A) 外気導入口

重要：
- **洗車時は外気導入口に、直接放水しないでください。**



(1) コントロールパネル
(2) 内気フィルタ
(A) 内気導入口

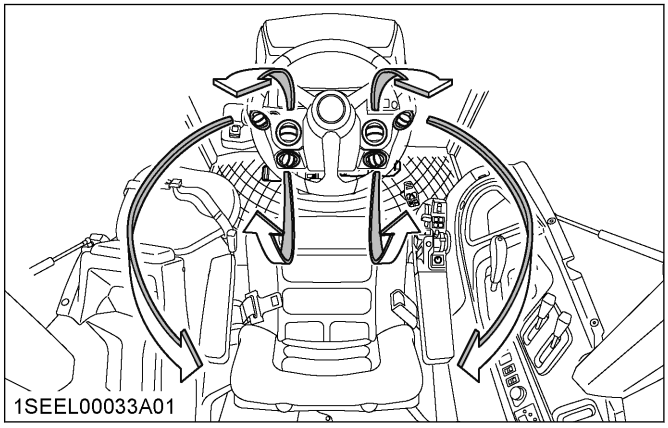


(1) 前方吹出口
(2) 足元吹出口
(3) 側方吹出口
(4) デフロスタ吹出口
(A) 開ける（吹出し角度が調整できます）
(B) 閉める（吹出しを止めます）
(C) 方向調整（矢印方向に *360* 度方向を調整できます）

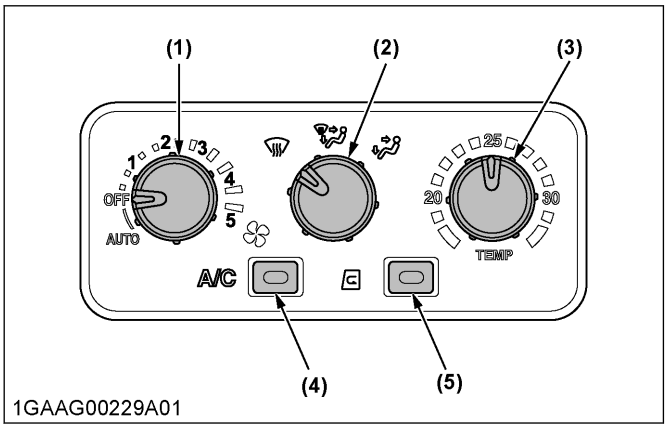
補足：

- **空気吹出口は図の(A)、(C)で角度・方向を調整できます。運転者に合った向きでご使用ください。**
- **(1)、(2)は上半身、足元に、(3)は運転席後方に送風したいときに使用します。**

［空気の流れ］（イメージ）



2. コントロールパネル



(1) ファンスイッチ
(2) 吹出し口切換えスイッチ
(3) 温度コントロールつまみ
(4) エアコンスイッチ（インジケータランプ付）
(5) 内外気切換えスイッチ（インジケータランプ付）

2.1 内外気切換えスイッチ

スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が切り換わります。

- **外気導入（インジケータランプ消灯）**
  安全キャブ室内に外気が入ってきます。ほこりが多い作業やガラスが曇る場合に使用します。
- **内気循環（インジケータランプ点灯）**
  安全キャブ室内に外気は入りません。早く冷暖房をきかせたいときや強くきかせたいときに使用します。

補足：

- **内気循環での長時間暖房は避けてください。ガラスが曇りやすくなります。**
- **ほこりが多発する作業では、外気導入で使用してください。外気を採り入れることにより室内の圧力が上昇し、安全キャブ室内にほこりが入りにくくなります。**

2.2 温度コントロールつまみ

温度を調節するためのつまみです。
好みの位置にセットして適宜調節します。
設定温度は 1 ℃刻みで調節できます。

2.3 吹出し口切換えスイッチ



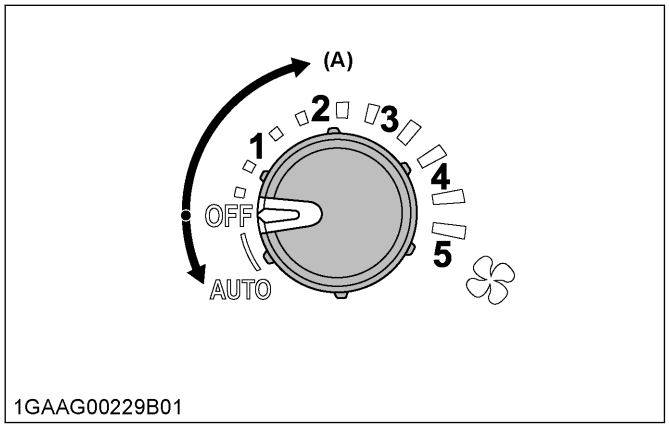
デフロスタ吹出し口より吹き出します。フロントガラスの曇りおよび凍結を除去するときや、安全キャブの室内温度を調整したいときに使用します。



デフロスタ吹出し口とフロント吹出し口より吹き出します。

フロント吹出し口より吹き出します。上半身や足元に送風したいときに使用します。

2.4 ファンスイッチ



(A) 風量切換

[AUTO]位置：
オートエアコンが作動します。

風量切換位置：
風量を 5 段階に調節できます。
右端は最も風量の多い位置です。

補足：
- **[AUTO]位置で暖房の際、エンジンが冷えているときは冷風が出るのを防ぐため、しばらくの間ファンが作動しないことがあります。**

2.5 エアコンスイッチ

A/C

エアコンを使うときは、このスイッチを押して**[入]**にします。**[入]**のとき、インジケータランプが点灯します。

重要：
- **トラクタを 1 週間以上、長期放置後にエアコンを使うときは、エンジン回転をアイドリングにして A/C エアコンスイッチを[入]にし、1 分間運転してください。**
  エンジン回転が高いままで、A/C エアコンスイッチを[入]にするとコンプレッサが故障するおそれがあります。

2.6 暖房・冷房・除湿暖房の調節

1. 内外気切換えスイッチを押してインジケータランプを消灯させ外気導入にします。早く冷暖房したいときは内気循環にします。
2. エアコンスイッチを押し ON（入）にします。（インジケータランプ点灯）
3. ファンスイッチを**[AUTO]**位置にします。
4. 温度コントロールつまみを調節し、快適な温度にします。

   補足：
   - **キャブ内に入り込む日射をリヤサンシェード（オプション）などで遮ると、冷房効率がアップします。**

2.7 デフロストの手順

フロントガラスの曇りおよび凍結除去をする方法です。
1. 吹出口切換えスイッチを デフロスタ位置にします。
2. 内外気切換えスイッチを外気位置にします。（インジケータランプ消灯）
3. ファンスイッチを右端、温度コントロールつまみを右端にします。

3. ヒータ使用上の注意

⚠ 警告
- **ウォータホースおよびヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。**
- **異常を認めたとき、修理をおこたるとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。**

- 冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
  また、有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
- 冬期において不凍液を使用しない場合は、運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
  （詳細は冷却水の交換（224 ページ）を参照）
- ウォータホースは 4 シーズンごとに交換を受けてください。

日常点検
次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
（ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。）
- ウォータホースの傷付き、ひびわれ、ふくらみ
- ウォータホースジョイント部の水漏れ
- ウォータホースの保護ブッシュおよびグロメットの外れ、破損
- 本体取付けボルトの緩み、ブラケットの破損

オーディオ機器の取扱いについて

別冊の『取扱説明書』をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
また、パイオニア（株）のホームページから取扱説明書を PDF ファイルでダウンロードしてご覧いただけます。

⚠ 警告
- **安全のため、運転中はオーディオ操作をしないでください。**
- **安全のため、運転中は車外の音が聞こえる音量にしてください。**

重要：
- **オーディオ機器を本機から取外したり、分解・改造したりすると保証の対象外となりますのでご注意ください。**

補足：
- **オーディオ機器の付属品については、別冊の『取扱説明書』に記載している内容とは異なる場合があります。**

1. お問合せについて

- オーディオ機器の修理故障に関しては、本機をお買上げいただいた購入先にご相談ください。
- また、オーディオ機器の取扱いに関するお問合せは、メーカー窓口でもご相談いただけます。

パイオニア（株）カスタマーサポートセンター

固定電話から	0120-944-111（無料）
携帯電話・PHS から	0570-037-600（ナビダイヤル・有料） 上記の電話番号がご利用いただけない場合 050-3820-7540（IP 電話・有料）
ファックス	0570-037-602（ナビダイヤル・有料）
受付時間 *1	
月曜～金曜	9：30～18：00
土曜	9：30～12：00、13：00～17：00

*1　日曜・祝日・パイオニア（株）休業日は除く

2. オーディオ機器の電源が入らない時の対応

本機のヒューズボックスの中に、オーディオ(ACC)用ヒューズがあります。このヒューズが切れていないか確認してください。切れている場合はヒューズを交換してください。
本機のヒューズは切れていないが、オーディオ機器の電源が入らない場合、本機をお買上げいただいた購入先にご相談ください。

3. 本機で利用できない機能について

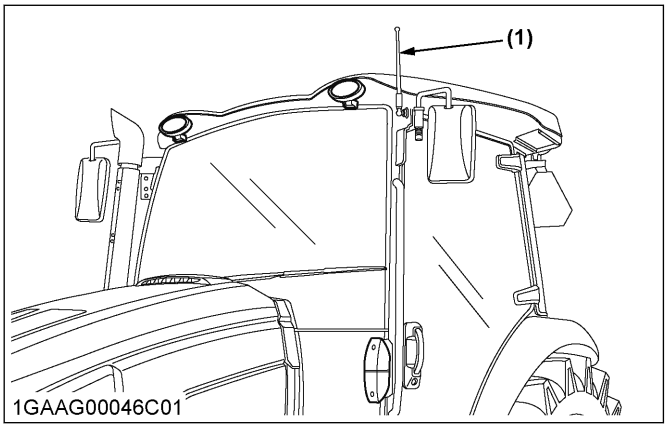
本機の仕様上、別冊の『取扱説明書』に記載している機能の一部にはご利用頂けない機能がありますので、あらかじめご了承ください。

（ご利用頂けない機能例）
- 前後スピーカーの音量バランス調整
- ステアリングリモコンの設定　　など

その他、ご不明点がありましたら、本機をお買上げいただいた購入先もしくは、メーカー窓口へご相談ください。

アンテナ

重要：
- **アンテナは角度調節ができませんので動かさないでください。**

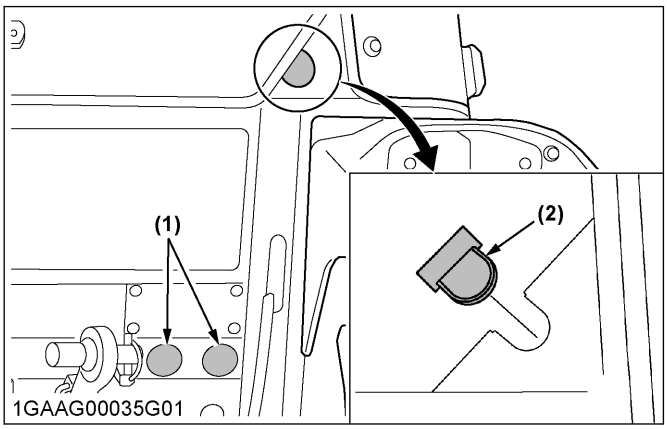


(1)　アンテナ

作業機の装着

1. 作業機用操作ボックスの取付け

1. ゴムキャップまたはコーナープラグに穴を開け、作業機用操作コードなどを安全キャブ室内に導入してください。



(1)　ゴムキャップ
(2)　コーナープラグ

トラクタの点検・整備のしかた

⚠ 警告
給油および点検整備するときは
1. トラクタを平たんな広い場所に置き
2. 作業機を降ろし
3. 駐車ブレーキをかけ
4. エンジンを止め
5. キーを抜き、安全を確認してから行ってください。
そうしないと死傷事故を引き起すおそれがあります。

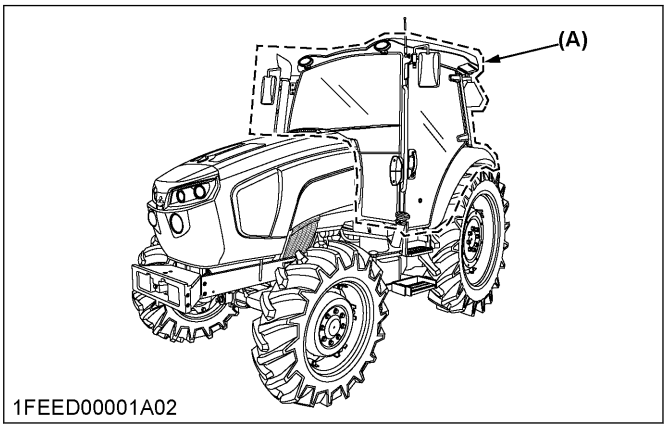
廃棄物の処理について

⚠ 警告
廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水(AdBlue)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。**

洗車時の注意

⚠ 注意
機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし、2 m以上離して洗車してください。もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）
- **シール・ラベルの剥がれ**
- **電子部品、エンジン・トランスミッション室内、安全キャブ室内などへの浸入による故障**
- **タイヤ、オイルシール等のゴム類、樹脂類、ガラスなどの破損**
- **塗装、メッキ面の皮膜剥がれ**

重要：
- **安全キャブのガラス部、ルーフ部の洗車の際には、圧力水をかけないでください。（圧力を下げるか水流を広げてください。）**
  安全キャブ室内の水もれ、電気部品の故障の原因になります。

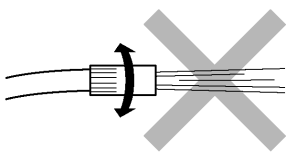
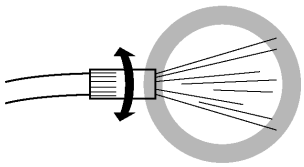


(A) 高圧洗車禁止

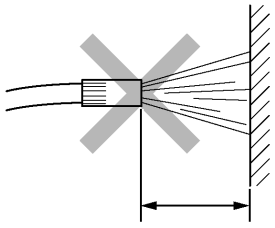
補足：
- **市販のワックスを樹脂部品に使用すると樹脂の変形、割れ、曇りが発生する場合があります。特に電子メータなどの透明樹脂部にはワックスを使用しないでください。**

- 高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。
  高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を破損・損傷・故障させることがあります。

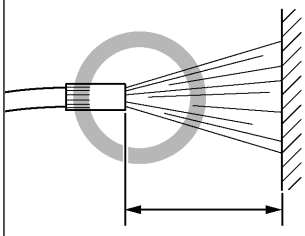
直射洗車厳禁

直射	拡散
	
1LMSE00008A01	1LMSE00008B01

近距離洗車厳禁



1LMSE00036A01



1LMSE00036B01

2 m 未満	2 m 以上

定期点検箇所一覧表

次の定期点検箇所に従って、定期点検を実施しましょう。

	時間	項目		参照ページ
A	初回のみ 50 時間運転後	エンジンオイル	交換	218
		エンジンオイルフィルタ	交換	219
		クラッチペダル	調整	211
B	50 時間ごと	エンジン始動システム	点検	207
		タイヤ取付けボルト	点検	207
		クラッチハウジング	水抜き	207
		グリースの注入	–	205
		パワーステアリングホース	点検	208
		燃料ホース	点検	208
		グリースの注入 **[ハーフクローラ仕様]**	–	227
C	100 時間ごと	エンジンの始動確認	点検	212
		エンジンの排気の状態	点検	212
		エキゾーストパイプおよびマフラの状態	点検	212
		バッテリ電解液	点検	208
		エアクリーナエレメント（アウター）	清掃	209
		ファンベルト	調整	210
		クラッチペダル	調整	211
		ブレーキペダル	点検	211
D	200 時間ごと	油圧オイルフィルタ	交換	214
		トーインおよびタイロッド	点検	216
		ラジエータホース	点検	212
		燃料タンク	水抜き	216

（次へ続く）

	時間	項目		参照ページ
D	200 時間ごと	オイルクーラホース	点検	214
		吸気ホース	点検	213
		室内エアフィルタ	清掃	216
		外気フィルタ	清掃	217
		エアコンコンデンサ	清掃	217
		エアコンベルト	調整	218
		ローラ・アイドラのオイル交換とオイルシール点検 **[ハーフクローラ仕様]**	–	227
E	400 時間ごと	エンジンオイル	交換	218
		エンジンオイルフィルタ	交換	219
		燃料フィルタ	交換	219
		セパレータ	清掃	219
F	600 時間ごと	ミッションオイル	交換	220
		前部デフケースオイル	交換	220
		前輪ケースオイル（左右）	交換	221
		前部デフケース前後遊び	調整	221
G	800 時間ごと	エンジンバルブクリアランス	点検	221
H	1500 時間ごと	インジェクタ	点検	221
		尿素水インジェクタ	清掃	221
		尿素水ホース	点検	221
		オイルセパレータエレメント	交換	222
		PCV バルブ	点検	222
		EGR クーラー	点検 清掃	222
I	3000 時間ごと	尿素水インジェクタ	点検	223
		サプライポンプ	点検	222
		ターボチャージャ	点検	222
		インテークエアヒータ	点検	222
		EGR システム	点検 清掃	222
		DPF マフラ	清掃	222
		尿素水ポンプエレメント	交換	223
J	8000 時間ごと	尿素水タンクサクションフィルタ	交換	223
K	3 か月ごと	エアコンの簡易点検	点検	223
		尿素水(AdBlue)の品質	点検	223
L	1 年ごと	エアクリーナエレメント（インナー）	交換	224
		キャブマウントゴム	点検	224
		エキゾーストマニフォールド	点検	224

（次へ続く）

	時間	項目		参照ページ
L	1 年ごと	DPF 差圧センサパイプ	点検	226
		EGR パイプ	点検	224
		エアコン配管、ホース	点検	224
		エアクリーナエレメント（アウター）	交換	224
M	2 年ごと	パワーステアリングホース	交換	226
		燃料ホース	交換	226
		ラジエータホース	交換	226
		オイルクーラホース	交換	226
		吸気ホース	交換	226
		ラジエータ	洗浄	225
		冷却水	交換	224
		メインシリンダホース	交換	226
		傾き自動シリンダホース	交換	226
		デフロックホース	交換	226
		PCV バルブホース	交換	226
		DPF 差圧センサホース	交換	226
		ブーストセンサホース	交換	226
N	給油時ごと	尿素水(AdBlue)	補充	203
O	必要に応じて	燃料系統の空気抜き	–	228
		ヒューズ類	交換	229、231
		ランプ類	交換	232、232
		ウォッシャ液	補充	233
		ドアヒンジ部とリヤウインド部の注油	-	232
		冷媒（ガス）量	点検	233

重要：

- **バッテリ電解液は年間使用時間が 100 時間以内の場合、1 年ごとに点検を行ってください。**
- **エアクリーナエレメントのアウターは使用時間が 1 年未満の場合でも、6 回清掃後に交換してください。**

- 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、購入先にご相談ください。

1. 早見表

表の見方

1. トラクタのアワーメータ時間と下記早見表内時間との合致点に記された○印の定期点検項目（A～M）の整備を行ってください。
2. 各メンテナンス項目の詳細は定期点検箇所一覧表（191 ページ）を参照してください。

アワーメーター	定期点検項目												
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
50	○	○											
100		○	○										
150		○											
200		○	○	○									
250		○											
300		○	○										
350		○											
400		○	○	○	○								
450		○											
500		○	○										
550		○											
600		○	○	○		○							
650		○											
700		○	○										
750		○											
800		○	○	○	○		○						
850		○											
900		○	○										
950		○											
1000		○	○	○									
1050		○											
1100		○	○										
1150		○											
1200		○	○	○	○	○							
1250		○											
1300		○	○										
1350		○											
1400		○	○	○									
1450		○											

（次へ続く）

アワーメーター	定期点検項目												
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1500		○	○					○					
1550		○											
1600		○	○	○	○		○						
1650		○											
1700		○	○										
1750		○											
1800		○	○	○		○							
1850		○											
1900		○	○										
1950		○											
2000		○	○	○	○								
2050		○											
2100		○	○										
2150		○											
2200		○	○	○									
2250		○											
2300		○	○										
2350		○											
2400		○	○	○	○	○	○						
2450		○											
2500		○	○										
2550		○											
2600		○	○	○									
2650		○											
2700		○	○										
2750		○											
2800		○	○	○	○								
2850		○											
2900		○	○										
2950		○											
3000		○	○	○		○		○	○				
8000		○	○	○	○		○			○			
3 か月											○		
1 年												○	
2 年													○

給油（水）一覧表

1. トラクタの給油（水）

No.	給油（水）項目	容量	備考
1	燃料	120 L	超低硫黄ディーゼル軽油 (S10)
2	尿素水（AdBlue）	12.9 L	
3	冷却水	10 L	清水（不凍液を入れた場合は、その量だけ少なく清水を入れてください。）
	リザーブタンク	1.0 L	
4	ウォッシャ液	2.0 L	自動車用ウォッシャ液
5	エンジンオイル（フィルタ含む）	10.7 L	指定オイル （詳細は推奨オイル・尿素水・グリース一覧表（195 ページ）参照）
6	ミッションオイル（油圧オイル）	67.0 L	指定オイル スーパー UDT-2
7	ミッションオイル（HST 部）	7 L	
8	前輪デフケース	5 L (6 L *1)	
9	前輪ケース左・右	各 3.5	
10	ローラ	0.10 L *2	
11	アイドラ	0.13 L *2	
12	各操作レバー・ペダル支点	注油	
13	3 点リンク	注入・塗布	極圧（万能）グリース
14	バッテリーターミナル	塗布	
15	油圧シリンダ ステアリングジョイント軸 前輪ケースサポート 前車軸受	注入	
16	• **[ハーフクローラ仕様]** クローラサポート ローラ揺動部 ヨーク摺動部	注入（左右各 1）	

補足：
- **グリースポンプは手動のハンドガン式のものを使用してください。**

*1　標準仕様を示します。
*2　ハーフクローラ仕様を示します。

推奨オイル・尿素水・グリース一覧表

必ず下記の推奨品を使ってください。
エンジンオイル・ミッションオイル

エンジンオイル	ミッションオイル・前車軸オイル
指定オイル （DPF 搭載機専用ディーゼルエンジンオイル） **D10W-30 DH-2**	指定オイル スーパー UDT-2

エンジンオイルについて
DPF 搭載のディーゼルエンジンには、指定ディーゼルエンジンオイル **D10W-30 DH-2** を必ず使用してください。他のオイルを使用するとオイルに含まれる金属系添加剤の燃え残り（灰分）が DPF に堆積してフィルタの詰まりが助長され、DPF が機能しなくなるまでの時間が極端に早まります。

尿素水(AdBlue)
ISO 22241-1 規格に適合した尿素水(AdBlue)を使用してください。

補足：
- **AdBlue はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。**

グリース

極圧（万能）グリース	推奨グリース No.2 入手できない場合は下記メーカ製品または JCMAS GK 規格品をご使用ください。 • JX 日鉱日石エネルギー：エピノックグリース AP2、リゾニックス EP2 • コスモ石油ルブリカンツ：ダイナマックス No.2 • 出光興産：ダフニーエポネックス SR2
ホーン接点用グリース	協同油脂マルテンプ PS2

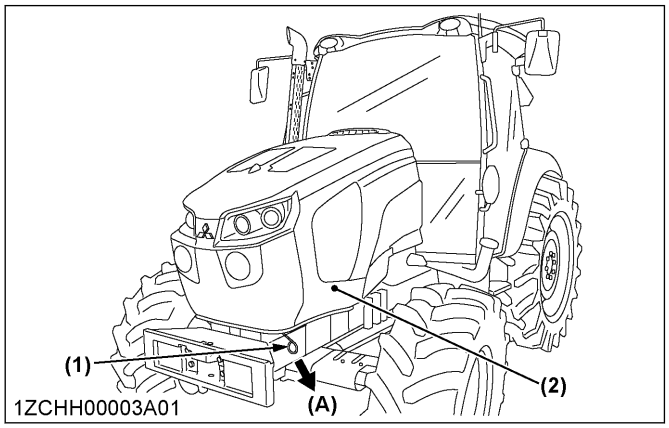
ボンネットの開閉およびサイドカバーの外し方

⚠ 警告
- **エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。**
- **マフラが熱いときはさわらないでください。ヤケドすることがあります。**

1. ボンネットの開閉

1.1 ボンネットの開け方

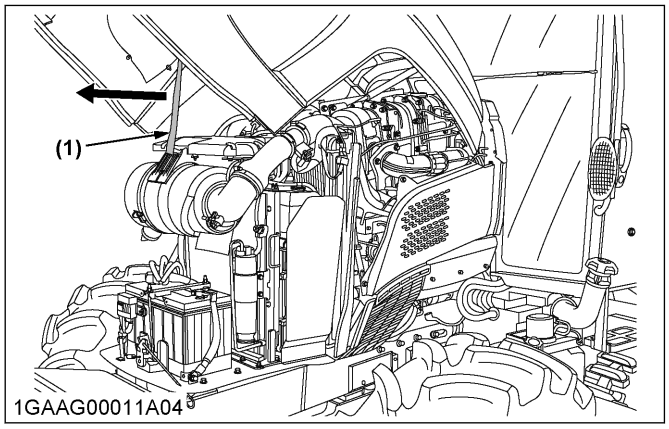
1. 片手でボンネットを軽く押えながら、ロック解除レバーを引きロックを解除します。
2. 両手でボンネットを持ち上げます。



(1) 解除レバー　*(A)* 引く
(2) ボンネット

1.2 ボンネットの閉め方

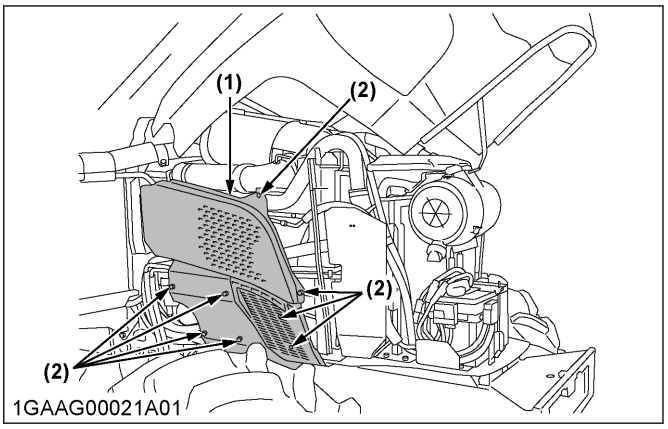
1. ストラップを引き、ボンネットを閉めます。
2. 両手でボンネットを上から押え、ロックします。
3. ボンネットを持ち上げロックされているか確認します。



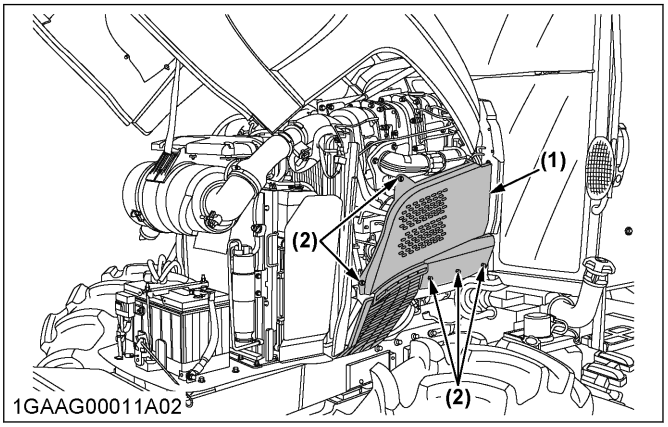
(1) ストラップ

2. サイドカバーの取り外し

1. 図で示すボルトを外してください。



(1) サイドカバー
(2) ボルト



(1) サイドカバー
(2) ボルト

日常点検

⚠ 警告
- **火気厳禁**
- **点検をするときは、必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行ってください。**
- **燃料・オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。**
- **トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ、配線、マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着などがあると、火災の原因になります。**
- **運転中および停止直後は、ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをすることがあります。**
- **エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは、内部がじゅうぶんに冷え、ヤケドのおそれがないことを確認してから行ってください。**

1. 前日の異常箇所の点検

- 前日の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障がないか点検してください。

2. トラクタの周囲の点検

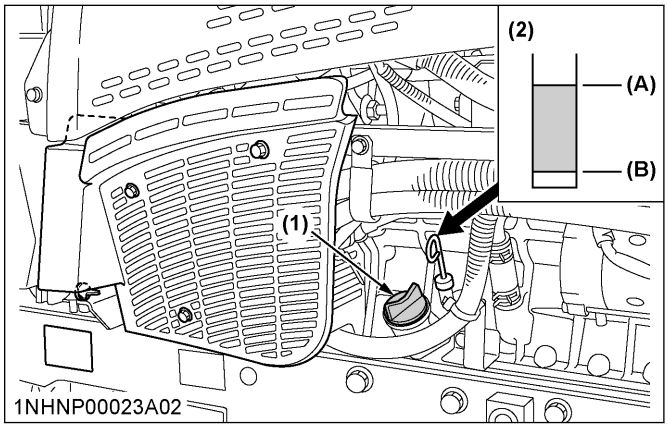
トラクタの周りを歩いて、異常がないか点検します。
- ボルトやナットのゆるみおよび作業機取付けピンの脱落がないか、点検してください。
- 車体各部の変形や損傷がないか、点検してください。
- 油や水もれなどの異常がないか、点検してください。

3. エンジンオイル量の点検および補給

警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**

重要：
- **点検するときは、トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。**
- **オイル量はエンジン始動前か、エンジンを止めてから約 5 分以上たってから点検してください。そうでないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。**

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき、差込んでから再び抜き下限と上限の間にオイルがあるかを調べます。
2. **下限**以下の場合は補給してください。ただし、**上限**以上には入れないでください。
   エンジンオイルの入れすぎは出力不足につながります。



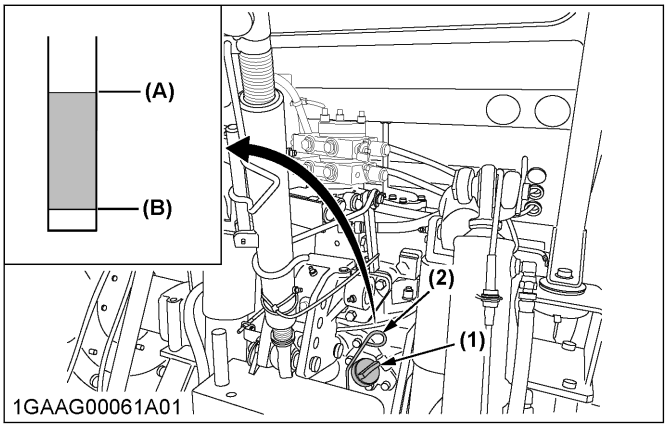
(1) 給油口　*(A)* 上限
(2) オイルゲージ　*(B)* 下限

補足：
- **DPF の再生に用いる微量燃料の一部がエンジンオイルに混ざり、エンジンオイルが注入時より増えることもありますが、これは故障ではありません。**

4. ミッションオイル量の点検および補給

警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき、差込んでから再び抜き下限と上限の間にオイルがあるかを調べます。作業機（ロータリ）付の場合は、作業機（ロータリ）を下げて確認してください。
2. **下限**以下の場合は補給してください。ただし、**上限**以上には入れないでください。



(1) 給油口　*(A)* 上限
(2) オイルゲージ　*(B)* 下限

5. 冷却水量の点検および補給

警告
- **ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けると、熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって、冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し、余圧を抜いてからキャップを外してください。**

補足：
- **ラジエータ本体のキャップは、冷却水点検および交換するとき以外開けないでください。**

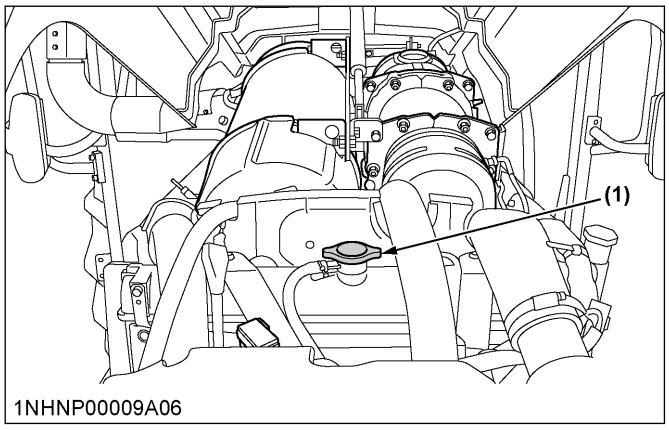
ラジエータには、リザーブタンクが付いており、ラジエータ内の冷却水が少なくなると、リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。

1. 冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。
   [FULL]から**[LOW]**の範囲であれば正常です。

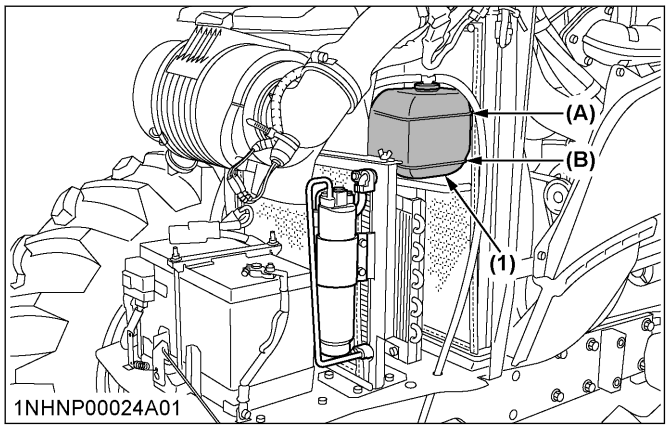
2. 冷却水が**[LOW]**以下の場合は、**[FULL]**のレベルまで補給してください。

   重要：
   - **[FULL]以上は入れないでください。**

3. リザーブタンクの量が**[LOW]**以下の場合は、ラジエータキャップを外してラジエータの口元まで冷却水が入っているか確認し、少ない場合は口元まで補給してください。



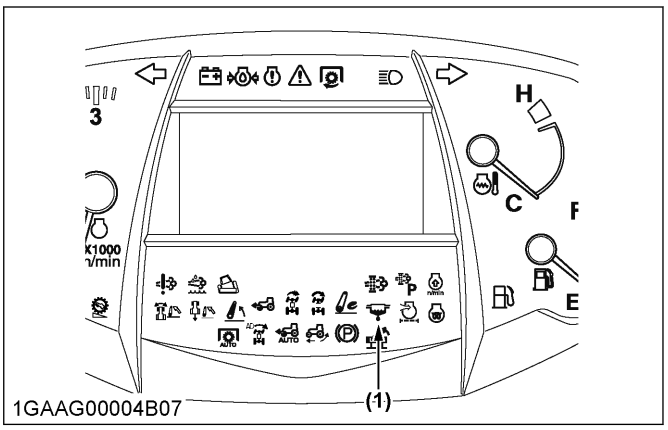
(1) ラジエータキャップ



(1) リザーブタンク
(A) 上限 ***[FULL]***
(B) 下限 ***[LOW]***

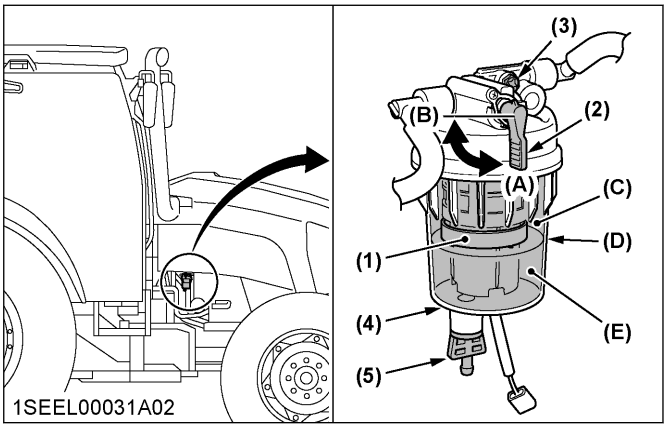
6. セパレータの水の排出

1. セパレータにたまった水が規定ラインを超えたとき、電子メータのウォータセパレータ警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。



(1) ウォータセパレータ警告灯

2. このような場合、燃料コックを閉め、エアプラグとドレーンプラグを数回転させて緩めてください。
3. 水を排出してください。水の排出が終わり、燃料が流出し始めたとき、エアプラグとドレーンプラグを締め付けてください。
4. 水の排出後は必ず空気抜きをしてください。
   燃料の空気抜きのしかた（228 ページ）の項を参照。



(1) 赤色フロート
(2) 燃料コック
(3) エアプラグ
(4) カップ
(5) ドレーンプラグ
(A) 開
(B) 閉
(C) 燃料
(D) 規定ライン
(E) 水

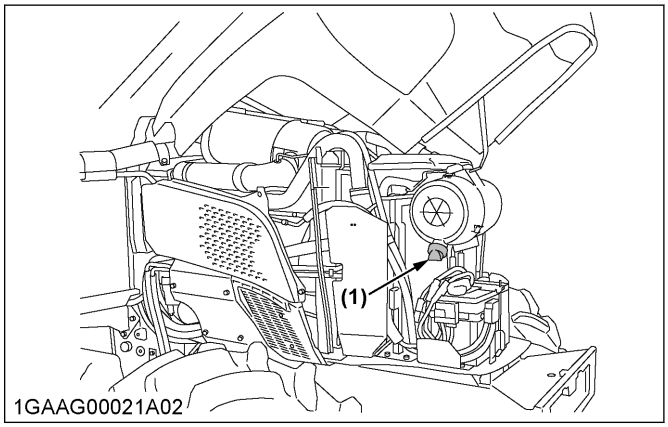
補足：
- **赤色のフロートが上昇し規定ラインに達したときは、上記の手順 2 からの操作を行ってセパレータの水を排出してください。**

重要：
- **水が燃料ポンプに入ると、重大な故障が発生するおそれがあります。**

7. バキュエータバルブの清掃

1. バキュエータバルブを開き、ごみを取除いてください。

2. 水分があるときは、エアクリーナを掃除してください。



(1) バキュエータバルブ

8. ワイヤハーネス、バッテリ（+）コードの点検・交換

⚠ 警告

- **配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり、火災事故になるおそれがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理してください。**
  ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金などで代用せず、購入先に点検・整備を依頼してください。
- **また、本機の配線は、防水性などじゅうぶん考慮して配線してありますのでむやみに修理して使用せず、購入先に点検・整備を依頼してください。**
- **バッテリおよび電気配線の周辺部は、マフラやエンジン周辺部と同様、ワラくず・ごみ・燃料の付着があると火災の原因になるので、毎日作業前に清掃してください。**

補足：

- **点検時、3 点リンクに装着している作業機は取外してください。**

- 配線の損傷がないか、点検してください。
  配線被覆が破れているときは、購入先に点検・整備を依頼してください。
- 配線のクランプのゆるみがないか、点検してください。
  配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線をセットしてください。
- ターミナル（端子）、カプラ（ソケット）の接続部のゆるみがないか、点検してください。
- 各スイッチ、メータが確実に作動するか、点検してください。

9. タイヤの空気圧および摩耗、傷の点検

⚠ 警告

- **タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。**
- **タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。**
- **タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください（特別教育を受けた人が行うように、法で決められています）。**

標準空気圧

- バイアスタイヤ（ブリヂストン製）

前輪	kPa (kgf/cm²)	後輪	kPa (kgf/cm²)
9.5-24	220 [240] (2.2 [2.4])	12.4-38	140 (1.4)
		13.9-36	
		16.9-30	120 (1.2)
11.2-24	180 [200] (1.8 [2.0])	16.9-30	120 (1.2)
		13.6-38	140 (1.4)
		13.6-38H	
		16.9-34	120 (1.24)
320/60-26	80 (0.8) **[ローダ不可]**	–	–
360/70R20	160 [240] (1.6 [2.4])		

補足：
– [ ]内はローダ装着時の値です。
– H はハイラグタイヤを示します。

- ラジアルタイヤ（ファイヤストーン製）

前輪	kPa (kgf/cm²)	後輪	kPa (kgf/cm²)
250/85R24	160 [160] (1.6 [1.6])	340/85R36	160 [160] (1.6 [1.6])

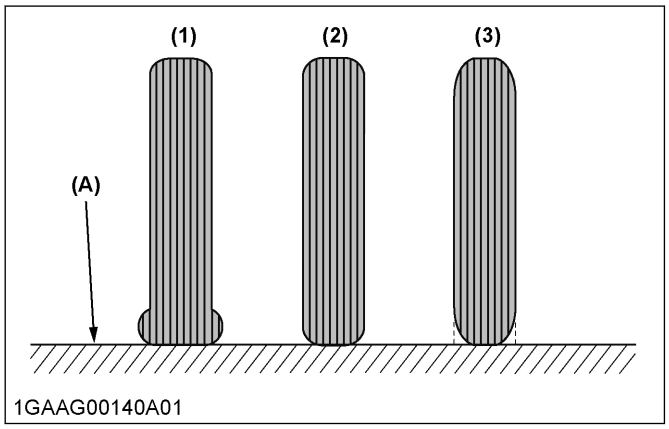
補足：
– [ ]内はローダ装着時の値です。

- ラジアルタイヤ（ミシュラン製）

前輪	kPa (kgf/cm²)	後輪	kPa (kgf/cm²)
9.5R24	160 [160] (1.6 [1.6])	12.4R38	160 [160] (1.6 [1.6])
		16.9R30	
11.2R24		13.6R38	
		420/85R34	
		270/95R38	

補足：
- **[ ]内はローダ装着時の値です。**

1. 前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
   外観から判断する目安はつぎのとおりです。



(1) 空気が不足　　*(A)* 接地面
(2) 標準
(3) 空気が多い

10. ラジエータ用防虫網とエアコンコンデンサ用防虫網およびオイルクーラの清掃

水田や夜間作業に使用すると、防虫網に実や昆虫が付着し詰まることがあります。目詰まりがないよう点検、清掃してください。

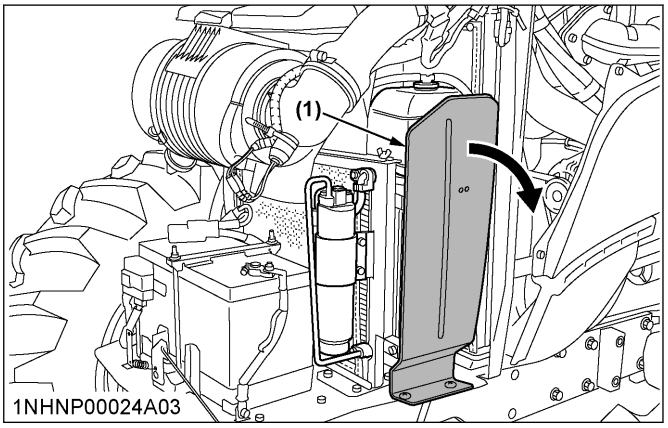
⚠ 警告
- **エンジンを必ず停止して清掃してください。**
- **エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。じゅうぶん冷えてから点検・清掃を行ってください。**

重要：
- **高圧洗車機を使用する場合には、ラジエータ・オイルクーラのフィンを損傷させないように、注意してください。**

1. パネルを開きます。
   （詳細はパネルの開閉（200 ページ）を参照）
2. パネルを取外します。
   （詳細はパネルの着脱（200 ページ）を参照）
3. エアコンコンデンサを引出します。
   （詳細はエアコンコンデンサの引出し（200 ページ）を参照）
4. ラジエータ用防虫網を清掃します。
   （詳細はエンジン前周りの清掃（201 ページ）を参照）
5. エアコンコンデンサ用防虫網とオイルクーラを清掃します。
   （詳細はエンジン前周りの清掃（201 ページ）を参照）

10.1 パネルの開閉

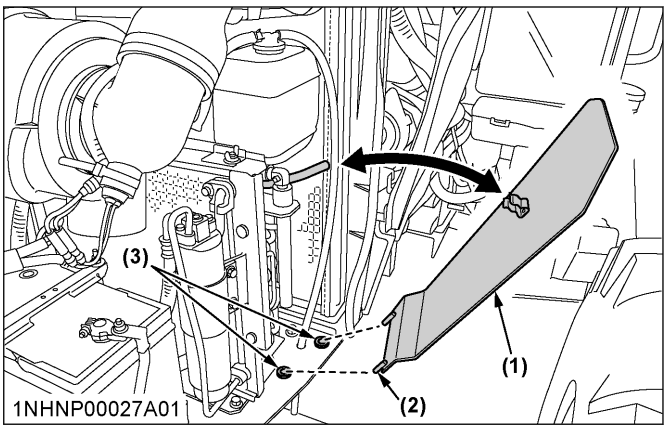
1. サイドカバーを外します。
2. パネル前部を外方向へ引き開きます。
3. 閉める時は内側へロックされるまで押してください。
4. サイドカバーを取り付けます。



(1) パネル

10.2 パネルの着脱

1. ピンが抜けるまでパネルを引き上げ、カバーを外します。
2. 組付けは逆手順で行ってください。

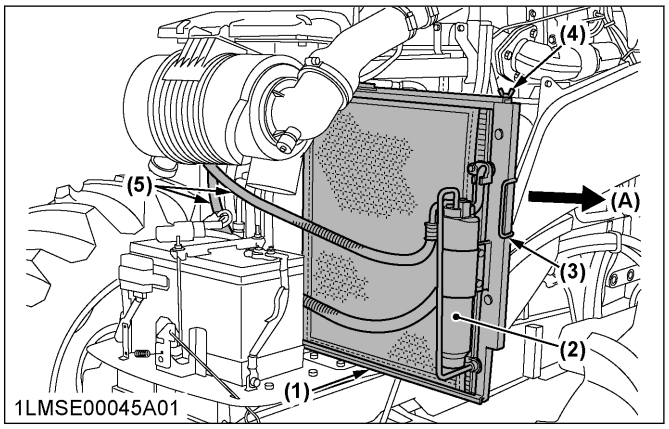


(1) パネル
(2) ピン
(3) 穴

10.3 エアコンコンデンサの引出し

1. 蝶ナットをゆるめます。

2. ハンドルを持ち手前に引きます。



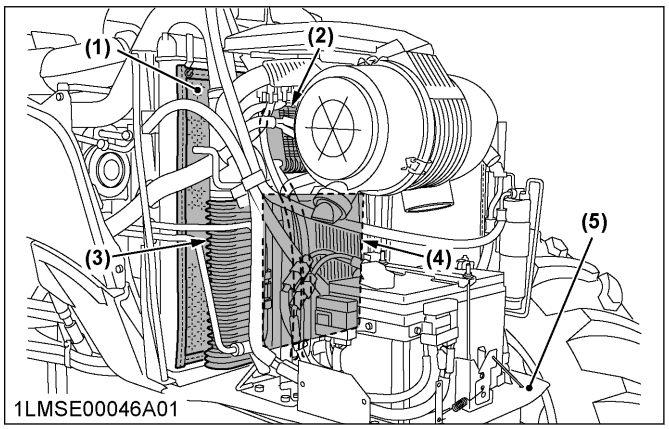
(1) コンデンサ
(2) レシーバ
(3) ハンドル
(4) 蝶ナット
(5) エアコンホース
(A) 引く

10.4 エンジン前周りの清掃

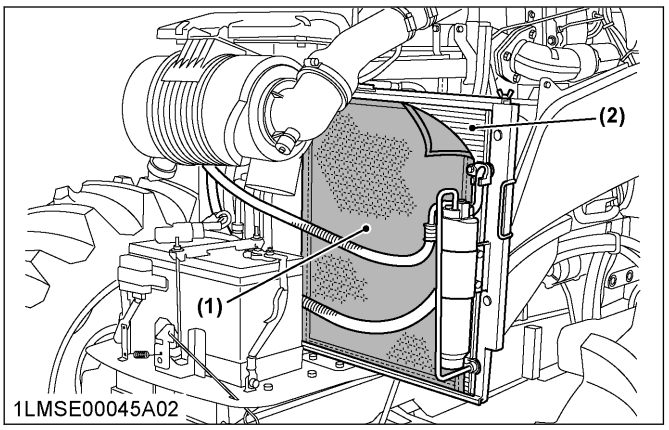
重要 :

- **高圧洗車機を使用する場合は、ラジエータやオイルクーラのフィンを損傷させないように注意してください。**

1. 防虫網を取外して、エアブローで清掃してください。
2. 防虫網にごみが詰まっている場合は、水道水などで取除いてください。



(1) 防虫網（ラジエータ用）
(2) 燃料クーラ
(3) インタークーラ
(4) オイルクーラ
(5) バッテリまわり



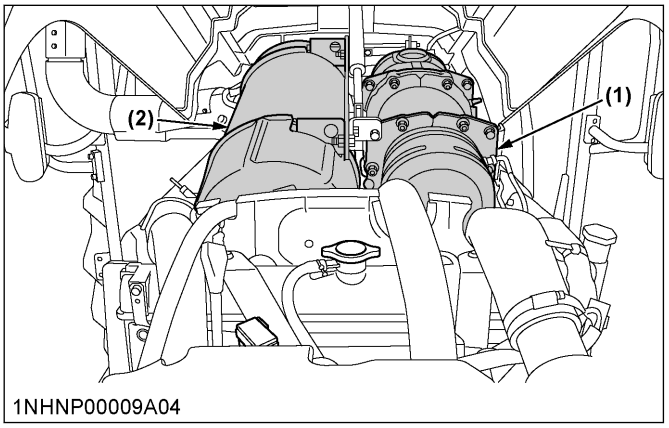
(1) 防虫網（コンデンサ用）
(2) エアコンコンデンサ

11. DPF と SCR の点検

警告

- **点検・清掃を行うときは、必ずエンジンを停止してじゅうぶん冷えてから行ってください。**

1. DPF マフラと尿素 SCR マフラの周辺に可燃物が堆積していないか点検してください。
   可燃物が堆積すると火災のおそれがあります。



(1) *DPF* マフラ
(2) 尿素 *SCR* マフラ

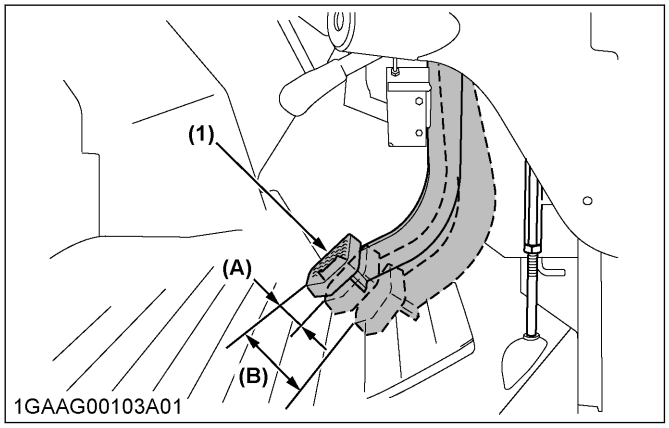
12. ブレーキペダルの遊びの点検

警告

- **ブレーキの調整が悪いと、人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。**

1. ペダルを踏んで遊び量が 30～45 mm かどうか、また左右ブレーキの踏込み量の差が 5 mm 以内かどうかを調べます。

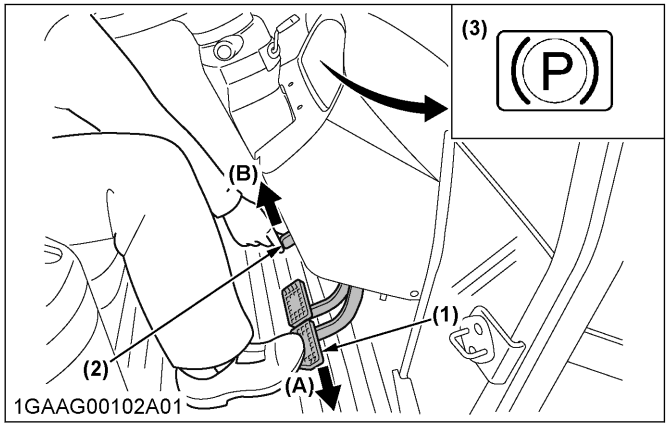
2. ブレーキのきき、片ぎきを調べます。
   調整のしかたはブレーキペダルの点検・調整（211 ページ）の項を参照。



(1) ブレーキペダル
(A) 遊び
(B) この位置での左右差 *5 mm* 以内（踏込み量）

13. 駐車ブレーキの作動点検

1. 連結解除ペダルを踏み込まないで、ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキレバーを引いたまま足をはなします。
   このとき、キースイッチが**[入]**位置では、電子メータの駐車ブレーキ警告灯が点灯します。
   駐車ブレーキが掛かります。



(1) ブレーキペダル
(2) 駐車ブレーキレバー
(3) 駐車ブレーキ警告灯
(A) 踏込む
(B) 引く

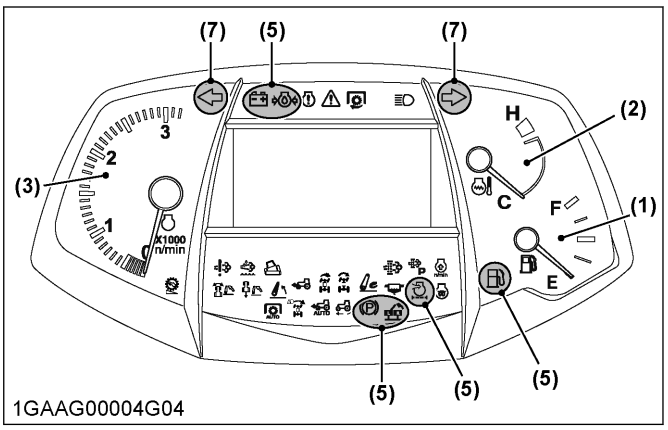
2. 駐車ブレーキを解除するときは、ブレーキペダルを踏み込みます。
   駐車ブレーキが解除されます。

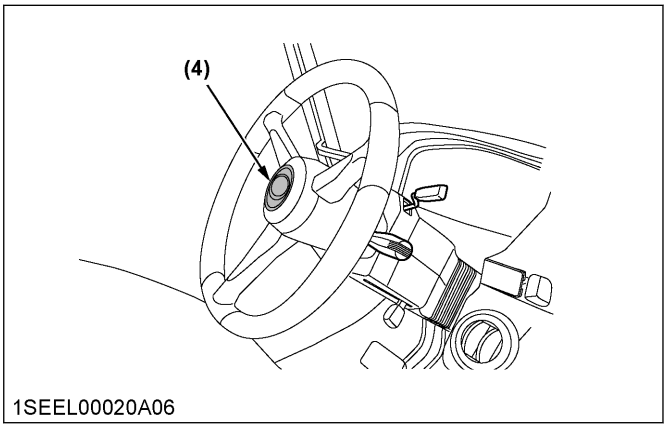
補足：

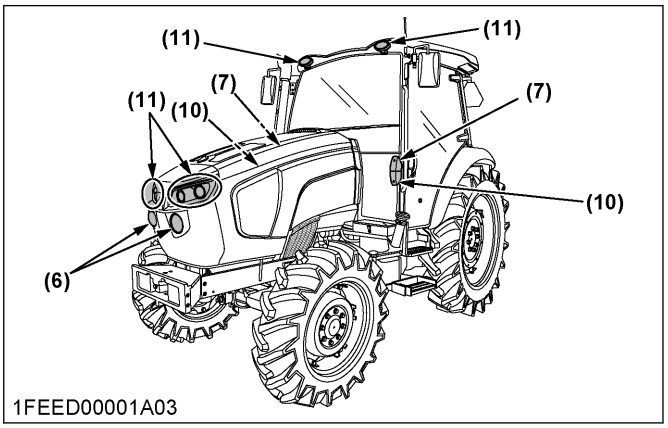
- **ブレーキ解除時、電子メータの駐車ブレーキ警告灯が消灯することを確認してください。**

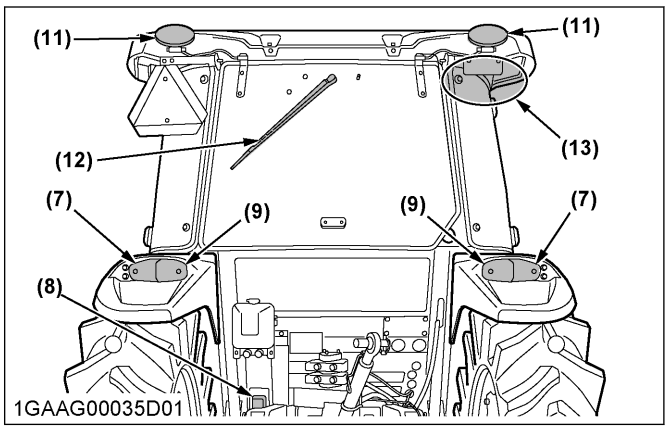
14. メータ・ランプ類の作動点検

1. 下記メータおよびランプ類が正しく作動するか点検してください。









(1) 燃料計
(2) 水温計
(3) エンジン回転計
(4) ホーン
(5) イージーチェッカ
(6) ヘッドライト
(7) ウインカ/ハザード（前・後）
(8) バックランプ
(9) 尾灯、ブレーキランプ
(10) 車幅灯
(11) 作業灯（前・後）
(12) ワイパ
(13) ウォッシャ

15. 燃料の補給時の注意点

⚠ 警告
- **燃料を補給するときは、エンジンを必ず停止してください。**
- **火気厳禁。**

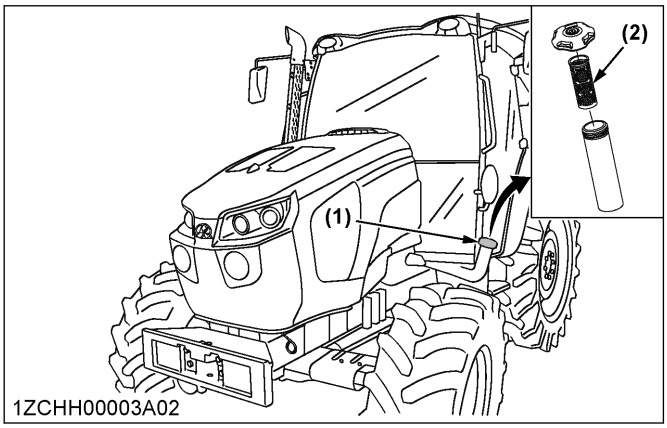
重要：
- **コモンレール仕様エンジンの燃料噴射部品は超精密仕上げになっています。これらの部品の作動不良を防ぐため、ドラム缶やホームタンクなどから燃料を補給される場合、水や砂など異物が混入しないようじゅうぶん注意してください。**
  また補給時は、こし網を外さないでください。
- **燃料キャップの空気穴が土やごみでふさがれていないか点検してください。**
- **補給後は、燃料キャップが締まっているか確認してください。**

補足：
- **尿素水タンクのキャップは青色です。**
  燃料タンクに尿素水(AdBlue)を入れないでください。また、尿素水タンクに軽油を入れないでください。

燃料には、超低硫黄ディーゼル軽油(S10)を使用してください。
ディーゼル軽油には次表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

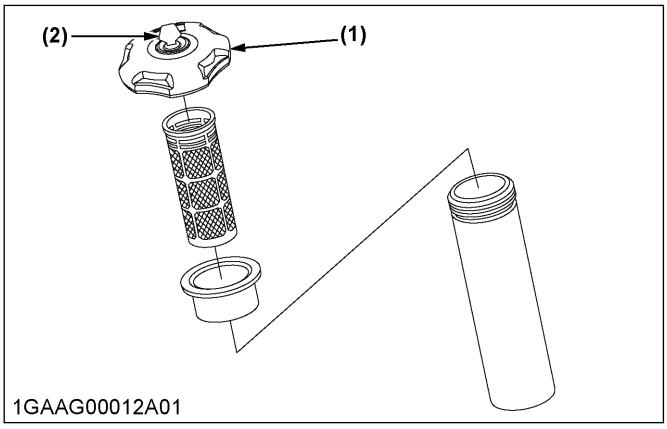
種類	超低硫黄ディーゼル軽油(S10)の流動点
特 1 号	＋ 5 ℃以下
1 号	−2.5 ℃以下
2 号	−7.5 ℃以下
3 号	−20 ℃以下
特 3 号	−30 ℃以下

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり、始動が困難になります。



(1) 燃料給油口
(2) こし網

燃料の盗難やいたずら防止のため、本機はキー付燃料タンクキャップを採用しています。



(1) 燃料タンクキャップ
(2) キー

16. 尿素水(AdBlue)の点検と補給

⚠ 警告
- **尿素水(AdBlue)を補給するときは、エンジンを必ず停止してください。また補給時は、保護めがねや手袋の装着を推奨します。**

⚠ 注意
尿素水(AdBlue)の取扱いに関して、次の点にご注意ください。

- **目に入ったときは、すぐに大量の水で 15 分以上洗い流し、医師の診断を受けてください。**
- **絶対に飲まないでください。**
  誤って飲んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。
- **皮膚に付着したときは、すぐに水で洗い流してください。**
  まれに皮膚を刺激する場合があります。
- **衣服や靴にかかったときは、すぐに洗い流してください。**
  そのまま拭き取ったり、乾かしたりすると、白い残留物が残ります。

詳細については、尿素水(AdBlue)の購入先から安全データシート(SDS)を入手してご確認ください。

重要：

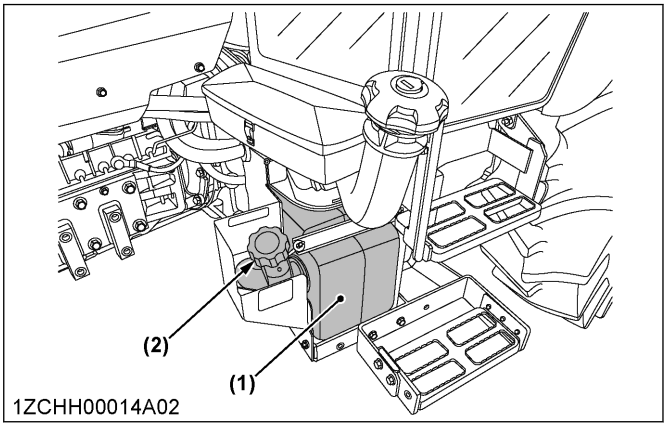
- **ISO 22241-1 規格に適合した尿素水(AdBlue)を使用してください。**
- **尿素水タンク内に軽油など、尿素水(AdBlue)以外のものを微量でも混入してエンジンを始動すると、尿素 SCR システムが故障します。エンジンを始動させず、すぐに購入先に連絡してください。**
- **尿素水タンク内に軽油など、尿素水(AdBlue)以外のものを混入した場合、保証対象外となります。修理、メンテナンスにかかる費用はお客様負担となりますのでご注意ください。**
- **尿素水タンクのキャップを外す時、尿素水タンクに泥や異物が混入しないよう注意してください。**
  尿素水タンクの吸引フィルタが詰まったり、尿素水(AdBlue)の品質が下がったりし、SCR システムの故障になる可能性があります。
- **上記のように尿素水(AdBlue)の汚染が発生した場合は、購入先に SCR システムの点検を依頼してください。**
  必要に応じて修理や分解が必要になります。
- **尿素水タンクの上に立ったり、物を置いたりしないでください。尿素水タンク、パイプ、センサーが損傷する場合があります。**
- **エキゾーストパイプおよびマフラを改造しないでください。尿素水タンクの位置を変更しないでください。**
  排ガス浄化機能に悪影響を及ぼします。
- **尿素水(AdBlue)が尿素水タンクの補給口に付着し乾いた場合、白い粉が出てくることがありますが、これは異常ではありません。尿素水タンク内に入らないように注意して拭き取ってください。**

電子メータのレベルゲージで残量を確認し、少ない時は尿素水(AdBlue)を補給してください。尿素水タンクのキャップを外す前に、キャップの汚れやキャップの周辺にたまっている汚れを除去してください。
尿素水(AdBlue)の残量が少なくなると尿素水(AdBlue)残量警告インジケータが点灯し、ブザーが鳴ります。そのまま運転を続けると、エンジン出力が約 50%に制限されます。さらに運転を続けるとエンジンがアイドリング状態になります。
（詳細は、SCR の警告情報一覧と対応（56 ページ）参照）

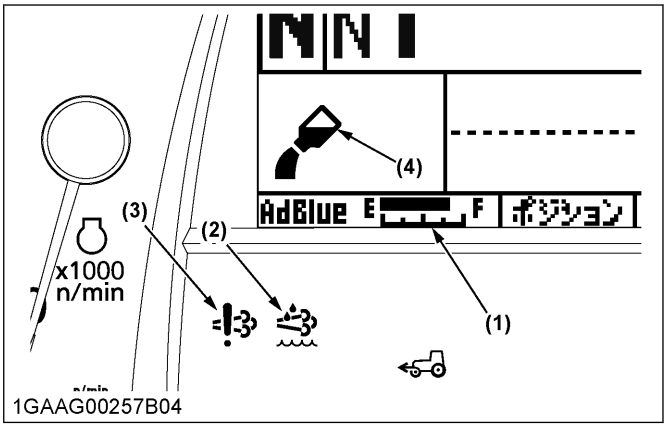
SCR システムの性能を維持するため、燃料補給のたびに尿素水タンクに尿素水(AdBlue)を規定量まで補給することを推奨します。

補足：

- **尿素水タンクのキャップは青色です。燃料タンクに尿素水(AdBlue)を入れないでください。また、尿素水タンクに軽油を入れないでください。**
- **尿素水(AdBlue)をこぼした場合は、すぐに水道水で洗い流してください。そのまま放置すると、金属部が錆びたり、塗装面が腐食する可能性があります。また、樹脂部分やゴム部品が変形する可能性があります。**



(1) 尿素水タンク
(2) 尿素水タンクキャップ（青色）



(1) 尿素水*(AdBlue)*ゲージ
(2) 尿素水*(AdBlue)*インジケータ
(3) *SCR* システム警告灯
(4) 尿素水*(AdBlue)*残量警告

尿素水タンク容量	12.9 L

日常点検［ハーフクローラ仕様］

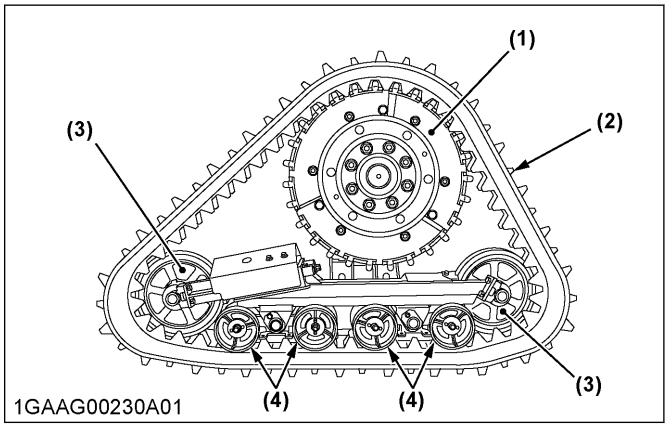
メンテナンスを行うことで、ハーフクローラ機の寿命アップと当用機のトラブルを未然に防ぐことができます。
日常点検箇所一覧［ハーフクローラ仕様］（205 ページ）に従ってメンテナンスを実施してください。
交換要領の詳細についてや、不具合があれば、購入先にご連絡ください。

また、ハーフクローラ機を安心してご使用いただくため、1 年に 1 度の入庫定期点検をおすすめします。

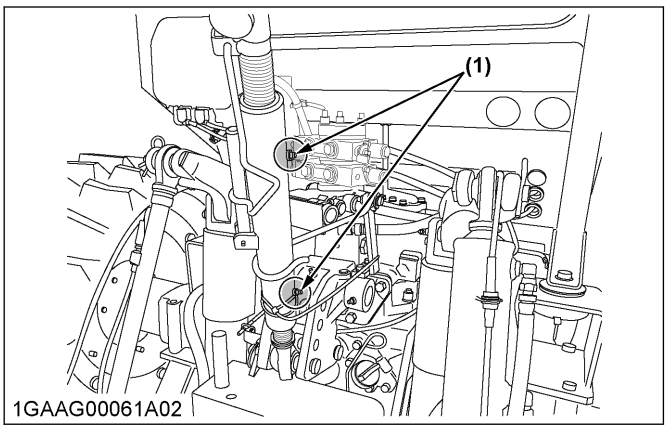
1. 日常点検箇所一覧[ハーフクローラ仕様]

次表に従ってメンテナンスを実施してください。

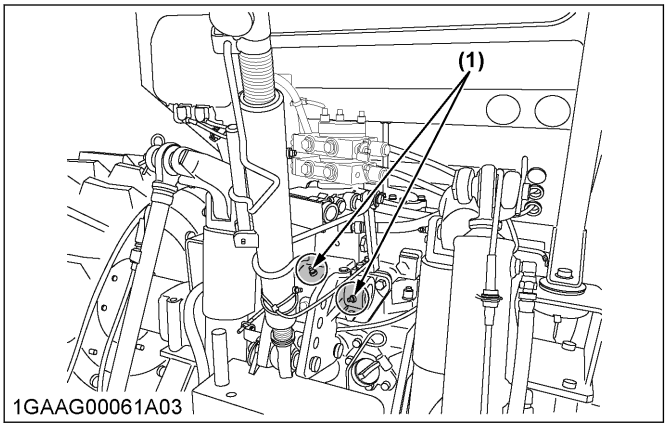
点検箇所	点検内容
ゴムクローラ	• クローラの張りは適正ですか。ゴムクローラの張り調整（226 ページ）の項を参照。 • クローラに大きな損傷はありませんか。
ローラ アイドラ スプロケット	• 草の巻付き、石のかみこみ、泥の付着はありませんか。 • 極端な摩耗、偏摩耗はしていませんか。
ローラ アイドラ	• オイルもれはありませんか。オイルもれがある場合は、購入先にて点検を受けてください。
各部のボルト・ナット	• 緩みはありませんか。
揺動部 ヨーク摺動部	• グリースアップを適宜行なってください。使用条件により異なりますが、目安は 50 時間ごとです。



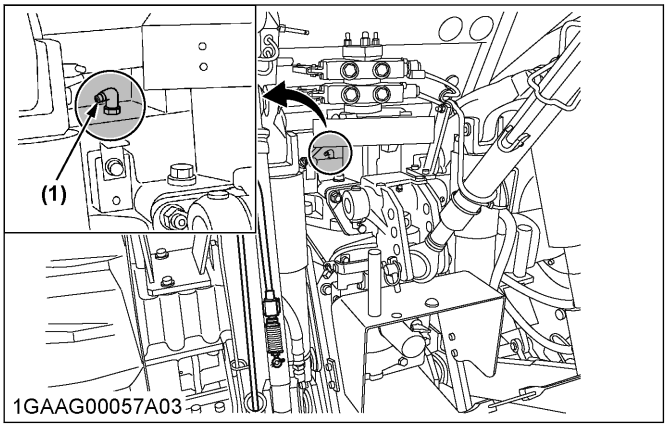
(1) スプロケット
(2) ゴムクローラ
(3) アイドラ
(4) ローラ



(1) トップリンク



(1) トップリンクブラケット



(1) 油圧アーム軸

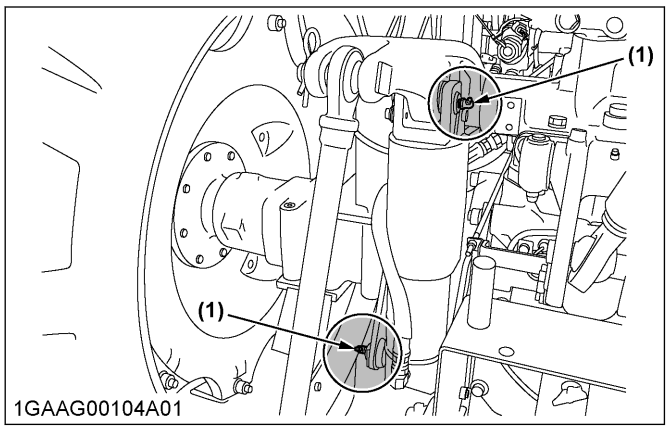
50 時間ごとの点検・整備

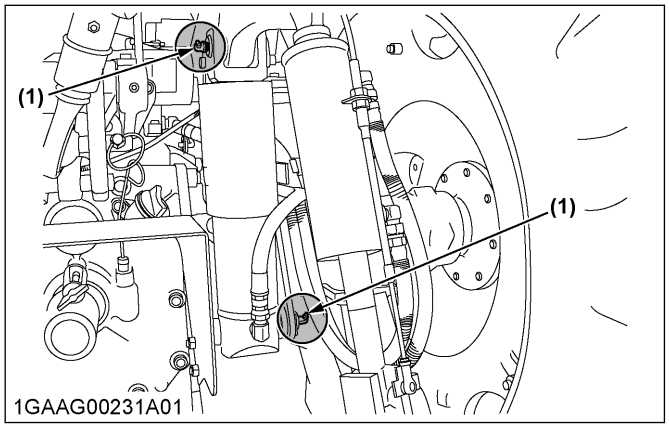
1. グリースの注入

グリースは、**推奨グリース**を使用してください。
グリースポンプは手動のハンドガン式のものを使用してください。高圧のエアーポンプ式のものは使用しないでください。

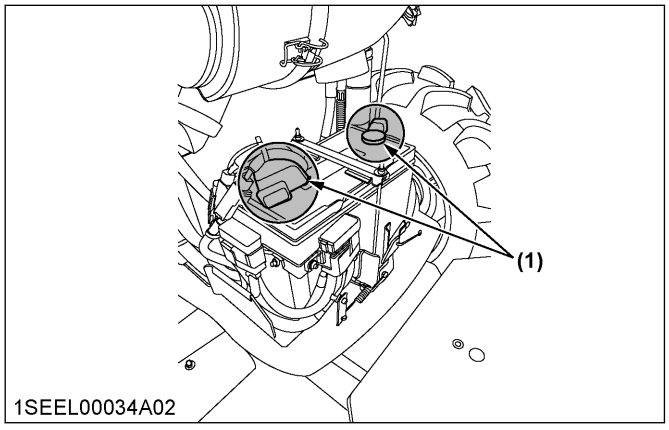
代かき作業などで泥水の中に入ったときは、1 日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。

1. 図で示された箇所にグリースを注入します。

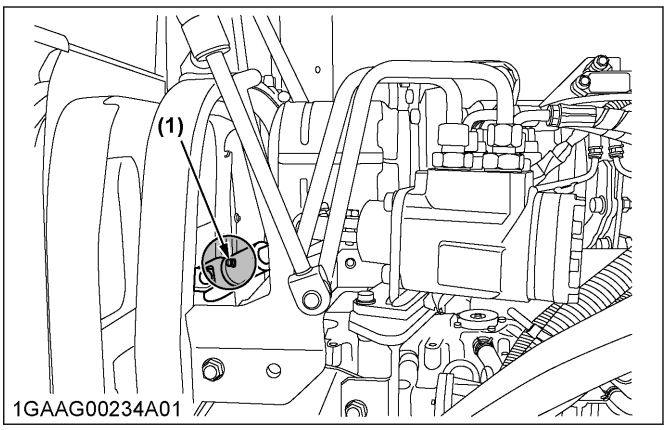




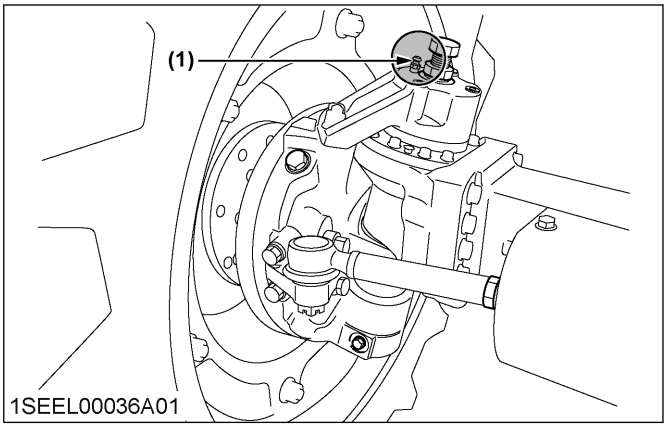
(1) 油圧シリンダ



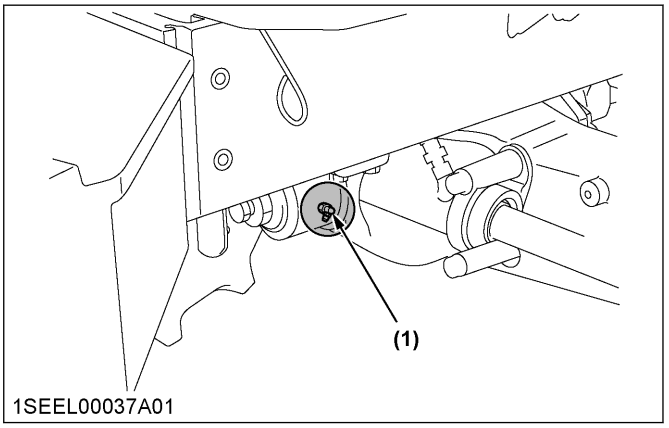
(1) バッテリターミナル



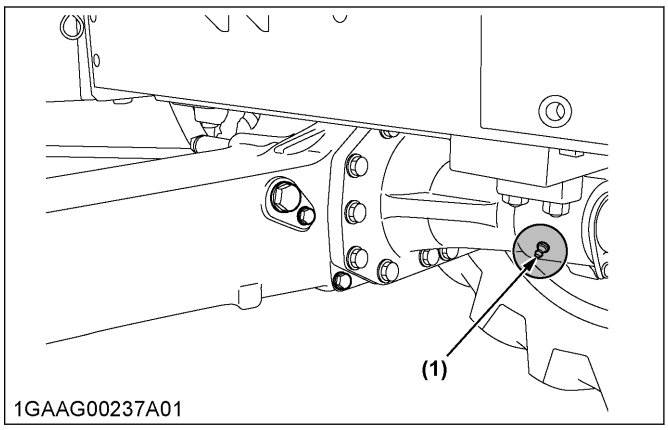
(1) ステアリングジョイント軸



(1) 前輪ケースサポート（左・右）



(1) 前車軸受（前）



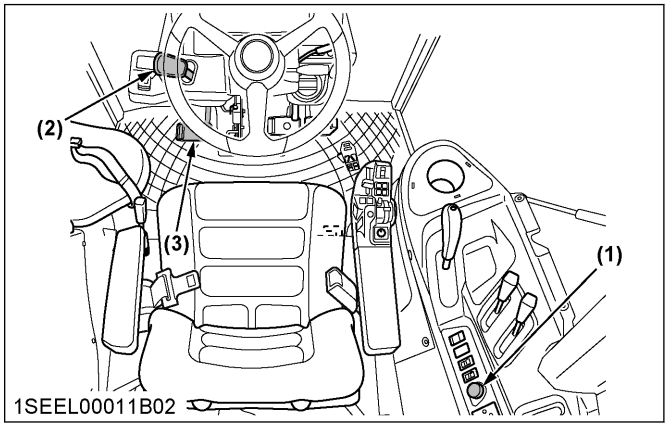
(1) 前車軸受（後）

2. エンジン始動システムの点検

⚠ 警告

- **点検中、トラクタに人を近づけないようにしてください。**
- **装置に異常があれば必ず整備をした後、ご使用ください。**

1. 運転席に座り、シャトルレバーを中立（**[N]**）、PTO スイッチを**[切]**にします。
2. 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止します。
3. アクセルレバーを最低速位置にします。
4. クラッチペダルをいっぱい踏み込み、キースイッチを瞬時**[始動]**位置に回します。
   このとき、エンジンが回れば正常です。
5. キースイッチを**[切]**位置にしてエンジンを停止します。
6. シャトルレバーを前進（**[F]**）または後進（**[R]**）または PTO スイッチを**[入]**にし、キースイッチを瞬時に**[始動]**位置に回します。
   このとき、エンジンが回らなければ正常です。
   もし、不良の場合は、購入先へご相談ください。



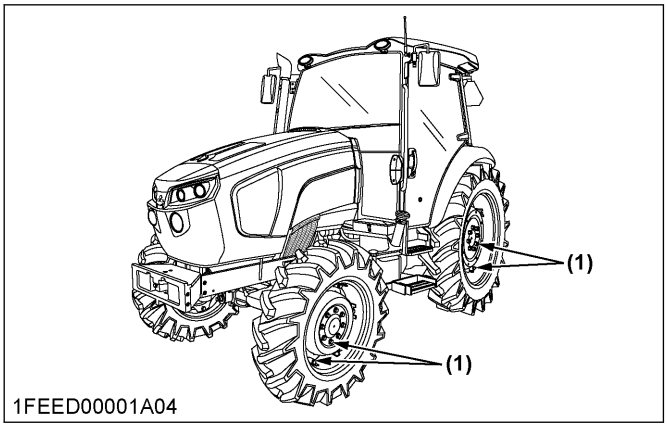
(1) *PTO* スイッチ
(2) シャトルレバー
(3) クラッチペダル

3. タイヤ取付けボルトの点検

⚠ 警告

- **タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。ゆるんだまま走行すると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。**

1. 図で示された箇所のタイヤ取付けボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。



(1) ボルト、ナット

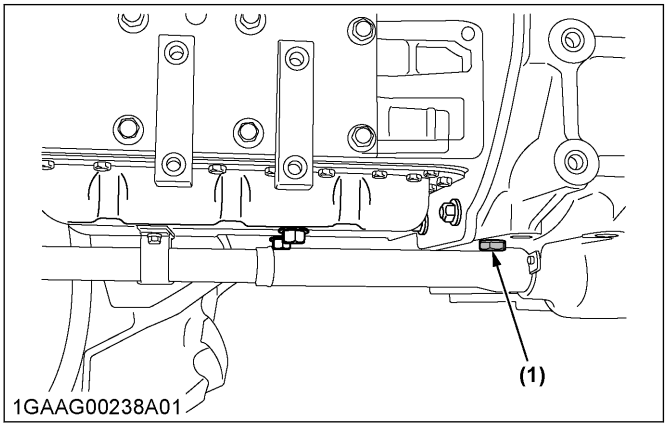
締付けトルク

前輪	後輪
234～274 N·m （23.9～28.0 kgf·m）	309～362 N·m （31.5～36.9 kgf·m）

4. クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで、クラッチハウジングに多量の水がかかった場合、または 50 時間使用ごとにクラッチハウジングの水抜きをします。

1. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して、水の浸入がないことを確認してください。



(1) ドレーンプラグ

2. もし水が入っていれば、完全に抜いて、内部をよく乾燥してください。

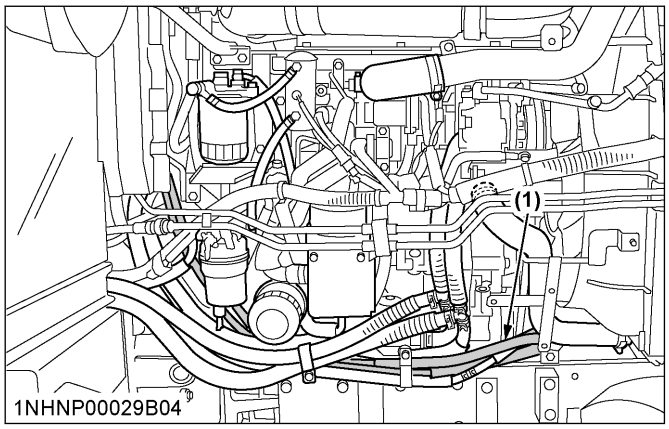
5. パワーステアリングホースの点検･交換

⚠ 警告

- **ホースの傷みは、必ず点検してください。ホースが破損しハンドル操作ができなくなり、死傷事故を引き起こすおそれがあります。**

ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。4 年ごとにまたは傷んだときには、ホースを新品と交換する必要があります。

1. パワーステアリングホースが傷んでいないか点検してください。異常があれば交換・整備を行ってください。
2. 交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



(1) パワーステアリングホース

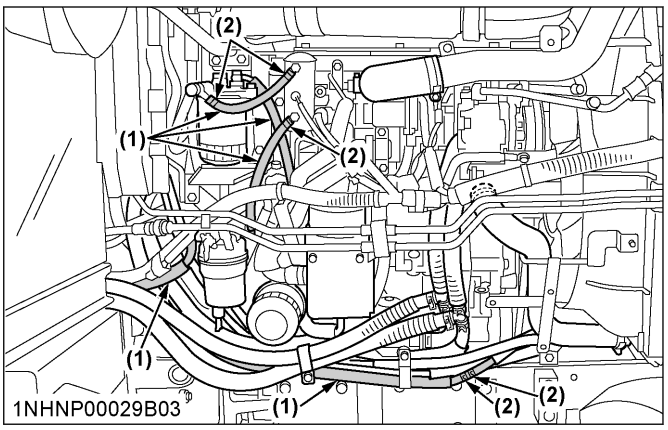
6. 燃料ホースの点検・交換

⚠ 警告

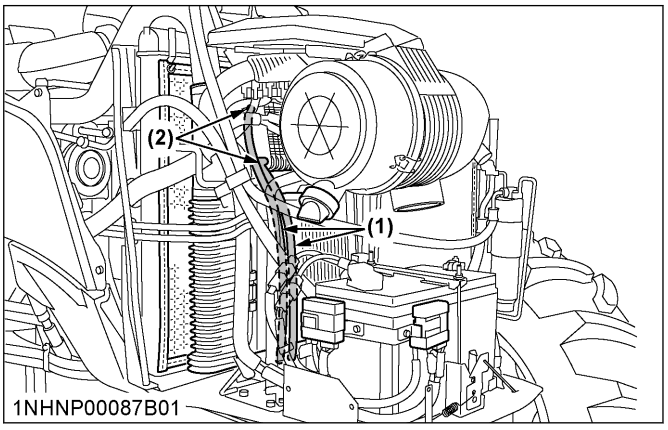
- **ホース類の傷みや締付けバンドのゆるみは、必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行ってください。**
  燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。4 年ごとにまたは傷んだときには、締付けバンドと共にホースを新品と交換する必要があります。

1. 燃料ホースや締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか点検してください。異常があれば交換・整備を行ってください。
2. 交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



(1) 燃料ホース
(2) 締付けバンド



(1) 燃料ホース
(2) 締付けバンド

100 時間ごとの点検・整備

1. バッテリ電解液の点検

⚠ 危険

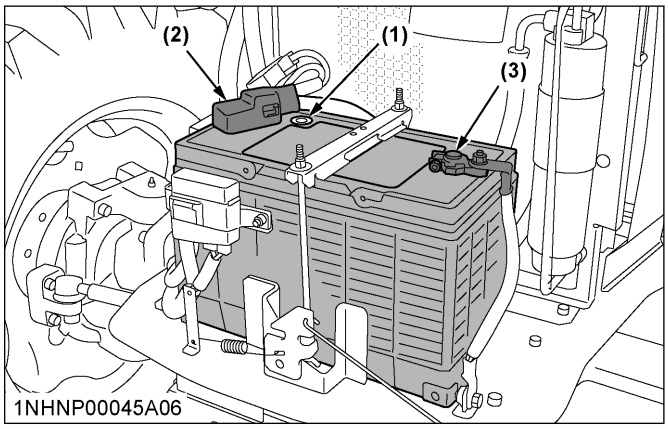
- **バッテリ液は希硫酸なので扱いにはじゅうぶん注意し、身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は、すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。**
- **バッテリの点検および取り外し時は、エンジンを必ず停止し、キースイッチを[切]位置にしておいてください。**
- **バッテリを取り外すときは、短絡（ショート）事故を防ぐため、最初にバッテリ（−）コードを外し、接続するときは、最後にバッテリ（−）コードを接続してください。**
- **バッテリを充電しているときは、タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中、可燃性ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。**

重要：

- **バッテリ液が不足するとバッテリを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。**

バッテリは補水不要のタイプを使用しています。

1. 上面のインジケータの表示状態を点検します。



(1) インジケータ
(2) （+）コード
(3) （−）コード

インジケータ表示状態

緑	電解液比重、電解液量共に良好です。
黒	要充電です。 11 A の普通充電電流で補充充電を行なってください。
白	交換が必要です。

2. インジケータの表示状態により補充電が必要なときは、バッテリを取外します。
（詳細はバッテリの取付け・取外し時の注意点（209 ページ）を参照）
3. バッテリを補充電します。
（詳細はバッテリの補充電のしかた（209 ページ）を参照）

1.1 バッテリの取付け・取外し時の注意点

⚠ 警告

- **バッテリを取り外すときは、バッテリ（−）コードを最初に外し、次に（+）コードを外してください。**
- **取り付けるときは、必ず（+）側から取り付けます。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。**

重要：

- **新品のバッテリと交換する場合には必ず指定の純正バッテリを使用してください。**

交換用バッテリ品番	呼称
99990000170	31-900(BCI サイズ-CCA)

- **バッテリを外し、再度取付けるときにはバッテリの（+）、（−）のコードを元どおりに配線し、まわりに接触しないように締付けてください。**

1.1.1 エンジン停止時の尿素 SCR システムの注意

キースイッチを**[切]**位置にしてエンジンを停止すると、SCR システムが自動でシステムを冷却し、尿素水(AdBlue)を配管から抜取ります。
バッテリまたは主要な電気接続を点検、修理または長期保管のためにバッテリ回路を切断するときは、SCR システムがこの機能を完了するまで少なくとも 15 分間待ってください。この機能の完了前にバッテリを外すとシステムエラーやシステム機器の損傷が起こる場合があります。
エンジンの停止後に、SCR システム（例えば尿素水タンクまたは尿素水ポンプ）から作動音が継続して聞こえることがあります。これは、SCR システムの冷却と尿素水(AdBlue)を配管から抜取る機能の作動音であり異常ではありません。

1.2 バッテリの補充電のしかた

⚠ 危険

- **バッテリを充電しているときは、タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中、可燃性ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。**

バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電は行わないでください。

1. バッテリコードを充電器に接続します。
（+）と（−）をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
バッテリの（+）を充電器の（+）に、バッテリの（−）を充電器の（−）にそれぞれ接続します。
2. 充電は、急速充電ではなく、普通充電を行ってください。

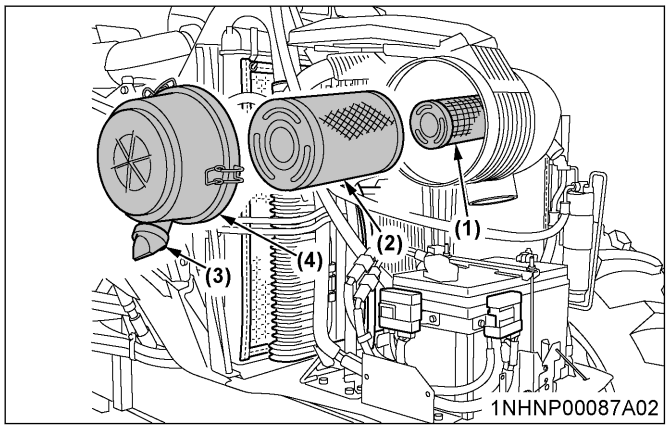
2. ダブルエアクリーナエレメントの清掃

重要：

- **エレメントは、清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。**
- **乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用しないでください。**
- **清掃時、エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し、エンジンを損傷することがあります。変形したときは、すぐに新しいエレメントと交換してください。**
- **ダストカップの（ ⬆ マーク）を必ず上向きになるように取り付けてください。**

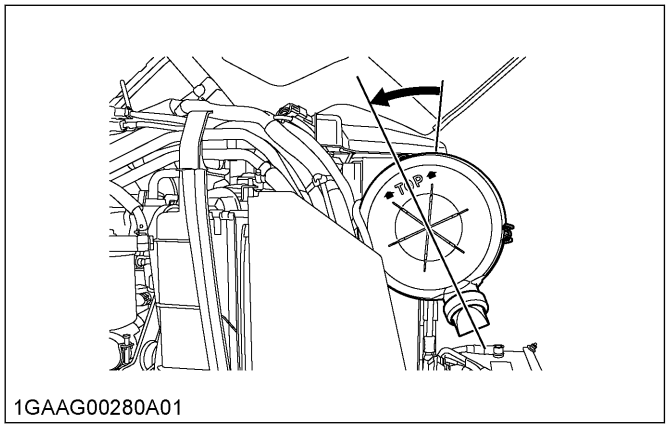
1. ダストカップを外します。

2. アウターエレメント、バキュエータバルブを外します。
   インナーエレメントは交換時以外は外さないでください。



(1) インナーエレメント
(2) アウターエレメント
(3) バキュエータバルブ
(4) ダストカップ

3. アウターエレメント、バキュエータバルブを清掃します。
   アウターエレメントの清掃・交換（210 ページ）、バキュエータバルブの清掃（210 ページ）を参照。
4. アウターエレメント、バキュエータバルブを取り付けます。
5. ダストカップは次図の角度になるように組み付けてください。



2.1 アウターエレメントの清掃・交換

1. 乾いたちりやほこりの場合は、エレメントを傷めないように注意しながら、エアで吹き飛ばしてください。（エアの圧力は 205 kPa (2.1 kgf/cm^2)を越えないように注意し、ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。）
2. エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は、中性洗浄剤をご使用ください。

アウターエレメントの交換
アウターエレメントは、1 年間使用後、または 6 回掃除ごとに交換が必要です。

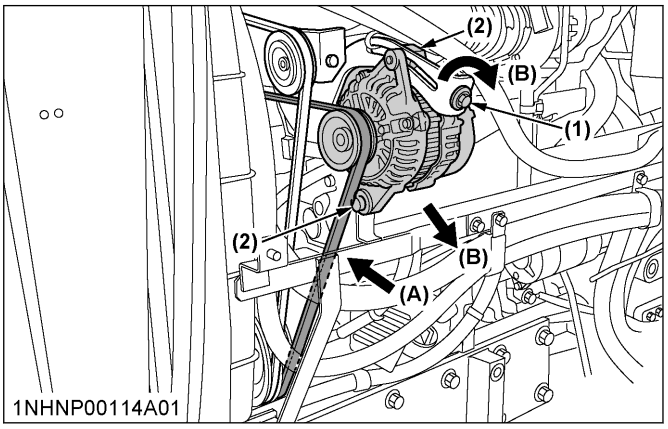
2.2 バキュエータバルブの清掃

1. バキュエータバルブを開きます。
2. 大きなごみを取り除いてください。

3. ファンベルトの点検・調整

⚠ 警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**

重要：
- **ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。**
- **ファンベルトにき裂やはがれがあれば交換してください。**



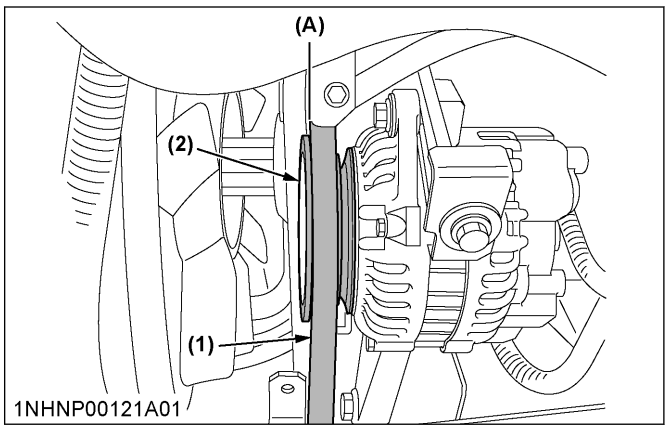
(1) 調整ボルト
(2) オルタネータ取付けボルト
(A) 押す
(B) 張る

1. ファンベルトの張り強さが適正か点検します。

適正張り強さ	ベルトの中央部を 10 kgf の荷重で押えて、約 6~8 mm たわむ程度

2. ファンベルトの張り強さが適正でないときは、調整します。

ファンベルトの調整方法
1. オルタネータ取付けボルトをゆるめます。
2. ベルトの張りを調整する前に、ベルトをオルタネータプーリーの先端にそろえます。



(1) ベルト
(2) オルタネータプーリー
(A) プーリーの先端

3. 調整ボルトで張ります。
4. オルタネータ取付けボルトを締めます。

4. ブレーキペダルの点検・調整

⚠ 警告

- **点検・調整をするときは、必ずエンジンを止めて行ってください。**
- **ブレーキの調整が悪いと、人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。**
- **調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず 5 mm 以内にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。ブレーキが片ぎきになると、死傷事故を引き起こすおそれがあります。**

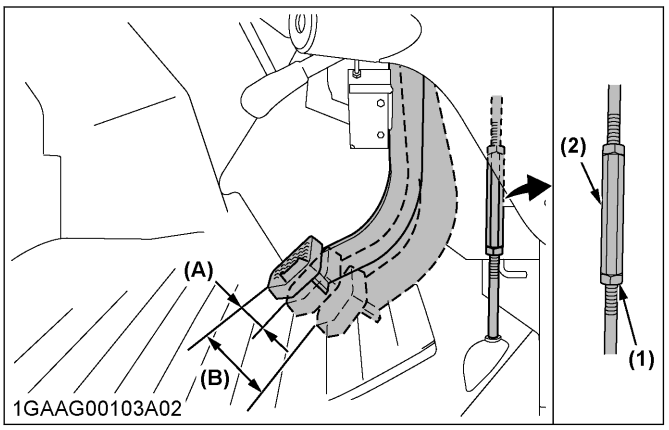
1. ブレーキペダルの遊び量が適正か点検します。

適正遊び量	ペダルで 30 mm～45 mm

2. ブレーキペダルの遊び量が適正でないときは調整します。
ブレーキペダルの調整方法（211 ページ）参照。

4.1 ブレーキペダルの調整方法

1. 駐車ブレーキを解除します。
2. ロックナットをゆるめターンバックルを回して、ペダルの遊びを調整します。
3. 調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。
4. ブレーキペダルを踏み込んだとき、駐車ブレーキレバーが確実に作動するか確認してください。



(1) ロックナット
(2) ターンバックル
(A) 遊び
(B) この位置でのペダルの左右差 *5 mm* 以内（踏込み量）

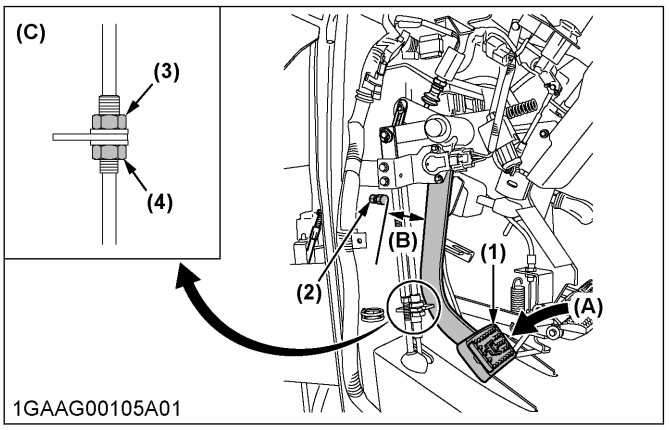
5. クラッチペダルの点検・調整

重要 :

- **クラッチの調整が悪いと、クラッチ切れ不良や、スリップを起こし損傷につながります。**

1. クラッチペダルを手で軽く押し、ペダルと当りボルトのすき間が適正であるか点検します。

当りボルトとペダルのすき間の適正な値	10 mm～12 mm

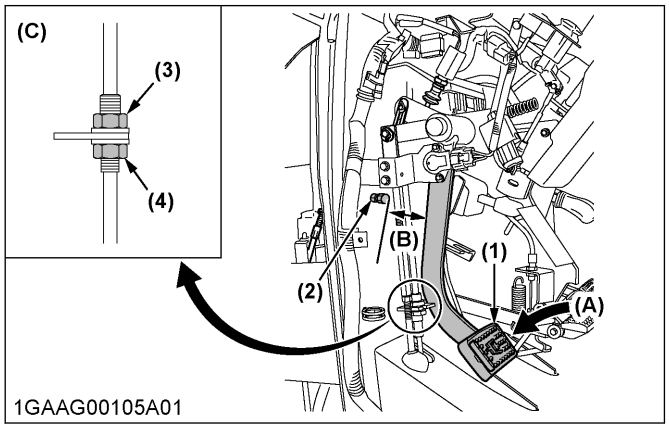


(1) クラッチペダル
(2) 当りボルト
(3) ナット（運転席側）
(4) ナット（ボンネット側）
(A) 押す
(B) すき間
(C) 断面図

2. すき間が適正でなければ、調整します。
クラッチペダルの調整方法（212 ページ）参照。

5.1 クラッチペダルの調整方法

1. ボンネット側のナットをスパナで固定した状態で、運転席側のナットで調整してください。



(1) クラッチペダル
(2) 当りボルト
(3) ナット（運転席側）
(4) ナット（ボンネット側）
(A) 押す
(B) すき間
(C) 断面図

6. エンジンの始動確認

- エンジンを始動し、かかり具合、異音がないかを確認してください。
- アクセルペダルを操作し、加速・減速がスムーズか確認してください。

7. エンジンの排気状態の確認

1. エンジンを始動し、排気色に異常がないか確認してください。
（詳細はエンジンの不調と処置（235 ページ）を参照）

8. エキゾーストパイプおよびマフラの状態の確認

- エキゾーストパイプ、マフラに破損、取付けボルトのゆるみなどがないか確認してください。
- 排気音に異常がないか確認してください。

200 時間ごとの点検・整備

1. ラジエータホースの点検・交換

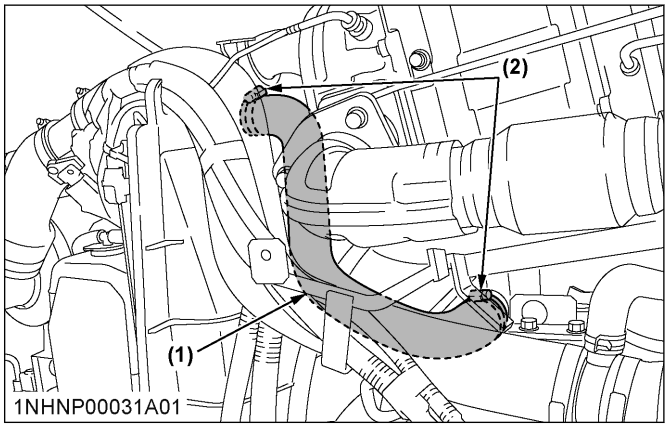
⚠ 警告

- **ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行ってください。熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。**

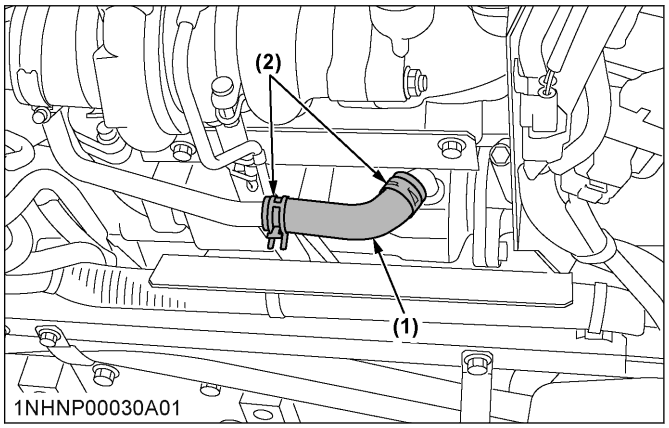
ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。4 年ごとにまたは傷んだときには、締付けバンドと共にホースを新品と交換する必要があります。

1. ラジエータホースや締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか点検してください。異常があれば交換・整備を行ってください。

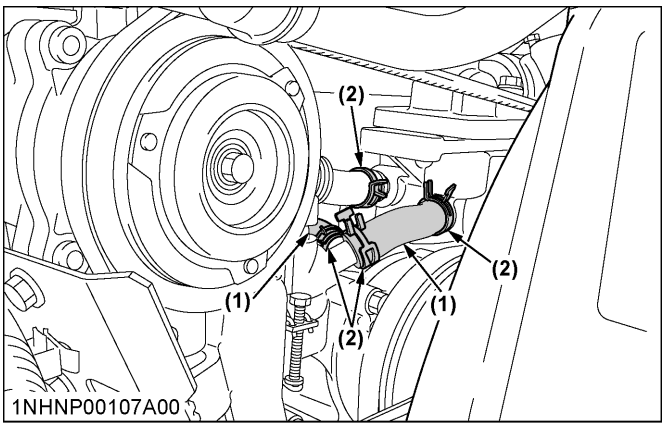
2. 交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。

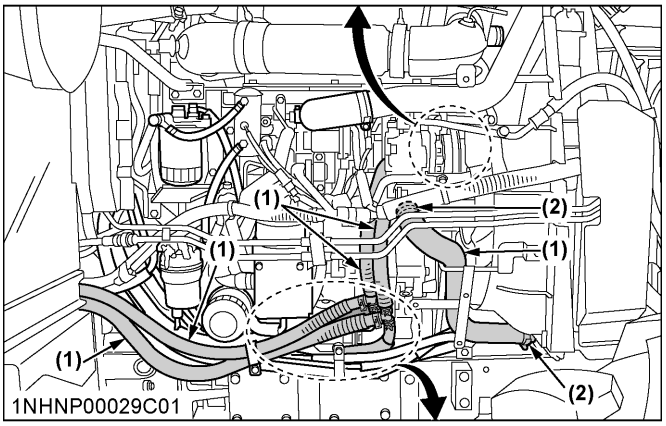


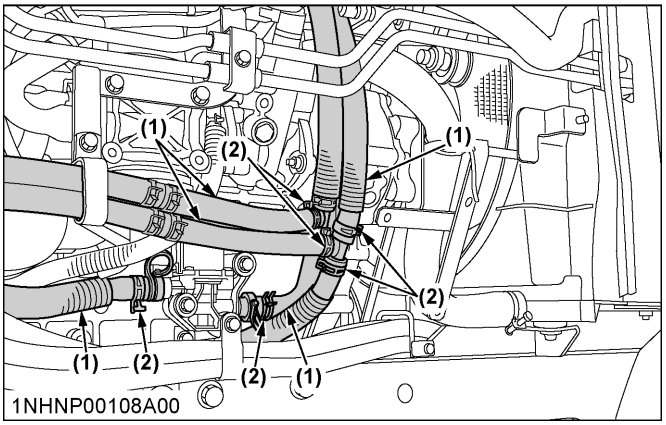
(1) ラジエータホース
(2) 締付けバンド



(1) ラジエータホース
(2) 締付けバンド







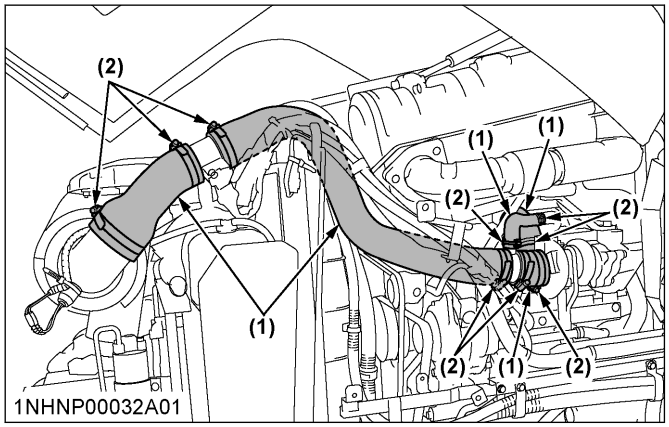
(1) ラジエータホース
(2) 締付けバンド

2. 吸気ホースの点検・交換

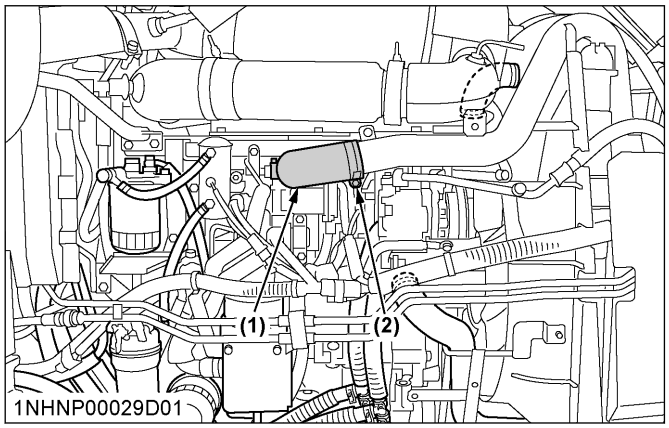
ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。4 年ごとにまたは傷んだときには、締付けバンドと共にホースを新品と交換する必要があります。

1. 吸気ホースや締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか点検してください。異常があれば交換・整備を行ってください。

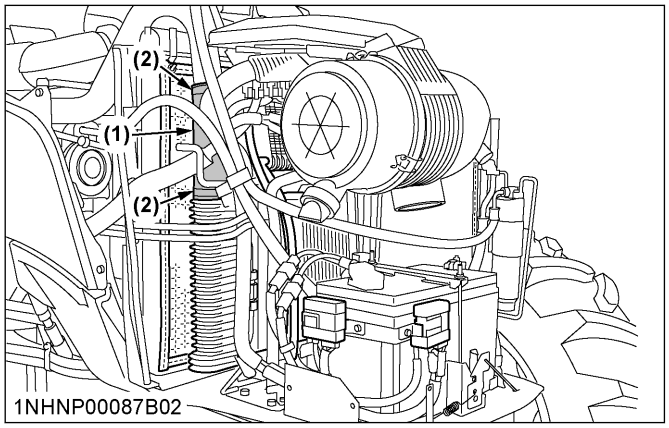
2. 交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



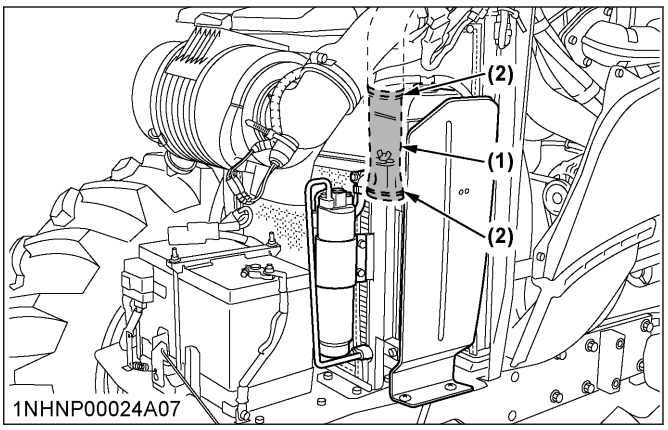
(1) 吸気ホース
(2) 締付けバンド



(1) 吸気ホース
(2) 締付けバンド



(1) 吸気ホース
(2) 締付けバンド



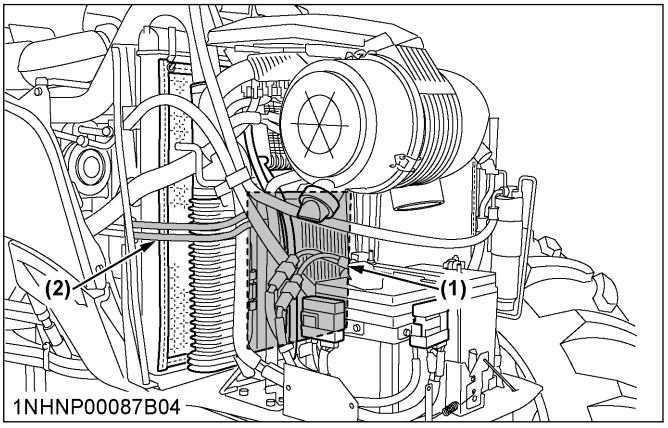
(1) 吸気ホース
(2) 締付けバンド

3. オイルクーラホースの点検・交換

ホースが傷んでないか常に注意してください。

オイルクーラホースなどのゴム製品は、使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に 4 年ごとにまたは傷んだときには新品と交換する必要があります。

1. ホースや締付けバンドがゆるんだり、傷んでないか点検してください。
2. 交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



(1) オイルクーラホース
(2) 締付けバンド

4. 油圧オイルフィルタカートリッジの交換

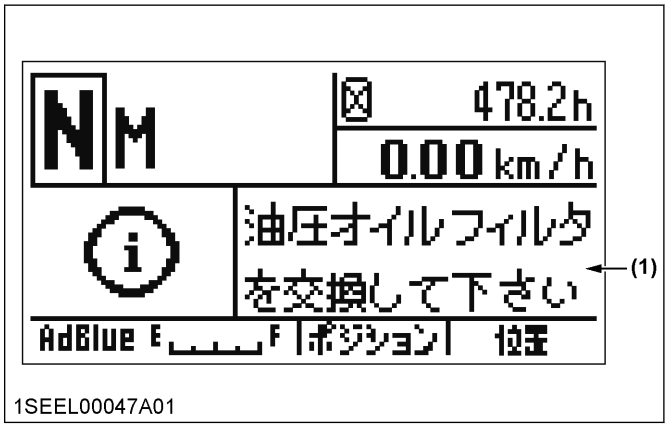
⚠ 警告

- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

重要：

- **油圧オイルフィルタが目詰まりするとインジケータに油圧オイルフィルタ交換のメッセージが約 5**

秒間表示されますので、早めに油圧オイルフィルタを交換してください。

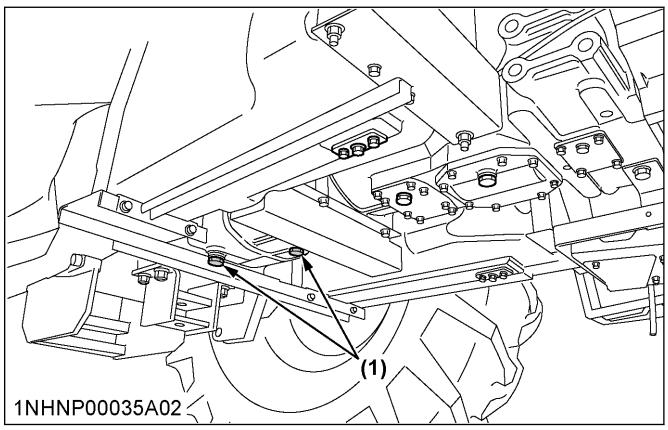


1SEEL00047A01

(1) メッセージ

純正部品のカートリッジと交換してください。

1. ドレーンプラグを外してオイルを容器に排出します。

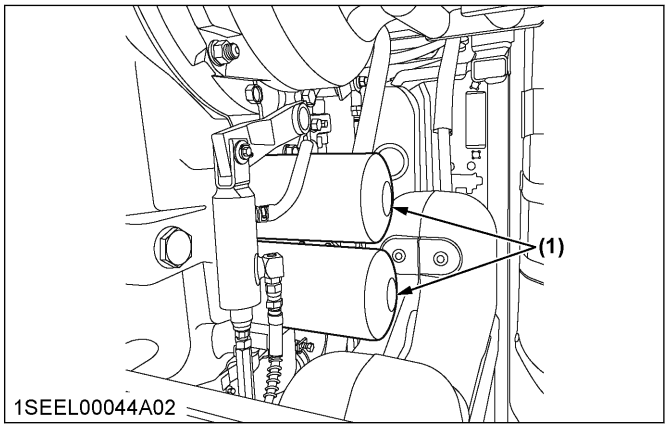


1NHNP00035A02

(1) ドレーンプラグ

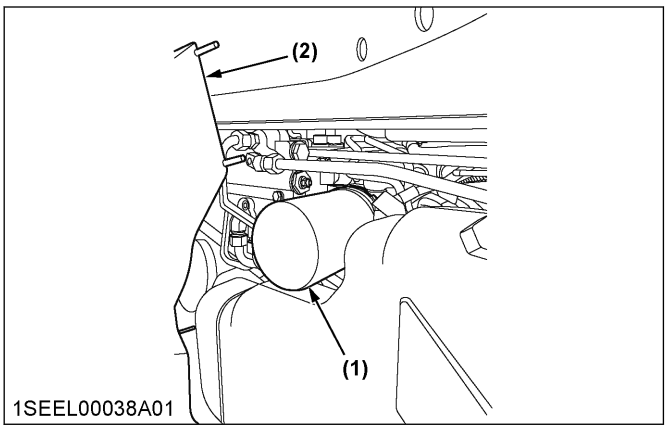
2. ドレーンプラグを取り付けた後に、フィルタレンチでフィルタカートリッジを取外します。

車体右側後輪付近の車体下部図



1SEEL00044A02

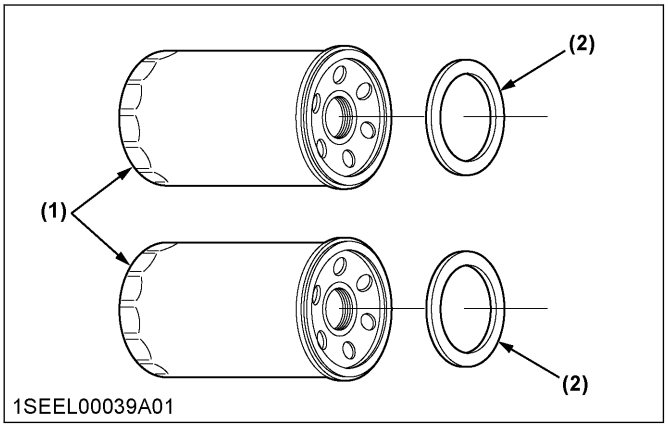
(1) 油圧オイルフィルタカートリッジ



1SEEL00038A01

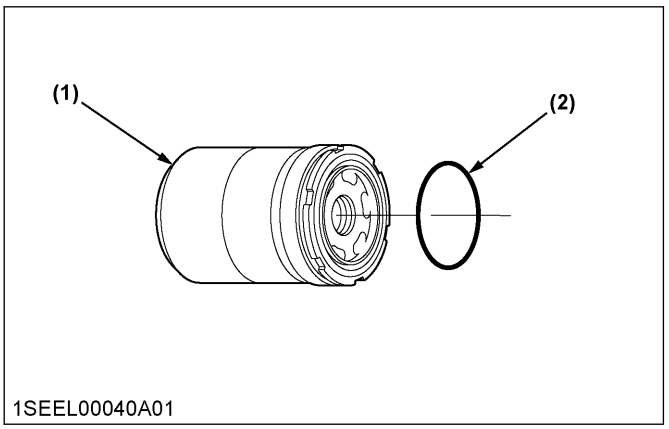
(1) 油圧オイルフィルターカートリッジ*(HST)*
(2) 車体右側後輪

3. カートリッジを外して中のマグネットフィルタに付着したごみをふき取ります。



1SEEL00039A01

(1) 油圧オイルフィルタカートリッジ
(2) マグネットフィルタ



1SEEL00040A01

(1) 油圧オイルフィルターカートリッジ*(HST)*
(2) マグネットフィルタ

4. 新しいカートリッジの O リングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
5. ミッションオイルを規定量まで補給します。
6. 約 2 分間運転し、作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。

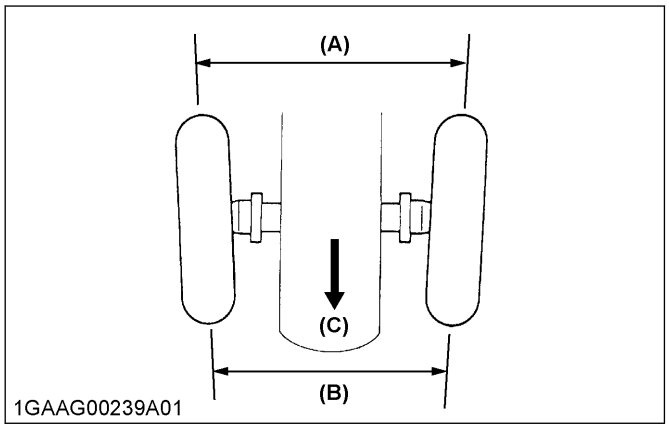
7. 再びオイルゲージで油面を確認し、不足していれば補給してください。
   ミッションオイルの抜き方、補給のしかたはミッションオイルの交換（220 ページ）を参照してください。

5. トーインおよびタイロッドの点検･タイロッドのトーイン調整

⚠ 警告
- **トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られたり、異常に振れることがあります。**

補足：
- **トーインの点検・調整時、タイロッドエンド（関節球）やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。**
- **標準空気圧で、トーインの点検・調整を行ってください。**
- **測定はタイヤ高さの 1/2、タイヤ幅の中央部間を測ります。**

1. 前輪の前幅(B)と後幅(A)を測り、(A)の値が(B)の値より大きいトーイン状態であることを点検し、また、その差分が基準値であるか点検します。



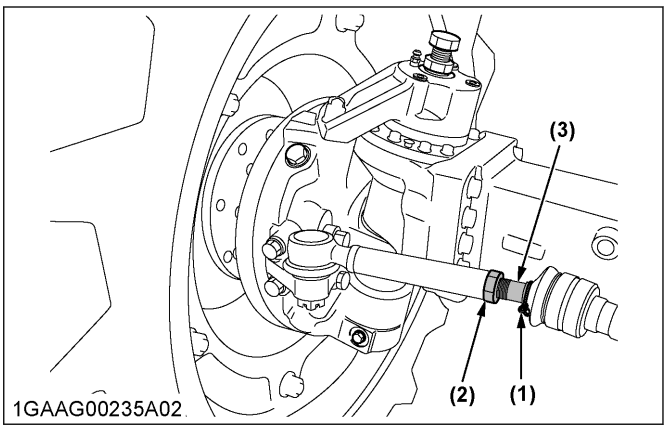
(A) 後幅
(B) 前幅
(C) 前

トーインの基準値 (A)－(B)	2 mm～8 mm

2. 前輪の前幅(B)と後幅(A)の差分が基準値でない場合、調整します。
   （詳細はタイロッドのトーイン調整手順（216 ページ）を参照）

5.1 タイロッドのトーイン調整手順

1. スナップストッパをゴムブーツより外してロックナットをゆるめます。
2. タイロッドジョイントのネジ部を回してトーインの調整をします。



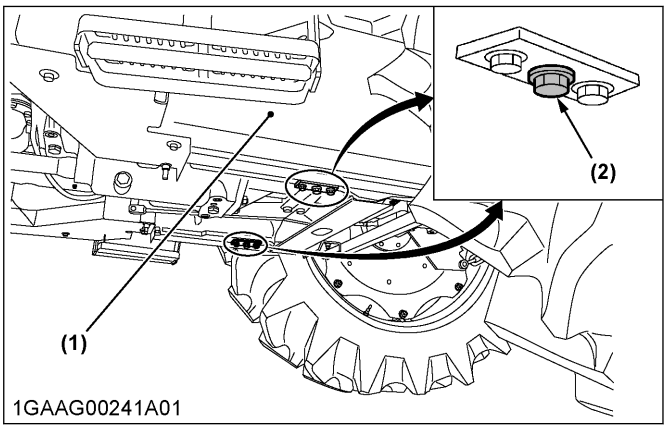
(1) スナップストッパ
(2) ロックナット
(3) タイロッドジョイント

3. 調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。

6. 燃料タンクの水抜き

重要：
- **水分が多く含まれている粗悪燃料を使用した場合は、水抜きの間隔は更に短くしてください。**
- **トラクタを長時間格納後使用する前に行ってください。**

1. 燃料タンク下部のドレーンプラグを外します。
2. 沈澱している不純物や水分を容器に排出します。
3. ドレーンプラグを元通りに締めます。

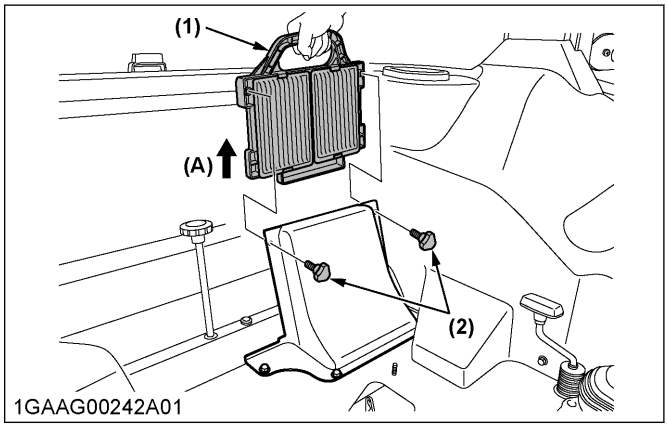


(1) 燃料タンク
(2) ドレーンプラグ

7. 室内エアフィルタの清掃

フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。

1. ノブボルトを外し、フィルタを外します。

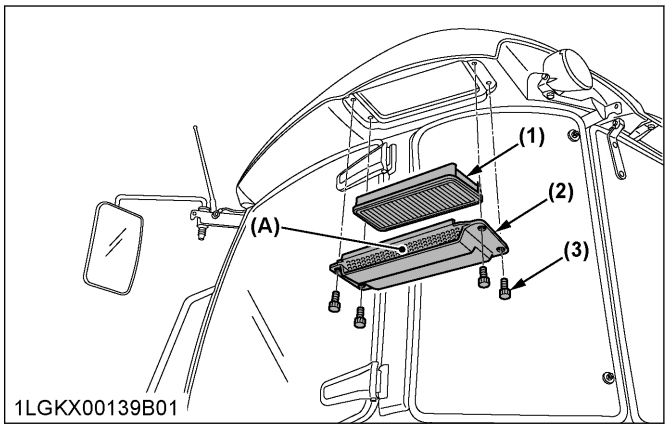


(1) 内気フィルタ　　*(A)* 引く
(2) ノブボルト

2. 風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。
(エアの圧力は 205 kPa(2.1 kgf/cm^2)を越えないように注意し、ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。)

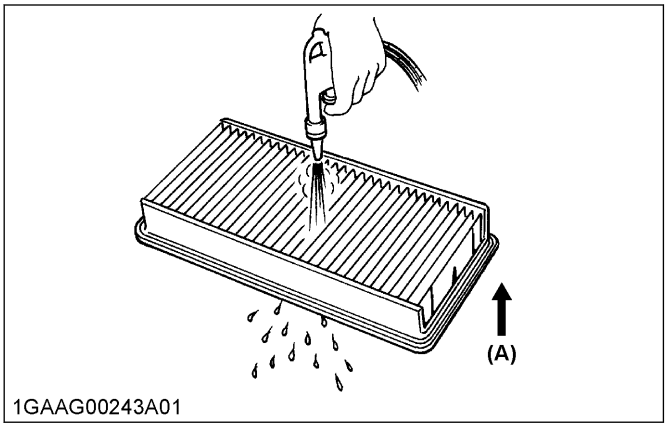
8. 外気フィルタの清掃

1. ノブボルトを外し、カバーとフィルタをいっしょに外します。



(1) 外気フィルタ　　*(A)* 空気導入口
(2) カバー
(3) ノブボルト

2. 風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。
(エアの圧力は 205 kPa(2.1 kgf/cm^2)を越えないように注意し、ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。)



(A) 風の流れ

重要：
- **エレメントをたたかないでください。エレメントが変形すると、エアコンユニットにほこりが浸入し、エアコンを損傷する場合があります。**

3. 汚れが著しいときは、家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し、清水でよくすすいだ後、完全に自然乾燥させてください。

重要：
- **洗浄にガソリン、シンナなどを使用しないでください。**

補足：
- **カバーを元に戻すときは、カバーの空気導入口を外側に向けて組付けてください。**

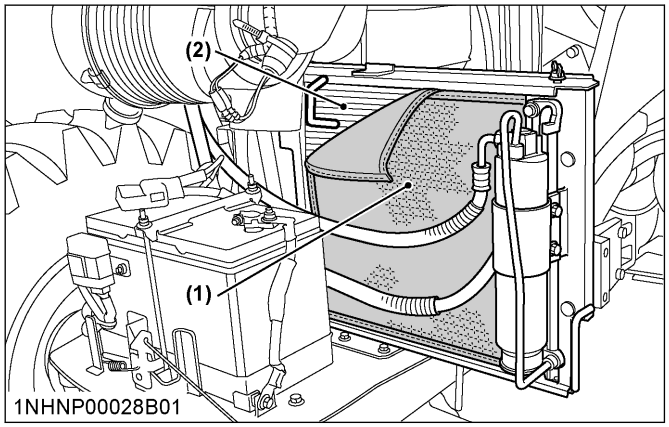
9. エアコンコンデンサの清掃

⚠ 警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**
- **エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。じゅうぶん冷えてから点検・清掃を行ってください。**

重要：
- **高圧洗車機を使用する場合には、コンデンサのフィンを損傷させないように、注意してください。**

1. 蝶ナットをゆるめ、ハンドルを持ちコンデンサを手前に引出します。
(詳細はエアコンコンデンサの引出し（200 ページ）を参照)

2. 防虫網を外し、コンデンサフィンにごみが詰まっていれば水道水などで取除いてください。



(1) エアコンコンデンサ用防虫網
(2) コンデンサ

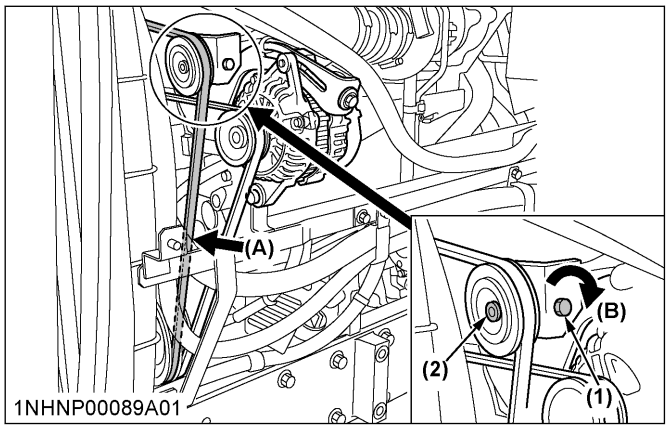
10. エアコンベルトの張りの点検・調整

⚠ 警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**

1. エアコンベルトの張り強さが適正か点検します。

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約 98 N (10 kgf)の力で押えて、10 mm～12 mm たわむ程度

2. 調整はナットをゆるめ、調整ボルトで張ります。



(1) 調整ボルト
(2) テンションプーリ取付けナット
(A) 押す
(B) 張る

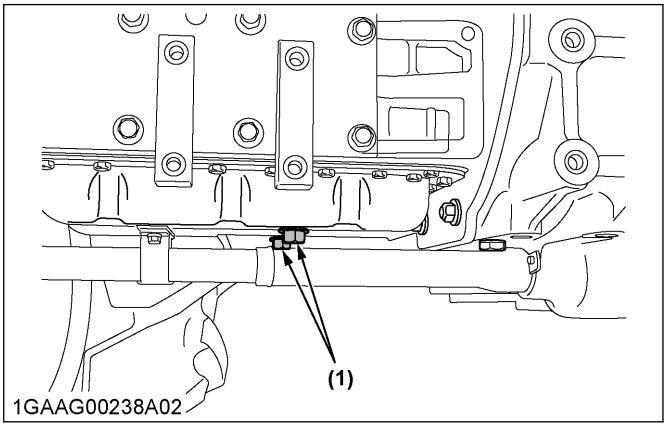
400 時間ごとの点検・整備

1. エンジンオイルの交換

⚠ 警告
- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

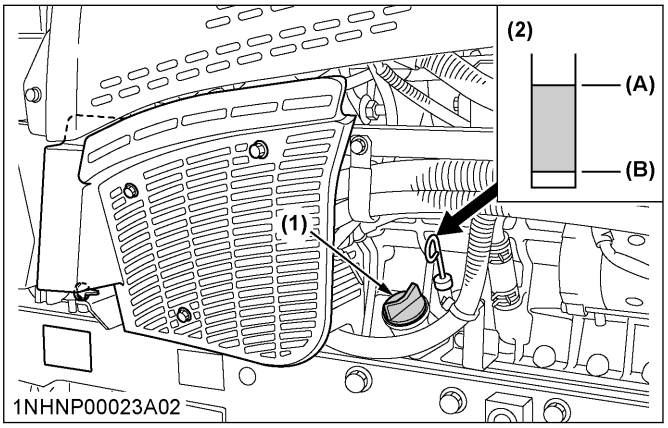
重要：
- **今まで使用していたオイルと異なるメーカ、あるいは粘度 NO.の異なるものを使用する場合は、オイルを全部容器に排出してから、新しいオイルと交換してください。**
  注ぎ足し使用は絶対しないでください。
- **オイルは必ず指定オイルを使用してください。**
  D10W-30 DH-2（DPF 搭載機専用ディーゼルエンジンオイル）
- **点検するときは、トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。**
- **オイル量はエンジン始動前か、エンジンを止めてから約 5 分以上たってから点検してください。そうでないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。**

1. ドレーンプラグを外してオイルを排出します。



(1) ドレーンプラグ

2. ドレーンプラグを取り付けます。
3. エンジンオイルを給油口から、規定量まで入れてください。
   このときオイルをこぼさないように注意してください。



(1) 給油口
(2) オイルゲージ
(A) 上限
(B) 下限

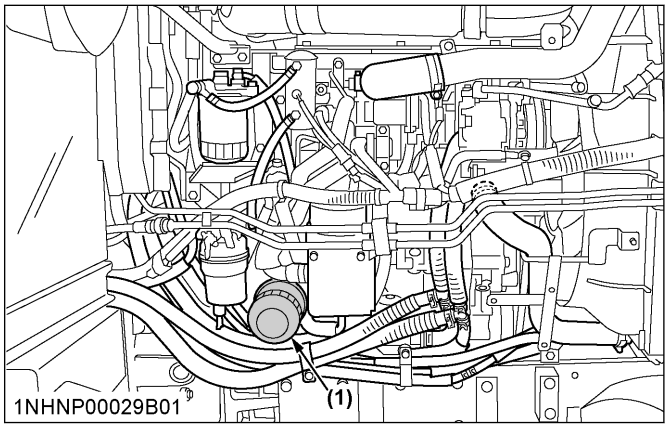
エンジンオイル規定量	10.7 L

2. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

警告
- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

補足：
- **オイルフィルタは、カートリッジタイプです。このオイルフィルタが詰まると、バイパスバルブが作動して、オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので、ろ過されないオイルで潤滑が行われます。これを防ぐため、オイルフィルタの詰まりがないように、規定時間で、新しい純正部品のカートリッジと交換してください。**

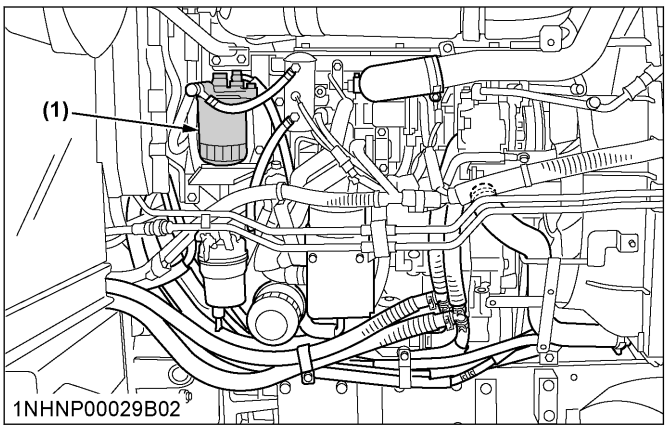
1. フィルタレンチでフィルタカートリッジを取外します。
2. 新しいカートリッジの O リングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
3. エンジンオイルを規定量まで補給します。
4. 約 5 分間運転し、オイルランプの作動に異常がないかまた、油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
5. 再びオイルゲージで油量を確認し、不足していれば補給してください。



(1) エンジンオイルフィルタカートリッジ

3. 燃料フィルタカートリッジの交換

1. フィルタレンチでフィルタカートリッジを外してください。
2. 新しいフィルタカートリッジの組付けは、パッキンに燃料を薄く塗布してからフィルタレンチを使用せず手で確実に締付けてください。



(1) 燃料フィルタカートリッジ

重要：
- **組付けるときは、チリやホコリが付着しないように注意してください。**

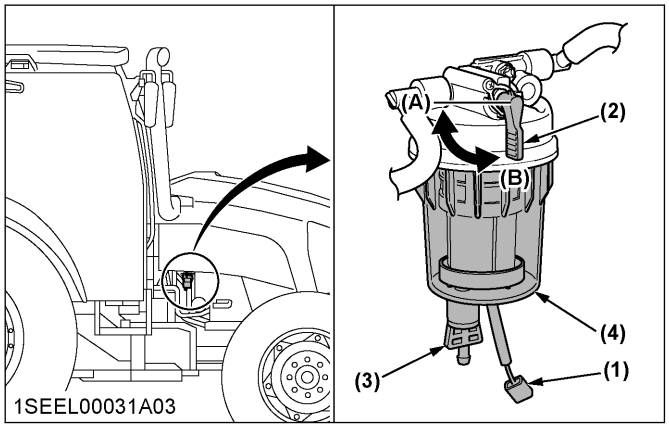
3. カートリッジ交換後は、必ず空気抜きをしてください。
（詳細は燃料の空気抜きのしかた（228 ページ）を参照）

4. セパレータの清掃

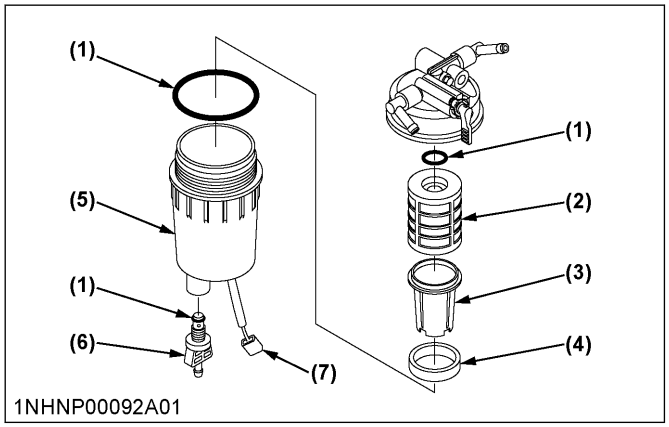
この作業はほ場では実施せず、きれいな場所で行ってください。

1. 水位センサのコネクタを外してください。
2. 燃料コックを閉にしてください。
3. カップをゆるめ、取り外し、内側を軽油で洗浄してください。
4. エレメントを取り出し、軽油に浸して洗浄してください。
5. 洗浄後、チリやホコリが付着しないようにセパレータを組み付けてください。
6. 水位センサのコネクタを取り付けてください。

7. 作業後は必ず空気抜きをしてください。
   燃料の空気抜きのしかた（228 ページ）の項を参照。



(1) 水位センサのコネクタ
(2) 燃料コック
(3) ドレーンプラグ
(4) カップ
(A) 閉
(B) 開



(1) O リング
(2) エレメント
(3) エレメントカップ
(4) 赤色フロート
(5) カップ
(6) ドレーンプラグ
(7) 水位センサのコネクタ

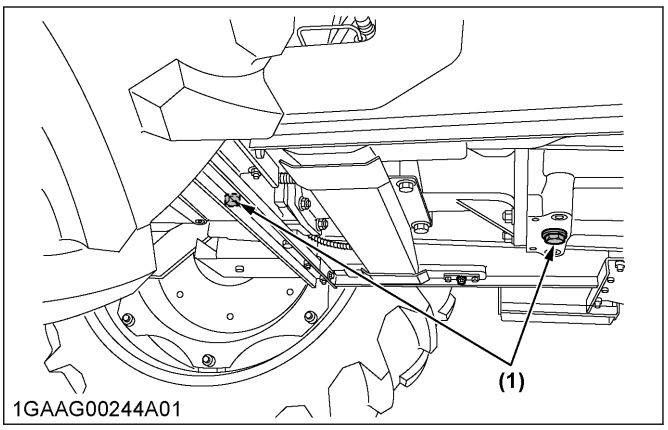
重要 :
- **セパレータや燃料フィルタがじゅうぶん点検・整備されていない場合、サプライポンプやインジェクタの部品寿命が早まる可能性があります。**

600 時間ごとの点検・整備

1. ミッションオイルの交換

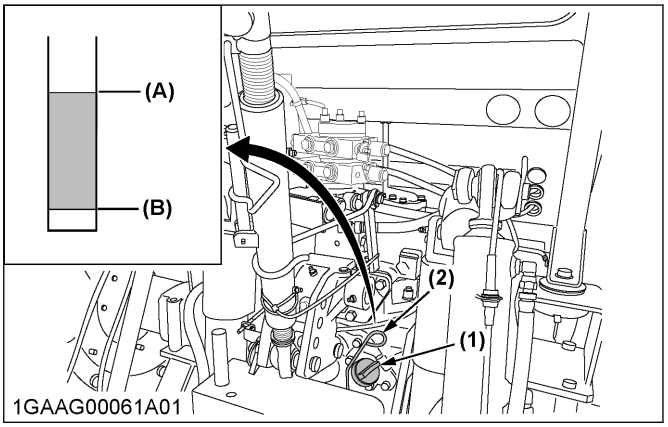
⚠ 警告
- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

1. ドレーンプラグを外してオイルを容器に排出します。



(1) ドレーンプラグ

2. ドレーンプラグを取り付けます。
3. ミッションオイルを給油口から規定量まで入れてください。
4. エンジンを始動して 2〜3 分運転してから止め、再度油量を点検して規定量まで補給してください。



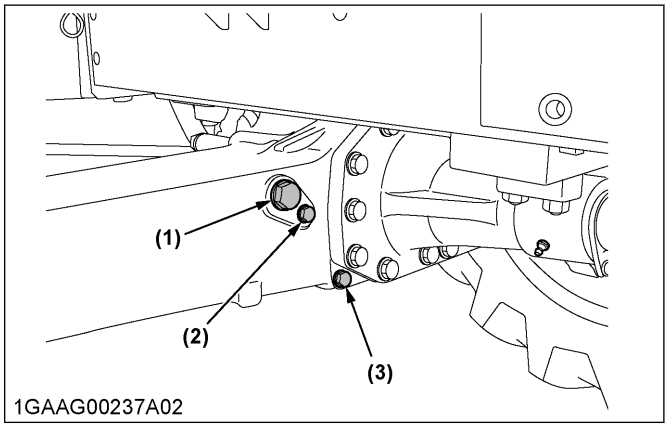
(1) 給油口
(2) オイルゲージ
(A) 上限
(B) 下限

ミッションオイル規定量	67.0 L

2. 前部デフケースのオイル交換

1. ドレーンプラグと給油プラグを外してオイルを容器に排出します。
2. ドレーンプラグを取り付けます。

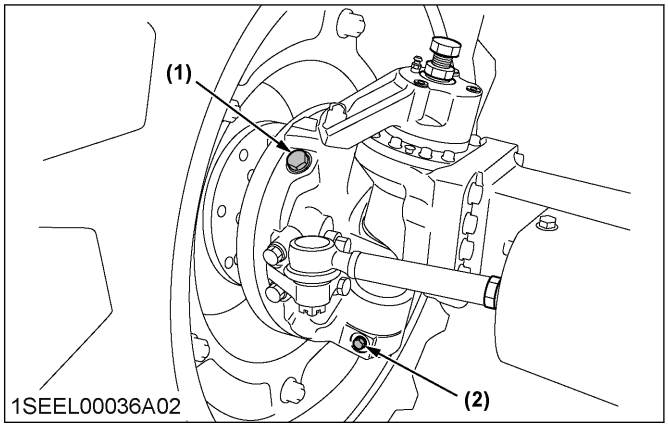
3. 給油口から新しいオイルを規定量（検油プラグ位置まで）入れてください。



(1) 給油口
(2) 検油プラグ
(3) ドレーンプラグ

3. 前輪ケース左・右のオイル交換

1. 左右のドレーンプラグと給油プラグを外してオイルを容器に排出します。
2. ドレーンプラグを取り付けます。
3. 給油口から新しいオイルを規定量入れてください。

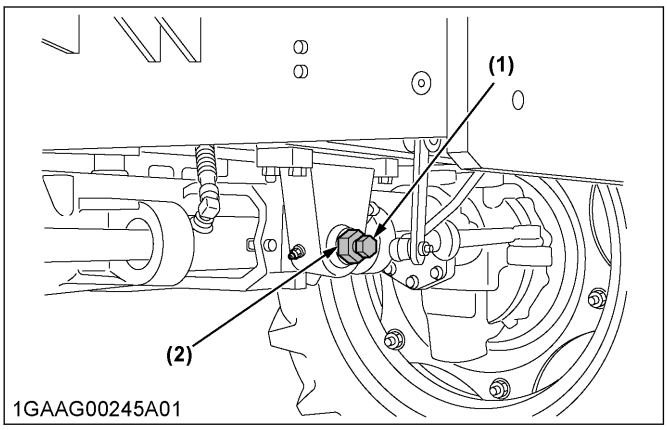


(1) 給油（検油）プラグ
(2) ドレーンプラグ

4. 前部デフケースの前後遊びの点検･調整

前部デフケース支持部の調整が悪いと、前輪が著しく振れたり、ハンドルに振動が伝わってきます。

1. ロックナットをゆるめ、調整ボルトを前輪デフケースに接するまで締め込みます。
2. その位置より調整ボルトをさらに 1/6 回転締め込み、ロックナットで固定します。



(1) 調整ボルト
(2) ロックナット

800 時間ごとの点検・整備

1. エンジンバルブクリアランスの点検

- 購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

1500 時間ごとの点検・整備

1. 燃料インジェクタの点検

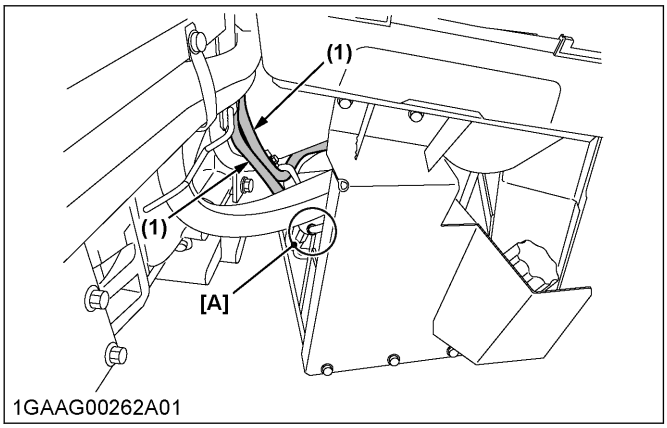
- 購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

2. 尿素水インジェクタの清掃

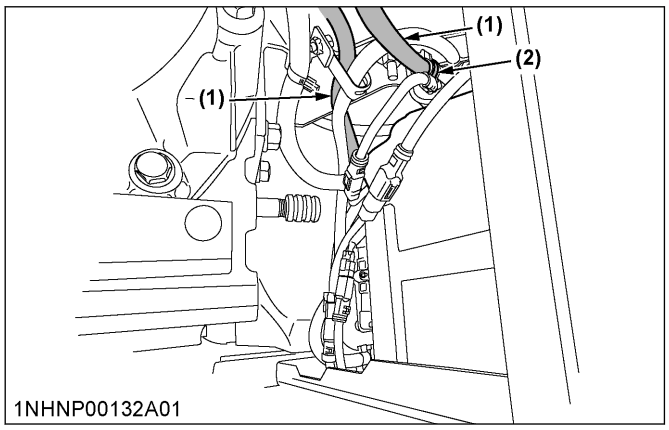
- 購入先へ点検および清掃を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

3. 尿素水ホースの点検

尿素水ホースに傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。もし、異常があれば購入先へ整備を依頼してください。



[A]の拡大図



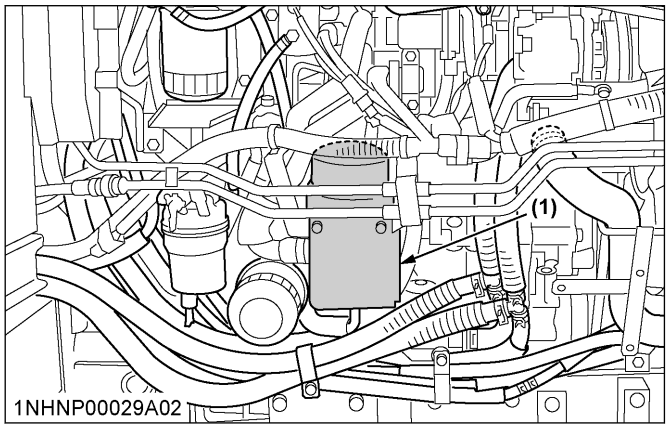
(1) 尿素水ホース
(2) 締付けバンド

4. オイルセパレータエレメントの交換

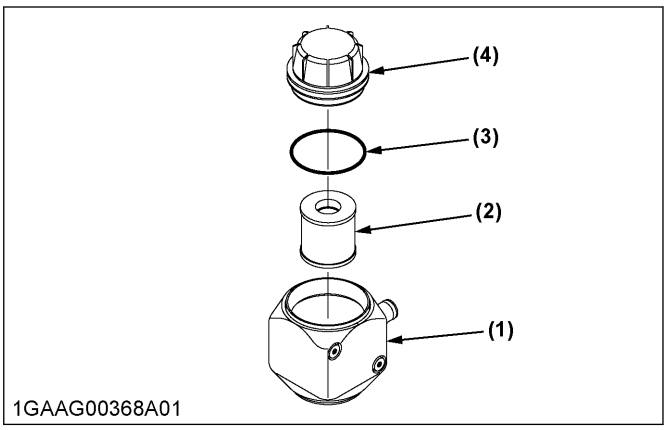
警告

- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

1. カバーを外してエレメントを外します。ケース内のオイルやカーボンをきれいな布でふき取ります。
2. エレメントを新しいものに交換します。
3. カバーを取付けます。



(1) オイルセパレータ



(1) 本体
(2) エレメント
(3) ガスケット
(4) カバー

5. PCV バルブの点検

- 購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

6. EGR クーラの点検・清掃

- 購入先へ点検および清掃を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

3000 時間ごとの点検・整備

1. ターボチャージャの点検

- 購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

2. サプライポンプの点検

- 購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

3. インテークエアヒータの点検

- 購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

4. EGR システムの点検・清掃

- 購入先へ点検および清掃を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

5. DPF マフラの清掃

DPF には灰（燃えカス）が堆積していきます。堆積した灰は DPF の性能を低下させます

- 灰（燃えカス）の除去は、購入先で DPF の清掃をしてもらってください。

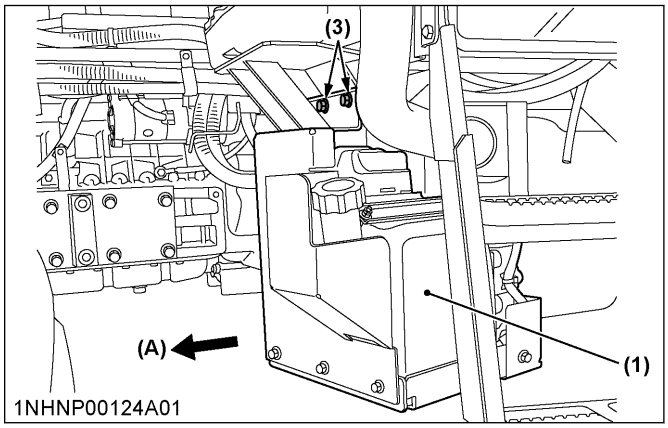
重要：
- **DPF は専用機での洗浄が必要です。分解したりせず購入先で専用機による洗浄をしてもらってください。**

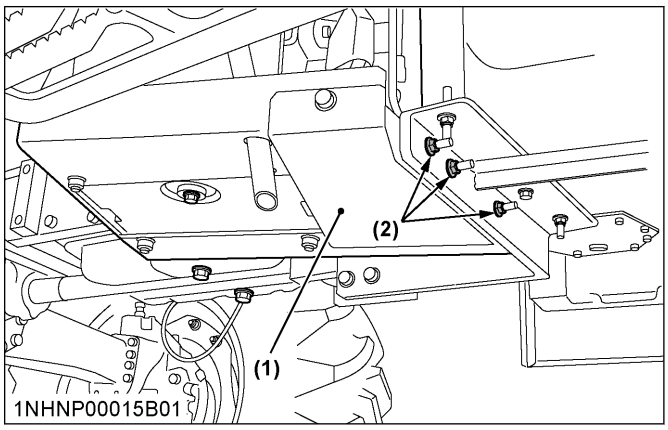
6. 尿素水インジェクタの点検

- 購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

7. 尿素水ポンプエレメントの交換

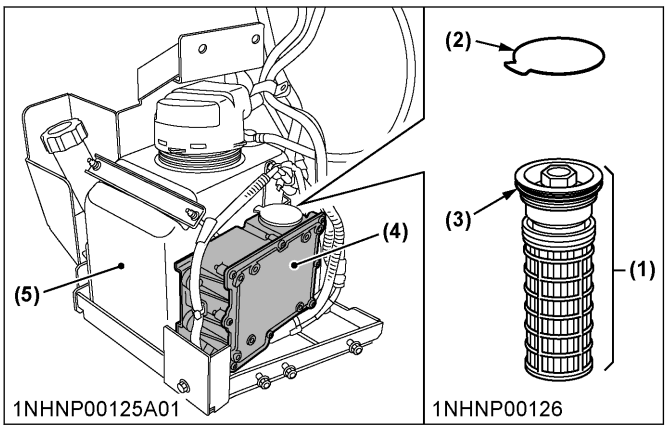
1. 尿素水タンクの下にスタンドを設置します。
2. タンク下側の 3 つのナットと、タンク上側のボルトを 2 つ外します。
3. スタンドを押し、尿素水タンクを前に出します。





(1) 尿素水タンク
(2) ナット
(3) ボルト
(A) 移動

4. ポンプカバーを外します。
5. フィルタの取付け部を清掃します。
6. フィルタカバーをゆるめ、フィルタを外します。
7. 新しいフィルタと交換します。



(1) フィルタ
(2) フィルタカバー
(3) Oリング
(4) 尿素水ポンプ
(5) 尿素水タンク

補足：
- **エンジン停止時、インジェクタ冷却用尿素水(AdBlue)が数分間回路内を循環します。冷却用循環が停止後、交換作業を行ってください。（冷却中は尿素水(AdBlue)の循環音がします）**
- **Oリングにはオイルを塗布しないでください。**

8000 時間ごとの点検・整備

1. 尿素水タンクサクションフィルタの交換

- 購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

3 か月ごとの点検・整備

1. エアコン機器の簡易点検

- 当機搭載のエアコン機器は、フロン排出抑制法により 3 か月に 1 回以上の簡易点検が義務付けられています。点検を行い、その記録を残してください。点検記録は、当機を廃棄するまで保存してください。当機を譲渡する場合は、譲渡先に点検記録を渡してください。
  冷媒（ガス）の漏えいを発見した場合は、速やかに購入先に漏えい箇所の修理を依頼してください。

2. 尿素水(AdBlue)の品質の点検

尿素水タンク内の尿素水(AdBlue)の臭いを確認してください。

重要：
- **尿素水(AdBlue)から強いアンモニア臭がする場合は、品質が低下している可能性があります。尿素水(AdBlue)の品質を確認するため、3 か月に 1 度は尿素水タンクに入っている尿素水(AdBlue)の臭いを確認してください。**

- **尿素水タンク内の尿素水(AdBlue)から強いアンモニア臭がする場合は、尿素水タンクから尿素水(AdBlue)を全て容器に排出してください。**
  （尿素水(AdBlue)の排出については、尿素水(AdBlue)の排出（58 ページ）を参照）
  その後、尿素水タンク内を蒸留水で洗い流し、新しいまたは良好な尿素水(AdBlue)を補給してください。
- ドレーンプラグを取り付ける際、破損する恐れがあるので、絶対に締めすぎないでください。また、締付けに電動工具を使用しないでください。

（詳細は、尿素水タンク内での尿素水(AdBlue)の保管（59 ページ）を参照。）

1 年ごとの点検・整備

1. ダブルエアクリーナエレメントの交換時期

アウターエレメントは 1 年ごと、または 6 回清掃ごとに交換が必要です。
インナーエレメントは 1 年ごとに交換が必要です。

重要：
- **エレメントは、清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。**
- **ダストカップの（ ⬆ マーク）を必ず上向きになるように取付けてください。**

1. ダストカップを外します。
2. アウターエレメントを外し、新しいエレメントに交換します。
3. インナーエレメントを外し、新しいエレメントに交換します。

2. エアコン配管、ホースの点検

ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。4 年ごとにまたは傷んだときには、ホースを新品と交換する必要があります。

1. エアコン用ホースや配管に損傷がないか点検してください。異常があれば交換･整備を行ってください。
2. 交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。

3. キャブマウントゴムの点検

- 購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

4. エキゾーストマニフォールドの点検

- 購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

5. DPF 差圧センサパイプの点検

1. 購入先で点検および交換をしてもらってください。

6. EGR パイプの点検

- 購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換をしてもらってください。

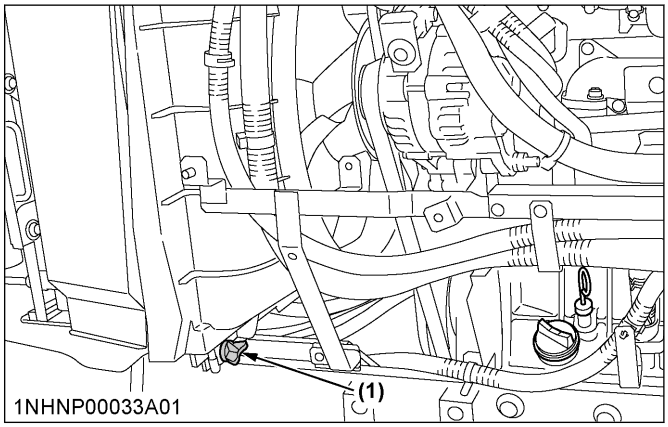
2 年ごとの点検・整備

1. 冷却水の交換

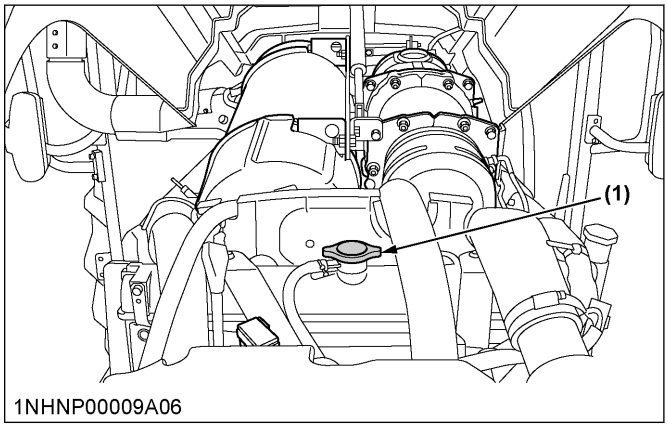
⚠ 警告
- **ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けると、熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって、冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し、余圧を抜いてからキャップを外してください。**

重要：
- **冷却水交換作業では、冷却水系統にエアが混入する可能性があります。心配な時は、購入先にご相談ください。**

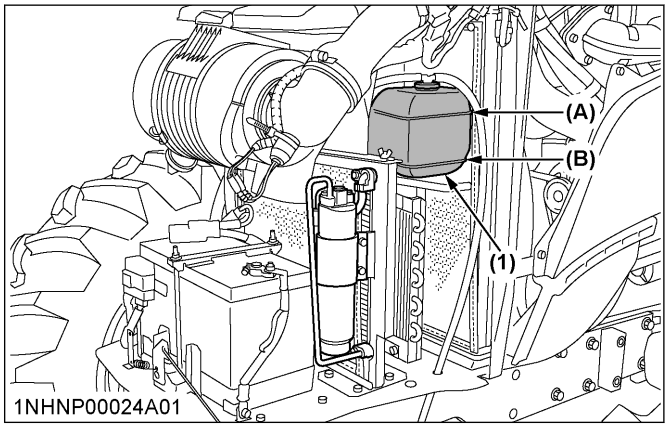
1. ラジエータのドレーンプラグとラジエータキャップを開き、冷却水を容器に排出します。



(1) ドレーンプラグ



(1) ラジエータキャップ



(1) リザーブタンク
(A) 上限 ***[FULL]***
(B) 下限 ***[LOW]***

2. ポンプなどを用いリザーブタンクから容器に排水します。
3. 水道の水でラジエータ内を容器で受けながら洗浄し、ドレーンプラグを締めます。
4. ラジエータおよびリザーブタンクに冷却水を注入したのち、ラジエータキャップを確実に閉めてください。

重要：
- **冷却水補給後エンジンを運転し、リザーブタンク内の量およびラジエータの給水口のすぐ下まで冷却水があることを確認してください。冷却水の量が不足している場合、エンジンの破損につながるおそれがあります。**

5. 安全キャブ仕様はヒータに冷却水が循環するため、冷却水が約 1.5 L ヒータ部に必要となります。冷却水を交換した場合、冷却水をリザーブタンクの注入口までいっぱいにし、ヒータ **ON**（温度コントロールつまみを **WARM**（右端）に回して、しばらくエンジンを回し、冷却水を暖め、エンジンを止めてください。
   このとき吹出口より温風が出ることを確認してください。温風が出ない場合は購入先にご相談ください。
   冷却水が冷えると、リザーブタンクの冷却水が吸込まれ、リザーブタンクの冷却水が適量になります。

1.1 不凍液

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており、冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

重要：
- **冷却水には、不凍液（ロングライフクーラント）を 50%入れ、よく水と混ぜ合せてからお使いください。**
- **不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはオーバーヒートの原因になります。**
- **不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり、エンジン部品に悪影響を与えます。**
- **不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。**

冬期気温が 0 ℃以下になるようなときは、必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータおよびリザーブタンクに補給するか、または冷却水を完全に排水してください（工場出荷時は、不凍液（ロングライフクーラント）が入っています）。

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比（%）	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度（℃）	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43

2. ラジエータ洗浄剤

ラジエータの洗浄には、ラジエータ洗浄剤を使用すれば、水アカなどきれいに洗浄できます。
ラジエータ洗浄剤は、次のような場合に使用してください。
- 2 年使用ごと
- 不凍液を混入するとき

- 不凍液混入から水だけに変えるとき

3. ラジエータホースの交換

- 購入先で交換および点検をしてもらってください。

4. パワーステアリングホースの交換

- 購入先で交換および点検をしてもらってください。

5. 吸気ホースの交換

- 購入先で交換および点検をしてもらってください。

6. 燃料ホースの交換

- 購入先で交換および点検をしてもらってください。

7. 傾き自動シリンダホースの交換

- 購入先で交換および点検をしてもらってください。

8. メインシリンダホースの交換

- 購入先で交換および点検をしてもらってください。

9. デフロックホースの交換

- 購入先で交換および点検をしてもらってください。

10. オイルクーラホースの交換

- 購入先で交換および点検をしてもらってください。

11. PCV バルブホースの交換

- 購入先で交換および点検をしてもらってください。

12. DPF 差圧センサホースの交換

- 購入先で交換および点検をしてもらってください。

13. ブーストセンサホースの交換

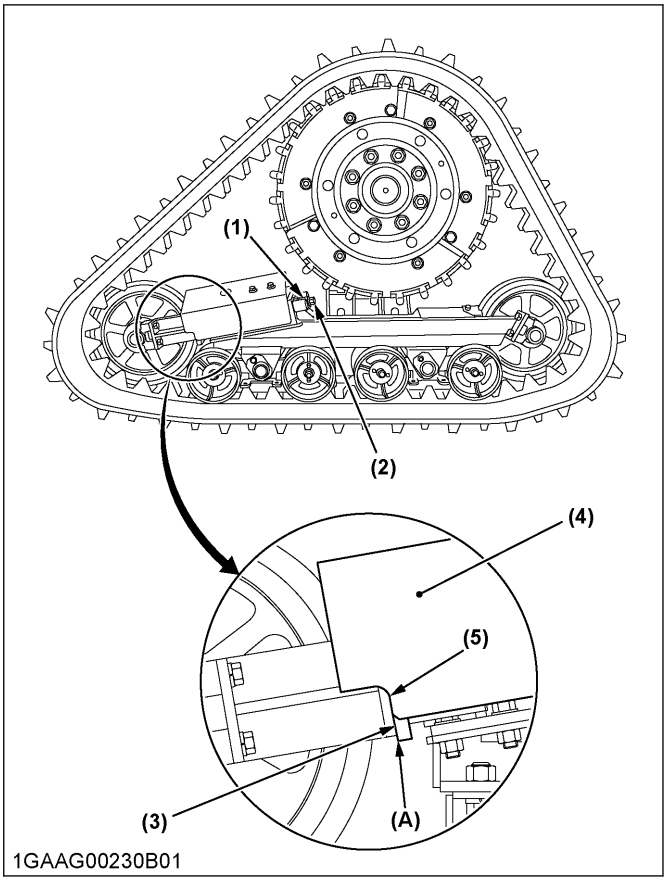
- 購入先で交換および点検をしてもらってください。

ハーフクローラ仕様の点検・整備

1. ゴムクローラの張り調整

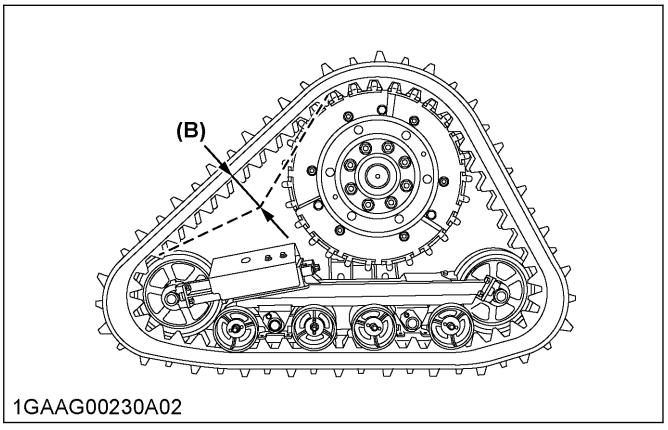
ゴムクローラが緩んだままで使用すると、クローラ内周面ゴムが早期に摩耗し、クローラの寿命が短くなるおそれがあります。また走行中に異音が発生したり、脱輪の原因となるおそれがありますので、定期的に点検を行ってください。

1. ゴムクローラの張り調整は、トラクタを前進で停止させ、調整ボルトにて行います。
2. 調整後は確実にロックナットで固定してください。
3. ゴムクローラの適正な張りを保つため、カバーのゲージ面とヨーク板が一致していることを確認してください（次図参照）。



(1) ロックナット
(2) 調整ボルト
(3) ヨーク板
(4) カバー
(5) ゲージ面
(A) 一致

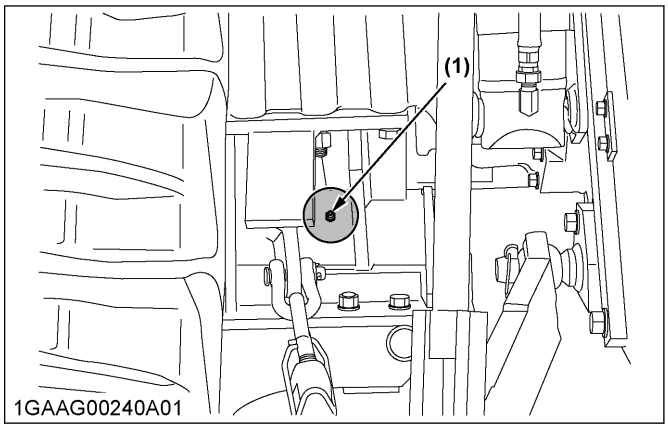
[参考]
(B)部のたわみが 196～245 N (20～25 kgf)の荷重で 3～8 mm になります（次図参照）。



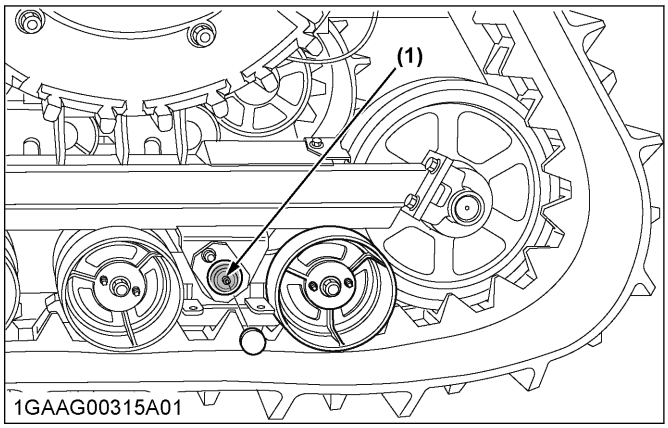
補足：
- **ゴムクローラ交換後、ゴムがなじむまでの間ゴムクローラの張りがゆるみやすくなるので、必要に応じてクローラの張りの点検と調整を行ってください。**

2. グリースの注入

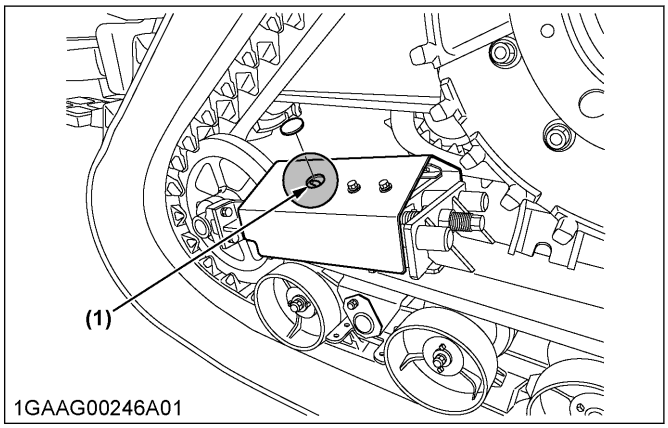
- 50 時間使用ごとおよび、1 シーズン終了後に次の箇所にグリースアップを実施してください。



(1) 揺動軸部



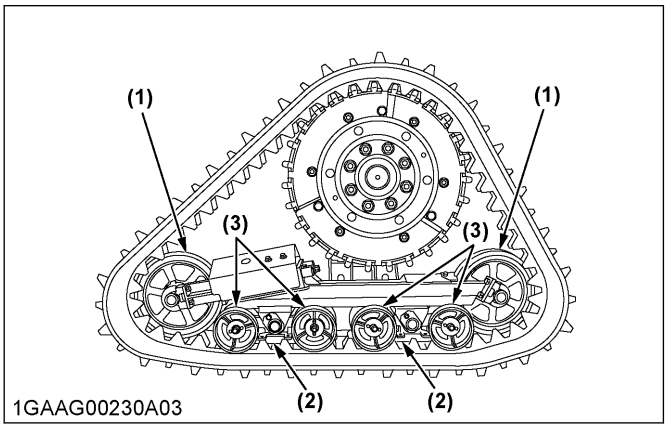
(1) ローラ揺動部



(1) ヨーク摺動部

3. クローラのローラ･アイドラのオイル交換とオイルシール点検

- クローラのローラ・アイドラのオイルは、200 時間ごとに交換してください。また、点検の上、オイルもれなどの異常があればオイルシールを交換してください。



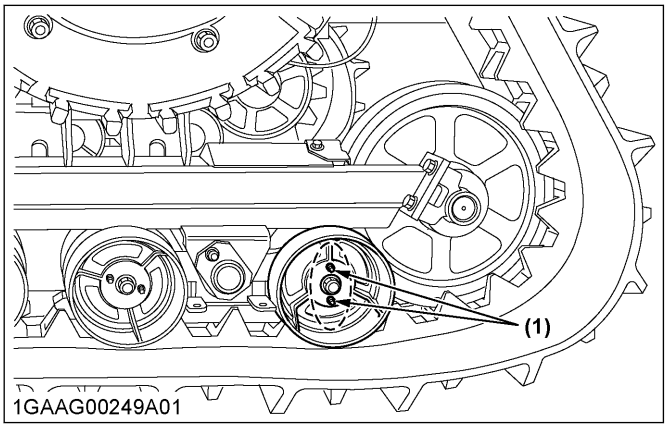
(1) アイドラ
(2) クローラガイド
(3) ローラ

4. クローラガイドの点検

1. クローラガイドに著しい摩耗があれば交換してください。
   摩耗したままで使用すると脱輪の原因となるおそれがあります。

5. ローラ・アイドラのオイル交換

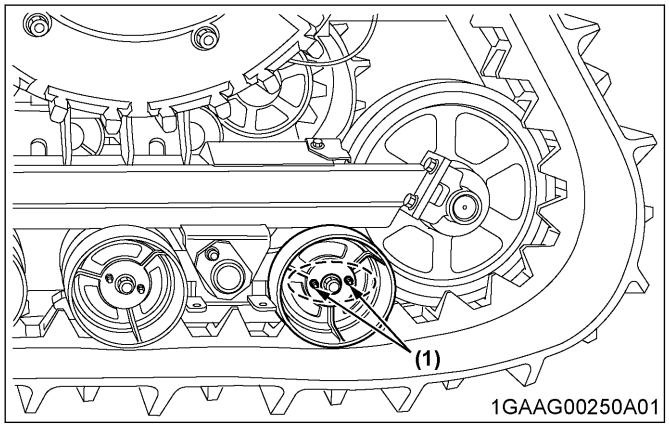
1. オイルの排出はローラ・アイドラ端面のプラグを真下の位置にします。
2. 排出する側と反対側の車体を持ち上げます。
3. プラグを外し、オイルを排出します。このときオイルがクローラにかからないよう処置を行なってください。



(1) プラグ

4. 給油する場合はプラグ穴を真上に向けて油さしなどで給油してください。

5. 給油後はプラグをもと通り固定してください。



(1) プラグ

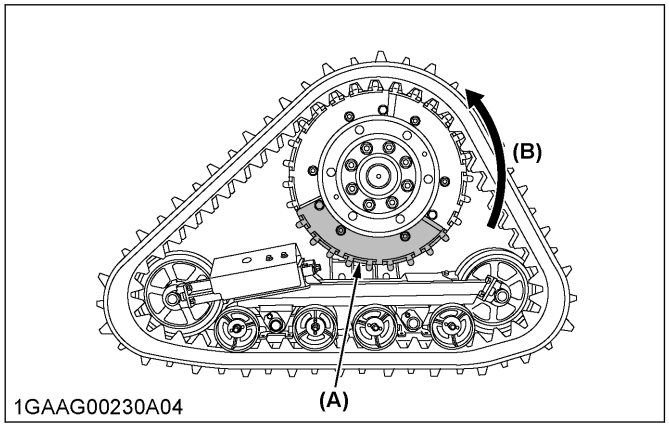
補足：
- **プラグ穴を水平にしたとき、オイルが出てくれば規定量です。**

6. スプロケットの交換

スプロケットは 3 枚で構成されています。

以下の手順により、一枚ずつスプロケットを交換してください。

1. 図の(A)で示した下側のスプロケットを新しいスプロケットに交換します。
2. 車軸をゆっくり回転させ、順次下側に来たスプロケットを新しいものに交換して行きます。

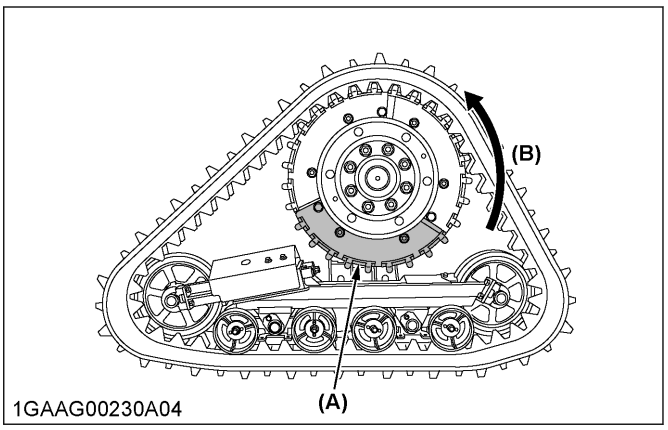


(A) スプロケット交換位置
(B) 回転

3. 3 枚のスプロケットを交換した後、ゴムクローラの張り調整を行ってください。
   ゴムクローラの張り調整（226 ページ）参照。

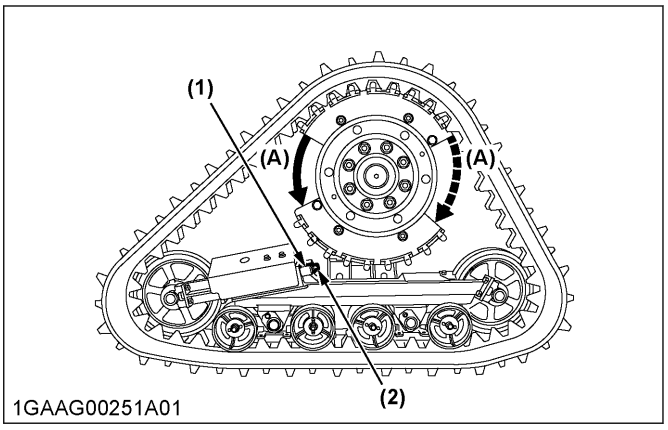
7. ゴムクローラの交換

1. ロックナットを緩め、調整ボルトを回転させ、クローラの張りを緩めます。
2. 図の(A)で示した下側のスプロケットから順次 2 枚のスプロケットを外します。



(A) スプロケット取外し位置
(B) 回転

3. 1 枚のスプロケットを残したまま次図に示す位置まで車軸をゆっくり回転させ、古いゴムクローラを外します。



(1) ロックナット　　*(A)* 回転
(2) 調整ボルト

4. 新しいゴムクローラに置き換えた後、車軸を回転させ、スプロケットにゴムクローラを掛けます。
5. 外した 2 枚のスプロケットを取り付けた後、最後にゴムクローラの張り調整を行ってください。
   調整方法はゴムクローラの張り調整（226 ページ）の項を参照。

補足：
- **ゴムクローラ交換後、ゴムがなじむまでの間ゴムクローラの張りがゆるみやすくなるので、必要に応じてクローラの張りの点検と調整を行ってください。**
- **オイル、オイルシール、クローラガイド、スプロケットおよびゴムクローラ交換要領の詳細については、購入先にご相談ください。**

必要に応じた点検・整備

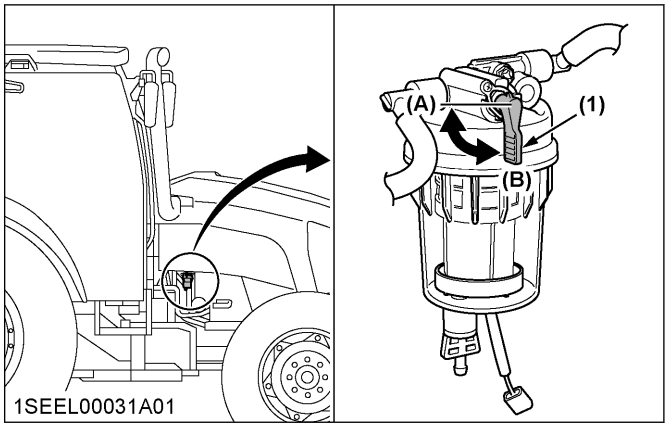
1. 燃料の空気抜きのしかた

燃料の空気抜きは、次のようなときに行う必要があります。

- セパレータより排水および分解洗浄したとき
- 燃料フィルタおよび配管を取外したとき

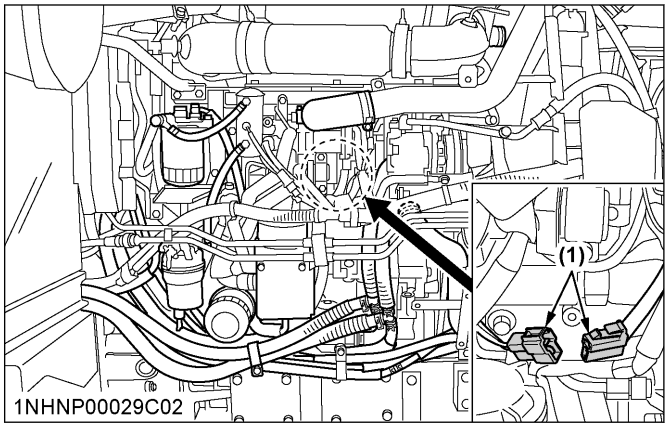
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

1. タンクに燃料を満たします。
2. 燃料コックが**開**になっているか確認します。



(1) 燃料コック
(A) 閉
(B) 開

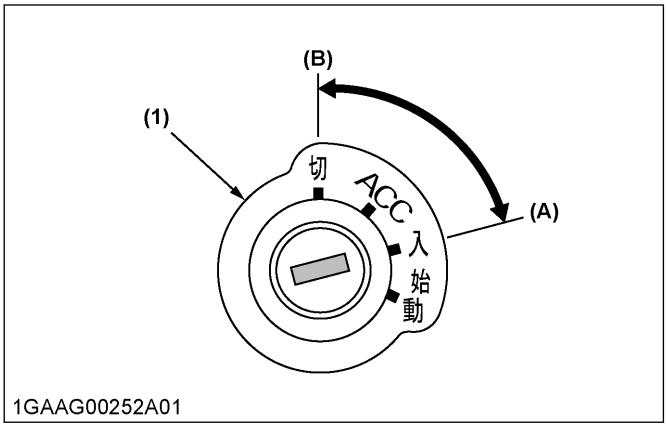
3. ヒータ（予熱）用コネクタを外します。



(1) コネクタ

重要：
- **バッテリが放電しますので、コネクタを接続したまま空気抜きを行わないでください。**

4. 下記インターバルでキースイッチの切換えを 10 回程度繰り返し行います。
   a. キースイッチを**[入]**位置にして 30 秒間保ちます。
   b. キースイッチを**[切]**位置にして 15 秒間保ちます。



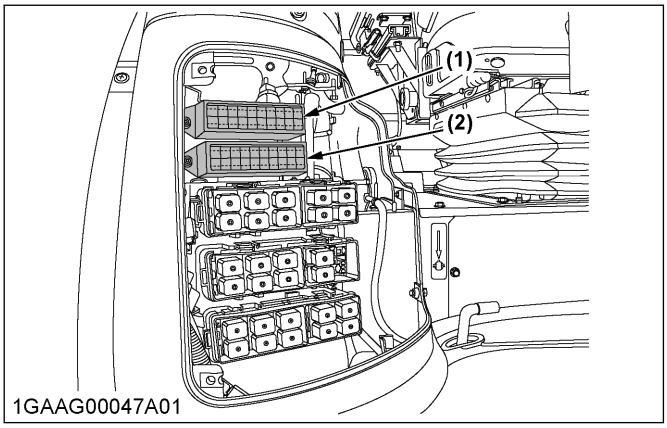
(1) キースイッチ
(A) ***[入]***
(B) ***[切]***

5. ヒータ（予熱）用コネクタを接続します。
6. アクセルレバーを最高回転位置でエンジンを始動し、アクセルレバーを中速回転（約 1500 rpm）位置に戻します。
   （スタータを連続 10 秒間回しても始動しない場合は、30 秒間休み、この操作を再度 1～2 回くり返します）
7. エンジンをふかす操作をし、燃料系統の中に残っている微量の空気を追い出します。
8. 以上の操作後、まだ空気が抜けずにエンストする場合は、手順 1.～7.で再度空気抜きを行います。

2. ヒューズの交換

補足：
- **トラクタに作業灯やラジオなどを取付けるときの電源取出しは、購入先にご相談ください。**

1. シート右側にあるヒューズボックスのふたを外す。



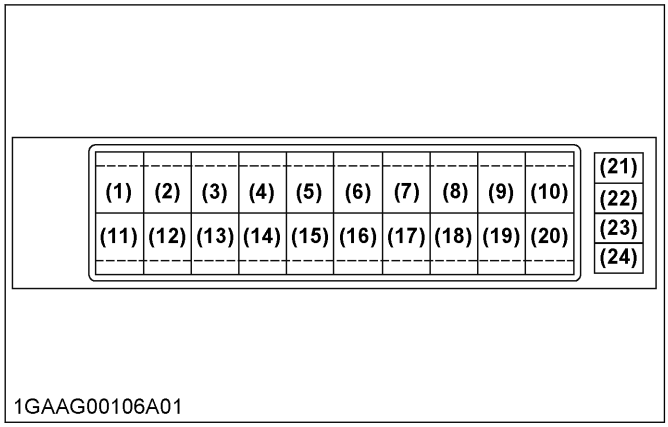
(1) ヒューズボックス（上側）
(2) ヒューズボックス（下側）

2. ヒューズを外す。
3. 切れたものと同容量のヒューズと交換する。

重要：

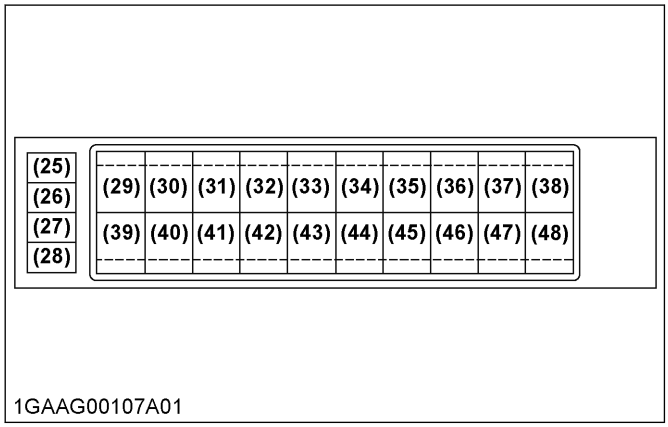
- **ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金や銀紙などで代用せず、購入先で点検、修理してください。**

ヒューズボックス（上側）



1GAAG00106A01

ヒューズボックス（下側）

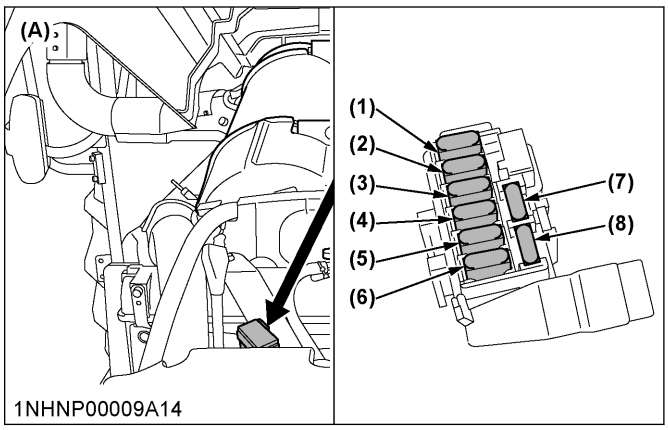


1GAAG00107A01

番号	容量	保護回路
(1)	10 A	オーディオ（ACC）
(2)	-	-
(3)	5 A	作業灯スイッチパネル（+B）
(4)	20 A	作業灯（前）
(5)	15 A	作業灯（後）
(6)	15 A	作業灯ヘッドランプサイド
(7)	10 A	ブレーキランプ
(8)	-	-
(9)	20 A	ヘッドランプ
(10)	20 A	ハザード
(11)	10 A	ECU (+B)
(12)	5 A	メータ (+B)
(13)	10 A	ホーン
(14)	10 A	ルームランプ

（次へ続く）

番号	容量	保護回路
(15)	10 A	アームレスト（+B）
(16)	10 A	オプションターミナル（+B）
(17)	10 A	診断コネクタ（+B）
(18)	5 A	WIFI (+B)
(19)	20 A	デフォッガ（横）
(20)	20 A	デフォッガ（後）
(21)	20 A	予備
(22)	15 A	予備
(23)	10 A	予備
(24)	5 A	予備
(25)	5 A	予備
(26)	10 A	予備
(27)	20 A	予備
(28)	25 A	予備
(29)	5 A	エンジン始動
(30)	10 A	ライタ
(31)	15 A	電源取出（ローダ）
(32)	5 A	デフォッガリレー
(33)	15 A	ワイパ
(34)	10 A	A/C スイッチ
(35)	5 A	デフロックスイッチ
(36)	10 A	作業灯リレー 電源取出（1P）リレー
(37)	10 A	スイッチ 1
(38)	10 A	スイッチ 2
(39)	5 A	油圧操作パネル
(40)	25 A	ECU (IG)
(41)	10 A	KAG GPS
(42)	5 A	WIFI (IG)
(43)	10 A	バックランプ
(44)	10 A	エンジンコントロール PTO
(45)	25 A	ライタ電源取出（2P）
(46)	20 A	シートサスペンション
(47)	25 A	A/C ブロアモータ
(48)	10 A	A/C コンプレッサ

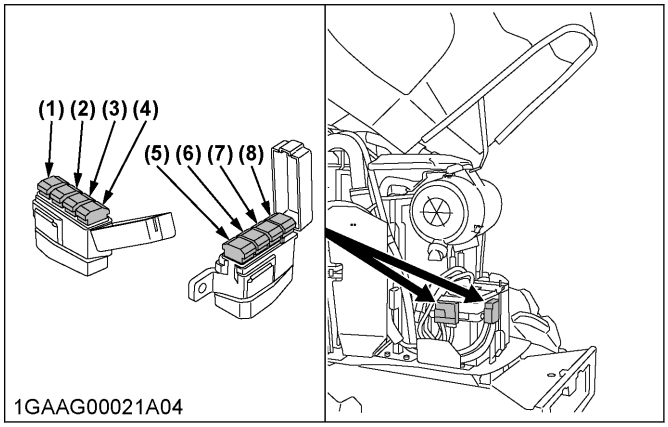


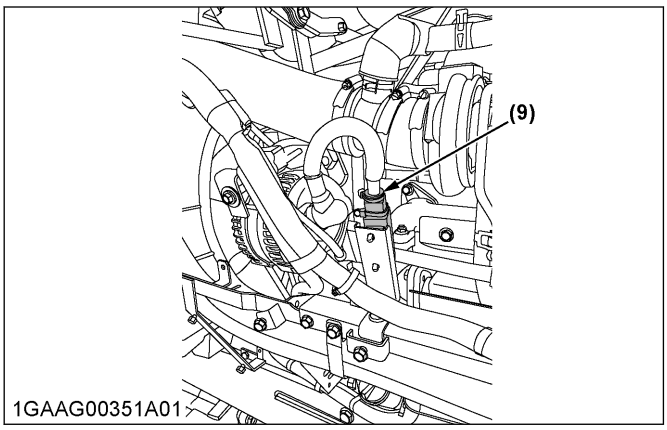
(A) ボンネット前方エンジンルーム

番号	容量	保護回路
(1)	30 A	CRS システム
(2)	5 A	EGR バルブ
(3)	10 A	センサ
(4)	30 A	SCR ヒータ
(5)	20 A	SCR システム
(6)	-	-
(7)	30 A	予備
(8)	20 A	予備

3. スローブローヒューズの交換

スローブローヒューズは、配線を保護するためのものです。もし切れた場合は、切れた原因を必ず調べ、決して代用品を使用せず、純正部品を使用してください。





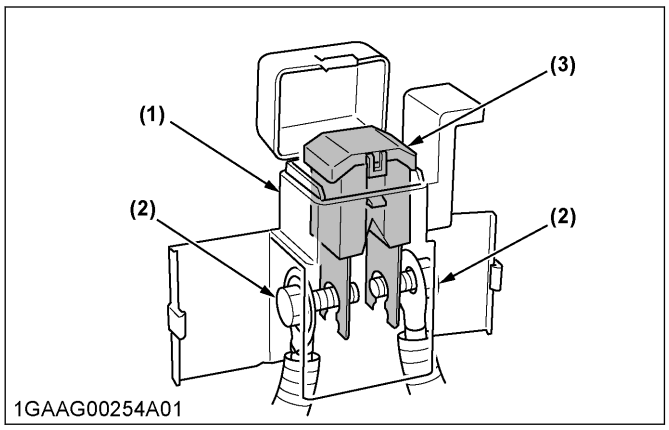
番号	容量	保護回路	ヒューズ構造
(1)	60 A	作業灯	ボルトタイプ
(2)	60 A	ヘッドランプ	ボルトタイプ
(3)	40 A	デフォッガ	プラグインタイプ
(4)	50 A	SCR システム	プラグインタイプ
(5)	120 A	予熱（グロー）	ボルトタイプ
(6)	60 A	キースイッチ	ボルトタイプ
(7)	50 A	エンジン	プラグインタイプ
(8)	50 A	エアコン	プラグインタイプ
(9)	150 A	オルタネータ	ボルトタイプ

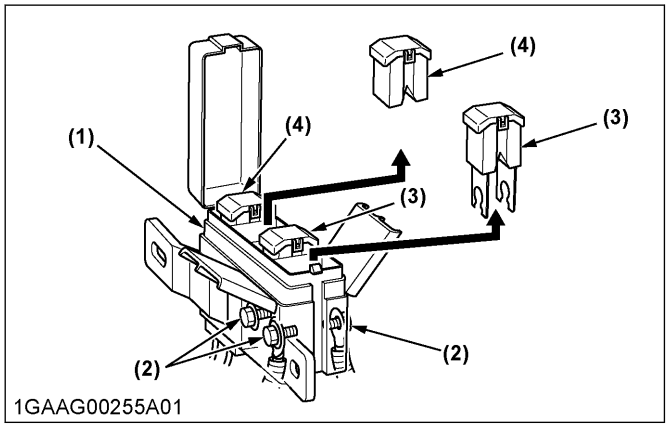
[プラグイン（差込みタイプ）のスローブローヒューズ]の交換手順

1. バッテリの（–）コードを外します。
2. ケースからヒューズを引抜きます。
3. 同じ容量（アンペア）のヒューズを取付けます。

[ボルトタイプ（ボルトで固定）のスローブローヒューズ]の交換

- 交換は購入先へ依頼してください。





(1) ヒューズケース
(2) ボルト
(3) ボルトで固定しているスローブローヒューズ
(4) プラグインタイプのスローブローヒューズ

4. ヘッドランプの交換

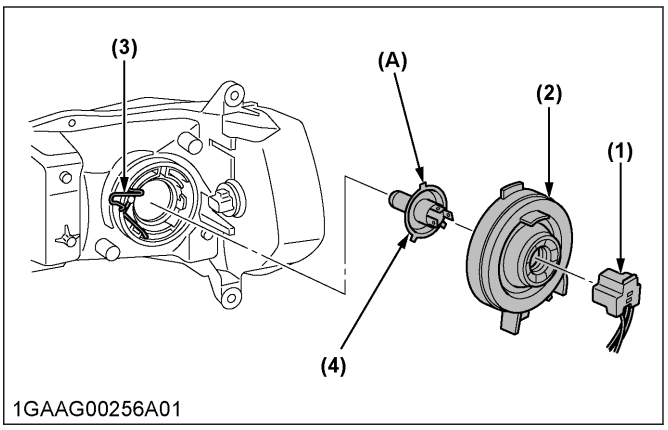
⚠ 注意

- **電球を落としたり、キズをつけたりしないでください。破損した場合、ガラス片が飛散しケガの原因となります。特にハロゲン電球は、ガラス内部の圧力が高いため、注意してください。**
- **電球を交換するときは、じゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドの原因となることがあります。**

重要：

- **ワット数の大きい電球を取り付けないでください。**
- **素手でガラス面を触らないでください。指紋や油脂が付着すると電球が破損するおそれがあります。**

1. コネクタを抜き、ゴムブーツを外します。
2. 電球固定金具を解除し、電球を外します。



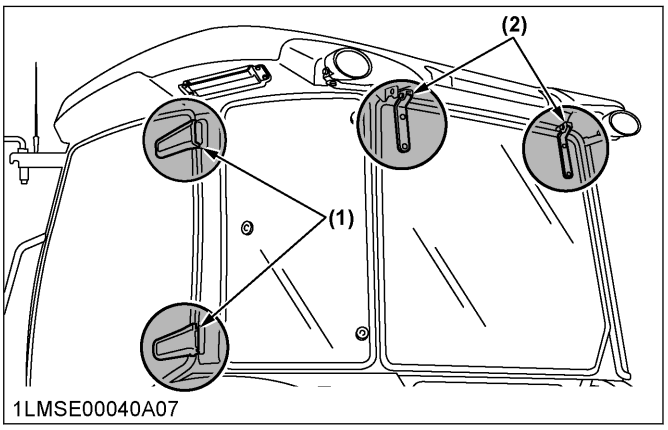
(1) コネクタ
(2) ゴムブーツ
(3) 固定金具
(4) 電球
(A) 幅の広い突起部を上側に向け組み付ける

5. ランプ一覧

ヘッドランプ	60 W
ウインカランプ（前）	21 W
ウインカランプ（後）	21 W
車幅灯	5 W
作業灯	24 W（3 W × 8）
作業灯（ヘッドライト上）	12 W（3 W × 4）
尾灯、ブレーキランプ	5 W / 21 W
バックランプ	21 W

6. ドアヒンジ部とリヤウインドヒンジ部の注油

1. ドアやリヤウインドの開閉がうまくいかないときは、図で示された箇所に注油してください。

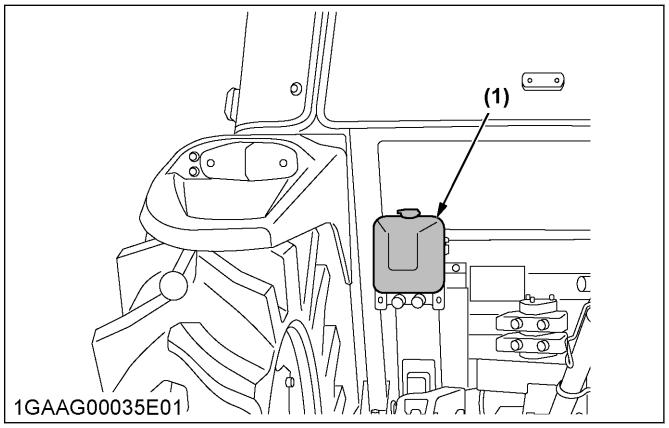


(1) ドアヒンジ部
(2) リヤウインドヒンジ部

7. ウォッシャ液の補充

重要：
- **凍結を避けるため、清水のみの使用はしないでください。**
- **空回しはポンプを損傷させる原因となりますので空運転をしないでください。**
- **ウォッシャノズルの詰まりを防ぐために、ごみが入らないようにしてください。**

1. ウォッシャタンク内のウォッシャ液が少なくなってきたら、自動車用ウォッシャ液を適量補充してください。

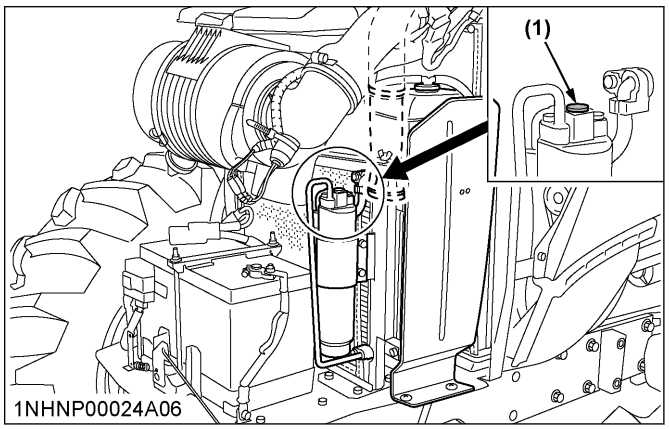


(1) ウォッシャタンク

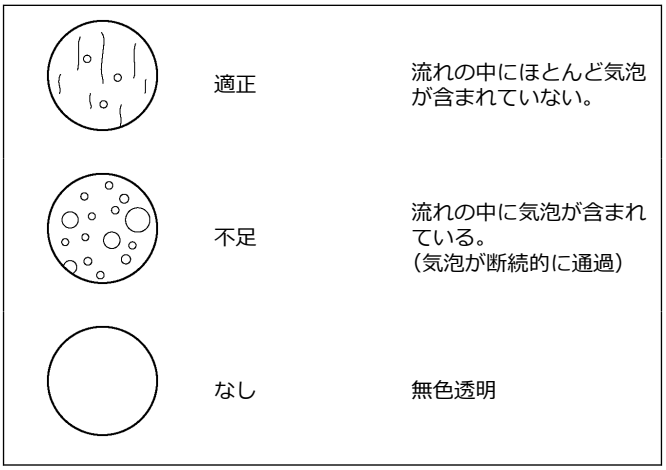
8. 冷媒（ガス）量の点検・充てん

冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。

1. エアコンを以下の条件で運転します。
   - エンジン回転数：約 1500 rpm
   - 温度コントロール：最強冷位置
   - ファンスイッチ：最強風
   - エアコンスイッチ：ON
2. サイトグラスにより、冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認します。



(1) サイトグラス



3. 冷媒が不足しているときは、速やかに購入先に漏えい箇所の修理を依頼してください。

格納

1. 長期格納時の手入れ

⚠ 警告
- **シートをかける場合、マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。火災を起こす原因になります。**

重要：
- **洗車するときは、以下の点に注意して行ってください。**
  - **エンジンを止めてから行ってください。もしエンジンをかけて行うときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。**
  - **灯火類は消灯した状態で行ってください。もし点灯した灯火類に直接水がかかるとランプのバルブが切れるおそれがあります。**
  - **3 点リンク外部操作スイッチ、傾き手動外部操作スイッチには直接水がかからないようにしてください。もし水が入ると故障の原因となります。**
  - **高圧洗車機を使用するときは、ノズルの先端をドア、リヤウインドなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると水圧が高いため、室内に水が入るおそれがあります。**
- **格納時は、必ず[切]位置でキーを抜いておいてください。**
- **バッテリの取付けの際には、（+）と（−）をよく確認し、絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると、トラクタの電子機器類が破損する場合があります。**

トラクタを長い間使用しない場合は、次の要領で整備してから格納しましょう。
- 不具合箇所は整備してください。

- エンジンオイルを交換し、2000 rpm 以上で 10 分～15 分間の防錆運転をし、各部にオイルをゆきわたらせてください。
  その後も 1 か月～2 か月ごとに同様に防錆運転をしてください。
- 定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。
  定期点検箇所一覧表（191 ページ）
- 車体のさびやすい部分には、グリースかオイルを塗っておいてください。
- 周囲の安全を確認した後エンジンを始動させ、各油圧シリンダの防錆運転を 1 か月～2 か月ごとに行ってください。
  1. ステアリングハンドルを左右にパワーステアリングシリンダがストロークエンドに達するまで 1 回～2 回まわす。
  2. 油圧（ポジション）レバーで 3 点リンク（作業機）を最上昇位置まで 1 回～2 回上下させる。
  3. 傾き手動スイッチまたは角度調節ダイヤルで、リフトシリンダ（右）を 1 回～2 回全ストローク伸縮させる（作業機が装着されているときは作業機を上げてから行ってください）。
- 燃料コックを“閉”にしておいてください。
- 冷却水は抜いておいてください。
  ただし、オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
- クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して、水が浸入していないことを確認してください。
- タイヤの空気圧は、標準より少し多めにしてください。
- バッテリを本機から取外すときは、SCR システムの冷却機能が完了するまで、エンジン停止から少なくとも 15 分待ってください。
  （詳細は、エンジン停止時の尿素 SCR システムの注意（209 ページ）を参照）
- バッテリを本機から取り外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取り付けたまま保管するときは必ずアース側（－側）を外してください。
- ウエイトは取り外し、作業機は、外すか地面に降ろした状態にしてください。
- 後輪の前後に車止めをしておいてください。
- 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは、確実に点検・整備してください。
- 格納中バッテリは、1 か月に 1 回充電器で完全充電するようにしましょう。
- 格納場所は、周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し、シートをかけるようにしましょう。
- 燃料は満タンにしてください。
  空にしておくと水滴ができ、燃料系統故障の原因になります。
- 尿素水(AdBlue)は尿素水タンクから全て排出してください。
  尿素水(AdBlue)を排出するときは、ドレーンプラグを外して容器に排出してください。ドレーンプラグを取り付ける際、破損する恐れがあるので、絶対に締めすぎないでください。また、締め付けに電動工具を使用しないでください。
  （尿素水(AdBlue)の排出については、尿素水(AdBlue)の排出（58 ページ）を参照）
- ドアを確実に閉め、キーを抜いておいてください。

2. 長期格納後の運転

- オートエアコン付トラクタで長期放置（1 か月以上）後、オートエアコンを使用する場合は、コンプレッサ保護のため、必ずエンジンアイドリングにてファンスイッチ**[1]**、エアコンスイッチを ON（入）にし、5 分以上エアコンを作動させてください。
  （AUTO スイッチでの起動ではコンプレッサが作動しない場合があります。）
- 再度運転するときは、新しいまたは良好な尿素水(AdBlue)を尿素水タンクに補給してください。
  （尿素水(AdBlue)の補給については、尿素水(AdBlue)の補給（58 ページ）を参照）

不調と処置

1. エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をしてください。

現象	原因	処置
始動困難な場合	燃料が流れない。	• 燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除く。 • 燃料フィルタを点検し、汚れていれば交換する。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	• ホース・プラグ・袋ナットおよび締付けバンドを点検し、ゆるみがあれば締め、損傷があれば新品と交換または補修しておく。 • 空気抜きをする。 燃料の空気抜きのしかた（228 ページ）の項を参照。
	寒冷時にオイル粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。	• ラジエータに熱湯をそそぐ。
	バッテリがあがり気味で、回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	• バッテリを充電する。
出力不足の場合	燃料不足	• 燃料を補給する。 • 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	燃料の流れ不足	• 燃料フィルタの清掃をする。
	エアクリーナの目詰まり	• エレメントを清掃する。
	尿素水（AdBlue）不足	• 尿素水（AdBlue）を補給する。
突然停止した場合	燃料不足	• 燃料を補給する。 • 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	燃料が流れない。	• 燃料フィルタを点検し、汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	燃料が悪い。	• 良質の燃料に交換する。
	エンジンオイルの入り過ぎ。	• 正規のオイル量にする。
	エアクリーナの目詰まり	• エレメントを清掃する。
水温計が H 付近を示すとき	冷却水が 125 ℃付近になったため。	• 冷却水の量（不足）および水もれの点検 • ファンベルトの張り（ゆるみ）の点検 • フロントグリル、ラジエータの防虫網にごみの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合、または冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合、マフラ内部に湿りが残っている。	• 負荷をかけてマフラをじゅうぶんに加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し、および、長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	ノズル不良	• ノズルを点検する。
	燃料不良	• 良質の燃料に交換する。

• わからない場合は、購入先にご相談ください。

2. 傾き自動・耕深制御・ドラフト・レーザ・AD・倍速・トランスミッションの故障と処置

異常が生じた場合、電子メータに異常箇所を示す下記エラーコードが表示されます。
もし表示された場合、すぐ購入先に連絡して点検・整備を受けてください。
なお、故障箇所によっては緊急避難処置として一部使用制限をした使い方ができる場合もあります。詳細はエラーコードと処置の欄を確認してください。



(1) 表示エラーコード 上段
(2) 表示エラーコード 下段

表示エラーコード				
上段	**下段**		**状態**	**処置**
リフトアーム	VCU	1873-3	リフトアームセンサ異常	作業切替スイッチを切（モードランプ消灯）にし、3 点リンク外部操作スイッチで操作してください。
	VCU	1873-4		
ストローク	VCU	521403-3	ストロークセンサ異常	傾き自動切替スイッチを切（傾き自動ランプ消灯）にし、傾き手動スイッチで操作してください。
	VCU	521403-4		
ポジション	VCU	6075-3	ポジションレバーセンサ異常	作業切替スイッチを切（モードランプ消灯）にし、3 点リンク外部操作スイッチで操作してください。
	VCU	6075-4		
カバー	VCU	521401-3	カバーセンサ異常	作業切替スイッチをポジションまたは**[S オート]**に切り替えて使用してください。
	VCU	521401-4		
傾き自動角度	VCU	521405-3	傾き自動角度調節ダイヤル異常	傾き自動切替スイッチを切（傾き自動ランプ消灯）にし、傾き手動スイッチで操作してください。
	VCU	521405-4		
3P 高さ規制	VCU	11024-3	3P 高さ規制調整ダイヤル異常	購入先に連絡してください。
	VCU	11024-4		
ドラフト	VCU	11031-3	ドラフトセンサ異常	作業切替スイッチを切（モードランプ消灯）にし、3 点リンク外部操作スイッチで操作してください。
	VCU	11031-4		
シャトルセンサ	VCU	521414-3	シャトルレバーセンサ異常（正側の出力）	購入先に連絡してください。
	VCU	521414-4		
	VCU	521414-8	シャトルレバーセンサ異常（正･副の位相のズレ）	
	VCU	521415-3	シャトルレバーセンサ異常（副側の出力）	
	VCU	521415-4		
ハンドアクセル	VCU	29-3	ハンドアクセルセンサ異常（正側の出力）	購入先に連絡してください。
	VCU	29-4		
	VCU	29-8	ハンドアクセルセンサ異常（正･副の位相のズレ）	
	VCU	2625-3	ハンドアクセルセンサ異常（副側の出力）	
	VCU	2625-4		
アクセルペダル	VCU	91-3	アクセルペダルセンサ異常（正側の出力）	購入先に連絡してください。
	VCU	91-4		
	VCU	91-8	アクセルペダルセンサ異常（正･副の位相のズレ）	
	VCU	2623-3	アクセルペダルセンサ異常（副側の出力）	
	VCU	2623-4		
VT 通信	VCU	521587-19	サブモニタ(VT)通信異常	購入先に連絡してください。
3P 感度調整	VCU	11036-3	感度調整ダイヤル異常	購入先に連絡してください。 作業精度が調整できません。
	VCU	11036-4		
落下速度調整	VCU	11034-3	落下速度調整ダイヤル異常	購入先に連絡してください。 下げ速度が調整できません。
	VCU	11034-4		
ピッチングセンサ	VCU	3318-3	ピッチングセンサ（オプション部品）異常	購入先に連絡してください。
	VCU	3318-4		

（次へ続く）

表示エラーコード				
上段	下段		状態	処置
主変速レバー	VCU	520257-3	主変速レバーセンサ異常 （正側の出力）	購入先に連絡してください。 主変速が調整できません。
	VCU	520257-4		
	VCU	520257-8	主変速レバーセンサ異常 （正･副の位相のズレ）	
	VCU	521409-3	主変速レバーセンサ異常 （副側の出力）	
	VCU	521409-4		
副変速レバー	VCU	5131-3	副変速レバーセンサ異常	速やかに停止し、購入先に連絡してください。 （**[L]**、**[M]**または**[H]**時は走行可、**[N]**時は走行不可）
	VCU	5131-4		
クラッチペダル	VCU	5110-3	クラッチペダルセンサ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	5110-4		
耕深調整	VCU	521404-3	耕深調節ダイヤル異常	作業切替スイッチを切（モードランプ消灯）にし、ポジションレバーで操作してください。
	VCU	521404-4		
前輪切れ角	VCU	522017-3	切れ角センサ異常	走行モード切替スイッチを**[切]**または**[4WD]**に切り替えてください。 旋回アップスイッチを**[切]**にしてください。
	VCU	522017-4		
3P 上げ SOL	VCU	11011-5	3P 昇降バルブ（上昇側）異常	購入先に連絡してください。 作業機が上昇できません。
	VCU	11011-8		
	VCU	11011-12		
傾き自動縮 SOL	VCU	521472-4	傾き自動バルブ（縮側）異常	購入先に連絡してください。 傾き自動シリンダが縮みません。
	VCU	521472-5		
	VCU	521472-12		
前進 SOL	VCU	741-4	前進バルブ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	741-5		
	VCU	741-12		
レーザーセンサ	VCU	521402-3	レーザレベルセンサ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	521402-4		
3P 下げ SOL	VCU	11012-5	3P 昇降バルブ（下降側）異常	購入先に連絡してください。 作業機が下降できません。
	VCU	11012-8		
	VCU	11012-12		
傾き自動伸 SOL	VCU	521473-4	傾き自動バルブ（伸側）異常	購入先に連絡してください。 傾き自動シリンダが伸びません。
	VCU	521473-5		
	VCU	521473-12		
後進 SOL	VCU	4216-4	後進バルブ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	4216-5		
	VCU	4216-12		
PTO SOL	VCU	5360-4	PTO バルブ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	5360-5		
	VCU	5360-12		
PTO SW	VCU	3452-14	PTO スイッチ異常	PTO 回転不可 購入先に連絡してください。

（次へ続く）

表示エラーコード				
上段	**下段**		**状態**	**処置**
ECU 通信	VCU	520352-19	エンジン制御ユニット(ECU)通信異常	購入先に連絡してください。
ACU 通信	VCU	520358-19	排ガス後処理制御ユニット(ACU)通信異常	購入先に連絡してください。
シャトル SOL	VCU	521457-5	シャトルバルブ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	521457-8		
	VCU	521457-12		
ARU 通信	VCU	521584-19	アームレスト通信異常	購入先に連絡してください。
シャトルスプール	VCU	521567-3	シャトルバルブ中立スイッチ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	521567-4		
4WD SOL	VCU	2612-4	4WD バルブ異常	走行モード切替スイッチを**[切]**に切り替えてください。
	VCU	2612-5		
	VCU	2612-12		
倍速 SOL	VCU	521452-4	倍速バルブ異常	走行モード切替スイッチを傾き自動バルブ（伸側）異常または**[4WD]**に切り替えてください。
	VCU	521452-5		
	VCU	521452-12		
シャトルレバー	VCU	604-14	シャトルレバー中立スイッチ異常	購入先に連絡してください。
内部 5 V	VCU	3509-1	アナログセンサ 電源(+5 V)異常	購入先に連絡してください。
STG センサ	VCU	521406-12	STG センサ異常	購入先に連絡してください。 （ただし、水平精度は落ちるが耕うん作業は可能です。） （**[水平]**、**[傾斜]**のとき、傾き自動が使えないので傾き手動スイッチで操作してください。）
	VCU	521406-19		
スタータリレー	VCU	1321-4	スタータリレー異常	購入先に連絡してください。
	VCU	1321-5		
アクセル記憶	VCU	520400-13	アクセルセンサ調整値異常	購入先に連絡してください。
DBM 通信	VCU	520350-19	メータパネル異常	購入先に連絡してください。
AD 左 SOL	VCU	521454-5	AD（左）比例減圧弁異常	AD スイッチを**[切]**に切り替えてください。
	VCU	521454-8		
	VCU	521454-12		
AD 右 SOL	VCU	521453-5	AD（右）比例減圧弁異常	AD スイッチを**[切]**に切り替えてください。
	VCU	521453-8		
	VCU	521453-12		
ブレーキペダル	VCU	521-3	ブレーキペダルセンサ異常 （正側の出力）	購入先に連絡してください。
	VCU	521-4		
	VCU	521-8	ブレーキペダルセンサ異常 （正･副の位相のズレ）	
	VCU	521410-3	ブレーキペダルセンサ異常 （副側の出力）	
	VCU	521410-4		
斜板センサ	VCU	521407-3	斜板センサ異常 （正側の出力）	購入先に連絡してください。
	VCU	521407-4		

（次へ続く）

表示エラーコード				
上段	下段		状態	処置
斜板センサ	VCU	521407-8	斜板センサ異常 （正･副の位相のズレ）	購入先に連絡してください。
	VCU	521408-3	斜板センサ異常 （副側の出力）	
	VCU	521408-4		
HST 増速 SOL	VCU	524107-5	HST 増速比例減圧弁異常	購入先に連絡してください。
	VCU	524107-8		
	VCU	524107-12		
HST 減速 SOL	VCU	524108-5	HST 減速比例減圧弁異常	購入先に連絡してください。
	VCU	524108-8		
	VCU	524108-12		
Hi SOL	VCU	521492-4	Hi バルブ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	521492-5		
	VCU	521492-12		
Lo SOL	VCU	521493-4	Lo バルブ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	521493-5		
	VCU	521493-12		
Hi スプール	VCU	521568-3	Hi バルブ中立スイッチ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	521568-4		
Lo スプール	VCU	521570-3	Lo バルブ中立スイッチ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	521570-4		
Hi クラッチ圧力 （メータパネルでの表示 "Hi クラッチ圧力確認してください"）	VCU	521569-3	圧力スイッチ（Hi クラッチ）異常	購入先に連絡してください。
	VCU	521569-4		
Lo クラッチ圧力 （メータパネルでの表示 "Lo クラッチ圧力確認してください"）	VCU	521571-3	圧力スイッチ（Lo クラッチ）異常	購入先に連絡してください。
	VCU	521510-4		
後進クラッチ圧力 （メータパネルでの表示 "後進クラッチ圧力確認してください"）	VCU	521534-3	圧力スイッチ異常（シャトル後進側）	購入先に連絡してください。
	VCU	521534-4		
HST 回転センサ	VCU	521425-4	HST 回転センサ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	521425-14		
HMT 回転センサ	VCU	521426-4	HMT 回転センサ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	521426-14		
車速センサ	VCU	191-4	車速回転センサ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	191-14		

付表

主要諸元

1. トラクタの主要諸元

型式			GV800H	GV900H	GV1000H	GV1050H
駆動方式			4 輪駆動			
機体寸法	全長		4035 mm			4085 mm
	全幅		1830 mm [1930 mm]	1810 mm [1940 mm]		
	全高		2570 mm	2615 mm		
	軸距		2250 mm			2355 mm
	輪距	前輪	1400 mm（1310 mm～1400 mm 3 段）*1 ［1500 mm（1330 mm～1520 mm 4 段）］*1	1400 mm（1310 mm～1400 mm 3 段）*1 ［1520 mm（1330 mm～1520 mm 4 段）］*1		
		後輪	1400 mm（1400 mm～1900 mm 6 段）*1 ［1500 mm（1400 mm～1900 mm 6 段）］*1	1380 mm （1380 mm～1990 mm 6 段）*1 ［1510 mm （1380 mm～1990 mm 6 段）］*1		
	最低地上高		430 mm	475 mm		
質量（重量）			3410 kg [3420 kg]	3600 kg [3610 kg]		3610 kg [3620 kg]
エンジン	機関型式		V3800-TIEF4			
	形式		水冷 4 サイクル 4 気筒立形ディーゼル			
	総排気量		3.769 L			
	出力（ネット）／回転速度		58.8 kW/2600 rpm (80 PS/2600 rpm)	66.2 kW/2600 rpm (90 PS/2600 rpm)	73.5 kW/2600 rpm (100 PS/2600 rpm)	77.2 kW/2600 rpm (105 PS/2600 rpm)
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量		115 L			
	尿素水タンク容量		12.9 L			
	始動方式		セルモータ式			
	バッテリ		31-900（BCI サイズ-CCA）			
タイヤ	前輪		9.5-24-6PR	11.2-24-6PR		
	後輪		16.9-30-6PR	16.9-34-6PR		
車体	クラッチ方式		電子油圧式湿式多板			
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付き）、湿式ディスクブレーキ（機械式）			
	かじ取り方式		全油圧式パワーステアリング			
	差動方式		4 ピニオンかさ歯車式（デフロック付き）			
	変速方式		無段変速 MASC			
変速段数		前進・後進	副変速：3 段、主変速：無段			
走行速度		前進	0.1 km/h～32.5 km/h	0.1 km/h～34.7 km/h		
		後進	0.1 km/h～27.7 km/h	0.1 km/h～29.6 km/h		
最小旋回半径（ブレーキ使用時）			3.2 m [3.5 m]以下	3.3 m [3.5 m]以下		3.4 m [3.6 m]以下
PTO	標準	PTO 回転速度	589 回転/分、828 回転/分、1170 回転/分（エンジン 2600）			
	選択	逆転 PTO 仕様	523 回転/分（エンジン 2600）			

（次へ続く）

型式			GV800H	GV900H	GV1000H	GV1050H
PTO	選択	グランド PTO 仕様	2.71 回転/トラクタ走行 1 m につき（タイヤ 16.9-30）	2.59 回転/トラクタ走行 1 m につき（タイヤ 16.9-34）		
	低回転（D 仕様）		406 回転/分、537 回転/分、760 回転/分、1015 回転/分（エンジン 2600）			
	軸寸法		JIS 35			
作業機昇降装置		制御方式	ポジション・ドラフトミックスコントロール			
		装着方式	3 点リンク JIS 2 形			

補足：
- **[ ] 内は標準仕様の値です。**
- **質量、全長は鋳物ウエイト台装備状態の値です。**
- **この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。**

*1　最初の輪距は、工場出荷時の輪距値です。()内は調整範囲と段数を示します。

型式			**GVK800H**					**GVK900H**				
機種	販売型式		–	W	WR	N	NN	–	W	WR	N	NN
	仕様		標準仕様	前輪扁平仕様		N（幅狭クローラ）仕様		標準仕様	前輪扁平仕様		N（幅狭クローラ）仕様	
駆動方式			半装軌式									
機体寸法	全長		4035 mm									
	全幅		1890 mm	1980 mm	1940 mm	1770 mm		1890 mm	1980 mm	1940 mm	1770 mm	
	全高		2625 mm									
	軸距		2250 mm									
	最低地上高		470 mm									
機体質量（重量）			3900 kg	3935 kg	3930 kg	3850 kg		3900 kg	3935 kg	3930 kg	3850 kg	
エンジン	機関型式		V3800-TIEF4									
	種類		水冷 4 サイクル 4 気筒立形ディーゼル									
	総排気量		3.769 L									
	出力（ネット）／回転速度		58.8 kW/2600 rpm (80 PS/2600 rpm)					66.2 kW/2600 rpm (90 PS/2600 rpm)				
	使用燃料		ディーゼル軽油									
	燃料タンク容量		115 L									
	尿素水タンク容量		12.9 L									
	始動方式		セルモータ式									
	バッテリ		31-900（BCI サイズ-CCA）									
前輪タイヤ	前輪タイヤ		9.5-24	320/60-26	360/70R20	9.5-24		9.5-24	320/60-26	360/70R20	9.5-24	
	前輪輪距		1430 mm (1330 mm ～ 1520 mm 4 段)	1530 mm	1520 mm	1430 mm (1330 mm ～ 1520 mm 4 段)	1330 (1330 mm ～ 1520 mm 4 段)	1430 (1330 mm ～ 1520 mm 4 段)	1530 mm	1520 mm	1430 mm (1330 mm ～ 1520 mm 4 段)	1330 mm (1330 mm ～ 1520 mm 4 段)
クローラ	幅×接地長		450 mm×1310 mm			280 mm×1310 mm		450 mm×1310 mm			280 mm×1310 mm	
	リンク数×ピッチ		50×90 mm									
	輪距		1440 mm				1320 mm	1440 mm				1320 mm
	接地面積		11790 cm^2			7340 cm^2		11790 cm^2			7340 cm^2	
	接地圧		20.8 kPa (0.212 kgf/cm^2)			32.7 kPa (0.333 kgf/cm^2)		20.8 kPa (0.212 kgf/cm^2)			32.7 kPa (0.333 kgf/cm^2)	
	緩衝方式		揺動式（+9°, -7°）									
車体	クラッチ方式		電子油圧式湿式多板									
	制動方式		一系統左右独立（連結装置付き）、湿式ディスクブレーキ（機械式）									
	かじ取方式		全油圧式パワーステアリング									
	差動方式		4 ピニオンかさ歯車式（デフロック付き）									
	変速方式		無段変速 MASC									
	変速段数	前進・後進	副変速：3 段、主変速：無段									
	走行速度	前進	0.1 km/h～27.7 km/h									
		後進	0.1 km/h～22.7 km/h									
PTO	標準	PTO 回転速度	589 回転/分、828 回転/分、1170 回転/分（エンジン 2600）									
	選択	逆転 PTO 仕様	523 回転/分（エンジン 2600）									
		グランド PTO 仕様	3.12 回転/トラクタ走行 1 m につき									
	低回転（D 仕様）		406 回転/分、537 回転/分、760 回転/分、1015 回転/分（エンジン 2600）									

（次へ続く）

型式		GVK800H	GVK900H
PTO	軸寸法	JIS 35	
作業機昇降装置	制御方式	ポジション・ドラフトミックスコントロール	
	装着方式	3 点リンク JIS 2 形	

補足：
- **質量、全長は鋳物ウエイト台装備状態の値です。**
- **この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。**

型式			**GVK1000H**					**GVK1050H**				
機種	販売型式		–	W	WR	N	NN	–	W	WR	N	NN
	仕様		標準仕様	前輪扁平仕様		N（幅狭クローラ）仕様		標準仕様	前輪扁平仕様		N（幅狭クローラ）仕様	
駆動方式			半装軌式									
機体寸法	全長		4035 mm					4085 mm				
	全幅		1890 mm	1980 mm	1940 mm	1770 mm		1890 mm	1980 mm	1940 mm	1770 mm	
	全高		2625 mm									
	軸距		2250 mm					2355 mm				
	最低地上高		470 mm									
機体質量（重量）			3900 kg	3935 kg	3930 kg	3850 kg		3910 kg	3945 kg	3940 kg	3860 kg	
エンジン	機関型式		V3800-TIEF4									
	種類		水冷 4 サイクル 4 気筒立形ディーゼル									
	総排気量		3.769 L									
	出力（ネット）／回転速度		73.5 kW/2600 rpm (100 PS/2600 rpm)					77.2 kW/2600 rpm (105 PS/2600 rpm)				
	使用燃料		ディーゼル軽油									
	燃料タンク容量		115 L									
	尿素水タンク容量		12.9 L									
	始動方式		セルモータ式									
	バッテリ		31-900（BCI サイズ-CCA）									
前輪タイヤ		前輪タイヤ	9.5-24	320/60-26	360/70R20	9.5-24		9.5-24	320/60-26	360/70R20	9.5-24	
		前輪輪距	1430 mm (1330 mm ～ 1520 mm 4 段)	1530 mm	1520 mm	1430 mm (1330 mm ～ 1520 mm 4 段)	1330 mm (1330 mm ～ 1520 mm 4 段)	1430 mm (1330 mm ～ 1520 mm 4 段)	1530 mm	1520 mm	1430 mm (1330 mm ～ 1520 mm 4 段)	1330 mm (1330 mm ～ 1520 mm 4 段)
クローラ	幅×接地長		450 mm×1310 mm			280 mm×1310 mm		450 mm×1310 mm			280 mm×1310 mm	
	リンク数×ピッチ		50×90 mm									
	輪距		1440 mm				1320 mm	1440 mm				1320 mm
	接地面積		11790 cm^2			7340 cm^2		11790 cm^2			7340 cm^2	
	接地圧		20.8 kPa (0.212 kgf/cm^2)			32.7 kPa (0.333 kgf/cm^2)		21.1 kPa (0.215 kgf/cm^2)			33.3 kPa (0.339 kgf/cm^2)	
	緩衝方式		揺動式（+9°, -7°）									
車体	クラッチ方式		電子油圧式湿式多板									
	制動方式		一系統左右独立（連結装置付き）、湿式ディスクブレーキ（機械式）									
	かじ取方式		全油圧式パワーステアリング									
	差動方式		4 ピニオンかさ歯車式（デフロック付き）									
	変速方式		無段変速 MASC									
	変速段数	前進・後進	副変速：3 段、主変速：無段									
	走行速度	前進	0.1 km/h～27.7 km/h									
		後進	0.1 km/h～22.7 km/h									
PTO	標準	PTO 回転速度	589 回転/分、828 回転/分、1170 回転/分（エンジン 2600）									
	選択	逆転 PTO 仕様	523 回転/分（エンジン 2600）									
		グランド PTO 仕様	3.12 回転/トラクタ走行 1 m につき									
	低回転 PTO 仕様		406 回転/分、537 回転/分、760 回転/分、1015 回転/分（エンジン 2600）									

（次へ続く）

型式		**GVK1000H**	**GVK1050H**
PTO	軸寸法	JIS 35	
作業機昇降装置	制御方式	ポジション・ドラフトミックスコントロール	
	装着方式	3 点リンク JIS 2 形	

補足：
- **質量、全長は鋳物ウエイト台装備状態の値です。**
- **この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。**

2. 走行速度表

（エンジン最高回転時）

副変速	GV800H		GV900H GV1000H GV1050H	
	前進	後進	前進	後進
L （低速）	0.1 km/h～7.8 km/h	0.1 km/h～6.4 km/h	0.1 km/h～8.3 km/h	0.1 km/h～6.8 km/h
M （中速）	0.2 km/h～13.8 km/h	0.2 km/h～11.4 km/h	0.2 km/h～14.8 km/h	0.2 km/h～12.1 km/h
H （高速）	0.5 km/h～32.5 km/h	0.5 km/h～27.7 km/h	0.5 km/h～34.7 km/h	0.5 km/h～29.6 km/h

補足：
- **タイヤが WA サイズのときの値です。**
- **上記速度の値は、トラクタ単体状態における基準値であり、作業機の装着状態やほ場条件により変化します。**

[ハーフクローラ仕様]

（エンジン最高回転時）

副変速	GVK800H GVK900H GVK1000H GVK1050H	
	前進	後進
L （低速）	0.1 km/h～6.4 km/h	0.1 km/h～5.2 km/h
M （中速）	0.2 km/h～13.6 km/h	0.2 km/h～11.1 km/h
H （高速）	0.5 km/h～27.7 km/h	0.5 km/h～22.7 km/h

補足：
- **上記速度の値は、トラクタ単体状態における基準値であり、作業機の装着状態やほ場条件により変化します。**

3. 標準付属品

品名	数量／台
取扱説明書	1
取扱説明確認カード	1
保証書	1
メンテナンスブック	1
前輪切れ角調整ボルト類	1
燃料タンク給油口キー	1
ニップル（油圧取出用）	4
O リング（油圧取出用）	4
ジョイント（ロアリンク）	2
セットピンアッシ	2

アタッチメント一覧表（純正部品を使いましょう）

分類	品名	品番	用途・仕様	併用アタッチメント	備考
ウエイト	サイドプレートキット	95270000281	サイドプレート 2 枚	—	鋳物ウエイト台に併着して使用することで、フロントウエイトを 14 枚まで装着可能
	前部ウエイトアッシ	99660027380	ウエイト 25 kg×4 枚	固定用部品一式付	—
		99660014370	ウエイト 45 kg×4 枚		—
		99660018142	ウエイト 45 kg×8 枚		—
		99780002142	ウエイト 45 kg×12 枚		—
	14 枚ウエイト・サイドプレートキット	95270000271	—		—
	前部ウエイト単体 25 kg	99660027390	25 kg	—	—
	前部ウエイト単体 45 kg	99660014360	45 kg	—	—
	ボルト（ウエイト 4 枚用）	99660027410	フロントウエイト固定用ボルト	—	—
	ボルト（ウエイト 6 枚用）	99660027400			—
	ボルト（ウエイト 8 枚用）	99870000020			—
	ボルト（ウエイト 10 枚用）	99470002260			—
	ボルト（ウエイト 12 枚用）	99100008122			—
	ボルトキット（ウエイト 4 枚用）	99930000030	フロントウエイト固定用（部品一式付）	—	—
	ボルトキット（ウエイト 6 枚用）	99930000040		—	—
	ボルトキット（ウエイト 8 枚用）	99930000052		—	—
	ボルトキット（ウエイト 10 枚用）	99930000060		—	—
	ボルトキット（ウエイト 12 枚用）	95270000180		—	—
	ボルトキット（ウエイト 14 枚用）	95270000321		ボルト（ウエイト 14 枚用）、座金、バネ座金、ナット	—
	後輪ウエイトアッシ	99660027550	ウエイト 50 kg×4 枚 取付ボルト含む	—	板金ディスク用
	後輪ウエイト単体 50 kg	99660027560	50 kg 単体	後輪ウエイトアッシに追加用	取付ボルト付
その他	クイックアップレバーキット	95270000080	ハンドル下用	—	—
	傾き自動キット	95270000050	水平制御	—	—
	サブモニタ(VT)キット（MASC 用）	95270000331	機能設定用	カメラ（VT 接続）キット： 9529000676	—
	フロント作業灯	95270000110	夜間作業用	—	LED・2 灯
	リヤ作業灯	95270000120	夜間作業用	—	LED・1 灯
	インストラクタシート	95270000020	キャブ左室内設置	—	—
	トレーラ用コネクタキット	99900006090	トラクタ側（メス）	トレーラ側オスカプラ 99660010040	—

（次へ続く）

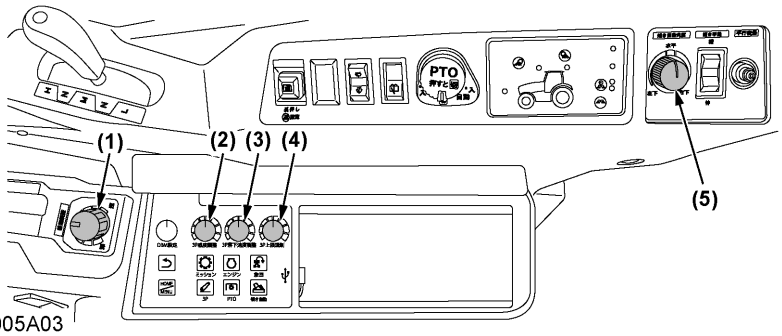
分類	品名	品番	用途・仕様	併用アタッチメント	備考
その他	トレーラ用コネクタキット（ヨーロッパタイプ）	99900006800	トラクタ側（メス）	トレーラ側オスカプラ（ヨーロッパタイプ） 99660016630	ヨーロッパタイプ
	インプルメントステー	95270000090	コントローラおよびサブモニタ(VT)	—	右側面ピラーに取付
	オルタネータキット	95270000060	150A	—	—
	GPS ステー・スリップ制御キット	95270000150	GPS ユニットステー付	—	—
	ワイドサイドミラーキット	95270000070	ワイドサイドミラー	—	—
	テレスコミラーキット	99870000190	テレスコミラー	—	—
	熱線ガラスキット（リアデフォッガ）	95270000100	熱線ガラス	—	—
	CAN 分岐コネクタ	95270000190	—	—	—
	新 CAN 分岐コネクタ	95270000200	—	—	—
	新旧変換コネクタ	95270000210	—	—	—

補助コントロールバルブ一覧表

No.	区分	品名	品番	補助コントロールバルブ				備考
				1 連目	2 連目	3 連目	4 連目	
1	バルブ	複動バルブ	99660021851	標準装備	—	○	○	カプラは No.10～13 から選択
2		単複切替バルブ	99660021841	—	標準装備	○	○	
3		セルフキャンセルデテントバルブ	99900007280	—	—	○	○	
4		フローティングバルブ	99900007290	—	—	○	○	
5	レバーキット	レバーキット（ロック用）	95270000170	○	○	○	○	レバーロック機構付き（1～4 連目で使用可）
6		レバーキット（3 連目取付用）	95270000030	—	—	○	—	3 連にする場合必要（M なし）
7		レバーキット（4 連目取付用）	95270000040	—	—	—	○	4 連にする場合必要（M なし）
8		レバーキット（傾き自動 3 連目取付用）		—	—	○	—	M 仕様 3 連目用
9		レバーキット（傾き自動 4 連目取付用）	95270000160	—	—	—	○	M 仕様 4 連目用
10	カプラ	カプラキット（3/8）	99660015680	○	○	○	○	メス・オスカプラ各 2 個で 1 セット
11		カプラキット（1/2）	99660015710	○	○	○	○	
12		カプラキット P（クイックタイプ 1/2）	99930005230	○	○	○	○	
13		カプラアッシメス（クイックタイプ 1/2）	95210006680	○	○	○	○	メスカプラ 1 バルブ 2 個必要

- ○は追加装着可、– は装着不要または不可を示します。
- 上記表より、バルブ、パーツキットおよびカプラキットを組合せて選定してください。
- バルブと油圧カプラは、使用する作業機に合わせて選択してください。

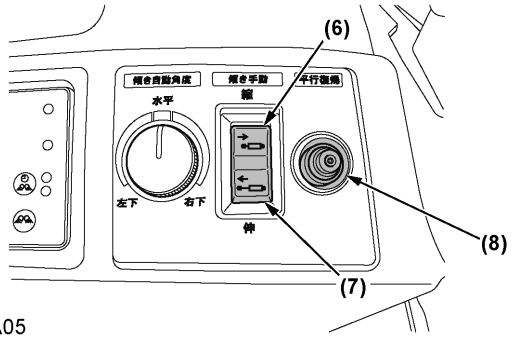
作業ごとの一般的な調整要領

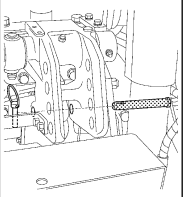
<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">作業内容</th><th colspan="7">操作調整箇所</th></tr>
<tr><td colspan="7">

(1) 耕深調整ダイヤル
(2) 感度調整ダイヤル
(3) 落下速度調整ダイヤル
(4) 高さ規制調整ダイヤル
(5) 傾き自動角度調整ダイヤル</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>耕深調整ダイヤル(1)</td><td>感度調整ダイヤル(2)</td><td>落下速度調整ダイヤル(3)</td><td>高さ規制調整ダイヤル(4)</td><td>傾き自動角度調整ダイヤル(5)</td><td>3P 制御モード *1</td><td>傾き自動モード *1</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ロータリ耕うん（傾き自動・耕深制御入）</td><td>一般耕うん</td><td rowspan="4">希望耕深になるように調整</td><td rowspan="4">仕上がりに応じ調整
（純正ロータリは中央～敏感右方向）
他社作業機は中央～鈍感左方向を目安に調整）</td><td rowspan="4">2～3 秒に調整</td><td rowspan="4">作業機・作業に応じて適切な位置に調整</td><td rowspan="3">[水平]（必要に応じて調整）</td><td>[耕深制御]</td><td rowspan="3">純正ロータリの場合[水平 1]
ロアーリンク幅、取り付け穴により適宜選択 *2</td></tr>
<tr><td>ロータリカバー（耕深ワイヤ）を使用しない耕うん</td><td>[S モード]</td></tr>
<tr><td>代かき湿田</td><td rowspan="2">[耕深制御]</td></tr>
<tr><td>傾斜地</td><td>[水平]</td><td>[傾斜]</td></tr>
<tr><td colspan="2">プラウ耕（その他けん引作業機）</td><td>希望耕深になるよう調整</td><td>土質に応じ調整</td><td>1～2 秒に調整</td><td>通常作業位置は[高]</td><td>–</td><td>[ドラフト]</td><td>傾き自動 切
（位置制御）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">一般作業機（ポジションコントロール）</td><td rowspan="2">–</td><td rowspan="2">–</td><td rowspan="2">作業にあわせて調整</td><td rowspan="2">作業機に合わせ調整</td><td>[水平]
（必要に応じて調整）</td><td rowspan="2">[ポジション]</td><td>傾き自動 入
ロアーリンク幅、取付穴により適宜選択</td></tr>
<tr><td>–</td><td>傾き自動 切
（位置制御）</td></tr>
</table>

*1 電子メータ(DBM)に表示される画面で設定する内容です。メニュー画面と設定画面（76 ページ）の項を参照してください。

*2 傾き自動モード切替（120 ページ）の項を参照してください。

<table>
<tr><td rowspan="3" colspan="2">作業内容</td><td colspan="6">操作調整箇所</td></tr>
<tr><td colspan="3">

1ZCHH00012A05
(6) 傾き手動スイッチ[縮]
(7) 傾き手動スイッチ[伸]
(8) 傾き手動スイッチ[平行復帰]</td><td>
1SEEL00022B01</td><td>
1AGAVAJAP084B</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">傾き手動スイッチ *1</td><td rowspan="2">旋回アップ *1</td><td rowspan="2">バックアップ*1</td><td rowspan="2">ポジションレバー</td><td rowspan="2">ドラフトストッパピン</td><td rowspan="2">備考</td></tr>
<tr><td>[縮](6)</td><td>[伸](7)</td><td>[平行復帰](8)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ロータリ耕うん(傾き自動・耕深制御入)</td><td>一般耕うん</td><td colspan="3" rowspan="4">–</td><td rowspan="2">隣接耕うん時は[入]（選択）*2</td><td rowspan="4">[入]
（作業に応じて）</td><td rowspan="4">最下位置</td><td rowspan="4">ピンを入れる</td><td rowspan="4">すき込み高さ調整位置*3</td></tr>
<tr><td>ロータリカバー（耕深ワイヤ）を使用しない耕うん</td></tr>
<tr><td>代かき湿田</td><td>切</td></tr>
<tr><td>傾斜地</td><td>隣接耕うん時は[入]（選択）*2</td></tr>
<tr><td colspan="2">プラウ耕(その他けん引作業機)</td><td colspan="2">任意の角度に作業機を傾斜させる</td><td>左右のリフトロッドが同じ長さになる</td><td>切</td><td>[入]
（作業に応じて）</td><td>最下位置
耕盤が軟弱な場合下限位置を設定する</td><td>ピンを抜く</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">一般作業機(ポジションコントロール)</td><td colspan="2">–</td><td>–</td><td rowspan="2">作業にあわせて選択</td><td rowspan="2">作業にあわせて選択</td><td rowspan="2">作業に合わせ高さを調整</td><td rowspan="2">ピンを入れる</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">任意の角度に作業機を傾斜させる</td><td>–</td></tr>
</table>

補足：
レーザモードはレーザの取扱説明書を参照してください。

*1 電子メータ(DBM)に表示される画面で設定する内容です。メニュー画面と設定画面（76 ページ）の項を参照してください。
*2 作動しない場合があります。旋回アップの使い方（115 ページ）の項を参照してください。
*3 すき込み開始高さの調整（152 ページ）の項を参照してください。

索引

記号・数字

3P 制御モード
　機能..... 111
3P 動作切替スイッチ
　機能..... 116
3 点リンク
　安全ロック機能.....145
　各部の名称..... 147
　作業機の取付け.....148
3 点リンク外部操作スイッチ..... 150
3 点リンクキープモード
　概要..... 117
3 点リンク作業機
　注意事項.....20
3 点リンク制御
　表示.....146
3 点リンクリターンモード
　概要..... 117
4 輪駆動
　使い方..... 70

アルファベット

AD
　故障と処置.....236
　強弱設定.....71
　使い方..... 71
AD スイッチ
　機能.....71
DPF 差圧センサ
　ホースの交換.....226
DPF 差圧センサパイプ
　点検.....224
DPF マフラ
　取扱いポイント.....46
　PM 堆積の警告レベルと必要な処置（再生禁止モード時）..... 51
　PM 堆積の警告レベルと必要な処置（自動再生モード時）..... 49
　再生禁止モードの操作..... 50
　再生に関する豆知識.....52
　再生方式.....47
　自動再生モードの操作..... 48
　清掃.....222
　注意事項.....22
　点検.....201
DTC：Diagnostic Trouble Code.....55
e-アシスト旋回
　応答時間設定.....107
　解除.....106
　回転数設定..... 106
　クルーズ車速設定..... 107
　設定.....106
EGR
　クーラの点検・清掃.....222
　システムの点検・清掃..... 222
　パイプの点検.....224
PCV バルブ
　点検.....222
　ホースの交換.....226
PTO 軸カバー.....156
PTO 軸キャップ..... 156
PTO スイッチ
　機能.....153
　操作の注意事項..... 153
PTO 設定.....136
PTO 変速レバー
　機能.....155
SCR 警告情報..... 55

あ

アイドラ
　オイル交換..... 227
アウターエレメント
　交換.....210
　清掃.....210
アクセルペダル..... 67
アクセルレバー..... 67
アクセル連動.....68
アタッチメント一覧表..... 249
油漏れ
　点検..... 21
あゆみ板使用時の注意..... 22
あゆみ板の使用..... 16
安全確認..... 19
安全キャブ..... 61
　改造禁止.....13
　目的..... 13
安全キャブ部.....45
安全ラベル
　取扱い..... 29
　貼り付け位置.....24
アンテナ.....189
インストラクタシート..... 61
　使用時の注意と手順.....61
インテークエアヒータ
　点検.....222
イージーチェッカ
　機能..... 96
ウインカスイッチ..... 64
ウエイト（オプション）.....181
　後輪.....181
ウォッシャ液
　補充.....233
運転時の注意.....22
運転席部.....42
運転免許.....34

エアコン
外気フィルタの清掃....217
機器の簡易点検....223
空気の流れ....186
コントロールパネル....187
エアコンコンデンサ
清掃....217
エアコンスイッチ
機能....188
エアコンコンデンサ
引出し....200
エアコン配管
点検....224
エアコンベルト
張りの調整....218
張りの点検....218
エアコンホース
点検....224
エキゾーストパイプ
点検....212
エキゾーストマニフォールド
点検....224
エコ設定....136
絵目次
安全キャブ部....45
運転席部....42
電子メータ....75
ハンドル部....41
エンジン
始動確認....212
始動のしかた....127
停止時の注意....20
停止時の尿素 SCR システムの注意....209
排気状態の確認....212
バッテリあがりの処置....139
不調と処置....235
前周りの清掃....201
エンジンオイル
交換....218
点検....197
補給....197
エンジンオイルフィルタカートリッジ
交換....219
エンジン回転計....97
エンジン回転上限設定....104
一時解除....94
エンジン回転メモリ
設定....104
エンジン回転メモリ設定の一時解除
一時解除....94
エンジン始動システム
点検....207
エンジン始動セキュリティ
暗証番号設定....103
暗証番号の入力方法....100
入/切設定....103
概要....100
設定....102
エンジンの始動と停止
注意事項....127
エンジンバルブクリアランス
点検....221
オイルクーラ
清掃....200
オイルクーラホース
交換....214,226
点検....214
オイルセパレータ
エレメントの交換....222
温度コントロールつまみ
調節....187
オーディオ機器
お問合せ....189
電源が入らない時の対応....189
取扱い....188
本機で利用できない機能について....189
オート 4WD スイッチ
概要....72
オートエアコン
概要....186

か

外気フィルタ
清掃....217
外部油圧
取出し....124
下限規制....112
片側の車輪がスリップするとき....140
傾き自動
安全ロック機能....124
故障と処置....236
表示....146
名称....119
傾き自動安全ロック
解除....124
傾き自動角度調節ダイヤル
機能....123
傾き自動シリンダホース
交換....226
傾き自動モード［位置］（手動）
機能....123
傾き自動モード［傾斜］
機能....121
傾き自動モード［水平］
機能....120
傾き手動外部操作スイッチ
機能....150
傾き手動スイッチ
機能....123
感度調整ダイヤル
機能....114
寒冷時の暖機運転....138
寒冷時のワイパの使用....184
キャブマウントゴム
点検....224

吸気ホース
交換....213,226
点検....213
キースイッチ
機能....65
クイックアップ
表示....146
クイックアップレバー（スイッチ）
機能....114
クォータウインド
開閉のしかた....183
クラッチハウジング
水抜き....207
クラッチペダル
機能....66
調整....211,212
点検....211
クラッチペダル連動 PTO
機能....154
グリースの注入....205
クルーズ車速....134
現在車速の記憶....135
設定車速の変更....135
設定方法....135
クローラガイド
点検....227
クローラのアイドラ
オイル交換....227
オイルシール点検....227
クローラのローラ
オイル交換....227
オイルシール点検....227
傾斜地傾き自動
微調整設定....122
けん引作業時の注意....15
けん引ヒッチ（ドローバ）....152
高圧洗浄後
注意事項....21
耕深制御
故障と処置....236
耕深調節ダイヤル
機能....113
耕深ワイヤ
格納....149
取付け....149
交通法規遵守....19
公道走行時
注意....34
後輪ウエイト（オプション）....181
後輪デフロックペダル
機能....73
後輪輪距一覧表
クローラ輪距....177
後輪 270/95R38 タイヤ仕様....171
後輪 RC タイヤ仕様....173
ホイール仕様....167
後輪を浮かせての始動禁止....21
小型特殊自動車取得の届出....34
故障診断コード（DTC：Diagnostic Trouble Code）. 55
故障メッセージ
一時解除....95
ご相談窓口....31
困ったときの参照頁一覧....11
ゴムクローラ
交換....228
張りの調整....226
コモンレール仕様の注意事項....22

さ

最高車速
設定方法....134
最高車速設定....134
サイドカバー
取り外しかた....196
取り外しの注意事項....196
坂道走行....19
坂道での運転....141
作業機昇降装置
名称....109
作業機の着脱....17
作業機用操作ボックス
取付け....189
作業機落下速度調整ダイヤル....113
作業切替スイッチ
機能....112
作業機を取付けないときの注意....152
作業後
注意事項....21
作業ごとの一般的な調整要領....252
作業灯
後側....185
注意事項....184
前側....185
作業灯スイッチ....185
作業に適した服装....14
作業モード
概要....117
切替....145
サプライポンプ
点検....222
サンバイザ....185
室内エアフィルタの清掃....216
車速係数の入力について....95
車速設定....136
シャトルレバー
機能....69
車幅灯
機能....65
周囲の安全確認....14
主変速レバー
使い方....67
純正部品....249
上昇 PTO 停止モード
機能....154
除湿暖房....188

シート
機能....60
シートのかけかた
注意事項....19
シートベルト....61
シートベルトを併用すること....13
水温計....97
推奨オイル・尿素水・グリース一覧表....195
スイッチ
確認....14
すき込み開始高さ
設定変更....153
調整....152
ストッパ
交換....177
ストッパボルト
調整....178
スプロケット
交換....228
スローブローヒューズ
交換....231
清掃....209
セパレータ
清掃....219
水の排出....198
旋回 2WD
機能....72
使い方....72
旋回アップスイッチ
使い方....115
旋回角度
調整....72
前日の異常箇所の点検....197
洗車時の注意....190
前部ウエイト
概要....181
前部デフケース
オイル交換....220
前後遊びの点検・調整....221
前輪ケース
左・右のオイル交換....221
前輪デフロックスイッチ
機能....73
前輪輪距一覧表
前輪 RC タイヤ仕様....160
ハーフクローラ仕様の前輪タイヤ....166
ホイール仕様....159
走行速度表....247
走行モード切替スイッチ
機能....69
走行モードスイッチ
機能....70
損害賠償保険....34

た

タイヤ....156
確認....20
空気圧....199
空気圧の設定....156
損傷....199
取付けボルトの点検....207
摩耗....199
タイロッド
点検....216
トーイン調整手順....216
ダブルエアクリーナエレメント....209
交換時期....224
暖房....188
ターボチャージャ
点検....222
チェックチェーン
調整....152
注意事項
PTO 軸の保護....17
PTO の回転数....17
運転に不適切な場所....15
屋内で運転するとき....15
改造禁止....14
共同作業時....15
傾斜地作業時....17
後方転覆の危険....15
旋回時....140
旋回速度....18
デフロックの禁止....18
転倒防止のための重量バランス....17
同乗禁止....15
廃棄物の処理....21
フロントローダ作業....17
駐車再生
操作....52
駐車場所
注意事項....19
駐車ブレーキ
作動点検....202
長期格納後の運転....234
チルトステアリングハンドル....63
定期点検箇所一覧表....191
定期点検項目
早見表....193
低速車（SMV）マークの表示....19,34
ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ(DPF)マフラ
概要....46
ディーゼルパーティキュレートフィルタ（DPF）マフラ
注意事項....22
適した服装....19
デフロスト....188
デフロック
禁止事項....18
デフロックホース
交換....226
テレスコミラー....63
電源取出し....125
電子エンジン
制御....104

電子メータ..... 75
3P 関連の設定項目の選択可能範囲..... 79
3P 関連の設定項目の表示条件.....79
PTO 関連の設定項目の選択可能範囲.....79
PTO 関連の設定項目の表示条件.....79
アワメータ/トリップ/時計表示..... 93
アームレスト操作部.....76
エンジン関連の設定項目の設定可能範囲..... 78
各種設定選択画面..... 80
傾き自動関連の設定項目の選択可能範囲..... 80
傾き自動関連の設定項目の表示条件.....80
故障・メンテナンス情報表示の一時解除..... 94
作業機幅設定.....85
旋回関連の設定項目の選択可能範囲.....79
旋回関連の設定項目の表示条件.....79
タイヤ周長設定.....84
単位設定.....86
通常画面.....76
盗難防止設定.....88
時計 ON / OFF 設定..... 83
時計設定.....82
パフォーマンスモニタ..... 88
ミッション関連の設定項目の設定可能範囲.....78
ミッション関連の設定項目の表示条件.....78
メニュー画面と設定画面.....76
メニューの画面操作.....76
メンテナンス設定..... 87
ユーザー設定画面の操作.....80
ドア
開閉とロックのしかた..... 182
ヒンジ部の注油.....232
ドア・窓
開閉とロックの注意事項.....182
道路走行
注意.....141
独立 PTO
機能.....154
途中変速の危険..... 16
トップリンク
取付け..... 150
トラクタ
運転してはいけない人..... 13
運転中の作動確認..... 140
運転前の点検.....127
外観.....37
急旋回禁止..... 16
給油（水）..... 194
作業前の確認.....14
作業前の点検.....14
周囲の点検..... 197
乗降.....127
走行.....132
正しい運転方法.....13
駐車.....137
長期格納時の手入れ.....233
停止.....137
停止のしかた.....132
トラックへの積み・降ろし.....142
日常点検［ハーフクローラ仕様］..... 204
発進.....132
補修用部品の供給年限..... 32
ほ場外での落下防止.....16
ほ場出入り時の注意.....141
トラクタの主要諸元.....241
トラクタ［ハーフクローラ仕様］
日常点検箇所一覧..... 205
ドラフト
故障と処置.....236
ドラフトストッパピン
機能..... 111
トランスミッション
故障と処置.....236
トランスミッション低温規制..... 139
トレーラ用カプラ（オプション）..... 126
トーイン
調整.....216
点検.....216

な

内外気切換えスイッチ
機能.....187
ならし運転（最初の約 50 時間）.....140
ナンバープレートの取付け..... 34
日常点検
注意事項.....196
尿素 SCR システム
エンジン停止後の取扱注意点..... 59
概要.....53
寒冷地での使用時の注意点.....59
関連部品のメンテナンス.....60
警告情報一覧と対応.....56
尿素 SCR マフラ
点検.....201
尿素水(AdBlue)
概要.....54
残量低下時の警告表示..... 54
点検（日常点検）..... 203
凍結警告.....131
取扱い..... 54
尿素水タンク内での保管.....59
廃棄.....59
排出.....58
品質.....54
品質の点検（3 か月ごと）.....223
保管.....58
補給.....58
補給（日常点検）..... 203
尿素水(AdBlue)ゲージ.....97
尿素水インジェクタ
清掃.....221
点検.....223
尿素水タンクサクションフィルタ
交換.....223
尿素水ポンプエレメント
交換.....223

尿素水ホース
点検.....221
燃費計
上手な使い方.....95
燃料
空気抜きのしかた.....228
補給時の注意点.....203
燃料インジェクタ
点検.....221
燃料計.....97
燃料タンク
水抜き.....216
燃料フィルタカートリッジ
交換.....219
燃料ホース
交換.....208,226
点検.....208
農機型式名一覧表.....33
乗り降り時の注意.....22

は

排ガス後処理装置
注意事項.....46
廃棄物の処理.....190
倍速
故障と処置.....236
倍速ターン
使い方.....70
バキュエータバルブ
清掃.....198,210
ハザードスイッチ.....64
バックアップスイッチ
使い方.....116
バックミラー.....63
バックランプ
機能.....65
バッテリ
電解液の点検.....208
取扱いの注意事項.....20
取付け・取外し時の注意点.....209
補充電のしかた.....209
バッテリ（+）コード
交換.....199
点検.....199
パネル
開閉.....200
着脱.....200
パフォーマンスモニタ
距離測定機能の操作.....93
パフォーマンス項目の一覧.....91
パフォーマンス項目の選択.....89
パフォーマンス項目のデータリセット.....93
表示項目の重複抑止.....93
パワーアシスト
制御.....105
パワーステアリング
取扱い.....142
パワーステアリングホース
交換.....208,226
点検.....208
パワー設定.....136
ハンドル部.....41
ハーフクローラ
グリースアップ.....227
ハーフクローラ仕様.....22
ハーフクローラ仕様についての注意事項.....22
ハーフクローラ仕様の運転のしかた.....143
尾灯
機能.....65
ヒューズの交換.....229
標識の取付け.....34
標準付属品.....248
ヒータ
使用上の注意.....188
ファンスイッチ
機能.....188
ファンベルト
調整.....210
点検.....210
負荷変速
ON/OFF 設定.....136
感度の設定.....137
負荷変速設定.....136
吹出し口切換えスイッチ
機能.....187
副変速レバー
使い方.....67
フットライト.....183
不凍液
使い方.....225
ブレーキ
確認.....14
ブレーキペダル
遊びの点検.....201
機能.....65
調整.....211
使い方.....18
点検.....211
ブレーキランプ
機能.....65
ブレーキ連結ロック解除警告灯
機能.....66
フロントワイパ・ウォッシャスイッチ
機能.....184
ブーストセンサホース
交換.....226
平行復帰
制御.....124
ヘッドライトスイッチ
機能.....64
ヘッドランプ
交換.....232
防虫網（ラジエータ用、エアコンコンデンサ用）
清掃.....200

ポジションモード
概要.....117
ポジションレバー
機能.....111
ほ場への出入り時の注意.....16
補助コントロールバルブ
単複切換えつまみ.....125
補助コントロールバルブ一覧表.....251
ボンネット
開け方.....196
開閉時の注意事項.....196
閉め方.....196
ボールジョイント
組付け.....151
ホーンボタン.....65

ま

マグネットフィルタ
清掃.....214
マフラ
点検.....212
ミッションオイル
交換.....220
点検.....197
補給.....197
メインシリンダホース
交換.....226
メンテナンス表示メッセージ
一時解除.....95
メータ・ランプ類の作動点検.....202
メータパネル部
概要.....40
モニタランプ.....99

や

夜間照明.....183
油圧オイルフィルタカートリッジ
交換.....214
油圧操作パネル
概要.....44
油圧部品
外すときの注意.....21
油圧補助コントロールレバー
機能.....124
油圧ロックレバー
機能.....117

ら

ラジエータ洗浄剤
使い方.....225
ラジエータホース
交換.....212,226
点検.....212
ランプ一覧.....232
リフトロッド（右）
調整.....151
リヤウインド
開閉のしかた.....182
ヒンジ部の注油.....232
リヤワイパ・ウォッシャスイッチ
機能.....184
輪距
調整.....157
輪距一覧.....35
ルーフパネル
開閉のしかた.....186
ルームミラー
調節.....186
ルームランプ.....183
冷却水
交換.....224
点検.....197
補給.....197
冷媒（ガス）
充てん.....233
量の点検.....233
冷房.....188
レバー
確認.....14
レバーの状態
注意事項.....19
レーザ
故障と処置.....236
ロアーリンク
取付け穴の選択.....149
幅の調整.....151
ローダ作業
注意事項.....143
ローラ
オイル交換.....227

わ

ワイドサイドミラー.....64
ワイヤハーネス
交換.....199
点検.....199
ワンタッチ作業モード
任意変更.....118
設定変更方法.....118
ワンタッチ作業モード設定スイッチ
機能.....118